支那金融機關

支那金融機關目次

支那金融機關

東亞同文會調査編纂部著

緒論

支那ニ於ケル百般ノ事物ハ今ヤ正ニ一大變革ノ途上ニアリ、或ハ政治上ノ制度或ハ經濟上ノ諸機關等悉ク革進ノ機運ニ際會シツヽアリ。日ヲ追ヒ月ヲ重ネテ新生面ヲ齎シ來ルヲ見ル、而シテ政治上ノ改革ノ動モスレバ種々ノ事情ニ制セラレテ時ニ逆轉ノコトナキニアラザルニ反シ、經濟上ノ革新ハ日ニ日ニ顯著ニシテ、其舊套ヲ脫シテ新經濟組織ノ確立ヲ見ル必ズシモ遠カラザルヲ思ハシム。

經濟界ノ革新ハ各種經濟機關ノ革新ヲ伴ヒ、若シクハ又經濟機關ノ革新ニ依ツテ起リ來ルモノニシテ、此兩者ノ關係ハ分離スベカラザルナリ、而シテ支那ニ於テ通商貿易業ニ從事セントセバ是等ノ變革ニ留意シ、此趨勢ニ順應スルコトヲ期セザルベカラズ、幸ニシテ支那ハ益々近代化シ歐米若シクハ我國ノ新制度ニ倣ハントシツヽアルモノナレバ、其變革ガ支那ニアル外人ニトリ便益ニ行ハレツヽアルハ喜ブベキコトナリ。

吾人ハ玆ニ支那ノ金融機關ニツキ此變革ノ大要ヲ說キ併セテ現狀ヲ明カニセンコトヲ企テタルモノナルガ、單ニ此一事ニ於テモ近年ノ變革ハ著シキモノアリ、彼ノ往年、支那ノ金融界ヲ支配スルヤノ觀アリシ山西票莊ノ如キ殆ンド其勢力ヲ失ヒ、錢莊ノ如キモ次第ニ其機能ヲ減ジ、コレニ反シ新式銀行ノ漸次ニ經濟界ニ勢力ヲ占メ來ラントスルヲ見ル、然レドモ舊式ノ錢莊票號等モ尙經濟機關トシテ存シ其ノ機能ヲ發揮シツヽアルモノナレバ、支那ニ於ケル金融機關ニ就イテ說カントセバ新式銀行ト舊式ノ錢莊票號等併セ說カザルベカラズ。

尙又此外支那ニハ外國人ノ設立ニ係ル銀行アリ、相當ノ勢力ヲ占メ內外人ノ利用スル所トナリツヽアリ、更ニ又支那人ト外人トノ合辦ニ係ルモノモアリ、是等モ併セ說カザルベカラズ、今則チ是等ノ支那ニ於ケル各種ノ金融機關ニツキ可成簡單ナル記述ヲ試ミント欲ス。

新式銀行

支那ニ於ケル金融機關ハ從來舊式ノ錢莊、票號等ニ限ラレ、只外國ト通商貿易ヲ開始シテ以來主要開港場ニ外國銀行ノ支店ノ設ケラレタルモノアリシノミナリシガ、清朝ノ末造光緒ノ末ニ至リ漸ク支那人ニシテ新式銀行ノ設立ヲ計畫スルモノアリ、私人ノ企畫トシテハ中國通商銀行、浙江興業銀行等ノ設立ヲ見、又政府ノ經營トシテハ、戸部銀行(後ノ度支部銀行、大清銀行、中國銀行)、交通銀行等ノ設立ヲ見タリ、其後憲政準備ヲ進ムルニ際シ、銀行ノ設立ヲモ急務ナリトシテ、漸クコレガ關係法規等ノ發布アリタリ。

爾來上海天津等ノ要津ニ於テ銀行ノ計畫セラルヽモノアリシモ、殊ニ辛亥革命ニヨリテ經濟上ニモ大打擊ヲ與ヘ舊來ノ缺陷ヲ暴露シ其變革ヲ招致シテ以來、新式銀行ノ計畫漸ク多キヲ加ヘ、其數日ニ月ニ多ク次第ニ舊式金融機關ヲ壓倒セントスルニ至レリ。

然レドモ今日迄ニ設立セラレタル支那人ノ新式銀行ノ成績ハ遺憾ナガラ僅ニ其數四ヲ除ク外良好ノ成績ヲ擧ゲ得タルモノ少シ、而シテ其因テ來ル原因ヲ考究スルニ、元ヨリ種々ノ理由ノ存シ一概ニ論ズベカラザレドモ、先ヅ通有ノ原因ヲ求ムルニ大凡次ノ如カルベシ。

一、資本ノ不足　支那ハ一時外人等ヨリ極メテ資本潤澤ナルガ如クニ誤解セラレタルモ、一般ニ現金

ニ缺乏セル爲、銀行ヲ組織スルモ完全ニ資本金ノ拂込ヲ了スルモノ少ク、孰レモ公稱資本額ヲ揭グルモ、實際ノ拂込ハ定額ニ達セズ一時ヲ糊塗スルニ過ギズ、從テ其經營ノ窮迫セザルモノ稀ニ信用亦乏シ。

一、取締ノ不十分　支那ニ於テハ銀行取締ノ爲ノ銀行條例ノ如キモノ存スレドモ、畢竟コレ空文ニ過ギズシテ、官憲ノ銀行ニ對スル取締ノ實ハ毫モ存スルナシ、故ニ銀行經營者ノ私曲常ニ行ハレ易シ。

一、經營者ノ私曲　支那ニハ古來ヨリ親戚家族等ノ共同出資ニヨル事業經營法行ハレ、斯クノ如キ場合ニハヨク其局ニ當ルモノハ責任ヲ重ンジ信用アル經營方法ヲ採レドモ、近代式ノ株式會社ノ經營ニ當リテハ、重役ニシテ私曲ヲ敢テスルモノ多ク、株主ノ利益ヲ主トセズ、又會社ノ信用ヲ强固ニセントセズ、爲ニ銀行ヲ累スルモノ比々皆然リ。

一、紙幣ノ濫發　支那ニ於テハ紙幣發行ニツイテ種々ノ取締規則存スレドモ、其取締容易ニ行ハレズ、又準備金ナクシテ之レガ發行ヲ許スガ故ニ、經濟界ヲ毒スルト共ニ一度取付ニ遭遇センカ、銀行ハ忽チニ破綻ヲ暴露スルニ至ル。

一、官憲ノ壓迫　官憲ガ銀行ヲ壓迫シテ、或ハ公ノ政費ノ爲ニ、或ハ自家一身ノ費用ノ爲ニ、多額ノ行金ノ借上ヲ行フコトモ、亦銀行ノ基礎ヲ危クスル一因ニシテ、コレガ爲ニ破綻ヲ生ゼルモノ少ナカラズ、殊ニ政府官憲ニ關係ヲ有スル銀行ニ於テ其然ルヲ見ル。

斯クノ如キ種々ノ原因ニヨリテ支那ノ新式銀行ハ從來失敗セザルモノ甚ダ稀ナルガ、支那國内ノ產業通商ノ發達、並ニ近代式ノ經濟組織ノ普及ハ、益々新式銀行ノ必要ヲ促スニ至ルベシ、而カモ是等ノ各種ノ障碍ガ容易ニ除カレテ、急ニ新式銀行ノ發達ヲ見ルベシトハ斷ズル能ハザレドモ、早晚其一日ノアルベキコトハ疑ヲ須キザルベシ。

銀行關係法規

支那ニ於テ最初戶部銀行、浙江興業銀行、交通銀行等ノ組織セラレタル時ハ、未ダ銀行法規ノ據ルベキモノナカリシガ、其後光緒三十二年ニ至リ、立憲準備ノ計畫ヲ進ムルニ際シ、銀行ノ設立整理亦急務ナリトシ、當時ノ當局ヨリ銀行條例制定ノ必要ヲ上奏裁可ヲ得タリシガ、其後光緒三十四年一月十六日ニ至リ、漸ク銀行通行則例、大清銀行則例、殖產銀行則例、儲蓄銀行則例ノ四條例成リ、上奏裁可ヲ經テ公布セラレタリ、當時右四則例制定ニ關シ、度支部ヨリ上奏シタル處ノ奏疏一道、以テ此間ノ事情ヲ悉セルモノアリ、今コレヲ左ニ譯出スベシ。

各銀行條例制定ニ付度支部ノ上奏

光緒三十二年閏四月二十二日前財政處ハ本部ト會同上奏シテ曰ク、銀行ナルモノハ貨幣流通ノ樞機ニシテ、商務ヲ維持スルノ根本ナリ、東西各國皆中央銀行アリ、又普通、勸業、儲蓄各種ノ銀行ア

リ、其制度ヲ考フルニ約兩端アリ、一ハ國家銀行ニシテ國家ヨリ命令シテ設立シ、與フルニ特權ヲ以テシ、國幣ノ通用、紙幣ノ發行、官金出入ノ管理、緊要公債ノ擔任ハ、皆義務トシテ盡クスベキモノトナス、一ハ民立銀行ニシテ商民其ノ設立ヲ請願シ、政府之ヲ裁可シ、然ル後之ヲ開設スルモノナリ、要スルニ皆商民ト取引スルモノニシテ、其募集株金額、營業目的等一切ノ方法ハ本部ニ屆出テ資金營業情況等、時々報告スルモノトス、以上各種銀行ニ對シテハ、本部皆統轄權ヲ有シ且各特別例規ヲ設ケテ之ヲ監督ス、誠ニ銀行ハ全國財政ノ關スル處ニシテ實ニ本部特別ノ要務ニ係ル、我國今ヤ財政整理ノ時ナレバ國幣ノ劃一及ビ公金外債ノ取扱ヒニ付テハ銀行ハ最モ緊要ニ關ス、若シ管理ノ法規ナケレバ恐ラクハ各銀行必ズ秩序ヲ失ヒ、遂ニ財政整理ノ期ナカラン、是ヲ以テ臣等銀行ノ制度ヲ參酌シ、政府銀行ヲ設立シ開業後ノ成績ヲ見テ、擴張ヲ謀リ、中央銀行ノ基礎トナサントス、目下銀行章程ニ通ズルモノヲ選ビ、東西各國ノ規則ヲ參酌シテ各種銀行ノ管理及營業ニ關スル特別例規ヲ制定シ、恭シク御覽ニ呈シ欽定ノ上頒布ヲ行ヒ、然後凡ソ政府銀行ヨリ普通、農、工、商業、儲蓄各銀行銀號ニ至ルマデ、官立民立ニ論ナク均シク之ニ遵フテ辨理スベシ云々ト、而シテ此ノ上奏ハ當時既ニ裁可ヲ得タリ臣等伏シテ思フニ、近年民智開通シ、官立、私立各種銀行日ニ益々增加スルヲ以テ、速ニ條例ヲ頒布シ營業者ヲシテ遵循スル處アラシムベシ、本部ノ管理上ニモ亦據ル處アリ、劃一整齊ノ効ヲ收ムベキナリ、但是等ノ例文ハ東西各國ノ通行章程ヲ繙譯シタルモノ

ナレバ參考ニ備フベシト雖ドモ、之ヲ淸國商業上ノ風俗慣習ニ適中セシムルハ、頗ル困難ナレバ之ガ編制ハ最モ愼重ヲ要スルナリ、昨年財政處ハ其上奏裁可ノ後、委員ヲ選ンデ編纂シ、册ニ作リテ本部ニ送リ來リ本部ハ再ビ委員ヲ設ケ細心硏究シ銀行條例四種ヲ立案セリ、本部設クル所ノ原名戶部銀行ヲ以テ中央銀行トナシ現ニ本部ハ度支部ト改稱シタルニヨリ該銀行モ度支部銀行ト改稱セントス、而シテ其條例ハ二十四ケ條ナリ、我國ハ從來銀行ナキモ金銀ノ爲替取引ヲ營業トスル民間ノ銀號、票商、錢莊ヨリ各省官設ノ官銀號官錢局ニ至ルマデ凡ソ銀行ノ性質ヲ有スルモノハ普通銀行トシテ取扱フベシ、其條例十五ケ條ナリ、殖產銀行ハ農工業ノ倚賴スル所、東西各國實業ノ進步悉ク此ニ賴ル、現時農業銀行未ダ設立セラレズト雖モ鐵道ニ關スル郵傳部ノ交通銀行及浙江鐵道ノ興業銀行ハ皆殖產銀行ナリ、此ノ條例三十四ケ條ナリ、各種銀行ノ資金預人多額ニシテ貯蓄ヲ奬勵シ錙銖ノ資ヲ集ムルモノハ儲蓄銀行トス、各省現ニ已ニ設立スルモノ數ケ所アリ、此條例ハ十三ケ條ナリ、臣等詳細調査シタルニ誠ニ妥當ニ屬ス、依テ謹デ別册トシテ恭シク御覽ニ呈ス、御裁可ノ上ハ本部ヨリ當該衙門及地方官ニ通知シ各銀行ニ命令シテ一律ニ遵照辨理セシメントス、玆ニ各種銀行條例ヲ制定シタル理由ヲ具陳シ伏シテ皇太后皇上ノ聖鑒ヲ乞フ、謹デ奏ス。（光緒三十四年正月十六日裁可）

斯クテ是等四種ノ銀行則例ハ公布セラレシガ、右ノ內一般銀行ニ關スル銀行通行則例ナルモノハ、殆ンド我國ノ銀行條例ノ飜譯ト見ルベキモノニシテ十五ケ條ヨリ成リ則チ次ノ如シ。

銀行通行則例

第一條　凡ソ店舖ヲ開設シテ、左記ノ事業ヲ經營セント欲スルモノハ、如何ナル店名牌號ヲ用ユルニ論ナク、之レヲ銀行ト稱シ、皆本則例ヲ遵守スルノ義務アリ

一、各種期票滙票割引
二、短期拆息
三、預金取扱
四、貸出
五、生金生銀賣買
六、銀錢兌換
七、公司銀行商家所發ノ票據代收
八、各種期票匯票ノ發行
九、市面通用銀錢票發行

紙幣未タ頒布セラレサルノ以前ハ、官設商立各行號ハ、均シク暫時市面通用銀錢票ヲ發行スルヲ得、但シ官設行號ハ、毎月須ク發行額及準備金額ヲ期ヲ按シテ度支部ニ咨報シテ查核ニ供スベク、度支部ハ又隨時員ヲ派シテ前往稽查スベシ

第二條　凡ソ銀行ヲ創立セント欲スルモノハ、或ハ獨リ資本ヲ出スト、或ハ公司辦法ニ按シ、合資集股スルトヲ問ハズ、均シク擬定資本總額ヲ、確ナル商號ノ保證ヲ得テ、地方官ニ届出デテ查核ニ供シ、度支部ニ轉報セシムベク、其註册(登記)許可ヲ俟チテ、初メテ開辦スベシ、凡ソ銀行ノ呈報ヲ要スル事件ハ、地方官ニ呈請シテ轉報スルノ外、並ニ須ク直接度支部ニ届出デ以テ稽核ニ便スベシ、凡ソ銀行開辦セル時ハ、其年月日ヲ所在地方官ニ稟報シ度支部ニ轉報セシムベシ

第三條　凡ソ銀行ヲ開設セント欲スルモノハ、左記ノ事項ヲ呈報スベシ

一、行號招牌

二、本店支店設置地名
三、資本額
四、獨資、合名、合資ノ別、及其モノ、姓名原籍住所若シ株式組織ナル時ハ上記事項ノ外、株式募集章程及發起人、辨事人ノ姓名原籍住所、有限無限責任ノ別ヲ呈報スヘシ
第四條　凡ソ銀行ヲ開設セントセハ須ク本則例ニ照シ、自ラ詳細章程ヲ定メテ、度支部ニ呈報シ、許可ヲ請フヘク、若シ變更アル時ハ同ジク呈報スヘシ
第五條　凡ソ銀行ハ毎半年ニ、該行所有財産目錄及貸借對照表ヲ詳造シテ、度支部ニ呈送シテ査核ニ供スヘク、若シ特別事故アレバ、度支部ヨリ員ヲ派シ前往シテ、各項簿册、憑據、現金並ニ其營業ノ實際情形ヲ檢査セシムヘシ、此外各項營業ニハ、官ヨリ概ネ干預セズ、若シ官吏ノ端ヲ藉リテ需索スル等ノ情アラバ、該行ヨリ度支部ニ呈稟シテ査明ニ供スヘク、嚴ニ從テ査辨スヘシ
第六條　凡ソ銀行ハ毎年決算後、須ク貸借對照表ヲ製シ、詳カニ收支金額總數ヲ列記シテ、新聞ニ廣告スルカ、又ハ他ノ方法ヲ以テ一般ニ周知セシムヘシ
第七條　銀行營業ノ時刻ハ、午前八時ヨリ午後四時迄トス、但シ營業ノ情形ニヨリ變通スルヲ得
第八條　銀行若シ日曜又ハ營業地方ノ休息日ニ際セル時ハ、均シク休業スルヲ得、但シ停業ヲ欲セサルモノハ、營業スルモ可ナリ、若シ止ムヲ得サル事故ヨリ、休業ヲナサントスルモノハ、銀行ヨリ地方長官ニ届出テ、新聞廣告、其他ノ方法ニヨリ公衆ニ周知セシムヘシ
第九條　凡ソ登記許可ノ各銀行ニ、若シ危險情形アレバ、其詳細理由ヲ具シテ、所在地方官ニ呈報スヘク、度支部ニ報明セバ、更ニ地方官ニ轉飭シテ、營業ノ實況及ビ將來ノ希望ヲ詳査セシメ、若シ果シテ一時周轉スル能ハサルモノニシテ、並ニ其實際ニ損失アラサルモノナル時ハ、附近大清銀行ニ命ジ、資金ヲ貸與シ、又ハ實力擔保ヲナシテ、意外ノ虞アルヲ致スヲ免レシムヘシ
第十條　凡ソ銀行カ或ハ個人ノ營業ヲ改メテ公司トナシ、或ハ元公司ナルヲ變シテ個人ノ營業トナサントスル時、或ハ其公司ノ制度ヲ變更シ、又ハ他公司ト合併セントスル時ハ、第二條ニヨリテ辨理スヘシ

第十一條　銀行若シ第五條所定ノ報告、檢査及第六條所定ノ布告ヲ遵守セズ、或ハ檢査ヲ受クルニ際シ隱匿シ、或ハ報告布告ヲ僞スルモ其中ニ不正等ノ弊アルモノ、一度査出ヲ經ル時ハ、度支部ヨリ情節ノ輕重ヲ酌量シテ、五兩以上千兩以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第十二條　從來ノ各處ノ商設票莊、銀號、錢莊等ノ各項營業中、銀行ノ性質アルモノハ、本則例ヲ遵守スヘシ、其則例ニ遵ヒ登記セルモノハ、度支部ニ於テ優ニ保護ヲ加フヘク、其未タ登記セサルモノハ、三年内ヲ限リ全部登記スヘシ、若シ期滿チテ尙ホ登記セサルモノハ、再ヒ爲替ヲ取扱ヒ、又ハ一切ノ官金ノ收支ヲ取扱フヲ得ス

第十三條　各省官衙ノ行號、或ハ官商合辨ノ行號ハ、總テ本則例奏定後六ケ月内ヲ限リテ、部ニ報告シテ登記シ、一切本則例ニ從ツテ辨理スヘク、若シ期ヲ過キテ登記セサルモノハ、五百兩以上ノ罰金ヲ科シ、以後六ケ月ヲ運ルヽ每ニ罰金ヲ加科ス

第十四條　官辨ノ行號ハ、每省會商埠只一所ニ設立スルヲ許ス、若シ必需アリ別ニ設立セントスル時ハ、須ク度支部ト協商シ、或ハ會奏旨ヲ請フテ辨理スヘシ

第十五條　凡ソ銀行或ハ欠損ニヨリ、或ハ特別事故アリ、廢業ヲ請願セハ、應ニ淸算人ヲ擧定シ、地方官ニ稟報シ、貸借金額ノ淸算ヲ商律ニ照シテ辨理スヘク、地方官ハ事由ヲ具シ速ニ度支部ニ報告シテ査核ニ供スヘク、遲延スルヲ得ス、並ニ又一面該行自ラ度支部ニ稟報査核ニ備フヘシ

附則　凡ソ單ニ銀錢ヲ兌換スルノミニテ、銀行ノ性質ナキモノハ、本則例施行後、均シク銀錢兌換所トナシ其ノ登記ヲ免レシム

各種特別銀行ハ特別專例ニ遵照スルヲ除ク外、其ノ專例ノ及ハサルノ所アルモノハ、均シク本則例ニ按照シテ辨理スヘシ

本則例ハ奏准後三ケ月ヨリ實施ス

本則例若シ修改ヲ要スル處アレハ、隨時酙酌奏明辨理ス

其後民國ニ入リテ各種法令ノ改廢アリ、現ニ大淸銀行則例、交通銀行則例ノ如キ、擧ゲテ改正セラレタレドモ、銀行通行則例ハ、其後公布セラレザルヲ以テ、右前淸時代ノ規定ハ、今日ニ於テモ尙行

ハレツ、アルモノト見ルベキナリ、然レドモ元來支那ノ事タル、徒ラニ制度ノ形骸ヲ存スルニ過ギザルモノ多キガ、右銀行條例モ亦コレト一樣ニシテ、現ニ本則例第六條ニ規定セル毎營業年度後ニ於テ貸借對照表ヲ作製シ、新聞ニ廣告スルコト等、殆ンド之レヲ遵守スルモノナシ。

民國四年八月二十四日ニ至リ、銀行職員取締章程ナルモノ公布セラレタルガ、右ハ主トシテ銀行職員ノ私曲ヲ糺シ、爲ニ預金者及資本主ニ累ヲ及ボスヲ防ガントセルモノニシテ其全文次ノ如シ。

銀行職員取締章程

第一條 銀行ハ本行職員ニ對シ、貸出ヲナスヲ得ス、但シ董事會ノ議決認可ヲ經タルモノハ此限リニアラス、然レトモ其額ハ其ノ資本額ノ十分ノ一ヲ超過スルヲ得ス

第二條 銀行職員若シ本行ニ預金ヲ有スルモノハ、預金額以上ニ手形ヲ出スヲ得ス

第三條 銀行カ抵當ヲ徴スルトキハ、小物ヲ以テ多押シ、又ハ賤物ヲ以テ貴押シ、及各種不確實ノ期票(手形)ヲ以テ抵當品トナスヲ得ス、若シ上記ノ事アレハ該行經理人ノ不法ヲ以テ論ス

第四條 銀行職員ハ本行手形ヲ割引シテ、買入ルルヲ得ス

第五條 銀行職員ハ他人ノ擔保ニテ、本銀行ヨリ借款ヲナスヲ得ス

第六條 銀行職員ハ本行營業ノ種類トシテ、規定スル所ノ業ヲ私營スルヲ得ス

第七條 凡ソ信用借款ハ該行經理人、若シ借主ノ殷實ナラサルコトヲ明知シ、專ラ情ニヨリテ款項ヲ貸與セルモノハ、詐欺取財ヲ以テ論ス

第八條 凡ソ經理人ハ投機其他不正當ノ商業ヲ兼營スルヲ得ス

右ノ銀行則例第一條ニ於テハ、紙幣律發布ニ至ル迄ハ、官商銀錢各行號ハ市面通用ノ銀錢票ヲ發行

スル事ヲ許シ、然カモ其兌換準備等ニ就テハ毫モ規定スル處ナシ、從ツテ各銀行ハ競テ紙幣ヲ發行スルニ至リシガ、斯クノ如キ緩漫不備ナル制度ヲ以テシテハ、紙幣ノ濫發ヲ見、其結果往々經濟界ヲ攪亂スルニ至ルハ當然ノコトト謂フベシ、斯クテ紙幣濫發ヨリ屢財界ノ攪亂ヲ見ルヤ、前淸朝ノ當局ハ漸クコレガ制限ヲ加フルノ必要ナルヲ認メ、宣統元年春期ヨリ、迭次令ヲ下シテ各銀行ノ紙幣發行ヲ制限セシメ、同年陰曆六月(陽曆七月二十九日)ノ交ニ及ビ、遂ニ紙幣發行假章程ノ發布ヲ見タリ、其上奏文並ニ章程次ノ如シ。

公私銀行紙幣發行制限ノ上奏

(前略)東西各國ハ紙幣發行ニ就テハ、大抵權ヲ中央政府ニ統ベ、其事ヲ國家銀行ニ委ス、間々多數銀行發行ノ制ヲ採用スルモノアルモ、印刷ハ必ズ官立工場ニ於テシ、準備金ハ必ズ國庫ニ交付ス、其ノ他發行數額ヲ制限シ、虛實ヲ調査シ、漸ク濫發ヲ杜キ防グ、紙幣ト類似ノ物即チ支拂切符、期限手形、爲替手形等ノ類ノ如キニ至リテハ、各國皆特別法律ヲ設ケテ、紙幣トノ區別ヲ示ス、其人名期限ヲ記セザル手形ニ至リテハ、皆凡テ是ヲ嚴禁シ、隨意ニ通用スルヲ許サス、誠ニ一紙空證ヲ以テ金銀ヲ代表スルハ、既ニ紙幣ノ特權ヲ侵シ、更ニ架空ノ弊害ヲ滋クシ、國計民生ニ於テ關係甚ダ大ナリ、我國家政寛大ニシテ事ノ商務ニ關スルモノハ、從來商人ノ自ラ經理スルニ任セタルモ、近來大小銀行林立シ、紙幣手形日ニ多ク、官人視テ籌款ノ方トナシ、商人倚テ謀利ノ具トナス、若シ法ヲ設ケテ制限セ

ザレバ官金ノ收支幾ンド現金ナク、市場ノ出入只ダ空紙ヲ餘シ、物價騰貴シ民生困窮ニ陷ラントス、其危害何ゾ設想ニ堪ヘンヤ、昨年十二月臣部ヨリ具奏シタル、財政整理ノ方法内ニ各省督撫ヲシテ、現設ノ官銀錢號ノ現ニ通用セル紙幣若干ナルヤ、準備金若干ナルヤヲ六ケ月ヲ限リ、部ニ報告スベシトノ事アリ、裁可ヲ經テ各省ニ通知セリ、又先月幣部ヨリ、嗣後官商銀錢行ノ紙幣發行ニ就キテハ未ダ發行セザルモノハ、增發ヲ許サズ、已ニ發セルモノハ、漸ヲ逐フテ回收スベキ旨各省ニ通知セリ、臣等再三審慮ノ末、積弊改革ノ初ニ當リ必ズ畫一ノ法ヲ設ケザルベカラズトナシ、茲ニ假規則二十ケ條ヲ定メタリ、其間若シ種類ノ區別、擔保ノ責任、發行額ノ制限、準備金ノ嚴定ノ如キハ、隨時檢査ヲ行ヒ、期ヲ限リテ回收シ、銀錢行號ヲシテ、專ラ力ヲ預金、貸借、爲替ノ正業ニ盡サシメントス、是レ信用ヲ保チ、銀根ヲ固フスル所以ニシテ、又豫メ幣制ヲ畫一スルノ基礎ヲナス所以ナリ、但シ積習既ニ深ケレバ、一時驟カニ制裁ヲ加フル能ハザルニ似タリ、故ニ今回ノ章程ハ一切寬大簡易ヲ旨トシ商人ヲシテ遵從シ易カラシメタリ、謹デ章程ヲ別冊トシテ御覽ニ供ス、若シ裁可ヲ蒙ラバ、本部ヨリ各省ニ通知シ、實行セシム可シ、本部所屬ノ大淸銀行ノ現時發行スル所ノ通用銀紙幣高ハ本部ヨリ隨時檢査シ、十割ノ準備金、五年ノ期限ニ至リテモ、亦各省官商銀錢行ト一樣ニ遵守スベシ云々。

銀錢紙幣通用假規則

第一條　凡ソ印刷或ハ繕寫シタル金額一定シ、支拂人名支拂ノ時期ト場所トヲ載セサルモノ、俗ニ鈔票ト名クルモノ、銀行則例ニ通用

銀票錢票ト稱スルモノハ、一様ニ此章程ヲ遵守スヘシ

第二條　凡ソ耩寫ノ手形ニシテ奇零尾數アリ、或ハ支拂人名及支拂ノ時期、場所ヲ明載シ、支票兌換ト名クルモノハ、此章程ニ照ラシテ取扱フノ限リニアラス

第三條　通用銀錢紙幣ハ、必ス確實ナル同業者五名、互ニ擔保シ、紙幣金額ヲ賠償スルノ責ニ任スルモノナレハ始メテ其發行ヲ許ス、但シ官設行號ハ此限ニアラス

第四條　凡ソ看板ヲ掛ケタル錢舗ノ紙幣、及其他ノ紙幣ヲ發行スルモノハ、確實ナル商店五家ニテ保證ニ立チ、紙幣金額ヲ賠償スルノ責ヲ擔任スヘシ、然ルトキハ暫ク從來ノ通リ發行ヲ許ス、但シ此種ノ店舗ハ銀錢交換所章程ニ照ラシテ届出テ、地方官之ヲ取纒メテ本部ニ報告スヘシ、尙ホ其紙幣發行ノ事ニ關シテハ、此章程ニ遵フテ取扱フ可シ

第五條　本規則發布以前、凡ソ從來銀錢紙幣ヲ發行セル、大小銀行ノ、未タ登錄シテ許可證ヲ領セサルモノハ、書面到着シテヨリ、六ケ月以內ニ、速ニ資本ヲ備ヘ、地方官ニ檢査ヲ請ヒ、地方官ハ本部ニ報告登錄スヘシ、期限ヲ逾ユルモ願ヒ出テサルモノハ、期ヲ限リテ此種ノ紙幣ヲ命令的ニ回收セシメタル上、地方官ハ第十八條ニ照ラシ輕重ヲ酌量シテ罰金ニ處ス

第六條　本規則發布前ニ、銀錢行號ニアラスシテ此種ノ紙幣ヲ發行シタルモノアレハ、宣統二年五月末マテニ全數ヲ回收スヘシ、其期限內ニ全數ヲ回收スル能ハサルモノニシテ、別ニ銀錢莊號ヲ設ケ、規則ニ從テ發行スルモノハ此章程ニ照ラシテ一様ニ取扱ノヘシ

第七條　本規則發布後新設シタル官商銀錢行號ニハ、其種ノ紙幣ヲ發行スルヲ許サス

第八條　本規則發布後、規則ニ從ツテ此種ノ紙幣發行ヲ許サレタル各行號ハ、只タ現在數丈ケヲ發行シ得ヘキモ、其額以上ニ增發スルヲ得ス

第九條　凡ソ此種ノ紙幣ヲ發行スル各行號ハ、現在發行スル實數ヲ、本部ノ定メタル表式ニ從ヒ、本部ニ報告スルヲ要ス、其現在發行實數ハ、公文到達後一ケ月內ニ、最モ多ク發行シタル日ヲ以テ計算ス

第十條　凡ソ此種ノ紙幣ヲ發行スルニハ、行號ノ官商ヲ論セス、必ス現金額十分ノ四ノ準備金アルヲ要ス、其餘ノ全數ハ各種公債及確實ナル株券債券ヲ儲ヘテ準備トナス

第十一條　凡ソ此種ノ紙幣ノ發行ヲ許サレタル各行號ハ、宣統二年ヨリ毎年紙幣額ノ貳割ヲ回收シ、五年間ニ全額悉ク回收スヘシ

第十二條　凡ソ此種ノ紙幣發行ヲ許サレタル各行號ニシテ、期限内ニ一時ニ全額ノ回收ヲ望ムモノハ確實ナル抵當物ヲ供シテ、大清銀行ヨリ低利ノ借入ヲナシ、年賦返濟ノ商議ヲナスヲ許ス

第十三條　將來新貨幣ヲ發行スル地方ニシテ、補助貨ノ妨ヲナス紙幣（制錢、銅錢、小銀貨ニ對スル小紙幣）アレハ、本部ヨリ臨時特別ノ命令ヲナスヘシ

第十四條　毎月ノ發行額及準備額ハ、宣統二年正月ヨリ毎月本部所定ノ表式ニ從ヒ、本部ニ報告スヘシ

第十五條　凡ソ官設行號ハ、皆本部ヨリ隨時員ヲ派シテ檢査ヲナシ、準備金額規則ニ合ハス、或ハ報告不實ナルカ、又ハ他ノ情弊アルモノハ、直チニ本部ニ稟議シテ處分ヲ行フモノトス

第十六條　凡ソ民設行號ハ、各地方官ニ於テ、隨時商業會議所ノ派員ト共同シテ檢査ヲ行ヒ、若シ準備金合ハス、或ハ報告實ナラス、又ハ他ノ情弊アルモノハ、本部ニ報告シテ處分スルモノトス

第十七條　檢査規則ハ本部ニ於テ詳細之ヲ定ム

第十八條　凡ソ規則ニ違反スルモノハ、輕ケレハ地方官ニ於テ情形ヲ酌量シタル上、三百元以上五百元以下ノ罰金ニ處シ、重ケレハ地方官ヨリ直チニ本部ニ報告シ、精査ノ上處分スヘシ

第十九條　本規則ハ幣制ヲ維持シ、市場ヲ保全スル爲メナレハ、若シ之ヲ口實トシテ强求スルモノアレハ、各該行號ヨリ、直チニ本部及各該督撫ニ稟請スルヲ得、本部及各該督撫ハ、其事實ヲ調査シテ嚴重ニ處分ス、商民ノ謠言ヲ造リ、事ヲ起スモノモ、亦地方官ニ稟請スルヲ得、地方官ハ之ヲ嚴重ニ懲罰ス

第二十條　本規則若シ修正、或ハ停止廢棄スヘキ場合ニハ、本部ニ於テ其時ニ臨テ斟酌シテ之ヲ行フヘシ

即チ其目的トスル處ハ各銀行ヲシテ、現在以上ニ紙幣ヲ發行セザラシムルト共ニ、現在發行ノモノニ對シテモ、準備ノ法ヲ供ヘシメ、併セテ漸次回收セシムルニアリ。

其後民國四年十月二十二日ニ至リ公布セル紙幣取締規則次ノ如シ。

紙幣取締條例

第一條　官商銀行錢號ニシテ紙幣ヲ發行セントスルモノハ中國銀行ノ外ハ總テ本條例ニ依リ辨理スヘシ

印刷又ハ書寫ノ券票ニシテ數額一定シ受取人及受取時期ヲ定メス券票ト銀兩、銀元、銅貨、制錢ト兌換スルモノハ之ヲ紙幣ト見做ス

第二條　本條例施行後新設ノ銀錢行號又ハ既設ノモノニシテ從來紙幣ヲ發行セサリシモノハ今後之ヲ發行スルコトヲ得ス

第三條　本例施行以前既設ノ銀錢行號ニシテ特別條例ノ規定ニヨリ其紙幣發行ヲ許シタルモノハ營業年限内其發行ヲ許スモ期限ニ至ルトキハ全部回收スヘシ

特別條例ノ規定ナキモノハ本條例施行ノ日ヨリ最近三箇月ノ平均數額以上增加發行ヲ爲スヲ得ス並ニ財政部ハ期限ヲ定メ陸續回收セシム

第四條　各銀錢行號カ本條例第三條ニヨリ發行スル紙幣ハ少クモ五割ノ現金ヲ備ヘ兌換ヲ爲スヘク其餘ノ五割ハ公債券及確實ノ商業證券ヲ以テ保證準備ト爲スヘシ

第五條　紙幣ヲ發行スル銀錢行號ハ毎月發行數額報告表現金及保證準備報告表ヲ作製シテ財政部又ハ當該官廳ヲ經テ財政部ニ報告スヘシ

第六條　紙幣發行ノ銀錢行號ニハ財政部ヨリ隨時人ヲ派シ或ハ他ノ機關ニ委託シテ其發行ノ數額準備現金及保證品及關係各種帳簿書類ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第七條　各銀錢行號カ第二條乃至第四條ノ規定ニ違反スルトキハ五百元以上五千元以下ノ罰金ニ處スヘク其發行權ヲ有スルモノハ直ニ其發行權ヲ取消スヘシ

第八條　紙幣發行ノ銀錢行號カ第五號ノ規定ニ違反シ報告ヲ爲サス或ハ報告ノ不實ナル者ハ五十元以上百元以下ノ罰金ニ處シ第六條ノ規定ニ違反シ檢査ヲ拒絶シタル者ハ一百元以上一千元以下ノ罰金ニ處ス

第九條　本條例ハ公布ノ日ヨリ施行ス
時ニ修正公布施行スルヲ得

斯クノ如ク各種ノ銀行關係法規制定公布セラレタルモ、其果シテ實際ニ活用セラレツ、アルヤ否ヤハ大ナル疑問ニシテ、多クハ死法ト化シ、新式銀行ハ概ネ何等ノ取締法規モナクシテ營業シツ、アル有樣ナリ、完全ナル法規存シ、而シテ嚴重ニ勵行セラレツ、アルモ、尙時ニ破綻ヲ生ジ經濟上ニ害毒ヲ流スコト多キニ、斯クノ如キ狀態ノ下ニアリテハ其流弊ノ大ナル、多ク怪ムニ足ラザルナリ。

銀行統計

支那ノ農商部ハ近來統計表ヲ發刊シ、其內銀行ニツイテノ統計ヲモ擧ゲタルガ、其內容ヲ檢スルニ殆ンド信用スルニ足ルモノナク、例ヘバ該統計ニ示セル某銀行ノ預金額等ヲ同行ノ營業報告ト對照スレバ全ク相符合セザルモノヲ發見スルコト決シテ少シトセズ、然レドモコレヲ擧グルモ亦以テ一參考資ニ供シ得ベキヲ以テコレヲ摘錄セリ。

支那銀行總表

地方	年次	總行 行數	總行 資本金總額	總行 各戸存欵額	總行 紙幣發行額	總行 公積金額	分行 行數	分行 各戸存欵總數	分行 紙幣發行額	代理店數	兌換所數	次序
			円	円	円	円		円	円			
一、京兆	民國元年	二	二三、〇〇〇、〇〇〇	四、一七六、二一三	一、五三一、五〇〇	一六六、五〇〇	一	—	—	—	—	一
	民國二年	二	二三、〇〇〇、〇〇〇	五七、二三一、九六六	七、一五四、八二四	三、〇〇三、八七三	一	—	—	—	—	
	民國三年	五	三六、六五〇、〇〇〇	四、三四八、六三〇	四六八、五二〇	?	—	—	—	—	—	
二、直隷	民國元年	二	一、八八五、五八一	六、四三五、三四六	六、〇四九	四八、八三七	—	—	—	—	一	二
	民國二年	二	一、九七二、九二三	四、三三七、五二〇	七、三八八	五〇、一五三	一	—	—	—	—	
	民國三年	二	七、九四八、九四六	六、三四四、八七〇	四九六、一六五	一、一八二、二九六	五	二〇、〇〇〇	一三〇、〇〇〇	—	—	
三、奉天	民國元年	三	一、五〇〇、〇〇〇	三五八、五三九	九、〇八五、七二七	六八〇、二〇五	七	?	一五〇、〇〇〇	—	—	三
	民國二年	六	一、九一八、一〇〇	四四〇、〇〇〇	一、三九七、〇〇〇	七一四、〇〇〇	七	—	一、二八〇、〇〇〇	—	—	
	民國三年	五	一、七五〇、〇〇〇	五六六、二九四	九、三九七、〇〇〇	七二四、五四〇	二	—	一、二八〇、〇〇〇	—	—	
四、吉林	民國元年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四
	民國二年	一	?	四五、五九三	二四、一八七、七二五	一、一五〇、三五八	三	五一、四〇五	二二三、一六〇	—	—	
	民國三年	—	—	—	—	—	四	二三一、二二〇	五七四、〇〇〇	—	—	
五、山東	民國元年	四	七六九、一一四	三、〇六二、一八二	四八、〇〇〇	—	二	一、五〇〇	—	—	一	五
	民國二年	一	五〇〇、〇〇〇	八七六、五二〇	二六六、四〇〇	—	九	七九二、五五九	三〇二、七四四	—	一	
	民國三年	二	二、〇〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、五四二	二九三、三三〇	六、七一八	九	二三、〇〇〇	三二、二七五	—	—	
六、河南	民國元年	一	一〇〇、〇〇〇	—	—	—	一	一五〇、〇〇〇	一九〇、〇〇〇	—	一	六
	民國二年	一	一〇〇、〇〇〇	—	—	—	三	—	一六、〇〇〇	—	—	
	民國三年	—	—	—	—	—	六	九、〇〇〇	—	—	—	

省別	年別											
七、山西	民國元年	二	七、八六五、八〇〇	?	?	?	一	?	?	|	|	
	民國二年	三	一六四、七一九	一〇四、四五二	四四二、四二〇	六〇〇	三	|	一、三三〇	|	|	七
	民國三年	六	二、一一五、三〇〇	一、〇八七、四一一	五五五、五〇〇	一、六〇〇	一三	五三八、三六一	|	|	|	
八、江蘇	民國元年	八	四、六一七、〇〇〇	九、五五七、九三三	七二、三四〇	?	八	四、九七九、〇六五	七三六、〇一三	|	二	
	民國二年	七	二、四五五、八八〇	七、八二五、二〇〇	七八五、〇〇〇	五六六、〇七〇	八	四、二七九、〇〇〇	七八九、四〇〇	|	|	八
	民國三年	六	五、七五〇、〇〇〇	三、九五四、六六八	六六〇、〇〇〇	一六八、一一三	一六	五、四四五、五一四	七五〇、〇〇〇	|	|	
九、安徽	民國元年	一	二〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	?	|	|	|	|	|	
	民國二年	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	九
	民國三年	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	
一〇、江西	民國元年	四	一、五七五、〇七四	二五一、〇五七	七九、〇〇〇	二二三、〇〇〇	一	二二五、〇〇〇	一九〇、〇〇〇	三	六	
	民國二年	三	一五〇、六二九	二、六一三、二一〇	一、七四一、五〇〇	二四、五四二	五	一、一九三、〇〇〇	二六〇、〇〇〇	八	五	一〇
	民國三年	二	二、〇六〇、〇〇〇	二、一二六、二一九	|	四八、四七九	一六	八二九、三三二	|	一	|	
一一、福建	民國元年	一	三〇七、六一七	二七、七二〇	三三七、九五六	八、一八四	|	|	|	|	|	
	民國二年	一	三〇〇、〇〇〇	一九二、〇八二	六一六、一二〇	二六、五二五	五	八一、五二六	|	一	|	一一
	民國三年	一	一、〇〇〇、〇〇〇	二六一、三八九	七〇二、一三三	六三、四六二	四	三四九、六五四	六、〇〇〇	|	|	
一二、浙江	民國元年	二	一、二二二、八五〇	三、〇七六、四七六	七九、〇〇〇	二二三、〇〇〇	一	二二五、〇〇〇	一九〇、〇〇〇	|	|	
	民國二年	三	一、二七二、八五〇	二、〇八六、〇二一	一、四七一、五〇〇	二四、五四二	五	一、一九三、〇〇〇	二六〇、〇〇〇	|	|	一二
	民國三年	四	四、一〇〇、〇〇〇	一、八九三、二九二	一、〇二九、二二八	三六、三三三	六	一、七三五、〇〇〇	四一〇、〇〇〇	|	|	
一三、湖北	民國元年	|	|	|	|	|	一	一五〇、〇〇〇	|	|	|	
	民國二年	二	一、一七〇、一五〇	四〇三、〇〇〇	四〇三、〇〇〇	三、二〇〇、〇〇〇	三	五、九六七、〇〇〇	五、九一四、二八六	|	|	一三
	民國三年	三	二、四〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	九	三、六〇〇、〇〇〇	三、五〇〇、〇〇〇	|	|	
一四、湖南	民國元年	四	二、四五三、五八〇	九、〇三四、九七三	二七、五四七、五八二	二三五、六七〇	七	四〇、〇〇〇	三一三、八八〇	|	|	
	民國二年	五	七八九、五八〇	一、八八四、四八六	二、〇三九、二七三	一三三、〇一六	一〇	二、〇五二、二九〇	五九二、三三六	|	一	一四
	民國三年	二	一一〇、〇〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	|	一四	六八〇、五五九	九〇、二六〇	|	|	

次序	地方	年次	總行 行數	總行 資本金總額	總行 各戸存款額	總行 紙幣發行額	總行 公債金額	分行 行數	分行 各戸存款總數	分行 紙幣發行額	代理店數	兌換所數
一五	一五、陝西	民國元年	二	一、五八八、三八〇円	三〇、〇〇〇円	一、八〇〇、〇〇〇円	?円	—	—円	—円	—	—
		民國二年	一	一、四三〇、〇〇〇	二九、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	—	一	二、〇一七	一六、〇三九	—	—
		民國三年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一六	一六、四川	民國元年	二	九〇五、〇〇〇	三、九六二、八六四	—	—	—	—	—	—	—
		民國二年	三	八八〇、二二五	八、八三五、八六八	—	四四、一〇四	四	一四三、〇〇〇	—	—	—
		民國三年	二	一、〇〇四、二二五	九、二七七、二六九	—	五二、一〇四	二	七四、〇〇〇	—	—	—
一七	一七、廣東	民國元年	一	五〇〇、〇〇〇	五八五、〇〇〇	六五、〇〇〇	—	—	—	—	—	—
		民國二年	七	七九六、〇〇〇	六五七、〇〇〇	六二、五〇〇	—	—	—	—	—	—
		民國三年	一六	四三〇、〇〇〇	三五、三〇〇	—	三八、〇〇〇	一	三、一九〇、八八四	一、八三九、五一四	—	—
一八	一八、廣西	民國元年	一	一、〇〇〇、〇〇〇	一四四、四七七	四、四〇七、〇五〇	二五、九八五	—	—	—	—	—
		民國二年	一	一、五〇〇、〇〇〇	一九二、六二七	一、八九六、六五四	二八、三九九	—	—	—	—	—
		民國三年	一	六一、五九九	九一三、六七五	—	五、九三六	—	—	—	—	—
一九	一九、雲南	民國元年	一	一、〇〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	九、五〇〇	六	一七、九七四	二六九、二九八	—	—
		民國二年	一	五一九、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	八六〇、〇〇〇	三四、九〇〇	五	七二九、六五二	三六九、七二八	—	—
		民國三年	—	—	—	—	—	八	九〇四、四九四	一、一四四、一〇〇	—	—
二〇	二〇、貴州	民國元年	一	一四二、六三八	一、〇九一、七八二	一、二五六、五〇一	六、九四四	—	—	—	—	—
		民國二年	一	一四二、六三八	一、〇九一、七八二	一、二五八、五〇二	六、九四四	—	—	—	—	—
		民國三年	一	一四二、六三八	一、〇九一、七八二	一、二五八、五〇一	六、九四四	—	—	—	—	—
二一	二一、熱河	民國元年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		民國二年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

民國三年	一	九四、五〇〇	—	—	五、四〇〇	—	—	—	—	—
三、察哈爾 民國元年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
民國二年	三	三四、八三三	六、〇五〇	三、五〇〇	一、三〇〇	—	—	—	—	—
民國三年	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—
計 民國元年	五一	二六、八八五、六三四	四二、五九四、五五二	五〇、七二六、一八四	一、三九四、八二五	四四	六、一一八、〇〇九	一、九四九、一九一	三	三
民國二年	四四	二八、九九七、五二六	八九、三三八、三七七	四三、〇一〇、九五四	六、三三八、一一四	八六	一六、二〇九、九七三	九、七六一、〇三三	九	六
民國三年	五九	五六、七一七、二〇七	三四、一〇三、八四一	一五、八三一、四六六	四、一三九、九〇五	一一六	一七、六三一、〇一七	九、七五六、一四九	一	—

支那銀行明細一覽表

地方		銀行名稱	營業種類	設立年月	經理註冊年月	資本金 總額	資本金 已繳納額	各月存欵總額	紙幣發行高	公積金額
京兆	宛平縣	殖邊銀行	商業	民三、二	民三、三	二〇、〇〇〇、〇〇〇円	八三〇、〇〇〇円	二〇〇、〇〇〇円	—円	?円
	宛平縣	新華儲蓄銀行	儲蓄	民三、一〇	民三、一〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	—	?
	宛平縣	華充銀行	商業	民三、七	民三、五	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	三三、一〇〇	—	—
	大興縣	保商銀行	商業	民一、五	民一、五	五、六〇〇、〇〇〇	五、〇四〇、〇〇〇	二、〇九七、五三〇	四六八、五一〇	?
	大興縣	濬川銀行	商業	光三一、九	宣一、一二	—	—	二九、〇〇〇	—	—
	計	五				二六、六五〇、〇〇〇	六、九一〇、〇〇〇	四、三四八、六三〇	四六八、五一〇	—
直隷	天津縣	直隷省銀行	商業兼理官欵	光二八、四	宣二、九	一、九五一、九四六	—	二、七二一、五七五	—	四八、六二一
	天津縣	北洋保商銀行	商業	宣二、九	宣二、四	五、九九七、〇〇〇	四、八八七、一七六	二、六三三、二九五	四九六、一六五	一、一三三、六八五
	萬全縣	直隷省分銀行	滙兌放欵	光三、	—	—	—	—	—	—

地方		銀行名稱	營業種類	設立年月	經理註冊年月	資本金 總額	資本金 已繳納額	各戶存款總額	紙幣發行高	公積金額
直隷	獲鹿縣	交通銀行滙兌所	滙兌	光三四、八	—	—	—	—	—	—
	淸苑縣	交通銀行滙兌所	滙兌	民一、二	—	—	—	—	—	—
	灤縣	唐山交通銀行滙兌所	滙兌兼儲蓄	民一、一	—	—	—	二〇、〇〇〇	一三〇、〇〇〇	—
	文安縣	交通銀行滙兌所	滙兌	民三、二	民三、九	—	—	—	—	—
	計	七				七、九四八、九四六	四、八八七、一七六	六、三六四、八七〇	六二六、一六五	一、一八二、二九六
奉天	瀋陽縣	興業銀行	儲蓄	民一、五	民三、七	四五〇、〇〇〇	—	—	一五〇、〇〇〇	—
	北鎭縣	廣益銀行	滙兌兼儲蓄	民二、九	民二、三	二〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	五一、五〇〇	一〇〇、〇〇〇	四、五四〇
	北鎭縣	廣濟銀行	滙兌兼儲蓄	民二、三	民三、二	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	一八三、七九四	一一七、〇〇〇	—
	瀋陽縣	東三省官銀號	滙兌兼儲蓄	光三二、一〇	宣一、四	九〇〇、〇〇〇	—	三三一、〇〇〇	九、〇〇〇、〇〇〇	七二〇、〇〇〇
	鐵嶺縣	鐵嶺官銀號	押欵	光三二、六	—	—	—	—	—	—
	瀋陽縣	中國分銀行	滙兌押借	光三三、三	光三三、三	—	—	—	—	—
	鐵嶺縣	中國分銀行	滙兌押欵	民三、七	—	—	—	—	—	—
	安東縣	中國分銀行	滙兌押欵	民三、八	—	—	—	—	—	—
	瀋陽縣	交通分銀行	滙兌存欵	宣二、三	宣二、三	—	—	—	—	—
	鐵嶺縣	交通分銀行	滙兌押欵	宣二、三	—	—	—	—	—	—
	東豐縣	興業分銀行	出貸	民二、七	民二、六	—	—	—	五〇、〇〇〇	—
	盤山縣	興業分銀行	息借滙兌	民三、六	—	—	—	—	一、二三〇、〇〇〇	—
	瀋陽縣	黑龍江官銀分號	滙兌	宣一、二	光三四、八	—	—	—	—	—
	安東縣	安東官銀分號	兌換	光三三、二		—	—	—	—	—

	營口縣	官銀分號	兌換	宣一、三	宣一、三	—	—	—	—	—
	遼陽縣	官銀分號	兌換	光三、四	—	—	—	—	—	—
	計	一六				一、七五〇、〇〇〇	三五〇、〇〇〇	五六八、二九四	一〇、六四七、〇〇〇	七二四、[illegible]
吉林	吉林縣	交通分銀行	滙兌	民三	—	—	—	—	—	—
	濱江縣	交通分銀行	押借滙兌	民三	—	—	—	—	—	—
	長春縣	交通分銀行	押借滙兌	民三、一	民三、一	—	—	三三一、三三〇	五七四、〇〇〇	—
	依蘭縣	永衡官銀錢分號	借貸	宣一、三	—	—	—	—	—	—
	計	四				—	—	三三一、三三〇	五七四、〇〇〇	—
山東	歷城縣	山東銀行	滙兌	民一、八	民一、八	一、〇〇〇、〇〇〇	—	一、二〇〇、〇〇〇	二九〇、七三〇	六、七一八
	惠民縣	商業銀行	商業	民三、五	?	一〇〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	五四三	二、五〇〇	—
	長山縣	山東分銀行	滙兌	民三、三	民三、	—	—	八、〇〇〇	一〇、〇〇〇	—
	濟甯縣	山東分銀行	滙兌	民二、三	—	—	—	—	—	—
	泰安縣	山東分銀行	商業	民二、三	—	—	—	—	一〇、〇〇〇	—
	滕縣	中國分銀行	滙兌	民三、五	—	—	—	—	—	—
	長山縣	中國分銀行	滙兌	民三、五	—	—	—	—	九、〇七五	—
	滕縣	山東分銀行	商業兼滙兌	民一、一〇	—	—	—	—	—	—
	德縣	交通分銀行	滙兌	民一、一二	—	—	—	—	—	—
	嶧縣	交通分銀行	滙兌存款	民一、九	光三三、二	—	—	—	—	—
	歷城縣	周村分銀行	滙兌	民三	?	—	三〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	三、二〇〇	—
	計	一一				一、一〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一、二三三、五四三	三三五、五〇五	六、七一八

地方		銀行名稱	營業種類	設立年月	經理註冊年月	資本金 總額	資本金 已繳納額	各戶存款總額	紙幣發行額	公積金額
河南	洛陽縣	交通分銀行	商業兼儲蓄	民二、一一	光三四、	—	—	九、〇〇〇	—	—
	安陽縣	交通分銀行	滙兌抵押	民一、一一	—	—	—	—	—	—
	郾城縣	交通分銀行	滙兌	宣一、	—	—	—	—	—	—
	信陽縣	交通分銀行	滙兌	民一、	—	—	—	—	—	—
	新鄉縣	交通分銀行	滙兌	民	—	—	—	—	—	—
	濬縣	交通分銀行	滙兌	宣三、	—	—	—	—	—	—
	計	六					—	九、〇〇〇	—	—
山西	陽曲縣	晋勝銀行	滙兌	民二、一	—	一、〇〇〇、〇〇〇	一〇七、一〇〇	一〇〇、〇〇〇	四三三、五〇〇	六〇〇
	祁縣	大德衡銀號	滙兌	光一三、	—	一九〇、〇〇〇	—	二五五、〇〇〇	—	—
	祁縣	大德通銀號	滙兌	光一〇、	—	二七二、〇〇〇	—	二三三、八八三	—	—
	祁縣	三晋源銀號	滙兌	光九、	—	二五三、三〇〇	—	三九〇、〇〇〇	—	—
	朔縣	豫豐銀行	商業	民二、八	—	一〇〇、〇〇〇	六三、二〇〇	一〇八、五二八	一六、〇〇〇	一、〇〇〇
	忻縣	道濟銀行	商業	民二、一	—	三〇〇、〇〇〇	三九、〇〇〇	—	一〇六、〇〇〇	—
	大同縣	晋勝分銀行	?	民二、一一	—	—	—	—	—	—
	陽曲縣	中國分銀行	滙兌	民二、九	—	—	—	五三八、三六一	—	—
	大同縣	交通分銀行	?	民一、一一	—	—	—	—	—	—
	計				—	二、一一五、三〇〇	二〇九、三〇〇	一、六二五、七七二	五五五、五〇〇	一、六〇〇
	上海縣	江蘇銀行	商業兼儲蓄	民一、二	—	一、〇〇〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	五一九、九六八	—	九五、五四三
	松江縣	松江銀行	商業	民一、六	—	二〇〇、〇〇〇	一〇三、三八〇	二一〇、八〇〇	二五、〇〇〇	四、七七〇

江蘇	上海縣	中華商業儲蓄銀行	商業兼儲蓄	民二、四	—	一、〇〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	三七九、五〇〇	—	七、五〇〇
	武進縣	和愼銀行股分有限公司	商業兼儲蓄	光三四、七	光三四、一〇	三〇〇、〇〇〇	二二五、〇〇〇	一三九、四〇〇	—	三一、三〇〇
	上海縣	浙江興業銀行	商業	光三四、七	光三四、一	一、〇〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	一、五二〇、〇〇〇	三五〇、〇〇〇	二九、〇〇〇
	上海縣	四明銀行	商業	光三四、八	光三四、一二	二、二五〇、〇〇〇	一、〇五〇、〇〇〇	一、一八五、〇〇〇	二八五、〇〇〇	—
	江寧縣	江蘇分銀行	商業	民一、一〇	—	—	—	八〇、三八五	—	—
	無錫縣	江蘇分銀行	滙兌	民一、一二	民一、	—	—	—	—	—
	南通縣	江蘇分銀行	滙兌代理省庫	民二、五	—	—	—	—	五〇、〇〇〇	—
	吳縣	江蘇分銀祁	商業兼儲蓄	民一、二	—	—	—	二〇五、一二九	—	—
	吳縣	蘇州中國分銀行	滙兌代理國庫	民三、一	—	—	—	四〇〇、〇〇〇	—	—
	無錫縣	無錫交通分銀行	滙兌	民二、四	—	—	—	—	—	—
	江寧縣	浦口交通分銀行	抵押滙兌	民一、	—	—	—	八一〇、〇〇〇	—	—
	淮陰縣	交通分銀行	？	民三、六	—	—	—	—	—	—
	上海縣	交通分銀行	商業	光三四、三	光緒三四	—	—	三、〇〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	—
	銅山縣	交通分銀行	商業	民二、一一	—	—	—	一〇〇、〇〇〇	—	—
	上海縣	浙江分銀行	商業	宣一、三	民一、二	—	—	八五〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	—
	計	一七				五、七五〇、〇〇〇	二、一七八、三八〇	九、四〇〇、一八二	一、四一〇、〇〇〇	一六八、一一三
安徽	銅陵縣	中國分銀行	儲蓄	民一、	—	—	—	—	—	—
江西	南昌縣	民國銀行	商業	宣三、九	—	二、〇〇〇、〇〇〇	三一、八六一	二、一三六、二一九	—	四六、一五
	南昌縣	江西勸業銀行	商業	民一、八	—	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	—	—	二、三一六
	新建縣	民國分銀行	商業	民一、四	—	—	—	—	—	—
	南城縣	民國分銀行	商業	民一、一二	—	—	—	三〇、〇〇〇	—	—

地方		銀行名稱	營業種類	設立年月	經理註冊年月	資本金 總額	資本金 已繳納額	各戶存款總額	紙幣發行額	公積金額
江西	臨川縣	民國分銀行	商業	民一、八	—	—	—	四四、五八一	—	—
	上饒縣	駐信河口銀行分莊	滙兌	民二、二	—	—	—	七、〇三三	—	—
	鉛山縣	駐河口贛省民國分銀行	滙兌兼儲蓄	民一、八	—	—	—	—	—	—
	清江縣	贛省民國分銀行	商業	民一、八	—	—	—	一〇一、一三三 七、五〇〇	—	—
	萍鄉縣	贛省民國分銀行	滙兌	民一、八	—	—	—	一三〇、〇九八	—	—
	高安縣	民國分銀行	?	民一、八	—	—	—	二三、四四〇	—	—
	贛縣	民國分銀行	商業	民一、七	—	—	—	一〇九、八九二	—	—
	九江縣	民國分銀行	商業	民一、四	—	—	—	二二六、八〇〇	—	—
	浮梁縣	民國分銀行	滙兌兼儲蓄	民一、二	—	—	—	一五〇、〇〇〇	—	—
	宜春縣	駐袁民國銀行滙兌處	商業	民二、五	—	—	—	—	—	—
	樂平縣	民國銀行滙兌部	商業	民二、五	—	—	—	—	—	—
	鄱陽縣	民國銀行滙兌部	商業	民一、一〇	—	—	—	二、九三六	—	—
	湖口縣	民國銀行滙兌部	商業	民三、一	—	—	—	—	—	—
	武寧縣	民國滙兌所	商業	民二、四	—	—	—	六、一八〇	—	—
	餘干縣	代理店?	商業	民二、四	—	—	—	七五〇	—	—
	計	一九				二、〇六〇、〇〇〇	九一、八六一	二、九五五、五五〇	—	四八、四六九
福建	南平縣	延平福建分銀行	商業	民一、一二	—	—	—	六、〇〇〇	六、〇〇〇	—
	閩侯縣	福建銀行	滙兌	宣三、一〇	民三、七	一、〇〇〇、〇〇〇	二三〇、二八七	二六一、三八九	七〇三、一三[illegible]	六五、四六[illegible]
	閩侯縣	福建分銀行	滙兌	民一、二	民三、二	—	—	三四一、一五四	—	—

省	所在地	銀行名	種類	設立						
建	崇安縣	福建分銀行	商業	民 三、三	—	—	—	二、五〇〇	—	—
建	建甌縣	福建分銀行	商業	民 一、一〇	—	—	—	—	—	—
建	計	五				一〇〇、〇〇〇	二三〇、二八七	六一、〇四三	七〇八、一三三	[illegible]
浙江	杭縣	浙江銀行	商業	民 一、一	—	三、〇〇〇、〇〇〇	七二二、八五〇	九四八、二九二	五二九、二二八	[illegible]
浙江	永嘉縣	四明銀行	商業儲蓄	民 一、一一	—	—	—	四〇、〇〇〇	—	—
浙江	杭縣	興業銀行	滙兌	光 三、四	光 三四、一	一、〇〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	—
浙江	鎮海縣	漁業銀行	滙兌	民 一、一一	民 一、一一	一〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	五、〇〇〇	—	—
浙江	臨海縣	海門浙江分銀行	滙兌	民 二、五	—	—	—	二〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	—
浙江	鄞縣	四民分銀行	商業儲蓄	光 三四、八	光 三三、	—	—	一、二〇〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	—
浙江	鄞縣	中國分銀行	滙兌	民 三、五	—	—	—	一〇〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	—
浙江	紹興縣	中國分銀行	滙兌	民 三、九	—	—	—	四〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	—
浙江	象山縣	鎮海漁業分銀行	滙兌兼商業	民 一、一三	—	—	—	—	—	—
浙江	定海縣	鎮海漁業分銀行	商業	民 二、一〇	—	—	—	—	—	—
浙江	計	一〇				四、一〇〇、〇〇〇	一、二七二、八五〇	三、六二八、二九三	一、四三九、二二八	[illegible]
湖北	夏口縣	鄂州興業銀行	滙兌	?	—	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇
湖北	夏口縣	黃陂實業銀行	滙兌	?	—	六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇
湖北	夏口縣	泰豐銀行	滙兌	?	—	八〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇
湖北	黃陂縣	實業分銀行	滙兌	民 三、八	—	—	—	—	—	—
湖北	夏口縣	直隸分銀行	滙兌	?	—	—	—	六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	—
湖北	夏口縣	浙江興業分銀行	滙兌	?	—	—	—	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	—
湖北	廣濟縣	民國分銀行	商業	民 一、一一	—	—	—	—	—	—
湖北	夏口縣	民國分銀行	商業	?	—	—	一、七〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇	—

地方		銀行名稱	營業種類	設立年月	經理註冊年月	資本金 總額	資本金 已納繳額	各戸存款總額	紙幣發行額	公積金額
湖北	夏口縣	湖南分銀行	商業	?	—	—	—	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	—
	夏口縣	廣西分銀行	商業	?	—	—	—	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	—
	夏口縣	濬川源分行	商業	?	—	—	—	四〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	—
	宜昌縣	濬川源分行	商業	光三四、	—	—	—	一〇〇、〇〇〇	—	—
	計	一二				三、四〇〇、〇〇〇	四、一〇〇、〇〇〇	四、六〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇
湖南	總理縣	六大銀行	?	宣二	民一、四	一〇、〇〇〇	—	一、五〇〇	一、二〇〇	—
	常德縣	木業銀行	木業	民二、五	—	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	—	—	—
	常德縣	儲蓄分銀行	儲蓄	民一二、二	民一三、二	—	—	一三、〇〇〇	—	—
	常德縣	實業分銀行	實業	民一二、二	民一三、二	—	—	三〇、〇〇〇	?	—
	沅陵縣	湖南銀行辰州支店	商業	光三四、一〇	—	—	—	二九五、五九九	—	—
	會同縣	洪江湖南分銀行	?	光三四、六	—	—	—	—	—	—
	祁陽縣	實業分銀行	商業	民二、六	—	—	—	七〇、〇〇〇	三、八〇〇	—
	湘潭縣	儲蓄分銀行	儲蓄	民一、六	—	—	—	—	—	—
	湘潭縣	湖南分銀行	匯兌	民一、四	—	—	—	一三〇、〇〇〇	—	—
	寶慶縣	湖南分銀行	商業儲蓄	民一、五	—	—	—	一二四、五〇〇	八六、四六〇	—
	益陽縣	贛省分銀行	商業	民二、二	—	—	—	—	—	—
	益陽縣	實業分銀行	商業	民二、三	—	—	—	—	—	—
	益陽縣	交通分銀行	商業	民一、一〇	—	—	—	—	—	—
	湘陽縣	交通銀行匯兌部	匯兌	民二	—	—	—	—	—	—

省	縣	銀行名	營業種類							
湖南	零陵縣	湖南銀行永州支庫	滙兌	民一、四	—	—	—	一七、四六〇	—	—
	益陽縣	湖南銀行支店	商業	光三三、三	—	—	—	—	—	—
	計	一六				二二〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	六八二、〇五九	九一、四六〇	—
四川	成都縣	濬川源銀行	儲蓄滙兌	光三三、四	—	七〇四、三三五	七〇四、三三五	九、〇九二、六六九	—	四四、一〇四
	華陽縣	寰通銀行	商業兼儲蓄	民一、一二	民三、七	三〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	一八四、六〇〇	—	八、〇〇〇
	富順縣	濬川源分銀行	滙兌兼儲蓄	民一、九	民二、二	—	—	一四、〇〇〇	—	—
	萬縣	濬川源分銀行	商業兼儲蓄	宣一、一	—	—	—	六〇、〇〇〇	—	—
	計	四			—	一、〇〇四、三三五	九〇四、三三五	九、三五一、二六九	—	五二、一〇四
廣東	番禺縣	廣東中國分銀行	商業	民三、六	—	—	—	三、一九〇、八八四	一、八三九、五一四	—
	三水縣	恒安號	商業	光二一、	—	三、〇〇〇	—	一、五〇〇	—	三、〇〇〇
	三水縣	祥裕號	商業	民三、	—	三、〇〇〇	—	一、〇〇〇	—	三、〇〇〇
	三水縣	信孚號	商業	光二四、	—	三、〇〇〇	—	一二、〇〇〇	—	三、〇〇〇
	三水縣	和豐號	商業	民三、	—	三、〇〇〇	—	一、〇〇〇	—	三、〇〇〇
	三水縣	遠珍號	商業	同一三、	—	五、〇〇〇	—	三、〇〇〇	—	五、〇〇〇
	三水縣	寶益隆號	商業	光三三、	—	三、〇〇〇	—	二、〇〇〇	—	三、〇〇〇
	三水縣	有恒號	商業	宣二、	—	二、〇〇〇	—	二、〇〇〇	—	二、〇〇〇
	三水縣	寶華號	商業	光三三、	—	三、〇〇〇	—	二、〇〇〇	—	三、〇〇〇
	三水縣	和興號	商業	宣二、	—	二、〇〇〇	—	一、〇〇〇	—	二、〇〇〇
	三水縣	和・泰號	商業	光三〇、	—	三、〇〇〇	—	五〇〇	—	一、〇〇〇
	三水縣	恒益號	商業	光二四、	—	二、〇〇〇	—	二、〇〇〇	—	二、〇〇〇
	三水縣	謙信號	商業	光二八、	—	三、〇〇〇	—	三、〇〇〇	—	三、〇〇〇
	三水縣	瑞興號	商業	光二六、	—	三、〇〇〇	—	二、八〇〇	—	三、〇〇〇

地方		銀行名稱	營業種類	設立年月	經理註冊年月	資本金 總額	資本金 已繳納額	各月存款總額	紙幣發行額	公積金額
廣東	三水縣	寶豐號	商業	光五、	—	一、〇〇〇	—	一、五〇〇	—	一、〇〇〇
	三水縣	福興號	商業	光五、	—	四、〇〇〇	—	一、〇〇〇	—	一、〇〇〇
	茂明縣	高州銀行滙兌籌處	滙兌	民二、九	—	—	—	—	—	—
	計	一七				四三〇、〇〇〇	—	三、二三六、一八四	一、八三九、五一四	三八、〇〇〇
廣西	蒼梧縣	梧州官銀行	？	民一、	民一、	六一、五九九	—	九一三、六七五	—	五、九三六
雲南	休納縣	新興富滇分銀行	儲蓄	民三、二	—	—	—	一五、〇〇〇	五九、一〇〇	—
	通海縣	通海富滇分銀行	商業兼儲蓄	民二、一〇	—	—	—	九〇	三〇〇、〇〇〇	—
	蒙自縣	富滇分銀行	商業	民二、一	—	—	—	二七、六九二	—	—
	箇舊縣	富滇分銀行	商業兼儲蓄	民一、五	—	—	—	八五〇、九〇二	六二五、〇〇〇	—
	思茅縣	官辦雲南富滇分銀行	滙兌兼儲蓄	民一、五	—	—	—	—	五〇、〇〇〇	—
	鳳儀縣	富滇分銀行	滙兌	民一、三	—	—	—	一〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	—
	楚雄縣	富滇銀行代辨所	商業	民三、三	—	—	—	—	二、〇〇〇	—
	麗江縣	富滇分銀行	商業兼儲蓄	民三、二	—	—	—	—	四八、〇〇〇	—
	計	八				—	—	九〇四、四九四	一、一一四、一〇〇	—
貴州	貴陽縣	貴州銀行	商業	宣三、九	光三四、一	一四二、六三七	一四二、六三七	一、〇九一、七八二	一、二五八、五〇一	六、九四四
熱河	平泉縣	平泉官錢號	商業	光三四、二	光三四、三	九四、五〇〇	—	—	—	五、四〇〇
察哈爾	豐鎮縣	交通銀行滙兌所	滙兌	民三、一	—	—	—	—	—	—
合計						五六、七一七、二〇七	二一、四二六、七一六	五一、七三三、八五八	二九、五八七、六一五	四、一三九、九〇六

中國銀行

沿革

現時ノ支那中央銀行タル中國銀行ハ前清時代ノ大清銀行ヲ改組シタルモノニシテ、前清ノ末造支那ガ頻ニ改革ヲ策シ、憲制施行ノ準備ヲナサントスルヤ、當時幣制及財政ヲモ整理セント欲シ、光緒二十九年（明治三十六年）振貝子、那桐、張允言ノ三氏ヲ本邦ニ派遣シテ、親シク財政、幣制ノ狀勢ヲ視察セシメ、彼等其目的ヲ了シテ歸國スルヤ、管理財政處ヲ設立シテ慶親王ヲ其總辦ト爲シ、幣制ノ統一、財政整理方法ヲ講究セシムルニ至リ、而シテ管理財政處ハ中央銀行ノ設立ヲ以テ、其大本ナリトナシ、戶部銀行創設ノ議成リ、即チ光緒三十年一月二十八日、財政處ハ下ノ如キ上奏文ヲ捧呈シテ中央銀行ノ設立ヲ請願セリ、曰ク『（上略）貨幣ノ流通ハ戶部（後度支部ト改ム）ノ出納ヲ本源ト爲シ、倘銀行ヲ設立シテ貨幣ノ流通金融ノ緩急ヲ操縱セシメザル可カラズ、中國ハ從來銀行ナルモノナシ、各省ノ豪商ハ票號及錢莊等ヲ設立經營シツヽアリト雖モ、政府ガ銀行ヲ設置シテ此等ト連絡スルニ非ザレバ、政府ノ財政ガ一度盈虛ヲ生ズルニ際シテ、其補救機關タル能ハザル也、（中略）目今幣制改革ノ時、速カニ銀行ヲ設立シ、之ガ統一ノ機關タラシムルハ實ニ急務中ノ急務ニ屬ス、故ニ臣等ハ資本ヲ籌集シテ、各國ノ銀行制度ヲ取捨參酌シ、中央銀行ヲ設立シ、貨幣流通ノ總滙所タラシメントス云

々』ト之レニ對シ光緒帝ハ直チニ批准セラレタレバ、管理財政處ハ中央銀行創立ノ準備ニ着手シ、光緒三十一年該銀行章程ヲ編訂シ、上奏裁可ヲ經タリ、戶部ノ上奏ニ曰ク『(前略)夫レ幣制ト銀行トハ車ノ兩輪ノ如ク、銀行無クンバ各種ノ貨幣ハ能ク流通スル能ハズ、而カモ中國ハ未ダ商業ノ經營幼稚ニシテ、諸般ノ設備其緒ニ就カズ、從ツテ世人モ亦銀行等ノ知識ヲ有セザルナリ、(中略)且ツ淸國ノ官商ハ常交疎隔シ、商民ハ猶從來ヨリノ紙幣ヲ信用セリ、故ニ今回中央銀行ヲ設立シ、兌換券ヲ發行スルモ、遽カニ各票莊銀號等ノ兌換券ヲ制壓スル能ハザル可ク、數年ノ後漸ク流通スルヲ見ルニ至ルナルベシ、惟フニ本銀行ノ職分ハ、貨幣制度ヲ統一シ、財政ヲ整理スルニ在リ、故ニ奸商ノ營利ヲ妨ゲ官吏ノ中飽ヲ障害スベシ、玆ニ恐ルヽハ中途謠言ヲ放チ、事ヲ生ゼシムルノ徒アラバ、遂ニ挫廢スルヲ保シ難キコトナリ、此等ノ委曲ハ擧ゲテ聖明洞察ノ中ニアリ云々』之ニ三十二ケ條ノ同銀行規則ヲ添ヘ、御覽ニ供シ裁可ヲ受ケタルモノナリ、其資本金四百萬兩、コレヲ四萬株ニ分チ、官民兩方面ヨリ募集セリ、然レドモ商股ノ應募者ナカリシヨリ、先ヅ戶部ニ請ヒ官資ノ四分ノ一、卽チ五十萬兩ノ拂込ヲウケ、張允言ヲ總辦トシ瑞豐ヲ副總辦トシ、本店ヲ北京ニ設立シ、戶部銀行ト命名セリ、時ニ光緒三十一年八月ナリ、繼イデ同九月天津支店ヲ、同十月上海支店ヲ分設シタリ、翌三十二年八月ニ至リ漢口ニ一支店ヲ置キテ、外國ノ諸銀行ト對立セシメ、同年十二月營口、奉天、張家口ノ三支店ヲ開設シ、又三十三年四月庫倫支店ヲ設置シテ、露淸銀行ト對抗セシメ、三十二年十二月濟南ニ一支店ヲ設

立シテ德華銀行ト相對峙セシメ又三十四年廣州、福州、杭州、南昌、開封、大原、長春ノ七支店ヲ增設シタリ、後光緒三十二年秋冬ノ間ニ於テ、初メテ商股ノ募集ヲナシ得タルヲ以テ、先ヅ二分ノ一則庫平銀百萬兩ヲ拂込マシメ、官股モ二分ノ一則百萬兩ニ增加シ、拂込資金二百萬兩トナシ、コレヲ北京本店二十萬兩、天津十萬兩、上海二十萬兩、漢口二十萬兩、濟南十萬兩、張家口十萬兩、奉天二十萬兩、營口庫倫二十萬兩宛ニ分配シ、殘金六十萬兩ハ各行ニ分存シテ其擴張資本ニ供セリ。

右戶部銀行ハ戶部ヲ度支部ト改稱シタル時ニ、同ジク度支部銀行ト改稱セラレタルガ、光緒三十三年度支部ヨリ同行第一回營業報告ヲ上奏セルモノ左ノ如シ。

北京ニ於ケル度支部銀行支店ハ光緒三十一年八月開業シ、其資本トシテ官金二十萬兩ヲ充テ次デ天津、上海、漢口ニ支店ヲ開キ官金五十萬兩ヲ以テ資本トセリ、三十二年各支店擴張ノ爲メ、官金三十萬兩ヲ增加シ、又人民ヨリ株金九十五萬兩ヲ募リ、此外奉天省ニテ株金五萬兩ヲ引受ケタレハ、此資本總計二百萬兩ニ上リ、且ツ官民ノ預金二千萬兩餘ヲ收メタリ、而シテ當サニ支拂フヘキ官民ノ持株ニ對スル利息、預金ノ利息、店員ノ俸給、其他雜費一切ヲ引キ去リタル利益ハ、三十八萬五千九百八十六兩九分ニシテ此內ヨリ章程ニ基ツク積立金、家屋建築費及各種配當金、賞與金ヲ除ケハ、純利二十一萬九千八百三十四兩九錢九分ナリ、今官民ノ各持株ニ準シテ、均分計算スルニ、先後收領スル所ノ度支部官金一百萬兩ニ對スル利益ハ、十七萬四千一百十兩八錢八分五厘ニシテ、元金ノ利息ハ四萬ハ千八百六十六兩六錢六分卽チ其合計庫平銀ニテ二十四萬三千九百七十七兩五錢五分五厘ハ既ニ預金ニ編入レ置キタレハ、命令次第支拂フヘシ、各支店ノ總決算表ヲ茲ニ取リ纏メテ報告スルコト別表ノ如シ、此外濟南、張家口、營口、奉天、各支店ハ始メテ設立セルノミニシテ、未タ決算ヲ調製スルノ運ニ至ラス云々。

以上銀行正監督等ノ呈出セル報告ハ、光緒三十一年八月ヨリ三十二年末迄ノ決算ヲ總合セシモノナリ、右ニ據ルトキハ本部ノ所有官株百萬兩ニ對シテ、各種ノ利益二十四萬兩餘ヲ得ヘシ、官金支出ノ日尙ホ淺キ割合ニハ、利益多シト云フヘシ、該監督等ノ經理

モ其法ヲ得タリト云フヘシ、又人民ノ株金及各種ノ預金ハ、凡テ該銀行ガ自ラ法ヲ設ケテ、募集セルモノナリ、將來該監督等ニ命シテ、鋭意熱心、漸次斯業ヲ擴張シテ、實效ヲ收メシムヘシ、尙ホ銀行章程ニ據レハ、半年毎ニ一回決算シテ奏呈スルノ定メナルヲ以テ、各支店ノ決算ハ其都度合併載明スヘシ、右ハ初メテノ報告ニシテ、殊ニ精密ノ調査ヲ要スルヲ以テ、本部ヨリ委員ヲ派シ該行ノ帳簿ヲ調査シ、報告ノ金高ト相違ナキヤ否ヤヲ監査セシ云々。

第一回決算表（自光緒三十一年八月二十九日 至同年十二月三十日）

項目	兩錢分釐
預金	
北京本店	四、八三一、五〇四、四八〇
天津支店	一、八八五、八三四、八〇〇
上海支店	三、三七九、一〇六、六二〇
計	九、九九六、四四五、九〇〇
收入金	
北京本店	五八、二七八、三四〇
天津支店	二九、六八〇、六〇〇
上海支店	四二、六三三、六二一
計	一三〇、五九二、五六一
支出金	
北京本店	三七、五〇〇、三四〇
天津支店	一八、八四五、七六〇
上海支店	九一、二二〇、三六九
利益金	

第一回決算利益合計	三九、三七二、二〇二

第二回決算表（自光緒三十二年一月一日 至同年六月末）

	両銭分厘
預金	
北京本店	六、〇九二、四四八、六三〇
天津支店	二、四一八、六一四、〇六〇
上海支店	五、七〇一、三〇六、八一六
計	一四、二一二、三六九、五〇六
收入金	
北京本店	一七〇、七九六、五七〇
天津支店	九四、八六一、九六〇
上海支店	一四九、七〇一、二二一
計	四一五、三五九、七四一
支出金	
北京本店	一二二、三八九、〇二六
天津支店	六七、三七四、九二〇
上海支店	一二三、二六九、九二五
計	三一三、〇三三、八七一
利益金	
第二回決算利益合計	一〇二、三二五、八七〇

第三回決算表（自光緒三十二年七月十日 至同年十二月末）

	兩錢分厘
預金	
北京本店	一〇、五七〇、三八九、六〇〇
天津支店	三、三七三、九五三、五六〇
上海支店	七、五八四、一五〇、七七四
漢口支店	二、二六三、八六五、六九八
計	二三、七九二、三五九、六三二
收入金	
北京本店	二四五、三三二、六二〇
天津支店	九六、五八一、三四〇
上海支店	二四一、一二一、一四〇
漢口支店	七一、二六〇、七一五
計	六五四、二九五、八一五
支出金	
北京本店	一五七、七四一、四一〇
天津支店	四五、七四九、八三〇
上海支店	一四五、三七三、九五七
漢口支店	六一、一四二、五九八
計	四一〇、〇〇七、七九五
利益金	
第三回決算利益合計	二四四、二八八、〇二〇

右三回利益總計庫平銀三十八萬五千九百八十六兩九分二厘ナリ

後光緒三十四年七月、度支部銀行ヲ改メテ、大清銀行トナシ、同時ニ大清銀行則例及詳細章程ヲ發布シ、更ニ又同年同行内ニ貯蓄銀行ヲ併設セントテ請願シ、其許可ヲ得タリ。

此新則例ニ於テハ、舊來ノ戸部銀行則例ニ多少ノ變更ヲ加ヘ、尙ホコレト共ニ資本金ヲ增加シテ、一千萬兩ト爲シ、而シテ其增資セル六百萬兩ハ、舊資本ノ如ク、百兩券六萬株ニ分チ、官民各其半數ヲ引受ケタリ、舊株ハ光緒三十四年ニ於テ、全部拂込ヲ了シ、新株モ亦同年中三百萬兩ノ拂込ヲ經、尙ホ度支部ハ次期拂込ノ中百五十萬兩ヲ同銀行ニ預金トシテ存セリ。

右大清銀行則例ニヨレバ大清銀行ノ業務ハ

短期貸附	各種手形ノ割引	地金銀ノ賣買
送金爲替、荷爲替	手形ノ代理取立	一般貸付

ノ普通銀行業務ノ外、政府ニ代リテ兌換劵、新貨幣ヲ發行シ、公債ノ發行ヲモ代理シ、且又國庫事務ヲ取扱フモノトス、又貯蓄銀行業務ヲモ行フコトヲ許可セラレタルモノナルガ、發行紙幣額ハ宣統元年北京本店ニ於テ銀元票三十萬元、銀兩票百六十萬兩、各地支店ハ何レモ二三十萬乃至五六十萬兩ノ額ニ上レリ、斯クノ如ク大清銀行ノ業務ハ其範圍頗ル廣ク、利益モ從テ莫大ノ額ニノボレドモ、其經營狀態ヲ見ルニ、必ズシモ成功ト目スベカラズシテ、其信用ノ如キモ遙ニ民營ノ上海通商銀行ノ下ニ

在ルヲ免レザリキ、當時ノ其本支店ノ收益狀態ヲ示セバ次ノ如シ。

大淸銀行本支店純益累年比較表

（純益トハ普通日本ニテ云フ純益中ヨリ更ニ官利ヲ差引タルモノナリ）

本支店	自光緒三十一年八月至同三十二年十二月	光緒三十三年度	光緒三十四年度	宣統元年度	宣統二年度
	庫平兩	庫平兩	庫平	庫平兩	庫平兩
北京	一五六、七七六	三〇三、〇四三	三九七、〇三一	三六九、二二六、六九〇	三九九、七一五、四六〇
天津	八九、一五二	一八六、八五九	一八一、一五九	一九五、五六五、一九〇	一五〇、〇三六、〇五〇
上海	二九、九三七	二八五、一三三	二八五、八二三	一六三、三八七、九三五	一〇〇、六四二、九二三
漢口	一〇、一二八	五七、四一五	一一三、七二八	一九三、〇七一、八二四	一三二、〇八二、八〇三
濟南	—	三七、〇二一	二三、六三九	一二、六〇、七七八	一五、八五九、三四三
張家口	—	一三、一三〇	二一、三一九	一一、九〇九、八四八	六、一四〇、四三四
奉天	—	一八、八七〇	二二六、三〇二	七九、二九八、〇二五	一三、二八五、〇五〇
營口	—	—	三一四、三七七	九八、七二六、四一〇	九四、八二二、六二〇
庫倫	—	—	二三、三一三	九二、四七五、一四二	六八、六六九、六九八
重慶	—	—	四〇、九五五	二〇〇、三四四、一一〇	一三〇、四一六、八七〇
廣州	—	—	—	七九、五三〇、七五九	七二、三六六、三〇四
開封	—	—	—	四六、五七五、四〇〇	七五、二一三、八四〇
南昌	—	—	—	三八、五一八、九二九	三三、七〇四、八二三
福州	—	—	—	三七、七二二、二二四	二九、一七八、三八三
吉林	—	—	—	二三、二六四、七四七	—
杭州	—	—	—	一六、四一〇、三六〇	二四、一五四、〇〇一
蕪湖	開店後一ヶ年未滿	—	—	—	六、二六四、七〇六

長沙	同		—	—	四五、三三五、五三〇
太原	同		—	—	一、八四六、二一〇
雲南	同		—	—	一三、〇〇〇、〇〇〇

備考　其ノ發行兌換券ハ幾何額ニ上ルヤ明白ナラザレドモ支那新聞ノ報ズル所ニ據レバ、宣統三年六月十六日附ニ於テ、從來本支店發行額合計千五百萬元ナリト云フ。

大清銀行純益處分累年比較表

	自光緒三十一年八月至同三十二年十二月	光緒三十三年度	光緒三十四年度	宣統元年度	宣統二年度
家屋費	一五、五〇一	—	—	—	—
後期繰越金	二〇、三三三	九六、九五六	二一、三三六	一三三、〇二六、三七一	四八七、七一六、三二四
法定積立金	三六、一〇〇	八〇、二三三	二九八、二四二	—	二〇〇、三〇〇、〇〇〇
行員賞與金	六二、八一〇	一四四、八五四	二三八、五九三	二四四、〇八〇、〇〇〇	一六〇、二四〇、〇〇〇
事務所費	三二、四〇五	七二、四二八	一一九、二九六	一二二、〇四〇、〇〇〇	八〇、一二〇、〇〇〇
株主配當金	二二九、八三四	五〇六、九九二	三八五、一三三	八五四、二八〇、〇〇〇	六〇二、八三四、七五一
第二積立金	—	—	—	七四、四八七、二七六	三二、四九二、五二九
合計	三八五、九八六	九〇一、四六五	一、五二一、五八四	一、五六七、五二六、三七二	一、四八九、二二六、二二四

備考

事務所費ハ次ノ如ク處分セラルルモノナリ

一割五分　度支部ノ飯銀

六　割　正副監督會辦總辦理事、監事賞與金

一　割　奏派總稽査ノ飯銀

株主配當金ハ之ヲ餘利官利ノ二ニ分チ官利ハ六分トシ損害ノ如何ニ拘ラス支拂フモノニシテ玆ニ云フ配當金中ニハ之ヲ含マサルモノナリ。

宣統元年度配當率ハ左ノ如シ

舊　株　二割一分

新　株　一割三分五厘

之ニ猶官利六分ヲ加フヘキモノナリ

宣統二年度ノ配當率ハ左ノ如シ

餘利　七分　官利　六分　合計一割三分ナリ

斯クテ大清銀行ハ清國政府ノ中央銀行トシテ營業中ナリシニ、辛亥革命事變起ルヤ、民軍ハ大清銀行ノ清政府ノ中央銀行タルノ故ヲ以テ、各地ニ於ケル其支店代理店ニ迫害ヲ加ヘ、之レヲ沒收スルモノ多ク、爲ニ營業ハ停止シ、現款帳簿ハ持チ去ラレ、甚大ノ損害ヲ蒙ムルニ至リ、玆ニ於テ民間ノ同行株主ハ之レガ救濟ノ途ヲ講ゼザルベカラズトナシ、商股聯合會ナルモノヲ組織シ、一方民國政府當局ニ運動シ、一方株主間ニ協議ヲ進メ、大清銀行ヲ中國銀行ト改稱シ、同ジク民國政府ノ中央銀行トナスノ議ヲ定メ、遂ニ民國元年二月五日其許可ヲ得、又株主會ヲ開キテ之ヲ決定セリ、但シ從來同行資本金ハ一千萬兩ニシテ、約五百萬兩ハ前清政府ノ出資ナリシヲ、今回動亂ノ爲莫大ノ損害ヲ蒙レルハ、清政府ニ其責アリトナシ、此五百萬兩ハ沒收シ、從來ノ資本ヲ商股五百萬兩トナシ、新ニ五百萬

兩ヲ募集シ、合計一千萬兩トナシテ、營業ヲ開始スル事トセリ、今當時商股聯合會ヨリ上レル、具申書並同行株主大會ノ狀況ヲ示セバ次ノ如シ。

具申書

大清銀行ノ商股聯合會呈請ノ事ノ爲ニ、竊ニ惟ルニ百政ノ繁興胥財政ヲ視、財力ノ發展ハ金融ニ頼ル、矧ンヤ新政府建立ノ始ニシテ、軍需甚タ大ニ、財政ノ萠芽軍用鈔票ノ發行、公債募集ノ兩項ヲ以テ急トナサザルヲ得サルニ於テヲヤ、則チ治標ノ計完全鞏固ノ金融機關無カラサルヘカラス、其間ニアリテモ、此中央銀行ノ設ハ、目前唯一ノ急務ナリ、既ニ中國從前ノ財政紊亂　悉ク商家自カラ風氣ヲナスヲ聽クニ、中央建設ノ銀行ナシ、大清銀行開辦ヨリ後、官商資本各五百萬兩、總分行號五十餘處ニ推行セラレ、基礎雄厚ニシテ、滿清政府認メテ中央銀行トナシ、授クルニ紙幣發行ノ特權ヲ以テシ、許スニ國庫ヲ經理シ、及公債發行事務ヲ以テシ、外國公使ノ詢及スルモノアレハ、度支部ハ確ニ中央銀行ナル旨ヲ以テ相答復シ、且現在發行ノ紙幣ハ、國家ノ名稱ヲ以テ之レヲ擔保ス、股東等此ニ鑒ミルニ、大清銀行ノ種々特別ノ權利ヲ享有スルガ故ニ、惜シマスシテ、踴躍トシテ株式ノ募集ニ應ジ、輾轉購買、爭フテ相投資セリ、今ハ民國維新ニシテ、商民固有ノ權利自ラ稍モ損失ヲ加フベカラズ、應ニ請フ原有大清銀行ノ名稱ヲ改定シ、重ネテ新組織ヲナシ、以テ新政府ノ中央銀行トナスベキナリ、匪徒事ヲ收ムル半ニシテ、功之レニ倍スルハ、抑モ實ニ保商恤民ノ意ヲ寓スレバナリ、何トナレバ武昌起義以後黎副總統各國領事ニ對スル照會、及大總統ノ誓詞內ニ、均シク滿清政府ト各友邦ト締結セル條約、有ラユル外人既得ノ權利ハ、新政府概ネ繼續承認ストアリ、是レ之レヲ外人ニ對シテ既ニ照示シ大信ヲ以テ之レニ對ストセリ、本國商民既得ノ權利更ニ繼續承認セザルノ理アランヤ、股東等連日開會集議シ、全體ヨリ一面ニハ、大清銀行ノ營業ヲ停止シテ清理ヲ實行シ、其原有ノ官株五百萬兩ヲ以テ、消滅ヲ行ヒ、之レヲ今回ノ戰時地點各行ノ受ケタル損失、及一切ノ濫帳ニ充テ、一面中國銀行ヲ組織シテ、一ニ大清銀行房屋生財等ノ項ヲ、總テ接收應用センコトヲ請フ、股東ヤ原ト大清銀行株式五百萬兩ヲ有スレバ、之ヲ認メテ中國銀行株式トナシ、票面價格ニ照シテ株券ヲ換給シテ舊株トナシ、別ニ再ビ商股五百萬兩ヲ募集シ、一半ヲ同株主ヲシテ引受ケシメ、一半ヲ普通ニ招商承買セシメ、新株ノ得ヘキ餘利ハ舊株ニ比シ稍優異ナラシムベシ、其利

益ヲ如何ニ分配スベキカハ、應ニ新政府派員ト、股東ト會同協定ヲ俟ツベク、之レ股東等籌議大體ノ情形ナリ、伏ヲ査スルニ、大清銀行ヲ改メテ中國銀行ヲ設クルノ本旨ハ、一方面ハ手續ヲ費サズシテ、一完全鞏固ノ中央銀行ヲ成サシメントスルニアリ、一方面ハ商本ニ對シテ略ホ損失アラシメズ、藉テ以テ信用ヲ將來ニ維持セシメントスルガ爲ナリ、凡ソ未ダ改設ヲ經ザルノ前ハ、有ラユル債權債務ハ、舊帳トナシ、別ニ機關ヲ設ケテ、專ラ清理ニ任ゼシムベシ、凡ソ既ニ改設ヲ經タル以後ハ、有ラユル營業ハ務メテ、堅牢不拔ヲ求メ、根深蒂固、中央銀行ノ性質ニ合セシムベク、以後已ニ截然兩概、絲毫モ含混ヲ許サズ、庶幾ハクハ國ヲ利シ民ヲ利シ財政餘裕ヲ生ズルヲ得シカ、玆ニ謹テ辨法大綱數則ヲ擬定シテ錄呈ス。

大清銀行ハ舊曆十二月三十日ヲ以テ止メ、各行一律ニ營業ヲ停止シ、清理ヲ實行スベシ、有ラユル清理辨法大綱左ノ如シ。

一、別ニ清理機關ヲ設ケ、中國銀行內ニ附設シ、有ラユル簿據ハ均シク應ニ別ニ劃分界限ヲオクベシ。

二、各處民軍取ル處ノ、現欵賬款及生財等ハ、應ニ新政府ニ請ヒ數ニ照シテ、公債票ヲ發給シテ商艱ヲ救フベク、其取リ去レル簿據ハ、新政府ヨリ各省都督ニ電飭シテ、一律發還シテ清理ニ資セシムベシ。

三、舊鈔ノ收取ハ新政府應ニ保護ヲ擔任シテ、以テ商本ヲ重ンズベシ。

四、清理後若シ損失アレバ、應ニ滿清政府官股五百萬兩ヲ以テ消滅備抵スベシ。

五、本銀行商股五百萬兩ハ、一律ニ改メテ、中國銀行資本トナシ、期ヲ定メテ別ニ株式ヲ換給スベシ。

六、本銀行行產生財等ノ項ハ中國銀行接收應用スベシ。

中國銀行ハ舊曆壬子年正月一日ヨリ開辨ヲ實行スベク、其辨法大綱左ノ如シ。

一、本銀行ハ新政府ニ於テ承認シテ中央銀行トナシ、應ニ章程ヲ訂メ、財政總長ヨリ派員シテ、股東ト協同シテ商定セシムベシ。

二、本銀行ハ專ラ商股ヲ募集スベシ、惟開辨ノ時ハ、先ヅ新政府ヨリ公欵若干ヲ酌撥シテ協助シ、株式募集濟ヲマチテ即ヲ返還セシムベシ。

三、本銀行ハ舊曆十二月中、財政部批准ノ日ヨリ起リ籌辦期間トナシ、先ヅ財政總長ヨリ正副監督ヲ委任シ、大清銀行株主代表ト會同シテ一切ヲ籌辨スベシ。

尙大清銀行改組問題ノ爲、宣統四年十二月十日、株主總會ヲ開キ、朱虞生ヲ以テ臨時主席トナシ、

商股聯合會長何範之氏ヨリ、改組問題ヲ報告セルガ、其要ニ曰ク

本會成立以來辦事諸多棘手、各分行號民軍大清名義ヲ誤會セルニヨリ、帳款ヲ沒收セラレシモノ二十餘處、先ニ本會交際員、調査員ヲ各所ニ分駐セシメ、民軍ト直接交渉セシメシニ、鎭江ノ如キハ、誤會セラレテ、拘留セラルヽニ至リ、函電聲明シテ始メテ省釋ヲ得タリ、其他種々ノ困難言狀スベキナシ、各行號中福建一行ノ辦理ヲ以テ、最モ有効トナス、有ヲユル帳據等ノ件、既ニ發還シ、同時ニ北方聯合會、亦成立ヲ告ゲ、駐京理事監事會復朱理事ヲ公推セル亦奇ナリ、朱虞生滬ニ至リ、共同シテ本會事務ヲ贊助シ、兩月以來彼此協商、大清銀行ハ向ニ清國政府ノ承認セル、中央銀行ナリシヲ以テ、今臨時政府成立セル時ニアリテハ、應ニ株主永久ノ權利ヲ保守スルヲ第一要義トナス、仍テ先後往返會商セルニ、北方聯合會及理監事會均シク同情ヲ表セルニ、適々財政總長陳瀾生君、上海ニ至リ、協商妥洽、遂ニ本會ヨリ二件ヲ具呈シ、一ハ大總統ニ呈シ、一ハ財政總長ニ呈シ、並ニ上海ヨリ南京ニ赴キテ、大總統ニ謁見シ、大清銀行ノ歷史ヲ切陳シ、國外ニ對スル信用、草創經營スルモノヽ比ニアラザルヲ以テ、之レヲ改メテ中國銀行トナシ、原有ノ商股五百萬兩ヲ除クノ外、更ニ新股五百萬兩ヲ添募シ、新政府ニ繼續承認ァテ、中央銀行トナサシムルコトヲ請求シ、既ニ批准照辦ヲ奉ジ、並ニ委任ヲ奉ジテ、吳達詮、薛仙舟二君ヲ正副監督トナシ、本會ト會同シテ辦事細章ヲ商訂シ、期ヲ尅シテ開辦セントス、尤モ南京ヲ先トシ、本月中旬ヨリ、先ヅ交易ヲ開キ、滬行及各行號亦應ニ行名ヲ改換シ實力進行スベシ。大清銀行ニ至リテハ、應ニ貿易ヲ停止シ、別ニ清理機關ヲ設ケ、清理ヲ實行スベク、既ニ總行ニ電シテ、其宣布ヲ請ヘリ、其前ニ軍ノ欵據取去ノ各行號ハ、已ニ請フテ、大總統ヨリ各省都督ニ分電シテ、數ノ如ク生財ヲ發還セシムルコトヽシ。房產ノ前ニ佔據セルモノハ均シク應ニ遷讓シテ、中國銀行ノ收管ニ歸セシメテ、營業所トナシ、スベテノ添募ノ商股五百萬兩ハ、應ニ株式募集章程ヲ擬定シ、速ニ募集スベシ云々。

ト、衆之レニ贊シ、直ニ大清銀行ヲ改メテ、中國銀行トナスニ決シ、其營業全部ヲ繼承スベキコトヽナレリ、右決定ニ對シ民國元年一月二十四日ヲ以テ下セル大總統ノ許可指令次ノ如シ。

大總統ノ諭ヲ奉ズ、新政府既ニ、已ニ成立ス、凡テ商民已ニ舊政府ヨリ得タル正當ノ權利ハ自カラ宜ク分別シテ、繼續セシムベシ請フ所ノ大清銀行ヲ改メテ、中國銀行トナシ、商股五百萬兩ヲ添招シ、新政府ハ中央銀行トナシ、部ヨリ鉅款ヲ籌撥シテ、以テ財力ヲ雄ニシ、並ニ正副監督ヲ請派シテ、先ヅ開辦ヲ行ヒ、期ヲ尅シテ成立セシメ、凡テ新ニ營業ノ條款ハ、各省ニ分電シテ、都督ノ力メテ保護ヲ加ヘシメンコトヲ請ヒ、並ニ該行原有ノ財產器具簿據等ノ項ヲ、先ヅ發還ヲ致スノ各節ハ大ニ妥當ニ屬ス、著シテ則チ准行セシム、中央銀行約法及辦事招股等ノ項、細章ニ至リテハ、應ニ監督ニ於テ、股東會代表ト會同シテ商訂シ、本部ニ呈請シテ、核准ノ上分別參議院ニ送交シテ、議決セシメ、大總統ノ批准ヲ得テ、後再ビ飭知遵照ヲ行ハシムベシ。

中國銀行條例

民國創建ノ際匆卒ノ裡、大清銀行ヲ改稱シテ中國銀行トナシ、中央銀行ノ事ヲ行ハシメシガ民國二年ニ至リ、新ニ中國銀行條例ヲ制定シ、同年四月十六日ヲ以テ公布セリ、右新條例ニ於テハ、總資本額ヲ六千萬元トシ、內三千萬元ヲ政府ニ於テ引受ケ、殘半三千萬元ヲ民間ヨリ募集スルコトヽシ、更ニ政府ヨリ其引受額ノ三分ノ一、卽チ一千萬元ヲ交附スル時ハ、營業ヲ開始シ、同時ニ普通株ヲ募集スルコトヲ得ルコトヽセルモ、政府ガ果シテ一千萬元ヲ拂込メルヤ否ヤ、又舊株ハ如何ニ之ヲ處分シタルモノナルヤ不明ナリ、惟フニ條例ニ於テハ、斯クノ如ク決定シタルモ、事實ニ於テハ、舊來ノ儘ニシテ、營業ヲ繼續シ來リタルニアラザルカ、右條例次ノ如シ。

中國銀行則例　（民國二年四月十六日公布法律第六號）

第一條　中國銀行ハ株式有限公司トス

第二條　中國銀行資本ハ總額銀六千萬元トシ、分テ六十萬株トス、每株銀百元ニシテ政府先ツ三十萬株ヲ引受ケ殘額ハ人民ニ於テ購買ス、但シ人民ノ購買申込高ニシテ三十萬株以上ナルトキハ政府ハ情況ヲ酌量シ政府引受株ヲ期ヲ分チテ人民ニ拂下グル事ヲ得中國銀行ニ於テ資本增加ノ必要アルトキハ株主總會ノ決議及財政總長ノ認可ヲ經タル後之ヲ募集スルコトヲ得國幣發行後銀元ハ凡テ幣制則例ニ據リ換算シ、若シ端數ヲ生セル場合ハ更ニ株主ニ向テ之ヲ增徵遞還スヘシ

第三條　中國銀行ハ政府ヨリ其引受株ノ三分ノ一以上ヲ交附シタル場合ニハ營業ヲ開始シ同時ニ普通株ヲ募集ス株式募集章程ハ別ニ之ヲ定ム

第四條　中國銀行ハ中央政府所在地ニ本店ヲ設ケ各省城及ヒ商業繁盛ナル地方ニハ情況ヲ斟酌シテ支店或ハ出張所ヲ設ケ他銀行ト代理契約又ハ滙兌契約「コレスポンデンス」ヲ設ク但シ必ス財政總長ノ許可ヲ經ヘシ

政府ニ於テ重要地ト認メタル場合ニハ本店ニ謀リ出張所又ハ代理店ヲ增設セシムルコトヲ得

第五條　中國銀行株券ハ一切記名式トシ中華民國人民以外ノモノニ之ヲ賣買讓渡スルコトヲ得ス

第六條　營業年限ハ本店開業ノ月ヨリ起算シテ滿三十年トシ滿期ニ達シタル場合ニハ株主總會ノ議決ヲ經テ其期限ヲ延長スルコトヲ得

但シ財政總長ノ認可ヲ要ス

第七條　每年ノ營業純益金ノ十分ノ一以上ヲ以テ法定積立金トシ、該積立金ヲ控除シタル後ニ非スンハ利益配當ヲナスコトヲ得ス

前項ノ積立金及株主配當金ハ株主總會ノ議決ヲ經且ツ財政總長ニ具申シテ其認可ヲ經ヘシ

第八條　前項ノ法定積立金ノ用途ハ左ノ如シ

一、資本ノ損失ヲ塡補ス

二、株主配當金ノ平均ヲ維持ス

第九條　中國銀行營業ノ種類ハ左ノ如シ

一、國庫證券、確實ナル約束手形及爲替手形ノ割引及買入

二、爲替取組及約束手形ノ發行

三、地金銀及各國貨幣ノ賣買
四、預金及證券、證書其他貴重品類ノ保護預
五、取引銀行、會社、商店及個人ニ對スル代理取立
六、金銀貨及金銀ヲ擔保トスル貸付
七、公債證書、政府發行證券又ハ政府保證ノ各種證券ヲ擔保トスル定期又ハ當座勘定貸付、但其金額及利率ハ必ス總裁、副總裁、董事及監事ニ於テ隨時商議決定シ財政總長ノ認可ヲ經ヘシ
以上各種營業ノ制限及名詞ノ解釋ハ別ニ之ヲ定ム
第十條　中國銀行ハ公債證書ヲ賣買スルコトヲ得、但シ必ス財政總長ノ認可ヲ經ヘシ
第十一條　中國銀行ハ前二條ニ規定セル各種營業ヲ除キ左記ノ諸項及其他ノ各種事業ヲ經營スルコトヲ得ス
一、不動産及各種銀行會社ノ株券ヲ以テ借款ノ擔保トナスコト
二、本銀行株券ヲ買入レ又ハ本銀行ノ株券ヲ以テ借款ノ擔保トナスコト
三、營業上必要ナルモノ以外ニ不動産ヲ買入レ又ハ讓受クルコト
四、直接間接ニ各種商工業ヲ經營スルコト
第十二條　中國銀行ハ兌換券ヲ發行ス、但シ兌換券則例ニ準據スルヲ要ス
兌換券則例ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
前項法律施行以前ハ財政部規定ノ暫行章程ニ據リテ處辨スルコトヲ得
第十三條　中國銀行ハ政府ノ委託ヲ受ケテ國庫事務及ヒ公債ノ募集償還ヲ經理ス
第十四條　中國銀行ハ國家ニ代リテ國幣ヲ發行スルノ責ヲ有ス
第十五條　中國銀行ニハ總裁一人、副總裁一人、董事九人、監事五人ヲ設ク
第十六條　總裁、副總裁ハ簡任トシ董事、監事ハ株主總會ニ於テ選任ス

五十株以上ヲ有スル株主ニ非レハ董事又ハ監事タルコトヲ得ス

普通株ノ應募高一萬株ニ達セサル間ハ前規定ノ職員資格ハ之ヲ適用セス、董事監事ノ員數及選任ハ凡テ財政部部令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　總裁及副總裁ノ任期ハ五年トシ、董事ハ四年監事ハ三年トス、但シ再任又ハ再選スルコトヲ得

總裁及副總裁ハ其任期中ハ爲替銀行及ヒ幣制事宜ニ關スル以外他ノ職務ヲ兼任スルコトヲ得ス董事及監事ハ其任期中ハ他ノ銀行又ハ會社ノ職員ヲ兼任スルコトヲ得ス

第十八條　中國銀行ノ株主總會ハ左ノ二種ニ分ツ

一、通常總會

二、臨時總會

第十九條　通常總會ハ毎年一回本店所在地ニ於テ總裁ノ召集ニヨリ開會ス

第二十條　重要事件發生シ會議ノ必要ヲ認メタル場合ニハ總裁ハ臨時總會ヲ召集スルコトヲ得

第二十一條　董事或ハ監事ノ全部又ハ株主總會々員五十名以上ニシテ其持株カ全株數ノ百分ノ一以上ニ達スルモノヨリ重要事件ノタメ臨時總會ノ開催ヲ請求スル場合ニハ總裁ハ之ヲ召集スルコトヲ得

第二十二條　株主總會々員トシテ會議ニ出席シ得ル株主ハ開會六十日前ニ登記シ繼續シテ十株以上ヲ有スルモノニ限ル

第二十三條　株主總會々員ノ投票權ハ毎十株ニ付一票トシ百株以上ハ五十株ヲ增加スル毎ニ一票ヲ加フ

第二十四條　株主總會々員ニシテ事故ノ爲會議ニ出席シ能ハザル場合ニ委托セラルヘキ代理人ハ會員ヲ限トス一會員ノ代理投票權ハ十票ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十五條　本店支店出張所及代理店ノ報告スヘキ事件及書式ハ銀行ヨリ財政總長ニ具申シ別ニ詳細ナル規定ヲ設ク

第二十六條　財政總長ハ中國銀行一切ノ事務ニ對シ若シ本則例又ハ本銀行章程ニ違背シ或ハ政府ニ不利ナリト認ムル事件ハ凡テ之ヲ中止セシムルコトヲ得

第二十七條　財政總長ハ監理官一名ヲ派シ中國銀行一切ノ業務ヲ監視セシムルコトヲ得

第二十八條　中國銀行ハ本則例ノ主旨ニ則リ別ニ詳細ナル章程ヲ作リ株主總會ノ議決ヲ經タル後財政總長ニ呈請シテ認可ヲ經ヘシ、改訂增減ノ場合亦之ニ倣フ

第二十九條　本則例中株式ニ關スル規定ハ應募高一萬株ニ達シタルトキ其効力ヲ發生ス

第三十條　本則例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

中國銀行ノ資本額ニ就テハ、的確ノ材料ナキモ民國四年八月ニ至リ從來ノ資本額即チ政府撥交ノ一千萬元ニテハ營業ニ不充分ナリトシ、更ニ官股一千萬元ヲ拂込ミ且商股一千萬元ヲ募集スルコト、シ同年八月十六日ヲ以テ中國銀行商股招集章程ヲ公布シテ之ヲ募集スルコト、セリ、其章程次ノ如シ。

中國銀行普通株式募集規則

第一章　株式

第一條　中國銀行ハ中國銀行條例第一條ノ規定ニ準據シテ株式有限公司トナス

第二條　中國銀行ハ中國銀行條例第二條ノ規定ニ準據シテ株式總額ヲ六千萬圓トナシ、分ツテ六十萬株每一株銀一百圓トナス

第三條　中國銀行株金ハ政府ヨリ既ニ一千萬圓ヲ出資シ、更ニ次イテ一千萬圓ヲ出資スルコトニ決定シアルノ外、中國銀行條例第二條ノ規定ニ從ヒ普通株式ヲ募集スルモノトス、茲ニ先ツ十萬株計一千萬圓ヲ募集ス

第二章　株式申込及株券交付

第四條　凡テ株式ヲ所有スルモノハ皆中國銀行株主トナス

第五條　數人相集リテ一株式ヲ購フモノハ一人ノ名ヲ出シテ株主トナスヘシ

第六條　株式ヲ申込マントスルモノハ中國銀行本店及各支店或ハ中國銀行指定ノ各株式募集處ニ至リ申込ムヘシ

第七條　申込ノ際每株ニツキ證據金五圓ヲ拂込ムヘク、之レニ對シ銀行ヨリハ株式申込證ヲ交付ス、本證據金ハ株金拂込ノ際控除スル

モノトス

第八條　株式申込期限及株金拂込期限ハ中國銀行ニ於テ新聞紙上ニ廣告ス、其申込ミタル株金ハ一期ニ完納スヘク、其拂込翌日ヨリ利子ヲ附ス

第九條　凡ソ株式申込人ハ申込期間内ニ株金全部ヲ納入スルモノハ本年下半期全期ノ純利ノ配當ヲ受クルヲ得ヘク、本年十二月内ニ拂込ムモノハ本年下半期三ヶ月内ノ純利ノ配當ヲ受クルヲ得ヘシ

第十條　株金拂込ノ時ニ至リ株式申込人カ其期ヲ逾ユルモ尙拂込マサル時ハ銀行ハ他人ヲシテ之レヲ引受ケシムルヲ得、但シ此場合既ニ拂込ミタル證據金ハ之レヲ罰金ニ充テ之レヲ返還セス

第十一條　中國銀行株金ハ通用圓銀ヲ以テ拂込ムヘシ

第三章　株　券

第十二條　中國銀行株券ハ中國銀行條例第五條ノ規定ニ從ヒテ總テ記名式ヲ用ヒ、中華民國人民以外ハ賣買讓渡ノ權利ナシ

第十三條　中國銀行株券ハ一株券、五株券、十株券、五十株券、百株券ノ五種ニ分ツ

第十四條　株式申込人カ株金ノ拂込ミ終リタル時ハ銀行ハ其數ニ應シ株券ヲ交付ス

第十五條　株式ヲ若シ賣買讓渡シタル時ハ賣主又ハ讓渡人ハ株券裏面ニ記名調印スヘク且又買主又ハ讓受人ハ該株券ヲ銀行ニ送リテ改名登記ヲナシ、同時ニ買主又ハ讓受人ヨリ改名費毎株一角宛ヲ納入スヘシ

第十六條　若シ相續關係ニヨル場合ハ株券上ノ姓名ヲ改メ、承繼人ヨリ株券及證明書ヲ銀行ニ送リテ改名ノ登記ヲ受クヘク、尙改名毎株一角ヲ納入スヘシ

第十七條　（省略）

第十八條　株主ニシテ改名改店號等ヲ登記セントスルモノハ其印影ト共ニ株券ヲ銀行ニ送付スヘシ

第十九條　若シ株券ヲ紛失シタル時ハ、銀行ニ向ツテ新株券ノ交付ヲ請フコトヲ得、但二人以上ノ保證人ノ記名調印アリ、並ニ遺失人ニ於テ費用ヲ負擔シテ政府公報（官報）及其他ノ新聞紙上ニ廣告シ、四ヶ月ヲ俟ツテ尙發見セサル場合ニ於テ之レヲ補給スルモノニシ

テ、一面株劵遺失者ハ領收證チ銀行ニ交付シテ之レチ受取ルヘシ
新株劵交付チ請フモノハ毎株二角ノ料金チ納付スヘク、尙遺失シタル株劵カ新聞廣告期間内ニ發見シタル時ハ銀行ニ通告シテ株劵再發行願チ取消スト共ニ本條第一項ノ例ニヨリ公告スヘシ
第二十條　遺失株劵ニ對シ問題ヲ生シタル時ハ裁判所ノ判定チ俟チテ後之カ再交付ヲナスヘシ
第二十一條　株劵汚シ毀損汚染シ或ハ其背名ニ既ニ記名調印ノ餘白ナキニ至リタル時ハ、株主ハ新株劵ノ交付チ要求スルコトヲ得、但之レカ手數料毎枚二角ヲ納ムヘシ
第二十二條　株主ハ隨時銀行ニ請フテ株劵ノ種類チ變更スルコトチ得、但毎枚手數料二角ヲ納ムヘシ

第四章　純利配當ノ標準

第二十三條　毎年得ル所ノ純利ハ中國銀行條例第七條ノ規定ニ從ヒ總額中ヨリ先ツ十分ノ一以上チ控除シテ積立金トナシ其餘チ株式配當トナスヘシ
第二十四條　本行ノ株式配當ハ左ノ二種ニ分ツ
　甲、官有株　毎年四分ノ利子
　乙、普通株　毎年七分ノ利子
第二十五條　株主ノ得ル所ノ利益カ若シ年利四分或ハ七分ニ滿タサル時ハ積立金ノ中ヨリ引出シテ四分及七分ノ定率ニ充タシムルコトチ得
第二十六條　普通株ノ配當金不足ニシテ積立金ヲ用フルモ尙不足ナル時ハ官有株配當チ以テ之レニ充テ或ハ又政府ヨリ之レチ補給スルコトチ得
第二十七條　純利益金中積立金及配當チ控除シテ後若シ尙餘利アル時ハ特別積立金及株主ニ對スル純益配當金及各行員ノ賞與金ニ充ツヘク、其分配方法ハ株主會議ニ於テ議決ス但該賞與金ハ如何ニ多キモ餘利ノ百分ノ三十ヲ逾ユルヲ得ス
第二十八條　毎年ノ株式配當及純益配當ハ次年ノ株主總會後ニ於テ支拂フ

第五章　株主ノ義務及權利

第二十九條　株主ハ期限ニ從ヒ其申込ミタル株金ヲ拂込ムヘキ義務アリ

第三十條　株主ハ中國銀行條例及各項法律章程規則遵守ノ義務アリ

第三十一條　株主ハ株主總會ニ出席スルノ權利アリ、但シ中國銀行條例第二十二條ノ規程ニヨリ、株主ハ其開會六十日前ニ登記シ、繼續シテ十株以上ヲ有スルモノニアラサレハ株主會議ニ出席スル能ハス

第三十二條　株主ハ董事監事ノ選擧權、及董事、監事ノ被選擧權アリ、但シ中國銀行條例第十六條ノ規定ニ照シ董事監事ノ被選擧權ハ一百株以上ヲ有スル株主ヲ以テ限トス

第三十三條　株主ハ純利分配方法議決ノ權利アリ

第六章　董事監事ノ資格及員數

第三十四條　董事監事ハ應ニ株主中株式一百株以上ヲ有スルモノヨリ選任スヘシ、但政府ノ選任スル董事監事ハ此限ニアラス

第三十五條　董事監事ハ年齡三十五歲以上ニシテ財政或ハ商業ノ智識及經驗ヲ有スルモノタルヘシ

第三十六條　董事監事ハ品行端正ニシテ聲望アルモノタルヘシ

第三十七條　董事ノ員數ハ中國銀行條例第十五條ノ規定ニ從ヒ九人トシ內政府ヨリ選任スルモノ六人與通株主ヨリ選任スル者三人トス

第三十八條　監事ノ員數ハ中國銀行條例第十五條ノ規定ニ照ラシ五人トシ、內政府ヨリ選任スルモノ三人普通株主ヨリ選任スルモノ二人トス

第三十九條　普通株一千萬元ノ募集ノ終レル時ハ董事監事ノ選擧ヲ行フ

第四十條　普通株主ノ董事監事ハ株主ニ於テ定員數ニ照ラシテ董事監事共ニ三倍ヲ推擧シ其氏名ヲ財政總長ニ送呈シ董事三人監事二人ヲ覆選シテ以テ中國銀行ノ董事監事トナス

第四十一條　政府ノ董事監事ハ應ニ政府ニ於テ定員數ニ照シ董事監事共ニ三倍ヲ選任シ株主總會ニ於テ此內ヨリ董事六人監事三人ヲ選擧シテ以テ中國銀行ノ董事監事トナス

第七章　董事會ノ組織及權限

第四十二條　董事會議ハ總裁ヲ議長トナシ副總裁ヲ副議長トナシ政府選任及株主選擧ノ董事ヲ以テ議員トナス

第四十三條　董事會議ハ總裁之レヲ召集シ、議員半數ノ出席ナケレハ正式會議ヲ開クヲ得ス出席議員ノ數ニ從ヒ多數ヲ以テ決ヲ採リ若シ同數ナル時ハ議長ハ一權ヲ加ヘテ之レヲ議ス

第四十四條　凡テ每年ノ決算報告ハ董事會ト監事會ト會同覆審ノ後之レヲ決定ス

第四十五條　凡ソ董事會ニ提出スル議案ハ先ツ總裁ニ於テ決定付議ス

第八章　監事會ノ組織及職權

第四十六條　監事會議ハ政府選任及株主選出ノ監事ヲ以テ議員トナス

第四十七條　監事會議長ハ監事中ヨリ一人ヲ互選シテ之レニ充ツ

第四十八條　監事會ハ每月一回宛開會シ、出席議員半數ニ達セサル時ハ正式會議ヲナスコト能ハス

第四十九條　本行ノ年末決算表ハ監事會ト董事會ト合同ノ上覆審決定ス

第五十條　本行ノ一切ノ帳簿證劵及在庫金ハ監事ニ於テ株主ノ委託ヲ受ケテ檢査スルコトヲ得

第九章　株主總會手續及職權

第五十一條　株主總會ハ中國銀行條例第十八條ノ規定ニヨリテ分チテ左ノ二種トス

甲、通常株主總會

乙、臨時株主總會

第五十二條　通常株主總會ハ中國銀行條例第十九條ノ規定ニ從ヒ每年本店所在地ニ於テ一回宛開會スヘク總裁之レヲ召集ス

第五十三條　臨時株主總會ハ中國銀行條例第二十條及二十一條ノ規定ニ從ヒ總裁ニ於テ重要事件ニシテ必ス株主總會ヲ必要ナリト認メタル時及董事或ハ監事全體或ハ株主總會々員五十人以上並ニ株式全額ノ百分ノ十以上ヲ占ムルモノヨリ重要事件ニ因ツテ會議ヲ請求シタル場合ニ總裁之レヲ召集ス

第五十四條　株主ノ株主總會ニ出席スルノ資格アルモノハ會期前ニ於テ株券ヲ持參シテ本店或ハ附近ノ支店ニ至リ參會證ヲ受領シ並ニ開會數日前ニ參會證ヲ持參シテ本店ニ至リ入場證及本期議題及報告ヲ受取リタルモノニ限ル

第五十五條　株主總會々員事故ニヨリ出席スル能ハサル時ハ中國銀行條例第二十四條ノ規定ニ從ヒ會員中ニ於テ代理人ヲ委託スルコトヲ得、但シ毎會員ノ代理投票ハ多クモ十票ヲ超過スルヲ得ス

第五十六條　株主總會々員ノ投票權ハ中國銀行條例第二十三條ノ規定ニ從ヒ毎回十株ニツキ一投票權アリ百株以上ハ三十株毎ニ一權ヲ增スモノトス

第五十七條　毎年純利分配方法ハ通常株主會議ニ於テ議決辦理スヘシ

第五十八條　董事監事ハ通常株主總會ニ於テ選舉スヘシ

第五十九條　年末決算報告ノ董事監事會ノ認可ヲ經タルモノハ株主總會ノ議決ヲ經ヘシ

第六十條　若シ董事監事ニ不正ノ事アリ、或ハ事務ニ不熱心ナルモノアル時ハ株主總會ヨリ意見書ヲ提出シテ總裁ニ送リ、更ニ財政部ニ轉達シ其許可ヲ請ヒ、第八章第三十九條第四十條ニ從ツテ別ニ選舉ヲ行フコトヲ得

第六十一條　本行ノ特別重要事件ニ關シテハ臨時株主總會ヲ開キ其議決ヲ經ヘシ

第六十二條　普通株一千萬圓ヲ募集シ終リタル時ハ直ニ第一回株主總會ヲ開クヘシ

第十章　附則

第六十三條　凡ソ本章程中未タ備ハラサル點ハ本銀行條例及本銀行ヨリ財政部ニ稟請ノ上決定スヘキ單行細則ニ準據ス

第六十四條　本章程中改訂スヘキ點アル時ハ財政部ノ許可ヲ得テ後實行スヘシ

第六十五條　本章程ハ財政部ヨリ大總統ニ呈明シ其認可ヲ得テ後公布施行ス

而シテ右增資ノ計畫ハ時ノ財政總長周學熙ガコレニヨリテ新ニ紙幣ヲ增發シテ歲計ノ不足ヲ補フヲ以テ第一ノ目的トナシ、廣東派交通系ノ勢力下ニアル交通銀行ノ對抗ニテ安徽派ノ勢力擴張ノ具ニ供

セントスルヲ以テ第二ノ目的トナシタルモノナリト傳ヘラレタリ。

尙同年八月二十一日附ヲ以テ、大總統ノ批准ヲ得タル、增資ニ關スル財政總長周學熙ノ呈文要領左ノ如シ。

中國銀行ノ詳稱ニ據ルニ、本行ノ資本總額ハ一千萬元ト定メラレ、前ニ政府ヨリ一千萬元ヲ撥交シテ開辨ノ需ニ充テタリ、現在營業速カニ擴張ヲ要スルニ付、更ニ官股一千萬元ヲ增撥シ、商股一千萬元ヲ添招シテ、資本三千萬元トナサントス、カクセバ庶クハ以テ銀行ノ信用ヲ鞏固ニシ、運用マサニ能ク靈敏ナラン、商股招集章程ハ、已ニ認可ヲ申請スル處アリシガ、資本一千萬元ノ增撥ニ就テハ應ニ專款ヲ指定シテ、星明撥交セラレン事ヲ請フ、實ニ銀行金融ノ前途ニ於テ裨益淺カラズ云々トアリ、査スルニ中國銀行ガ請フ所ハ、政治堂特別會議案ニ根據シテ辨理スヘキモノニ係リ、茲ニ査スルニ、官產收入ノ一項ハ中央ノ直接增籌スル額ニシテ收數約二千萬元ノ見込ナリ、依リテ該項下ヨリ指定シ、一千萬元ヲ撥交シテ、中國銀行ノ官股ニ充テンコトヲ請フ

更ニ其後民國六年十一月二十一日ヲ以テ、該銀行則例中ニ修正ヲ加ヘタリ、卽チ左ノ如シ、右ハ中國銀行ヨリ資本額ノ多キニ過グルコト、及政府株式ノ未拂込ノ多キコト等ヲ擧ゲテ、其改正ヲ提議シタル結果ニシテ、右中國銀行提議ニ基キ、財政部ヨリ其改正ヲ大總統ニ求メ、遂ニ改正ヲ見ルニ至リシモノナリ。

修正中國銀行則例各條

第二條　中國銀行ノ資本總額ハ、定メテ銀圓六千萬圓ト爲シ、凡テ六十萬株ニ分チ、毎株銀一百圓トシ、先ツ一千萬圓計十萬株ヲ招ノ、政府ハ酌量シテ認購シ、以テ提倡ヲ資クルヲ得

中國銀行ハ、若シ資本ヲ招集スル必要アル時ハ、株主總會ヨリ議決シ、財政總長ノ核准ヲ經タル後再ヒ添招ヲ行フヲ得

第三條　（削除）

第十六條　董事、監事ハ株主總會ヨリ選任シ、總裁、副總裁ハ董事中ヨリ簡任シ、一百株以上ヲ有スル株主ニ非サレハ、董事及監事ニ充ツルヲ得ス

第十七條　總裁、副總裁ノ任期ハ董事ノ任期ヲ以テ限ト爲ス、董事ハ四年ヲ以テ一任トナシ、監事ハ三年ヲ以テ一任ト爲ス、但シ連任スルコトヲ得、總裁、副總裁ハ任期内ニ滙業(爲替)銀行及ヒ幣制事宜ヲ除ク外他項ノ職務ヲ兼ヌルコトヲ得ス(十一月二十一日公布)

然ルニ其後民國七年ニ至リ、更ニ中國銀行章程ヲ制定シ、一月二十日ヲ以テ公布セリ、コレ則例ノ細則ト見ルベキモノニシテ、次ニ財政總長王克敏ノ右ニ關スル呈文並ニ該章程ヲ記スベシ。

王總長呈文

中國銀行詳細章程ヲ轉呈シ、暫ク備案ヲ行フヲ准サレンコトヲ請ヒ、恭呈シテ仰イテ鈞鑒ヲ祈ルノ事ヲナス

中國銀行ノ呈ニ據レバ、竊ニ本行此次ノ修改則例ハ、業ニ大部ノ呈ヲ蒙リ、大總統ノ教令ヲ奉シ、公布シテ案ニ在リ、惟ダ考ルニ各國中央銀行ハ、則例ノ外ニ於テ、別ニ詳細章程ヲ訂メ、以テ遵守ニ資セザル莫シ、本行ハ前ニ民國四年九月ニ於テ、曾テ株式募集章程ノ擬具ヲ經テ、詳シク大部ノ呈ヲ蒙リ、大總統ノ批准ヲ奉シテ案ニ在リ、現ニ査スルニ該項章程ノ規定各節ハ、此次修正ノ則例ト牴觸ナカラズ、而シテ一ヲ挈ケ萬ヲ漏ラシ、又以テ久遠ニ垂ルヽニ足ラザレバ、茲ニ特ニ中國銀行章程凡ソ六十九條ヲ擬具シ、理トシテ合ニ大部ニ鑒覈シ、伏シテ大總統ニ轉呈シ、覈准施行サレンコトヲ呈稱シ、並ニ詳細章程六十九條ヲ擬具シ部ニ到ル、査スルニ該行ノ株式募集章程ハ、民國四年九月ニ於テ本部ヨリ呈シ、批准ヲ奉シテ案ニ在ルニ係ル、茲ニ既ニ呈ニ據レバ、該項株式募集章程ハ、此次ノ修正則例トハ牴觸ナカラズ

該行ハ現ニ詳細章程ヲ擬ス、自ラ應ニ暫ク案ニ備ヘ、以テ遵守ニ資セラレンコトヲ請フベシ、該行ニ令シ株式募集章程ヲ將ツテ、悉ク修正ヲ行ヒ、別案ニテ呈覈セシムルヲ除ク外、所有ル轉呈セル中國銀行詳細章程ノ暫ク案ニ備フルヲ准サレンコトヲ請フ、緣由ノ當ナルト否トハ理トシテ合ニ大總統ニ鈞覈シテ、訓示施行セラレンコトヲ呈請ス、謹ンデ呈ス

中國銀行章程

第一章　總則

第一條　中國銀行ハ株式有限公司トナシ株主カ負フ所ノ責任ハ所出ノ株金ヲ以テ限リトス

第二條　中國銀行ハ本店ヲ中央政府所在地ニ設ケ各省會及ヒ交通繁盛ナル地方ニハ情形ヲ斟酌シ董事會ノ議ヲ經テ支店出張所ヲ設ケ或ハ他銀行ト代理契約或ハ爲替契約ヲ訂結スルコトヲ得、但シ必ス財政總長ノ許可ヲ經ルヲ要ス

前條各行號設置點カ移轉ノ必要アル時ハ銀行ノ行務總會ノ議決ヲ經テ實行シ財政總長ニ報告スヘシ

第三條　政府ハ重要ナリト認メタル地域ニハ銀行ヲシテ分行號或ハ代理店ヲ增設セシムルコトヲ得

第四條　中國銀行ノ營業年限ハ則例第五條ニ遵據シ本店開業ノ日タル民國元年八月一日ヨリ起算シテ三十年ヲ滿期トシ年限滿チタル時ハ株主總會ノ決議ニ依リ更ニ延期スルコトヲ得、但シ須ク財政總長ノ許可ヲ經ヘシ

第二章　資本金及株式

第五條　中國銀行株金總額ハ銀元六千萬元ト定メ之ヲ六十萬株ニ分チ一株一百元トシ最初一千萬元(十萬株)ヲ募集ス、政府ハ酌量シテ其株ヲ購買シ以テ提供ニ資スルコトヲ得

中國銀行若シ株金ヲ募集スルノ必要アル時ハ株主總會ノ議決ニヨリ財政總長ノ許可ヲ經タル後再ヒ追加募集スルコトヲ得、政府株式ハ隨時人民ニ賣渡スコトヲ得

第六條　中國銀行株券ハ中國銀行則例第四條ノ規定ニ準據シ記名式ヲ用ヒ中華民國人民以外ノ者ハ賣買轉讓ノ權利ナキモノトス

第七條　中國銀行ノ株主ハ中國銀行則例章程及株主總會ノ決議ニ對シテハ均シク遵守スヘシ

第八條　數人合同シテ一株ヲ買フ者ハ一人ノ名ヲ出シテ株主トナスヘシ

第九條　中國銀行株券ヲ一株、五株、十株、五十株、百株ノ五種ニ分チ株主ハ隨時銀行ニ請ヒ株券ノ種類ヲ變更スルコトヲ得、但シ株券變更費トシテ一枚ニ付銀二角ヲ納ムルヲ要ス

第十條　株券若シ賣買讓與等ノコトアリタル時ハ株主或ハ讓主ハ株券ノ裏面ニ記名捺印シ並ニ買主或ハ受主ヨリ其株券ヲ銀行ニ送リ改名ヲ登錄シ同時ニ買主或ハ受主ヨリ改名費一枚ニ付銀一角ヲ納ムヘシ

第十一條　繼承關係ニヨリ株券上ノ姓名ヲ改メサル可カラサル時ハ繼承人ヨリ株券並ニ證明書ヲ附シテ銀行ニ送リ改名ノ登錄ヲナスヘシ、但シ改名費一枚ニ付一角ヲ納ムルヲ要ス

第十二條　株主ハ署名或ハ印章樣式及住所ヲ銀行ノ備フル所ノ用紙ニ依リテ記名捺印ノ上銀行ニ送附スヘシ若シ變更アラハ隨時銀行ニ向テ變更スヘシ

第十三條　株主カ株券上ノ原ヨリアリタル姓名ヲ變更セント欲スル時ハ銀行ニ向テ商酌辨理スルコトヲ得、但シ株券並ニ證明書ヲ添附シテ銀行ニ送リ改名ヲ登錄シ並ニ改名費一枚ニ付銀一角ヲ納ムルヲ要ス、其署名或ハ印章樣式並ニ住所ノ記入等ハ仍ホ前條ニ照シテ辨理ス

第十四條　若シ株券ヲ遺失シ銀行ニ向ツテ補給ヲ請求スルモノハ請求書並ニ二人以上ノ保證人署名捺印ノ上銀行ニ送リ遺失ノ聲明ヲ請ハサルヘカラス而シテ遺失人ノ費用ヲ以テ政府ノ公報及本行指定ノ新聞紙ニ遺失聲明ノ廣告ヲナスヘシ、四ケ月ヲ俟ツテ仍ホ發見セサル時甫メテ之ヲ補給ス、株券ノ補給ヲ請フモノハ補給費毎張銀二角ヲ納ムヘシ、若シ遺失ノ株券カ前記四ケ月ノ期限内ニ發見セル時ハ銀行ニ通告シ補給ノ請求ヲ取消シ同時ニ前項ニ照シテ聲明廣告ヲナスヘシ

第十五條　株券補給請求ノ事項ニ關シテ紛糾アリタル時ハ裁判ノ解決シタル後ヲ俟ツテ補給ス

第十六條　株券若シ毀損汚染或ハ其背面已ニ署名捺印ノ餘地ナキ時ハ株主ヨリ株券ノ交換ヲ請求スルコトヲ得、但シ換票費毎張銀二角ヲ納メサルヘカラス

株券ノ字跡模糊トシテ判明ナラス爲ニ株主權利ニ障礙ヲ與フルモノアル時ハ銀行ニ向ツテ株券ノ取換ヲ請求スルコトヲ得、但シ須ク第十四條ニ照シテ辨理スヘシ

第三章　銀行ノ營業

第十七條　中國銀行ノ營業種類左ノ如シ

一、國庫證券、確日期拂商業手形及爲替ノ割引或ハ買入
二、爲替ノ辨理及期拂手形ノ發行
三、生金銀及各國貨幣ノ賣買
四、各種預金ノ取扱並ニ證券及其他一切貴重物件ノ代理保管
五、取扱銀行、會社、商店及ヒ箇人ノ各種票據款項ノ代理收取
六、金銀貨及生金銀ヲ以テスル抵當貸付
七、公債證書或ハ政府發行證券或ハ政府保證ノ證券ヲ以テ擔保ト爲ス定期或ハ當座貸付、但シ其金額ノ制限及利率ハ總裁、副總裁、董事、監事等カ行務總會ヲ開キ隨時議決ヲ經並ニ財政總長ノ許可ヲ經サルヘカラス

第十八條　中國銀行ハ公債證券ヲ賣買スルコトヲ得但シ董事會ノ決議及財政總長ノ許可ヲ經ルヲ要ス

第十九條　中國銀行ハ前二ケ條ニ掲載セル各種營業ヲ除ク外左記諸項及其他各種事業ヲ經營スルコトヲ得ス
一、不動産及各種銀行或ハ會社ノ株券ヲ貸付ノ抵當品トシテ取ルコト
二、本銀行株券ノ買收並ニ本銀行株券ヲ以テ貸付ノ抵當品トナスコト
三、營業上ニ關シテ必要ナル不動産以外ニ不動産ヲ買入レ或ハ承受スルコト
四、各種商工業ヲ直接間接ニ經營スルコト

第二十條　前項ノ制限ハ第二、第三、第四項ハ絕對ニ遵守セサルヘカラサレトモ第一項ハ若シ特別ノ事情ニヨリ董事會ノ決議ヲ經テ不動産及株券、證券等カ確實ノ價値アリト認メタルモノハ仍ホ短期貸付或ハ短期々拂手形割引ノ擔保品トナスコトヲ得

第二十一條　若シ銀行貸付カ期ニ到リ本人或ハ保證人カ償還ノ力ナク且相當動産ノ抵當トナスヘキモノナキ時ハ銀行ハ本銀行株券或ハ不動産ヲ債務償還ノ抵當ニ取ルコトヲ得、但シ收受ノ後一年以內ニ賣出スヘシ、若シ買手ナキカ或ハ董事會カ價格引合ハスト認メタル時ハ時日ヲ延期スルコトヲ得ヘシ

第二十二條　中國銀行ハ政府ノ委託ヲ受ケ國庫及公債ノ募集或ハ償還事務ヲ經理ス

第二十三條　中國銀行本店出張所ハ本支金庫ノ款項或ハ抵當貸付ノ數目及擔保品ニ對シテハ須ク董事會ノ決議ヲ經サルヘカラス

第二十四條　中國銀行ハ兌換券ヲ發行ス但シ兌換券則例ヲ遵守スルヲ要ス、兌換券則例ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

前項法律ノ未タ施行セラレサル以前ハ財政部規定ノ暫行章程ニ遵據シテ辨理ス

第四章　行員ノ組織

第二十五條　中國銀行ニハ總裁一人、副總裁一人、董事九人、監事五人ヲ設ク

第二十六條　董事監事ハ株主總會ヨリ選任シ、總裁副總裁ハ董事中ヨリ簡任ス

株主總會カ董事ヲ選任スル時ハ定員九人ノ外ニ候補董事二人ヲ豫選シ董事中ヨリ總裁副總裁ヲ簡任シタル後右候補二人ヲ董事トシ以テ定數ニ達セシム

董事ハ總裁副總裁ニ任シタル後モ其株主總會ヨリ選任ノ董事資格ハ依然トシテ存在ス

第二十七條　總裁副總裁董事ハ四年ヲ以テ一任期トシ監事ハ三年ヲ以テ一任期トス、但シ均シク重任スルコトヲ得

董事監事ハ本章程ニ規定セル各權限以外ニ其他行務ヲ兼任スルヲ得ス、而シテ特別ノ事情アリ總裁副總裁カ董事ニ委任シ暫ク兼理セシムルトキハ此限ニアラス

總裁副總裁ハ董事ニ委任シ行務ヲ兼理セシムルトキハ須ク理由並ニ兼理期限ノ豫定ヲ財政部ニ報告セサルヘカラス

第二十八條　董事監事ノ俸給ハ財政部ヨリ之ヲ定メ總裁副總裁ノ俸給及交際費ハ董事會ノ決議ヲ經財政部ノ許可ヲ請フ

第二十九條　董事ノ任期滿チ改選ヲ行ハントスル時ハ株主總會ヨリ抽籤法ヲ以テ半數ヲ留任シ其餘ヲ改選ス

第三十條　董事カ若シ事故ニヨリ缺員アリ補缺選擧ヲ行ハントスル時ハ當選者ノ任期ハ前任者ノ任期ヲ繼續スルヲ以テ限リトナス董事監事ニ缺員ヲ生シ若シ董事尚七人以上アリ監事尚三人以上アリ董監事會ニ於テ必要ナシト認メタル時ハ補缺選擧ヲ延期スルモ可ナリ

董事ハ總裁副總裁ニ任セラレタル時ハ缺員トナサス

第三十一條　董事監事ハ株主中一百株以上ノ株ヲ有スル者ヲ以テ合格ノ資格アルモノトス

第三十二條　董事監事ハ品行方正ニシテ營業アリ兼ネテ財政商業ノ經營智識アルヲ要ス凡ソ曾テ公權ノ掠奪及破産宣告ノ處分ヲ受ケタ

ル者ハ均シク選任セラルヽヲ得ス

第三十三條　董事ハ選ハレタル後章程ニ定メラレタル被選合格ノ株券數ヲ監事ニ引渡シ監事之ヲ保管シ改選ノ後須ク前年度ノ營業決算報告ヲ作製スルヲ俟テ該株券ヲ返還スルヲ要ス

第三十四條　董事監事ノ選擧ハ記名連記法ヲ用ヒ出席會員投票權ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ合格トナス、若シ過半數ヲ得ル能ハサリシ時ハ投票ノ最モ多キ者ニ就キ選擧定員數ノ二倍ノ内ヨリ之ヲ決選シ得票同數ナル者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第五章　總裁、副總裁

第三十五條　總裁副總裁ハ董事會、行務總會、株主總會ノ會長副會長タリ並ニ左記事件ヲ執行ス

一、各項議決事件

二、全行事務ニ注意シ並ニ中國銀行則例及各項ノ規定ヲ遵守スル上ニ注意スルコト

三、全行ノ名義ヲ代表シ行務ヲ主持ス

第三十六條　總裁副總裁カ董事會ノ決議ヲ不適當ナリト認メタル時ハ行務總會ヲ開キ意見ヲ徵スルコトヲ得

第三十七條　副總裁ハ總裁ヲ協助シ行務ヲ綜理シ總裁事故アル時ハ副總裁之ヲ代理ス

第六章　董事會

第三十八條　董事會ノ議スヘキ事件左ノ如シ

一、年度末營業決算報告ノ審覈

二、本支店出張所ノ設立或ハ撤廢及設立地點ノ變更

三、總分行號（本支店出張所代理店）ノ細則ノ規定

四、營業用地、家屋ノ租借、建築或ハ賣買

五、株主會ノ召集

六、對外重要契約ノ訂立

七、各部分ノ爭議ヲ採決スルコト

第三十九條　董事會議ハ總裁ヨリ召集シ出席董事ノ多數ヲ以テ決ヲ取リ可否同數ナル時ハ會長之ヲ決シ若シ出席ノ董事半數以上ニ及ハサル時ハ決議スルヲ得ス

董事會議ノ議事錄ハ會長之ニ署名捺印スヘシ

凡ソ董事本身ニ涉ルノ議案ニ關シテハ該董事ハ議決權ヲ有セス

第七章　監事會

第四十條　監事會ノ職務左ノ如シ

一、董事ヨリ交付セル株券ノ保管、總裁副總裁及董事等ノ執行事件ノ是否ヲ查察シ規則及株主會議ノ議決ヲ遵守スルコト

二、年度末決算報告ノ審查

三、營業ノ進行及財產ノ狀況ヲ調查シ必要ニ遇ヘル時ハ董事會ニ意見ヲ陳述スルコトヲ得

四、銀行業務ヲ監視シ並ニ一切ノ帳簿ト證券及庫款ヲ檢查スルコト

第四十一條　監事會ノ議長ハ監事中ヨリ一人ヲ互選シテ之レニ充ツ

第四十二條　監事會議ハ監事會ノ議長之ヲ召集シ其會議手續ハ第三十九條ニ遵照シテ辦理ス

第八章　行務總會

第四十三條　總裁副總裁董事監事ノ聯合會議ヲ稱シテ行務總會トナス

第四十四條　行務總會ノ會議範圍左ノ如シ

一、株主純益及行員獎勵金分配案

二、董事會カ裁決シ能ハサルノ權限爭議

三、本行詳細章程ニアル各項規定ノ審覈、

四、本章程第二條第二項ノ事件

五、董事會監事會ノ範圍以内ニ屬セサル事件

第四十五條　行務總會ハ總裁之ヲ召集シ多數ニ從テ決ヲ取リ可否同數ナル時ハ會長之ヲ決ス但シ董事監事ノ出席半數以上ニ達セサル時ハ決議スルヲ得ス、其議事錄ハ會長之ニ捺印スヘシ

第九章　株主總會

第四十六條　株主總會ハ中國銀行則例第十七條ノ規定ニ依リ分チテ左ノ兩種トス

通常株主總會　臨時株主總會

第四十七條　通常株主總會ハ中國銀行則例第十八條ノ規定ニ依リ毎年本店所在地ニ於テ一回開會シ總裁ヨリ之ヲ召集スヘシ

第四十八條　臨時株主總會ハ中國銀行則例第十九條ノ規定ニ準據シ總裁カ重要事件ニシテ會議ノ必要アリト認メタル時及董事或ハ監事全體或ハ株主總會會員ノ資格ヲ有スルモノ五十人以上並ニ株式全額ノ百分ノ十以上ヲ占有スル者カ重要事件ニヨリ會議ヲ請求シタル時ハ總裁之ヲ召集ス

第四十九條　株主總會召集地點ヲ株主ニ通知シタル後若シ已ムヲ得サル事故ニヨリ地點ヲ變更セサルヘカラサル必要アリタル時ハ最モ適當ノ方法ヲ用キテ速カニ株主ニ通知スヘシ

第五十條　株主ハ須ク開會ノ日ヨリ起算シテ六十日以前ニ登錄セサル可カラス繼續シテ十株以上ヲ有スル者ハ始メテ會員資格アリ會議ニ列席スルコトヲ得

第五十一條　株主ノ株主總會ニ出席スルノ資格ヲ有スル者ハ會期前ニ株券ヲ本店或ハ近クノ支店ニ持參シ出席承認證ヲ受取リ本店ニ至リ之ト引換ヘニ入場券及本期議題及報告ヲ受取ルヘシ

第五十二條　株主總會ノ會員ハ事故アリ出席シ能ハサル時ハ中國銀行則例第二十三條ノ規定ニ遵據シ委任狀ニ署名捺印シ本會員中ニ代理ヲ委託スヘシ但シ毎會員ノ代理投票權ハ多キモ十票ヲ超過スルヲ得ス

公司ノ商號及公共機關等ノ本銀行株主タル者ハ該公司商店及公共機關ヨリ相當證明書ヲ具シ經理或ハ代表人ヲ派遣シテ總會ニ出席シ株主ノ權利ヲ行使セシムヘシ

但シ之亦前項ニ照シテ他會員ニ代理チ委托スルコトヲ得
會員中若シ婦女未成年ノ男子ニ係リ或ハ精神病アル者ハ本條第一項ニ照シテ代理チ委托スヘシ
百株以上ノ株主ニシテ堂記等ノ字ヲ以テ戶名トナスモノハ開會ノ日ヨリ起算シテ六十日以前ニ銀行ニ向ツテ姓氏名號チ聲明スルニ非サレハ董事監事ニ當選スルコトチ得ス
堂記戶名ノ株主ニシテ株主總會ノ會員タル者ハ出席承認證チ領收スル時其株劵所有權ニ對シ先ツ相當ノ證明チナサヽル可ラス
第五十三條　株主總會會員ノ投票權ハ中國銀行則例第二十二條ノ規定ニ遵據シ十株毎ニ一權チ有シ百株以上ハ三十株毎ニ一權ヲ遞增ス
凡テ會員ノ投票ハ毎一員一票ヲ以テ限リトス其應ニ得ヘキ權數ハ均シク分割シテ一票ノ內ニ記明ス
株主總會ノ議決事件ハ其表決方法ハ會長ニ於テ臨時之ヲ定ムルコトヲ得
第五十四條　株主總會ハ通常或ハ臨時チ論セス須ク三十日前ニ新聞ニ廣告シテ各株主ニ通知シ並ニ書信チ以テ其時日及議題ヲ各株主ニ通知スルヲ要ス
若シ緊急ノ事件アレハ改メテ十五日前ニ各株主ニ通知スルコトヲ得
第五十五條　株主カ株主總會ノ議決事件ニ對シ異議アリ及ヒ未タ曾テ出席セサルモノ並ニ未タ通知ニ接セサル等ノ事情アルト雖仍ホ一律ニ遵守スヘシ
第五十六條　株主總會ノ付議事件ハ通知書ニ明記シタル議題ヲ以テ限リトナス、但シ董事會及監事會ハ事情ニ因リ議題ヲ隨時取リ消シ並ニ別ニ提出スルコトチ得
會員中若シ意見アリ議題ニ上セントスル者ハ開會十日前ニ意見書ヲ會員十人以上ノ連署チ以テ董事會ニ提出シ董事會ニ於テ必要ナリト認メタルモノハ之チ議題トナシ株主總會ニ提出ス董事會カ重要事件アリト認メタル時ハ臨時ニ議題チ株主總會ニ提出スルコトチ得
第五十七條　株主總會ノ開會ハ會員人數五分ノ一以上アリ株數半數以上チ占ムル出席者アルニ非サレハ開會スルヲ得ス、本章程ノ改修ニ關スル時ハ會員人數半數以上アリ株數五分ノ三以上チ占メテ方ニ能ク開會スルヲ要ス
第五十八條　株主總會議決事件ハ出席株主議決權ノ過半數チ以テ有效トナス、本章程改修ニ關スルモノナル時ハ出席株主投票權三分ノ

二以上ノ同意アルニ非サレハ決議スル能ハス

第五十九條　總裁副總裁董事監事カ行務ニ對シ舞弊情事アリ或ハ職務怠慢ノコトアリタル時ハ株主總會ハ出席株主議決權過半數ノ決議ヲ以テ別ニ選擧ヲ行フヲ得ルト同時ニ法律ニ按照シテ之ヲ追訴スルコトヲ得

第六十條　株主總會ノ決議案ハ會長之ニ署名捺印ス

第十章　決算及純利ノ分配

第六十一條　每年決算期間ヲ分チテ兩期トナシ一月ヨリ六月ニ至ル迄ヲ前期トナシ七月ヨリ十二月ニ至ル迄ヲ後期トナス、全年決算報告ハ每年通常株主總會ニ提出シテ議決シ財政總長ノ認可ヲ經タル後卽チ公布スヘシ

第六十二條　每年所得利益ハ中國銀行則例第六條ノ規定ニ遵據シ總額中ヨリ先ツ十分ノ一以上ヲ控除シテ公積金ニ當テタル後更ニ株主ニ之ヲ配當ス

第六十三條　本行株利ヲ分チテ左記ノ二種トス

甲、官株每年四厘　　乙、商株每年七厘

第六十四條　株主所得株利カ若シ年利四厘或ハ七厘ニ滿タサル時ハ公積金ノ內ヨリ提出シテ四厘七厘ノ率ニ補足スルコトヲ得

第六十五條　商株株利不足ノ數カ若シ公積金ニテ補充シ能ハサル時ハ官株株利ヲ以テ補足シ或ハ政府ヨリ別ニ之ヲ融通シテ補充スルコトヲ得

第六十六條　利益金ヨリ公積金ヲ控除シ株利ノ支拂ヲナシタル後尙餘利アレハ特別公積金及株主配當並ニ大小行員ノ獎勵金トナスヘシ其分配方法ハ株主總會ノ決議ニヨリ財政總長ノ許可ヲ經ルヲ要ス、但シ此種獎勵金ハ多クモ餘利ノ百分ノ三十ヲ超ユルヲ得ス

第六十七條　每年ノ株利、配當ハ次年ニ前條手續ニ遵據シテ辦理シタル後支給ス

第六十八條　本銀行ノ公布事件ハ政府公報ニ登ス以外ニ本店支店出張所或ハ代理爲替ヲ委託セル代理店所在地ニ於テ一種或ハ二種ノ新聞ヲ指定シテ之ヲ公布スルコトヲ得、亦各地方習慣ニ依テ公布スルコトヲ得

第十一章　附　則

第六十九條　本章程ハ財政部ニ大總統ノ批准ヲ呈奉シタルノ日ヨリ施行ス(完)

尚同行現在ノ分行所在地表次ノ如シ。

本店　北京

分行

京兆區域　北京　覇縣　涿縣　通縣　密雲　海淀　宣化
　牛欄山

直隸省　天津　保定　張家口　滄縣　靜海　勝芳　蘆臺
　刑臺　祁縣　灤縣　磁縣　唐山　泊頭　石家莊
　青縣　獻縣　肅寧　景縣　吳橋　遵化　遷安
　撫寧　昌黎　豐潤　河間　辛集　高陽　正定
　欒城　定縣　深縣　濮陽　大名　內邱　永年
　城新　冀縣　南宮　寧晉　蔚縣　涿鹿

東三省　奉天　吉林　黑龍江　長春　營口　哈爾賓　大連
　安東　鐵嶺　錦縣　遼源　黑河　新民府　洮南
　山海關　公主嶺　西豐　呼蘭　留守營　綏化　巴彥

寧古塔　海倫　興城　莊河　大孤山　溝幇子　法庫
遼陽　扶餘　蓋平

湖北省　武昌　漢口　宜昌　沙市　武穴

湖南省　長沙

江蘇省　南京　上海　蘇州　揚州　鎭江　清江浦　無錫
南通　徐州　下關

山東省　濟南　青島　煙臺　滕縣　濟寧　周村　惠民
臨沂　濰縣　臨清　泰安　桑園　龍口　掖縣
膠縣

山西省　太原　運城　新絳　大同

河南省　開封　信陽　彰德　溪河　周家口　禹縣　許縣
南陽　歸德　道口　洛陽

福建省　福州　厦門　下抗街　三都　涵江　泉州　建甌
延平　浦城　龍巖　漳州

廣東省　江門　汕頭　瓊州　韶州　南雄　北海　肇慶

復　瀝　河口　大良　白沙

浙江省　杭州　寧波　餘姚　紹興　嘉興　溫州　湖州
　　　　蘭谿　海門

江西省　南昌　九江　贛州

安徽省　安慶　蕪湖　大通　廬州　六安　宣城　樅陽
　　　　屯溪　三河　亳州　蚌埠

四川省　重慶　成都　萬縣　自流井　五通橋　瀘縣　潼川

陝西省　西安　三原　潼關　漢中

綏遠　歸綏　包頭鎮　察哈爾　豐鎮

中國銀行ノ制度

歐米各國中ニ於テ發券銀行ニツキ、米國ハ極端ナル分立銀行制ヲ採リ、露國、佛蘭西ハ純然タル中央銀行制ヲ採リ、英國、獨逸、伊太利等ハ大體ニ於テ、中央銀行制ヲ採ルモ、發券銀行以外ニモ、發券銀行ヲ認メザルニアラズ、然レドモ之等ハ其勢力極メテ微弱ニシテ、多ク云フニ足ラザルヲ以テ、先ヅ米國ヲ除ク以外ノ、歐洲各國ニハ、中央銀行制ノ普及セルモノト見テ可ナリ、而シテ我國亦純然

タル中央銀行制ヲ採ルモノナルガ、支那ニ於テハ然ラズ、之等諸國ニ於ケル、中央銀行ト同一ノ性質目的ヲ有スル中央銀行アリ、此點ニ於テハ、中央銀行制ヲ採ルモノノ如クナルモ、然カモ此外交通銀行ノ如キニ對シテハ、此中央銀行ト同等ノ兌換券發行權ヲ與ヘ、其他國中ノ大小銀行、概ネ皆兌換券ヲ發行セザルナシ、其國内金融ノ紛糾スルモノ、元ヨリ當然ニシテ其弊害亦極メテ大ナルモノアルナリ。

支那ノ中央銀行タル、中國銀行ハ其章程ニヨレバ官商合辦ノモノニシテ、其資本金ハ各其一半ヲ出資スベキノ制ナリ、然レドモ民國以後ノ、中央政府發表ノ文書等ニヨレバ、其最初ノ資本金一千萬元ハ、全部政府ヨリ出資シテ、營業ヲ開始セシメタルモノニシテ、後政府ヨリ更ニ一千萬元ヲ出資シ、民間ヨリ一千萬元ヲ募集スルコトトセルモノトナリ居ルモ、大清銀行ヲ中國銀行ニ引繼ゲル際ノ協定ニヨレバ舊大清銀行ノ資本金一千萬元中、五百萬元ノ官有資本ハ損失塡補ニ振入レ、商股五百萬元ノミヲ、中國銀行ヘ引繼グコトトセルモノナレバ、五百萬元ノ商股ハ、中國銀行開業ノ始メヨリ存スルモノナリ、而シテ次イデ政府ヨリ一千萬元ヲ出資セルモノトナリ居レルモ、其内一部分ハ現金ヲ以テシタルモ、大部分ハ公債ヲ以テ之レニ充テ、一方民間株主ナルモノ存シ、株主會等モアレバ、民有株ナルモノノ存スルコトモ、當然ノ事實ナリ、民國ニ入リテヨリ、民間株式ヲ募集シタルコトアルモ、其果シテ幾何ノ募入アリタルヤハ明確ニ發表セラレタルコトナシ、從テ民間株主ノ資金幾何アリヤモ、

一切不明ナルガ、民國七年上海發行銀行週報第二十六號ニ於テハ、民有株三百六十餘萬元トセリ、故ニ中國銀行ハ支那政府及民間株主兩者ノ出資ニヨルモノナル點ハ、之ヲ認メテ可ナルベシ。

歐洲各國ニ於ケル中央銀行ハ、多クハ私立ノ株式會社ニシテ、英國ノ英蘭銀行、獨逸ノ獨逸帝國銀行、佛國ノ佛蘭西銀行、墺洪國ノ墺洪國銀行等、皆之レニシテ官營銀行制度ヲ採ルハ、露西亞銀行、瑞典銀行等アルノミナリ、而シテ右ノ私立銀行制度ヲ採ル國ニアリテハ、政府ガ株式ヲ所有スルモノナク、露西亞銀行、瑞典銀行ハ當然ノ結果トシテ、全資金ハ政府ノ出資ニ係ル、之ニ反シ中國銀行ハ其株式ヲ政府ト商民トニテ、分有スルノ制度ヲ採レリ。

而シテ政府トノ關係ニツイテ見ルニ、役員任命ニ於テ、英蘭銀行ハ、政府ハ全然關係セズ、獨佛ハ總裁副總裁等ハ皇室又ハ大統領ヨリ任命スルノ制度ヲ採ルモ、中國銀行ニ於テハ、總裁副總裁等ハ政府ヨリ任命シ、董事監事ハ株主ヨリ選任スルノ法ヲ採ル、殊ニ又中國銀行ハ、最初ヨリ政府ノ監督ヲ受ケ其管理ノ下ニアル銀行ニシテ、現ニ民國二年四月二十八日周學熙ノ財政總長タリシ時、次ノ如キ監理官章程ノ發布ヲ見タリ。

中國銀行監理官服務章程

第一條　中國銀行監理官ハ、財政總長ノ命ヲ承ケテ中國銀行一切ノ事務ヲ監視ス

第二條　中國銀行監理官ハ、須ク臨時中國銀行各種簿記及金庫ヲ檢査スヘシ

前項ノ檢査ハ毎週内少クモ一回ナスヘシ

第三條　中國銀行監理官ハ、須ク臨時中國銀行兌換券發行數及準備狀況ヲ檢査スヘシ
第四條　中國銀行監理官ハ、臨時中國銀行各種票據及一切文件ヲ檢閱スルヲ得
第五條　中國銀行監理官ハ、臨時銀行事務一切ノ情形ヲ質問スルヲ得若シ必要ト認ムル時ハ銀行ニ對シ各種表册及營業概略ノ編製ヲ求ムルコトヲ得
前項ノ表册文件ハ、須ク中國銀行總裁ニ於テ、署名捺印スヘシ
第六條　中國銀行監理官ハ、毎月五日以前ニ、前月内檢査情形ヲ以テ、檢査報告書ヲ詳細編著シ財政總長ニ呈報スヘシ
第七條　中國銀行監理官ハ、中國銀行業務ニツキ、則例及章程ニ違背セル點、或ハ政府ニ不利ナル處アリト認メタルトキハ、須ク速ニ財政總長ニ報告スヘシ
第八條　中國銀行監理官ハ、銀行一切事務ノ改良意見ヲ財政總長ニ陳述スルヲ得
第九條　中國銀行監理官ハ、株主總會、銀行總會、行務會、監事會及各種委員會ニ出席シテ、意見ヲ陳述スルヲ得、但シ表決ニ加入スルヲ得ス
第十條　本章程ハ公布ノ日ヨリ施行ス

然ルニ其後民國三年ニ至リ、中國銀行ヲシテ財政部ノ直轄トナシ、以テ其機能ヲ全カラシメントシテ、是レガ爲ニ財政部ヨリ次ノ意見書ヲ大總統ニ呈シ其批令ヲ求メタリ。

竊カニ査スルニ、中國銀行ハ民國元年設立以來、辨理著シク成功シ、金庫代理事務、亦能ク妥愼經營セリ、惟査スルニ該行成立ノ時本部規畫ノ始ナルニヨリ、專ラ責成ヲ貴ビ、故ニ組織事宜ヲ以テ悉ク該行總裁ヲシテ籌辨セシメタリ、現ニ財政整理ニ着手ノ際、金庫事務ハ關係要圖ナレバ、政策宜シク一貫ヲ求ムヘク、且各省濫發紙幣ヲ回收シ、地方金融ヲ維持スル爲ニハ、凡テ該行應ニ盡スヘキノ責ヲ以テ、均ク本部ノ行政ト息々相關セシメ、部ヨリ統籌スルニアラサレバ、指臂相維グノ效ヲ收ムル能ハズ、依テ擬シ請フ、該銀行ヲ以テ嗣後改メテ本部ノ直接管轄トナシ、有ラユル一切ノ推廣計畫ハ、均シク本部ヨリ主持シ隨時該行總裁ニ責成シテ辨理セ

シメ、統系ヲ明カニシテ、進行ヲ策セシム、其該行總裁副總裁等ノ職ハ、尙ニ簡任ニ係ルモ以後舊ニ照シテ辦理シ、藉テ定制ニ符セシメシトス

右條例ハ六月十二日ヲ以テ、大總統ノ批准ヲ得タレバ、之ヨリ中國銀行ハ、全ク財政部ノ直轄トナレルモノニシテ、中國銀行ハ、全ク財政部ノ一機關ノ如キ姿トナレルモノナリ、更ニ其直轄ノ實蹟ヲ擧ゲン爲メ、左ノ八條例ヲ發布シ、其監督取締ノ規定ヲ嚴密ニセリ。

(一) 中國銀行ハ其分行、及ヒ分號ノ閉鎖、併合ヲ爲サントスル時ハ、豫メ財政部ニ届出テ其許可ヲ受クヘシ

(二) 本店ノ局長、分行分號主任ノ任免昇進ハ、何レモ財政總長ノ許諾ヲ得テ之ヲ行フヘシ

(三) 紙幣印刷、兌換券發行、及ヒ幣制ノ施行ニ關シテハ、財政部ハ各別ニ辦法ヲ定メ、中國銀行ニ命シテ、遵守實行セシムヘシ

(四) 中國銀行内ノ國庫局ノ事務ハ、財政部庫藏司々長ヲシテ監督セシムヘシ

(五) 本店ノ營業、國庫ノ出納、兌換券ノ發行ニ關シテハ、毎日計算表ヲ作成シ、財政部ニ報告スヘク、各分行ノ營業、分國庫ノ出納日計表ハ、毎日本店ノ手ヲ經テ財政部ニ報告スヘシ

(六) 國庫ノ出納、爲替、兌換及ヒ手數料ハ、營業局ヨリ定メタル一定ノ規定ニ據リ、爲替、兌換ハ當日市價ノ最高率ヲ以テ限度トナシ、一切實際ノ報告ヲナスヘシ

(七) 國庫金ハ之ヲ保管スルヲ原則トスレトモ、偶々必要ノ場合ハ財政總長ニ届出テ、指定額丈ノ營業局ノ預金トシテ、流用スル事ヲ得

(八) 財政部ノ預金及借越金ニ對スル利息ハ、最低率ヲ以テ標準トス

制度既ニ斯ノ如クナルヲ以テ、銀行ト國家財政トノ混同ヲ生ズルハ當然ニシテ、否實ハ之ヲ混同セシメンガ爲メニ、殊更ニ斯クノ如キ制度ヲ採レルナリ、抑モ中央銀行ト國家財政トノ混同ヲ生ズルハ、

屢見ル處ナルヲ以テ、何レノ國ニ於テモ、此點ニツイテハ嚴重ナル規定ヲ設クルヲ常トシ、銀行業務ニ關スル株主ノ權能中、政府ニ對スル貸上金ノ場合、其許否ヲ決スルハ重大ナルモノトシ、獨逸ノ如キハ此點ニ關シ、株主ニ直接ノ參加權ヲ與ヘ、佛蘭西、墺洪國、伊太利、和蘭等ハ、政府貸上金ノ範圍ヲ定ムルニ法規ヲ以テセリ。

然ルニ支那ニ於テハ、中國銀行ハ全ク財政部ノ所管ノ下ニアリ、株主ハコレ等ノ點ニツキ、何等容喙スル能ハザレバ、國家財政ト銀行トノ混同ハ、遺憾ナク行ハレ、政府ハ必要ニ應ジテ、中國銀行ヨリ資金ヲ借上ゲ、其餘力ナキヤ、頻ニ紙幣ヲ發行シテ、其急ニ應ゼシメ、以テ中國銀行ヲシテ、全ク其機能ヲ失ハシメ、遂ニハ兌換ヲ停止セザルヲ得ザルニ至ラシメ、紙幣ノ價格ヲ維持スル能ハズシテ割引通用セシムルニ至ル。

資本金

中國銀行ノ資本ハ、最初大淸銀行ヲ引繼ゲル時ニ、從來ノ商股五百萬兩ハ之レヲ存スルコトトシ、後政府ヨリ一千萬元ヲ支出シテ、其資金ニ充ツルコト、シタリ、元來則例ニヨレバ同行資本ハ六千萬元ナルガ、右政府ノ一千萬元ノ出資ハ、現銀ハ僅ニ三百萬元ニシテ、其餘ノ百二十八萬一千元ハ大淸銀行ノ北京、上海各店家屋生財評價ヲ以テ之レニ充テ、五百七十一萬九千元ハ六厘公債ヲ以テ之レニ

充テタリ、而シテ民有株ハ少クトモ、大淸銀行ノ舊株主ノ所有株ヲ認メタル五百萬兩ハ存在スヘキ筈ナルモ、民國六年十一月中國銀行ヨリ、財政部ニ上レル文書中ニハ、商股已收額ハ三百六十四萬三千三百元ニ過ギズト記セリ、其他ニ何等徵スベキ材料ナキ際、之レヲ信用スルノ外ナカルベキガ、然ラバ則チ彼ノ大淸銀行ノ五百萬兩ハ後ニ取消セルモノナルベキカ。

斯ノ如ク中國銀行資本ハ、六千萬元ト稱シ、中一千萬元ヲ政府ヨリ支出セリト云フモ、實ハ然ラズ商股モ募集ニ應ズルモノ少ク、其內容ハ甚ダ空疎ニシテ、到底信用ヲ保ツニ足ラザルヨリ、中國銀行ハ六年十一月、遂ニ自ラ一切ノ事情ヲ明カニシテ、財政部ニ對シ其分擔セル株金ノ續交ヲ求メ、更ニ營業開始ニ要スル資金、株主會設立ニ要スル株數等ヲ減少センコトヲ提議シ、財政部ノ容ル、處トナレリ、其呈文次ノ如シ。

財政部ニ對シ股欵撥足ヲ請フノ文

竊カニ査スルニ本行則例ニヨレハ、官股ハ部ヨリ先ツ一千萬元ヲ認購スル筈ナリ、然ルニ民國元年、部ヨリ三百萬元ヲ支出シテ以後、今日ニ至ル迄、數年ナルモ、未タ支出ヲ得ス、民國三年前湯總裁一再呈請シ、始メテ部ヨリ六厘公債票一千萬元ヲ出シ、七百萬元ト評價シテ、以テ千萬元ニ補足セリ、當時銀行ノ信用ヲ顧全センカ爲ニ、强テ之レヲ承受セリ、然ルニ之レヲ各國通例ニ按スルニ、凡ソ財産ヲ以テ株金ニ入ルヽニハ、必ス株主會ノ承認ヲ要スルモ、此時商股未タ募集セス、株主會尚成立セサルヨリ、公債ヲ以テ株金ニ入ルヽノ一事ハ、是非ヲ株主ニ問フコト能ハザリキ、惟フニ銀行創立ノ始メハ、基礎薄弱、鉅額ノ債票ヲ資産ニ充當スルニ便ナラサルニ似タリ、故ニ嚴格ニ論スレハ、中國銀行株金ハ未タ拂込ヲ了セサルモノニシテ、根本ニ於テ銀行ハ成立スル能ハサルモノナリ、民國四年九月、部ヨリ呈シテ大總統ノ批准ヲ奉シタル、中國銀行商股招集章程六十五條中、第三條ニハ「中國銀

行資本ハ政府ノ既ニ支出セル一千萬元、及現ニ續交ニ決セル一千萬元ヲ除クノ外」トアリ、今中國銀行則例第二條ノ規定ニ照スニ、商股招集ハ玆ニ先ツ十萬株、即一千萬元ヲ募集ストアリ、本條ノ規定ヲ按照スルニ、政府ハ應ニ一千萬元ヲ續撥スヘキモノニシテ、當時財政部ハ官産清理金中ヨリ、陸續收款撥交スル筈ナリシニ、今ニ及フ迄、更ニ撥交セス、査スルニ大清清理處ノ名下ニ、京滬各行屋基生財等ヲ移交セサルモノアリ、百二十八萬一千元ニ當ル、但シ一面公債票ノ一部分ヲ抽還シタレハ、是レ清理處移交ノ房屋、生財ノ價格ニ當リ、舊股項下ニ歸入セルモノニシテ、所謂續交ナルモノハ、尙糸毫モナサレサルナリ、夫レ信用ヲ基礎トナス銀行事業ニシテ、又全國ノ中央銀行ニシテ、其資本ノ虛實ハ關スル處重大ナリ、乃チ政府初メ先ツ一千萬元ヲ交付センコトヲ諾シ、僅ニ現金三百餘萬元ヲ交付セルノミニシテ、繼イテ一千萬元ヲ交付スト稱シツヽ、僅ニ房屋生財一百餘萬元ニ相當スルモノヲ交付セルノミ、何レニヨリテ信ヲ商民ニ取ルヲ得ンヤ、是レ官股一項ニ關シテ、速ニ確定セサルベカラサルモノヽ一ナリ。

二年四月參議院議定ノ則例、及ヒ四年九月三十日參議院修正則例第一條ヲ按照スルニ、均シク中國銀行ヲ稱シテ、株式公司トナス、夫レ股份公司タレハ、則チ一切均シク當ニ商法ニ按照シテ辨理スヘク、凡テ出資者ハ株主トナシ、自ラ官商ノ別ナカルヘキナリ、參議院議決則例第二十九條ニハ、本則例株主ニ關スル規定ハ、一萬株ニ滿テル時效力ヲ發生ストアリ、參議院コレヲ改メテ、十萬株ニ滿ツル時トセリ、夫レ政府已ニ先ニ株式ノ三分ノ一ヲ引受ケタリ、從テ已ニ十萬株ニ足ル、株主ノ效力必ズ商股千萬ニ達スルヲ俟チ、始メテ發生スルトスルモ、豈千萬ヲ認定シテ、已ニ開業セル公司ニシテ、株主倘何等之レナキノ鄕アランヤ、之レ商法ニ於テ安ソ矛盾ナラサランヤ、且政府獨力認墊千萬ニ至リ、銀行ヲシテ開業セシメ、反テ其株主ノ權利ヲ奪フ、コレ公理ニ揆クモノニシテ、豈平ナランヤ、且此用意ヲ推セハ、商股招定スルニアラサレハ、確實ノ株主ナキナリ、但政局不靖ナレハ、人々投資ヲ視テ畏途トナス、故ニ四年九月商股ヲ開招シテ以來、今日ニ至ル迄ニ、金株三百六十四萬三千三百元ヲ得タルノミ、而シテ目下一割ノ餘利ヲ配當スル、株式ノ市價七掛餘ナリ、千萬ノ額ヲ招足セントスルモ易カラサルナリ、商股一日足ラサレバ、官款復認メテ株金トナサズ、之ヲ公司ト名ケ開業ト稱スルモ實ニ責ヲ負フノ株主ナク、嚴格ニ推求スレハ危險孰レカ甚シキ、之レ銀行官商株主ノ權責、平均ヲ求メサル能ハサルモノヽ二ナリ。

當時立法ノ意ヲ推スニ、國家銀行ハ關スル處甚タ鉅ナルヲ以テ、資本ノ雄厚ヲ求メ、藉テ信用ヲ堅クセントセシナランニ、知ラス

事勢ト違ヒ、徒ニ虚語トナリ、轉々信用ノ不立性質ノ不明ヲ致セリ、克徴嘉教再四維レヲ思フニ、財政ノ困難斯ノ如ク、銀行信用ノ薄弱斯ノ如クシテ、官股現金一千萬元ヲ湊足シ、商股六百萬元ヲ續招セントヲ求メ、四年九月ノ則例ニ符セシメントスルモ、其レ勢ノ能ハサル處ナリ、故ニ資本定額ヲ減少シ、力メテ實際ヲ求メ、大ニ信ヲ明カニスルニ如カサルナリ、蓋シ公司ノ信用ハ資本ノ大小ニアラスシテ、內容ノ確實ニアリ、英蘭銀行ノ最初ノ資本ハ、百數十萬磅ニ過キス、佛蘭西銀行最初ノ資金ハ、三千萬法ニ過キス、卽チ日本銀行ハ設立ノ當時、一千萬圓ニ過キス、見ルヘシ各國銀行皆小ヨリ大トナレルノコト、果シテ能ク信用顯著ナラハ、資本ノ增加、必ズシモ難事ニアラス、故ニ請フ則例ヲ次ノ如ク改正センコトヲ、第二條ノ資本總額ハ六千萬元ニ定ムト雖モ先ツ一千萬元ヲ募集スルコト、ス、第三條ヲ改メテ中國銀行ハ資本一千萬元ヲ收足セル時ハ營業ヲ開始シ、此一千萬元ノ內其一部ヲ政府ヨリ出シ、官股商股ヲ論セス、同シク株主トナスコト、ナス、第二十九條ヲ削除シテ事實ニ符セシム。査スルニ政府前後交スル處ノ現金、及ヒ房屋評價額計四百二十八萬一千元、商股拂込三百六十四萬三千三百元、計七百九十二萬四千三百元アリ、然カモ尙其不足二百七萬五千七百元アリ、右ハ部ヨリ現金七十二萬元ヲ續撥シ、一面又商股百三十五萬六千七百元ヲ續募シ、一千萬元ニ達セシムレハ、庶幾クハ、名實相符シ基礎以テ立チ、一度大局稍平靜ニ至ラハ、銀行營業稍發達ヲ見ン云々。

右ハ財政部ノ容ルル處トナリ、更ニ大總統ノ批准ヲ經、遂ニ中國銀行則例ノ改正ヲ見ルニ至レル次第ナレバ、右呈文ノ如ク其後財政部ヨリ現銀七十二萬元ヲ支出シ、又商股百三十五萬六千七百元ヲ募集シテ事實上ニ拂込資本ヲ一千萬元タラシメタルモノナルベキガ、民國六年度ノ中國銀行營業報告ニハ其既拂込資本金千二百二十七萬九千八百元トアリ、其眞相ニ關シテハ知ル能ハザルナリ。

營業成績

中國銀行ノ營業成績並ニ資產狀態等ハ明瞭ヲ缺クモノ多ク、偶其發表セラルルモノアルモ、單ニ大

支店ニツイテ、其損益ヲ示スノミニシテ、資產負債表ノ如キ、之ヲ發表セラレザルコトアリ、從テ之等ノ詳細ハ到底知ル能ハザルモ、今過去ニ於テ發表セラレタル所ノモノヲ揭出シ以テ其一端ヲ知ルノ材料タラシメントス。

民國三年中國銀行資產負債表

民國三年十二月三十一日

資產		科目	負債	
		負債之部	元	
		株金總額	60,000,000	00
		積立金	113,068	95
		前年度未拂配當	9,567	60
		定期預金	8,909,379	57
		預金	49,482,306	13
		兌換券發行	16,398,178	71
		本年純利	1,368,719	73
元		**資產ノ部**		
50,000,000	00	未拂株金		
12,389,947	56	定期貸付金		
36,498,052	61	貸付金		
1,079,796	50	他店貸勘定		
7,139,218	10	各種有價證券		
1,805,635	23	營業用家屋土地器具		
16,398,178	71	兌換券準備金		
10,990,391	98	現銀在高		
136,281,220	69	合計	136,281,220	69

民國三年中國銀行損益表

民國三年十二月三十一日

損失		科目	利益	
		損失之部		
元				
1,157,720	88	各項支出		
124,479	11	營業用家屋土地器具償却金		
8,506	13	雜損		
1,368,719	73	本年純利		
		利益之部		
		爲替手數料	1,265,863	17
		利子	1,232,635	59
		他店勘定利子	63,790	61
		雜益	97,136	48
2,659,425	85	合計	2,659,425	85

四年度營業成績

中國銀行民國四年度ノ營業成績ハ、純益三百五十八萬千六百五十三元〇二仙ニシテ、其本支店出張所ノ損益計算左ノ如シ。

	上半期		下半期		全年	
總管理處	損	九九、一八六、二一	益	二五四、四二六、一七元	益	一五五、二四〇、〇六元
北京分行	益	三四九、五三五、七〇	同	四三二、九七九、七六	同	七八二、五二五、四六
張家口分號		—	損	四、三六五、三三	損	四、三六五、三三
勝芳滙兌所	損	一、五八〇、四三	同	一、四一三、〇一	同	二、八九三、四四
覇縣同	同	一、〇八八、六五	同	一、六六三、八〇	同	二、七五二、四五
蘆臺同	同	二、四一二、九八	同	二、二八六、六三	同	四、六九九、六一
涿縣同	同	一、九六九、一五	同	六五五、二〇	同	二、六二五、三五
密雲同	同	二、二九七、一三	同	一、一一六、七九	同	三、三二八、九二
靜海同		—	同	五七一、九一	同	二、八六九、〇四
北通州同		—	同	八一、六三	同	八一、六三
宣化支所		—	同	一、一三五、四〇	同	一、一三五、四〇
蔚縣同		—	同	六二六、一六	同	六二六、一六
涿鹿同		—	同	八七六、三三	同	八七六、三三
牛欄山同		—	同	一四七、九九	同	一四七、九九

	上半期		下半期		全年	
天津分行	益	八四、八〇六、〇四	益	一四九、二九三、八八	益	二三四、〇九九、九二
保定分號	損	五、四〇六、五九	同	七、八六二、五一	同	二、四五五、九二
邢臺滙兌所	同	六三四、五一	損	三四六、六五	損	九八一、一六
灤縣同	同	三四一、八四	同	九五七、九四	同	一、二九九、七八
唐山同	同	七六六、七一	同	一、二〇四、七一	同	一、九七一、四二
滄縣同	益	四七五、三三	益	一、三七六、五二	益	一、八五一、八五
祁縣同	同	四六、〇七	同	一、三七一、六四	同	一、四一七、七一
磁州同	損	一、〇三〇、一九	損	一、九八二、五八	損	三、〇一二、七七
泊頭同	同	九〇、一〇	益	二五、九五	同	六四、一五
濮陽同	同	一六、一〇一、六七	損	八、〇八二、二七	同	二四、一八三、九四
石家莊同		—	同	五六八、三一	同	五六八、三一
青縣支所		—	同	九六二、九六	同	九六二、九六
獻縣同		—	同	八五〇、七〇	同	八五〇、七〇
肅寧同		—	同	三五三、二四	同	三五三、二四
景縣同		—	同	一、三五三、四七	同	一、三五三、四七
吳橋同		—	同	七〇二、六八	同	七〇二、六八
遵化同		—	同	五七一、七八	同	五七一、七八
遷安同		—	同	七六四、三〇	同	七六四、三〇

行名						
撫寧同		—	同	八〇〇、三五	同	八〇〇、三[illegible]
昌黎同		—	同	八二五、三八	同	八二五、三八
豐潤同		—	同	五三四、二四	同	五三四、二四
河間同		—	同	三六一、〇八	同	三六一、〇八
辛集同		—	同	九〇九、八四	同	九〇九、八四
高陽同		—	同	一、〇八五、九九	同	一、〇八五、九九
正定同		—	同	一七三、九三	同	一七三、九三
城欒同		—	同	七三〇、八一	同	七三〇、八一
定縣同		—	同	八六五、一二	同	八六五、一二
深縣同		—	同	一九〇、三四	同	一九〇、三四
濮陽同		—	同	六二五、八七	同	六二五、八七
大名同		—	同	六三〇、九四	同	六三〇、九四
內邱同		—	同	二六九、四五	同	二六九、四五
永年同		—	同	六四五、一九	同	六四五、一九
新城同		—	同	一四六、二四	同	一四六、二四
冀縣同		—	同	七五五、七二	同	七五五、七二
南宮同		—	同	七九六、一〇	同	七九六、一〇
甯晉同		—	同	四五九、九六	同	四五九、九六
上海分行	益	一一二、五六二、二九	益	一九一、六五一、五〇	益	三〇四、二一三、七九

	上半期		下半期		全年	
漢口分行	益	二四、五五一、八五	益	六三、九七二、一三	益	八八、五二三、九八
宜昌分號	損	一五、二五二、四六	同	四、〇五五、〇九	損	一一、一九七、三七
長沙同	益	七、〇四三、七九	同	二一、四七〇、四九	益	二八、五一四、二八
沙市滙兌所	損	六、二六六、一七	同	三、四三一、五六	損	二、八三四、六一
南京分行	益	一〇、七九四、〇二	同	六三、三六〇、七七	益	七三、一五四、七九
蘇州分號	同	五、七二九、九六	同	三、四八二、六三	同	九、二一二、五九
鎭江同	同	九、〇五〇、四九	同	二一、四三八、四八	同	三〇、四八八、九七
楊州同	損	四、八八五、七五	同	五六、七八七、二八	同	五一、九〇一、五三
清江浦同	益	三八六、〇八	同	一〇、八三四、五五	同	一一、二二〇、六三
無錫同	同	七、〇二八、六五	同	六、〇八五、九九	同	一三、一一四、六四
徐州滙兌所	損	三、二三八、一五	同	一、七八一、三八	損	一、四五六、七七
下關同	益	四四二、八一	同	二、六六八、五〇	益	三、一一一、三一
南通州同		—	同	六八〇、〇七	同	六八〇、〇七
蚌埠同	益	一二三、八四	同	一、一五三、三〇	同	一、二七七、一四
山東分行	同	九、七三〇、六六	同	六三、九七八、六〇	同	八三、七〇九、二六
青島分號	損	二、八六二、〇四	損	一、九六七、五四	損	四、八二九、五八
烟臺同	同	五八九、五九	同	二、八五六、五九	同	三、四四六、一八
滕縣同	益	二、〇九八、五二	益	五、〇七三、七三	益	七、一七二、二五

店名		金額		金額		金額
濟寧同	同	二七八、六七	同	八八三、四七	同	一、一六二、一四
周村同	同	一、四六三、七一	同	五、〇四六、四二	同	六、五一〇、一三
惠民同	損	二四五、八〇	同	一、四八三、一三	同	一、二三七、三三
臨沂同	益	一、五一四、六八	同	一、一八九、二〇	同	二、七〇三、八八
濰縣同	同	五三四、〇五	同	七八三、八六	同	一、三一七、九一
臨清同	同	一、四四二、六九	同	一、三八二、一八	同	二、八二四、八七
泰安滙兌所	益	四九八、七五	損	七〇、九六	損	五六九、七一
桑園同	同	三〇八、八四	益	一、二四〇、七五	益	九三一、九一
龍口同		—	損	七三〇、三四	損	七三〇、三四
掖縣同		—	同	七七八、四三	同	七七八、四三
膠縣同		—	益	三〇八、〇〇	益	三〇八、〇〇
河南分行	同	九、九〇五、〇五	同	一六、二四〇、三五	同	二六、一四五、四〇
信陽分號	同	四六〇、〇八	損	一〇、二六七、四八	損	九、八〇七、四〇
彰德同	損	一、四〇三、八〇	同	一、四八八、四五	同	二、八九一、二五
漯河同	同	二、二七三、六四	同	一、八七九、四五	同	四、一五三、〇九
周口同	益	七四一、三八	益	二三五、〇一	益	九七六、三九
禹縣同		—	同	七一七、九七	同	七一七、九二
許縣同		—	同	三四五、六二	同	三四五、六二
南陽同		—	同	一、四八八、六八	同	一、四八八、六八

	上半期		下半期		全年	
道光匯兌所		—	益	二、九〇八、八七	益	二、九〇八、八七
洛陽同		—	同	六〇一、七四	同	一、二二三、二三
東三省分行	益	二、四七四、四〇	同	二五、一〇二、四八	同	二五三、五七六、八八
營口分號	同	七、四七八、〇九	損	八、一八一、二五	損	七〇三、一六
奉天同	同	五一、〇三三、八〇	益	四八、六八一、三五	益	九九、七〇五、一五
吉林同	同	二七、一七九、六六	同	一、五三三、〇六	同	二八、七一二、七二
黑龍江同	同	一六五、九〇	同	二六、八七〇、二一	同	二七、〇三六、一一
哈爾賓同	損	二七、一九七、四四	損	一二一、八一六、四五	損	一三九、〇一三、八九
大連同	同	六、九五四、四三	同	二四、八六二、〇三	同	三一、八一六、四六
安東同	同	四二六、六〇	益	一三、六七〇、二七	益	一三、二四三、六七
鐵嶺同	同	一、三〇〇、六二	同	七、五六五、九七	益	六、二六五、三五
錦縣同	同	四、五〇〇、三三	損	七、九三三、五五	損	一二、四三三、八八
遼源同		—	同	三、九五四、一一	同	三、九五四、一一
黑河同		—	益	三六、二一九、一六	益	三六、二一九、一一
新民府同		—	同	二、一三六、四八	同	二、一三六、四八
楡關匯兌所		三四〇、九七	損	四、七六〇、三〇	損	五、一〇一、二七
公主嶺同			益	二五九、四二	益	二五九、四二
西豐同			同	一、〇五一、七四	同	一、〇五一、七四

呼蘭同		｜	同	三八九、〇二三	同	三八九、〇二三
留守營同		｜	損	一、七一四、七〇	損	一、七一四、七〇
綏化同		｜	益	二、一二一、八二一	益	二、一二一、八二一
巴彥同		｜	損	四二九、一七	損	四二九、一七
寧古塔同		｜	益	三三二、一九	益	三三二、一九
福建分行	益	八、一八三、一三	同	一〇、一五二、五四	同	一八、三三六、六六
福州分號	同	九、六〇六、〇二	同	一四、二九四、二七	同	二三、九〇〇、二九
廈門同	損	六、一五五、五二	同	一一、七一五、三八	同	五、五五九、八六
下杭街滙兌所	益	四二一、〇六	同	二、四三三、六三	同	二、八五四、六九
三都同	損	二六三、三七	損	一九二、一二	損	四五五、四九
涵江同		｜	益	六二一、九八	益	六二一、五八
延平同		｜	損	一三三、〇八	損	一三三、〇八
浦城同		｜	同	二四五、一六	同	二四五、一六
龍巖同		｜	同	六〇五、七三	同	六五〇、七三
廣東分行	益	一七五、〇二三、三八	益	一五三、一六三、三五	益	三二八、一八六、七三
江門分號	損	三、三三五、七五	同	七七七、二四	損	二、五五八、五一
汕頭同	益	二、二八九、八六	損	三、〇四三、〇二	同	七五三、一六
瓊州同	同	一、〇六七、二四	同	三、四七〇、一七	同	二、四〇二、九三
韶州滙兌所	損	二、五八三、七一	益	三、〇四四、五九	益	四六〇、八八

	上半期		下半期		全年	
南雄滙兌所		—	益	六、七一	益	六、七一
北海同		—	損	四五九、九七	損	四五九、九七
浙江分行	益	六〇、四二五、三一	益	六三、七九五、〇七	益	一二四、二二〇、三八
寧波分號	同	六、二二二、〇三	同	一三、六三三、一七	同	一九、八四四、二〇
紹興同	同	二、九八九、六九	同	一、三五九、〇一	同	四、三四八、七〇
嘉興同	同	三、〇三八、六五	同	二、三六八、一三	同	五、四〇六、七八
溫州同	損	五八、八八	同	二、七七六、五〇	同	二、七一七、六二
湖州同	益	一、六〇七、一八	同	四、四〇一、二〇	同	六、〇〇八、三八
蘭谿同	同	七八五、七六	同	四七八、一三	同	一、二六三、八八
海門滙兌所		—	損	九〇六、二一	同	九〇六、二一
山西分行	益	一二、一四五、四四	益	一一、七七〇、〇九	同	二三、九一五、五三
運城分號	同	一六、四六二、四二	同	二一、三五〇、二〇	同	三七、八一二、六二
新絳滙兌所	同	三九、九六	同	一、一〇四、一〇	同	一、一四四、〇六
大同同	損	二〇三、三九	損	四二、六八	損	二四六、〇七
重慶分行	益	一四、五八五、六〇	益	一〇三、七八五、七一	益	一一八、三七一、三一
成都分號	損	一、八七二、三二	同	四、八一三、五九	同	二、九四一、二七
萬縣同		—	同	五、四〇八、一〇	同	五、四〇八、一〇
自流井同		—	同	三、二三〇、一六	同	三、二三〇、一六

瀘州同	損	一、〇三八、七九	同	八三一、二二	損	二〇七、六八
貴州分行	同	六八〇、二三	同	五三、七一九、四二	益	五三、〇三九、二〇
陝西同	益	七、〇八三、五九	同	一二一、一二八、四六	同	一一八、九五九、〇五
三原分號		—	同	二、三三一、二〇	同	二、三三一、二〇
江西分行	益	六一、〇一〇、〇八	同	四八七、一三八、五九	同	五四八、一四八、六七
歸綏同	同	五六八、〇七	同	一〇、三〇七、一七	同	九、七三九、一〇
包頭鎮分號		—	同	六、四七一、八六	同	六、四七一、八六
豐鎮滙兌所		—	同	九六、八三	同	九六、八三
安徽分行	益	二、〇二四、四二	同	一七、三八〇、九五	同	一九、四〇五、三七
蕪湖分號	同	一、一七五、二六	同	二五、九三七、六七	同	二四、七六二、四一
大通滙兌所	同	二、〇二九、三〇	同	三、一一三、七〇	同	五、一四二、〇〇
宣城同		—	損	一、〇〇四、三八	損	一、〇〇四、三八

全年合計純益三百五十八萬一千六百五十三弗〇二仙

（本表中上半期分ハ各處ノ決算報告表ニヨリ下半期分ハ十二月三十一日帳尻電報報告ニヨルヲ以テ常時未着ノ分ヲ含マサルモ大體ニ於テ大差ナシ）

中國銀行累年資産負債表

負債ノ部

年次	股本總額	公積金	定期預金	當座預金	兌換券發行高	當期純利	其他總計
民國元年	七、五〇〇、〇〇〇	—	二〇九、一一六	一、八一二、一四七	一、〇六一、六三六	一三五、四三三	一一、九〇七、六八四
二年	七、五〇〇、〇〇〇	一一、五三一	七、〇六〇、八八四	四、二四六、六四一	五、〇二〇、九九五	三〇〇、〇一六	三一、七一三、一五八
三年	六〇、〇〇〇、〇〇〇	一一三、〇六八	八、九〇九、三七九	四九、四八二、三〇六	一六、三九八、一七八	一、三六八、七一九	一三六、二八一、三三〇
四年	六〇、〇〇〇、〇〇〇	八一八、〇六八	一八、三八六、八二一	八六、九七三、二一八	三八、四四九、二二八	三、五三四、二二七	二〇八、一六一、五六四
五年	六〇、〇〇〇、〇〇〇	一、八九二、五六四	一〇、三六二、八五六	一〇三、二一三、四八八	四六、四三七、二三四	二、九三九、四六一	二三四、八四五、六〇六
六年	六〇、〇〇〇、〇〇〇	二、七一四、九四八	二〇、三三〇、三六〇	一二八、三九四、六〇五	七二、九八四、三〇七	二、〇七三、〇三二	二八六、四八七、二五四

資産ノ部

年次	未拂込資本	定期貸金	割引貸金	當座貸金	有價證券	營業用土地家屋什器	兌換準備金	現金	其他總計
民國元年	四、八三六、六六二	九〇〇、六六七	—	—	—	三、五六八	一、一一三、三三六	一、九三七、四一七	一一、九〇七、六八四
二年	四、五六九、四一八	六、四一九、四三	—	—	五三、九二二	一八、六一九	五、〇二〇、九九五	一、八八八、二六二	三一、七一三、一五八
三年	五〇、〇〇〇、〇〇〇	一三、三八九、九四七	一、〇七九、七九六	三六、四九八、〇五二	七、一三九、二一八	一、八〇五、六三五	一六、三九八、一七八	一〇、九七〇、三九一	一三六、二八一、三三〇
四年	四七、六三三、六四五	二九、四九八、六七四	四、〇七六、一六四	五三、三七一、八七八	一一、八五四、六七三	二、七一八、六四三	三八、四四九、二二八	二〇、二五八、六五六	二〇八、一六一、五六四
五年	四七、六三三、七一五	二三、九一七、一四九	二、五一二、八八二	七五、四六〇、六四一	一〇、〇九六、五五九	三、七六九、一〇〇	四六、四三七、二三四	一五、一〇八、三三三	二三四、八四五、六〇六
六年	四七、七二〇、二〇〇	二八、八六〇、〇二三	三、〇三五、七四六	一〇七、六〇六、九七三	四、〇九三、四三三	二、四一〇、八九二	七二、九八四、三〇七	一八、三四七、〇七五	二八六、四八七、二五四

本表ハ民國六年度ノ中國銀行貸借對照表ノ科目ニ基キ編成シタルモノニシテ、民國元、二年度ハ科目コレト同シカラサル爲、此ニ編入シ難キモノアリ、之レチ略ス。（單位元）

兌換券發行

中國銀行ハ支那政府直轄ノ中央銀行トシテ、國庫事務ヲ取扱フノ外、兌換券發行ノ特權ヲ有ス、支那政府ハ財政ノ窮乏セル結果、常ニ中國銀行ヨリ資金ノ借上ヲ行ヒ、之レニ充ツル爲、又ハ之ヲ補フ爲メ、紙幣ノ發行ヲナサシメ來リタルガ、第一次革命後、中國銀行創立ノ始メヨリ早ク此ノ手段ヲ採リテ、財政ノ急ヲ救ヒシガ、當時銀行ノ信用尙乏シク從テ本行發行ノ紙幣ノ信用落チ、其流通ニ苦ミシヨリ、民國元年十二月二十五日ヲ以テ、同行紙幣ノ信用ニ關シ、次ノ如キ曉諭ヲ發シ以テ之レヲ全國ニ行ハシメントシタリ。

財政總長周學熙ノ呈稱ニヨルニ現在中央政府設クル處ノ中國銀行ハ已ニ籌備組織ヲ經、次第ニ設立セラル、紙幣則例未定以前ニ在リテハ、即チ該銀行所發ノ兌換券ヲ以テ、全國ニ通用セシメ、有ラユル官款出納、商民交易均シク一律行用ヲ准シ、並ニ多ク準備金ヲ備ヘ、以テ兌換ニ供シ、多ク兌換所ヲ設ケテ、以テ取扱ニ便シ、一度紙幣則例ノ參議院ノ議決頒布ヲ經ルヲ俟テ、再ビ新章ニ照シテ辨理セント、查スルニ中國銀行ハ、全國ノ金融ヲ操縱スルノ所以ノモノニシテ、商業銀行ト、性質逈ニ異ル、前清時代ノ中央銀行ハ、紙幣ヲ濫發シ、抵押物件足ラズ信用地ニ墮チ、覆轍昭然タリ、此次中國銀行ノ組織新タナルニ方リテハ、必ズ須ク各國中央銀行ノ通例ニ査照シ、準備現金ヲ寬籌シ、一切流弊ヲ嚴杜シ、首トシテ人民ノ信用ヲ引起シ、以テ全國ノ脈絡ヲ通ジ、市面ノ盈虛ヲ濟フベシ、目前大宗紙幣尙未ダ整備セズ、此項ノ兌換券先ヅ將來法定紙幣ニ代ユルノ用タリ、金融ヲ整理シ速ニ統一ヲ謀ルヲ起見トス、有ラユル公私出納ハ、應ニ一律通行ヲ准ルス、公家ノ信用既ニ堅ケレバ、商民行使ヲ樂マザルナケレバナリ、著シテ此項暫行章程ヲ各部及各省都督民政長ニ通知セシメ、已ニ該銀行兌換所ヲ設ケタル處ニ於テ、商民ニ曉諭シテ一律遵行セシム。

國務總理 趙秉鈞
財政總長 周學熙

次デ民國二年二月ニ入リ更ニコレヲ通用セシメンガ爲ニ、中國銀行兌換券暫行章程ヲ定メ本紙幣ヲ

以テ各種租税ノ納入ニ用フルコトヲ許シ、又之レガ收受ヲ拒ミ或ハ割引通用ヲナセルモノニ對シ、制裁ヲ加フルコト、セリ、該章程次ノ如シ。

中國銀行兌換券暫行章程

一、中國銀行兌換券ハ中國銀行及中國銀行指定ノ代理所ヨリ一律ニ發行スヘシ

二、凡テ下記各項ノ用途ハ、一律ニ此項兌換券ヲ通用スヘシ

甲、各省地丁錢糧釐金關税ノ完納

乙、中國鐵道汽船郵政等ノ票ノ購入及電信料納入

丙、官俸庫餉ノ支拂

丁、一切官款ノ出納及商民ノ交易

三、此項兌換券ハ券內地名ニ按照シ、中國銀行隨時兌現ス

四、凡テ兌換券內兩處地名ヲ印有スルモノハ、此兩所ニアリテ共ニ通行兌現スヘク爲替料ヲ徵セス

五、此項兌換券ヲ若シ拒ンテ收受セス、又ハ割引等スルモノアル時ハ嚴重取締ルヘシ

其後ニ至リ國內濫發紙幣整理ノ急ヲ說クモノ多ク、且又第一次大借款中ニモ、紙幣整理ノ爲ニ振向クベク、決定セル資金アリ、之レヲ以テ其ノ害最モ甚シカリシ廣東ノ如キ、多少之レヲ整理シタルガ全國各地ノ銀行ノ濫發シタル紙幣ニ對シテハ、到底完全ナル整理ノ途ナキヲ以テ、中國銀行紙幣ヲ以テ、之レニ代ヘ、中國銀行紙幣ヲ全國ニ普ク行ハシメントシタリ、而シテ右ノ方法トシテ、全國各地ノ中國銀行支店出張所ヲシテ、之レニ當ラシムルハ勿論ナルモ、其外全國內ノ信用アル銀行ノ、既ニ

紙幣ヲ發行シツヽアルモノニツキ、中國銀行ト特約ヲ結バシメ、中國銀行紙幣ヲ之レニ交付シテ、代理發行セシメ、以テ其既發紙幣ヲ回收セシムルノ方法ヲ採リシニ、此方法ハ相當ノ効果ヲ收メ、既發紙幣ノ回收中國銀行紙幣普及ノ目的ノ一部ヲ達セリ。

更ニ又財政部ハ中國銀行紙幣普及ノ爲ニハ、各種貨幣ト本紙幣トノ兌換ノ途ヲ容易ナラシムルノ必要アリトシ、中國銀行内ニ貨幣交換所ナルモノヲ附設シ、以テ紙幣ト他種現銀トノ交換、紙幣ノ兌換等ノ事ヲ取扱ハシムル事トシ、民國四年五月二日ヲ以テ左ノ條例ヲ發布セリ。

中國銀行貨幣交換所假條例

第一條　本所ハ財政部ニ於テ設立スルモノニシテ中國銀行貨幣交換所ト稱ス

第二條　本所ハ法定貨幣ヲ擴張シ各地金融ヲ調節シ商業ヲ維持シ民生ニ稗益スルヲ以テ主旨トス

第三條　本所ノ業務範圍左ノ如シ

各地公金收受又商民ノ租稅納附ニ要スル一切ノ法定貨幣ノ供給

本所流通ノ紙幣交換

公金私金ノ爲替又ハ預入

内外金銀貨幣ノ交換

其他ノ業務ハ財政總長ノ特許ヲ經テ兼營スヘシ

第四條　總所ハ本銀行内ニ設ク（當分籌辦處ヲ以テ總所トス）省會縣城鎭地方ニハ分所支所ヲ分設シ又ハ代理店ヲ委託シテ之ヲ經理スヘシ

第五條　本銀行ヲ設立セサル地方ノ各分支所ハ金庫ヲ代理スルヲ得
第六條　本所ハ三級制ヲ執ル即チ總所ハ分所ヲ直轄シ分所ハ支所ト代理店トヲ直轄ス代理店ハ支所ニ從ヒ隨時調査ヲナスヘシ
第七條　本所ハ各地ノ情況ニ依リ各支所ヲ常設暫設ノ二種トス暫設ハ一定ノ期間内ニ於テ取扱フ所ノ事務ヲ完了スレハ直チニ撤廢スヘシ
第八條　總所ニハ專員一人ヲ置ク專員ハ財政部ヨリ申請シテ簡任シ本行總裁ト共同シテ一切ヲ辦理スルノ外別ニ正副經理各一人ヲ置ク分所ニハ正副管理各一人ヲ置キ、支所ニハ管事一人ヲ置ク、事務員ハ事務ノ繁簡ニ依リ之ヲ定ム
第九條　總所經理及分所管理ハ總所會辦ヨリ總裁ニ協議シテ選任ス管事及事務員ハ所轄機關ヨリ委任ス此ノ場合ハ先ツ總所ニ報告スヘシ
第十條　本所ハ元銀ヲ以テ本位トス他種ノ流通貨幣交換ハ其地ノ相場ニ依リ換算ス
第十一條　每日ノ兌換價格ハ一律ノ相場ニ依リ平均規定シ本所ヨリ之ヲ掲示スヘシ
第十二條　市中兌換貨幣カ定價ニ超過シ又ハ暴落シタルトキハ本所ハ臨時之レヲ調和スルヲ得
第十三條　本所ハ供給運輸ノ關係ヲ有スル爲メ財政上ノ便宜ニ依リ財政部ハ各造幣廠ニ通知シテ特別條件ヲ規定スルコトヲ得
第十四條　本所紙幣ノ推行ハ各分支所代理店資產ノ保護私發票券ノ取締、現金私運ノ禁止、僞造貨幣ノ嚴懲等ノ事ハ均シク財政部ヨリ各省巡按使ニ通達シ並ニ各省財政廳ニ命シテ縣知事及各徵收官吏ノ成績調查ニ記入セシム
第十五條　本所ニテ設ケタル各處ノ分所、支所、代理店及現金票券ノ取引運送等ノ事ハ財政部ヨリ各主管衙門ニ通知シ所在地方及沿途ノ軍隊、巡警、鐵路巡警保護ノ任アルモノトス
第十六條　本所各分支所ノ現金及票券ノ運送ハ本銀行現行取扱法ニ依リ夫々運賃ヲ減免ス
第十七條　本所カ重大事項ノ契約ヲ締結セントスルトキハ先ツ財政總長ニ上申スヘシ
第十八條　本所各分支所ノ業務規定及代理店約定ノ法ハ均シク別ニ細則ヲ定メ財政總長ヨリ之ヲ認可シタル後施行スヘシ
第十九條　總所ハ年度每ニ分支所ノ業務情況ニ付テ總表ヲ作製シ財政部ニ報告スヘシ

第二十條　此假條例ハ臨時修正ノ上財政總長ニ上申シ大總統ニ轉進シ批准ヲ請フテ施行スルコトヲ得

而シテ本行發行兌換券ハ民國元年ニハ僅ニ一百六萬一千六百三十六元ナリシガ、二年ニハ五百二萬九百九十五元ニ、三年ニハ一千六百三十九萬八千一百七十八元ニ、四年ニハ三千八百四十四萬九千二百二十八元ニ、五年ニハ四千六百四十三萬七千二百三十四元ニ増加シ、六年ニハ遂ニ七千二百九十八萬四千七百元ニ達セリ。

此間民國五年五月十二日政府ハ中國交通兩銀行發行紙幣ノ兌換ヲ停止シタルガ時恰モ袁氏ノ帝制計畫ハ、內西南各省ノ自立ヲ誘起シ、外列國ノ警告ヲ招來シ、國內ノ物情洶々タルノ際ナリシヨリ、旁以テ支那經濟界ヲ驅ツテ、混亂ノ極ニ陷レタリキ、該國務院令次ノ如シ。

中國銀行交通銀行兌換停止ノ國務院令

歐洲戰爭發生以來金融停滯シ商業凋敝ス、近頃國內ノ多故ニ因リ、民生益蹙ル、言念茲ニ及ベバ、實ニ隱憂ニ切ナリ、査スルニ各國金融緊迫ノ時ニ當リ、暫ク國家銀行紙幣ノ兌換ヲ停止シ、又銀行ヨリ現金引出シヲ禁止スルノ法アリテ維持ニ資シ、現金以テ保存スベク、各業皆周轉ニ資ス、法良ク利普キヲ以テ、速カニ倣照辦理スベシ、應サニ財政交通兩部ヨリ中國交通兩銀行ニ轉飭シ、奉令ノ日ヨリ起リ、有ユル該兩銀行發行ノ紙幣及支拂フベキ金額ハ暫時一律ニ現金兌換及現金交付ヲ許サズ、將來大局ノ定マルヲ俟テ、院令ヲ頒布シ期ヲ定メテ兌付スベシ、存スル所ノ準備現金ハ、該兩銀行ニ命ジテ一律ニ封存セシメ、各省地方ハ各將軍都統巡按使ヨリ、該銀行分設機關アル地方官吏ヲシテ、軍警ヲ分派シテ、該兩銀行ヲ監視セシメ、私ニ令ニ違ヒテ兌換シ、又ハ現金ヲ交付スルヲ許サズ、並ニ嚴ニ取締ヲ行ヒ、滋擾ヲ禁止ス、若シ官吏、商人、軍民人等ニシテ、該兩銀行紙幣ノ收受ヲ拒ミ、或ハ授受スルニ自ラ低減割引等ヲ行フモノアラバ、隨時嚴重ニ究辦ヲ行ヒ、國務院條例第九條ニ照シテ辦理シ、一面商會ト該兩銀行ト接洽

シ、務メテ同心協力シ、一致進行ヲ期セヨ、並ニ該兩銀行ニ命ジ既ニ發行セシ兌換券ノ種類、金額ヲ詳細ニ記シテ、財政部ニ提出セシメ、以テ濫發ヲ防グベシ、望ムラクハ切實ニ遵行セヨ、此ニ令ス。

右兌換停止ノ原因ニツイテハ、種々ノ臆測アリ、或ハ歐洲交戰國ノ兌換停止ヲ實行セルヲ見テ、財政難ノ結果其影響如何ヲ深ク問ハズシテ、之ヲ斷行シタリトナスモノアリ、又之レニヨリテ支那經濟界ヲ混亂狀態ニ陷レ、以テ列國ノ干涉ヲ招キ、依ツテ當時行詰トナレル袁氏ノ帝政問題ノ活路ヲ求メントシタルナリトナスモノアリ、其他種々ノ說ヲナスモノアルモ、當時袁氏帝制計畫ノ爲ニ多大ノ國帑ヲ消費シタルト、西南諸省獨立シ、之レ等各地ヨリノ納稅來ラズ、且ツ又其討伐費ニ要シタル財政難ガ其主因タルハ疑フベクモアラズ。

而シテ支那政府ハ、數年來國內ニ中國交通兩銀行紙幣ヲ普ク流通セシメントシ、之レガ爲メニハ打步ナクシテ兌換ニ應ズルコト必要ナリトシ、地方ニ於テハ兩銀行ノ紙幣ハ打步ヲ要シタルニ拘ラズ、北京本店ニ於テハ、共ニ表面價格ヲ以テ兌換ニ應ジ來レリ、然ルニ當時帝制計畫ニ基ク各地ノ動亂、財政難ニ基ク紙幣濫發等ノ爲メニ、紙幣價格著シク下落シタルモ、尙北京本店ニ於テハ、之レヲ兌換セルヨリ、此ニ於テ額面ニテ兌現シ、其ノ差額ヲ利得セントスルモノヲ生ジ、又山東其他ノ不穩ノ說ヲ聞イテ、紙幣ノ兌換ヲ乞フモノ多ク、現ニ天津ニ於テハ五月十一日中國、交通兩銀行共取付ニ遭ヘルヨリ、斯クノ如キ風潮ノ次第ニ擴大センヲ恐レ、急遽同夜ニ於テ國務院ノ議ヲ決シ、遂ニ其翌日ヲ

以テ兌換ヲ停止スルニ至レルモノナリ。

右兌換停止ノ結果ハ、支那財界ノ一般的恐慌ヲ惹起シ、サラデダニ價格下落セル兩銀行其ノ他ノ兌換券ハ、益暴落シ、經濟界ノ不安ヲ增大シ、益支那財政ヲ困難ナラシメ、經濟界ヲ不振ナラシメ、百害アリテ一利ナキノ結果ヲ呈セリ。

コレニ對シ上海ノ中國銀行支店ノ如キハ、兌換禁止ノ命ヲ奉ゼズ、該命令ニ接スルヤ直ニ株主一部ノ會合ヲ開キ、上海支店ハ政府命令ノ如何ニ拘ラズ、兌換ノ要求ニ應ジ、以テ經濟界ノ安固ヲ圖ル事、及以後政府ヲシテ其欵項ヲ提用セシメズ、一切普通銀行トシテ經營スル事、其他ヲ決議シ、一般者ニ對シテハ、上海ノ金融市面ヲ維持シ、滬行ノ信用ヲ保全スル旨ノ廣告ヲナシ、現銀交換ニ應ズル事トセリ、此ノ該行當事者ノ處置ニ對シテハ、當時一般ニ之ヲ推賞シタルノミナラズ、在上海外國銀行側ニ於テハ、同銀行ガ北京政府ノ命令アリシニモ係ラズ、斯ク臨機ノ處置ヲ執テ、能ク紙幣ノ兌換、預金ノ支拂ニ應ジ、只管市面ノ救濟ニ努メツヽアルニ對シテ大ハ同情スル所アリ、同月十五日銀行團會議ヲ開催シ、同行ノ爲メ必要ナル援助ヲ與フルコトニ決シ、直ニ首席領事ノ手ヲ經テ電報ヲ以テ北京外交團ノ承認ヲ仰ギタルガ、之レニ對シテハ外交團ニ於テモ元ヨリ異議ナク、遂ニ外國銀行ヨリ同行ニ對シ相當資金ノ融通ヲナセリ、因ニ取付以前ノ中國銀行上海支店ノ紙幣發行高約三百五十萬弗ナリシガ、右外國銀行團ノ援助等ニ依リ、遂ニ同行ハ兌換ヲ停止セズシテ從前ノ如ク營業スルヲ得タリ。

次イデ開カレタル國會ニ於テハ右兌換停止ノコトハ大問題トシテ、頻リニ論議セラレタルガ、一度信用ヲ極度ニ失墜セル結果、若シ兌換ヲ開始センカ、直ニ之レヲ要求スルモノ殺到シ、然カモ實際現銀ニ缺乏セル爲メ、容易ニ右禁止令ヲ解クヲ得ズ、僅ニ制限的兌換ヲ行ヒ一日ノ兌換總額、若クハ一人一日ノ兌換最高限度ヲ定メ、其ノ兌換ニ應ズルニ過ギズ、是等ノ事實ハ支那政界ノ不安ト相俟ッテ中國銀行紙幣價格ヲ下落セシメ、現ニ同行紙幣ハ非常ノ割引ヲ以テ辛クモ通用シツヽアル有樣ナリ。

國庫事務取扱

會計法第三十五條ニ政府ハ銀行ヲ指定シテ其金庫出納事務ノ管理ヲ命ズルヲ得トアリ、蓋シ國家現金ノ收支ニハ銀行ヲシテ金庫事務ヲ取扱ハシムルヲ便トスレバナリ、民國ノ初財政部ハ金庫出納暫行章程ヲ頒布シタルガ其要旨ハ次ノ五端ナリ。

一、中國銀行ニ委託シテ暫ク現金出納保管事務ヲ取扱ハシム
二、出納事務ノ國債上ノ關係ニヨルモノアル時ハ其他ノ銀行ヲシテ代理セシムルコトヲ得
三、現金ノ收支ハ銀行トコレヲ收支スルモノト場ニ當リテ點驗ス
四、普通ノ收支ト國債ノ收支トハ別テ二トナス
五、銀行内ニ收入簿、國債收入簿、支出簿、國債支出簿ノ四種ノ帳簿ヲ備フベシ

右ハ該章程ノ要旨ナルガ之ニヨレバ國債ヲ除ク外ノ凡テノ現金出納ハ悉ク之ヲ中國銀行ノ管理ニ歸

セシメ、殆ド單一金庫制度ヲ採用セルニ似タリ、然レドモ當時ノ實情ハ交通銀行亦金庫ノ事ヲ分任セリ、翌年ハ遂ニ金庫條例草案及財政部委託交通銀行代理金庫暫行章程等發布セラレ、茲ニ單一金庫制ハ複雜金庫制ニ變ゼリ。

現時中國銀行ガ國庫ヲ代理スルニ三級制ヲ採リ、總行ニ總金庫ヲ設ケ、各省分行ニ分支各金庫事務ヲ經理セシメ、凡ソ各省及特別行政區域ノ賦稅等ノ收入金及其行政上ノ支出事務ハ大部分中國銀行ヲシテ掌ラシム、章程ノ規定ニヨルニ金庫出納各款ハ總テ通用銀元ヲ以テ本位トナシ、收入各款ノ銀兩ナル時ハ部ヨリ辦法ヲ定メ當日ノ市場相場ニ一釐ヲ加ヘテ銀元ニ換算ノ上記帳存庫セシメ、其兌換ニ基ク損益ハ均シク收入機關ノ負擔タラシメ國庫金ト關係ナカラシムルコトヽセリ、但シ特別款項ニヨリ必ズ銀兩ヲ存儲スルコトヲ要スベキモノハ便宜之レヲ取計フベシ、若シ又支拂ニ銀兩ヲ要スル時ハ特別ノ款項ニヨリ銀兩ヲ存儲セルモノヲ除ク外ハ、部定ノ辦法ニヨリ當日ノ相場ニ照シ一釐ヲ減シ、銀元ニ換算シテ之レヲ支拂フコトヽシ、中國銀行分金庫設置以來各省ノ金庫漸ク統一ノ狀アリタリ。

政府借上金

支那政府ハ財政急ヲ告グレバ中國、交通銀行等ヨリ借上ヲナスヲ常トシ、爲ニ累ヲ銀行ニ及ボセルコト甚大ナリ、而シテ是等借上金額ノ數ニ就イテハ的確ノ材料乏シキガ、民國四年財政部ノ發表セル

內外債調査書中ニハ中國銀行ヨリノ借上金ハ

財政部所管

中國銀行未拂殘額	一〇一、九〇八上海兩
同	一、四九六、二一五公　兩
同	三、四九三、一八二元
安徽省ノ爲ニ中國銀行ヨリ借入額元利	一三六、二四〇元

ヲ計上セラレ、更ニ民國五年度內外債調査書中ニハ

財政部ノ中國銀行ヨリ借入金	四五、〇〇〇元
財政部ニ對スル中國銀行立替金	一五、〇二三、一六九元

ト記載セラレ、實ニ中國銀行ハ財政部ニ對シテ一千五百五十萬元ノ融通ヲナシツツアルヲ示セリ、斯ノ如クシテハ到底銀行ノ業務ヲ安全ニ繼續シ得ベクモアラズ、遂ニ彼ノ兌換停止ノ擧ヲモ見ルニ至レルナリ。

後民國七年ニ至リ中國、交通兩銀行兌換停止ヨリ、延イテ財界ノ恐慌ヲ招ケルヲ匡救スルノ要アリトシ、然モ其此ニ至レル原因ハ、中國交通兩銀行ノ資本不定、基礎微弱ニ基キ、詮ジツムレバ政府ガ該兩銀行ニ對スル莫大ナル積債ヲ未ダ償還セズ、放置シアルニ由來スルニ鑑ミ、卽チ財界ノ原狀回復

ヲ圖ルニ決シ、之ガ辦法ハ延期賠償金ヲ利用シテ、短期公債ヲ發行スル事トシ、大總統ニ向ツテ財政總長王克敏氏ヨリ、其ノ理由ヲ詳細ニ記シ、章程ヲ繕具シテ鑒示ヲ請ヒタルガ、一月二十五日ヲ以テ大總統ノ指令ヲ奉ジタリ、茲ニ王總長ノ呈文及ビ章程ヲ掲グレバ卽チ左ノ如シ、以テ政府借上金ガ同行ヲ累セルモノナルヲ政府自ラ認メタルモノトナスベキナリ。

理由呈文

延期賠欵ヲ指定シ短期公債ヲ發行シ、中交兩行ノ缺欵ヲ歸還スルニ付、謹ンデ辦法ヲ述ベ、並ニ章程ヲ錄シ仰イデ鈞鑒ヲ祈ルノ事ヲ為ス、竊カニ査スルニ、賠欵延期ノ一項ハ、已ニ協約各國上年十二月分ヨリ交還ヲ開始セリ、原約所定ノ五年ノ期限ニ按照シテ核計スレバ、延交總數ハ約銀元六千餘萬元ニ達ス、此ノ如キ大宗欵項ハ、自ヲ適當ノ用途ヲ妥籌シ、財政經濟兩方面ニ均シク裨益アラシムベシ、茲ニ査スルニ中國銀行及交通銀行ハ、前年ノ兌換停止ヨリ以來、紙幣價値日ニ跌チ、市面動搖ス、倘シ竭力整頓スルニ非ザレバ、國計民生ニ於テ大ニ妨碍アリ、其原因ヲ究ムルニ、實ニ政府ガ該銀行ヨリ積缺金額甚ダ多キヲ以テナリ、今日ノ計ヲ為セバ、急ニ宜シク歸還ヲ籌畫シ、兩行ヲシテ元氣稍ヤ復シ、基金ヲ充足セシムベシ、則チ金融活動シ紙幣ノ價値自ヲ高カラン、惟ダ前項ノ延期賠欵ハ、毎月ノ分交ニシテ、毎次ノ交スル所ノ淨數ハ、銀元ニ換算シテ百萬元左右ニ過ギズ、而シテ政府ガ兩行ヨリ積缺スル金額ハ、八千萬元以上ニ在リ、若シ期ニ按ジテ交付スルノ賠欵ヲ以テ、陸續兩行ニ撥還シ、以テ紙幣整理ヲ冀フモ、實ニ緩急ヲ濟ハザルニ屬ス、再四思惟スルニ、短期公債發行一項ノ、藉ツテ以テ兩行ノ金融ヲ救濟スルアルノミ、公債總額ハ四千八百萬元ト定メ、全數ヲ中交兩行ニ發給シ、其ヲシテ自ラ經募ヲ行ハシメ、募集スル所ノ現欵ハ、卽チ以テ兩行ノ墊、缺各欵ニ歸還ス、公債本息ニ至リテハ卽チ毎月ノ延期賠欵一百萬元ヲ以テ本ヲ還シ、二十萬元ヲ以テ息ヲ付ス、並ニ三四兩年ノ公債辦法ヲ按照シ、此項公債基金ヲ以テ毎月總稅務司「アグレーン」ニ撥交シ、存貯シ付スルニ備フ、此ノ如クバ一轉移ノ間ニ政府ニ在リテハ既ニ債務ヲ清理スベク、銀行ニ在リテハ又金融ヲ活動スベク、一擧ニシテ數善備ハル、已ニ本部ヨリ章程ヲ擬具シ、國務會議ニ提交シ、議決シ

ヲ案ニ在リ、此項公債ハ兩行ノ經募ニ歸スト雖モ、仍ホ發行機關ノ一切ヲ綜持セル無カルベカラズ、並ニ公債局ヲ設立シ、中國銀行正副總裁、交通銀行總、協理、總稅務司暨ビ本部部員二人ヲ指派シテ、之ヲ組織シ、並ニ總稅務司ヲ推擧シテ會計ヲ主管セシメンコトヲ擬ス、以上各節ハ事重大ニ關ス、茲ニ謹ンデ短期公債章程ヲ繕錄シ、鈞鑒ヲ呈請ス、若シ允准ヲ蒙ラバ、一ニ指令ノ奉到ヲ俟ツテ、卽チ本部ヨリ分別進行セン云々。

政府中國交通兩銀行缺款歸還短期公債章程

第一條　政府ハ中國交通兩銀行ノ缺欵ヲ歸還シ、及該兩行ノ墊備金ヲ補助スル目的ヲ以テ、短期公債ヲ發行シ、四千八百萬元ヲ以テ額トナシ、名ヲ定メテ民國七年國家銀行發行短期公債ト爲ス

第二條　此項公債ハ利率ヲ定メテ年六厘ト爲ス

第三條　此項公債ハ毎年二回利子ヲ付シ、上半期ノ付息ハ六月三十日ト定メ、下半期ノ付息ハ十二月三十一日ト定ム

第四條　此項公債ハ民國七年一月ヨリ抽籤法ヲ用ヒ五年ニ分チテ償還ス、毎年二回抽籤シ、毎回總額十分ノ一卽チ四百八十萬元ヲ抽籤シ、民國十一年十二月ニ至リテ止トナシ全數償清ス

前項抽籤ハ毎年六月十日及十二月十日ニ於テ、北京ニ在リテ執行ス、其ノ抽籤辦法ハ別ニ部令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　此項公債ノ本ヲ還シ利ヲ付スルハ、財政部指定ノ毎月ノ延期賠償欵項下ヨリ附表ニ列スル所ノ毎年應ニ付スベキ本息總額ニ按照シ、公債局ニ交由シ總稅務司ガ、存貯指定ノ銀行ニ轉交シ、還本付息到期ノ一箇月前ニ於テ、中國交通兩行ニ分交シ付スルニ備フ

第六條　此項公債ハ票面價格ニ按照シテ發售シ、折扣セス

第七條　此項公債票面ハ概ネ記名セス

第八條　此項公債票面ハ一萬元、一千元ノ兩種ト定ム

第九條　此項公債ノ債票及ヒ息票ハ、償本付息到期ノ日ヨリ海關稅ヲ除クノ外、一切租稅ヲ完納シ、及ヒ其ノ他ノ種々ナル現款ノ用ニ代ユルヲ得

第十條　此項公債ハ銀行ノ保證準備金ト爲スヲ得
第十一條　此項公債ハ隨意賣買抵當スルヲ得、其ノ他公務上ノ保證金ヲ交納スベキ時ハ、擔保品ト爲スヲ得
第十二條　此項債票ノ經理人員ハ此項債票ニ對シ若シ信用毀損ノ行爲アレハ內債信用妨害懲罰令ニ依照シ分別シテ懲罰ス
第十三條　此項公債章程ハ令准ノ日ヨリ施行ス

外人顧問

中國銀行ハ嘗テ外人顧問ヲ入レタルコトアリ、則チ民國二年ノ頃ニハ伊太利人「パイシユリー」ナルモノヲ以テ稽査員トシ、又英人「ムーン」ヲ以テ司賬員トナシタルコトアリシガ、民國五年七月徐恩元ノ同行總裁タル時英人「ルクス」ヲ入レテ其副經理トナセリ、之レニ關シテハ當時株主其他ヨリ反對アリシガ、程ナク其反對論モ終熄セリ、該副經理雇聘ノ契約文次ノ如シ。

契約書

中華民國五年七月十日即チ西曆一九一六年七月十日中國銀行(以下中國銀行若シクハ其讓受銀行、繼承銀行ヲ以テ本行ト稱ス)トルクス(以下該聘員ト稱ス)トノ間ニ契約ヲ締結スルコト左ノ如シ、中國銀行ハ外人一名ヲ聘シテ副經理ニ充テンコトヲ希望シ、該聘員ニ之レニ當ランコトヲ請ヒ、該聘員ハ下記各項ニ從ヒコレニ充當スルコトヲ諾セリ
第一條　本行ハ下記各條ニ從ヒ該聘員ヲ聘任シテ本行副經理トナサントシ、該員已ニ同意ヲ表シテ聘ニ應ズルコトヽナレリ
第二條　該聘員ハ總裁或ハ副總裁ノ命ニ從ヒ何處分行ニ論ナク前往シテ辦事ス
第三條　契約期限以內ニ於テ該聘員カ本行ニ於テ服務スル間ハ他行ニ於テ職ヲ兼ヌルヲ得ズ、又他公司行號ノ職員或ハ出資社員タルヲ

得ズ、又或ハ直接間接ニ其業務ヲ經理スルヲ得ズ、但シ特ニ總裁副總裁ノ許可ヲ得テ辦理スルモノハ此限ニアラズ

第四條　該聘員ノ就任期限ハ一九一六年七月十日ヨリ五年間ヲ以テ限トナシ、期滿ツルノ後ハ兩者孰レカニ於テコレヲ廢棄セントスル時ハ契約滿期前六ケ月ニ於テ通知スベク、若シ通知セザル時ハ本契約ハ依然有効ニ五ケ年間繼續存在スルモノトス、但シ契約ヲ修正セントスル時ハ双方ヨリ商酌辦理スベシ

第五條　本契約期限滿了ノ時更ニ之レヲ繼續スル時ハ、該聘員ハ五ケ月ノ休暇ヲナスヲ得ベク、並ニ歐洲又ハ米國ニ赴ク時ハ其一回分ノ一等ノ船車賃ヲ給セラルベシ、此五ケ月ノ休暇中ニ於テモ銀行ハ依然俸給ヲ支拂フベク、若シ其休暇五ケ月以上ニ渉ル時ハ其以上ノ分ニ對シテハ之レヲ支拂フニ及バズ

第六條　該聘員盡職辦事スレバ本行ハ年俸英金三千磅ヲ給シ、毎月其十二分ノ一即チ英金二百五十磅ヲ給スベシ、此項ノ俸給ハ一九一六年七月十日ヨリ起リ毎月末ニ支拂フベシ

第七條　本行ハ別ニ該聘員ニ家賃及醫藥等ノ費毎年英金一千磅ヲ給スベク毎月其十二分ノ一即英金八十三磅ヲ支拂フベシ、若シ該聘員一分行ヨリ他行ヘ赴ク時ハ船車賃及途中雜費ハ本行ヨリ發給ス、病氣休暇及出張旅費等ノ件ハ本行章程ニ照シテ辦理ス

第八條　凡ソ行内各事ニ關シテハ該聘員ハ應ニ本行管理及其他上級員ノ指示ニ從ヒテ辦理シ並ニ敬謹遵從シテ稍モ玩視スベカラズ

第九條　該聘員ハ應ニ竭誠盡力其盡スベキノ職ヲ盡スベク、又本行各項行員取締章程ヲ遵守シ、且其職務上ノ秘密ヲ漏ラスコトナカルベシ

第十條　本契約ハ英支文各二部ヲ作製シ兩者ノ記名調印ヲ經テ一部ヲ本行ニ保管シ一部ヲ該聘員ニ於テ保存シテ證トナス他日本契約ニ關シ爭執ヲ生シタル時ハ英支文兩者ヲ以テ根據トナスベク兩者ハ毫モ異ラザルモノナリ

交通銀行

交通銀行ハ光緒三十三年、前淸郵傳部ノ設立セシ所ニシテ、其設立ノ理由ハ當時ノ郵傳部ノ上奏ニヨリテ明カナルガ、前淸郵傳部官制第一條ニヨレバ、郵傳部ハ全國ノ輪船、鐵道、電信、郵便ノ四政ヲ管理ス、且ツ總テ京外ニ在ル官私ノ汽船鐵道會社及ビ電信局、郵便局タルヲ論ゼズ、並ニ本部ノ關渉スル各學堂ハ、皆本部ノ統轄考案スルモノトス云々トアリ、卽チ郵傳部ハ我ガ遞信省ニ該當シ、專ラ國內ノ交通事務ヲ管理スルモノニシテ、其ノ施政ノ當否ハ支那經濟社會ニ影響ヲ及ボシ、實業ノ振不振ノ岐ルル所ニシテ、交通ノ完備ヲ期シ、實業ノ發展ヲ計ラント欲セバ、宜シク自國ノ資本ヲ以テ之ヲ經營シ、外資ヲ借リテ利權ヲ外溢スルニ至ル如キ、愚ヲ學ブ可カラズ、卽チ郵傳部ハ本部ノ目的ヲ遂行セント欲セバ、經營ノ中介者タル機關銀行ヲ設立シ、資金ヲ豐富ニシテ、商民ノ投資ヲ助ケ又自ラ經營スルヲ以テ良策トナシタルモノニシテ、交通銀行設立ノ動機ハ實ニ玆ニ胚胎シタリ。

光緒三十三年ノ郵傳部ノ上奏文ヲ見ルニ曰ク「臣部ノ管轄スル汽船、鐵道、電信、郵便ノ四政ハ、實業ヲ振興シ利權ヲ囘收スルヲ以テ目的トスルモノナリ、外資ヲ以テ敷設スル鐵道其他企業ニ就テ見ルニ、其資金ノ如キ彼ニ盈剩シ、此ニ窮絀ナルモ、相互ニ挹注スルコト能ハザルヲ以テ、各商港ニ在ル外國銀行ハ、資金ノ貸與ニ競進シ、度支部ノ大淸銀行ノ如キハ、到底之ニ當ル能ハズ、故ニ郵傳部

ハ交通企業振辦ノ目的ニ副ハンガ爲メ、官商相聯合シ、廣ク資金ヲ籌集シテ、銀行ヲ設立シ、四政ノ振辦ニ力ヲ盡サヾルベカラズ」云々ト、之レ即チ本銀行設立ノ目的ナリ。

當時郵傳部ハ京漢鐵道ノ囘收ニ從事シ、資金ヲ要スルコト甚ダ多ク、然カモ出納ヲ司リ公債ヲ發行スル等ハ、其ノ機關銀行ニ擔任セシムルヲ便トシ、然ラザル時ハ郵傳部自ラ其衝ニ當リ、其煩ニ耐エザルモノアルノミナラズ、銀行トノ關係ナケレバ、種々ノ障害ヲ蒙ル可シ、觀ズレバ東西ノ各國ハ、營業ノ官私ヲ論ゼズ、銀行ヲ大都名邑ニ設ケ、多キハ八百數十ケ所ニ達セリ、而シテ中央政府ノ定ムル法規ヲ遵守シ、中央銀行ト相並ビテ、悖ル所ナシ、國內ニハ銀行愈々多ク、交通ハ益々完達シ、官私ノ事業共ニ大ニ利益ヲ享受スル狀態ナリ、支那ニ於テモ近頃各港ノ資金富有ノ商賈ハ屢々日本興業銀行ノ規程ニ倣ツテ、銀行ヲ設立センコトヲ請願シ、利權ノ外溢ヲ杜ガントシ、其辦法ヲ詳察スルニ最モ時機ニ合セリ、實ニ交通銀行ヲ設立スルノ好機ニ非ラズヤ、宜シク外國ニ倣ヒ、此種ノ銀行ヲ設立シ、實業ノ發展ニ資スベシト、之レ本銀行設立ノ直接ノ原因ナリ、以上ノ如クシテ上奏シタル結果、遂ニ設立ノ認可ヲ得、交通銀行ノ設立ヲ見ルニ至レリ。

交通銀行ハ資本金五百萬兩トシ、之レヲ五萬株ニ分チ、一株ノ額面ヲ百兩トナセリ、郵傳部ハ二萬株即チ二百萬兩ヲ引受ケ、其餘ノ殘株三萬株ハ、廣ク一般商民ヨリ之レヲ募集シタリ、然レ共民間ノ募集意ノ如クナラズ、遂ニ郵傳部ニテ四萬株ヲ引受ケ、四百萬兩ヲ拂込メリ、而シテ其ノ創立ノ趣意ガ

前述セルガ如ク、交通機關ヲ完全ニシテ、汽船、鐵道、電信、郵便ノ四政ヲ振興スルニアリ、從ッテ其營業モ之ヨリ推知スルコトヲ得ベク、交通銀行則例ニヨリテ、同行ノ營業ヲ區別スルトキハ、特別營業、普通營業ノ二トナスコトヲ得ベク、普通營業トハ普通商業銀行ノ營業事項ト同ジク、預金、抵當貸付、地金銀ノ賣買、爲替、商業手形ノ割引、代金取立、重要物件ノ保護預ヲナシ、而シテ商業銀行章程ニ從フモノトナス。

次ニ特別營業トハ交通機關回收ニ對スル資金ノ投資、或ハ投資籌金事務其一ニシテ、兌換券ノ發行事務ハ其二ナリ、兌換券ノ發行ニ關シテハ、該行章程第十七條ニ明記シテ曰ク、『本行ハ京外ノ銀號及ビ各國銀行ノ印刷發行シテ流通セシムル銀貨兌換券、卽チ百元、五十元、十元、五元、一元ノ五種、及ビ各銀號ノ該地ノ市價習慣ニヨリ一定ノ重量、純分ヲ有スル各種銀票（以上五種以外額面ヲ異ニスル銀元兌換券ナリ）等ニ倣ヒ發行權ヲ有ス、但シ本行ノ發行スル兌換券ハ、國幣タル能ハズ、且ツ度支部ガ國幣兌換券ヲ發行シ、各市場ニ於ケル銀號及ビ各國銀行ノ兌換券發行ノ禁止ヲ實行スルニ及ビテハ、本行ハ其發行スル兌換券ハ、卽チ各市場ニ於ケル銀號及各國銀行ト同ジク、度支部ノ發行スル收回規則ニ照シテ回收スルモノナリ』ト、尙其ノ兌換券發行ニツキ當時ノ郵傳部尙書陳璧ノ言ニヨレバ、「清國ハ由來貨幣ノ不統一ニシテ、各種貨幣錯雜セル、未ダ各國ノ古今ニ於テモ見ル能ハズ、而シテ一方清國ノ交通機關ハ、本部ニ於テ極力盡瘁其完備ヲ期セントス、然ルニ貨幣ハ依然トシテ、各地同一ナラザランニハ、汽船、鐵道、

電信、郵便等ノ會計事務ニ尠少ナラザル影響ヲ波及スベシ、故ニ交通銀行ヲシテ兌換券ヲ發行シ、鐵道沿線地方ノ流通貨幣ヲ統一セシメ、其利便ヲ計ラザル可ラズ」云々ト、更ニ又外人ノ手中ニ歸セシ交通機關ノ囘收ニ對スル資金ノ供給、及籌集事務ハ、本行ノ最モ主眼トスル事業ニシテ、抑モ郵傳部ガ本行ヲ創立スルニ至レル原因ハ、前述セシガ如ク、交通機關ノ經營ハ、地ヲ擧ゲテ各外國人ノ手ニ行ハレ、利權ノ外人ニ壟斷セラルルヲ慨シ、自ラ之レヲ經營シ、以テ其完備ヲ期シ實業ノ發展ヲ計ルベク、之レガ爲メ先ヅ外國人ノ手ニ歸シタルモノハコレヲ我ガ手ニ收ムベキヲ急務ナリトシ、其資金ヲ供給シ、又ハ新ニ經營セントスルニ要スル資金ノ投資、或ハ籌集ヲナス爲メ、本銀行ヲ設立セシモノナリ、而シテ本行章程ハ營業ノ部ニ規定シテ曰ク『本行ハ京漢鐵道囘收ニ對スル一切ノ預金、送金、及ビ換算事務ヲナス、又京漢鐵道囘收資金ノ募集事務ヲ管理シ、公債ヲ發行シ、郵傳部ノ管理スル汽船、鐵道、電信、郵便等各局ノ預金事務ヲ司リ、郵傳部又ハ商民ガ交通機關ヲ囘收スルニ於テハ、其資金ノ供給ヲ行フモノナリ』ト。

斯クテ當時郵傳部左丞李經邁之レガ總理トナリ、以テ本行創辦ノ任ニ當レリ、後宣統三年商股ヲ四百萬兩ニ增加セントセシモ革命事變ノ爲中止セルガ、李氏亦其開設ニ係ル義善源金店倒閉シ交通銀行ニ多大ノ損失ヲ負ハシメシヨリ、其地位ヲ保ツヲ得ザルニ至リシガ、此機ニ乘ジ一部ノ野心アル株主ハ京津株主會ナルモノヲ設ケ、陸宗輿ヲ擧ゲテ其會長トシ、銀行維持株主利益保護ヲ主張セシモ陸ハ

次イデ遂ニ本行總理タルニ至レリ。

當時革命事變ノ際ニシテ市場ノ金融窮迫セシヨリ本行ハ盛ニ紙幣ヲ發行シテ之レガ急需ニ應ゼシガ其後梁士詒ハ總統府秘書長トシテ且又本行大株主トシテ頻ニ本行ヲ援護シ、交通機關ノ收入ハ擧ゲテ本行ニ預入シ、又外國ヨリスル鐵道借款モ之ヲ此ニ預入シ以テ本行ヲ保護セシカバ、本行ノ勢力次第ニ加ハレリ、實ニ民國二年頃支那國有鐵道ニテハ賃金受取ニ際シ中國銀行ノ紙幣ヲ拒絶シ、交通銀行紙幣ノミ受取リタルコトアリ。

而シテ其後モ梁氏ハ本行ニ對スル後援ヲ吝マズ、交通部ノ鐵道、郵便、電信等各種事業ヲ特別會計トシテ本行ヲシテ之レガ經理ノ任ニ當ラシメ、又本行ヲシテ國庫事務ヲ取扱ハシムルコト、シ、更ニ本行資本ヲ一千萬兩ニ増加シ、内六萬株ハ民有株トシ官憲ノ力ノミニヨリ之レヲ左右スルコトヲ得ザラシムルノ計畫ヲナシ、民國三年四月ニ至リ新則例ノ公布ヲ見タリ、次イデ梁氏ハ遂ニ自ラ本行ノ總理トシテ其全權ヲ掌握スルニ至レリ、該改訂則例次ノ如シ。

交通銀行則例

（民國三年四月七日公布大總統令）

第一條　交通銀行ハ有限責任株式公司トス

第二條　交通銀行ハ本店ヲ北京ニ設置シ各要地ニ支店出張所ヲ設ケ又ハ他銀行ニ代理ヲ訂立セシメ或ハ爲替契約ヲナス但支店出張所ヲ設置或ハ撤廢シ及他銀行ト代理或ハ爲替契約ヲ訂立廢止セントスル場合ハ均シク該銀行職員會ノ決議ニ由リ財政部交通部ニ呈報ヘ

第三條　交通銀行ハ株金總額庫平足銀一千萬兩ニシテ十萬株ニ分チ毎株ハ庫平足銀一百兩トス前郵傳部ガ交通事業進行ヲ補助スル爲メ

ニ四萬株ヲ引受ケ固定資金トナシタルモノヲ除クノ外殘リノ六萬株ハ人民ノ引受ニ依ル交通銀行若シ資本金ヲ増減セントスル場合ハ須ク株主總會ノ議決ヲ經テ財政部交通部ニ呈報シ認可ヲ受クヘシ

交通銀行株ノ原本ハ庫平足銀ニテ定ム但シ幣制公布實施後ハ幣制則例ヲ遵照スヘシ若シ新幣制カ合成シテ細キ奇數ノ生シタル時ハ株主ニ對シテ増減シ得ヘシ

第四條　交通銀行營業年限ハ本則例公布ノ日ヨリ滿三十年間トス但株主總會ノ議決ヲ經テ延期セントセハ交通部財政部ニ向ツテ認可ヲ呈請シ得

第五條　交通銀行株券ハ概ネ記名式ヲ用フ其賣買讓與權ハ別ニ章程ヲ以テ之レヲ定ム但中華民國々民ニ限ル

第六條　交通銀行ノ營業種類ハ左ノ如シ

一、國內外爲替及荷爲替
二、各種預金及貯金
三、各種貸附金
四、國庫證券及商業手形ノ割引
五、外國貨幣ノ交換及地金銀ノ賣買
六、各種手形ノ取立及貴重物件ノ保管
七、其他爲替銀行及實業銀行ノ營業

第七條　交通銀行ハ特別會計ノ國庫金ヲ管掌ス

第八條　交通銀行ハ政府ノ委託ヲ受ケ金庫ヲ分理スルヲ得

第九條　交通銀行ハ政府ノ委託ヲ受ケ外國借款ヲ處理シ及其他ノ事件ヲ承辦ス

第十條　交通銀行ハ前第四條記載ヲ除ク外他種營業ヲ經營スルヲ得ス

第十一條　交通銀行ハ不動產株券貨物類ヲ買ヒ受クルヲ得ス但シ左記事項ノモノハ此ノ限リニ在ラズ

一、營業用地及家屋

二、債務者ヨリ債務償還ノ爲メニ委附賣却或ハ審判決定ニ依ル競賣

第十二條　交通銀行ハ本行株券ヲ抵當トシ又ハ買受クルヲ得ス但債務者カ其債務ヲ延引シ或ハ償還シ能ハサル時其ノ抵當ヲ以テ債務ノ辨償ニ充當スル場合ハ此ノ限リニ在ラス

第十三條　交通銀行ハ政府ノ特許ヲ受ケ兌換券ヲ發行ス其辨法ハ財政部所定ノ銀行兌換券條例ニ依ル但發行樣式數目及期限ハ別ニ銀行ヨリ財政部ニ呈請シテ認可ヲ受クヘシ

第十四條　交通銀行ハ董事取締役五人以上十一人以下ヲ設ケ株主總會ニテ二百株以上ノ株主ヨリ選出シテ財政部及交通部ニ呈報ス任期ハ四年トシ滿了後ニモ再選再任スル事ヲ得

第十五條　交通銀行ハ總理一人協理一人幇理一人ヲ設ク總理ハ四百株以上協理ハ三百株以上ノ株主ヨリ選出シテ交通部ニ呈報シ交通部ヨリ財政部ニ轉牒スルモノトス任期ハ五年ニシテ滿了セハ再選再任スルコトヲ得幇理ハ路政局々長ヲ充任シ交通部ヨリ委派ス

第十六條　交通銀行ノ總協幇理及董事ノ責任權限ハ別ニ章程ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　交通銀行ハ毎年本店所在地ニ於テ一回通常株主總會ヲ開ク若シ特別事項アルトキハ臨時株主總會ヲ開ク事ヲ得株主總會章程ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條　株主總會會員ノ投票權ハ十株毎ニ一票ノ投票權ヲ有ス百株以上ハ五十株毎ニ一權ヲ遞增ス

第十九條　交通銀行ハ毎年營業所得純益中ヨリ須ク十分ノ一以上ヲ提出シテ積立金トス

第二十條　交通銀行ハ須ク營業上ニ關シテノ計算報告書ヲ財政部交通部ニ呈報スヘシ

第二十一條　交通銀行カ如シ本則ニ違背セル處アラハ財政部ハ之ヲ制止スルヲ得

第二十二條　交通銀行ハ須ク本則例ノ主旨ニ依リ原訂ノ章程ヲ詳細ニ改定シテ交通部ニ呈シ財政部ノ立案ニ轉杏スヘシ

第二十三條　本則例ハ公布ノ日ヨリ施行ス

交通銀行ハ元交通企業振辦ノ目的ノ爲ニ設立シタルモノナルコト、其創立ノ際ノ上奏文並章程ニヨ

レバ明カナル處ナルガ、革命後政府ガ財政窮乏スルヤ、本行ヲ以テ政費ヲ得ルノ機關トナスニ至リ、殊ニ又本行ヲ利用セントスル一部政治家アリ、民國二年ノ初メ本行兌換券ハ中國銀行兌換券ト同樣ニ通用セシムルコト、シ、更ニ又其兌換券ヲ廣ク行ハシムル爲メニ各地ニ兌換機關ノ分設ヲ命シ、以テ本行兌換券ヲ發行セシメ政費ノ不足ヲ補ハントスルノ計ヲナシ、更ニ又本行ヲシテ財政部ノ金庫事務ヲ取扱ハシムルコト、シ、次第ニ其特權ヲ加ヘタリ、是等ノ命令ノ全文左ノ如シ。

交通銀行兌換券中國銀行章程ニ照シ辦理ス

銀行チ設クルハ金融ヲ調劑シ市面ヲ維持スル所以ナリ、現在中國銀行業ニ籌備設立チ經、而シテ交通銀行迭ニ整頓チ經、信用昭著ナリ、紙幣則例未ダ規定チ經ザル以前ハ、有ラユル交通銀行發行ノ兌換券ハ、應ニ中國銀行兌換券章程ニ按照シテ、一律辦理セシメ、以テ補助ニ資シ推廣ヲ利ス

民國二年一月十日

國務總理　趙秉鈞
財政總長　周學熙
交通總長　朱啓鈐

交通部ヨリ交通銀行ニ令シテ兌換機關ヲ分設セシメ以テ商民ニ便スルノ文

經濟流通ハ銀行チ以テ樞紐トス、方今金融呆滯幣制紛岐、中央ヨリ方鍼チ確定シ、國幣チ維持シ紙幣ヲ發行スルニ非サレハ、以テ統一チ謀リ恐慌ヲ救フ能ハス、現ニ中國銀行及交通銀行紙幣ハ已ニ大總統ノ命令ヲ奉シテ各一律ニ通用ス、中國銀行紙幣兌換方法ハ、別ニ財政部ヨリ規定シテ施行スルヲ除クノ外、交通銀行ノ發行スル所ノ兌換券ハ準備充足、信用素孚、各大埠業ニ已ニ通行セルモ偏僻ノ

區尙紙幣兌換ノ處ナク、水陸ノ行旅來往貨物ノ轉輸、及發電通郵等毎ニ幣制尙劃一セス、價格參差ナルヲ以テ甚ダ不便トナス、本部客商ニ便利ナラシメ、交通營業ヲ發達セシメンガ爲ニ、該銀行ニ圖リ分行ノ外ニ鐵道、汽船、電報、郵政各處ニアリテ兌換機關ヲ分設セシメ、凡テ現銀ヲ以テ該銀行紙幣ニ兌換セントスルモノモ、該銀行紙幣ヲ以テ現銀ニ兌換セントスルモノモ、均シク該兌換所ニ向ツテ交易セシム、其責任ハ各該管局所之レヲ負ヒ該銀行ニ於テ發行スル所ノ紙幣ハ、兌換ヲ行用シ、實力維持シ、並各該所設クル所ノ分行ト接洽シ、當地市面ノ事情ヲ參酌シテ、一切進行ノ方法ヲ訂定シテ、以テ商民ニ便シ國幣ヲ維グヘシ

民國二年一月十四日

交通總長　朱　啓　鈐

財政部委託交通銀行金庫代理暫行章程　（民國二年五月三十一日財政部令公布）

第一條　本部ハ金庫條例カ未タ國會ノ議決施行ヲ經サル以前ニ、一時交通銀行ニ委託シテ、金庫ヲ代理シ現金出納事務ヲ執ラシム

第二條　金庫條例カ國會ノ議決ヲ經、施行スル時ヲ俟ツテ金庫條例草案第五條ノ規定ニ照シ、中國銀行ニ轉由シテ之ヲ委託スヘシ

第三條　本部ノ交通銀行ニ委託スル範圍ハ、國債收支ノ一部分ヲ以テ主ト爲ス、但シ租税系統内ノ出納モ又各該地ノ情況ヲ酌量シ、交通銀行ニ委託シテ代理セシムルコトヲ得

金庫條例第八條ノ規定ニ依リ、法律契約ノ制限アリテ、交通銀行ノ代理ニ屬スヘキ者ハ、並ニ之ヲ代理セシムルコトヲ得

第四條　金庫ヲ設クヘキ出納區域内ニ、中國銀行アラスシテ交通銀行アラハ、交通銀行ハ其金庫ヲ代理スルノ職權ヲ行フヘシ

第五條　中國銀行アル出納區域内ニ、若シ出納金額鉅多ニ過クルカ、或ハ特別ノ事情ニ遇ハハ、交通銀行ヲ分任代理トスルコトヲ得

前二項ノ代理ハ國債收支ニ限ラス

第六條　特別會計ノ歳出入ニシテ、法律契約ニ別ニ規定スルモノヲ除ク外、交通銀行ハ中國銀行ニ代リテ、金庫管理ノ職權ヲ行ヒ、財政總長、交通總長ヨリ特別會計出納管理ノ官吏ヲシテ、有ユル金額ヲ統ヘテ、交通銀行ニ收納交附セシムルコトヲ得

第七條　特別會計ト國債ノ收入支出トハ、兩部ニ劃分スヘク、並ニ銀行ノ營業收支ト相混スルヲ得ス

第八條　本部收入ノ金額ハ、特別會計ヲ除ク外善後借欵ト善後借款ニアラサルモノトニ別チ、交通銀行ニ通知シテ別ニ帳簿ヲ作ラシム

第九條　支出金額ハ特別會計ヲ除ク外、某項內ヨリ支出スヘキヲ明記シ、交通銀行ハ即チ之ニ從フテ處理ス

第十條　收發金額カ外國貨幣、地金銀及ヒ平色異ナルモノナル時ハ、其賣買價格ヲ銀元ニ換算スルニ先チ、本部庫藏司ト價格ヲ商訂シタル後記帳スヘシ

第十一條　金庫各種ノ帳簿ハ本部ニテ之ヲ訂定ス、惟タ訂定セサル以前ハ、一時交通銀行ヨリ呈報シテ採用ス

第十二條　交通銀行ハ五日ニ一收支報告ヲ造リ、月末每ニ一月計表ヲ造リテ、本部庫藏司ニ送リ査核ニ供フヘシ

第十三條　財政總長ハ何時テモ、吏員ヲ派シテ金庫代理ニ關渉スル帳簿、現金及ヒ有價證券ヲ檢査セシムルコトヲ得

第十四條　交通銀行ハ金庫　理ノ職權ニ依リ、兌換券ヲ發行スルコトヲ得、其ノ發行額ハ市面ノ狀況ニ照ヲシテ之ヲ伸縮スヘシ、但シ財政總長ニ呈報シ檢准ヲ得ヘシ

第十五條　本章程ハ公布ノ日ヨリ施行ス

第十六條　本章程ハ金庫條例カ國會ノ議決ヲ經テ、施行スル時ヲ俟ツテ、即時適宜ノ法ニ據リ酌量シテ改訂ス

革命後支那政府ガ財政困難ニ陷ルヤ、本行ガ政府ト關係アルヨリ、各機關頻々本行ヨリ借上ヲ行ヒ本行ハ其資金ナキヨリ紙幣ヲ濫發シテ之ニ應ジ、遂ニ收拾スベカラザルニ至ルヤ、民國五年五月十二日ヲ以テ本行紙幣ノ兌換ヲ停止シ、爾來本行ノ業務ハ全ク不振ニ陷レリ。

兌換停止ノ命アルヤ、本行當局ハ大ニ周章シ、種々善後ノ措置ヲ講ゼントセシモ、政府ニ對スル貸付非常ニ多ク、而カモ其ノ償還ハ到底望ムベカラザルヲ以テ、何等適當ノ救濟策ヲ發見スルコト能ハザリキ、今同行ノ調査ニ係ル每年末ノ政府ノ未拂金額、及ビ民國五年五月現在ノ政府各機關ノ借上金高次ノ如シ。

政府各機關歷年未濟金額表

元年六月末計算　存京公足二十二萬三千二百七十三兩八錢一分
　欠大洋　一萬三千六百九十三元四角八分
元年十二月末　存京公足四萬三千八百四十一兩二錢六分
　存大洋　六十萬〇二千三百六十一元五角九分
二年六月末　存京公足六百八十三萬六千一百九十八兩一錢六分
　欠大洋　一百三十二萬九千二百四十六元五角九分
二年十二月末　欠京公足三百四十六萬七千九百〇五兩二錢七分
　欠大洋　一百十五萬六千〇〇七元五角
三年六月末　欠京公足九百六十萬〇四千七百八十五兩七錢二分
　欠大洋　四百九十一萬八千〇三十一元
三年十二月末　欠京公足八百十五萬五千六百八十兩〇四錢七分
　欠大洋　一千〇七十五萬七千七百八十二元九角
四年六月末　欠京公足七百八十五萬四千九百五十兩〇六錢三分
　欠大洋　一千二百八十四萬七千一百〇七元八角
四年十二月末　欠京公足四百八十八萬〇二百六十兩〇三錢七分
　欠大洋　一千〇二十一萬八千五百二十七元五角
五年七月末　欠京公足六百四十八萬三千三百十六兩七錢八分
　欠大洋　二千〇四十六萬四千九百六十七元一角四分

政府各機關借上金（民國五年五月調）

機關	金額
財政部	二四、五〇〇、〇〇〇元
交通部	六、六四〇、〇〇〇
內務部	二一〇、〇〇〇
財政部	三、九一〇、〇〇〇兩
海軍部	八五、〇〇〇元
參謀本部	一六六、〇〇〇
教育部	一八三、〇〇〇
陸軍各師	九四、〇〇〇
毅軍	一三、〇〇〇
鹽務署	六〇〇、〇〇〇
湖南省	八〇〇、〇〇〇
黑龍江省	三〇〇、〇〇〇
湖北省	四〇〇、〇〇〇
熱河	二〇〇、〇〇〇
河南省	五〇〇、〇〇〇
吉林省	三〇〇、〇〇〇
廣東省	九〇〇、〇〇〇
督辦全國石油鑛事務所	六二〇、〇〇〇

禁衛軍	四、〇〇〇
講武堂	二四、〇〇〇
奉天省	一、〇〇〇、〇〇〇
安徽省	五〇〇、〇〇〇
四川省	五〇〇、〇〇〇
江蘇省	八〇〇、〇〇〇
察哈爾	一〇〇、〇〇〇
陝西省	五〇〇、〇〇〇
綏遠	二〇〇、〇〇〇
其他	八〇〇、〇〇〇
合計	四六、一四〇、〇〇〇元餘

尙次ニ同行支店所在地名ヲ表示セン。

京兆　北京　通縣　海甸
直隷　天津　唐山　勝芳　保定　灤縣　順德
山東　濟南　煙臺　濟寧　棗莊　龍口
江蘇　上海　南京　無錫　徐州　楊州　鎭江　蘇州　淸江
浙江　杭州
江西　南昌　九江

湖南　長沙
安徽　安慶　蚌埠　蕪湖　宣城
四川　重慶
湖北　漢口　宜昌　沙市
河南　開封　鄭縣　周家口　信陽　漯河　彰德　道口　新鄉　焦作　歸德
東三省　長春　奉天　營口　哈爾賓　吉林　黑龍江　綏化　呼蘭　錦縣　孫家臺　鐵嶺　遼源
西豐
山西　大同　石家莊
察哈爾　張家口　豐鎭
綏遠　歸化城
熱河　赤峰　朝陽
海外　新嘉坡　香港

營業成績

歷年資產負債表

資產之部（單位兩）

年次	定期貸付	當座貸付	他店勘定	引受手形	現金
元年	一、〇五七、六二一	—	一五、〇四九、四五六	一三三、八九七	四六五三、三四三
二年	六、七九三、一六四	三〇、一二〇、三七〇	一〇、三三五、一四〇	一、三一三、七七三	八、七四七、五一八
三年	八、九七四、九三三	一八、四〇一、六三三	一四、六五二、一八五	一、一五〇、四五五	一四、七三七、八〇七
四年	二四、四〇〇、五九六	一九、一八八、四四九	一五、五五六、五四三	一、四〇六、二七三	一五、八一三、三五三
五年	二一、五四七、七三五	二〇、三二一、〇五一	一九、二三三、八〇〇	一、一二八、六三四	九、七五二、四八二

負債之部（單位兩）

年次	定期預金	當座預金	發行紙幣	社債	純益
元年	五、八三九、一七三	八、五六三、六三五	七九三、五五八	一三四、三三〇	一七〇、五六三
二年	八、八二一、四一七	二六、六一一、二三九	四、四九八、七六二	二〇〇、二五七	四一五、四〇七
三年	一二、九九七、五六七	三六、〇五五、一〇九	五、九五七、六二七	六一九、四七六	一、六七六、八七五
四年	一三、四〇六、五〇五	三四、〇八二、八八一	二四、八六三、一一〇	一、一一九、九二七	二、〇〇一、八四[illegible]
五年	一〇、六九七、六九七	一五、〇九四、一五五	二一、二九七、八九一	一、一一九、九三七	九八七、五二六

一九一六年五月二十八日、北京ニ於テ開催セラレタル同行株主總會席上同行頭取梁士詒ガ一九一五

年度同行營業成績ニ關シテ報告セル處次ノ如シ。

（イ）純益增加　民國四年度（一九一五年）ノ純益ハ二百餘萬兩ニ達シ、三年度ニ比シテ四十餘萬兩ノ增加ヲ示シタリ、就中爲替收益其大半ヲ占メタリ、貸付金利息亦三年度ニ比シ增加シタリ。

（ロ）株主配當額增加　三年度ハ重役會議ヲ經テ定率配當以外ニ三分ノ普通配當ヲ爲シタルガ、四年度ハ更ニ純益多カリシヲ以テ、重役會議ヲ經テ、積立金ヲ純益ノ二割五分トシ定率配當六分、普通配當六分（卽チ株主配當一割二歩トナル）ノ配當ヲナス事トセリ。

（ハ）支店及代理店ノ增設　四年ニ入リ四川省重慶ニ支店ヲ新設シ、又爲替取扱所十一ケ所ヲ設ケタリ、山東省龍口、安徽省安慶、宣城、合肥、運漕、東三省錦縣、掏鹿、遼源、熱河、特別行政區域內ノ新集、赤峰、灤縣（舊灤平縣）ナリ。

（ニ）帳簿整理　各本店支店代理店等ヲ督シテ、舊債權債務ノ整理ヲナサシメタルガ、舊帳簿ノ上ニ現ハレタルモノニシテ已ニ整理シタル數收支合セテ二百二十餘萬兩ニシテ、決濟ノ期遠カラザルベシ、尙兌換停止ノ際目前ノ急務トシテ次ノ諸項ヲ採用スルニ決セリ。

（一）紙幣價格ノ維持　（二）商人ノ營業ヲ援助ス　（三）爲替料免除　（四）預金利子引上　（五）小銀貨銅貨鑄造增加　（六）兌換所（紙幣ヲ銅貨ニ兌換スル）增設

次ニ同行一九一五年度（民國四年度）ノ決算報告ヲ左ニ示ス（兩以下略）

資產負債表

資產ノ部

	庫平足銀兩
公稱資本	一〇、〇〇〇、〇〇〇
定期預金	一三、四〇六、五〇五
當座預金	三四、〇八二、八八一
諸種預金	一、五五三、九八三
紙幣發行高	二四、八六三、一一〇
支拂爲替手形	一、〇〇六、三五七
未拂利息	二六五、五七八
定率配當	三〇〇、〇〇〇
普通配當	三〇〇、〇〇〇
積立金	一、一一九、九三七
次期繰越金	一、一〇六、三三〇
手當及賞與	三六〇、四一四
本期純益金	五四〇、九六七

合計	八八、九〇六、〇六七

負債ノ部

科目	金額
未拂込資本	五、〇〇〇、〇〇〇
貸付金	一四、〇〇〇、五九六
荷爲替手形	一、四〇六、二七三
其他貸出金	八〇四、八七六
諸銀行當座預金	一五、二五六、五四三
當座貸越金割引手形及立換金等	一九、一八八、四四九
兌換準備金	一五、〇七〇、七〇六
現金在高	一五、八一三、三五三
買入爲替手形	一、二九八、六九〇
未收入利息	三四三、六四三
營業什器償却	二二、九三三
合計	八八、九〇六、〇六八

損益計算表

收入ノ部

科目	金額
貸付金利息	一、一五九、七七五
爲替賣買益	一、五六四、九六九
手數料	六二、〇〇〇

科目	金額
合計	二、七八六、七五六

支出ノ部

科目	金額
俸給	二〇七、八八三
諸賄料	九〇、五三六
通信料及筆墨費	五六、一一六
借家及保險料	三五、四五八
營業什器償却	二一、八三〇
紙幣印刷費	七五、六三一
諸雜費	二二八、九五四
總管所經費	五五、六五六
辯護士手當	一二、八四五
定率配當	三〇〇、〇〇〇
普通配當	三〇〇、〇〇〇
積立金	五〇〇、四六〇
手當及賞與金	三六〇、四一四
純益金	五四〇、九六七
合計	二、七八六、七五六

日本借款

交通銀行ハ政府ニ對スル貸上金莫大ニ達シ、殊ニ一度兌換停止ノ擧アリショリ、信用失墜シ、殆ンド營業休止ノ如キ有樣ニシテ、其ノ前途暗澹タルモノアリシガ、大正六年二月我ガ國ノ興業、臺灣、朝鮮ノ三銀行ヨリ五百萬圓ノ借款ヲ行ヒ、以テ其ノ整理發展ヲ策シ、更ニ次デ同年八月二千萬圓ヲ借款シ、邦人ヲ入レテ顧問トナシ、業務ノ振興ヲ圖リツヽアリ、其ノ第一次借款契約文要旨次ノ如シ。

中華民國交通銀行（下ニハ甲ト稱ス）ハ、業務整理ノ爲メニ起見シ、日本國株式會社日本興業銀行、株式會社臺灣銀行及朝鮮銀行三銀行ヨリ合組シ、株式會社日本興業銀行ヲ以テ代表ト爲スノ銀行團（下ニハ乙ト稱ス）ニ向ツテ、日金五百萬圓ヲ借リ有ユル訂立契約條件左ニ開列ス。

第一條　借款金額ハ日本金五百萬圓トス

第二條　借款期限ハ本契約調印ノ日ヨリ起算シ滿三年ヲ以テ限リトス即チ民國九年一月十九日ニ至ツテ滿期トス

第三條　借款利息ハ年七分五厘即チ日金一百圓ニツキ七圓五十錢ヲ核算付給ス

第四條　第一回ノ利息支拂ハ借款金額交付ノ日ヨリ起リ民國六年七月十九日ニ至リ止ト爲シ日ヲ按シテ核算シ期ニ先ツテ交付シ以後每年七月三十日及ヒ一月三十日ニ於テ期ニ先チテ半年ノ利息ヲ交付ス

第五條　乙ハ本契約第十條記載ノ擔保品收到後借款金額（第一回ニ於テ差引クヘキ利息ヲ除ク）ヲ東京ニ在テ甲ノ代理人ニ交付スヘシ

第六條　甲ノ代理人カ前條ノ借款金額全部ヲ收到セル時ハ存款ト爲シテ乙ノ銀行ニ存入シ隨時提用スヘシ

甲ノ代理人ハ前項存款ノ條件及ヒ滙款方法ニ關シ東京ニ在ツテ乙ト協定スヘシ

第七條　此項ノ借款ハ全部實數交款トシ決シテ割引及ヒ手數料ナシ

第八條　此項借款將來ノ還欵及ヒ付息ハ均シク東京ニ在ツテ辦理ス

第九條　此項ノ借款ハ滿期前ニ於テ甲ハ全部償還スル事ヲ得唯タ須ラク三ケ月前ニ於テ豫カシメ聲明ヲ行フヘシ

第十條　甲ハ還本付息ヲ擔保トスル爲メニ起見シ左列物件ヲ提供シテ擔保品トナス
一、隴秦豫海鐵路債券額面一百三十萬元
二、中國政府國庫債券額面四百萬元
三、中國政府ノ交通銀行ニ對スル債務證書額面二百四十二萬五千六百八十七元六角八分
第十一條　甲ハ前條擔保品全部ヲ交付スルニ當リ委任狀ヲ作成シ北京ニ在ツテ乙ニ交付シ收執セシムヘシ
乙ハ前條擔保品收到ノ時ニ於テ寄存證書ヲ作成シ甲ニ交付スヘシ
第十二條　甲若シ期ニ到ツテ元金ヲ返濟シ利息ヲ交付スル能ハサルトキハ乙ハ第十條所載ノ擔保品ヲ以テ乙ノ隨意ニ處分シ以テ還本付息ノ用ニ充ツルコトヲ得
第十三條　甲ハ本借款契約期間内ニ於テ外國ヨリ資金借入ノ必要アルトキハ先ツ乙ニ向ツテ合意ノ條件ヲ以テ商議ヲナスヘシ
第十四條　本契約ハ甲ヨリ中國政府ニ呈明登記スルモノトス本契約ハ漢文日本文各二通ヲ作成シ簽明蓋章シ甲乙各一通ヲ執リ據トナス
中華民國六年一月二十日

勸業銀行

勸業銀行ハ支那政府ノ計畫シタルモノニシテ、財政、農商兩總長合同シテ、勸業銀行條例ヲ擬定シ、袁大總統ノ批准ヲ經テ、民國三年五月之レヲ公布セリ、當時兩總長ノ呈文ニ曰ク、我國地大物博夙ニ天府ノ稱ヲ擅マニス、惟農工各業小成ニ囿ラレ、未ダ規模ヲ宏大ニシ、營業ヲ擴充スル能ハズ、是レ資本薄少ニシテ農林、墾牧、水利、工礦等ノ事業發展セザルニ由ルナリ、而モ國內ヨリ環顧スルニ、金

融機關既ニ未ダ徧ク設ケラレズ、農工ノ貸借尤モ苦ム、遂ニ地未ダ闢クヲ得ズ、富源大ニ興ル能ハズ國計民生胥キテ其困ヲ受クルヲ致ス、宜シク速ニ銀行ヲ特設シテ、藉リテ以テ實業ヲ勸導スベシ云々ト。

其條例ハ之レヲ次ニ示セルガ、其要ハ資本金五百萬元ノ株式會社トシ農林、牧畜、開墾、水利、鑛業、工業ニ投資スルヲ目的トシ、更ニ又勸業債劵ノ發行ヲナシ、財政部ニ於テ五分ノ配當保證ヲ與フルニアリ、然カレドモ其後未ダ具體的ニ銀行ノ設立ニ着手セラル、ニ至ラザルガ、民國六年、當時本案計畫者タリシ梁士詒ハ、日本ニ遊ビ本銀行設立ニツイテ研究スル處アリタレバ、或ハ近ク其設立ノ運トナルベキカ。

勸業銀行條例（民國三年五月十六日政府公報公布）

第一章　總則

第一條　勸業銀行ハ農業牧墾水利礦産工廠等ノ事業ニ投資スルチ以テ目的トス

第二條　勸業銀行ハ股分有限公司（株式會社）トス

第三條　勸業銀行ノ資本金總額ハ五百萬元トシ五萬股（株）ニ分チ一株ヲ百元トス

前項ノ資本總額ハ股東會（株主總會）ノ議決ヲ經財政部ノ裁許チ得タル後之レヲ增加スル事チ得

第四條　勸業銀行ノ營業年限ハ開業ノ日ヨリ起算シ滿六十年ヲ以テ期限トシ期限滿了後モ股東會ノ議決ヲ經財政部ノ裁許チ得タル場合ハ之レヲ延長スル事チ得

第五條　勸業銀行ハ總行（本店）ヲ北京ニ置ク

第二章　營業

第六條　勸業銀行ノ投資ハ左記各項ヲ以テ限度トス

一、水利ニ關スル投資

二、森林ニ關スル投資

三、墾牧ニ關スル投資

四、礦業ニ關スル投資

五、工廠ニ關スル投資

第七條　前條ノ投資方法ハ左ノ如シ

一、分年償還法ヲ用ヒ不動産ヲ以テ抵當ト爲ス其償還期ハ十年ヲ逾ユル事ヲ得ス

二、定期償還法ヲ用ヒ不動産ヲ以テ抵當ト爲ス其償還期ハ五年ヲ逾ユル事ヲ得ス

第八條　銀行ノ定期償還ノ投資總額ハ分年償還投資總額ノ十二分ノ一ヲ逾ユル事ヲ得ス

第九條　勸業銀行ノ受入ルヘキ投資抵當ハ第一次抵押（一番抵當）ヲ以テ限度トス

第十條　第七條ノ抵當ト爲ス不動産ハ永續的確實ノ收益アルモノニ限ル

前項ノ不動産カ房屋（家屋）ナル場合ハ保險ニ付シタルモノニ限ル但シ房屋ヲ抵當ト爲スヲ除ク外如シ房屋ト同等價格ノ動産又ハ不動産ヲ以テ抵當ヲ增加スル時ハ此ノ限リニアラス

第十一條　不動産ヲ抵當ト爲ス投資總額ハ銀行評價格總額ノ三分ノ二トス

第十二條　房屋ヲ抵當ト爲ス投資ノ總額カ銀行評價格ノ三分ノ一ナル時ハ銀行ハ抵當ノ增加ヲ要求シコレ以上投資ヲ爲ス事ヲ得ス

第十三條　分年償還ノ投資ハ投資ノ日ヨリ起算シ五ケ年内ニ利息ノ償還ヲ爲シ元本ヲ償還セサル事ヲ得

但シ五年以後ノ元利共毎年ニ分チ償還スル事ヲ要ス

第十四條　債務者カ投資五分ノ一以上ヲ償還シタル時ハ償還額ニ應シ抵當ノ一部解除ヲ要求スル事ヲ得其殘額ニ對シテモ亦同シ

第十五條　債務者カ分年償還ノ義務ヲ履行セサル時ハ勸業銀行ハ其ノ時又ハ償還期內ニ於テ隨時全部ノ償還ヲ要求スル事ヲ得

第十六條　勸業銀行ハ抵當物價格低額ノ時ニ於テハ抵當ノ增加ヲ要求スル事ヲ得

債務者カ前項ノ要求ニ應セサル時ハ勸業銀行ハ其時又ハ償還期內ニ於テ隨時全部ノ償還ヲ要求スル事ヲ得

第十七條　抵當ノ不動產全部カ土地收用法ノ施行ニ因リ收用セラレタルトキハ勸業銀行ハ其時又ハ償還期內ニ於テ隨時全部又ハ一部ノ償還ヲ要求スル事ヲ得如シ債務者カ收用保證金ヲ供託セハ其全部又ハ別ニ相當ノ不動產ヲ以テ抵當ヲ增加スル時ハ此ノ限リニアラス

第十八條　勸業銀行ハ地金銀又ハ有價證券ノ代理保管ヲ爲ス事ヲ得

第十九條　勸業銀行ハ農業銀行工業銀行ノ債券ヲ購買スル事ヲ得

第二十條　勸業銀行ハ如シ餘裕アルモ國庫債券又ハ地方債券ヲ購買スルヲ除ク外之レヲ使用スル事ヲ得ス

第二十一條　勸業銀行ハ本條例ニ規定ナキ業務ヲ營ム事ヲ得ス

第三章　職員

第二十二條　行長ハ勸業銀行ヲ代表シ銀行業務ヲ總理ス

第二十三條　副行長ハ行長ヲ補佐シ勸業銀行章程（定款）ノ定ムル所ニ依リ銀行業務ヲ掌理ス

行長事故アリ又ハ缺席ノ時ハ副行長其職ヲ代理ス

第二十四條　行長副行長ハ股東會（株主總會）ニ於テ三百株以上ノ股東中ヨリ之レヲ選任ス但シ財政部ノ裁許ヲ經ルヲ要ス

第二十五條　董事ハ勸業銀行章程ノ定ムル所ニ依リ銀行事務ヲ分掌ス

第二十六條　董事ハ股東會ニ於テ百股以上ノ股東中ヨリ之レヲ選任ス其任期ハ六年トシ任期滿了スルモ亦留任スル事ヲ得

第二十七條　監事ハ銀行業務ヲ監査ス

第二十八條　監事ハ股東會ニ於テ五十股以上ノ股東中ヨリ之レヲ選任ス任期ハ三年トシ任期滿了スルモ亦留任スルヲ得

第二十九條　行長副行長及董事ハ任期中ニ於テ他ノ職務ヲ兼任スル事ヲ得ス且ツ商業ヲ經營スル事ヲ得ス但シ財政部ノ許可ヲ得タル時ハ此ノ限リニアラス

第四章　股東會

第三十條　股東會ヲ分ツテ通常股東會及臨時股東會ノ二ト爲ス

第卅一條　通常股東會ハ毎年總行所在地ニ於テ一回開會シ勸業銀行々長ニ於テ之レヲ召集ス

第卅二條　勸業銀行々長カ重要事件アリテ會議ノ必要アリト認メタル時及董事或ハ監事ノ全體又ハ股分全部ノ五分ノ一以上ヲ占有スル股東カ重要事件ニ因リ會議ヲ請求シタル時ハ臨時股東會ヲ召集スル事ヲ得

第卅三條　股東カ事故有リテ出席シ能ハサル時ハ代理人ヲ委任スル事ヲ得但シ同シク股東タルヲ要ス

第五章　勸業債票(債券)

第卅四條　勸業銀行ハ資本金拂込ミ四分ノ一以上ナル時ハ勸業債票ヲ發行スル事ヲ得但シ資本金拂込總額ノ四倍ヲ超過スル事ヲ得ス且ツ分年償還ニ投資セル總額ヲ超過スル事ヲ得ス但シ借換ノ目的ノ爲メニ低利勸業債票ヲ發行スル場合ハ此ノ限リニ在ラス

勸業債票ノ發行ニハ公司條例第百九十條ノ規定ヲ適用セス

第卅五條　勸業債票金額ハ十元トシ且ツ無記名式トス但シ應募者又ハ所有者ノ要求ニ依リ記名式ト改ムル事ヲ得

第卅六條　勸業銀行ハ毎年其年ノ投資ノ償還總額及農業銀行ノ債票償還額ヲ按シ抽籤法ヲ用ヒ勸業債票ヲ一回償還ス

第卅七條　勸業銀行ハ第十五條第十六條第二項第十七條ノ規定ニ依リ償還期前ニ於テ投資ヲ回收スル時ハ該資金ヲ以テ勸業債票償還ノ用ニ充ツ

第卅八條　勸業銀行債票償還ニ關スル責任免除時效ハ元本ニ對シテハ十五年利息ニ對シテ五年ヲ以テ限度トス

第六章　公積金

第卅九條　勸業銀行ハ毎年利益十分ノ一ヲ控除シ之レヲ公定積立金ト爲シ資本ノ缺損ヲ塡補スルノ用ニ充ツ

第四十條　勸業銀行ハ毎年利益百分ノ五ヲ控除シ之レヲ以テ株式利札ヲ補充スルノ用ニ備フ

第七章　監督及補助

第四十一條　勸業銀行ノ業務ハ財政部ニ於テ之レヲ監督ス

第四十二條　勸業銀行カ毎回勸業債票ヲ發行スル時ニハ詳細ナル辦法チ定メ財政部ノ裁許ヲ呈請スヘシ

第四十三條　財政部ハ勸業銀行ノ營業ニ於テ法令又ハ章程ニ違背シ公益ヲ侵害スルモノト認メタル時ハ之レチ制止スル事チ得

第四十四條　財政部ハ必要事項ニ依リ勸業銀行ニ命シ其ノ營業狀況及計算書ヲ呈出セシムル事ヲ得又特ニ臨時監査員チ派遣シ勸業銀行ノ業務ヲ監査スル事チ得

第四十五條　財政部ハ必要事項ニ依リ勸業銀行ノ投資ヲ制限スル事ヲ得

第四十六條　勸業銀行カ利益チ股東ニ分配スル時ハ財政部ニ呈報スル事チ要ス

第四十七條　勸業銀行ハ本條例ニ遵照シ章程ヲ議定シ財政部ノ裁許チ申請スヘシ

前項章程ノ規定ハ財政部ノ裁許チ經ルニアラサレハ變更スル事ヲ得ス

第四十八條　勸業銀行カ分行(支店)又ハ代理所ヲ設置セントスル時ハ財政部ノ裁許チ申請スヘシ

第四十九條　財政部ハ勸業銀行ニ命シ分行又ハ代理所チ設置セシムル事チ得

第五十條　勸業銀行ノ利潤カ五釐ニ滿タサル時ハ財政部ニ於テ補助金ヲ酌量給與スル事チ得

前項ノ補助ハ創立ノ日ヨリ起算シ十年間チ以テ限度ト爲ス

補助金額ハ毎年多クトモ資本金拂込額ノ百分ノ五ヲ超過スル事チ得ス

第八章　罰則

第五十一條　勸業銀行ハ左記事情ノ一アリタル時ハ行長ハ百元以上千元以下ノ罰金ニ處シ副行長董事ハ職掌範圍內ニ於テ罰金チ受クヘキ時亦同シ

一、第一條及第六條ノ規定ニ違背シテ投資シタル場合

二、第二十條ノ規定ニ違背シ剩餘金ヲ使用シタル場合

三、第二十一條ノ規定ニ違背シテ本條例ニ規定ナキ業務ヲ經營シタル場合

四、低利ニ非ラサル勸業債票ノ發行額カ第三十五條ノ制限チ逾ヘタル場合

五、第三十七條ノ規定ニ違背シ勸業債票償還ヲ怠リタル場合
第五十二條　勸業銀行々長董事カ第三十條ノ規定ニ違背シタル時ハ百元以上五百元以下ノ罰金ニ處ス

農工銀行

支那ハ地質頗ル肥エ、產物ノ豐富ナルコト世界ニ類ナシト雖モ、各種農業ハ今尙依然トシテ舊法ヲ株守シテ、未ダ地利ヲ盡サザルハ、寔ニ惜ムベキコトナルヲ以テ、此等農民ニ對スル資本ノ融通機關トナリ、利源ヲ開拓シ、抵當ヲ行ヒテ以テ農工ヲ補助シ、實業ヲ裨益センガ爲メニ、農工銀行設立ノ計畫アリ、民國四年十月遂ニ農工銀行法ノ制定ヲ見タリ、而シテ各國農工銀行ノ放欵期限ハ三十年以內ヲ歸還ノ期限トナスモノ、五年以內ヲ定期歸還トナスモノアレドモ、支那銀行ノ習慣、實業ノ狀況ハ、各國ト同ジカラズ、其期限ノ如キモ、亦長キモ餘リニ長キニ過グルハ、弊害多キヨリ、同銀行ニ於テハ、此點ヲ酌量ノ上、五年三年一年ヲ以テ期限トセリ、次ニ農工放欵ノ抵當物ハ、不動產最モ多ケレドモ、此國登錄ノ法未ダ行ハレズ、所有權ノ確定セル者固ヨリ多シト雖モ、其然ラザルモノモ亦少ナカラズ、且ツ家屋ノ如キ未ダ保險ヲ經ザルモノ甚ダ多ク、一度水火災ニ遇ハンカ之等ニ對スル貸付ハ、全ク損失ノ外ナク、實ニ危險ナルヲ以テ、該銀行ニテハ保險業ヲモ兼營スベシト云フ、又其最少資本額十萬元以上ナルガ、次ニ揭ゲタル該銀行ノ條例七章四十六條ヲ概見センニ、農工銀行ハ一縣ヲ以

テ一營業區域トナシ、一營業區域ニ在リテハ、一行ヲ設立スルヲ以テ限リトシ、若シ地方ニシテ特別ノ情形アリ、當該官廳ヨリ財政部ニ轉請シ、其許可ヲ經タル場合ハ、一縣ヲ二營業區域以上ニ分チ或ハ二縣ヲ合併シテ一營業區域トナスコトヲ得ルコト、セリ、該銀行株ハ記名式トシ、支那人ヲ除ク外ハ、賣買轉讓ノ權利ナク、其營業貸付ハ不動產ヲ以テ擔保トシ、五年以內ノ分期償還者ヘノ貸付、同上三年以內ノ定期償還者ヘノ貸付及變易損壞セザル農產物、漁業權、政府公債、各省公債券、會社債券等ヲ擔保トシ、一年以內ノ定期或ハ分期償還者ヘノ貸付等ヲ行ヒ、是等貸付資金ノ使用ノ使途ハ、開墾耕作、水利林業、種子肥料及各種農工業原料ノ購買、或ハ修理、農工業用家屋ノ修造、牧場ノ修造　漁業鹽業種子及各種器具ノ購買及其他農工各種ノ振作改良等ノ用ニ供スルヲ以テ限リトナシ、右不動產ハ登錄或ハ農工銀行ノ保險ヲ經ルニ非ザレバ、之ヲ抵當品トシテ受理セズ、且ツ其擔保ハ第一次ノ抵當品タルベク、不動產ハ收益確實ニ永續スベキ望アルモノニ限レリ、其條例左ノ如シ。

農工銀行條例（民國四年十月八日批准）

第一章　總綱

第一條　農工銀行ハ株式有限公司ト爲シ、資材ヲ通融シ農工業ヲ振興スルヲ以テ宗旨ト爲ス

第二條　農工銀行ノ資本ハ定メテ十萬元以上ト爲シ、每株少クトモ十元ニ達スヘシ

第三條　農工銀行ハ資本定額ヲ完全ニ募集シ、並ニ半額以上ヲ拂込ミ該管官廳ガ該開辦人及株主ノ果シテ殷實公正ニ係ルカヲ察査シ、證書ヲ出具シ、並ニ資本ヲ驗明シ、財政部ニ轉請シテ核准ヲ經ルニ非サレハ開業スルヲ得ス

第四條　農工銀行ハ一縣境ヲ以テ一營業區域トナシ、一營業區域ニ在リテハ一行ヲ設立スルヲ以テ限リト爲ス、若シ地方ニ特別ノ情形アリテ該管廳ヨリ財政部ヘ核准ヲ轉請シテ二區域以上ト爲シ、或ハ二縣ヲ合シテ營業區域ト爲スコトヲ得

第五條　農工銀行ノ株主ハ、籍ノ該縣ニ隷シ或ハ該銀行營業區域內ニ在リテ、財產住所ヲ有スル者ヲ以テ先ツ招集シ、不足アレハ、營業區域外ニ在ツテ額ノ如ク募集スル事ヲ得

第六條　農工銀行營業區域內ノ地方公法人亦該行株主タルコトヲ得

第七條　農工銀行股票(株券)ハ概ネ記名式ヲ用ヒ、中華民國人ヲ除ク外賣買轉讓ノ權利ナシ

第二章　營業

第八條　農工銀行經營ノ放款(投資)ハ左ノ如シ

一、五年以內ニ分期攤還シ、不動產ヲ以テ抵當ト爲スモノ、分期攤還法ハ元利ノ合計ヲ以テ平均數目ヲ一定シ、若干期ニ分チテ之レヲ償還ス

二、三年以內ニ定期歸還シ、不動產ヲ以テ抵當ト爲スモノ

三、一年以內ニ定期或ハ分期歸還シ、變壞シ易カラサル農產ヲ以テ抵當ト爲スモノ

四、一年以內ニ定期或ハ分期歸還シ、漁業權ヲ以テ抵當ト爲スモノ、漁業權ヲ以テ抵當ト爲ス外銀行ハ別ニ公債票或ハ不動產ヲ以テ抵當增加ト爲スヲ要求スル事ヲ得

五、一年以內ノ定期或ハ分期歸還ハ、政府公債票、各省公債票、會社債、株券ヲ以テ抵當ト爲ス事ヲ得

六、資本殷實ナル典當(質入)、兩家ノ相互保證或ハ十人以上ノ農業或ハ工業者連帶責任ヲ以テ借款ヲ請求スル時アレハ銀行ハ其信用ヲ調査シ、果シテ確實ナレハ三年以內定期歸還法ニ依リ抵當ヲ用ヒスシテ投資スルヲ得

七、地方公法人確カニ收益アリ其ノ收益狀況ヲ詳記スルモノハ抵當ヲ用キサルモ亦投資スルコトヲ得但シ須ラク該地方官（即チ縣知事）ノ核准ヲ經ヘシ

第九條　前項ノ投資ハ左記各項ノ用ニ供スルモノヲ以テ限リト爲ス

一、墾荒耕作
二、水利林業
三、耘種肥料及各項農工業原料ノ購買
四、農工生産ノ運輸屯積
五、農工業用器械及牧畜ノ購辦或ハ修理
六、農工業用房屋修造
七、牲畜購買及牧場修造
八、漁業蠶業種子及ヒ各種器具購買
九、其他農工各種興作改良等ノ事

第十條　前項不動産ハ登録或ハ保險ヲ經ルニ非サレハ農工銀行カ收メテ貸出シテ抵當ト爲ス事ヲ得ス

第十一條　農工銀行ノ貸出シハ其數目同銀行ノ鑑定セル抵當品價格總額ノ三分ノ二ヲ逾ユルヲ得ス

第十二條　農工銀行カ收ムル所ノ抵當品ハ一番抵當タルモノヲ以テ限リトス

第十三條　農工銀行カ收メテ抵當品ト爲ス所ノ不動産ハ永續シテ信スヘキ收益アルモノヲ以テ限リト爲ス

第十四條　債務者如シ期日ニ到テ應ニ還付スヘキ款項ヲ滯納セハ銀行ハ滿期ノ次日ヨリ起リ利息ヲ加算スルヲ得

若シ其ノ款ニシテ分期攤還ニ係レハ并ニ其ノ時或ハ償還期内ニ於テ隨時未到ノ全額返還ヲ索ムルコトヲ得

第十五條　農工銀行ハ原見積價格低落ノ時ニ於テ相當ノ抵當増加ヲ要求スル事ヲ得、若シ債務者ニシテ前項ノ要求ニ應セサル時ハ農工銀行ハ其ノ時或ハ償還期内ニ於テ隨時未到期ノ全額償還ヲ索ムルヲ得

第十六條　農工銀行若シ投資セル所ノ債務者カ所定ノ用途ニ遵照セス或ハ流用ノ隋事アルヲ査明セハ償還期内ニ於テモ隨時全額ヲ索ムルコトヲ得

第十七條　農工銀行ハ前三條所定ニ按照シ投資金額返還ヲ索ムル時若シ債務者償還スル能ハサレハ債務者ニ通知シ其抵當品ヲ競賣シ不

足ノ數ハ尙ホ債務者ニ向テ追償セシムルコトヲ得

第十八條　農工銀行ハ定期存款預金ヲ經理スルコトヲ得

第十九條　農工銀行ハ中央金庫ノ委任ヲ受ケ租稅錢粮及ヒ其他各種金錢收發ノ事ヲ辦理スルコトヲ得

第二十條　農工銀行ハ國家銀行ノ委託ヲ受ケ紙幣兌換ノ事ヲ代任スルコトヲ得

第二十一條　農工銀行ハ人ニ代リテ金銀錠塊及其他ノ重要物品ヲ保管スルコトヲ得

第二十二條　農工銀行ハ營業上餘款アル時ハ政府公債票、各省公債票、民國實業債票ヲ收買シ、或ハ餘款ヲ他銀行ニ貯存シテ利息ヲ生セシムルコトヲ得

第二十三條　農工銀行ハ勸業銀行ノ委託ヲ受ケテ代理店タルヲ得

第二十四條　農工銀行ハ前項營業ヲ除ク外、若シ他項ノ業務ヲ兼營セント欲スレハ隨時該官廳ニ稟由シ財政部ニ核准施行セシコトヲ轉請スルヲ得

第三章　債票（債券）

第二十五條　農工銀行ハ該管官廳ニ稟由シテ査核シ、財政部ニ核准ヲ轉請シテ債券ヲ發行スルコトヲ得

但シ債券總額ハ投資金額數ヲ逾ユルヲ得ス、並ニ已納資本ノ二倍ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十六條　債券ハ無記名式ト爲ス、但シ應募者或ハ所有者ノ請求ニ因リ改メテ記名式ト爲スヲ得

第二十七條　債券最低金額ハ定メテ五圓ト爲ス、其利率ハ銀行ヨリ之レヲ定ム

第二十八條　農工銀行ノ毎年償還債券數目ハ該年内回收セル貸出シ總額ヨリ少キ事能ハス

債券ニハ利息ヲ付スヘキハ勿論、其他抽籤ヲ以テ償還スルヲ得

第二十九條　債券ハ毎年二回利息ヲ付スヘシ

第三十條　農工銀行ノ毎回發行スル債券ハ須ラク債券發行詳細章程ヲ訂定シ、該管官廳ニ稟由シ財政部ニ轉請シ核准ヲ得テ發賣スヘシ

前項章程内ニハ須ラク左記各項ヲ聲明スヘシ

一、債券ノ總額及實收銀數
二、售票ノ種數及每張數
三、利率
四、加彩方法及其ノ數目
五、利息交付ノ日期
六、償還期限及分年償還數目
七、抽籤償還方法

第三十一條　農工銀行ハ債券發賣後、須ヲク發行時日、發賣情形並ニ記名式、無記名式、債券數目、號碼等ノ各節ヲ清册ニ開具シテ該管官廳ヲ稟由シ、財政部ニ轉請シテ備案シ、若シ變更アラハ隨時陳報スヘシ

第三十二條　農工銀行ハ該管官廳ヲ稟由シ財政部ニ轉請シ核准ヲ經利息ノ比較的低キ債券ヲ發行シテ舊債券ヲ換回スルヲ得新債券發行後二ケ月内ニ賣出債券ノ額ニ照シ數ノ如ク舊債券ヲ償還スヘシ
前項ノ償還方法ハ農工銀行ヨリ擬訂シ該管官廳ニ稟請シ財政部ニ轉請シテ核准ヲ經ヘシ

第四章　法定積立金

第三十三條　農工銀行ハ每年結算ノ時ニ於テ利益内ヨリ十分ノ一以上ノ金額ヲ提出シ貯存シテ法定積立金ト爲シ以テ資本ノ損失彌補及株利ノ平均保持ニ備フ
前項法定積立金ハ理由ヲ陳明シテ該管官廳ニ稟由シ財政部ニ轉請シ核准ヲ經ルニアラサレハ動用スルヲ得ス

第五章　監督保護

第三十四條　農工銀行ハ財政部及該管官廳ノ監督ヲ受ケ並ニ當該地方長官ヨリ情形ヲ察看シテ地方官或ハ其他ノ機關ヲ委任シテ農工銀行ノ監理ト爲スコトヲ得

第三十六條　農工銀行監理ハ該行株主總會及各種會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得、但シ表決ニ加入スルヲ得ス

第三十七條　財政部或ハ該管官廳若シ認メテ必要トナス時ハ農工銀行投資利息ノ其最高率ハ毎年營業期前ニ於テ該管官廳ヨリ査核シ財政部ニ轉報シテ備案スヘシ其隨時利率變更亦同シ

第三十九條　農工銀行ハ本條例ニ照シ詳細章程ヲ訂定シ該管官廳ニ稟由シ、財政部ニ轉請シ核准ヲ經テ施行スヘシ

前項章程ニシテ若シ變更アラハ須ラク核准ヲ稟請スヘシ

第四十條　農工銀行ハ營業區域内ニ在リテ支店或ハ代理店ヲ開設スル時ハ該管官廳ヲ稟由シ、財政部ニ轉請シテ核准ヲ經ヘシ

第六章　罰則

第四十一條　農工銀行經理ニシテ左記事情ノ一ヲ有スル者ハ處スルニ一百元以上一千元以下ノ罰金ヲ以テシ副經理、董事ノ職掌範圍内ニ於テ受クヘキ罰金亦同シ

一、第八條ヨリ第十三條ニ至ル規定ニ違背セル投資

二、第二十四條ノ規定ニ違背シ本條例以外未核准ノ營業ノ經理

三、第二十五條、第三十條、第三十二條ノ規定ニ違背セル債券ノ發行

四、第二十八條、第二十九條ノ規定ニ違背シ債券元利ノ償還ヲ怠レル場合

五、第三十三條ノ規定ニ違背シ公積立（積立金）ヲ動用セル場合

第七章　附則

第四十二條　各地方官カ該地方ニ農工銀行設立ヲ行フヘキノ必要アリト認メタル時、或ハ地方殷實ノ紳商ノ出資倡辦ヲ願フ者アラハ、該省地方長官ニ詳請シタル後籌備委員ヲ揀派シ、該地方ニ農工銀行ヲ組織スル事ヲ得

財政部及該省地方長官カ必要ト認メタル時ハ亦派員ヲ籌設スルコトヲ得

第四十三條　籌備委員ハ農工銀行條例ニ按照シ詳細章程ヲ訂定シ該管官廳ニ査核ヲ稟請シ財政部ノ批准ヲ轉詳セル後股分（株式）ヲ招集スルヲ得

第四十四條　籌備委員ハ株式ヲ招齊シ組織成立シ並ニ董事經理選定ヲ俟ツテ後直ニ農工銀行事務ヲ該行董事會及經理ト交代ス

第四十五條　本條例ニ未タ規定セラレサルモノハ銀行通行則例ヲ適用スルヲ得、其公司條例第四條株式有限公司第九十七條ヨリ第二百二十九條ニ至ル、及ヒ第二百四十八條第二百四十九條ノ規定ト銀行通行則例及ヒ本條例ト牴觸セサル時ハ均シク之チ適用ス

第四十六條　本條例ハ公布ノ日ヨリ施行ス

本條例ニ基キ財政部內ニ、農工銀行籌備處ヲ設立シタルガ、農工銀行ノ實際ニ設立セラレタルハ、直隷省ノ通縣、昌平縣、浙江省農工銀行等ノ二三ニ過ギザルモノ、如ク、其他ニハ未ダ設置ヲ見ザルモノ、如キガ、漸ヲ追フテ各地ニ設立セラルヽニ至ルベシ、今次ニ參考ノ爲浙江農工銀行設立計畫ヲ示サンカ。

浙江財政廳長張道生ハ、農工銀行設立ノ爲メ民國六年十月財政廳ニ籌備員會ヲ開キ其計畫ニツキ協議シタルガ、右ニヨレバ其ノ資本三十萬元トシ官商合辦トナスベク其營業等次ノ如シ。

(一)墾荒耕作、(二)水利林業　(三)料種肥料及各項ノ農工業原料購辦　(四)農工生業ノ運輸屯粮
(五)農工業用器械及牲畜ノ購辦或ハ修理、(六)農工業用房屋ノ修理、(七)牲畜ノ購辦、牧場ノ修造
(八)漁業蠶業ノ種子及各種器具ノ購辦　(九)其他各種興作改良等ノ事ニハ一縣ノ境ヲ以テ限ト爲ス

其營業ノ方法並ニ規定左ノ如シ。

(一)五年以內ニ期ヲ分チテ償還スル者ハ不動產ヲ抵當トス期ヲ分チテ償還ヲナスニ當リ、元利合計金額ヲ平均シテ各期返還セシム。

(二)一二年以內返還スルモノハ不動產ヲ抵當トナス。

(三)一年以内ノ定期或ハ分期返還スル者ハ變壞シ易カラザル農產ヲ以テ抵當トナス
(四)一年以內ノ定期或ハ分期返還スルモノハ政府公債、各省公債、會社債券、株券ヲ抵當トス
(五)資本確實ノ典當商二家ノ連帶、或ハ十人以上ノ農業者、工業家ガ連帶責任ヲ以テ借欵ヲ申シ出ヅル時銀行ハ其信用ヲ調査シ、三年以内定期返還法ニ依リテ抵當ヲ用キズ貸出シヲ爲ス事ヲ得
(六)地方公共事業ニシテ進益確實ナルモノハ抵當ヲ要セズ貸出スヲ得、但シ其際ハ地方官(縣知事)ノ認可ヲ經ルヲ要ス

殖邊銀行

殖邊銀行ハ前清南京師團長ニシテ、革命後南京衞戍總督タリシ徐紹楨、安徽派領袖王揖唐、北京商務總會總理馮麟霈等ノ發企セシ處ニシテ、民國二年七月中、財政部ニ呈請シ、其則例ヲ國會ニ提出シ、議決ヲ求メシガ、其未ダ議決ニ至ラザルニ、袁ノ「クーデター」ノ爲メ、國會停止トナリシヨリ、徐氏等ハ本銀行設立ハ緊要ナルモノナリトシテ、財政部ニ對シ、右銀行則例ハ條例トシテ、株式募集章程ト共ニ、大總統ノ認可公布ヲ請ハン事ヲ求メタルヨリ、財政總長ハ右條例ニ多少ノ修正ヲ加ヘ、大總統ニ呈請シ、其結果民國三年三月六日附ヲ以テ認可セラレタリ、同行設定ノ趣旨ハ遼濶ニシテ物產豐饒ナル、支那邊境ニ於ケル、事業ノ勃興ヲ助ケントスルニアリ、當時周財政總長ノ大總統ニ右條例ノ認可

ヲ呈請セルノ文ニ曰ク

我國邊陲遼濶豐饒タレバ、殖邊銀行ヲ設ケ、以テ整頓ヲ資ケシメントノ請情ヲ調査スルニ、規畫宏遠ニシテ殊ニ嘉奬スルニ足ル、尙ホ殖邊銀行條例草案及株式募集章程等ニ付テ、處々ニ不合ノ處アルヲ以テ、本部ハ情形ヲ酌量分別修正シテ、本年三月六日大總統ノ批據ニ奉呈セリ、(中略)原株式募集章程第一條規定ニハ、資本總額三千萬元之ヲ三百萬株ニ分ツト、惟レ衡ルニ吾國現時ノ經濟情形ハ、此ノ如クニ鉅額タレバ、一時貿易上ノ影響ヲ受クル虞レアリ、故ニ需要ノ範圍ニ止メ、募集金額ヲ減少シ、都テ速成ヲ期スルニ如カズ、玆ニ總資本二千萬元ヲ二百萬株ニ分チ、毎株十元トシ、六十萬株ヲ無記名式、一百四十萬株ヲ記名式トシ、尙ホ無記名式株券ハ、記名式株券ノ三分ノ二ヲ超過スルヲ得ズ、又第十五條內ニ呈明財政總長ノ一語ハ、卽チ財政部ニ呈明ト修正ス云々。

ト、以テ本行設立ノ趣旨及當時財政部ノ該條例ニ修正ヲ加ヘタル事情ヲ知リ得ベシ、尙當時認可セラレタル該行條例及株式募集章程左ノ如シ。

殖邊銀行條例　(民國三年三月六日公布大總統令)

第一條　殖邊銀行ハ株式有限公司トス

第二條　殖邊銀行ハ政府ヲ補助シ邊疆金融ノ調和並ニ邊疆ノ實業ニ放資スルヲ以テ業務トス

第三條　殖邊銀行ハ中央政府所在地ニ本店ヲ置キ漸次ニ各省要地ニ分店或ハ代理機關ヲ置クコトヲ得但シ財政部ノ認可ヲ經ヘキモノトス

第四條　殖邊銀行資本ノ總額ヲ二千萬元トシ之ヲ二百萬株ニ分チ一株ヲ十元トス其株式募集規則ハ別ニ之ヲ定ム

殖邊銀行ハ資本二十萬株ニ達シタルトキハ營業ヲ開始ス

第五條　殖邊銀行ハ本條例裁可後一年以内ニ營業ヲ開始セサレハ財政部ヨリ裁可アリタル條例ノ取消ヲ申請スルコトヲ得

第六條　殖邊銀行株劵ハ六十萬株ノ無記名式ヲ除キ其他ノ百四十萬株ハ記名式ヲ用フヘシ

無記名株劵ハ何時タリトモ記名式株劵ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ス

第七條　營業期限ハ本條例裁可ノ日ヨリ起算シテ三十箇年トス若シ之ヲ延長セントスルトキハ株主總會ノ決議ニ依リ財政部ノ認可ヲ經ヘシ

第八條　每年營業ヨリ得ル所ノ純益金ノ總額十分ノ二ヲ積立金トシタル後株主ニ利益ヲ配當スヘシ

第九條　殖邊銀行營業ノ種類左ノ如シ

一、動產不動產ヲ抵當トスル貸出

二、預金ノ取扱

三、金銀地金ノ賣買

四、爲替ノ取扱

五、各種手形ノ取扱

六、他銀行業務ノ代理

第十條　殖邊銀行ハ紙幣ヲ發行スルコトヲ得但シ少クモ十分ノ四ノ現金ノ準備及中國銀行兌換券ヲ有スヘク其他ハ保證準備ヲ以テ之ニ充ツヘシ

前項ノ紙幣通用地域ハ財政部令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條　殖邊銀行發行ノ紙幣額ハ每月發行數日平均報告表ヲ作リ財政部ニ報告スヘシ

第十二條　殖邊銀行ハ金庫ノ委託ヲ受ケ金庫事務ヲ代理ス

第十三條　殖邊銀行ハ總理一名、協理一名、董事七名、監事五名ヲ置キ均シク株主ヨリ選擧ス選擧シタル後ハ財政部ニ届出ツルモノトス其選擧法ハ別ニ之ヲ定ム其他ノ職員ハ總理協理ニ於テ選任ス

前項ノ總理協理ハ一百株以上、董事監事ハ五十株以上ノ株主ニ限ル

第十四條　總理協理ノ任期ハ三年、董事監事ノ任期ハ二年トス任期内ハ他銀行又ハ公司ノ職務ヲ兼ヌルヲ得ス期限滿了後ハ再任スルコトヲ得

第十五條　殖邊銀行ノ職員ハ營業上ノ處理ニ對シ職員會ヲ開クコトヲ得其組織及會議細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十六條　殖邊銀行ハ株主總會ヲ分チ通常總會臨時總會ノ二種トシ其會議細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十七條　通常總會ハ毎年二月中旬本店所在地ニ開會シ總理之ヲ召集ス其際前年ノ營業成績報告ヲ株主及財政部ニ提出スヘシ

第十八條　總理協理或ハ職員會カ重要事件アリト認メタルトキ或ハ株式總數五十分ノ一ヲ有スル株主ノ請求アリタルトキハ臨時總會ヲ召集スルコトヲ得

第十九條　百株ニ付一ノ表決權ヲ有シ百株以下ノ株主ハ他株主ト百株ヲ纒メテ一人ヲ互選シテ代表者トナストキハ亦一ノ表決權ヲ得但シ此種ノ代表者ハ二十表決權以上ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十條　殖邊銀行一切ノ帳簿ハ毎月財政部ヨリ吏員ヲ派シテ之ヲ檢査ス

第二十一條　殖邊銀行一切ノ業務ニ對シ財政部カ本則例及其他ノ規程ニ違背シ或ハ營業上不利ノ事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スルコトヲ得

殖邊銀行股分（株式）募集規則　（民國三年三月十五日公布）

第一條　本銀行ノ資本二千萬元ヲ二百萬株ニ分チ一株ヲ七元トシ六十萬株ハ無記名式ヲ用ヒ百四十萬株ハ記名式ヲ用ユ無記名式株券ハ何時タリトモ記名株券ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ス

第二條　本銀行株券ハ記名式無記名式ヲ各三種ニ分ツ

甲　一株券

乙　十株券

丙　百株券

第三條　本銀行ノ募集株二十萬株ニ達シタルトキハ營業ヲ開始ス

第四條　本銀行ノ株金ハ第一次ニ先ツ十分ノ三ヲ徵シ其拂込ノ場所ハ籌辦處（創立事務所）ニ於テ指定シ内外各新聞紙ニ掲載ス第二次第三次ノ株金拂込金額、期日、場所ハ職員會ニ於テ決定ノ上二箇月以前ニ之ヲ通告シ並ニ新聞紙上ニ公告ス

第五條　本銀行株式引受ノ申込ヲナサントスル者ハ本銀行ノ株式申込書ニ記入ノ上一株ニ付金三角（即三十仙）ノ保證金ヲ添ヘ本銀行ノ指定セル株式募集處ニ交付スルモノヲ有效トス

株式申込書ハ本銀行籌辦處或ハ本銀行ノ約定セル内外代辦處ニ於テ受取ルヘシ

第六條　一株毎ニ交付セル保證金ハ第一次株金拂込ノトキ差引納入スルコトヲ得

株式引受人カ期限ヲ經過スルモ株金ノ拂込ヲナサヽルトキハ本銀行ヨリ催告シ並ニ一回新聞ニ公告スヘク若シ期限ニ至ルモ拂込マサルトキハ株主タルノ權利ヲ失フヘク又其保證金ハ之ヲ取消ス

第七條　本銀行募集ノ株數二十萬株ニ達シタルトキハ第一次株金ノ拂込ヲナサシム

第八條　本銀行株金第一次ノ拂込ニ對シテハ先ツ領收證ヲ交付シ第二次拂込ノトキ株券及利札ヲ交付ス

第九條　本銀行ハ營業ヲ開始スルニアラサレハ募集シタル株金ヲ使用スルコトヲ得ス

第十條　本銀行ノ創立費ヲ十萬元ト定メ創立株ト稱シ發起人ニ於テ之ヲ負擔ス創立株ニ關スル規則ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條　本銀行株主ノ責任ハ其承認スル所或ハ引受ケタル所ノ株金ヲ以テ限度トス

第十二條　株式カ數人ノ共有ニ係ルトキハ其共有者ハ一人ヲ選定シテ主トナシ直接株主ノ權利ヲ行使セシム

第十三條　株券ヲ譲渡シタルトキハ無記名式ヲ除クノ外本銀行ニ於テ譲渡ノ登記ヲナシ株主ノ姓名ヲ書換フヘシ

第十四條　株券ヲ遺失シタルトキハ株主ハ其再渡ヲ請求スルコトヲ得其規則ハ別ニ之ヲ定ム

第十五條　本銀行毎年得ル所ノ純益ハ株主總會ノ決定ヲ經テ財政部ニ屆出タル上十分ノ二ヲ積立金トナシ他ヲ株主ニ配當ス
第十六條　本銀行カ損失アル場合ニ於テモ株金ヲ以テ利益配當トナスヲ得ス
第十七條　本規則ハ財政部認可ノ日ヨリ實行ス

右條例ニ示ス如ク、本行ハ政府ヲ助ケテ邊境ノ金融、實業ノ發達ニ資スル拓殖銀行ニシテ、其取扱業務ハ普通銀行ト異ルナキモ、兌換劵發行ノ特權ヲ有シ、又其性質上滿洲、蒙古、伊犁、西藏等ノ邊境地方ニ發展ヲ策スルヲ主眼トス、尙其株式中六十萬株ヲ無記名トセルハ、外資ヲ輸入セントスルノ目的ニ出デタルモノナリシト云フ、又同行資本金ハ二百萬元ナルモ、開業當時ノ拂込額ハ八十二萬元ナリキ。

斯クテ本行ハ民國三年四月ヲ以テ、總理、理事以下籌辦員ノ任命アリ、株式募集ニ着手シ、同年十月ヨリ業務ヲ開キ本店ヲ北京ニ置キ、天津、奉天、上海、牛莊、齊々哈爾、、哈爾賓、張家口、漢口重慶、成都、打箭爐、大理、杭州、福州、伊犁等ニ支店ヲ設ケ、其他ノ重要開港場ニ代理店ヲ設置シ倫敦、巴里、紐育、華盛頓、桑港、露都、孟買、大阪、横濱等ニモ代理店ヲ開ケリ。

當時ノ同行重役及營業章程ヲ示セバ次ノ如シ。

總理　徐固卿紹楨　協理　項徵塵驤

理事
陶鐘漢德琨
馮潤田麟霈
張一鵾軼歐

董事
王一堂輯唐
陳燕青介
劉聞長覺報

監事
宋致長登祥
王秉彝紹常

殖邊銀行營業章程

預金章程

(甲)預金ハ之ヲ分チテ左ノ六種トス

當座預金　特別當座預金　定期預金
特別定期預金　通知預金　暫時預金

(乙)各種預金ハ總テ本銀行ニ於テ發行セル預金通帳或ハ預金證書中ニ記入シアル年利率ニ照シテ其利息ヲ計算ス

年利率ハ即チ左ノ如シ

當座預金　二厘半　特別當座預金　二厘
特別定期預金　通知預金　暫時預金　別ニ定ム

(乙)各種預金ハ總テ本銀行ニ於テ發行セル預金通帳或ハ預金證書中ニ記入シアル年利率ニ照シテ其利息ヲ計算ス年利率ハ即チ左ノ如シ

當座預金　二厘半　特別當座預金　二厘
定期預金　三個月三厘　六個月五厘　九個月五厘　一個年六厘
特別定期預金　面談ノ上之ヲ定ム
通知預金三厘　暫時預金　面談ノ上之ヲ定ム

以上各種ノ利率ハ金融市場ノ情勢ニ因テ隨時改變スルト雖モ但シ其以前ノ預金ニ對シテハ依然從前ノ利率ヲ以テ算數ス

(丙)預金ハ兩銀ヲ以テスルト洋銀ヲ以テスルトハ預入者ノ任意タルベキモ但シ洋銀利率ハ兩銀ニ比シテ低率ナリ

卽チ當座、特別當座、通知及暫時預金ノ場合ハ兩銀ニ比シ一厘低率、定期預金、特別定期預金ノ場合ハ兩銀ニ比シ半厘低率ナリ

而シテ上海ニ於ケル通用銀ニ非ザル貨幣及一切ノ補助貨幣ハ須ラク先ヅ上海通貨ニ兌換シ然ル後預金スルヲ要ス

(丁)本銀行ニ預金スル者ハ最初先ヅ一百元(兩銀ナラバ一百兩)ヲ預入ルヽヲ要ス然ル時ハ同行存貯課(預金係)ニテハ直ニ通帳ヲ交付シ章規ニ照シテ利息ヲ計算ス其百元ニ滿タザルモノト雖モ該課ニ於テ情狀ヲ酌量シテ之ヲ預ルコトアルベシ、然レドモ本行存貯課ニテハ百元或ハ百兩ヲ以テ利息計算ノ單位トナシ此數ニ達セザルモノハ利息ヲ付セズ利息ハ預金後一日ヨリ起算シ預金引出前一日迄之ヲ付ス

貴重品保管章程

本行ニテハ貴重品保管箱ノ備付アリテ其嚴密保管箱ノ如キ厚サ三四寸ノ精錬鋼鐵ヲ以テ作ラレ內ニ更ニ二個ノ精巧ナル錠鍵ヲ有スル鐵函ヲ裝置シ暗號ヲ知ルニ非ザレバ能ク獨リニテ開キ得ザルモノニシテ、鍵ハ二個アリテ一ハ銀行之ヲ持チ他ノ一ハ保管主ニ渡シ置クモノナリ。

(甲)本銀行ニテハ支那人財產ノ安全ヲ圖ラン爲メ西洋式金庫ヲ造リ西洋名廠ノ製造ニ係ル貴重品保管箱ヲ設備シ至極低廉ノ月費ヲ以テ賃貸シ併セテ貴重品ノ保管事務ヲ兼營シ凡テ左ニ列記セル各代理保管ヲナス

(一)家屋財產土地契約證書及各種契約證書
(二)公私債劵及各種株劵
(三)婚約書類、遺言書、卒業證書、保險證書及ビ其他ノ重要書類
(四)寶貴及貴金屬並ニ金銀裝飾品一切
(五)書畫骨董及一切ノ貴重品

(乙)本行ノ保管ハ之ヲ普通保管嚴密保管ノ二種ニ分チ二者均シク預入ト同時ニ倉庫課ニ於テ預リ證書ヲ發行シテ保管ノ證據ト爲ス、

保管料金左ノ如シ

普通保管料金　毎季(三ヶ月)一元　一年間三元五角

嚴密保管料				
大	毎季	二元五角	一年間	七元
中	同	二元	同	六元
小	同	一元八角	同	五元

貯蓄章程

(甲)貯金ハ之ヲ定期及當座ノ二種ニ分チ二者何レモ毎月二百元ヲ超ユルヲ得ズ、貯金總額三千元ヲ超過スルヲ得ズ、利息ハ均シク陽曆一年ヲ以テ計算ス

(乙)當座貯金ハ何時タリトモ隨時預入及拂戻ヲナシ得ベシ利息ハ年利四厘ヲ以テ計算ス、定期預金ハ三ヶ月拂ハ年利四厘五毛、六ヶ月拂ハ年利五厘、一ヶ年拂ハ年利六厘ノ割ニテ夫々利息ヲ計算シ若シ其期ニ到リテ元金ヲ引出サズ更ニ其上一年ヲ繼續スル者ハ利率更ニ五毛ヲ加ヘ以後尙逐年之ヲ繼續スル時ハ利率最高七厘迄漸次加フルモノトス、卽チ預金三年ニ及ベルモノハ年利七厘五毛ヲ計算ス

(丙)當座及定期預金ハ共ニ其利息ハ半年毎ニ結算シ一月及七月ノ兩月ニ分チテ利息ヲ發表ス、若シ其時期ニ到リテ利息ヲ受取ラザル時ハ該利息ハ之ヲ元金ニ繰リ入レ爾後此元利ヲ元金トシテ利息ヲ付加ス、斯クシテ預金カ三千元ヲ超ユルニ至リタル時ハ本行ハ其超過數ヲ尋常預金ニ繰リ入レ利息ヲ付スベシ

貸付章程

本行ノ貸付項目ハ左ノ五種トナス

(一)抵當貸　(二)保證貸　(三)當座貸越　(四)手形割引

(五)荷爲替　詳細面談

爲替章程

本行爲替ハ至極低廉ニ之ヲ取扱ヒ常ニ其當時ノ相場ニ照シテ計算シ之ニ手數料ヲ加ヘ外ニ些ノ費用ヲ徴收セズ

其種類ハ左ノ二種ニ分ツ

(一)爲替　(二)兌換

爲替ハ更ニ左ノ四種ニ分類ス

無記名手形、記名手形、電報爲替、荷爲替

兌換ハ當地貨幣ノ兩替、當地以外ノ貨幣及外國貨幣ノ兩替ノ二種トナス

次イデ同行ハ信託事業ノ兼營ヲ計畫シ、「近時世界各國何レモ信託事業ニ重キヲ置クニ至レリ、是レ蓋シ信託事業ハ、獨リ金融ノ滯塞ヲ防グノミナラズ、亦百貨ノ空賣買ノ流弊ヲ杜グヲ以テナリ、支那ハ各省幣制複雜ニシテ、百貨爲メニ滯鎖ス、試ミニ東三省ニ就テ見ルモ、中外貨幣雜然トシテ用ヒラレ、價格定マル無キノ有樣ニシテ、不便少ナカラズ、外人ハ時勢ノ趨ク所ニ從ッテ、各地ニ信託公司ヲ設立シ居ルニ鑑ミ、殖邊銀行ハ既ニ實業振興ヲ以テ宗旨トシナガラ、空シク財源外溢ノ現象ヲ目擊シテ、信託事業ヲ兼辦セザルヲ得ズ」トテ、爰ニ特ニ兼辦信託章程ヲ具シテ、財政部ニ其ノ許可ヲ稟請シ、遂ニ民國四年八月二十一日附ヲ以テ、愈々認許ヲ得ルニ至レリ、參考ノタメ該章程ヲ示セバ左ノ如シ。

殖邊銀行兼辦信託事業章程

第一條　殖邊銀行ハ各國信託銀行成規ヲ參照シテ一切ノ信託事業ヲ兼營スルコトヲ得

第二條　凡ソ殖邊銀行ノ信託ヲ經テ行フ定期賣買ハ賣主買主ヨリ各須ク本章程第三條ノ規定ニ准照シテ保證金ヲ徴シ以テ信用ノ擔保ト

爲ス

第三條　一切取引ノ定期ガ一日以上三日以下ナルモノハ須ク代價ノ百分ノ一ヲ預金(徵收)シ、三日以上七日以下ノモノハ百分ノ二、七日以上十四日以下ノモノハ百分ノ三、十四日以上二十日以下ノモノハ百分ノ四、二十日以上ノモノハ百分ノ五ヲ預金スベシ、右預金ハ各其取引ヲ終レル後之ヲ返還ス

第四條　若シ市價昂落ニ因テ預金保證金額ニ變更ヲ來シタル時ハ殖邊銀行ハ賣主買主ニ保證金增額ヲ請求スルコトヲ得

第五條　殖邊銀行ハ信託領受ノ時定價期日及受取ノ保證金額ヲ明記セル信託狀ヲ發行シ並ニ賣主ヲシテ署名捺印セシメ之ニ印紙ヲ貼附シテ證據トナス

第六條　凡テ未タ第五條所載信託狀ノ定期賣買ヲ有セサルモノハ皆空賣買ヲ以テ論ス

第七條　殖邊銀行ハ每取引完結ノ時買主ニ向テ其千分ノ一ヲ手數料トシテ徵取スル事ヲ得

第八條　本章程ハ財政部批准ノ日ヨリ實行ス

尙本行ハ兌換券發行ノ特權ヲ有スルガ、右兌換券ハ次ノ章程ノ下ニ發行スベキモノトス。

兌換券發行章程

第一條　本行ハ條例第十條ニ依リ兌換券ヲ發行ス其發行方法ハ本章程ニ依リ辦理スヘシ

第二條　本行兌換券ハ暫ク種類ヲ下ノ如ク定ム

一、拾圓券、二、五圓券、三、壹圓券

第三條　各分行ハ總管理處ノ允許ヲ經テ兌換券ヲ發行スルヲ得ル者ハ發行前後ニ本章程ニ按照シテ辦理スヘシ

第四條　各分行ハ兌換券承領前ニ當地商況民族乃至經濟程度交通範圍等ヲ左記條件ニ照シ一々詳確ニ總管理處ニ報告スヘシ

一、當地特產品ノ種類及其賣行地方

二、當地商人ハ何組合ヲ以テ最優勝トスルヤ

三、當地外國商ハ何家ヲ以テ最著名トスルヤ、又何種事業ヲ經營スルモノ多キヤ

四、當地銀行銀號銀莊ノ銀票錢票ヲ發行スルモノ幾家アリヤ、及其發行總額若干、商民ノ其發行銀票錢票ニ對スル信用如何
五、當地生活程度
六、當地ノ交通便否、其交通機關及範圍如何
七、本行發行兌換券ノ着手進行如何
八、本行發行兌換券ノ散布程度
九、本行發行兌換券ノ社會上需用ノ最高限度豫想

第五條　總管理處ハ第四條所訂ノ各分行ノ報告ニ接シタル後、發行ノ必要アリト認メタルトキハ、始メテ兌換券ノ承領ヲ許可ス

第六條　各分行兌換券承領ノ額ハ總管理處之ヲ定ム

第七條　各分行兌換券ヲ承領ノ時ハ、兌換券製造費ハ總管理處ニテ支拂フヘシ

第八條　各分行兌換券ヲ受領シタルトキハ、司券員ハ該分行長ト會同シ、出具收證ヲ檢點シ、總管理處ニ報告スヘシ

第九條　凡ソ各支行及派辦處、臨時營業所、發行ノ兌換券ハ均シク本章程ヲ適用シテ辦理ス、只一切手續ハ總管理處及本管轄分行ニ對シ均シク之ヲ履行スヘシ

第十條　本章程ハ董事會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ、之ヲ修改スルヲ得ス

營業狀況

本行ハ營業開始以來滿洲方面ニ頻ニ發展ヲ策シ、支店ヲ設ケ紙幣ヲ發行シ、一時大ニ盛ナリキ、今參考ノ爲メ同行支店出張所々在地及其開設日期ヲ示セバ左ノ如シ。

殖邊銀行各分支行處開幕日期

名稱	開幕日期
北京分行	三年十一月二十二日
奉天分行	四年三月二十九日
哈爾賓分行	四年四月十二日
天津分行	四年八月十一日
張家口分行	四年九月五日
上海分行	三年十二月六日
漢口分行	四年三月一日
成都分行	四年一月一日
雲南分行	四年七月二十日
長春分行	四年十一月八日
廸化分行	四年十一月十五日
汕頭分行	四年九月二十六日
多倫支行	四年七月二十三日
杭州支行	四年三月十五日
沙市支行	五年二月九日
宜昌支行	六年三月
重慶支行	四年九月九日
吉林支行	四年八月三十日
塔城支行	四年八月二日
鐵嶺派辦處	四年十一月二十七日
西安派辦處	四年十二月十六日
開原派辦處	四年十二月二十六日

名稱	開幕日期
昌圖派辦處	四年十一月二十七日
遼源派辦處	五年三月六日
洮南派辦處	五年三月十三日
朝陽派辦處	六年六月十九日
營口派辦處	六年一月十日
山城派辦處	五年七月一日
呼蘭派辦處	四年九月十三日
寧安派辦處	四年九月十七日
綏化派辦處	五年四月三日
雙城派辦處	五年二月十八日
三姓派辦處	五年十一月二十五日
喀什喀派辦處	五年
天問派辦處	六年一月一日
自流井派辦處	四年三月
延吉派辦處	六年三月十八日
伊通派辦處	六年二月一日
海龍營業所	五年十一月十四日
東豐營業所	六年一月一日
錦縣營業所	六年一月七日
西豐營業所	六年一月四日
遼陽營業所	六年二月四日
同江口營業所	六年四月二十三日

遼中縣營業所	六年六月十日
興京營業所	六年五月二十三日
山海關營業所	五年七月五日
海倫營業所	五年八月六日
齊齊哈爾營業所	五年九月
阿什河營業所	六年四月十日
慶城營業所	六年六月三十日
保定營業所	六年三月二十八日
四平街營業所	五年十月十八日
公主嶺營業所	四年十二月
留守營々業所	
輝南營業所	六年十月十日

而シテ同行營業成績ハ時ニ盛衰アリ、相當利益ヲ擧ゲタル營業期モアリ、今各支店ニツイテ擧ゲタル其歷年ノ收支表ヲ示セバ次ノ如シ。

殖邊銀行各行歷期損益表

行名＼損益＼期別	四年上期		四年下期		五年上期		五年下期		六年上期	
	損失	利益	損失	利益	損失	利益	損失	利益	損失	利益
總管理處	元 六五、八九	—	—	五六、一二四、三三	—	三九、六一九、九〇	—	一一、五九九、三三	—	一九、四八二、二八
北京分行	二、二三八、九四	—	—	二、八一三、〇七	—	九、三九四、八一	—	三、七四五、六二	—	六、四一五、八九

行名＼期別＼損益	四年上期		四年下期		五年上期		五年下期		六年上期	
	損失	利益	損失	利益	損失	利益	損失	利益	損失	利益
奉天分行	五、七三三、八九	—	一七、〇五二、八九	—	六八、五一五、九九	—	—	—	—	—
哈爾賓分行	二、六三六、五九	—	—	四四、九八〇、〇八	—	一五、六七三、八七	—	二一、八四三、七四	—	七四、五二七、五六
張家口分行	一、七三三、八八	—	八、〇一八、七〇	—	一一、一七三、六〇	—	一一、六九三、一〇	—	一六、九九六、九九	—
上海分行	—	九、四二三、三八	—	一三、一五七、三三	—	—	—	—	—	—
杭州支行	三、一〇八、六六	—	四、一七〇、九三	—	五、八〇四、一〇	—	三、九五九、六四	—	四、〇六八、五三	—
漢口分行	一、六〇五、二二	—	一四、八一三、六〇	—	四、四八八、一四	—	一七、四六三、一三	—	一九、二四八、五九	—
成都分行	—	六〇、七七三、九四	一、三三五、六五	—	二三、六六八、〇三	—	—	—	—	—
天津分行	—	—	七、九一六、四七	—	一〇、八九九、一七	—	一三、六五七、六二	—	二四、七八三、二三	—
昌圖派辦處	—	—	—	四二九、六九	五二、五九	—	—	一〇、六七九、八五	—	五、八七〇、六一
開原派辦處	—	—	—	七四三、二四	六五四、〇四	—	—	六、五九九、九二	—	二、五二六、五五
西安派辦處	—	—	—	一、七二八、四六	三九五、三三	—	—	九、八三九、一四	—	一、六〇七、〇六
鐵嶺派辦處	—	—	—	三〇四、三〇	—	三一六、六二	—	七、六一九、一四	—	二〇、九二一、〇一
呼蘭派辦處	—	—	—	一、八四三、二〇	—	一八一、七三	—	九、七〇三、〇六	—	一三、二六九、一〇
寧安派辦處	—	—	—	一七五、四一	—	三、〇六九、二三	—	六、九三三、四七	一〇、八六一、一六	—
長春分行	—	—	—	二、六九一、七九	四〇、九七〇、二一	—	—	六、七四八、六七	—	二三、〇五七、三八
吉林支行	—	—	八、七四三、〇八	—	四一、四六四、七二	—	—	八、六五〇、三二	—	四、八八五、五四
多倫支行	—	—	三、六三三、三二	—	一、六六一、〇三	—	三、三一五、二五	—	三、七〇五、〇五	—
褐石口派辦處	—	—	七三、四六	—	一、一九四、六四	—	五二〇、九五	—	—	—
重慶支行	—	—	—	三、〇三〇、四三	—	一、五七二、六三	一一、六五二、三三	—	—	—
沙市支行	—	—	—	七一六、五四	六、九八二、三六	—	一三、〇五四、六〇	—	五、二一五、九一	—
雲南分行	—	—	—	六六、七五	三、四九一、九九	—	一、五六六、二五	七四一、九八	—	—

全體歷期純損純益數

汕頭分行	—	—	六、五六四、二七	—	一三、〇一一、三九	—	七、〇八五、六三	—	—	—
豐鎮派辦處	—	—	—	—	一、〇九五、八八	—	二、一八六、〇八	—	—	—
遼源派辦處	—	—	—	—	—	一六四、四二	—	一、六五一、六七	—	一〇、七八一、一二
洮南派辦處	—	—	—	—	—	三、一四二、〇九	—	三、八八六、一〇	—	七、七七〇、四四
綏化派辦處	—	—	—	—	—	一、三八七、七四	—	一、六九八、三九	—	二、五五六、八六
雙城派辦處	—	—	—	—	—	一九三、四六	—	三、七三三、六六	—	七、四一二、五七
廸化分行	—	—	—	—	—	三、三二一、二七	五、五一七、九六	—	—	—
山城派辦處	—	—	—	—	—	—	—	三、七六八、一八	六、六二一、八四	—
三姓派辦處	—	—	—	—	—	—	—	三、八二三、四一	一、二九八、四四	—
齊齊哈爾營業所	—	—	—	—	—	—	三、四一三、三一	—	一、三一九、一四	—
保定營業所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
營口派辦處	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一八、五三三、八六
伊通派辦處	—	—	—	—	—	—	—	—	—	五七〇、三一
延吉派辦處	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一、四八八、八三
海倫派辦處	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一、〇五八、四三
阿什河營業所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一、二〇六、九七
慶城營業所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一〇三、〇一
宜昌支行	—	—	—	—	—	—	—	—	二、六二六、六九	—
天門派辦處	—	—	—	—	—	—	—	—	四〇一、七〇	—
	八、三七〇、四八	—	二五、七九四、四七	五二、八九五、一七	一五二、一五二、八七	二四、一二九、一四	六[illegible]、二五〇、二二	一〇八、一七七、〇三	—	—
合計	一七、一三三、〇六	七〇、一八六、三三	七二、三二一、三七	一二七、七八三、五一	二三四、六二三、一九	七八、〇三七、一五	一五三、二六六、五〇	一三五、〇八八、二三	一三四、〇五三、五六	二三六、一九八、三四

四年上期　純益　五萬三千〇六十三元二角六分　四四、九四五、六七　三〇、三〇四、一七
四年下期　純益　五萬五千四百六十二元一角四分　二萬七千百元七角
五年上期　純損　十五萬六千五百八十五元四角四分　十二萬八千二十三元七角四分
五年下期　純損　二萬八千一百七十八元二角八分　益四萬三千九百二十六元八角二分
六年上期　純益　十一萬二千一百四十四元七角八分　十六萬五千三百五十四元四角一分

（說明）本表五年上期ノ滬行損失ハ未ダ錄セズ、六年上期ハ各行追補表尙未ダ着セザルモノアリ、錄セル處ハ決算章案ナリトス。

更ニ又同行ノ民國六年上半期末ニ於ケル資產負債表ヲ示セバ次ノ如シ。

資產負債表（民國六年六月三十日）

負債	元	資產	元
資本總額	一、七三〇、五二一、六四	定期貸金	一、二三三、二七六、八七
定期預金	八七、六二八、〇九	定期抵當貸	一、二八四、一五一、七七
當座預金	七〇九、五五九、二四	現金貸	七九、五九〇、〇〇
特別當座預金	一六七、二一〇、九二	當座貸金	五三五、七四一、五三
定期貯蓄預金	五六〇、〇〇	他行當座貸金	一、三八五、九四一、七四
當座貯蓄預金	一四一、七〇	抵當貸	九、三三四、五九
預金證書	七四八、五七三、七四	定期爲替	二、一〇〇、〇〇
通知預金	五〇、八三四、六一	買入證書	九七二、〇三
臨時預金	二、〇三三、五一八、三六	督促金	二七一、五七八、五七

科目	金額	科目	金額
爲替	六八、六八六、七六	暫時欠損金	四三三、八三三、五九
借入金	二〇、一三六、三七	兌換券製造費	二一四、六一七、九二
他銀行當座	二〇八、二〇三、六五	開業費	一三三、五九五、六四
行員報酬	二、三四九、七九	所有物	一九七、三二七、八二
行員報酬未拂金	九、五七九、七三	有價證券	一、〇五八、五一九、六三
行員貯蓄金	三、六六九、九五	外國貨幣	六六、二〇一、九九
兌換券發行額	四、八四七、〇三〇、五七	沒收抵當物	一、九一五、一七
兌換券發行準備金	二三四、〇九五、三五	兌換券準備金	二、八七〇、二八八、八〇
他行預金	四、〇一六、五八	兌換券準備金	三三八、二六二、〇二
法定積立金	二二、五六六、二九	本支店本年上半期損益	二二三、一三〇、五二
支店前期總損益	四二、七二〇、三五	支店	一、四六七、二七二、五五
本店勘定	九〇四、六五九、二六	出張所	一、二八〇、四〇二、六四
管内支店勘定	九六八、三九六、二六	地金銀	八七、二〇六、二五
保證金	一、三三三、八一二、五八	現金	一、〇九一、七五八、〇七
純益	一一七、五四七、三六	未拂金	二六、〇九〇、七四
		營業所	二三、八〇九、七〇
總計	一四、三一六、〇一九、一五	總計	一四、三一六、〇一九、一五

同行上海支店ハ支店員中私曲ヲ圖リシモノアリテ信用墜落シ、遂ニ民國五年五月十一日取付ニ遭ヒタルガ、資金乏シク預金ノ拂戻及紙幣ノ兌換ニ應ズル能ハズ、一時營業ヲ停止シテ、破産狀態ニ陷レルガ、民國六年九月ニ至リ同行債權者等ハ、緩漫ノ手段ヲ以テハ、到底其目的ヲ達シ得ザルヲ覺リ、此ニ債主聯合會ナルモノヲ組織スルト共ニ、其事務所ヲ設ケ、法律高等顧問ヲ聘シ、活躍ヲナスニ至

レルガ、其章程左ノ如シ。

一、同志ノ聯合ヲ以テ殖邊銀行ヲシテ一日モ早ク其發行紙幣ノ回收、預金ノ返還ヲ行ハシムルヲ以テ目的トス

二、殖邊銀行紙幣及預金證又ハ預金通帳ヲ有スルモノハ金額ノ多寡ヲ論ゼズ須ラク當事務所ニ屆ケ出ヅベク其手數料一元ヲ申受ク

三、本會ハ米國「マツシユー」大律師ヲ債權者代表トナシ財政部並ニ殖邊總管理處ニ對シ正式法律ニ依リ交渉ヲ嚴行ス

四、本會一切ノ經費ハ入會手數料ニテ不足ノ場合ハ發起人ニ於テ之ヲ代辨ス

五、入會シタル者ハ其所有ノ紙幣、預金帳、預證ヲ携帶シ來リテ其ノ檢證ヲ受クベシ若シ之ヲ持チ歸ラントスルモノハ會ノ許可ヲ受クベシ

六、本會大會ノ際ニ總代表者一人、副代表一人、辦事員七人ヲ選擧シ常ニ輪番ヲ以テ會務ヲ辦理ス

七、本會ハ毎日曜事務所ニ依テ常會ヲ開キ、特別會議ヲ開クノ要アル時ハ豫メ通知ヲ發ス

八、入會者ハ必ズ團結ヲ固フシ共ニ進行ノ法ヲ研究シ決シテ自棄觀望其權利ヲ失フガ如キ事アルベカラズ

九、本會事務所ヲ英租界麥家圈交通路ノ中市ニ置ク

十、以上章程ノ不備ナルモノハ隨時之ヲ修正ス

然ルニ其後ニ至ルモ毫モ整理ノ實ナク、且紙幣ノ回收、預金ノ拂戻ナキヨリ、組合ハ遂ニ會審衙門ニ破産ノ宣告ヲ申請スルニ至リ目下係爭中ナルガ、之ト共ニ其他ノ支店ノ營業ニモ影響シ、各地ノ營業共ニ不振ナリ、從テ最近ニ至リ同行關係者ハ之ガ整理發展ヲ策シ、周學淵ヲ以テ其總理トナシ、新ニ新株二百萬元ヲ募集シ、且又農商部ガ設立ノ始メ官株七十萬元ヲ引受ケテ、現金ヲ拂込マズシテ、僅ニ漢冶萍株式ヲ以テ之ガ擔保ニ供シ居レルヲ改メテ、現金ヲ拂込マシムル事トシ、以テ其營業ヲ回復振興セシメントシツヽアリ、右ニツキ周總理ガ民國七年一月國務院ニ提出シタル處ノ呈文次ノ如シ。

竊カニ査スルニ殖邊銀行ハ上海停業ヨリ以來、信用墜落セリ、滬行失敗ノ原因ヲ細考スルニ營業ノ虧損ニアラズシテ、實ニ經理人ノ準備金ヲ私消シ、自利ヲ希圖シ卒ニ盈ヲ求メテ反テ絀スルニ至リ、行務ヲ牽動シタルニヨル、玆ヨリ以後銀行ノ威信既ニ失シ、自ヲ充分ノ統一能力ナク、各分行自ラ財ヲナシ、運轉靈ナラズ、即チ一ニ補救ノ方アルモ、要ハ皆枝節ノモノニシテ終ニ全局統籌ノ計畫ナシ、學淵(代理總理)株主ノ推任ヲ經テ後詳細ニ該行全部ノ內容ヲ考察スルニ入手ノ方法ナシ、首トシテ先ヅ各分行報告ノ表等ヲ根據トシテ該行發行紙幣額並ニ準備金數目、各分行營業狀況ヲ分別整理シ、即チ員ヲ派シテ各地ニ赴カシメ各分行實在情形ト各種帳册表單トヲ相互印證考査セシメシニ、上海一行債務最モ多ク、貸借ノ差引キ、總テノ支拂金手形各項尙銀元一百五十萬元內外ヲ要ス、之レ即チ虧損ノ數ニシテ、其餘ノ北京、張家口、天津、漢口、新疆諸分行ノ如キ或ハ利益アルアリ、或ハ少ク損失アルアリ、均シク大患ナシ。

凡テ銀行ノ危險ヲ生ズルハ、往々營業發達ノ時ニ於テス、以上諸行或ハ既ニ停業ヲ經、或ハ停業セルニ似テ未ダ停業セズ、虧損アルモノハ皆顯ハレテ見易ク、法ヲ設ケテ整理スルニ難カラズ、惟ニ東三省三處分行ハ、營業範圍頗ル廣ク、紙幣流通數目亦鉅ニ、若シ不愼アレバ危險大ナリ、今既ニ整頓ニ從事セント欲スルニ於テハ、三省各分行ニ對シテハ、理宜シク特別注意スベキナリ、故ニ此次實際ヲ調査スルニモ、三省諸行ニハ偏重ナラザルナリ、査スルニ長春、奉天、哈爾賓三處分行ハ成績長春分行ヲ以テ最良トナシ、奉天之ニ次ギ、哈爾賓又之レニ次ギ、以上三行發行ノ紙幣五百四十七萬餘元、庫存準備金二百十二萬餘元、定期貸付金九十七萬餘元、定期抵當貸付金四十四萬餘元、當座預金ノ貸殘三十一萬餘元、他行貸殘十四萬餘元、催收二萬餘元、暫記二十三萬餘元ニシテ、以上各款ヲ綜合スルニ分別割引ヲナシ、損失ヲ五十六萬元內外トスルモ、別ニ淸單ノ査スベキアリ、此項ノ割引損失ハ假ニ多額ニ見積リタルモノニシテ、將來淸算後實際上ノ損失ハ倘斯ノ如ク多額ナラサルベク、現在全部ヲ通シテ計算スルニ、官商資本百八十萬元アリ、而シテ上海ノ實際損失百五十萬元、三省各行假定損失五十餘萬元、其餘各行小損失計二十萬元トシ、該行ノ負フ資本債務計四百萬元アリ、誠ニ能ク新株二百萬元ヲ增募シ、再ビ舊株主ヲシテ、株式ニ應ゼシメ、從來ノ株數ニ按シテ負擔セシメバ、忽ニシテ滿株トナルベク、然ラバ則チ增資當ニ三百萬元ノ外ニアルベシ、再ビ滬行債務ヲ各戶ニ商明シ、滬行ヲ繼續存在セシメ、緩ニ從ツテ分期支拂ヲナサシメバ、欠損額既ニ着落アリ、活動資金亦周轉ニ足ルベク、之レヨリ實心整理セバ尙爲スアルベシ。

夫レ銀行整理方法ノ要點ハ、一ハ勢ヲ得ルナリ、二ハ資ヲ得ルナリ、三ハ人ヲ得ルナリ、四ハ法ヲ得ルナリ、殖邊銀行ノ失敗ハ主トシテ用人ヲ得ザルニヨリ、遂ニ資本ノ喪失ヲ致シ、勢之レニヨリテ去リ、法亦行ハレザル所アリシニヨルナリ、今學淵既ニ經理ヲ擔任シ全局ノ利弊已ニ梗概ヲ得タリ、一面法ヲ設ケテ新資ヲ商添シ、各方面新株ニ應ゼントスルモノ頗ル人ニ乏シカラズ、豫メ計ルニ二百萬元内外アリ、一面人才ヲ愼選シ章程ヲ妥定シテ、内部整頓改良ノ豫備ヲナセリ、惟フニ新株既ニ添募ヲ經、舊株主ノ既ニ之レニ應募セルモノハ、自ラ應ニ數ノ如ク拂込ヲナスベシ、開設ノ初農商部ハ、甞テ株式七十萬元ニ應募セルモ、今ニ至ル迄未ダ現金ヲ拂込マズ、僅ニ漢冶萍株券ヲ以テ擔保トナシタルノミ、前ニ三四年公債一百五十萬元ヲ以テ、漢冶萍株券ヲ收回スルノ議アリ、嗣イデ前項公債業ニ已ニ結束セルヲ以テ、復元年公債三百萬元ヲ改發セントシ、早ク既ニ案ニアリト雖モ、遂ニ未ダ實行セズ、今新株ニ應募シテ鉅資アルヲ得タルモノ、舊株主ノ自ラ其宿諾ヲ踏ミ、スベテノ舊株主ガ拂込ヲナスニヨル、民有株方面既ニ已ニ催繳（行ヒ[illegible]）ヲ定メテ收取ス、其官株ノ應募セル處ノ七十萬元ハ、應ニ政府ニ請フテ數ニ照シテ現金ヲ發給シ、漢冶萍株式ヲ收回シテ以テ原請ニ符セシムベキナリ、然ラバ則チ舊株主ハ官款ヲ表率トナシテ遵從スル所アリ、新株ハ政府ノ維特ヲ知リテ倍フ踴躍スベシ、殖邊銀行ノ許可ヲ得タルハ、元政府ガ金融ヲ活動セシメ、商民ヲシテ其利益ヲ蒙ラシメントスルノ意ニ出ヅ、若シ其停滯扶持スル能ハザルヲ聞カバ、該行破産ノ狀アルハ、其弊猶小ナルガ如キモ、商民喪資ノ苦其害大ナルヲ思ヒテ、之ヲ整頓シテ板ヲ化シテ活トナシ、營業ヲ日ニ發展シ、基礎日ニ鞏固ナラシメ、社會ヲシテ一金融機關ヲ多カラシムベキナリ、之レ豈獨リ該行ノミノ利益ナランヤ、抑亦商民ノ福ナリ。

後七年四月二十八日北京ニ株主總會ヲ開キ、楊度氏議長席ニツキ、會議ヲナセル結果、周代理總理辭シ、新ニ渾賓惠氏總理トナレリ、周氏ノ辭職ハ柴錦堂ナルモノノ爲ニ動カサレテ、不正ノ事アリシガ爲ナリト傳ヘラル。

鹽業銀行

鹽業銀行ハ元故袁世凱時代、則チ民國三年ノ頃、時ノ總統府財政顧問張鎭芳ガ鹽稅取扱ヲ目的トシテ、計畫シタルモノナルガ、當時財界ニ於ケル廣東派ノ勢力盛ニシテ、容易ニ張氏ノ計畫ハ成功セズ、一時殆ンド絕望ニ歸シタリシ如ク、其後周學熈ノ財政總長トナルヤ、周氏ハ元ト財界ノ廣東派ヲ壓伏セントノ宿望ヲ有セシヨリ、張鎭芳ノ鹽業銀行ノ計畫ヲ遂行セシメ、之レニヨリテ廣東派ニ當ラント欲シ、民國四年三月遂ニ之ヲ成立セシムルニ至レリ。

鹽稅ハ支那政府歲入ノ大宗ナルガ、殊ニ民國以來大借款ノ擔保トナリ、其改革ヲ計リシヨリ、收入次第ニ加ハリ、大借欵ノ元利年割額ヲ支拂フテ、尙多大ノ剩餘アルヨリ、之レガ取扱ヒノ爲メニ、特殊銀行ヲ設立シ、大ニ財界ニ覇ヲ稱ヘントスルノ計畫ヨリ、本銀行ノ設立ヲ見タルモノニシテ、本銀行章程第七條ニ所謂特別會計ニ屬スル國庫金ノ取扱トハ、卽チ鹽稅ヲ指稱スルモノナリ、元鹽稅ハ外國銀行團ノ管理ノ下ニアリ、其收入ハ一定ノ外國銀行ニ預入スベキモノナルモ、外國銀行ハ上海、漢口、天津等ノ要地ニ設ケラルルノミナルヲ以テ、若シ本銀行ニシテ能ク當局者トノ聯絡ヲ得テ、大ニ活動センカ、各地ノ鹽場鹽產地ニ於テ鹽稅ノ取扱ヲナスヲ得ベク、從テ之ニヨリテ支那財界ニ勢力ヲ占ムルノ便ナシトセザルナリ。

而シテ本行ノ資本金ハ、總計五百萬元ニシテ、内二百萬元ハ政府ヨリ出資シ、三百萬元ヲ民間ヨリ募集セルモノニシテ、政府ノ出資額ハ全部拂込ヲ了シタルモ、民間ノ拂込ハ開業當時四分ノ一ヲ得、次イデ六年末迄ニ計百五十萬元ヲ得タルガ、更ニ七年ヨリ毎年二十分ノ一即二十五萬元宛續收シテ、擴張ノ資ニ充ツルコトヽセリ、其業務ハ爲替、預金、貸出、手形割引等ノ一般銀行業務ノ外、特別會計ノ國庫金ノ取扱、政府ノ委托ニヨル金庫事務、政府ノ委托ニヨル在外資金ノ管理等ニシテ、特ニ右以外ノ事業ノ經營ヲ禁ゼリ、今次ニ同行章程ヲ掲グ。

鹽業銀行章程

第一條　鹽業銀行ハ有限株式會社トス

第二條　鹽業銀行ハ本店ヲ北京ニ設ケ且ツ内外國ニ於ケル貿易上必要ナル地ニ支店及分店ヲ設置シ又ハ他銀行ト代理又ハ爲替ノ契約ヲ訂結ス但シ支店及分店ノ設置廢止及他銀行ト代理又ハ爲替契約ノ訂結解除等ハ總テ本店職員會ニ於テ議定ノ上財政部ニ報告スヘシ

第三條　鹽業銀行ノ資本總額ヲ銀貨五百萬元トシテ之ヲ五萬株ニ分チ一株ヲ銀貨一百元トス既ニ財政部ニ於テ鹽業銀行ノ營業發展補助ノ爲メ二萬株ヲ引受クルヲ以テ殘餘三萬株ハ一般人民ヨリ募集ス

本銀行資金ノ利息ハ一ヶ年五分トシ資金拂込ノ翌日ヨリ利子ヲ付ス鹽業銀行ガ資本ヲ增加セントスルトキハ株主總會ノ議決ヲ經テ財政部ノ許可ヲ受クヘシ

第四條　鹽業銀行ノ營業年限ハ開業ノ日ヨリ起算シ滿三十ヶ年ヲ以テ限リトナス但シ株主總會ノ決議ヲ經テ財政部ニ延期ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第五條　鹽業銀行ノ株券ハ概シテ記名式ヲ用ヒ其賣買讓與ニ關シテハ別ニ章程ヲ以テ之ヲ定ム但シ賣買讓與ハ中華民國國民ニ限ル

第六條　鹽業銀行ノ營業種目左ノ如シ

一、内外ノ爲替及荷爲替
二、各種ノ預金及貯金
三、各種ノ貸付
四、國庫證劵及確實ナル商業手形ノ割引
五、外國貨幣ノ兌換及地金銀ノ賣買
六、各種證劵ノ取立及貴重品ノ保管
七、其他爲替銀行及實業銀行ニ於テ取扱フヘキ營業
第七條　鹽業銀行ハ特別會計ノ國庫金ヲ管掌ス
第八條　鹽業銀行ハ政府ノ委託ニヨリ金庫事業ヲ分掌スルコトヲ得
第九條　鹽業銀行ハ政府ノ委託ニヨリ專ラ國外ニ於ケル資金ヲ管掌シ且其他ノ事件ヲ取扱フ
第十條　鹽業銀行ハ前四條ニ記載セル以外ノ業務ヲ經營スルコトヲ得ス
第十一條　鹽業銀行ハ不動產株劵及商品等ノ物件ヲ買ヒ受クルコトヲ得ス但シ左記ノ事項ハ此限ニアラス
一、營業用ノ敷地及家屋
二、債務償還ノ爲、債務者ヨリ引渡シタル場合又ハ裁判判決ニ由リテ取得スル場合
第十二條　鹽業銀行ハ本行ノ株劵ヲ買受ケ又ハ之ヲ抵當トシテ取得スルコトヲ得ス但シ債務者カ債務ノ履行ヲ怠ルカ又ハ返濟ノ力ナキトキ之ヲ抵當トシテ取得シ又ハ引受クルコトハ此限ニアラス
第十三條　鹽業銀行ニ董事五名以上十一名以下ヲ置キ株主總會ニ於テ二百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ之ヲ選出シ財政部ニ届出ツヘシ
其任期ハ四箇年ニシテ期限滿了スルモ再選重任スルコトヲ得
第十四條　鹽業銀行ニ總理一名協理一名ヲ置キ株主總會ニ於テ總理ハ四百株以上協理ハ三百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ選出シ財政部ニ届出ツヘシ其任期ハ五箇年ニシテ期限滿了スルモ再選重任スルコトヲ得

第十五條　鹽業銀行ハ毎年一回本店所在地ニ於テ通常株主總會ヲ開ク但シ特別ノ事故アルトキハ臨時株主總會ヲ開クコトヲ得株主總會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十六條　株主總會會員ハ十株毎ニ一票ノ投票權ヲ有シ百株以上ハ五十株毎ニ一票ヲ遞加ス

第十七條　鹽業銀行毎年ノ營業純益ハ其十分ノ一以上ヲ積立金トナスコトヲ要ス

第十八條　鹽業銀行ハ營業上ノ計算報告書ヲ財政部ニ提出スヘシ

第十九條　鹽業銀行カ本章程ニ違背スルトキハ財政部之ヲ制止スルコトヲ得

第二十條　鹽業銀行事務細則ハ隨時修正シ財政部ニ報告スヘシ

該行ハ現ニ北京正陽門外ニ本店アリ、天津、上海、漢口、揚州、南京、信陽州ニ分行アリ、吳鼎昌氏總理タリ。

營業狀態

本行營業狀態ハ比較的成績良好ニシテ開業以來ノ毎年度ノ收益額及配當率次ノ如シ。

	純益	配當	
民國四年度	六七、一〇九、八七元	官餘利	一割
同　五年度	二六七、二二一、二六	同	一割二分
同　六年度	四二五、五四九、七二	同	一割五分

積立金　五年度末現在　一三八、三九五、六七元

六年度	一六六、七〇二 二九
計	三〇五、〇九五、九六

尚此ニ民國六年度資産負債表並損益表ヲ示セバ次ノ如シ。

資産負債表

負債ノ部

資本金	五、〇〇〇、〇〇〇元
定期預金	一、九〇七、五八二
當座預金	六、二四一、〇八七
暫期預金	一、二九〇、四四一
積立金	四四、一九六
配當均一積立金	九四、一九九
本年純益	四八ノ、八二二
計	一五、〇六六、三三〇

資産ノ部

未拂込資本	三、五〇〇、〇〇〇
定期貸金	九九三、七五二
定期抵當貸金	一、三七四、六七六
當産貸金	三、八六一、五八一

科目	金額
他店勘定借金	二、四三三、六〇一
暫期借金	五四四、九七九
開辦費	一四、六五八
營業用器具	一七、〇八三
營業用土地家屋押租	六三、七三八
現金	二、二六二、二六九
計	五、〇六六、三三〇

損益表

利益ノ部

科目	金額
利子	三三九、三四九元
爲替料	一〇八、六二二
爲替差益	一一四、二五九
平色	三六、九〇二
雜損益	五、三二八
滙兌處利益	二五、八三三
計	六三〇、二九五

損失ノ部

科目	金額
各項支出	一一二、〇八二元
營業器具開辦費分拂	六、二八二
總管理處支出	二三、一〇八

本年純益	四八八、八二二
合計	六三〇、二九五

民國實業銀行

故蔡鍔氏ハ其經界督辦ノ任ニアリシ時、全國經界事業經費ヲ籌出スル見地ヨリ、資本五千萬元ヲ以テ、一ノ農業銀行ヲ設立シ、此銀行ハ商業銀行一般ノ營業ヲ爲スベク、而シテ民國四年度官產收入ノ豫算中ヨリ、不取敢一千萬元ヲ支出シ、他ノ四千萬元ハ整理農業公債ヲ發行シテ、各省ヨリ募集シ、又銀行ハ資本五千萬元ニ對スル、三倍ノ紙幣ヲ發行シ、以テ運轉流通ニ資セシムトノ案ヲ立テ、大總統ノ裁可ヲ請ヒ、大總統ハ財政部農商部ニ對シ、意見ヲ徵シタルニ、兩部ニテハ一定セル官產收入中ヨリ、支出スルノ不可能ニシテ、內國公債募集ノ今日、民力旣ニ限リアルベク、更ニ四千萬元ノ農業公債募集ノ不可、及總資本三倍ノ紙幣發行ノ、今日ノ紊亂セル、紙幣經濟上不可ナル等ノ理由ニヨリ、之ニ反對セルモ、元來農業銀行ノ設立ハ、正ニ民生事業ニ關係アリ、主義上至極賛成スル所ナレバ、大總統ノ認可ヲ得バ、別ニ實業銀行組織案ヲ具シ先ヅ京兆ヨリ試行シ、順次各省ニ推行スベシトノ意見ヲ提出シタルニ、大總統ハ全然之ヲ採用セリ。

右ノ結果財政部ハ、籌辦民國實業銀行章程並ニ營業及株金募集辦法ヲ擬シ、大總統ノ申令ヲ請ヒタル

ヲ以テ、大總統ハ民國四年八月十五日附ヲ以テ、左ノ申令ヲ公布セリ。

我國ハ地大ニ物博ク、天然ノ富源地、夙ニ美盛ト稱スルモ、人事未タ盡サス、資本不足ニヨリ、各種ノ實業尙ホ十分發達セス、該部擬辦ノ實業銀行ハ、〓以テ提唱ニ資スヘク、當務ノ急ニ屬ス、擬スル所ノ民國四年實業銀行、及株金募集ノ各章程ハ、均シク妥當ニテ其運輸保險ノ兩事業モ亦實業上無カルヘカラサルノ事ナレハ、該銀行ノ斟酌附設ヲ許シ、相輔ケ行フヘク、一切ノ籌備事宜ハ該部ヨリ主持シ迅速ニ進行スヘシ云々。

其後八月二十九日ノ政府公報ハ、財政部ノ擬定シ袁總統ノ裁可ヲ得タル、民國實業銀行章程七章四十個條及ビ株金募集章程四章二十箇條ヲ公布セリ、本銀行ハ總資本二千萬元ニテ、內一千萬元ハ官資トシテ中國銀行之ヲ擔任支出スベク、其他ノ一千萬元ハ株金募集章程ニヨリ、一般民間ヨリ募集スベキ筈ニテ、資本實收額八倍ノ實業債券ヲ發行シ得ルノ權利ヲ得、而シテ一般實業銀行營業ノ外ニ運輸事業及ビ保險事業ヲ兼營スルハ、其特色トスル所ナリ、次ニ該銀行章程及株式募集章程ヲ掲グ。

民國實業銀行章程　（民國四年八月二十九日政府公報所載）

第一章　總則

第一條　本銀行ハ實業ノ發達又ハ改良ヲ補助スルヲ以テ目的トシ民國實業銀行ト稱ス

第二條　本銀行ハ株式有限公司トス

第三條　本銀行ハ財政部ノ許可登錄ヲ經且ツ農商部ノ登記ヲ請フヘシ

第四條　本銀行ハ董事局ヲ北京ニ設ケ分行分號ヲ實業ノ重要ナル地方ニ設ク

分號ハ附近ノ分行ニ隷シ分行ハ董事局ニ直隷ス董事局ハ分行分號ヲ設立スル時財政部ノ認可ヲ請フベシ

第五條　本銀行營業年限ハ開業ノ日ヨリ六十年ヲ以テ滿期トス滿期後株主會ノ決議ニヨリ財政部ノ認可ヲ經テ之ヲ延長スルコトヲ得

第二章　資本

第六條　本銀行資本總額ヲ二千萬元トシ二十萬株ニ分チ毎株百元トシ官有民有各半數トス
第七條　本銀行ノ官有株ハ中國銀行之ヲ擔任シ民有株ハ民間發企人ヨリ擔任募集ス應募ハ本國人ニ限ル
第八條　本銀行資本增加ノ必要アル時ハ株主總會ノ議決ニヨリ財政部ノ認可ヲ得テ後增募スヘシ
第九條　本銀行株券ハ記名式トシ一株、五株、十株、五十株、百株ノ五種ニ分ツ其ノ賣買讓與ハ別ニ細則ヲ以テ之ヲ定ム
第十條　本銀行ノ株券ハ二人以上共有ノ時ハ其一人ヲ株主ニ推定スヘシ
第十一條　本銀行ノ株券ヲ會社商店ニテ所有スルトキハ株主權利執行者一人ヲ推定スヘシ
第十二條　本銀行株券ハ左記事項記載ノ外本銀行ノ印章ヲ捺シ且總支配人ニ於テ記名調印スヘシ

一、本銀行ノ名稱
二、株券ノ番號及發行年月日
三、資本ノ總額及毎株ノ銀額
四、株主姓名

第三章　營業

第十三條　本銀行ハ左記範圍內ニ於ケル營業ニ從事スルコトヲ得
一、左記各項種植、開墾、牧畜、水利、鑛產、工場、鐵道、礦業等ノ貸出
甲　不動產ヲ以テ抵當トシ十年以內ニ分期完濟スルモノ
乙　不動產ヲ以テ抵當トシ一年以內ニ償還スルモノ
丙　產出物ヲ抵當トシ一年以內ニ償還スルモノ
二、工廠機械ヲ抵當トスル貸出

三、保證付キ貨物營業ノ貸出
四、特別營業區域ノ爲替及兩替取扱（其區域ハ別ニ之ヲ定ム）
五、商品賣買ノ代理或ハ紹介
六、國家及公共團體ノ債務發行代辦
七、公立私立各種實業公司ノ株券又債券發行代辦
八、公共清算會ニ附屬スル會計專門家カ公立私立ノ各種實業公司ノ爲メニ帳簿ヲ檢査シ財產ヲ整理スルモノ（其會則ハ別ニ之ヲ定メ財政部ノ認可ヲ受クヘシ）
九、倉庫ヲ建設シ貨物預ヲ爲シ又タ荷爲替ヲ爲スモノ（其倉庫規則ハ別ニ之ヲ定ム）
十、金銀地金及外國貨幣ノ賣買
十一、有價證券及貴重物品ノ保管
十二、各種證券證書ノ取引
十三、地方實行銀行債券ノ購買
十四、各種預金ノ取扱

第十四條　抵當ノ不動產ハ收益ノ永續確實ナルモノニ限ル其保險附ノモノハ保險契約ヲ添付スヘシ

第十五條　不動產抵當ノ貸出總額ハ多キモ本銀行見積價格ノ三分ノ二ニ限ル

第十六條　家屋機械ヲ抵當トスル時ハ其見積價格中滿期當日迄ノ消耗數目若干ヲ引去リタルモノヲ標準トス

第十七條　債務者カ貸出額五分ノ一以上ヲ償還シタル時ハ償還ノ數ニヨリ抵當品一部ノ解除ヲ要求スルコトヲ得其殘額ニ對シテ亦同シ

第十八條　債務者カ年賦償還ノ義務ヲ履行シ能ハサル時ハ本銀行ハ隨時全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第十九條　本銀行ハ抵當價格下落ニ際シ抵當ノ增加ヲ要求スルコトヲ得債務者要求ニ應セサル時ハ本銀行ハ隨時全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十條　債務者カ第十八條第十九條ノ要求ニ應セサル時ハ其抵當品ヲ自由ニ處分シ元利ヲ引去ルノ權利アリ其處分ノ結果仍ホ不足アル時ハ債務者ニ補充ヲ要求ス若シ餘分アレハ之ヲ還付スヘシ

第四章　株主總會

第二十一條　株主總會ハ常會臨時會ノ兩種ニ分ツ

第二十二條　株主常會ハ毎年四月董事局所在地ニ擧行シ總支配人之ヲ召集ス

第二十三條　總支配人カ必ス會議ヲ要スル重要事件アリト認メタル時ハ又ハ總株數五分ノ一以上ノ株主カ重要事件ノ爲ノ理由書ヲ提出シ會議ヲ要求シタル時ハ臨時株主總會ヲ召集スヘシ

第二十四條　各株主ノ議決權ハ毎一株一權トシ其百株以上ハ毎二株一權トシ千株以上ハ毎五株一權トス

第二十五條　株主カ事故アリテ出席スル能ハサル時ハ他ノ株主ニ委託代理セシムルヲ得ルモ株主以外ノモノニ委託スルコトヲ得ス

第二十六條　本銀行ニ董事局ヲ設ケ董事九人ヲ置ク官有株主中ヨリ五人ヲ推擧シ財政部ノ許可ヲ請フヘシ凡ソ本銀行一切ノ特別重要事件ハ董事局ニテ開議公決スヘシ

第二十七條　董事局ハ官有株董事中ヨリ一人ヲ推擧シテ總支配人ト爲シ財政部ノ許可ヲ請フヘシ其職務權限左ノ如シ

一、本銀行ノ對內對外事務ヲ綜理ス
二、株券及實業債券ニ署名調印ス
三、行員ヲ指揮監督ス
四、行員ヲ採用黜陟ス
五、株主會及董事會ヲ召集ス
六、董事會ニハ議長トナル
七、各種ノ辦事細則ヲ編定ス

第二十八條　董事局ハ官有株民有株董事中ヨリ各一人ヲ推擧シテ副總支配人ト爲シ財政部ノ登記ヲ請フヘク總支配人ヲ輔助シテ行務ヲ

處理ス總支配人事故アル時ハ首席副支配人代テ其職務チ行フ

第二十九條　董事ハ董事會ニ列席シテ本銀行重要ノ事務ヲ議決ス

第三十條　本銀行ニハ監事(監査役)三人ヲ設ケ官有株主中ヨリ一人チ推擧シ民有株主中ヨリ二人チ公擧ス其職務權限左ノ如シ

一、本銀行職員ノ本行定章ニ違背スル者ノ有無チ監察ス

二、本銀行帳簿財産及貸出抵當品チ檢査ス

三、董事局ヨリ株主總會ヘ交付ノ各種簿册ヲ覆査シ且ツ意見ヲ株主總會ニ陳述ス

四、實業債券ニ署名調印シ並ニ開票チ監視ス

民有株主ノ監事ハ本銀行五十株以上ノ株主ニ限リ選擧セラルルコトチ得

第三十一條　董事ノ任期ハ三年トシ毎次三分ノ二ヲ改選シ連任選擧スルコトヲ得

第三十二條　監事ノ任期ハ二年トシ連任選擧スルコトチ得

第六章　實業債券

第三十三條　本銀行ハ實業債券ヲ發行スルコトヲ得其金額ハ實收資本ノ八倍迄トス但シ貸出總額チ超過スルコトヲ得ス毎次發行前別ニ詳細ノ規程チ定メ財政部ノ許可ヲ請フヘシ

第四十條　本銀行株金募集章程ハ別ニ之チ定ム

民國實業銀行株金募集章程（民國四年八月廿九日政府公報所載）

第一章　株式

第一條　本銀行ハ株式有限公司トス

第二條　本銀行株金總額ハ銀二千萬元トシ二十萬株ニ分チ一株百元トス

第三條　本銀行ノ株金ハ官有株民有株ノ兩種ニ分チ官有株一千萬元民有株一千萬元トス

第四條　本銀行官有株ハ中國銀行之ヲ擔任シ民有株ハ民間ノ發企人之ヲ擔任ス

第二章　應募及拂込

第五條　應募者ハ本銀行ノ株主トシ數人ニテ一株ヲ購入スル者ハ其一人ヲ株主タル名義人トスヘク本銀行詳細章程ニヨリ株主各種ノ權利ヲ享有スヘシ

第六條　應募者ハ北京ノ本銀行籌備處及本銀行指定ノ各省募集處ニ申込ムヘシ

第七條　申込ノ時保證金トシテ每株五元ヲ拂込ムトキハ募集處ハ應募證書ヲ交付スヘク保證金ハ株金拂込ノ時之ヲ控除スヘシ

第八條　申込及拂込期日ハ臨時新聞紙上ニ廣告スヘシ

第九條　拂込期間內ニ應募人ハ株金全數ト應募證書ヲ募集處ニ交付スヘシ期ヲ逾ヘ交付セサルモノハ保證金ヲ罰金ニ充テ還付セサルモノトス

第十條　株金拂込ノ時募集處ハ先ヅ領收證ヲ交付シ追テ期ヲ定メ廣告ノ上株券ト交換スヘシ

第三章　株券

第十一條　本銀行ノ株券ハ記名式ニテ支那人以外ニハ賣買轉讓スルコトヲ得ス

第十二條　本銀行ノ株券ハ一株、五株、十株、五十株、百株ノ五種ニ分ツ

第十三條　株券ヲ賣買轉讓シタル時ハ賣主又ハ讓主ハ株券背面ニ記名調印シテ買主又ハ讓受主ニ交付シ本銀行ニ送リ書換フヘク買主又ハ讓受主ハ書換費一枚ニ付銀一元ヲ納付スヘシ

第十四條　承繼關係ニ因リ株券上ノ姓名ヲ改メントスル者ハ繼承者ヨリ株券ト證明書トヲ本銀行ニ送リ書換フヘク且書換費一枚二十仙ヲ納ムヘシ

第十五條　株券ヲ遺失シタル時ハ本銀行ニ新株券ノ再渡ヲ請求スヘク二人以上ノ保證スル保證書ヲ提出シ且ツ遺失者ハ新聞紙上ニ廣告スヘシ而シテ四箇月後發見セサル時ハ之ヲ再渡スヘク遺失者ハ領收證ヲ本銀行ニ差出スヘシ

新株券再渡後發見シタル舊株券ハ無効トス新株券再渡請求者ハ一枚ニ付銀二十仙ヲ納ムヘシ遺失ノ株券ヲ廣告期間內ニ發見シタル時

ハ之ヲ本銀行ニ通知シ再渡ノ請求ヲ取消シ且遺失者ヨリ新聞ニ廣告スヘシ

第十六條　遺失ノ株券ニ對シ紛議ヲ生シタル時ハ正式解決ノ後新株券ヲ再渡スヘシ

第十七條　株券ヲ汚染損壞シ又ハ背面ニ署名調印ノ餘白ナキ時ハ株主ハ新株券ノ交授ヲ請フコトヲ得ヘク交授費トシテ一枚銀五十仙ヲ納付スヘシ

第十八條　株主ハ隨時銀行ニ對シ株券ノ交授ヲ請フコトヲ得但シ換券費トシテ新株券一枚ニ付銀一元ヲ納ムヘシ

第四章　附　則

第十九條　本章程ヲ修正スルトキハ財政部ノ認可ヲ經タル後施行スヘシ

第二十條　本章程ノ未タ盡サヽル處ハ本銀行詳細章程ニヨリ辦理スヘシ

其後本銀行設立ノ計畫ハ、次第ニ進捗セルガ、資本金ハ本章程ヲ變改シテ、政府持株四百萬元、一般募集株金一千二百萬元合計一千六百萬元トシテ、一時開辦セルガ、更ニ民國六年八月ニ至リ、一般募集株式四百萬元ヲ追募シ、資本金ヲ二千萬元トシ、熊希齡ヲ以テ總理トナスノ計畫成リシガ、本銀行ハ未ダ見ルベキ成績ヲ擧グルニ至ラザルモノヽ如シ。

新華儲蓄銀行

新華儲蓄銀行ハ民國三年十月十一日公布新華儲蓄銀行章程ニ準據シ、財政部ニ於テ中國銀行及交通銀行ニ命ジテ組織セシメタルモノニテ、貯金取扱ヲ主要目的トシ割增金付儲蓄票ヲ發行ス、資本金ハ一百萬元ニシテ、其組織ハ株式會社ナルモ、右資金ハ中國交通兩銀行ノ合資ニ係リ全部拂込濟タリ。

其業務ハ純然タル貯蓄銀行ナルガ、其資金運用ノ途ハ、中國交通兩銀行ニ對スル當座及定期貸付一般ニ對スル六ケ月以内ノ國家公債證書等ヲ擔保トスル貸付ニ限ル處ニ、特別ノ目的ヲ藏スルニ似タリ、則ヲ同行ノ設立目的ハ、國民ノ預金ヲ吸收シテ、中國、交通兩銀行ニ資金ヲ供給セントスルニアルモノノ如シ、之レガ爲メニ財政部ガ特ニ之レヲ設立セシメタルナルベキカ、其成蹟ハ良好ニシテ、民國六年支那政府ノ發表セル、民國行政紀要中ニハ、「零細ノ資金ヲ吸收シ得テ、成績頗ル良好ナリ」トアリ、又民國三年度農商部統計書ニハ、其預金額二百萬元ト記セリ、今同行章程ヲ次ニ掲グ。

新華儲蓄銀行章程　（民國三年十月十一日批令）

第一條　本行ハ財政部ニ稟准シテ設立シ定名ヲ新華儲蓄銀行ト爲シ政府ノ儲蓄銀行條例公布施行ヲ俟ツテ仍ヲ儲蓄銀行條例ニ遵照シテ辦理ス

第二條　本行資本總額ハ一百萬元ト定メ毎株ヲ一百元ト爲ス

第三條　本行總行營業地點ハ北京ト定メ分行ノ開設及其地點儲蓄櫃ノ分布及其地點ハ均シク隨時重役會議ニ於テ之ヲ決定ス

第四條　本行ハ左列各項ノ預金ノ取扱ヒヲ爲スヲ得

一、各種活期儲蓄預金

二、各種年金儲蓄預金

三、各種定期儲蓄預金

第五條　活期預金ハ一人一回ノ預入額銀元一元或ハ京足銀一兩ヨリ少ナキヲ得ス

第六條　各種活期定期儲蓄ノ利率ハ複利ノ計算法ヲ以テシ別ニ章程ヲ定ム

第七條　各種儲蓄預金ノ利率ハ重役會議ニ於テ決議後之ヲ公告ス

第八條　各種儲蓄預金ハ先ツ重役會ニ於テ種類及ビ辦法表式ニ付議決後財政部ニ稟請シテ其批准後之ヲ公告ス

第九條　各種定期預金ハ一戸銀元十元或ハ京足銀十兩ヲ以テ限リトス

第十條　本行ハ儲蓄預金總額ニ按シ其若干ヲ以テ國家ノ公債證券ヲ購入シ所在ノ中國銀行或ハ交通銀行ノ保管ニ提出シテ各儲蓄預金ノ擔保ト爲ス其成數ハ財政部ニ稟請シテ之ヲ定ム

前項儲蓄預金ノ總數ハ半年結算ノ現存總數ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條　本行ハ財政部ノ委託ヲ受ケ特別儲蓄事項ヲ取扱フヲ得

第十二條　本行存金ノ運用左ノ如シ

一、中國銀行或ハ交通銀行ニ活期或ハ定期ノ貸付ヲ爲ス

二、抵當貸付ケヲ爲ス但シ其期限ハ六個月ヲ過クルヲ得ス其抵當品ハ國家公債證券或ハ政府發行證券或ハ政府ノ擔保證ヲ以テ限リト爲ス地方公債ニシテ中央政府ノ認許指定シタルモノハ亦國家公債證券ノ例ニ按シ取扱フ

第十三條　儲蓄銀行ハ市面ノ情形ニ依リ第十二條ノ保管ニ係ル國家公債證券等ヲ以テ中國銀行或ハ交通銀行ニ暫時抵當トシテ現金ヲ借入ルルコトヲ得

第十四條　本行ハ株主成立會ヲ除ク外毎年一月一回常會ヲ開ク若シ重役二名以上ノ請求アルトキハ臨時會ヲ開クヲ得

第十五條　取締役及監査役ノ選擧ハ常會ヲ開キタル時ニ之ヲ行フヘシ、但シ第一回取締役及監査役ノ選擧ハ成立會ヲ開ク時ニ行フヲ得

第十六條　凡ソ株主常會及臨時會ノ議案ハ均シク株券ノ多少數ヲ以テ之ヲ決ス

第十七條　本行ハ株主ヨリ五名ヲ公擧シテ取締役ト爲シ二名ヲ監査役ト爲ス再ヒ取締役中ヨリ一名ヲ公擧シテ總取締役ト爲シ二名ヲ副取締役ト爲シ銀行事務ヲ處理セシム

第十八條　取締役監査役及總取締役副取締役ノ公擧方法ハ均シク得票ノ多數ヲ以テ當選ト爲ス

第十九條　取締役及監査役ノ任期ハ創立年度ヲ計算セスシテ均シク滿三年ヲ以テ期ト爲ス但シ連擧連任スルヲ得

第二十條　總取締役副取締役ニ缺員アルトキハ取締役中ヨリ再ヒ公擧ス取締役及監査役中ニ缺員アルトキハ次年度株主常會ヲ開キタル時再ビ之ヲ公擧ス

第二十一條　本行ノ行務ハ總取締役之ヲ總理シ副取締役之ヲ協助ス

第二十二條　本行ハ重役會ヲ組織スヘシ凡ソ經費ノ豫算及純益分配規定及行務ノ興革各項細章ノ規定及本章程規定ハ重役會議ニ提出シテ之ヲ評議スヘシ事項ハ重役會議多數ノ議決ヲ以テ之ヲ行フ

第二十三條　重役會ハ毎月常會一回ヲ開ク前條規定ノ各事ヲ議決スルヲ除ク外總取締役ハ一ケ月内ノ營業狀況ヲ報告ス

總取締役或ハ取締役二名以上ノ請求アレハ臨時重役會ヲ開クヲ得

第二十四條　監査役ハ隨時各項ノ帳簿及各種表ヲ檢査スルヲ得若シ不合ノ點アレハ之ヲ擧發スルヲ得其重大ナルモノハ即時重役會ニ報告スルヲ得

第二十五條　毎營業年度終了ノ時資産負債表及損益表ヲ株主常會ニ報告スベシ監査役ハ查明簽字シテ其責任ヲ負フヘシ

第二十六條　總取締役副取締役及監査役ノ俸給及獎勵規定變更ハ株主會ニ於テ之ヲ定ム

第二十七條　總取締役副取締役及監査役ハ株主會ノ允許ヲ得ルニ非ヲザレバ辭職スルヲ得ズ若シ留任シ能ハザル者ハ理由ヲ具シ株主會ヲ開キタルトキ多數議決ニ於テ之ヲ辭退スルヲ得

第二十八條　本行株金ニ分配スル純益金ニハ利息ヲ含マズ營業年度終了ノトキ決算シテ分配ス

第二十九條　毎營業年度終了ノトキ純益總額中少クトモ十分ノ一ヲ提出シテ公積金ト爲シ其餘數ハ株主ニ分配スルヲ得

第三十條　本行營業年限ハ三十個年ト爲ス但シ財政部ニ稟請シテ之ヲ延長スルヲ得

第三十一條　本章程ヲ若シ變更スルトキハ株主會ノ議決ヲ經テ財政部ニ稟准シタル後始メテ効力ヲ發生シ得

尙又本行ハ政府ノ特許ヲ得テ、毎年一回割增金付ノ貯蓄票一百萬枚一千萬元宛ヲ發行スル事ヲ得べク、爲ニ民國三年十月十二日附ヲ以テ、新華儲蓄銀行發行儲蓄票章程ノ發布ヲ見タリ、卽チ次ノ如シ。

新華儲蓄銀行發行儲蓄票章程（民國三年十月十二日財政部令）

第一條　本銀行儲蓄票ハ政府ニ稟請シテ特准ヲ受ケ發行ス
第二條　儲蓄票ノ償還元金及當籤シテ給奬スルハ均シク政府之ヲ保證ス
第三條　儲蓄票票面金額ハ定メテ銀圓十圓ト爲ス一枚ヲ更ニ十枚ニ分チ其金額ヲ銀一圓トナス
第四條　儲蓄票發行總額ハ毎回一千萬元ト定メ即チ一百萬枚ヲ一千萬枚ニ分ツ
第五條　儲蓄票ハ毎年一回發行ス
第六條　儲蓄票元金償還ノ期ハ三年ヲ以テ限リトス、其償還期日ハ票面ニ記明ス但シ正ニ當籤シタル者ハ即チ憑票シテ奬ヲ附シ別ニ元金ヲ償還セズ
第七條　儲蓄票ニ附スベキ利息ハ抽籤給奬ヲ以テシ毎年抽籤一回ヲ給與一回ニ代フ
第八條　毎年擧行スル抽籤ノ期日及地點ハ毎回儲蓄票ヲ發行スル時ニ定メ票面ニ書明ス、如何ヲ論ゼズ之ヲ變改スルヲ得ズ
第九條　抽籤ノ當日ハ公開シ政府ヨリ肅政史二名財政部ヨリ監理員一名所在地ノ商務總會ヨリ二名ヲ公擧シテ會同シ開籤ヲ監視セシム
第十條　毎回發行ノ儲蓄票ハ均シク三回ニ分チテ抽籤シ開籤ハ毎年一回ト爲ス但シ已ニ當籤シタル者ニハ次回再ビ抽籤セズ毎回當籤者ハ五千枚ニシテ即チ五萬枚ノ金額左ノ如シ

一等十萬元一個（一枚一萬元宛）
二等四萬元一個（一枚四千元宛）
三等三萬元一個（一枚三千元宛）
四等二萬元一個（一枚二千元宛）
五等一萬元一個（一枚一千元宛）
六等五千元二個（一枚五百元宛）

七等二千五百元六個(一枚二百五十元宛)
八等一千元三十個(一枚一百元宛)
九等五百元六十個(一枚五十元宛)
十等二百五十元三百個(一枚二十五元宛)
十一等一百元六百個(一枚十元宛)
十二等五十元一千個(一枚五元宛)
第一等奬末尾ノ三字カ相同シキモノ九百九十九枚ハ一枚四十元宛(即チ一枚四元宛)
第二等奬末尾ノ三字カ相同シキモノ九百九十九枚ハ一枚三十元宛(即チ一枚三元宛)
第三等奬末尾ノ三字カ相同シキモノ九百九十九枚ハ一枚二十元宛(即チ一枚二元宛)

計五千枚即チ五萬枚

給奬額五十五萬九千九百十元

第十一條　儲蓄票賣出後凡ソ當籤シテ元金償還スルトキハ票ヲ認メテ人ヲ認メス若シ遺失等ノ事故アリトモ紛失ノ屆出テスルヲ得ス

第十二條　本行ハ儲蓄票ニ關スル資金運用ハ本行章程ヲ遵照シテ處理スヘシ政府ハ隨時派員シテ之ヲ監理ス

第十三條　凡ソ儲蓄票中第一二三四等當籤者ハ須ク直接北京新華儲蓄銀行ヨリ受領スヘシ五等以下ノ當籤者ハ即チ原發行ノ地ニ就キ新華儲蓄銀行及中國交通ノ兩銀行並ニ各郵便電信局ヨリ受領スヘシ

第十四條　凡ソ當籤者ハ當籤ノ日ヨリ起算シテ一年以內ニ隨時該票ヲ持參シテ受領スヘシ期ヲ逾レハ受領スルヲ得スシテ作廢ス

第十五條　凡ソ三回ニシテ未タ當籤セサル儲蓄票ハ償還ノ期滿チテヨリ一年內ニ原發行地ノ新華儲蓄銀行或ハ中國交通ノ兩銀行及各郵便電信局へ該票ヲ持參シテ元金ノ拂戻ヲ受クヘシ期日ヲ逾レハ受領スルヲ得ス作廢ス

第十六條　儲蓄票ハ本行ヲ以テ發行ノ機關ト爲シ中國交通總分行及各郵便電信局ヲ以テ發行代理機關ト爲ス總發行所ハ財政部ヨリ監理員一名ヲ派遣シテ之ヲ監理セシム代理機關ノ章程ハ別ニ之ヲ定ム

第十七條　凡ソ賣出ノ取扱ヒヲ爲サント欲スル者ハ均シク總發行所及發行機關ニ向ツテ商定スヘシ之レカ章程ハ別ニ定ム

第十八條　第一年ノ抽籤時ニ達シタル時儲蓄票尙賣出額全數ニ滿タサルトキハ已ニ賣出號數ノ儘抽籤ヲ行ヒ給獎ス仍ホ本章程第十條ニ按照シテ所列各等ノ全部ヲ給獎ス其第二年第三年亦賣出ノ票號ニ照シテ開籤シ仍ホ此辨理法ヲ按照ス

第十九條　本章程ヲ若シ增入及修改スルトキハ須ク本銀行重役會ノ決議ヲ經テ財政部ニ提出シ其認可ヲ受クヘシ

右章程ニ示スガ如ク、本行ハ儲蓄票發行ノ總機關ナルガ、其儲蓄票ナルモノハ、外國等ノ割增金付債券トハ、其趣ヲ異ニシ、償還期限ハ僅三ケ年ニシテ、割增金ノ外利子ヲ附セズ、又割增金ニ當籤シタルモノニハ、元金ヲ支拂ハザル制度ニシテ、稍富籤（彩票）ニ類シ、其兩者ノ折衷セラレタルモノトナスベキニ似タリ、而シテ其元金及割增金ノ支拂ニツイテハ、政府ニ於テ之レヲ保證スルモノトス、儲蓄票賣出ニヨリ得タル資金ハ、本行章程ニ從ヒ、運用スベキモノナレバ、主トシテ中國交通兩銀行ヘノ融通ニアリ、旁以テ政府ハソレニヨリ兩銀行ニ迫リテ、其政費ヲ得ントスル計畫タルハ、推スルニ難カラズ。

第一回儲蓄票ハ民國四年十月ヲ以テ賣出シ、數月內ニ賣盡シ、更ニ其後四年、五年、六年ノ三回ニ抽籤ヲ行ヒ、民國七年ニハ規定ニ基キ、當籤以外ノ儲蓄票ノ支拂ヲナスベキノ期ニ達シタルモ、其後儲蓄票ノ發行ナク、資本ナキ爲、國務會議ノ議決、大總統ノ許可ヲ經テ、更ニ三年間之レヲ繼續スル事トシ、七年四月二十五日ヲ第一回トシ、八年九年ノ三回ニ割增金ノ抽籤ヲナシ、其後ニ於テ當籤セザルモノニ元金ヲ拂戾ス事トセリ。

尙政府ノ則例ヲ以テ決定シタル、本銀行ノ儲蓄種類ハ、次ノ如キ各種アリ、其利率迄モ決定シタルハ一奇ト謂フベシ。

第一類　當座預金

此類ノ預金ハ儲蓄者ノ爲メニ、小切手ヲ設ケテ使用セシムルモノニシテ、第一回ノ預入最少限度ヲ銀一百元、或ハ京足銀一百兩トス以後每次預入ハ最少銀一元、或ハ京足銀一兩トシ其預金總額ハ制限ヲ加ヘズ、利子二分五厘、每年六月十二月末ニ結算ス

第二類　特別當座預金

此類ハ特別儲蓄者ノ爲ニ帳簿ヲ設ケ、每回ノ預入最少限ヲ銀一元或ハ京足銀一兩トナシ、其預金總額ノ限度ハ銀一千元或ハ京足銀一千兩トシ、帳簿ニヨリテ收支スルモノニシテ、利息ハ複利法ニヨリテ、二分五厘ヲ附ス、每月一回宛結算シ、其每月付スヘキ利息ハ元金中ニ繰入レ、翌月一日ヨリ利子ヲ附ズ

第三類　通知預金

此類ノ預金ハ儲蓄者ノ爲ニ通知支票ヲ用ヒ、預入辦法ハ第一類ニ照シテ之ヲ行ヒ、每回拂出ヲナス時ハ、先ヅ支票ヲ以テ本行ニ差出シ、其檢明蓋印ヲ得、其後五日ニ於テ該支票ニヨリ拂出ヲナスモノニシテ、利子四分トシ每年六月十二月末ニ結算ス

第四類　甲種定期預金

此類ノ預金ハ定期儲蓄者ノ爲ニ設クルモノニシテ、凡テ定期三ケ月ハ利子四分、四ケ月ハ四分半、六ケ月ハ五分、一年ハ六分ニシテ、期ニ至レバ元利共拂戾ス

第五類　乙種定期預金

此類ノ預金ハ儲蓄者、每月利子ヲ受取ルノ便利アルガ爲ニ設クルモノニシテ、定期一年ハ利子六分、二年ハ六分半、三年ハ七分、月々利子ヲ支拂ヒ、期ニ至レバ元金ヲ拂戾ス

第六類　丙種定期預金

此類ノ儲蓄ハ、長年ノ儲蓄ノ爲ニ設クルモノニシテ、本行ハ複利法ニヨリ年利六分トシテ計算ス、若シ銀一百元ヲ預入セバ次ノ如
一年ヲ期トナシ期ニ至リ拂戻スベキ元利　百六元九分
五年同上　百三十四元三角九分一厘
十年同上　百八十元六角一分一厘
十五年同上　二百四十二元七角二分六厘
二十年同上　三百二十六元二角三厘
銀額ノ多寡年數ノ長短ハ此ヲ以テ類推ス

第七類　丁種定期預金
此類ノ預金ハ儲蓄者ガ、毎月元利ヲ取回スルヲ得ルノ便利アル爲ニ設クルモノニシテ、本行ハ複利法ニヨリ六分ノ利子ヲ附ス、若シ儲蓄人毎月元利十元ヲ取回セントセバ次ノ如クスベシ
預入百十六元一分二厘、一年內毎月元利十元宛ヲ取回ス
預入五百二十九元九角〇七厘、五年內毎月元利子十元宛ヲ取回ス
銀數ノ多寡期間ノ長短之レヲ以テ類推スベシ

第八類　戊種定期預金
此類ノ預金ハ儲蓄者ガ一定年限ノ後ニ、毎月元利ヲ取回シ得ル便利ノ爲ニ設クルモノニシテ、本行ハ複利法ニヨリ年六分ノ利子ヲ附ス、其計算例次ノ如シ
一回預入銀元二百五十九元九角八分八厘、五年以後毎月十元宛ヲ支拂ヒ三年ニシテ元利共ニ拂終ル
一回預入銀元三百三十八元三角五分四厘、五年以後毎月十元宛ヲ支拂ヒ、四年ニシテ元利共ニ拂終ル
一回預入銀元四百十二元九角七厘、五年以後、毎月十元宛ヲ支拂ヒ、五年ニシテ元利共ニ支拂終ル
銀數ノ多寡期間ノ長短コレニヨリ類推スベシ

第九類　己種定期預金

此類ノ預金ハ儲蓄者ガ、零存整取シ得ルガ爲ニ設クルモノニシテ、本行ハ複利法ニヨリ利子六分ヲ附ス、計算ノ例次ノ如シ

毎月銀壹元宛ヲ預金スルモノトス

一年ノ期滿ツレバ元利合計	十二元三角三分
二年同上	二十五元二角九分一厘
三年同上	三十八元九角一分五厘
四年同上	五十三元二角三分六厘
五年同上	六十八元六角八分九厘
六年同上	八十四元一角一分三厘
七年同上	百元七角四分六厘
八年同上	百十八元二角三分一厘
九年同上	百三十六元六角一分
十年同上	百五十五元九角二分九厘
十一年同上	百七十六元二角三分七厘
十二年同上	百九十七元五角八分三厘
十三年同上	二百二十元二分二厘
十四年同上	二百四十三元六角九厘
十五年同上	二百六十八元四角二厘
十六年同上	二百九十四元四角六分四厘
十七年同上	三百二十一元八角六分

十八年同上　三百五十元六角五分七厘
十九年同上　三百八十元九角二分七厘
二十年同上　四百十二元七角四分八厘

第十類　庚種定期預金

此類ノ預金ハ儲蓄者ガ、修學婚姻及養老等ノ豫備トナサンカ爲ニ設クルモノニシテ、其辦法乙種ト同シク其例次ノ如シ

毎月預入銀七元三角二分二厘　滿五年ニシテ元利五百元
毎月預入銀三元二角七厘　滿十年同上
毎月預入銀一元八角六分三厘　滿十五年同上
毎月預入銀一元二角一分一厘　滿二十年同上
毎年預入銀八十五元八角八分三厘　滿五年同上
毎年預入銀三十七元六角一分三厘　滿十年同上
毎年預入銀二十一元八角五分一厘　滿十五年同上
毎年預入銀十四元二角一分　滿二十年同上

第十一類　辛種定期預金

此類ノ預金ハ學校醫院ノ基本金、各種撫邮金、奬學金、其他ノ各項慈善事業ノ爲ニ、儲蓄セントスル爲メニ設クルモノニシテ、本行ハ利子亦特別高歩ニ之レヲ附シ、一年ハ七分、二年ハ七分半、三年ハ八分、四年ハ八分半、五年以上ハ九分トシ、期ニ至レハ元利共ニ支拂フ

後民國七年ニ至リ先ノ章程中改訂ヲ要スル箇所アリテ、新株募集規則ト共ニ、原定規則ニ改訂ヲ加ヘ、同年一月二十六日附ヲ以テ、財政總長王克敏氏ヨリ大總統ニ之ガ准許ヲ呈請セリ、卽チ該株募集章

程及改修章程ヲ示セバ左ノ如シ。

新華儲蓄銀行新株募集章程

第一條　本銀行ノ定額資本ヲ通用銀元一百萬元トナシ分チテ一萬株トシ一株一百元トス

第二條　本銀行株銀ヲ二期ニ分チテ拂込ミ應募ノ際先ヅ五割ヲ納メ殘金ハ董事會ノ決議ヲ俟テ株券ト引換ヘニ之ヲ拂込ムモノトス

第三條　本銀行株券ハ記名式トシ本國人ヲ以テ限リトス

第四條　本銀行株ハ官利年六厘トシ毎年帳簿締切後株主證據券ト引換ヘニ之ヲ支拂フ

第五條　本銀行株券ハ民國七年七月一日ヨリ起算ス

凡テ期ニ先チテ株金ヲ拂込ムモノハ其日數ニ按シテ官息ヲ其內ヨリ控除スヘシ

第六條　本銀行毎年決算ニ於テ得タル所ノ利益ハ其ノ十分ノ一以上ヲ控除シテ公積金トシ其餘ヲ株主配當及行員奬勵金ニ分配シ均シク董事會ノ決議ニヨリ之ヲ行フヘシ

第七條　本銀行資本ハ中國交通兩銀行持株五千株ヲ除ク外ノ其ノ餘ノ五千株ハ別ニ募集シテ之ヲ滿タシ均シク一律ニ本行章程ニ照シテ株主ノ權利ヲ享有ス

第八條　凡テ株券ノ轉買讓與ハ本銀行臺帳ニ登錄スルヲ要ス

第九條　株券ガ若シ抵當ノ情事ニ因リテ紛擾ヲ發生シタル時ハ本銀行ハ株券面所載或ハ本行ニ登錄ノ株主ヲ以テ證據トナス

第十條　株券若シ遺失シタル時ハ本人ヨリ保證人ノ署名捺印セル屆書ヲ本銀行ニ提出スルト同時ニ一面當地二種以上ノ新聞紙上ニ遺失廣告ヲナスベシ、廣告ノ日ヨリ三ケ月以內ニ問題起ラザル時ハ新株券ノ換給ヲ得ベシ

新華儲蓄銀行修正章程

第一條　本銀行ハ儲蓄ヲ提倡シ兼ネテ商業ヲ營ムヲ以テ宗旨トナシ定名ヲ新華儲蓄銀行股份有限公司ト云フ

第二條　本銀行ハ股份有限公司ノ組織ニ遵據シ資本總額ヲ定メテ通用銀元一百萬元トシ分チテ一萬株、一株銀元一百元トス、株券ハ概ネ記名式ヲ用ヰ株主ハ本國人ヲ以テ限リトナス

第三條　本銀行總行ノ營業地點ヲ定メテ北京トナシ分行ノ開設及其地點儲蓄櫃ノ分布及其地點ハ均シク隨時董事會ノ議決ニヨリ財政部ノ許可ヲ呈請スベシ

第四條　本銀行ノ營業種類左ノ如シ

一、各種當座儲蓄預金　　二、各種定期儲蓄預金

三、各種年金儲蓄預金　　四、各種爲替

五、爲替割引及抵當貸付　　六、有價證券ノ賣買

七、貨幣金銀ノ兌換　　八、公司、銀行、商家手形及現銀ノ代理取立

第五條　本銀行ハ政府ノ委託ヲ受ケ特別儲蓄事項ヲ辦理スルコトヲ得

第六條　本銀行ニ董事七人以上十一人以下ヲ設ケ董事會ヲ組織ス其章程ハ別ニ之ヲ定ム

第七條　本銀行株主ハ一百株以上ヲ有スル者ニ非ラザレバ董事ニ選擧セラルヽヲ得ズ董事ノ任期ハ三年ヲ期限トナシ期滿チテ連選連任スルコトヲ得

第八條　董事中一人ヲ公推シテ總經理トナシ一人ヲ副經理トナシ常ニ辦事所ニ在テ有ユル行中ノ事務ヲ行ヒ均シク完全ノ責任ヲ負フ

第九條　本銀行ニ監察人二人ヲ設ケ五十株以上ノ株主ヨリ選ビテ之ニ充ツ其職權ハ別ニ規定ヲ定ム、任期ハ一年トシ連擧連任スルコトヲ得

第十條　總經理副經理ニ缺員アリタル時ハ董事中ヨリ再ビ之ヲ公推ス董事及ビ監察人ニ缺員アリタル時ハ候補董事及監察人ヨリ得點順ニテ之ヲ補フ

第十一條　本銀行株主常年會及臨時會ハ董事會ヨリ召集シ常年會ノ會期ハ毎年三月ニ之ヲ行フ可シ

株主ガ資本總額ノ三分ノ二以上ヲ占有シ會議ニ提出スル事項ヲ有シ開會ヲ請求セル時ハ董事ハ直チニ全體株主臨時會ヲ召集シ一ケ月

前ニ新聞公告ヲナスヲ要ス

第十二條　株主會ハ十株毎ニ一議決權ヲ有シ百株以上ハ二十五株毎ニ一議決權ヲ加フ

第十三條　本銀行ハ董事ヲ以テ董事會ヲ組織ス、凡テ經費ノ豫算、決算、純益ノ配當規定分配及行務ノ興革事項ハ均シク董事會ノ多數議決ニヨリ之ヲ行フ

第十四條　董事會ハ毎月常會一回ヲ開キ前條規定ノ各事ヲ議決スル以外ニ總經理ハ一ヶ月內ノ營業狀況ヲ會報ニ依リテ之ヲ告クヘシ總經理或ハ董事三人以上ノ請求アレハ臨時董事會ヲ開クコトヲ得

第十五條　監察人ハ各種帳簿ニ對シ隨時檢査スヘシ

第十六條　毎營業年度終了セル時ハ株主常會ニ於テ之ヲ報告シ資産負債表及損益表ハ監察人之ヲ檢査シ其責任ヲ負ヒ並ニ財政部ニ呈送シテ其檢査及許可ヲ受クヘシ

第十七條　本銀行ハ毎年帳簿締切ノ時ハ預金總額ノ三分ノ一ヲ現銀或ハ公債券ニテ其ノ近クノ中國交通兩銀行或ハ其他確實ナル銀行ニ預入レテ以テ儲蓄預金還付ノ擔保トナス

第十八條　本銀行毎年帳簿締切ニ得ル利益ハ其十分ノ一以上ヲ控除シテ公積金トナササル可カラス

第十九條　本銀行營業年限ヲ定メテ三十年トス、但シ株主會ノ議決ヲ經テ財政部ニ之カ延長ヲ呈請スルコトヲ得

第二十條　本章程ニ未タ盡ササル事項ハ銀行則例及公司條例股份有限公司ノ規定ヲ適用ス

第二十一條　本章程ニ若シ變更ヲ要スル時ハ株主會ノ議決ヲ經テ財政部ノ許可ヲ呈請シテ施行スヘシ

而シテ現在ノ組織ハ方仁元總理タリ、賀碩副總理タリ、程良楷、胡憲徽查帳員タリ、北京本店ノ外天津ニ分行ヲ設ク。

營業成績

同行民國六年度決算報告ハ次ノ如クニシテ、當座預金計三百五十萬餘元、定期預金六十七萬八千餘元、暫時預金四十二萬餘元、合計四百六十餘萬元ナリ、兎ニ角相當ノ成績ヲ擧ゲ居レリ、其詳細次ノ如シ。

資產負債表

借方	
資本總額	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇元
當座預金	三、五〇五、六七六、四四九
定期預金	六七八、〇五七、八二六
暫時預金	四二〇、二九四、二三〇
存出金透支	一六八、一四四、五九七
來支滙欵	八八一、五〇〇
積立金	五一、〇〇〇、〇〇〇
特別積立金	一七、〇〇〇、〇〇〇
本年純益	二一五、六七九、五七四
計	六、〇五六、七三四、一七六

貸方	
存出資本	八五〇、〇〇〇、〇〇〇元
定期貸金	一、三六五、二八五、七一二

定期抵當貸付金	七七二、五二二、四一九
存出金	一、五五六、九三九、七七六
取引預金透支	一二二、一九九、一四五
暫時借入金	四六、五一四、七五〇
開辦費	二三、七一五、六八〇
營業用土地家屋	八四、九六〇、五六二
營業用器具	三、七〇一、一五八
有價證券	四八七、七五三、九七八
他店勘定	五九、七二七、一〇八
現金	三〇三、四一三、八八八
總計	六、〇五六、七三四、一七六

損益表

利益	
利息	四六、五一五、〇〇〇元
兌換損益	九八、五三七、〇〇〇
爲替料	一、四〇八、〇〇〇
手數料	二、三二九、〇〇〇
割引料	二五、〇〇〇
前期損益	九七、八五七、〇〇〇
合計	二四六、六七三、〇〇〇

損失	
各項支出	二九、四〇一、〇〇〇
開辦費分擔	四〇八、〇〇〇
營業用土地家屋分擔	一、〇九八、〇〇〇
本年純利	二一五、六七九、〇〇〇
合計	二四六、六七三、〇〇〇

東三省阜新殖業銀行

民國四年五月日支新協約成立スルヤ、滿蒙ニ日本ノ新勢力ノ侵入スルヲ防ガン爲、土地及金融、企業等ニ關スル機關設立ノ計畫、盛ニ行ハレタリシガ、東三省阜新殖業銀行モ、亦其一ニ數ヘ得ベキモノニシテ、發企人ハ、王承堯、孫澤綸、文郷、吳琦、潭啓瑞、朱成勳、吳兆毅、揚光黼ニシテ其設立許可申請ニ際シ大總統ニ上レル條陳ノ要ニ曰ク

（前略）此次ノ交涉解結スルヤ遠近ノ人民激昂慷慨セザルナク救國儲金忽ナニ鉅貲ヲ集ム、民氣ノ激發カクノ如キハ實ニ歷來未ダアラザルトコロナリ、其激發ノ勢ニ因リテ、之ヲ誘導シ此ヲ以テ事ニ趨フシメバ何事カナラザラン、此ヲ以テ功ヲ圖ラバ何ノ功カ倍セザラン、（中略）承堯等ハ東三省人ナリ、謹ンデ東三省權利ノアルトコロニ就キ、急ニ挽救ヲ圖ラント欲スルモノ二端アリ一ニ曰ク東三省勸業公司ヲ設立シテ以テ實業ヲ振興ス、ソレ我東三省ノ形勢ハ既ニ京畿ヲ屏散シ幅員マタ俄日ニ毗連シ、其間物產豐富土地膏腴ナリ、南滿ノ水利、森林、墾畜、礦產ヨリ其他ノ利源ニ及ブマデ尤モ各省ニ甲タリ、中日新約ニ依リ自由ノ經營ヲ許ス事トナリタレバ、彼ハ汲々トシテ進行シ、自ラ必ズ餘力ヲ留メザルベシ、此民氣振興ノ時ニ當リ先發人ヲ制スルノ端ヲ謀ラバ、

庶幾クハ各種ノ利權盡ク他族ノ手ニ落ツルヲ致サヾラン

一ニ曰ク東三省勸業銀行ヲ設立シテ以テ金融ヲ活潑ニセン、數十年來我國實業ノ發達シ能ハザルハ半バ計畫ノ疎漏ニ由リ半バ金融ノ滯塞ニ由ル、而モ實業ニ熱心ナルモノハ固ヨリ少ナカラズ、此時機ニ乘ジテ活躍ヲ試ミント欲セザルハナシ、資本ヲ供給シ得バ實業ノ奬勵モ空言トナラズ、必ズ袂ヲ聯ネテ興リ、臂ヲ攘ヒテ起ヲ雄ヲ實業界ニ爭フモノアラン、金融ヲ活潑ニスル機關ハ實業振興ノ補助タルベキモノナリ

以上ノ二者相輔ケテ行ハバ庶クハ利權ヲ萬一ニ挽救スベシ、玆ニ先ヅ承堯等ヨリ二百五十萬元ヲ擔任シテ、四分ノ一ヲ基金トシ、更ニ六百五十萬元ヲ招募シテ一千萬ノ總額トナシ、株式滿ツルヲ待チテ、五百萬元ヲ以テ東三省勸業銀行ヲ設立セン(下略)

尙又當時財政部ニ上レル願書ノ要左ノ如シ。

(前略) 銀行資本ハ五百萬元ト定メ、先ヅ承堯等ヨリ百二十五萬元ヲ擔任シ、以テ四分ノ一ノ基金トシ、並ニ殖業銀行則例ニ遵ヒ、本銀行章程三十三條ヲ草シ許可ヲ待ナテ株式ヲ募集シ、總額四分ノ一以上ノ株金ヲ募集シ得タル後、更ニ詳細ノ章程ヲ具シテ、許可證ノ下付ヲ請ヒ營業ヲ開始セントス(下略)

斯クテ王等ヨリ東三省阜殖業銀行章程ヲ、財政部ニ具呈シテ、其許可ヲ請ヘルニ、民國四年七月二十七日ノ政府公報ニ於テ、財政部批令ヲ以テ、コレヲ認可公表セリ、右ニヨレバ其章程第二條ニ明記スルガ如ク、本銀行ハ農林、水利、墾牧、鑛産、工廠事業ニ放資スルヲ以テ目的トシ、總資本ヲ五百萬元、五萬株、毎株百元ニ分ツ、資本總額四分ノ一拂込ヲ以テ開業スベク營業期限ハ開業日ヨリ六十箇年、專ラ支那資本ニ依ル營業タリ、而シテ財政部ハ其章程第八條ヲ「本銀行ハ別ニ放資方法及抵當償還章程ヲ定メ財政部ノ許可ヲ得テ施行スベシ」ト修訂シタル外、全然原章程ヲ認可シタリ、其章程

次ノ如シ。

東三省阜新殖業銀行章程

第一條　本銀行ハ株式有限公司トナシ東三省阜新殖業銀行ト名ヅク
第二條　本銀行ハ農林、水利、開墾、牧畜、鑛産、工廠等ノ放欵ヲ以テ業務ト爲ス
第三條　本銀行ハ專ラ支那人株主ヲ以テ組織シ完全ナル商辦ノ營業ト爲ス
第四條　本銀行ハ本店ヲ北京ニ設ケ、財政部ニ稟請シテ支店及代理機關ヲ設クルコトヲ得
第五條　本銀行ノ資本總額ヲ五百萬元トナシ之ヲ分チテ五萬株トシ毎株一百元ト爲ス
前項資本ノ應募額カ總額ノ四分ノ一ニ達スル時ハ即チ營業ヲ開始ス
第六條　本銀行ノ年限ハ開業ノ日ヨリ起算シテ六十年ヲ以テ滿期ト爲ス、滿期後株主會議ノ決議ヲ經テ財政部ニ稟請シ其許可ヲ得テ之ヲ延長スルコトヲ得
第七條　本銀行ノ營業種類左ノ如シ
(一)　水利ノ抵當ニ關スル放資、(二)　森林ノ抵當放資、(三)　墾牧ノ抵當放資、(四)　鑛業ノ抵當放資、(五)　工廠ノ抵當放資、(六)　預金、(七)　生金銀ノ賣買、(八)　爲替、(九)　期拂手形ノ發行及他銀行業務ノ代理
第八條　本銀行ノ放資方法及抵當償還規則ハ別ニ之ヲ定ム
第九條　本銀行ハ抵當放資以外ニ若シ現欵尚多クシテ時ニ貸出ニ應ジ得ザル時ハ酌量ノ上其購買セル國家債券地方債券及其他殖業銀行債券ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
第十條　本銀行ニ總經理一人副經理一人董事五人監事三人ヲ設ク
第十一條　總經理副經理ハ株主會ニ於テ百株以上ノ株主中ヨリ之ヲ選任シ同時ニ財政部ニ之ヲ報告ス其他職員ハ總經理ヨリ推任ス
第十二條　董事監事ハ株主會ニ於テ五十株以上ノ株主中ヨリ之ヲ選任ス

第十三條　總副經理ノ任期ヲ四年トシ董事監事ノ任期ヲ三年トス、滿期後更ニ重任スルコトヲ得

前項總副經理董事監事ノ選擧投票責任權限等ハ別ニ章程ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　總副經理董事監事ハ任期中ニ於テ他項職務ヲ兼營スルコトヲ得ス

第十五條　本銀行ハ毎年一回本店所在地ニ於テ通常株主總會ヲ開催ス、但シ特別ノ事故アル時ハ臨時株主總會ヲ召集スルコトヲ得

前項會議章程ハ別ニ之ヲ定ム

第十六條　本銀行ハ殖業銀行條例ニ遵照シテ財政部ニ稟請シ其許可ヲ得テ債券ヲ發行スルコトヲ得

前項債券ノ發行ハ償還辦法ヲ妥定シ並ニ發行章程ヲ財政部ニ稟請シ其許可ヲ得タル後之ガ募集ヲナスモノトス

第十七條　本銀行ハ毎年必ズ純益ノ十分ノ一ヲ控除シ公積金トナシ以テ資本缺損填補ノ用ニ備フ

第十八條　本銀行ハ毎年純利ノ百分ノ五ヲ配當均一準備資金中ニ加フ

第十九條　本銀行ハ純益ヲ株主ニ配當セントスル時ハ須ク財政部ニ之ヲ稟報スヘシ

第二十條　本銀行ハ半年毎ニ必ズ財產目錄及出入對照表ヲ詳造シ財政部ノ檢査ヲ請フベシ

第廿一條　本銀行ハ須ク本章程ノ主旨ニ按照シテ詳細章程ヲ擬具シ財政部ニ其許可ヲ稟請スベシ

第廿二條　本銀行章程ハ財政部批准ノ日ヨリ効力ヲ發生ス

第廿三條　本章程ニ於テ未ダ盡サヾル事ハ宜シク株主會議ノ決議ヲ經テ隨時財政部ニ稟請シテ其許可ヲ受ク可シ

斯クテ本銀行ハ、直ニ株式募集ニ着手セシガ、其後ノ狀況ニ至リテハ、杳トシテ聞ク處ナシ、元其創立ノ動機ニ於テ必要ニ迫ラレタルニアラズ、只當時ノ日支交渉ニ激セラレテ、利權ノ外人ノ手中ニ移ルヲ禦グガ爲ニ、計畫シタルモノナレバ、其昂奮狀態ノ冷却スルト共ニ、計畫者亦次第ニ冷淡ナルニ至ルハ、理ノ當然ニシテ、現今如何ノ狀態ニアルヤ殆ンド知ルベカラズ。

恒豐農業銀行

民國四年春交通銀行協理任鳳苞ハ、北京天津ニ於ケル富豪巨商ヲ糾合シテ、農業銀行設立ノ議ヲ提倡シタリシガ、次デ梁燕老、中國銀行總裁李士偉、及儲蓄銀行總理賀頎諸氏ノ同意アリタルヨリ、茲ニ恒豐農業銀行ト定名シテ其規則書ヲ草シ、財政農商兩部ニ其認可ヲ申請セリ、今該行ノ章程ヲ示セバ左ノ如シ。

第一條　本銀行ハ株式有限公司トナシ、恒豐農業銀行ト名ク

第二條　本銀行ハ未開荒蕪地ノ開墾及ビ農民ノ金融ヲ調節スルヲ以テ業務トナス

第三條　本銀行ノ資本總額ヲ五百萬元トナシ之ヲ五萬株ニ分チ一株銀百元トス、銀行資本增加ノ必要アル時ハ株主總會ノ決議ニ依テ再ビ株ヲ發行ス

第四條　本銀行ハ規定株數ノ五分ノ一ノ應募者ヲ得タル時ハ營業ヲ開始ス

第五條　本銀行ハ本店ヲ長春ニ設ケ開業後必要ニ應ジテ漸次分行或ハ分號ヲ設ク其分行號ノ未ダ成立セザル時ハ其他ノ銀行商號等ニ委託シテ營業ヲ代理ス

第六條　本銀行ノ株券ハ概ネ記名式ヲ用ヒ中華民國人ニ非サレハ賣買轉讓ノ權無キモノトス

第七條　本銀行ノ營業年限ハ總行(本店)開業ノ日ヨリ起算シテ滿五十年ヲ期トナシ期間滿チタル時ハ株主總會ノ決議ニヨリ財政農商兩部ニ向ヒ營業期間ノ延長許可ノ申請ヲナスコトヲ得

第八條　本銀行ノ營業種類左ノ如シ

土地糧穀ノ擔保貸付　其他農業補助ニ關スル投資以上ノ放欵ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

生金銀ノ賣買、爲替ノ辦理、各種期拂手形、各種預金並ニ證券及ビ其他一切貴重品ノ代理保管、銀行會社商店及個人收取手形ノ代理支拂

第九條　本銀行ハ開墾及農産貿易轉運業ヲ兼營スルコトヲ得其章程ハ別ニ之ヲ定ム

第十條　本銀行ハ株主總會ノ決議ヲ經テ必要ト認メタル時ハ財政部ノ許可ヲ呈請シテ債券ヲ發行スルヲ得其債券發行ニ關スル章程ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條　毎年營業所得ノ純利益額ノ內其十分ノ五ハ積立金トナシ其餘ヲ株主ニ配當ス、右積立金及株主配當ハ必ス株主總會ノ議決ヲ經テ財政部ニ報告シ其許可アリタル後之ヲ辦理ス

第十二條　本銀行ハ總理一名、協理二名、董事十名監察人五名ヲ設ケ均シク株主ノ公選ニ由リ其選定後ハ財政部ニ之ヲ報告ス、其選擧法ハ別ニ之ヲ定ム其他職員ハ總理協理ヨリ推任ス、右總協理ハ持株百株以上董事監察人ハ五十株以上ヲ有スルニ非サレハ株主ハ之ヲ選擧スルヲ得ス

第十三條　總協理ノ任期ヲ五ケ年董事監察人ハ三ケ年トス但重任スル事ヲ得而シテ任期間ハ他銀行及會社ノ職務ヲ兼任スルヲ得ス

第十四條　株主總會ハ分チテ通常、臨時ノ二種トナシ株主會々議細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十五條　通常總會ハ毎年舊曆春季總行所在地ニ於テ一回開催シ總理ヨリ召集ノ通知ヲナス時必ス前年ノ營業成績報告ヲ各株主ニ送附スヘシ

第十六條　總理カ重要事件ニシテ須ク必要アル可シト認メタル時或ハ董事監察人全部ヲ通シテ或ハ又總株數ノ五十分ノ一以上ノ株主カ必要ナリト認メタル時開會ヲ請求セバ董事ヨリ臨時株主會ヲ召集スル事ヲ得

第十七條　株主總會々員ハ十株ヲ以テ一表決權ヲ有シ十株以上ハ五株毎ニ一權ヲ增シ十株以下ノ株主ハ他ノ株主ト補足シテ互ニ一人ヲ推シテ代表トナスヲ得ルト共ニ亦一表決權ヲ得ルモノトス

第十八條　本章程ハ若シ不完全ノ點アル時及ヒ將來若シ更改ノ必要アル時ハ株主總會ノ決議ニ依リテ改修シ財政農商兩部ニ請フテ其許可アリタル後之ヲ實行スルモノトス

本銀行ハ純然タル農業銀行ナルモ、支那今日ノ經濟狀態カ果シテ斯ノ如キ種類ノ銀行ノ健全ナル發達ニ適スルヤ否ヤハ、大ナル疑問ナルガ、其後何等消息ヲ聞ク處ナキヨリスレバ、或ハ其儘中絕シタルニアラザルカ。

裕國實業銀行

民國五年十月張春城氏外七人ノ名義ヲ以テ、裕國實業銀行ヲ組織セントシ其章程ヲ添ヘ、財政部ノ認可ヲ求メタル處、財政部ハ章程中一二修改ヲ加ヘテ之ヲ認可シ、一切ヲ同年十一月四日ノ政府公報ヲ以テ公表シタリ、出願書及章程ノ概要左ノ如シ。

出願書

張春城等裕國實業銀行ヲ創立シ、其設立認可ヲ懇請シ、以テ實業ヲ起シ國民ヲ裕ニセントス、思フニ富國ノ基本ハ實業ニアリ、實業ノ發達ハ金融ニ繫ル、故ニ歐米各國ノ銀行業タル極メテ發達セリ、我國ニ於テハ銀行業未ダ發達セザルヲ以テ、資金流通セズ、實業ヲ企圖スルモ運用之ニ伴ハズ、爲メニ金融日ニ涸レ、公私共ニ困厄ス、東三省一帶ハ此弊最モ甚ダシ、春城等時難ニ見ル所アリ、爰ニ同志ヲ求メ資本二百萬元ヲ集メテ、裕國實業銀行ヲ創立ス、其ノ目的專ラ東三省塞北一帶ノ開墾、牧畜、山林、鑛山ニ資スルニ在リ、資本ノ豐富ト組織ノ完全ヲ期シ、必ス資金ノ流通ヲ圓滑ナラシメ、上ハ國家ヲ輔ケ、下ハ社會ヲ濟ハン、今關外ハ物產豐饒ナルニ利源未ダ開カレズ、振興ノ手段ヲ講ゼズシテ之ヲ棄ツルハ遺憾ニ堪ヘズ、伏シテ貴部數年來規定スル銀行條例ヲ讀ムニ、指導至ラザルナシ、春城等仰テ政府ノ意ヲ體シ、既失ノ利源ヲ恢復センコトヲ期ス、故ニ有限株式組織ノ實業銀行ヲ創立ス、冀クハ社會ノ金融ヲ調節シ中央銀行ノ及バザル所ヲ輔助セン、將來資金流通セバ實業ハ振興ヲ望ムベシ、富國利民ハ指顧シテ期ス

可シヽ以上裕國實業銀行創立ノ由來及章程草案ヲ謹書シ貴部ノ認可ヲ願フ

出願人

張春城　續麟閣　王洪身　董耕雲

畢維垣　李超　周東海　陳農霑

裕國實業銀行章程（財政部ノ修正ヲ經タルモノ）

第一條　裕國實業銀行ハ本店ヲ北京ニ分店ヲ奉天、吉林、黑龍江ニ置キ且ツ他ノ銀行ト代理契約ヲ結ブコトヲ得

但シ分店ノ設置又ハ撤廢代理契約ノ締結又ハ取消ハ其都度財政部ノ認可ヲ受クヘシ

第二條　本銀行ハ純然タル民營ノ株式有限公司トス

第三條　本銀行ノ資本總額ヲ銀二百萬元トシ之ヲ二萬株ニ分ツ

第四條　本銀行ハ株式總數ヲ募集シ資本金額ノ四分ノ一即チ五十萬元ノ拂込アリタル時ハ財政部ノ檢査ヲ受ケ其ノ認可登記ヲ經タル後營業ヲ開始ス

第五條　本銀行ハ本章程ノ認可アリタル後六ケ月以內ニ營業ヲ開始シ若シ該期間ヲ經過スルモ營業ヲ開始スルヲ得サルトキハ財政部ハ本章程ノ認可ヲ取リ消ス

第六條　本銀行ノ營業期間ハ三十年トシ開業ノ日ヨリ起算シ期間後尙ホ營業ヲ繼續セントスルトキハ株主總會ノ決議ニヨリ財政部ノ認可ヲ受ケテ期間ヲ延長スルコトヲ得

第七條　本銀行ハ每年營業利益金ノ十分ノ一ヲ積立金トナス

第八條　積立金ハ之レヲ以テ損失ヲ塡補シ利益配當ノ平均ヲ維持ス

第九條　本銀行每年ノ營業利益金ハ其ノ十分ノ一ノ積立金ヲ差引キタル殘額ヨリ年六分ノ配當ヲナシ再殘額ハ其十分ノ七ヲ割增トシテ株主ニ分配シ十分ノ三ヲ獎勵金トシテ職員ニ分配ス若シ積立金ヲ差引キタル殘額ガ少數ナルカ又ハ年六分ノ法定利率ニ達セサルトキ

ハ其ノ十二分ノ一ヲ以テ利益配當金及割增トナシ二ヲ以テ職員獎勵金トナスコトヲ得

第十條　株主ノ得ヘキ配當金及割增ハ株式數ニ應シ平均ニ分配シ以テ公正ヲ期ス但シ發起人引受株ニ對スル配當金及割增ハ普通ノ株式ノ二倍トス

第十一條　裕國實業銀行ノ株券ハ記名式トシ中華民國國民ニ限リ株主タルコトヲ得

第十二條　株主カ利益配當證券又ハ割增證券ヲ紛失シタルトキハ其ノ旨本銀行ニ通知スヘシ銀行ニ於テハ新聞紙上ニ無效ヲ公告シ若シ故障ノ申出ナキトキハ株主ハ株券携帶ノ上銀行ニ出頭シ新ニ交附ヲ受クヘシ

第十三條　事實上ノ必要ニヨリ株主總會ノ決議ニヨリ資本ヲ增加スルトキハ財政部ノ認可ヲ受ケテ株式ヲ募集ス但シ此ノ株式ハ原株主優先引受ヲナシ尙殘數アルトキハ一般ニ募集ス

第十四條　裕國實業銀行ノ營業科目左ノ如シ

一、長期定期預金

二、爲替

三、殖業銀行則例第六條ニヨリ田地山林家屋工業上ノ有形財產又ハ株券債券等ヲ擔保トシ三十箇年以內ニ元利ヲ年賦償還スヘキ貸付但一口貸出額ハ擔保物ノ實價十分ノ七ヲ超ユルコトヲ得ス

擔保物カ家屋ナルトキハ保險契約アルコトヲ要ス然ラサルトキハ貸出額ハ家屋實價ノ十分ノ五ヲ超ユルヲ得ス

貸出金少數ナル場合ニ實力アル者五人以上ノ連帶保證アルトキハ別ニ擔保物ヲ要セス但シ貸出期限ハ五ケ年以內トシ貸出シ口數ハ總貸出シ口數ノ十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

四、金銀製物品又ハ有價證券ヲ擔保トスル貸出

五、地金銀及各種貨幣ノ賣買、但シ投機事業ヲナスヲ得ス

六、各種手形ノ割引

七、他銀行ノ代理

第十五條　殖業銀行則例第二十條第二十一條及第二十二條ノ規定ニ從ヒ債券ヲ發行スルコトヲ得但シ本銀行ハ公債償還期限前ト雖モ信用ヲ固ムル爲メ債券ヲ買收スルコトヲ得

第十六條　裕國實業銀行ノ債券ハ無記名トス但シ應募者ノ請求アルトキハ記名式トナスコトヲ得

第十七條　裕國實業銀行ニ總理（頭取）一人協理（副頭取）一人董事（取締役）七人監察人（監査役）五人ヲ置キ何レモ株主總會ニ於テ選任シ財政部ニ屆ケ出ツ其ノ選擧方法ハ別ニ之レヲ定ム其ノ他ノ職員ハ總理及協理之ヲ任用ス

第十八條　本銀行ハ本店ニ職員會ヲ設ケ總理、協理、董事ヲ以テ之ヲ組織シ一切ノ營業方針ヲ議定ス其ノ議事規則ハ別ニ之ヲ定ム

第十九條　總理及協理ハ一百株以上董事及監察人ハ五十株以上ヲ有スル株主ニアラサレハ之ニ當選スルコトヲ得ス

第二十條　總理及協理ノ任期ハ三年トシ董事及監察人ノ任期ハ一年トス在任中ハ他銀行ノ職務ヲ兼任スルコトヲ得ス任期滿了後再選スルコトヲ得

第二十一條　本銀行ノ株主總會ハ分ツテ通常總會臨時總會ノ二トス其議事規則ハ別ニ之ヲ定ム

第二十二條　通常總會ハ毎年一回陽暦二月本店ノ所在地ニ於テ之ヲ開ク總協理又ハ職員會ニ於テ重要ナル事件アリト認メ又ハ株式總數ノ十分ノ一以上ヲ有スル株主ノ請求アルトキハ臨時總會ヲ開クコトヲ得

第二十四條　株主ハ一株ニ付一箇ノ表決權ヲ有シ十一株以上ヲ有スル株主ハ提議權ヲ有ス

第二十五條　本銀行ハ財政部ノ監督ヲ受ケ若シ財政部ニ於テ本章程及法令ニ違反スル行爲アリト認ムルトキハ一切ノ營業ヲ停止ス

第二十六條　財政部カ銀行則例ヲ改正シタルトキハ之ニ從テ本章程ヲ修正ス

之レニ因テ之レヲ見レバ本銀行ハ主トシテ東三省實業開發ヲ目的トスルモノニシテ、彼ノ東三省阜新殖業銀行等ト同一趣旨ニ出デタルモノ、如ク、其分店所在地モ之ヲ奉天、吉林、黑龍江三省ニ限リ、章程ニヨレバ資本金二百萬元ノ四分ノ一即チ五十萬元ノ拂込アリタル時ハ財政部ノ檢査ヲ經テ營業ヲ

開始ストアリ、更ニ又本章程認可後六ケ月以内ニ營業ヲ開始スベキ旨ヲ定ムルモ、未ダ其開始セラレタルヲ聞カズ、從テ其後ノ成績現狀等知ルニ由ナシ。

華富殖業銀行

滿蒙囘疆方面邊疆ニ於ケル實業ノ振興、信託事業ヨリ社會ノ金融發展ヲ期シ、以テ利權囘收ノ目的ヲ達セントシテ、蒙古通ノ稱アル、將官姚錫光其他張殿英、明徹、馬吉符、姜廷榮等發起トナリ華富殖業銀行ヲ組織シ、財政部ニ其設立許可ヲ申請シ、民國四年七月一日附ヲ以テ、之ガ許可ヲ得タルガ、該銀行ノ章程ヲ示セバ次ノ如シ。

華富殖業銀行章程

第一條　華富殖業銀行ハ完全ナル商辦株式有限會社ト爲ス

第二條　華富殖業銀行ハ國家ヲ輔助シ金融ヲ調濟シ貸出ヲナシ滿蒙囘疆ノ開墾牧畜礦業林業ノ實業ヲ振興スルヲ以テ目的ト爲ス

第三條　本行ハ本店ヲ北京ニ設ケ營業ニ從テ漸次必要ナル地點ニ支店代理店ヲ財政部ノ認可ヲ以テ分設スヘシ

第四條　本銀行資本總額ヲ六百萬元トナシ之ヲ六萬株ニ分チ毎株百元トス、株募集ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第五條　本銀行ハ資本總額ノ四分ノ一即百五十萬元ノ拂込アリタル時營業ヲ開始ス

第六條　本銀行ハ本章程批准ノ日ヨリ六ケ月以内ニ須ク營業ヲ開始セサル可カラス、若シ此期限内ニ開業セサル時ハ財政部ハ批准章程ノ取消ヲナスコトヲ得

第七條　本銀行ノ株券ハ均シク記名式トナシ其株主ハ中華民國ノ民ヲ以テ限リト爲ス

第八條　本銀行ハ事業上ノ必要ニヨリ株主總會ノ決議ヲ經テ資本ノ増加ヲナシ財政部ノ批准ヲ稟請シテ株式募集ヲナスコトヲ得

第九條　本銀行ノ營業期限ヲ三十箇年トナシ營業開始ノ日ヨリ起算シテ滿期ニ至リ若シ營業ヲ繼續セント欲セハ株主總會ノ決議ヲ經財政部ニ稟請シ營業期限ヲ延期スルコトヲ得

第十條　本銀行ハ毎年營業所得ノ純利總額ノ内二割ヲ公積金ト爲シ其餘ヲ株主ノ配當トナスヲ得

第十一條　本銀行公積金ハ左記用途ヲ除ク外ニ移用スルコトヲ得ス

甲、利益配當ノ平均

乙、利益配當ノ平均維持

丙、營業上必要ナル資産ノ購買

第十二條　本銀行ノ營業種類左ノ如シ

(一)農業工業ニ關シ確實ナル抵當品ヲ有スル者ヘノ分年償還方法ニヨル貸付(二)動産不動産ノ抵當貸付(三)金銀貨及有價證券ヲ以テ抵當トスル者ヘノ貸付(四)預金(五)金銀及各種貨幣賣買(六)爲替及期拂手形ノ發行(七)各種期票ノ割引(八)他銀行會社業務ノ代理

第十三條　本銀行ハ若シ本章程以外ノ工商業務ヲ兼營セントセハ須ラク殖業銀行則例第二十四條ニ遵據シテ財政部或ハ當該管地方官ニ稟請シテ其許可ヲ受ク可シ

第十五條　本銀行發行ノ債券ハ須ク發行數目(番號)ヲ作リ報告表ヲ以テ財政部ニ報告ス

第十六條　本銀行ハ金庫ノ委託ヲ受ケ金庫事務ヲ代理スルコトヲ得

第十七條　本銀行ニハ總理一名、協理一名、董事七名、監事五名ヲ設ケ均シク株主總會ノ公選ニ由リテ選定シ後財政部ニ稟請ス、其選擧方法ハ別ニ之ヲ定ム、其他職員ハ總協理ヨリ推擧任用ス

第十八條　銀行ハ本店所在地ニ職員會ヲ設ケ總理協理董事監事ヲ以テ之ヲ組織シ營業上各項方針ヲ決定ス

其組織方法及議事規則ハ別ニ之ヲ定ム

第十九條　前條總協理ハ株數百株以上、董事監事ハ五十株以上ヲ有スルニ非サレハ株主ハ之ヲ選擧スルコトヲ得ス

第二十條　總協理ノ任期ヲ三年トシ董事監事ハ二年トス任期內ハ他銀行ノ職務ヲ兼任スルヲ得ス滿期後ハ公選重任スルコトヲ得

第廿一條　華富殖業銀行ノ株主總會ヲ通常總會臨時總會ノ二種ニ分ツ其議事細則ハ別ニ之ヲ定ム

第廿二條　通常總會ハ毎年陽曆三月本店所在地ニ於テ一回開會シ總協理ヨリ召集ノ通知ヲナス此時ハ必ス前年度營業成績ヲ株主並ニ財政部ニ報告スヘシ

第廿三條　總協理或ハ職員會カ重要事件アリト認メタル時ハ或ハ株主株數總額ノ五分ノ一以上ノ請求アル時ハ均シク臨時總會ヲ開催スルコトヲ得

第廿四條　株主ハ毎一株ヲ以テ一表決權ヲ有ス、但シ一株主ニシテ十一株以上ヲ有スル者ノ議決權行使ハ詳細章程ニ於テ之ヲ定ム

第廿五條　華富殖業銀行ハ應ニ財政部ノ監督ヲ受クヘシ若シ一切業務ニシテ財政部ニ於テ本章程及法令ニ違背シタリト認メタル時ハ之ヲ制止スルヲ得

卽チ本銀行ハ邊境開發ヲ目的トスル拓殖銀行ニシテ、其滿蒙囘疆ヲ目的トスルニ於テ、東三省阜新殖業、民國實業銀行等ヨリ其企業範圍大ニ、殖邊銀行ト殆ンド同一ノモノト見ルベシ、設立後ノ營業狀態等ニツイテハ多ク聞ク處ナシ。

崇華殖業銀行

譚啓瑞、呉兆穀、段日陞等ノ主唱發企ニ係ル崇華殖業銀行ハ、資本金ヲ一百萬元トシ、公司條例ノ規定ニ照ラシ、總資本ノ四分ノ一ハ發起人ニ於テ擔任募集濟ノ上、現金二十五萬元ハ之レヲ銀行ニ預入レアルコトヲ證明シ、（內五萬元ハ北京銀號ニ十五萬元ハ奉天銀號ニ）其證書ヲ添付シ、民國五年一月財政部ノ認可登錄ヲ願出

デタルヨリ〆財政部ニ於テハ奉天財政廳及北京商務總會ヲ經テ調査ノ上、其確實ヲ認メ、登錄認可ノ旨、銀行章程八章四十四箇條及ビ株式募集章程四章二十二箇條ト共ニ同年二月十四日ノ政府公報ヲ以テ公表セリ。

右ニ依レバ本銀行ハ實業ノ發展、金融ノ活潑ヲ目的トシ、本店ヲ北京ニ、支店ヲ蒙古東三省ノ各繁盛區域ニ設ケ、營業期間ヲ三十ケ年トシ、專ラ十年賦ヲ期限トスル不動產ヲ抵當トシ、又五年ヲ期限トスル不動產ヲ抵當トシ、及ビ一年期限ノ動產有價證券ヲ抵當トシ水利、森林、墾牧、種植、鑛產工場事業ニ放資スルノ一般銀行業ニ從事シ、總資本ヲ一百萬元ト定メ、二萬株ニ分チ、支那人資本ノミヲ募集シ、發起人ニ於テ總株四分ノ一ヲ引受ケ募集シタル上、創立會ヲ召集シ、役員ヲ選擧シ正式登錄ヲ受ケタル後、營業ヲ開始スベシト云フニ在リ。

其當時恰モ王承堯、譚啓瑞等ノ發企ニテ資金五百萬元ノ東三省阜新殖業銀行ヲ組織シ、財政部ノ批令認可ヲ得、更ラニ又五百萬元ノ資本ニテ阜新殖業公司ヲ組織セント企畫シタルガ、之ニ對シ北京ニ於ケル二三ノ新聞ハ、發起人王承堯ヲ攻擊シ、右計畫ノ如キハ其間欺瞞ノ點アリト稱シ、種々非難ヲ加ヘタル結果、財政部ハ認可ヲ取消サントストト迄傳ヘラレ、一面又王承堯ハ該新聞記事ヲ誣妄トシテ、辯明ノ廣告ヲナシ居リシガ、之レト前後シテ突如本崇華殖業銀行ノ成立ヲ見ルニ至リ、而カモ其性質等モ略ホ同一ニ、又發起人譚啓瑞、吳兆毅等ハ同ジク阜新殖業銀行ノ發起人ナルヨリ、元來ハ阜

新殖業銀行ノ規模ヲ縮少シタルモノナランカトモ推測セラレタリ、阜新殖業銀行ガ其後何等ノ實績ヲ見ザルハ、或ハ此推測ノ當レルニアラザルヤヲ思ハシムルモ、本銀行モ其後實際ニ營業ヲ開始シ、其標榜セル目的ノ爲メニ何等ナシタル所ナキガ如シ、今其認可セラレタル章程ヲ掲出セン。

崇華殖業銀行章程

第一章　總則

第一條　本銀行ハ實業ヲ發展セシメ金融ヲ活潑ナラシムルヲ以テ宗旨トナシ名ヲ定メテ崇華殖業銀行ト曰フ

第二條　本銀行ハ股分有限公司トナシ募集株主ハ專ラ支那人タルニ限ル

第三條　本銀行ノ資本ヲ銀一百萬元トシ發起人ヨリ之ヲ募集シ四分ノ一以上ノ應募額ニ達シタル時ハ創立會ヲ召集シ總理、協理、董事、監事、各員ヲ撰定シ財政部ニ登記ノ上營業ヲ開始ス

第四條　未募集ノ株ハ發起人ヨリ連帶擔任シテ全額ノ募集ヲナス

第五條　本銀行ハ總行ヲ北京ニ設ケ滿蒙東三省ノ各緊盛地ニハ順次分行或ハ代理處ヲ設ケ其都度財政部ニ其認可ヲ稟請ス

第六條　北京銀行ニ管理處ヲ附設ス其ノ權限ハ總理之レヲ執行ス

第七條　本銀行ノ營業ハ開業ノ日ヨリ起算シテ三十年ヲ以テ期限トナス滿期後株主總會ノ決議ヲ經テ財政部ノ許可ヲ稟請シテ之ヲ延長スルコトヲ得

第二章　營業

第八條　本銀行ハ左記範圍内ニ於ケル營業ニ從事スルコトヲ得

一　左記各項ノ水利、森林、開墾、牧畜、種植、鑛產、工廠ノ抵當ニ關スル放欵

甲　不動產ヲ以テ抵當ト爲シ十年以內ニ分期償還スルモノ

乙　不動產ヲ以テ抵當ト爲シ五年以內ニ定期償還スルモノ

丙　動產或ハ有價證券ヲ以テ抵當トナシ一年以內ニ定期償還スルモノ

二　爲替ノ辦理及期拂手形ノ發行

三　國家及公共團體ノ債券其他殖產銀行債券ノ代理發行或ハ購買

四　生金銀及各種貨幣ノ賣買

五　各種預金ノ收受

六　其他銀行ノ業務代理

七　有價證券及貴重物品ノ代理保管

八　本銀行ハ中國銀行ニ向テ隨時商議ノ上中國銀行紙幣ヲ行使スルコトヲ得

第九條　抵當ト爲ス不動產ハ確實ニ收益ノ永續スルモノヲ以テ限リト爲ス若シ曾テ保險ヲ經タルモノハ須ラク保險ヲ附加シテ合同スヘシ

第十條　不動產ヲ以テ抵當ト爲ス放款ハ其總數ハ本銀行評定價額ノ三分ノ二ヲ以テ最大限度トナス其評價方法ハ原價ト時價ヲ比較シ其低キモノヲ以テ標準ト爲ス

第十一條　若シ房屋ヲ以テ抵當ト爲ス時ハ須ラク評價內ヨリ滿期ニ至ル銷耗數目若干ヲ減去シタルモノヲ以テ標準トナスヘシ

第十二條　債務者ハ放欵償還カ五分ノ一以上ニ至ル每ニ本銀行ニ向テ抵當品相當ノ一部分ノ解除ヲ要求スル事ヲ得其ノ殘額ニ對シテモ亦同シ

第十三條　債務者カ分年償還ノ義務ヲ履行シ能ハサル時ハ本銀行ハ抵當全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第十四條　本銀行ハ抵當品價格カ低落スルトキハ抵當ノ增加ヲ要求スルコトヲ得、債務者カ要求ニ應セサルトキハ本銀行ハ隨時全部ノ償還ヲ要求スル事ヲ得

第十五條　債務者カ第十三條、第十四條ノ要求ニ應セサルトキハ本銀行ハ其抵當品ヲ自由ニ處分スルノ權利ヲ有ス、其處分ノ結果所缺ノ元利ヲ淸算シテ若シ不足アレハ債務者ニ補償ヲ要求スルコトヲ得、若シ餘剩アレハ則チ給還スヘシ

第三章　株主會

第十六條　本銀行ハ毎年帳簿締切後一ケ月内ニ總行所在地ニ於テ總理ヨリ株主會ヲ召集ス

第十七條　總理カ重要事故ニシテ會議ノ必要アリト認メタル時ハ或ハ總株數ノ五分ノ一以上ノ株主カ重要事件ニ因リ理由書ヲ提出シ會議ヲ請求シタル時ハ均シク臨時株主會ヲ召集スヘシ

第十八條　本銀行各株主ハ一株毎ニ一議決權ヲ有シ一株主ニシテ十株以上ヲ有スルモノハ二株毎ニ一議決權ヲ有シ百株以上ノ者ハ五株毎ニ一議決權ヲ有シ一千株以上ノ者ハ十株毎ニ一議決權ヲ有ス

第十九條　株主事故アリテ會議ニ出席シ能ハサルトキハ委任狀ヲ他株主ニ託シテ代理決議ヲナス事ヲ得但シ株主以外ノ人ニ託スルヲ得ス其ノ委任狀ハ本銀行ニ保留シテ證據トナスヘシ

第二十條　株主ノ會議事項ニ特別ノ利害干係ヲ有スルモノハ其事故ノ決議ニ加入スルヲ得ス決議ノ數ハ他人ヲシテ代理セシメテ其議決權ヲ行使スルコトヲ得ス

第二十一條　株主會ノ決議事項ハ議決錄ニ記載シ議長之ニ捺印ス

第四章　總理協理及董事監事

第二十二條　總理一人協理一人ヲ設ケ均シク創立會成立セル時ハ一百株以上ノ株主中ヨリ選定シ當選者ハ財政部ニ報告シテ其許可ヲ受ク

第二十三條　總理ノ職務權限左ノ如シ

一　本銀行ノ對内對外事務ヲ綜理ス

二　株主及債劵ニ署名捺印ス

三　行員ノ指揮並ニ監督

四　分行々長ノ委任（株主ノ推擧ニ由レルモノヲ以テ委任スルモ亦可ナリ）及行員黜陟

五　株主會及董事會ノ召集

六　會議ノ時議長ト爲ルコト
七　各種章程及辦事細則ノ編定
第二十四條　協理ハ總理ヲ補助シテ行務ヲ處理ス總理事故アル時ハ其職務ヲ代行スルコトヲ得
第二十五條　董事五人ヲ設ケ創立會ヨリ五十株以上ノ株主中ヨリ選定シ財政部ニ之ヲ報告ス(以下省略)

浙江地方實業銀行

浙江地方實業銀行ハ當初浙江銀行ト稱シ浙江官錢局ヲ變更シテ純然タル商業銀行トナシ、官商ヨリ其資本金ヲ籌出シテ、官商ノ合同經營トナシタルモノナリ、其資本金ハ一百萬元ニシテ、之レヲ一萬株ニ分チ、內六千株、卽六十萬元ハ、官ヨリ之ヲ支出シ、殘餘ノ四千株卽チ四十萬元ハ之ヲ一般商民ヨリ募集スル豫定ナリシガ、民有株ハ全部ノ拂込アリシモ、官株ハ未拂込額二十九萬八百元アリ、依テ省庫ヨリ同行預入ノ綱捐三十萬元ヲ永久預入シオキ、以テ不足額ニ充ツルコトヽナシ居レリ、其營業ヲ管理スル爲メ官ヨリ一名ノ監理官ヲ派シテ、銀行一切ノ事宜ヲ司ラシメ、別ニ株主ヨリ總理、協理、董事等ヲ選擧シ、各々分任シテ營業經營ニ就キ監理セシム。

該銀行ノ主ナル業務ハ、浙江官錢局ノ辦理セルモノト大差ナシ、卽チ商業銀行ト全ク相同ジク(一)短期貸附、(二)各種預金、(三)各種手形ノ割引、(四)送金爲替及荷爲替、(五)手形ノ代理取立等ヲ經營スルト共ニ、設立ヲ奏報セル文ニ見ルガ如ク、現時浙江省ニ流通セル貨幣ハ、墨西哥弗又ハ英洋銀

元ニシテ、其流通已ニ久シク、人民ノ慣用スル所タレバ、若シ是等ノ兌換券ヲ發行スルニ於テハ、浙江省財政ノ權ハ、外人ノ手ニ掌握セラルルニ至ルベシ、故ニ本銀行ニ於テ浙江省流通ノ銀錢票ヲ發行シ、利權ノ外溢ヲ未前ニ防止セントシ、紙幣ノ發行ヲナスニアリ。

元浙江銀行ハ清末所設ノ浙江銀行ヲ改組シテ、民國元年一月開業セルモノニシテ、全省金庫ヲ經理シ、純然タル省立銀行ノ性質ヲ有シ、浙江、上海等ニ於テ紙幣ヲ發行セリ、後民國三年秋中國銀行杭州ニ分行ヲ設クルヤ、該行ハ金庫事務ヲ擧ゲテ、中國銀行ニ移シ、爾來專ラ實業銀行トシテ工業商業ノ補助ヲナスコトヽセリ、其時偶々政府紙幣ヲ統一セントスルノ計畫アリシヨリ、本行ハ率先中國銀行紙幣ヲ領有シテ、之レヲ流通セシムルコトヽシ、經理李馥蓀氏四年春入京シ、中國銀行ト契約シ、浙江銀行ノ所發紙幣ハ全部回收スルコトヽセリ、第四期決算ノ時迄ニ發行セル中國銀行兌換券ハ、合計百四十四萬八千七百元アリ、中國銀行ニ存スル準備金八十萬四千元ナリ。

民國四年ヨリ浙江地方實業銀行ト改稱シ、杭州ニ本店ヲ上海、海門等ニ支店ヲ置キ、上海ニ於テハ他ノ中國、交通銀行ト共ニ上海公棧ヲ設ケ、又杭州ニ於テハ東棧ト稱スル倉庫ヲ設ケ、專ラ生糸、綢緞ヲ抵當トシテ預リ、コレニ對シテ資金ノ融通ヲナスノ途ヲ採レリ、現在ノ職員次ノ如シ。

董事　朱葆三　朱曉雨　樓映齋　胡濟生　王湘泉　顧竹溪　周季綸
袁仲符

監査員　吳燦麟　錢新之

上海店經理　李馥蓀
杭州店經理　何敬安
海門店經理　韓慰棠

浙江地方實業銀行ノ民國六年營業純利ハ、洋十一萬一千二百五十四元ニシテ十二月末決算報告ニヨレバ定期預金ハ四十三萬八千元、當座預金一百九十九萬九千餘元、發行兌換券百五十萬六千餘元ニシテ、之ヲ上半期決算ト比較スレバ、發行額ハ約十餘萬元ヲ増シ、中國銀行預入準備金ハ八十七萬四千元アリ、之ヲ兌換券發行額ニ比スレバ、約五割五分ニシテ、上半期決算ヨリモ七萬元ノ増加ナリ、卽チ之ニ依テ該行兌換券發行ノ増加ニ從テ、準備金モ増加セルヲ觀ルベシ、十二月末ニ於ケル該行貸出ハ、百二十八萬八千餘元、抵當貸付百二十八萬九千餘元、兩者合計ヲ上半期末ニ比スレバ、二十餘萬元ノ増加ナリ、浙江銀行貸付ノ本期回收セルモノ三千一百餘元、又本期利息收入モ、亦前期ニ比シ、二萬餘元ヲ増加セリ、該行ハ儲蓄處ヲ特設シテ以來、資本金中ヨリ十萬元ヲ支出シテ資本ニ當テ、同時ニ章程十一條ヲ規定シテ、財政部ノ許可ヲ得、杭州及上海ノ兩處ニ同時ニ開業シ、別ニ會計ヲ立テ、相混合セザル事トナシタルガ今回ノ決算ニ於テ兩處共ニ一千餘元ノ利益ヲ擧ゲ、更ニ定期預金一萬六千元、當座預金四萬八千餘元ヲ有シ、並ニ章程ノ規程ニ遵據シテ、預金ノ四分ノ一ヲ以テ內國公債券三萬元ヲ購買シ、之ヲ杭州中國銀行及ビ上海興業銀行ニ分託シテ、保管シ以テ信用ヲ昭ニセリ、同年ノ配當ハ毎株二元ナリト云フ、今該行第五期決算報告ニ據リ、其ノ營業ノ概況ヲ記セバ左ノ如シ。

杭州本店　該行ノ營業計畫ハ信用貸付ヲ減少シ、抵當貸付ヲ增加スルヲ以テ目的トスルガ故ニ、東倉庫ヲ擴張シ、擔保品ノ收容ニ便利ナラシムルニ努メツヽアリ、同行ハ東棧(東倉庫)ノ外ニ湖墅ニ以前一ノ米棧(米穀倉庫)ヲ有シタリシモ、其地位宜シカラズ、應用ニ適セザリシガ故ニ、別ニ湖墅仁和倉庫跡ヲ買取リ、之ニ修覆ヲ加ヘテ穀類倉庫ニ使用シ、名ヅケテ北棧トナシ、六年八月中開業セリ、爾來米ノ倉入ヲナスモノ、該貨物ヲ擔保ニ借入ヲナス者、漸次增加シツヽアリ、同所ハ錢塘江ヲ上下スル貨物ニシテ、必ス通過スヘキ地點ニテ、而カモ貨物ヲ收容スル倉庫ヲ有セザル點ヨリ、閘口ノ家屋ヲ購買シテ、倉庫トナシ、之ヲ南棧ト名ヅケ、十月中開業シ、現ニ一般貨物及擔保貨物ヲ相當ニ收容セリ。

本期該行ノ抵當貸付、及同業貸付ハ、共ニ前期ニ比シテ多ク、所有中國銀行兌換劵發行額モ、亦稍ヤ增加セリ、寧波獨立事件發生ノ際ニハ、預金ニ多少ノ動搖アリタルモ、間モナク原狀ニ復歸シ、今回ノ決算ニ於テハ、營業器具家屋其他ノ減價償却ヲ控除シタル外ニ、純益三萬八千二百餘元ニ達シタリ。

上海支店　上海市場ハ歐戰ノ影響ヲ受ケ、船腹減少シ、輸出入貨物均シク停滯シ、各業不振ナリシニ加ヘテ八、九月中銀塊相場異常ノ昂騰ヲナシテ、現銀更ニ多額ノ流失アリタル等、此兩種ノ原因アリテ金融ハ殊ニ恐慌ヲ呈シタルガ、該行ハ此市況ニ際シ、一意準備ニ重キヲ置キ現銀ヲ豐富ナラシメ

以テ信用ヲ加フルニ努メタリシヲ以テ、敢テ多クノ貸付ヲナサズ、其他一切ノ取引ニ愼重ノ用意ヲ以テ、健實ナル營業ヲナスコトヲ方針トセリ、而シテ其舊時ノ建物ハ、既ニ多年ヲ經、且ツ營業ノ用ニ合ハザルガ故ニ、更ニ增築ヲ行ヒ顧客ノ便利ヲ加ヘタリ、將來時局ニシテ安靜ニ歸セバ、同行ノ營業ノ發展ハ、必ズヤ見ルベキモノアルベシト期待セラル、本期決算ニ於テハ、銀行手形、印刷費、行用器具及ビ家屋建築費等ヲ控除シテ純益一萬五千餘元ナリ。

海門支店　海門ハ六年度ハ漁業甚ダ旺ンニシテ、秋期收穫モ亦豐作ナリシガ故ニ、市面甚ダ活潑ヲ呈シ、該行營業ハ總テ前期ニ比シテ增加ヲナシ、純益一千六百餘元ナリ、今浙江地方實業銀行第五期收支及貸借對照表ヲ參考ノ爲メ表示スレバ左ノ如シ。

貸借對照表（民國六年十一月末）

負債ノ部

科目	金額
資本金	一、〇〇〇、〇〇〇元
特別積立金	二六、一八八
一般積立金	二五、七六五
定期預金	四三八、〇四二
當座預金	一、九九五、九〇一
票存	二、八五八
兌換券	一、五四六、三九〇

科目	金額
暫存欵	五七、〇二六
未拂株利	八五三
上期純利	五六、二一一
本期純利	五五、〇四二
計	五、二一三、二七九
資產ノ部	
未拂込株金	二九〇、八〇〇
有價證券	三二〇、七九二
銀行錢莊貸	四四一、七九八
往來放欵	一、二八八、二四八
抵當貸付	一、二八九、二二八
浙江銀行貸	八一、四八二
中國銀行預	八七四、〇〇〇
銀行手形印紙貸	一〇、〇〇〇
家屋地產	一一二、三六九
儲蓄處資本	一〇〇、〇〇〇
上海倉庫資本	六八〇
現金	四〇三、七七八
計	五、二三一、二七九

収入

項目	金額
利息	八八、九三八
升水	三、七七四
房地産收入	六九六
口錢	七九
計	九一、四八八

支出

項目	金額
總務處經費	四、五四三
各種支出	二三、九八一
減價償却	七、九二〇
本期純利	五五、〇四二
計	九一、四八八

次ニ同行歴年資産負債表次ノ如シ。

負債ノ部

期次	積立金	特別積立金	定期預金	當座預金	票存	兌換券發行高	暫時預金	本期純利
五年上半	三、〇五九元	一五四、五六八	二八四、〇一四	一、二六八、八七一	六、六四六	六六六、九九〇	五〇、四三六	五五、七六六
五年下半	一七、八七一	二七、七七四	四三五、一八〇	一、九九七、七三六	五二一	七六〇、〇三三	二一、五九一	五七、一九五
六年上半	二三、七七三	二五、六八六	四六三、六一五	一、二一六、七六六	一、七九九	一、四四八、七〇〇	五一、七七二	五六、二二一
六年下半	二五、七六五	二六、一八八	四三八、〇四三	一、九九〇、九〇一	二、八五八	一、五四六、三九〇	五七、〇二六	五五、〇四二

（註）特別積立金ハ元二十萬元アリ、官廳カ該行ヲ實業銀行ニ改組シ、發行權ヲ取消スニツキ獎勵金トシテ與ヘシモノニシテ專ラ從來ノ浙江銀行並中華民國浙江銀行ノ舊欠損ヲ塡補スルノ用ニ充ツルモノナリ、實業銀行成立前ニハ舊欠損ハ浙江銀行貸付金項下ニ割入シ、淸理ニ從事シ、損失アレバ特別積立金中ヨリ支辦セリ、之レ該積立金カ年々減少スル所以ナリ

財產ノ部

期次	有價證券	銀行錢莊貸出預金	當座貸金	抵當貸金	中國銀行預入準備金	土地家屋器具	公棧資本	現金
五年上半	二四三、九二三元	一五、九五四	五四五、二六七	一、〇七七、五〇三	二九四、〇〇〇	四三、〇七五	六八〇	二〇四、八四〇
五年下半	二六八、三七五	三四六、三八九	一、二〇五、八二一	一、二二三、五九七	三五〇、〇〇〇	九二、二七九	六八〇	四三九、五四[illegible]
六年上半	三〇三、八五八	五四一、八八五	一、二一九、二二四	一、一四八、一九五	八〇四、〇〇〇	九七、六七三	六八〇	六八一、五八二
六年下半	三二〇、七九二	四四一、七九八	一、二八八、二四八	一、二八九、二二八	八七四、〇〇〇	一一三、三六九	六八〇	四〇三、七七[illegible]

上海商業儲蓄銀行

本銀行ハ民國四年六月ヨリ上海ニ開設セラレタル商業銀行ニシテ、貯金ヲ兼營ス、同行資本中ニハ外人資本モ加ハリ居リ、外人中ヨリ監查役ヲ擧ゲタルガ、設立以來着々成績擧ガリ、支那ニ於ケル近來ノ企業中最モ成功セルモノヽ一ナリトス、同行資本金ハ開業ノ當時僅カニ十萬元ナリシガ、後二十萬元ニ增加シ、更ニ又十萬元ヲ增募シ計三十萬元トナセリ。

普通營業ノ外中國、交通、興業、浙江實業、鹽業各銀行ト共同シテ、上海ニ上海公棧ヲ設ケ以テ倉庫ヲ兼營ス、上海本店ノ外無錫、蘇州ニ支店ヲ設ケ、常州、南通、南京、下關等ニ分理處アリ、其職

員次ノ如シ。

總董	莊得之
副總董	林釋秋
董事	徐秀蒜　李馥蓀　樓映齊　金伯平　孔庸之　鐘紫垣　王曉籟　孫景西　唐露園
總經理	陳光甫
副經理	揚敦甫　朱成章

同行ノ營業狀態ハ非常ニ良好ニシテ、資本金僅々三十萬元ヲ以テ、既ニ百五十六萬六千餘元ノ預金ヲ吸收セルガ收益亦從テ多ク、一九一五年七月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル營業期間ハ五分ノ配當ヲナシ、爾來同樣ノ配當ヲナシ、一九一六年以來此外三分ノ特別配當ヲナシ、一九一七年上半期ニハ五分ノ外二分五厘ノ特別配當ヲナセリ、其歷年ノ純益額左ノ如シ。

第一期	自開業至四年十二月	四、四八〇、一六六元
第二期	自五年一月至六月	九、七四四、三五四
第三期	自五年七月至十二月	三三、四八〇、七三九
第四期	自六年一月至六月	二六、三九六、六〇〇

次ニ同行一九一七年上半期損益表貸借對照表ヲ示セバ次ノ如シ。

損益計算書

支出ノ部

項目	金額
總營業費	一八、五九〇、七七元
監査役俸給	三四四、八三
家具及附屬品減價償却	三五二、二八
無錫支店開業費	一、一六四、四五
六ケ月間利益尻	二三、六三七、三七
計	四四、〇八九、七〇

收入ノ部

項目	金額
利息	三五、六九五、九三
爲替、口錢、其他	八、三九三、七七
計	四四、〇八九、七〇

貸借對照表

負債ノ部

項目	金額	金額
資本金	三〇〇、〇〇〇、〇〇元	
積立金	六、〇〇〇、〇〇	
爲替準備金	四、〇〇〇、〇〇	
當座勘定		九五八、四二三、四九元
定期預金		五九八、九〇九、八四
コール預金		三八、七二四、三一

科目	金額
貯蓄	一、五九六、〇五七、六四元
未拂銀行手形	七二、〇三一、一〇
發行爲替手形	四一、〇八一、九四
支拂同	三、五五一、七二
利子假勘定其他	八、五三六、〇〇
未拂配當	三、六二二、九五
	四二〇、〇〇
損益計算	
前期ヨリ繰越	二四、七五九、二三元
養生學校費	五〇〇、〇〇
社員賞與	四、五〇〇、〇〇
積立金	五、〇〇〇、〇〇
爲替準備	二、〇〇〇、〇〇
二十萬弗ニ對スル二分五厘ノ後期配當（年五分）	五、〇〇〇、〇〇
同二分五厘ノ特別配當（年三分トナル）	五、〇〇〇、〇〇
計	二二、〇〇〇、〇〇
差引	二、七五九、二三
下半期利益	二三、六三七、三七
	二六、三九六、六〇元
合計	二、〇六一、六九七、九五

資産ノ部

科目	金額	小計
手許現金有高	三四八、八二七、九五元	
銀行同	三五四、五四九、四二	
		七〇三、三七七、三七元
投資	二三、七〇六、四二	
借越當座勘定	一八六、七〇二、七六	
擔保附借越當座勘定	二七二、〇六五、二一	
定期借入金	六三八、六四六、五二	
コール借金	一四七、五二〇、八六	
聯合借入金	四〇、九四三、二六	
		八二七、一一〇、六四元
割引手形	七、二九六、五五	
荷爲替手形	一一、一五二、八七	
受入手形	一一、二八二、三二	
銀行組合建築資金	五、四三一、七二	
雜貨債	二、一一二、〇九	
家具及附屬品	六、四六〇、〇〇	
豫備資	五、〇〇〇、〇〇	
合計	二、〇六一、六九七、九五	

尙同行歷年ノ營業成績要領ヲ示セバ次ノ如シ。

負債ノ部

期次	資本金	積立金	兌換準備金	定期預金	當座預金	票據預金	儲蓄預金	暫時預金	毎期純利
第一期	二〇〇、〇〇〇元			二一、四九一	三四一、九三三	二一、四九一	一八、八八二		四、四八〇
第二期	二〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇		四七八、一七六	六七九、四九六	一三、二七九	三五、四九六	四八三	九、六八〇
第三期	三〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	五六〇、一〇四	八四〇、七三二	四〇、四八九	四五、一二五		二三、七三六
第四期	三〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇	四、〇〇〇	五九八、九〇九	九五八、四二三	四一、〇八一	七二、〇三	三五、七二四	二三、六三七

資産ノ部

期次	現金	貸出金	購入證券	當座透支欵	定期抵當貸	當座抵當貸	抵當貸金	割引貸出	財産
第一期	一三二、四四三元	一四七、八〇八	三、〇二九	一一九、九〇二	一六三、八〇八	二〇五、八〇五	一二八、二三一		三、〇四六
第二期	二四四、二四九	一八八、七六八	一五、一九一	二七六、三七一	四三五、一八四	一九二、二〇六	一〇三、八九六		三、九八八
第三期	三四九、四九四	二六九、二七六	一五、一九一	二〇二、八八一	六六一、一七〇	一八一、二三九	二四二、七五八	四、一三七	五、二四〇
第四期	三四八、八二七	三五四、五四九	二三、七〇六	四五八、七六七	六三八、六四六	一四七、五二〇	四〇、九四三	七、二九六	六、四六〇

浙江興業銀行

浙江興業銀行ハ光緒三十二年ノ創立ニシテ、既ニ十有一年ノ歴史ヲ有ス、當時設立ノ趣旨ハ全浙鐵路ノ金融機關トナサントスルニアリ、元全浙鐵路ニ鐵路銀行ヲ附設セントセシモ、後銀行ヲ鐵路ニ屬セシメバ、資金自ラ混雜シ、損益金額彼是牽連スルノ虞アリ、且銀行ノ資金ヲ單ニ鐵道株主ニノミ求ム

ル時ハ、恐ラク不足ナルベク、若シ鐵路公司ヨリ資金ヲ立替スル時ハ、路欵ハ元造路ノ用ニ充ツルモノナレバ、一時ハ急ニ應ズルヲ得ルモ、將來返還スル能ハザル時ハ困難スベシトノ意見アリ、遂ニ本銀行ヲ以テ株式組織トナスコト、シ、目的モ亦實業振興ニ資セントスルニ改メ、遂ニ浙江興業銀行ト定メタリ、資本金ハ暫ク鐵路公司ヨリ其一半ヲ負擔シ其他ハ他ヨリ株ヲ募集シテ之レニ充テタルガ、後鐵路公司資金ヲ要スルガ爲メニ、其持株ノ五分ノ二ヲ賣出セリ、民國成立後鐵路ハ政府ニ於テ收回シテ、國有トナセショリ、該株主ハ更ニ鐵路公司所有株式ヲ悉ク買戻シ、其組織ヲ新ニシ浙江鐵路トノ取引勘定ヲ清算シ、遂ニ完全ノ民有株式ニヨル實業銀行トナセリ。

該銀行ノ資金ハ一百萬元ニシテ、コレヲ毎株一百元一萬株ニ分チ、開業ノ初四分ノ一ノ拂込ヲナシ、翌年第二回拂込ヲナシ、其後民國ニ至リ、四年、六年ノ二回ニ殘額ノ未拂株金ノ拂込ヲ了シ、今ヤ全額ノ拂込ヲ終レリ

該行本店ハ元杭州ニアリ、光緒三十四年漢口上海ニ支店ヲ設ケタリ、然ルニ杭州ハ交通不便ナルヨリ、民國四年本店ヲ上海ニ移シ、杭州ハ支店ニ改メ、次イデ北京、天津ニ支店ヲ、奉天、哈爾賓ニ出張所ヲ設ケタリ、尙其役員次ノ如シ。

總辦事處(本店內)　董事長　葉景葵

辦事董事　蔣鴻林　沈銘清

董事　胡煥　周慶雲　張鑑　王錫榮

監　察　人　蔣汝堃　陳敬第
上海本店經理　盛竹書　副經理　徐寄廎　揚介眉
杭州支店經理　張篤生　副經理　倪秋泉
漢口支店經理　史晉生　副經理　王稻坪
天津支店經理　潘履園　副經理　馬文甫
北京支店經理　汪卜桑
奉天出張所主任　婁儷荃
哈爾賓出張所同　樊仰庭

浙江興業銀行ハ前清ノ末以來杭州、漢口、上海各地ニ於テ紙幣ヲ發行シ、廣ク通用セリ、後民國四年中國銀行ト特約ヲ結ビ、前ニ發行セシ紙幣ヲ收回シ、中國銀行兌換券ヲ領有シ、代ツテ之レガ發行ヲナセリ、其額ハ三百萬元トシ、特約有効期限ヲ四十二年トセリ、同行民國五年度報告ニヨレバ舊發行紙幣回收高九十四萬九千五百元ニ達シ、內八十萬元ハ中國銀行ト會同ノ上銷燬シタルガ尙未回收ノモノ五百萬元アリ、該銀行領用ノ中國銀行兌換券ハ始メ上海ニ於テ發行シ次イデ天津、杭州、漢口ニ於テ發行シ、民國五年十二月末ニ於テハ上海ニ於テ八十萬元、杭州ニ於テ三十萬元、漢口ニ於テ五十萬元、天津ニ於テ二十萬元合計百九十萬元ヲ發行セリ、而シテ該行ニ於テハ之等紙幣ニ對シ中國銀行ニ於テ準備金ヲ設クル外ニ自ラ兌換準備ヲ供ヘ、民國五年度ノ末ニ於テハ其發行紙幣百九十萬元ニ對シ中國銀行內ニ現金準備九十五萬元、保證準備四十七萬五千元アリ、本行ニ現金準備四十七萬五千元

アリ、合計右發行總額ト同額ナリ。

民國五年十二月末同行第十營業期末ニ於ケル其資産表次ノ如シ。

科目	金額
未拂株金	元 二五〇、〇〇〇、〇〇
現金	一、四四四、〇七五、四一
銀行錢莊ヘノ預金貸出（六十六戸）	一、八六〇、二〇七、九〇
準備金	一、九〇〇、〇〇〇、〇〇
抵當貸金（百五十戸）	一、〇一三、八一九、〇九
當座貸越（四十四戸）	五五三、五三五、八〇
信用貸金（百七十六戸）	一、一六六、八五八、三一
割引（二戸）	八、九四四、四四
過期貸金（十九戸）	九九、八〇二、一六
有價證券	四二一、三八九、七一
賣買貨幣	一三、七三四、〇三
外國貨幣	一三七、六七五、二五
家屋土地並器具	四二一、一六六、〇一
沒收抵當品	二二、二七〇、三七
押租	一、五四一、八三
暫核利子	六〇二、四九
計	九、三一四、六二二、八〇

尚同行預金次ノ如シ。

定期預金	百五十萬二千元
各種當座預金	三百五十二萬二千元
各種暫時預金	八十五萬元
各種票存	十萬元

更ニ又同行歴年營業狀況ヲ表示スレバ次ノ如シ。

財産ノ部

（單位元）

決算期	現金	中國銀行準備金	有價證券	押款	家屋土地器具	銀行錢莊ノ預金貸出	信用貸金	當座貸越
第一年	五〇、五九四	—	—	二一三、五九四	一、三六八	—	二、二三八、七八六	—
第二年	三三六、〇八二	—	—	七二一、二九八	一七、五〇〇	—	一、二四三、三五八	四四一、三三〇
第三年	九七五、九八七	—	—	八二七、二一二	一一五、八五八	—	二、四五七、三五三	五二五、二九三
第四年	一、四二三、五三八	—	—	九七七、四八四	二三四、〇八八	—	二、一八一、一六二	一八六、三四二
第五年	一四一、二九四	—	—	八六一、一〇七	二八〇、四七〇	—	九一九、四一八	五八四、三二二
第六年	一、〇〇〇、八九八	—	—	七七一、七七〇	二八五、五四一	一八〇、二六六	一、〇五〇、三九四	七三九、三七二
第七年	七七四、八七九	—	—	六八六、六七二	二八六、一七一	五四五、七六五	八〇四、八六一	一、二六八、八〇三
第八年	一、六四八、八六五	—	—	一、〇三〇、六九七	二九〇、八六九	五七六、三〇三	二、五六〇、九四四	五七六、三〇三
第九年	七一一、二三九	一、二五〇、〇〇〇	四〇一、七二八	六六六、八三四	四五四、八七五	一、七一五、六九七	一、一九七、三八〇	六六九、五一〇
第十年	一、四四四、〇七五	一、九〇〇、〇〇〇	四二一、三八九	一、〇一三、八一九	四二一、一六六	一、八六〇、二〇七	一、一六六、八五八	五五三、五五三

負債ノ部

（單位元）

決算期	發行ノ中國銀行紙幣	本行舊券	積立金	定期當座預金	各種時預金	暫存票	每年純利
第一年		三、三〇〇		一、九七一、六五二	五、〇六〇	二三五、〇〇〇	一二、七五五
第二年		二四八、六二九		一、七三七、五一三	六四、三四九	一七四、九三七	五八、七七五
第三年		七二〇、〇〇〇	四五、一八四	二、七三六、一四六	二九二、四四七	五六七、六三〇	五〇、二三五
第四年		九二八、一八〇	五四、九七二	二、五〇六、六六五	三六〇、四四九	五三六、一一七	一〇九、四八[illegible]
第五年		一九七、三一八	七七、七七一	一、八二八、八五八	三二、三六〇	六二、四〇八	四六、六九七
第六年		六四一、一八〇	三四、五八七	二、七二一、一一九	二三、三四七	三〇、〇〇四	六六、六〇九
第七年		九三七、二〇〇	三七、四〇〇	二、六三〇、七四七	六四、三一八	二四六、二〇〇	一九五、五〇[illegible]
第八年		九二五、〇〇〇	六三、五一六	三、九七七、七二三	七七、一五七	四四七、〇四〇	一〇、[illegible]
第九年	一、二五〇、〇〇〇	四九七、七〇〇	一〇八、七二五	四、三八四、六九四	一七二、六二八	一三六、一一二	九七、八三[illegible]
第十年	一、九〇〇、〇〇〇	五〇、五〇〇	二〇〇、六九二	五、〇二五、二〇八	八五〇、四六四	四九、七五五	一一八、八二三

中孚銀行

中孚銀行ハ孫蔭亭ノ發企ニヨリ民國五年十一月天津ニ創立セラレタル株式組織ノ銀行ニシテ、資本金二百萬兩、內百二十萬元拂込濟ナリ、天津本店ハ民國五年十一月七日開業シ、尋デ六年四月二十五日上海分行ヲ開キ、漢口ニハ當初爲替取組所ヲ設ケ後六年十月十六日分行ニ改メ、北京ニハ六年三月ノ交分行ヲ開キ、其他南京、鎭江、揚州、蚌埠、徐州、蘇州、寧波、杭州、香港、廣東ニ代理通滙所アリ、開業以來成績良好ニテ、天津ノ如キ五年十一月開業ヨリ、六年六月末ニ至ル間ニ預金額百七十

餘萬元ニ達セリ、其本支店職員次ノ如シ。

董事長	孫多森		
董事	傅增湘	王錫彤	袁乃寬
監察人	王克敏	李湛陽	
總管理處	總理 孫多森	總文書兼稽核 卞壽孫	
總會計	秦開		
天津本店	總理 沈繼武	副總理 卞壽孫	
上海分行	監理 聶其煒	經理 孫元方	
	副經理 謝永淇		
漢口分行	經理 金廷蔚	副經理 陳沂	
北京分行	同 楊瑜統	同 季汝揖	

民國六年六月ニ至ル第一期報告次ノ如シ。

資產負債表

負債ノ部

資本金	二、〇〇〇、〇〇〇、〇〇元
定期預金	三五三、七四七、二三
當座預金	一、〇一八、六三九、二六
通知預金	四一、六三七、七五
本票	四二、七六二、九七

科目	金額
暫時預金	三一九、八九六、五三
儲蓄預金	二、一八八、九〇
支拂手形	一、三〇〇、〇〇
本期純益	六、七二四、二一
合計	三、七八六、八九六、八五

資產ノ部

科目	金額
未拂込資金	九八〇、〇〇〇、〇〇元
定期貸金	四二九、一九一、〇四
定期抵當貸金	五一八、五三九、九二
割引貸出	五七、九一六、一七
當座	一九九、九六三、九〇
押滙	一、三六〇、九二
暫記	三六、一六八、〇四
有價證券	一、一六五、八六
總分行取引金高未記帳	七、三〇四、四八
開辦費	二八、八二一、四七
家屋土地	五、〇九三、四〇
器具整修	一五、〇四三、四七
各銀行預金	一、〇一一、一一四、八六
現金	四九五、二一三、三二

合計	三、七八六、八九六、八五

損益表

損失ノ部	
各項支出	二八、五二三、九二元
開辦費分拂	二、九二二、四二
土地家屋分拂	二六八、〇七
器具裝修分拂	二、二三二、一九
雜損益	一、六八四、二六
手數料	七九、三八
本期純益	六、七二四、二一
計	四二、四三四、四五
利益ノ部	
利子	二七、一二一、〇四元
爲替料	四八七、四四
爲替差益	一四、八〇八、四七
有價證券損益	一七、五〇
計	四二、四三四、四五

金城銀行

民國六年五月資本金二百萬元ヲ以テ設立セラレタル、株式組織ノ商業銀行ニシテ、本店ヲ天津ニ置

キ、支店ヲ北京、上海ニ設ケ、其他各地ニ代理店アリ、其營業ハ普通銀行ト同ジク預金、貸出、爲替等ニシテ、開業ノ始資本額ノ四分ノ一則五十萬元ノ拂込ヲナセリ、創業日尚淺キモ營業極メテ鋭進シ民國六年度營業報告ニヨレバ各種預金合計四百六十餘萬元、各種貸付金三百七十餘萬元アリ、六年五月ノ開業ヨリ、同年十二月ニ至ル八ケ月間ニ於テ十三萬九千七百五十元七角四分ノ利益ヲ得、各項支出、營業用家屋什器ノ償却等ニ要セシ四萬三千六百七十一元二角三分ヲ除クモ、尚九萬六千七十九元五角一分ノ純益アリ、同行總董ハ王郅隆ニシテ、監察人ハ郭善堂、胡筠、總經理人ハ周作民タリ、民國六年度ノ資產負債表、損益表、利益分配表次ノ如シ。

資產負債表

負債ノ部

科目	金額
資本	二、〇〇〇、〇〇〇、〇〇元
定期預金	八九一、二五一、四一
當座預金	三、一五五、六六一、八八
暫時預金	五五四、三八四、一四
存款票據	九、五四五、三八
支拂手形	八、二〇〇、〇〇
未拂利子	五、五二五、〇四
本年純利	九六、〇七九、五一
合計	六、七二〇、六四七、三六

資産ノ部

科目	金額
未拂込資本	一、五〇〇、〇〇〇、〇〇元
定期貸付金	四五五、二七一、四一
抵當貸付金	六四四、二二九、九五
當座貸越	一八七、二九一、九九
貸付金	二、四九五、九〇六、七一
有價證券	二七、四八三、五〇
外準同行取引勘定	一四、〇八五、六四
營業用家屋器具	二四、六三六、一五
生金銀並貨幣	一六、八二〇、〇〇
未收利息	一一、七二三、六三
手許在金	一、三四三、一九八、三八
合計	六、七二〇、六四七、三六

損益表

損失ノ部

科目	金額
各項支出	三七、七九二、〇〇元
手續費	四二五、〇〇
營業用家屋器具償却	五、四五二、〇〇
本年純利	九六、〇七九、〇〇
合計	一三九、七五〇、〇〇

利益ノ部

利息	九七、九六七、〇〇元
爲替料	一三、一六一、〇〇
餘水	二六、七四二、〇〇
平色	一、三二五、〇〇
雜損益	五五四、〇〇
合計	一三九、七五〇、〇〇

利益分配表

純利	九六、〇七九、五一元
内	
積立金	一四、〇〇〇、〇〇
配當平均積立金	一六、〇〇〇、〇〇
本年度配當(年一割二分)	四〇、〇〇〇、〇〇
行員賞與金	二四、六〇〇、〇〇
後期繰越	一、四七九、五一

江蘇銀行

江蘇銀行ハ江蘇官銀號ヲ民國元年二月改稱シタルモノニシテ、資本金ヲ一百萬元トシ、内六十萬元ハ江蘇財政司ヨリ支出シ、本店ヲ上海ニ、支店ヲ南京、鎭江、蘇州、揚州、常州、無錫ニ置キ、省內

金庫事務ヲ取扱フ外、官民及一般人民ノ預金ヲ取扱フ、其ノ主ナル營業ハ送金爲替ニシテ、各縣徵收ノ漕糧、地租、其他ノ諸税ハ總テ同行ニ保管シ、行政長官ノ命令ニヨリ隨時支出シテ、行政經費ニ充テ、又中央ニ送金ス、從テ爲替ノ取組モ、大部分ハ官金ニシテ、商業爲替ハ僅ニ三分ノ一ニ過ギズ、貸付ハ借受人ノ名義如何ニ拘ハラズ、一切之ニ應ゼズ、稀ニ抵當貸ヲナスコトアルモ、極メテ確實ノモノニ限リ、錢莊發行ノ莊票ハ、卽時之レヲ現銀ニ引換ヘ、約束手形ハ期限ノ長短ニ拘ハラズ、一切之レヲ拒絶シ、卽時拂ノ手形ト雖モ、現銀提供ノ後ニアラザレバ記帳セズ、民國三年三月江蘇民政長ハ本行ノ官金出納事務ニ關スル章程ヲ發布セリ。

本行ハ元ト資本金一百萬元ナレドモ、民國三年秋省庫ニ對シ四十萬元ヲ納メタルヲ以テ、爾來資本金ハ六十萬元ト公稱シツヽアリ、其本店ハ上海ニ置キ、江寧、松江、南通、淸江、揚州、常州、無錫等ニ支店又ハ代理店ヲ設ケ其職員次ノ如シ。

總理處總理	潘季儒	儲蓄處總理	潘明師
上海總行經理	張知笙	無錫分行理事	陳省三
蘇州分行理事	孫伯翔	南京分行理事	金調生
淸江分行理事	夏馨圃	下關滙兌處主任	蔣瑞成
南通分行理事	顧伯言	蚌埠滙兌處主任	何萬昌
徐州滙兌處主任	喬治信		

同行章程ニヨル業務次ノ如シ。

一、短期割引
二、生金銀賣買
三、爲替業務
四、預金
五、貴重品保護預
六、金銀或確實ノ倉庫證書擔保ノ貸付
七、本省地方公債及公金取扱
八、本省行政公署ニ對スル借欵但シ其總額ハ資本ノ四分ノ一ヲ超ユルヲ得ス。

而シテ次ノ業務ハ章程ニヨリ之レヲ取扱フコトヲ禁ゼラル。

一、本條例營業範圍外ノモノ
二、錢莊及實業公司株劵生命保險公司保險證書等ノ收受
三、工商業ノ經營、又ハ他人ニ代リ工商業ヲ經營スルコト
四、不動產ノ賣買又收押

本銀行ハ上海、甯波、蘇州三處ニ於テハ儲蓄ヲ兼營ス、民國六年第十一期報告ニヨレバ之等ノ預金總額三十六萬餘元アリ、又上海總行ハ老棧、東棧、西棧ノ三倉庫ヲ無錫分行ハ瑞豐棧ヲ有シ南京分行モ

倉庫一處ヲ有ス。

南通支店ニテハ中國、交通兩銀行ノ未ダ支店ヲ設ケザルノ前ニ、紙幣ヲ發行セシニ、信用良好ニシテ其額五萬元ニ上リ、後收回セルモ第十一期決算ニヨレバ尙ホ未回收ノモノ五千七百四十六元アリ。

江蘇銀行民國六年上半期（第十一期）ノ貸借對照表ヲ示セバ次ノ如シ。

借方	
資本金	六〇〇、〇〇〇元
積立金	一一五、四二〇
特別積立金	二一、〇〇〇
家屋基本金	二七、一二三
紙幣	五、七四六
當座預金	九七四、九九二
定期預金	五〇四、七二七
滙兌票存	一〇、一八〇
票存	三一、七四六
江蘇省庫欵	一〇七、八七一
江蘇省公債票準備金	七、〇一四
江蘇財政處各項公欵	二七、五〇二
利益	四八、九五一
總計	二、五五二、二七六

方

科目	金額
現金	四九八、一一〇元
各銀行預入	一五五、七五六
當座抵當貸	二七八、七四〇
定期抵當貸	一、一三二、五三六
押租及墊費	九、一〇八
證券有高	二一四、九六七
押匯	一九、九三〇
紙幣印刷費	一九、七三二
開辦費	二、三四五
預金利子	一五、〇七七
儲蓄處資本	一〇〇、〇〇〇
生財	八、八四七
家屋	九七、一二三
總計	二、五五二、二七六

尙同行ノ六年七月ヨリ十二月ニ至ル下半期成績ヲ見ルニ、本支店ヲ通ジテ良好ナル結果ヲ示シ同期ノ本支店純益ヲ表示スレバ左ノ如シ。

	純利益	儲蓄處利益
上海本店	一五、八六九、一二元	一、〇六九、三七元

蘇州支店	五、〇四四、三一	二〇三、五〇
無錫同	五、八五七、〇六	二〇三、五〇
鎮江同	三、七七二、〇六	
通州同	三、〇〇四、六六	
南京同	一、二一七、四二	一一四、一七
下關同	一、三二一、一九	
蚌埠同	一〇四、四八	
徐州同 缺損	一、〇九二、〇三	
差引純益合計	三六、四八四元三角〇四厘	
上半期純益	三二、三六七元六角五分七厘	
計	六八、八五一元九角六分一厘	

信成銀行

上海昌昇鐵號主人無錫人周舜臣ノ發起ニ係ル、株式組織ノ銀行ナリ、當初資本額五十萬元、内二十五萬元ハ同氏一人ノ引受額ニシテ、他ハ一般ノ應募トス、毎株五十元ニシテ、一株ノ拂込額貳拾五元卽チ貳拾五萬元ノ拂込額ナリトス、支那ニ於ケル民業銀行業ノ先驅ニシテ、光緒三十二年設立セラレ本店ヲ上海ニ設ケ、無錫、蘇州、南京等ニ支店ヲ開設セリ、營業ハ普通商業銀行事務ノ外ニ、貯蓄預金ヲ取扱ヒ、且ツ百元、五十元、十元、五元及一元ノ五種銀行券ヲモ發行ス。

本行ハ經營其宜ヲ得タル爲、年來成績良好ニ、其銀行劵モ信用アリ、嘗テ前淸ノ末年、上海金融界ニ大恐慌アリ、殆ンド全部ノ支那銀行劵ハ流通セザリシガ、本銀行ノモノヽミ外國銀行劵同樣ニ流通セリ。

嘗テ澳國資本家ハ北京ノ同國公使ヲ經テ、周總理ニ對シ之ヲ兩國資本家共同出資ノ大銀行トナサンコトヲ提議セシガ、拒絕セラレタルコトアリ、後業務發展ト共ニ增資ヲ行ヒ、今ヤ其公稱資本額二百萬元ニシテ、拂込額ハ百十二萬五千元ナリ、一九一二年九月調査ニヨレバ、其發行銀行劵總額五萬元ナリ。

工商銀行

工商銀行ハ民國六年三月、主トシテ海外ニ關係ヲ有スル支那人ニヨリ組織セラレタル銀行ニシテ、英名ヲ（The Industrial and Commercial Bank, Ltd.）ト云ヒ同年三月三十日香港ニ於テ登錄セラレ、同地ニ本店ヲ置キ、資本金壹百萬弗（香港弗）ニシテ、同年五月ヨリ開業セリ、而シテ發企人ノ計畫ヲ聞クニ、同行ハ目下ノ所一百萬弗ノ資本ナルモ、今後五ケ年ノ後ニハ、五千萬弗ニ增資セン計畫ニシテ、支那及海外ノ重要都市ニハ、支店ヲ設ケ、追テハ上海ニ其本店ヲ移サントスルモノナリ、銀行ノ主眼トスル所ハ、現在ノ支那經濟組織ヲ統一シ、支那ニ於テ將來興ルベキ諸工業ニ對シ、努メテ諸種

ノ援助ヲ與ヘ、一方海外ニ於ケル商業家ト、支那內地生產業者間ノ聯絡ヲ計ラントスルモノニシテ、創立發起者ノ言ニ據レバ、支那ニハ製造家ガ、銀行ヲ經テ個人ノ貯金ヲ利用シ得ベキ、理想的銀行ニ乏シク、比較的低利資本ヲ運用スルコト不可能ニシテ、工業ノ發展上ニ一大障礙ヲナシ居ルヲ以テ、該銀行ニテハ開港場ト共ニ、奧地ニ支店ヲ設ケ、支那ノ富裕ニシテ廣大ナル天然財源ヲ開發スルニ努ムベシト云フ。

又近來支那人識者間ニ於テハ、支那奧地ニ新式銀行ノ設ケナク、貿易業者ハ海外ト直接取引ヲ行フヲ得ズ、一度開港地ヲ經ザルベカラザルノ不便アルヲ感ジツヽアレバ、右工商銀行ハ、此點ノ不便ヲ救ハンガ爲メ、遠ク奧地ニ迄支店ヲ開設シ、支那土耳其斯坦邊ニ於テモ、紐育或ハ倫敦ト直接取引ヲ行ヒ得ル樣ニナサントスルモノナルガ、其ノ銀行紙幣ハ充分ナル準備金ノ下ニ發行シ、且ツ支那各地支店ヲ通ジテ一定價格トナシ、甲地發行紙幣ハ乙地ニ於テ割引使用セラルヽガ如キコト無カラシメ、以テ貿易上ノ障碍タル支那幣制ノ混亂ヲ改ムルニ努力スベシト云フ、而シテ同銀行株主ノ多クハ海外在留ノ支那人、若クハ支那ニ於ケル上流階級者ニシテ、當事者ハ何レモ海外留學ヲ畢ヘ、夫々官邊又ハ事業界ニ於テ銀行業及實業ニ經驗ヲ有セルモノニシテ、其頭取タルベキ Tin Taucheng 氏ハ以前保險會社ノ支配人タリシ人ニシテ、市加古大學ヲ卒業シ、廣東政府ノ公共事業委員タリシコトアリ、其他發起人諸氏何レモ「コロンビヤ」、紐育、「ボストン」等ノ大學ヲ畢業セルモノナリ。

尙該銀行ハ既ニ數年前ニ開設セラルベキ筈ナリシモ、當時袁世凱政府當局者ノ反對アリ、爲ニ之レヲ實現スルニ至ラズシテ止ミタルモノナリト。

各省官銀行

各省ニハ概ネ官立ノ銀行若クハ官銀號官錢局ト稱スルモノアリ、往々官商合辦ニ係ルモノモアリ、以テ該省ノ金庫事務ヲ取扱フ、抑モ官銀號ナルモノハ、前淸時代官金取扱ノ爲ニ生ジタルモノニシテ其初ハ官營ニアラズシテ、官憲ノ特別認可ヲ得テ殷實ノ商戶之ヲ經營シ、而シテ其取扱フ官銀ノ種類ニヨリテ、各其名稱ヲ異ニセリ、卽チ戶部ノ金ヲ取扱フモノヲ戶部官銀號ト云ヒ、布政司ノ地丁錢糧其ノ他ノ租稅ヲ取扱フモノハ藩庫官銀號ト云ヒ、海關稅ノ出納ヲ司ルモノハ海關官銀號ト稱シ、鹽稅ヲ管スルモノヲ鹽運庫官銀號ト稱セリ。

後光緖ノ末造ニ至リ是等各種官銀號統一ノ方針ヲ採リ、各省概ネ一官銀號トシ、以テ其省內各種ノ官金ヲ取扱ハシムルコトトシ、併セテ紙幣ノ發行ヲモ爲サシメタリ、是等各種ノ官銀號ガ如何ニシテ統一セラレタルヤハ明カナラザルモ、新設ノモノハ多クハ官銀行ト稱シ、官設ニ係レリ、宣統元年九月度支部ヨリ各省ニ對シ、官銀號ノ增資ヲ訓令シタルコトアリ、多少當時ノ事情ヲ知ルノ便アルヲ以テ之レヲ次ニ揭出セン。

各省官銀行ニ付テハ前ニ章程ヲ設ケ、財政整理完了後ハ、已設ノ銀行ハ其事業ヲ擴張スベク未設ノモノハ官銀錢局ヲ章程ニ從テ改設スヘキ旨通知セリ、抑モ官設銀行ハ國家銀行ト同ジク、財政ヲ維持整理スルノ責任ヲ負フモノニシテ、經營スベキ事項甚ダ多ケレバ、資本ト積立金ヲ充分準備増加シ、金融ノ敏活ヲ輔ケザルベカラズ、然ルニ現在各省官設銀錢局等ハ、積立金モ少ク、又資本モ往々充分ナラズ、多キモ一二百萬兩、少キハ僅カニ數十萬兩ニ過ギズ、且ツ時々流用貸出ノ事アルハ、決シテ根基ヲ培植スルノ法ニ非ズ、依ツテ必ズ擴張ノ法ヲ講ジ、積立金ハ奏定章程ニ從ツテ實行スベク、資本ハ愈多ケレバ愈妙ナリ、或ハ千萬兩ヲ準備シ、少クトモ又數百萬兩ヲ備フベシ、凡ソ交通繁盛ノ大省、及所屬開港場ニハ、必ズ官設或ハ官民共同ノ大銀行一ケ所ヲ設ケ、且ツ各地ニ支店ヲ設ケ、財政ヲ維持シ、市場ヲ振興スベシ、又已ニ充分ノ資本ヲ備ヘタルモノハ、金額ノ多少ニ拘ラズ、流用ノ爲メ資本ヲ空虛ニシ、信用ヲ失フガ如キ所爲アルベカラズ云々

右各省官銀錢號ハ各省金庫ノ事務ヲ取扱フヲ其本然ノ任務トスレドモ、實ハ紙幣ヲ發行シテ政費ノ急需ニ應ゼントスルヲ主要目的トナスモノナリト謂フヲ得ベク、各省官銀局孰レモ之レヲ發行セザルナシ、民國二年十月頃ノ調査ニ係ル各省官銀錢號發行ノ紙幣額ヲ示セバ次ノ如シ。

各省官銀錢號ノ發行紙幣額

省	發行紙幣額
奉天	四百九十九萬五千二百七十元
江蘇	一百十二萬五千五百七十八元
安徽	三十萬元
黑龍江	二百五十一萬八千四百七十七元
直隸	六千四百元
貴州	一百七十六萬九千五百二十元

山東	四十八萬元
山西	二百零七萬七千二百三十六元
浙江	二百四十三萬九千元
四川	一千一百五十九萬三千二百五十九元
湖南	一千零五十七萬一千零七十五元
陝西	一百五十萬元
福建	三十萬元
新疆	二百七十七萬七千七百七十七元
吉林	一千四百四十五萬六千四百十元
廣西	二百十八萬七千八百八十三元
湖北	三千萬元
甘肅	二十八萬二千八百六十元
河南	一百四十八萬三千三百元
廣東	二千二百萬元
雲南	二百萬元
江西	一千四百六十九萬五千三百二十元
熱河	一萬五千元
合計	一億四千五百五十七萬四千一百六十五元

是等ノ發行紙幣ニ對シテ幾何ノ準備金ヲ有スルヤ明カナラズ、恐クハ殆ンド皆無ナルモノ多カルベキガ民國三年六月財政部ニテ調査シタリト稱スル其準備金額ハ次ノ如シ。

湖南銀行	七三六、一一一元
湖北官錢局	一一七、〇九二
安徽中華銀行	二〇〇、〇〇〇
廣東官錢局	一〇、二六五、〇五八
江蘇銀行	六〇〇、〇〇〇
河南官錢局	一八一、一六六
奉天官銀號	七三六、七九三
雲南富滇銀行	二〇、〇八〇、三七七
黑龍江官銀行	六七九、〇五六
江西民國銀行	八七一、七二六
浙江銀行	三、〇〇〇、〇〇〇
黑龍江廣信公司	八四五、二九五
直隸銀行	一、八二〇、〇〇〇
吉林官銀錢局	三、三六〇、〇〇〇

(但シ山西、四川、福建及山東省ハ不明)

斯クノ如クニシテ官銀錢號ハ徒ラニ紙幣ヲ發行シ、經濟界ヲ攪亂スルヲ以テ、民國二年十一月大總統令ニテ、一律ニ紙幣ノ增發ヲ禁止シ、同年十二月二十三日官銀錢行號監理官章程ヲ公布シ監理官ヲ任命シ、コレヲ監理セシムルコトヽセルモ、其ノ何レモ空文ニ歸シタルハ勿論ナリ、左ニ該章程ヲ揭グベシ。

各省官銀錢行號監理章程

大總統批文ノ要ヲ案ズルニ各省官銀錢號ノ紙幣濫發ヲ漫ニ制限スルナクンバ、價値低落シ國計民生ハ交々其困ヲ受ク、（中略）但シ各省紙幣ノ充斥ヲ查スルニ其官銀錢行號ノ發行スル者固ヨリ多數ニ屬ス、而シテ商辦銀錢行號ノ發行スル者亦タ殊ニ少ナカラズ、湖南ノ鑛業銀行、奉天ノ興業銀行、廣東ノ大信銀行、浙江ノ興業銀行等ノ如シ、各該省ノ調查報告類ニ據レバ紙幣發行ノ數甚ダ鉅ト爲ス、其ノ地方ノ金融關係ニ於テ官辦ト殆ド軒輊ナシ、若シ監督管理ノ範圍ガ僅カニ官辦及官商合辦ヲ以テ限リト爲シテ商辦銀錢行號ニ及バザレバ諸事實ニ按シ既ニ窒礙多ク諸情理ニ揆シ又公允ナラズ殊ニ本部整理紙幣ノ初心ニアラズ云々

第一條　監理官ハ財政總長ノ命ヲ承ケ各省官銀錢行號ノ一切ノ事務ヲ監視ス

第二條　監理官ノ各省官銀錢行號ヘノ派遣ハ財政總長ニ由リ之ヲ定ム

第三條　監理官ハ各省官銀錢行號ノ各種簿記及金庫ヲ臨時ニ檢查スル事ヲ得

第四條　監理官ハ各省官銀錢行號ノ票據發行數目及準備狀況ヲ隨時檢查スル事ヲ得

其檢查報告書ヲ財政總長ニ呈報ス

第五條　各省官銀錢行號ガ新舊鈔票ヲ換發セントスレバ監理官ヨリ財政總長ニ轉呈シテ認許ヲ請フ可シ

第六條　各省官銀錢行號內ノ尚ホ未發行ノ鈔票及印票印板戳記ハ均シク監理官ニ交申シ會同シテ封存保管スベシ財政部ノ命令ニ非レバ開封シテ行用スルヲ得ズ

第七條　監理官ハ各省官銀錢行號ノ各種票據及一切ノ文件ヲ隨時檢閱スル事ヲ得

第八條　監理官ハ各省官銀錢行號事務一切ノ情形ヲ隨時檢閱スル事ヲ得

監理官ハ各省官銀錢行號事務一切ノ情形ヲ隨時質問スル事ヲ得若シ必要ト認ムル時ハ銀行編製各種表冊及營業概略ヲ請フ事ヲ得

前項ノ書冊文件ハ各省官銀錢行號總辦ノ署名捺印ヲ要ス

第九條　監理官ハ毎月十五日以前ニ上旬內ノ檢查情形ヲ詳細ニ編製シ其檢查報告書ヲ財政總長ニ呈報ス

第十條　監理官ハ各省官銀錢行號業務ニ對シ章程ノ違背及非法行爲有リト認ムレバ速カニ財政總長ニ呈報スベシ

第十一條　監理官ハ財政總長ノ許可ヲ得ルニ非レバ職守ヲ擅ニ離ル丶ヲ得ズ

第十二條　官商合辦ノ銀錢行號モ亦本章程ノ規則ヲ遵用ス

第十三條　本章程ハ公布ノ日ヨリ施行ス

右章程ハ當初官立ノ銀錢行號及官商合辦ノ銀錢行號ノ取締ヲナス目的ヲ以テ制定公布セラレシカ、其後各省ニ於ケル私立銀錢行號ニモ亦該章程ヲ適用スルコト丶セリ、其理由ハ當時ノ財政總長ノ呈文ニ詳カナルヲ以テ左ニ之ヲ譯載スベシ。

査スルニ本部前ニ各省官銀錢行號ガ紙幣ヲ濫發シテ漫ニ限制ナク、爲メニ價格ノ低落ヲ致シ國計民生交々其困ヲ受クルヲ以テ、特ニ各省官銀錢行號監理官章程十三條ヲ訂定シ、大總統ノ批准ヲ經テ施行セリ、玆ニ査スルニ該章程ノ規定ハ僅カニ官銀錢行號及官商合辦ノ銀錢行號ニ對シ官吏ヲ派シ監理セシムルヲ得ルノミ、然ルニ各省紙幣ノ充斥ハ其官銀錢行號ニ於テ發行スルモノ固ヨリ多數ニ屬スルモ、而モ商辦銀錢行號ニ於テ發行スルモノ亦殊ニ少カラズ、湖南ノ鑛業銀行、奉天ノ興業銀行、廣東ノ大信銀行、浙江ノ興業銀行ノ如キ、各該省ノ調査報告ニ據レバ皆紙幣ヲ發行シ、其數甚ダ多ク、地方ノ金融關係ニ於テハ官辦ノモノト殆ド軒輊ナキヲ以テ、若シ監理範圍ヲ僅ニ官辦ト官商合辦トニ限リテ、商辦銀錢行號ニ及バザルトキハ、之ヲ事實ニ按ジテ既ニ窒礙多ク、之ヲ情理ニ揆リテ又公平ナラズ、殊ニ本部ガ紙幣整理ノ當初ノ目的ニ反ス、玆ニ該章程第十二條「官商合辦ノ銀錢行號」ノ下ニ「及紙幣ヲ發行スル商辦銀錢行號」ノ一語ヲ加入シ、以テ周密妥善ヲ期セントス、云々

斯クノ如ク監理官ニ對シテ右章程ニ從テ官銀錢行號ノ檢査ヲ命ジタルガ民國三年九月右檢査報告ノ要項トシテ指示セル處ノモノ次ノ如シ。

各省官銀錢行號監理官檢査報告書編製例言

一、各省官銀錢行號監理官ハ、應ニ部頒監理官章程第九條ノ規定ニ遵照シテ、毎月十五日以前ニ、前月內檢査情形ニヨリ詳細ニ檢査報告書ヲ編製シテ、部ニ送リテ査核セシムベシ

一、前項報告書ハ應ニ各監理官所管行號ヲ按ジテ定名シ、其行號某月分檢查報告書ト名クベシ

一、監理官檢查報告書ヲ編送スルノ時ハ、須ラク所管行號檢查事實ニ就イテ、分節敍述スルコト左ノ如クスベシ

(一)剏辦沿革　該行號何時ヨリ開辦シ何レハ何機關ニヨリ監督ヲ受ケ、革命以來ノ變遷ヲ簡單ニ敍述ス

(二)歷來資本　開辦ヨリ今日ニ至ル迄ノ有ラユル資本若干、何處ヨリ指撥セルカ、利息ノ有無、籌還ノ有無、商股附有アリヤ否ヤ等實數ヲ查明シ、逐款聲敍スベシ

(三)分布機關　總行號ヲ除クノ外、分設機關現ニ若干處アリヤ、其緣起如何、所撥資本若干何項ノ營業ニ限ルヤ等ヲ查照シ附表式第一種ニ照シ敍次開列ス

(四)營業事項　爲替割引、銀錢賣買、銀錢兌換、預金貸出、手形兌換劵發行等ヨリ、省庫經理、政費籌撥等ニ至ル迄、須ク各該行經營事實ヲ分條列擧ス

(五)紙幣發行　有ラユル紙幣ハ何時訂印シ、何時發行ヲ開始シ、共ニ幾種アリ、其總數若干ニシテ巳ニ收回セルモノ現在通用セルモノ各若干、而シテ收數內何時銷燬セルモノ及監視封存セルモノ各若干、又通用數中其市面ニ流通セルモノ、存儲シテ未發ノモノ各若干等、應ニ附表式第三第五種ニ照シ詳細註明スベシ

(六)庫存現款　庫存款項ハ各種自發紙幣手形ヲ計上セザルヲ除クノ外、有ラユル實存ノ本國各種生金、生銀、銀元、銅元、制錢各若干、及他行號兌換劵、外國紙幣洋幣各若干ハ能ク準備スルニ足ルヤ、其ノ出納狀況等ヲ分別敍明シ、並ニ附表式樣第六種ニ照シ、價ヲ按ジテ換算シ、以テ比較ニ便スベシ

(七)現有資產　資產ハ分チ三種トス、一ハ田地、二ハ房屋、三ハ器具、應ニ各類ニツキ其名目數量ヲ按ジ、次ニ依テ敍明シ、倘自ヲ購入セルヤ、抵押收入ナルヤ、每年收益幾何、用途如何、不動產坐落、地點面積大小原價若干、現在價格幾干等ヲ附表樣式第七種ニヨリ核實塡註スベシ

(八)收存款項　存款(預金)ハ幾種ニ分ツヤ、其官署及商民ヨリ預入セルモノ各若干、利息ノ有無、期限ノ如何等附表式第八種ニ從ヒ核明塡入スベシ

(九)放出款項　放款(貸出)ハ幾種ニ分ツヤ、官署ノ借入及商民ノ借入若干アリヤ、抵當品或ハ保證人ノ有無、年利或ハ月利若干、期限如何、現在着落ノ有無、按期追還シ得ルヤ否ヤ等ヲ、附表第九種ニヨリ詳晣塡註スベシ

(十)營業經費　營業人員分掌職務若干、毎月俸給若干、手當給用等若干、此外監理官經費支出若干等、附表第二第十兩種ニヨリ分別塡報スベシ

(十一)盈虧情形　開辦ヨリ以來毎年得ル所ノ餘利若干、爲替料、利子兌換利益等ノ項計幾種アリヤ、結算方法如何、有ユル餘利ハ如何ニ分配支出セル、現存若干アリ等、並ニ附表式第十一種ニ照シテ逐次註明スベシ

(十二)投資事業　凡ソ正項營業ノ外、別ニ他項事業ヲ投資經營スルモノハ、例ヘバ錢莊、典當、燒鍋ノ類ヲナスモノハ、應ニ其資本ヲ如何ニ發給セルカ、產業現有若干、毎月或ハ毎年ノ收益若干、現收如何等、附表式第十二種ニ照シテ彙列備核スベシ

(十三)市面金融　近來該地銀錢價值ノ漲跌如何、流通紙幣ノ信用如何、其物價ニ對スル影響如何、及物價銀錢價騰貴低落ノ原因等均シク隨時考査ノ情ヲ分列叙入スベシ

(十四)其他ノ事項　所管行號其收回紙幣ヲ、私ニ流通セシムルノ情弊無キヤ如何、流通紙幣ヲ如何ニシテ陸續收回セルカ、其日常ノ營業、定章ニ違背シ又ハ他ノ不法行爲アリヤ否ヤ、市上ノ流通紙幣ニ僞造アリヤ否ヤ、此外幣制整理ニ對シ建議シ並ニ所見ヲ開陳シテ採擇ニ備フベシ

一、以上各節編叙事實若シ隨時變更ヲ生ジタル時ハ、均シク毎月末日現狀ヲ以テ據トナス

一、本年十一月ヨリ起リ前記節目ニ按照シテ報告シ、以後若シ事實毫モ變更ナキ時ハ以後各月ニハ某期報告内第何節ト同樣ノ旨ヲ聲明シタルノミニテ、以テ重贅ヲ免レシム

一、各監理官所管行號、若シ兩種機關以上アルモノハ、其報告亦須ク所管機關ヲ按ジテ一部宛ヲ作製スベシ

尙民國三年二月ニハ、次ノ命令ヲ發シテ、官銀號ノ他業ヲ兼營スルヲ嚴禁シ、以テ其營業ノ往々危險ニ陷ラントスルヲ防ガントセリ。

官銀號ノ他業兼營禁止

査スルニ銀行ガ他業ヲ兼營スルハ、流弊滋多ナルヲ以テ、各國均シク厲禁ス、本部訪聞スルニ各省銀行號間々他業ヲ經營スルモノアリ、如シ詳晰調査法ヲ設ケテ補救スルニアラザレバ、殊ニ金融機關ヲ鞏固ニスルノ道ニアラズト、此ニ令シ各該監理官ニ命ジ、迅速ニ所屬各官銀行號總分各行他業兼營ノ情事ノ有無ヲ調査セシメ、並ニ調査情形ヲ受命後一月以内ニ詳晰呈覆セシム

次ニ各省ニ於ケル官立銀行及官銀號、官錢局名ヲ擧示スレバ左ノ如シ

官立銀行

江蘇	江蘇銀行	直隷	直隷銀行	湖南	湖南銀行
四川	濬川源銀行	江西	民國銀行	安徽	安徽中華銀行
雲南	富滇銀行	陝西	秦豐銀行	貴州	貴州銀行
浙江	浙江銀行	山東	山東銀行	廣西	廣西銀行
山西	晉勝銀行				

官銀號

奉天	東三省官銀號	黑龍江	黑龍江官銀號	福建	福建官銀號

官錢局

湖北	湖北官錢局	河南	河南官銀錢局	廣東	廣東官錢局
甘肅	甘肅官銀錢局	吉林	吉林官銀錢局		

外國銀行

支那ニ於テ外國銀行支店ノ開設セラルルモノ既ニ年久シク、各鉅額ノ資本ト雄厚ナル信用ヲ擁シ、銀行券發行ノ特權ヲ有シ、主要貿易港ニ雄飛セリ、殊ニ支那銀行ガ資本乏シク經營宜キヲ得ズ、信用薄弱ナルヨリ内外人共ニ外國銀行ニヨルヲ常トスルヲ以テ其支那市場ニ於ケル勢力ハ偉大ナリ。

更ニ支那ニ利權獲得競爭行ハレテ以來、各國競フテ鐵道鑛山等ノ借款、其他ノ公債ノ引受等ニ狂奔スルニ至リ、各外國銀行ハ其本國ヲ代表スル投資機關タリ、又ハ投資機關ノ主要組合員タルニ至リ、是等外國銀行ノ活動一層注目スベキモノアルニ至レリ、現今支那ニアル主要外國銀行ヲ列擧スレバ次ノ如シ。

銀行名	支那名	原名	本店所在地	設立年度
チャータード銀行	麥加利銀行 喳町銀行	Chartered Bank of India, Australia, and China.	倫敦	一八五三年
香港上海銀行	滙豐銀行	Hongkong Shanghai Banking Corporation.	香港	一八六五
獨亞銀行	德華銀行	Deutsch Asiatische Bank.	上海	一八八九
印度商業銀行	有利銀行	Merchantile Bank of India.	倫敦	一八九二
印度支那銀行	東方滙理銀行	Banque de L'Indo-chine.	巴里	一八七九
滙源銀行			上海	一九一〇

銀行名	支那名	原名	本居所在地	設立年度
インターナショナル銀行	花旗銀行	International Banking Corporation.	紐育	一九〇一年
支那白耳義銀行	華比銀行	Banque Sino-Belge.	ブラッセル	一九〇二
和蘭銀行	嗬囒銀行	Nederlandshe Handel-Mastschappi.	アムステルダム	一八二四
和蘭印度銀行		Nederlaydsch-Indische Handelsbank.	同	一八六三
横濱正金銀行	正金銀行		横濱	一八八〇
臺灣銀行			臺北	一八九九
朝鮮銀行			京城	一九〇九
住友銀行			大阪	
三井銀行			東京	
三菱銀行			東京	

是等ノ各銀行ハ支那ノ上海、漢口等ノ要地若シクハ其他ノ開港場ニ支店ヲ設置シ、爲替、預金、貸付等ノ普通銀行業務ノ外、其地方ニ於テ通用スル銀元、銀兩ニ對スル一覽拂手形(卽チ兌換券)ヲ發行シ、其他支那政府ノ公債ヲ引受ケ、各種ノ借款ニ應ジ、各其本國資本家ヲ代表シテ資本的ニ各國ノ勢力ヲ伸張センコトニ努力シツツアリ、今其主要ナルモノニツキ、其組織沿革及、活動狀況等ヲ略叙スヘシ。

香港上海銀行

沿革

香港上海銀行（Hongkong Shanghai Banking Corporation）ハ支那ニ於テハ滙豐銀行ト稱セラレ、一八六五年四月香港在留ノ英國商人ニヨリテ設立セラレタルモノニシテ、爾來異常ナル發展ヲナシ、東亞ニ於ケル英國商人ノ金融機關タリ、又支那ニ於ケル各借欵利權ノ獲得ニ當リ、各種借欵公債ノ引受ヲナシ、今ヤ東亞ニ於テ最有力ノ銀行タルニ至レリ、同銀行ハ設立ノ當初ハ非法人タリシカ設立ノ翌年即チ一八六六年ノ香港政廳令第二號ニヨリ法人ノ資格ヲ享有セルガ元來英國海外銀行ノ設立ニ就イテハ三種ノ方法アリ、第一ハ國王ノ特許狀ニヨルモノニシテ、最モ古クヨリ行ハレ、遠隔セル殖民地ニ本國ノ資本ヲ投下スルニハ多少ノ危險ナキヲ得サルヨリ特許狀ヲ以テ種々ノ特權ヲ附與シコレヲ保護セントスルモノニシテ、一八五三年創立ノ喳吋銀行ノ如キ此例ニヨル、第二ハ一八六二年ノ會社法ニヨリ設立セラルルモノニシテ、此法律ニヨル時ハ能ク前記特許ノ目的ヲ達シ得ルト共ニ特許ハ一面特權附與ノ便利アルト共ニ一面種々ノ制限アルモ、該特許ノ目的トスル所ハ此新法律ニヨリ容易ニ達成セラルルヨリ、爾來ハ特許狀ニヨラス此方法ニヨリ海外銀行ノ成立ヲ見タリ、而シテ其特許狀ニヨリ設立セラレタルモノモ期限滿了ト共ニ會社法ノ下ニ改造セラルルノ狀況ニシテ彼ノ有利銀行ノ如キ其ノ一例ナリ、第三ハ殖民地政令ニヨリ設立セラルルモノニシテ殖民地ノ銀行法ニヨルモノナリ、而シテ英本國政府ハ次第ニ殖民地ニ銀行法ノ制定セラルルヨリ之ガ原則ヲ定ムルノ要アリトシ、一八四〇年大藏省ハ商務省ト協議ノ上一準則ヲ制定セシガ後一八四四年ロバート、ピールノ本國銀行條例改正

ニ從ヒ一八四六年修正セラレタリ、本香港上海銀行ハ此第三ノ方法ニ基キ次ノ如キ香港政廳命令ニヨリ設立セラルルモノナリ。

香港上海銀行設立ニ關スル香港政廳命令

本命令ハ一八六六年命令第二號ヲ以テ公布セラレタルモノナルモ其ノ後一八八七年、一八九九年、一九〇〇年、一九〇一年、一九〇七年、一九一一年、一九一二年、及一九一四年ニ於テ改正ヲ加ヘラレ以テ今日ニ至リタルモノナリ、左ニ譯出シタルモノ即此ノ現行命令ナリトス。

數人相集マリ一般銀行業務ヲ營ムノ目的ヲ以テ「香港上海銀行」ノ名稱ノ下ニ一株式會社ヲ組織スヘキコトヲ協定シ、且此ノ目的ヲ達スル爲先五百萬弗ノ資本金ヲ募集スヘキコト、該資本金ハ各一株ニ付二百二十五弗ノ株式四萬個ニ分ツヘキコト但將來必要ノ場合下記ノ條件及方法ニ於テ之ヲ增加シ得ヘキコトヲ協定シタリ而シテ此等ノ人々ハ從來登記ヲ受ケサル非法人組織ノ會社ヲ以テ銀行業務ニ從事セシモノナルニヨリ其ノ目的ヲ一層有効ナラシメンカ爲香港總督ニ對シ下記ノ條件、制限及規定ニ準據シ法人設定命令ヲ下附セラレンコトヲ申請シ總督之ヲ承認シタルヲ以テ茲ニ香港總督ハ香港立法議會ノ協贊ヲ經テ左記ノ命令ヲ發布セリ其ノ條項左ノ如シ。

第一條　本命令ハ一千八百六十六年香港上海銀行令ト稱ス

第二條　削除

第三條　本命令ニヨリ設立セラルル會社ノ株式ヲ現ニ所有シ又ハ將來所有スヘキ個人又ハ社團ハ「香港上海銀行」ナル名稱ノ下ニ一社團ヲ組織スヘク該社團ハ其ノ名義ヲ以テ總テノ法廷ニ於テ訴ヲ提起シ若クハ訴ヲ受ケ又ハ社印ヲ作成シ之ヲ使用スルコトヲ得但該社印ハ本會社ノ都合ニヨリ何時ニテモ之ヲ變更スルコトヲ得

第四條　（一）本會社ハ取締役會ノ管理ノ下ニ香港殖民地ニ於テ銀行業ヲ營ムノ目的ヲ以テ設立セラレタルモノトス但本條ノ規定ハ大藏省官吏ノ許可ヲ受ケ該殖民地以外ニ於テ其ノ地ノ法令ニ準據シ支店又ハ出張所ヲ設ケ爲替、預金及送金業務ヲ營ムコトアルヲ妨ケス

（二）本會社ノ存續期間ハ一千九百八年八月十四日ヨリ起算シ更ニ二十一箇年間延期シ該期間内ハ本命令ニ定メタル條件ニ從ヒ銀行業務ヲ營ムコトヲ得

第五條　（一）會社ノ資本金ハ五百萬弗トシ之ヲ四萬株ニ分チ一株ノ金額ヲ一百二十五弗ト定ム（以下削除）

第六條　削除

第七條　削除

第八條　削除

第九條　削除

第十條　本命令發布ノ日ヨリ十二箇月以内ニ會社資本金ノ少クトモ二分ノ一ニ相當スル株式ノ引受人ハ定欵ヲ作成シ之ニ署名シ（該定欵ニ記名シ得ルモノハ少クトモ五株以上ノ株主タルコトヲ要ス）總督ノ承認ヲ經タル後該定欵作成ノ日ヨリ十二箇月以内ニ之ヲ會社登記官ニ提出シ其ノ登記ヲ受クヘシ定欵ニハ該定欵定ムル所ニ從ヒ會社ノ株主ヨリ選任セラレタル取締役會及其ノ選任以前ニ在リテハ該定欵ニ於テ指定セラレタル取締役會ノ業務執行ニ關スル規定、株金拂込其ノ他株主ヨリ會社ニ對シ仕拂フヘキ金錢ノ拂込ニ關スル規定並ニ左記ノ事項ニ關スル規定及總督ニ於テ會社ノ業務執行上必要ト認メタル其ノ他ノ規定ヲ掲ケシムルコトヲ得

第一　毎年少クトモ一囘指定セラレタル時及場所ニ於テ株主總會ヲ開クコト

第二　少クトモ二千株以上ヲ代表スル九名以上ノ株主ヨリ請求アリタルトキハ臨時株主總會ヲ開クコト

第三　會社ノ業務執行、取締役ノ選任及其ノ資格ニ關スルコト

第四　毎年取締役ノ少クトモ四分ノ一ツヽノ退任ニ關スルコト

第五　會社ニ於テ自己ノ株式ヲ取得シ又ハ之ヲ擔保トシテ貸付又ハ保證ヲ爲スコトヲ禁止スヘキコト

第六　會社ノ資産及負債ノ狀況、銀行券流通高並ニ香港殖民地及其ノ他ノ地ニ於ケル會社ノ營業所ニ保有スル貨幣在高ノ公表ニ關スルコト

第七　前項ノ諸報告審査ノ爲又ハ香港殖民地及其他ノ地ニ於ケル會社ノ營業所ノ狀況及經過ニ關シ總督ニ於テ必要ト認メタル報告ノ

調製及提出ニ關スルコト

第八　二名以上ノ監査役ニヨリ毎年會社諸計算ノ監査ヲ爲スコト並ニ監査役ハ同時ニ取締役ヲ兼ヌルヲ得サルコト

第九　毎年監査役報告、貸借對照表及損益計算書ヲ株主ニ報告スヘキコト

第十　支配人、行員又ハ此等ノ事務ヲ行ハシムル爲其ノ他ノ役員ノ任命ニ關スルコト

第十一條　本命令ノ條項、定款及其ノ追加又ハ之ニ基キ作成セラレタル内規ニ包含セラレタル條項ニシテ香港殖民地又ハ會社カ業務ヲ營ム港、都市其ノ他ノ地ニ於ケル法令若クハ本命令ノ條項ニ反スルモノヽ外ハ總テ會社ノ現行規則タルノ効力ヲ有ス但内規又ハ追加定款ハ總督ニヨリテ承認セラレ且其ノ承認カ總督ノ署名ニヨリテ確認セラルヽニアラサレハ其ノ効力ヲ生セス

第十二條　(一)會社ハ銀行券ヲ製造シ、發行シ及ビ流通セシムルコトヲ得銀行券ハ其ノ發行地ニ於テ所持人ノ請求ニヨリ何時ニテモ該發行地ニ於テ適法ニ通用スル貨幣ヲ以テ兌換スヘキモノトス兌換ニヨリ引上ラレタル銀行券ハ其ノ當初發行シタル地ニ於テ再ヒ之ヲ發行スルコトヲ得

(二)會社本店ヨリ一定ノ金額ヲ限リ小額銀行券ヲ發行シ得ルコトニ關シ、現ニ有スル會社ノ特權ハ將來殖民地政廳ニ於テ五弗未滿ノ小額政府紙幣ノ發行ヲ爲サントスル場合之ヲ廢止シ爾後會社ハ五弗又ハ其ノ倍額又ハ之ト同價格以外ノ銀行券ヲ發行スルコトヲ得ス

(三)香港殖民地又ハ其ノ他ノ地ニ於テ該地ニ於ケル支店以外ノ一營業所ヨリ發行セル銀行券ハ該發行店ノ外又其ノ支店ニ於テモ之レカ兌換ヲ爲スコトヲ要ス

(四)本命令ハ會社ヲシテ香港殖民地又ハ現ニ會社支店設置セラレ若クハ將來設置セラルヘキ地ニ於ケル銀行券發行ニ關スル現行ノ法令又ハ將來發布セラルヽ法令ノ適用ヲ除外セシムルモノニアラス

(五)會社ノ株主ハ銀行券ノ發行ニ對シ無限責任ヲ負フヘキモノトス、會社解散ノ場合ニ於テ其ノ資産カ銀行券所持人並ニ一般債權者ノ要求ヲ滿足セシムルコト能ハサルトキハ先銀行券所持人ノ債權ヲ完濟シタル後會社ノ株主ハ之カ爲ニ會社資産ヨリ支出シタル金額ヲ限度トシ一般債權者ニ對スル辨濟ニ充ツヘキ爲拂込ヲ爲スコトヲ要ス

(六)本條中會社ノ資産ト稱スルハ一般債權者竝ニ銀行券所持人ニ對シ仕拂フヘキ爲メ支出シ得ヘキ資産ヲ云フ

第十三條　(一)銀行券ノ流通高ハ常ニ會社ノ拂込資本金額ヲ超過スルコトヲ得ス又會社ハ各營業所ニ於テ其ノ發行ニ係ル銀行券流通額ノ三分ノ一ニ相當スル硬貨ヲ具フルコトヲ要ス

(二)會社ハ拂込資本金額ノ三分ノ一ニ等シキ金額ヲ國務大臣ノ承認セル種類ニ屬スル貨幣若クハ有價證券又ハ貨幣及有價證券ヲ以テCrown Agents 又ハ國務大臣ノ任命セル其ノ代理者若クハ此ノ二者ニ各一部ヲ預托スルコトヲ要ス、會社ノ預托セル此等ノ貨幣又ハ有價證券ハ會社ノ發行セル銀行券ノ兌換ニ充ツヘキ特別基金ニシテ會社カ仕拂不能トナリタル場合銀行券兌換ノ爲ニ使用スヘキモノトス但本條ノ規定ハ銀行券所持人カ會社ノ資産ニ對シ一般債權者ト同一位ニ於テ權利ヲ行使スルヲ妨ケス

(三)本條第一項ヲ以テ銀行券流通高ニ加ヘタル制限如何ニ拘ハラス一千八百二十九年八月十三日ヲ限リ會社ノ拂込資本金額ヲ超過シテ銀行券ヲ發行シ及流通セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ拂込資本金額ヲ超過シ發行シタル銀行券ニ對シテハ其ノ發行ヲ爲セル地ノ如何ヲ問ハス之カ兌換ニ充ツヘキ爲之ト同額ノ貨幣若クハ地金銀又ハ貨幣及地金銀ヲ香港殖民長官及國庫局長ニ預托スルコトヲ要ス但本條ノ規定ハ本會社ニ對シ香港殖民地其ノ他本會社カ營業所ヲ有スル地ニ於ケル銀行券ノ發行ニ關スル法令ノ適用ヲ除外スルモノニアラス

第十四條　本會社債務ノ總額ハ其ノ債務ノ性質及種類ノ如何ヲ問ハス現ニ存在スル會社ノ確實ナル資産竝ニ本命令ニヨリ株主ヨリ拂込マシメ得ヘキ金額トノ合計額ヲ超過スルコトヲ得ス

第十五條　本會社ノ銀行券ニシテ一旦兌換ヲ停止シタルトキハ其ノ停止中一切新ニ發行ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條　本會社ハ取締役又ハ會社ノ役員カ單獨ニ又ハ他トノ組合ニテ振出シ又ハ引受ケタル爲替手形、約束手形又ハ其ノ他ノ流通證券ヲ割引キ又ハ之ヲ擔保トシテ貸出スコトヲ得ルモ其ノ限度ハ其ノ時ニ於ケル會社ノ割引貸付總額ノ三分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス且取締役ニ對シテハ一切無擔保貸出ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條　本會社ハ永代財産法又ハ其ノ他ノ法律ノ規定如何ニ拘ハラス會社ノ業務執行上必要ニシテ且投機又ハ上記以外ノ目的ノ爲ニアラスト認メラレタルトキハ家屋、事務所、土地、建物ヲ購入シ、所有シ又ハ永代財産ヲ取得スルコトヲ得但家屋、事務所、土地、

建物ノ購入ハ其ノ取得ノ時ニ於ケル價格一箇年三萬弗ヲ若シ豫メ總督ノ承認ヲ經タルトキハ其ノ承認セラレタル金額ヲ超過スルコトヲ得ス又會社ノ業務執行上必要ナキニ至リタルトキハ該財産ノ全部又ハ其ノ一部ヲ賣却シ讓與シ又ハ之ヲ處分スルコトヲ得

第十八條　正當ノ權限ヲ有スル各個人及法人ハ會社ニ對シ前條規定ノ家屋、事務所、土地建物及永代財産ヲ讓與シ又ハ賣却スルコトヲ得

第十九條　（一）本會社ハ香港殖民地及ビ其ノ他ノ地ニ於テ一ケ年三萬弗若クハ總督ノ承認ヲ經テ定メタル追加額ヲ超過シテ家屋、土地又ハ永代財産ノ購入ヲ爲スコトヲ得ス

（二）本會社ニ於テ前項ノ購入ヲ爲シタルトキハ取締役ハ購入ヲ完了シタルトキヨリ三箇月以內ニ必ス書面ヲ以テ購入代金額、購入セル家屋、土地又ハ永代財産ノ種類及之ニ關シ總督ヨリ命セラレタル其ノ他ノ細目ヲ總督ニ報告スルコトヲ要ス

（三）本會社ニ於テ家屋、土地及永代財産ヲ賣却シタルトキハ十四日以內ニ書面ヲ以テ賣却物件及其ノ代金額ヲ香港殖民長官ニ報告スルコトヲ要ス

第二十條　前項ノ目的ノ外本會社ハ土地、家屋其他ノ不動産ノ購入又ハ投機取引若クハ一般銀行業務ノ範圍ニ屬セサル事業ニ對シ其ノ資本金又ハ資金ヲ投下シ使用シ又ハ貸與スルコトヲ得ス但現ニ本會社ニ對シ負ヒ又ハ將來負フコトアルヘキ金錢其ノ他ノ債務ニ對シ抵當、質入、保管其ノ他ノ方法ニヨリ擔保ヲ請求シ之ヲ受領シ、之ヲ解除シ又ハ之ヲ賣却若クハ處分スルコトヲ得

第二十一條　本會社カ債務ノ辨濟トシテ本會社ノ有ニ歸シタル貨物商品ヲ賣却シ處分シ又ハ金錢ニ換價スルコトヲ得又同一ノ原因ニヨリ本會社ニ所屬シタル土地、家屋其ノ他ノ不動産ヲ賣却シ處分シ又ハ金錢ニ換價スルコトヲ得

第二十二條　本命令第五條又ハ定款ノ規定如何ニ拘ハラス本會社ハ特ニ招集シタル株主總會ノ決議ヲ以テ何時ニテモ新株式ヲ發行シ資本金ノ增加ヲ爲スコトヲ得資本金ノ增加ハ豫メ總督ニ於テ適當ト認メタル條件及規定ノ下ニ其ノ承認ヲ受ケ該承認ハ總督ノ署名セル布告ニヨリ之ヲ官報ニ登載スルコトヲ要ス但會社資本金ノ總額ハ二千萬弗ヲ超過セシムルコトヲ得ス

前項ニヨル增加資本金カ募集セラレタルトキハ總督ノ署名アル布告ヲ以テ之ヲ官報ニ登載セラルルコトヲ要ス之ニ依リ增加資本金ハ現在一千萬弗ノ資本金ト共ニ會社ノ確定資本金ト爲ルモノトス但前項ノ範圍內ニ於テ何時ニテモ更ニ資本金ヲ增加スルコトヲ得

資本金増加ノ場合ト雖第十三條第十二項ニヨリ貨幣若クハ有價證券又ハ貨幣及有價證券ヲ預托シタル後ニアラサレハ一千九百七年一月一日現在ノ拂込資本金額ヲ超過シテ銀行券ノ發行ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條　削除

第二十四條　取締役ハ總督ノ要求アルトキハ何時ニテモ其ノ命セラレタル計算書及報告書ヲ總督又ハ總督ニヨリ特ニ其ノ檢査ヲ命セラレタル官吏ニ提出スルコトヲ要ス

第二十五條　本會社ニシテ仕拂不能ノ狀態ニ陷リタルトキハ其ノ時ニ於ケル株主ハ第十二條ノ規定ニヨリ銀行券ノ發行ヨリ生シタル債務ニ對シ辨濟義務ヲ有スル外又會社ノ一般債務仕拂ノ爲會社ヨリ拂込ノ請求ヲ受ケ未タ拂込ヲ爲ササル部分ノミナラス尚其ノ所有株式金額ヲ限度トシ會社ノ一般債務完濟ノ爲必要ナル金額ヲ拂込ムコトヲ要ス

第二十六條　本會社定款ニ於テハ會社株式ノ移轉ニ際シ前條ニ規定セル拂込ニ對スル新舊株式ノ義務ニ關シ規定ヲ設クルコトヲ要ス

第二十七條　本會社ニシテ仕拂不能ノ狀態ニ陷リタルトキ又ハ引續キ六十日間若クハ一箇年ヲ通シテ六十日間仕拂ヲ停止シタルトキ若クハ會社カ其ノ定款ノ諸規定ヲ遵守セサル場合ニ於テハ總督ハ香港立法議會ノ協贊ヲ經タル命令ヲ以テ本命令ヲ廢止シ會社ニ附與シタル法人設定ノ效果ヲ消滅シタルコトヲ宣言スルコトヲ得

第二十八條　(一)本會社ノ清算ハ香港高等法院ノ管轄トシ以下ノ規定ニヨルヘキモノトス又會社令ニヨリ登記セラレタル會社ノ解散ニ關スル同令ノ條項ハ之ヲ本會社ノ解散ニ準用ス但以下ノ規定ニ於テ變更セラレタル諸點ハ之ヲ除ク

(二)本會社カ清算ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ如シ

(A)本會社ノ解散シタルトキ又ハ營業ヲ行フコトヲ止メタルトキ又ハ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テノミ業務ヲ行フニ至リタルトキ

(B)本會社ハ其ノ債務ヲ仕拂フコト能ハサルニ至リタルトキ

(C)裁判所ニ於テ本會社ノ解散ヲ以テ至當トスル旨ノ意思ヲ表明シタルトキ

(三)本會社ハ左記ノ場合ニ於テ其ノ債務辨濟ノ不能ト爲リタルモノト看做ス

(A)本會社ニ對シ法律上又ハ衡平法上ニ於テ元金三千弗以上ノ債權ヲ有スルモノニシテ會社ノ主タル營業所ニ該債權額ノ仕拂ヲ爲

スヘキ旨ヲ記載シタル請求書ヲ留ムルカ又ハ會社ノ支配人、取締役又ハ重ナル役員ニ之ヲ交付スルカ又ハ裁判所ニ於テ承認セル其ノ他ノ方法ヲ以テ之カ送達ヲ爲シ爾後會社ハ該請求ヲ爲シタル日ヨリ三週間ノ期間内ニ於テ該債權ノ仕拂ヲ怠リ若クハ債權者ヲシテ滿足セシムヘキ何等相當ナル擔保ヲ供セサルトキ

(B)債權者ヨリ本會社ニ對シ提起シタル訴訟カ裁判所ニ於テ法律上又ハ衡平法上會社ノ不利益ニ判決又ハ命令ヲ受ケ之ニ對シ會社カ爲シタル上訴ノ棄却セラレタルトキ

(C)本會社カ其ノ債務ヲ完濟スルコト能ハサルコトノ裁判上證明セラレタルトキ

第二十九條　本命令ノ日付ヨリ二十一箇年ヲ經過シタルトキ本命令ニヨリ會社ニ與ヘタル能力及特權ハ總督ニ於テ香港立法議會ノ協贊ヲ經タル命令ヲ以テ更ニ十箇年間若クハ該命令ニ於テ期間及條件ヲ定メ繼續ヲ宣言セラルルニアラサレハ消滅ニ歸スヘキモノトス

第三十條　削除

以上ハ香港上海銀行設立ニ關スル現行香港政廳命令ノ全文ヲ譯出シタルモノナリ尚同銀行定款(The Deed of Settlement)ハ總テ二百八個條ヨリ成立シ詳細ヲ極ムト雖モ其ノ主要部トモ觀ルヘキモノハ本命令ノ規定ト大同小異ナリ

本行ハ其成立ト共ニ本店ヲ香港ニ支店ヲ上海ニ設ケタルガ、更ニ福州、寧波、新嘉坡、マニラ、カルカツタ、孟買、磐谷、倫敦各地ニ出張所ヲ設置シ、其後日本、佛領印度支那、比律賓群島、爪哇、馬來各地、巴里、漢堡、紐育、桑港等ニモ營業所ヲ設ケ、今ヤ其營業區域ノ廣汎ナル他ニ匹儔ヲ見サル有樣ナリ。

資本金及積立金

本行資本金額ハ一八六六年銀行令ニヨリ五百萬弗（香港弗）ト定メ、コレヲ一株百二十五弗ノ株式四萬株ニ分チ、成立ノ際半額卽チ二百五十萬弗ノ拂込ヲナシ、其他ハ後數回ニ分チ拂込ヲ終レリ、其後一八八四年七月ニ至リ二百五十萬弗ノ增資ヲ行ヒ之ガ全額ヲ拂込ミ總額七百五十萬弗トナシ、次デ一八九七年二月更ニ二百五十萬弗ヲ增資シ之ガ拂込ヲ終レリ、爾後業務ノ發展ト共ニ資本金ノ增加ヲ促スモノアルヲ以テ、一九〇七年香港政廳命令第六號ヲ以テ香港上海銀行令第二十二條ヲ改正シ、同行資本金ハ二千萬弗ノ範圍ニ於テ株主總會ノ決議ニヨリ隨時之ヲ增加シ得ルコト、セシヨリ、同年六月五百萬弗ヲ增資シ翌月中其全部拂込ヲ終リタレハ、目下同行資本金總額ハ千五百萬弗ナリトス。

香港上海銀行ハ基礎ノ確實ヲ期スル爲積立金ヲ可成多カラシムルノ方針ヲ採リツツアルガ、同行積立金ニハ金貨積立金(Sterling Reserve Fund)及銀貨積立金(Silver Reserve Fund)ノ二種アリ、是蓋シ金銀比價ノ動搖ヨリ來ル損失ヲ償フ爲ニ互ニ補償的作用ヲナサシムルガ爲ニシテ、本行ハ之ニヨリテ變動常ナキ銀價ニヨリテ缺損ヲ招クヲ免レ得タリ、元本行ノ資本ハ香港弗ヲ以テ計算セラルルヨリ其配當ノ如キモ之ヲ以テ計算セラルルコト勿論ナレドモ本國ニ於テ本株券ヲ有シ金貨ヲ以テ其配當ヲ受クルモノハ銀價下落ノ際ニハ夫レ丈ケ配當率ヲ減少セラレタル結果トナリ其被ルベキ損害少カラザルヨリ、同行ハ一八七六年ヨリ爾後配當金ハ總テ金ヲ以テスベキコトトシ、以テ銀價ノ低落ヨリ生ズル株主配當額ノ變動ヲ防グコトトシタルガ、其損益計算書ニハ當時ノ爲替相場四志六片ヲ以テ其換算率

トナシ弗ヲ算出スベキ基礎トナセシガ、後一九〇七年ニ至リ一定ノ換算率ヲ定メズ、配當金ヲ定ムベキ時ノ爲替相場ニヨリ換算スルコトトセルガ、斯クシテ銀價變動ヨリ來ル危險ハ株主ヨリ銀行ニ移ルコトトナリ、益々積立金ノ必要ヲ大ナラシメタリ。

同行積立金ハ一九一四年末ニ於テ金貨積立金一千五百萬弗、銀貨積立金千八百萬弗合計三千三百萬弗即チ資本總額ノ二倍五分ノ一ナリ、金貨積立金ハ「コンソル」公債、英國大藏省證劵其他確實ナル金貨證劵ヲ買入レテ其利殖ノ途ヲ計リツツアリ。

組織及機關

香港上海銀行ハ最初ノ香港政廳令ニ於テハ同令發布ノ日ヨリ二十一個年ヲ以テ其存續期限ト定メラレ、一八八七年八月十三日ヲ以テ滿了スベキ筈ナリシガ、一八八七年政廳令第五號ニテ二十一個年延長セラレ一九〇八年八月十三日迄存續スルコトトナレルガ、一九〇七年同廳令第六號ヲ以テ重ネテ二十一個年ヲ延長セラレ一九二九年八月十三日迄存續セラルルコトトナリタルガ右期間滿了前ニハ更ニ又延長セラルベキコト勿論ナリ、尙同行ニハ次ノ諸機關ヨリ其業務ノ執行並ニ監理ヲ司ル。

（一）取締役會　取締役會ハ株主總會ニ於テ株主中ヨリ選任シタル取締役ヲ以テ組織セラレ銀行業務ノ全般ニ亘リテ指揮スルノ任務ヲ有シ、コレヲ香港本店内ニ置キ其内ヨリ取締役會議長、副議長各一名ヲ互選シ該會ノ議事ヲ整理セシム、尙取締役ノ定員、資格並ニ報酬ニツイテハ株主總會ニ於テ之ヲ定

ムト雖モ總會ニ於テ特別ノ決定ヲナサザル時ハ、取締役ノ數ハ七名以上、十二名以下トシ、五十株以上ヲ有スル株主タルノ資格ヲ要シ、其報酬ハ二萬弗ト定メラル、取締役會ハ必要ト認ムル時ハ支配人出張所長其他ノ行員ヲ任免スルコトヲ得ベク、又取締役ハ本行ヨリ或ハ單獨又ハ組合ニテ振出人又ハ引受人トシテ署名セル手形ノ割引ヲ受ケ、又ハコレヲ擔保トシテ貸出ヲ受クルヲ得ベク但シ其貸出額ハ總貸出金額ノ三分ノ一以下ト制限セラレ、又無擔保ノ貸出ヲ禁ゼラルルモ、此點ハ他ノ銀行ト其趣ヲ異ニスルヲ見ル。

同行ハ日常業務ヲ擧ゲテコレヲ支配人ニ委シ支配人ニ全權ヲ與ヘ、取締役ハ單ニ經營ノ大綱ヲ定ムルニ過ギザルハ、其特色トスル所ニシテ、各地ノ支店營業所ニハ副支配人一二名ヲ置キ、又倫敦支店ニハ特ニ倫敦委員會ヲ設ケ同支店營業ノ全般ニ關シ支配人ヲ協助セシム。

(二)監査役　監査役ノ員數ハ其報酬職權ト共ニ株主總會ニ於テ決定スベキモノナルモ同令ニ於テ別ニ定員ヲ定メザル時ハ二名トシ、其任期ハ一ケ年ニシテ職責ハ會社ノ諸計算ヲ監査シ其正確ヲ保證スルニアリ、毎年ノ株主總會ニ於テ取締役又ハ其他ノ役員以外ノモノノ中ヨリ選任スベキモノトス。

(三)株主總會　通常株主總會ト臨時總會トアリ、前者ハ毎年一回之レヲ開キ前年中ニ於ケル諸計算、取締役會報告並ニ監査役ノ報告ヲ聽取シ之レヲ承認スベキヤ否ヤヲ協議スベキモノトス、從來同行決算期ハ年二回ニシテ從テ通常株主總會モ年二回ナリシガ一九一四年八月二十二日ノ臨時株主總會ニ於

テ定款ヲ改正シ決算期ヲ毎年十二月三十一日ノ一回トセルヨリ、通常株主總會モ年一回トナレリ、臨時株主總會ハ二千株以上ヲ代表スル株主ノ請求アリシ外、又ハ取締役會ニ於テ必要トセル時之レヲ開ク。

現今同行ハ香港本店、倫敦支店ノ外五個ノ支店(Branch)二十六個ノ出張所(Agency)及一個ノ派出所(Sub-Agency)アリ、其所在地次ノ如シ。

支　店　横濱、上海、新嘉坡、マニラ、漢堡

出張所　リオン、紐育、桑港、孟買、カルカッタ、コロンボ、蘭貢、柴棍、盤谷、ペナン、マラッカ、ジョホール、バタビヤ、イロイロ、イボーキユダラムプル、スラバヤ、神戶、長崎、北京、天津、青島、漢口、福州、厦門、廣東

派出所　上海虹口

業　務

(一)爲替業務　本行ノ主要目的ノ一ハ東洋ニ於ケル英國貿易ノ振興ヲ期スルニアリ、而シテコレガ爲ニハ外國爲替業務ハ其最モ主要ナル部分ナルガ、其重要ナル營業區域支那ガ銀本位ナルガ爲ニ、金本位タル英本國其他トノ間ノ爲替相場ハ變動常ナク、爲ニ業務上多大ノ影響ヲ蒙リ時ニ打撃ヲ受クルコトアルト共ニ、又收益ヲ獲ルコト多ク、コレ實ニ同行收益ノ第一ノ源泉ナリトス、尙同行ガ香港本店

及支那各地營業所ニ於テ賣買セル爲替ハ之レヲ世界ノ中心市場タル倫敦及支那ノ中心市場タル上海ノ兩地ニ於テ決濟ス。

(二)預金及貸付　爲替業務ト共ニ預金及貸付業務ガ本行ノ重要業務タルハ他ノ銀行ト同ジ、預金額ハ年々增加ノ狀アリ、其累年比較表次ノ如シ。

香港上海銀行預金貸出高累年比較表

年次	預金				割引及貸付金	
	當座預金	定期預金	計	指數	金額	指數
	弗	弗	弗		弗	
一八六五年	—	—	三、三八四、八七六	一〇〇	三、一四四、四四六	一〇〇
一八七〇年	—	—	八、六五九、一三四	二五六	六、七三〇、六九四	二一四
一八八〇年	—	—	二三、九一五、六八一	六七七	一六、四六三、五五一	五二三
一八九〇年	—	—	三、三五一、二〇〇	二、七五七	六三、八八〇、三三三	二、〇三一
一八九五年	—	—	一二〇、〇五四、三九五	三、五四六	四七、六五〇、七二七	一、五一五
一八九六年	—	—	一四一、五三八、七四四	四、一八一	六三、五六六、三〇五	二、〇二一
一八九七年	—	—	一三一、〇四六、五五八	三、五七六	六一、二五八、五〇二	一、九四八
一八九八年	—	—	一三一、〇一六、八二六	三、八七〇	六四、三六六、二七二	二、〇四六
一八九九年	七八、一七六、三一七	七八、三七〇、一四八	一五六、五四六、四六五	四、六二四	五九、七一三、六三五	一、八九九
一九〇〇年	八五、二四一、二六一	六五、五〇一、二四四	一五〇、七四二、五〇四	四、四五三	七一、二四〇、九八七	二、二六五
一九〇一年	一〇八、九五一、三九一	八〇、八二〇、六四二	一八九、七七三、〇三一	五、六〇六	七四、七二一、四六六	二、三七五
一九〇二年	一一九、七七七、九〇六	一〇〇、九一四、四〇九	二二〇、六九二、三一五	六、五一九	七八、八一三、二〇七	二、五〇六

年次	預金				割引及貸付金	
	當座預金	定期預金	計	指數	金額	指數
	弗	弗	弗		弗	
一九〇三年	九七、一一九、一三三	一〇三、五〇八、五八一	二〇〇、六二七、七一四	五、九二七	八九、九〇〇、一七七	二、八五九
一九〇四年	一一〇、〇六一、一八六	一〇三、八八八、三六三	二一三、九四九、五四八	六、三三〇	八五、六〇一、三九四	二、七二三
一九〇五年	一一五、二九九、八四八	一〇六、六五五、二九一	二二一、九五五、一三九	五、五五七	九一、一四四、一八一	二、八九八
一九〇六年	一〇五、〇二一、九七三	九四、一八七、九一〇	一九九、二〇九、八八三	五、八八五	九三、〇二九、七四六	二、九五八
一九〇七年	一三六、九五六、七五一	九七、一二〇、四一五	二三四、〇七七、一六六	六、六一九	一〇一、五九八、一六五	三、二三一
一九〇八年	一八三、七九三、二五三	一一五、七八五、四四九	二九八、五七八、七〇二	八、八二〇	一一〇、〇七四、六一三	三、八一八
一九〇九年	一五七、九七三、五一一	一一四、四四六、九三三	二七二、四二〇、四四四	八、一四八	一〇八、五〇二、三〇八	三、四五〇
一九一〇年	一四九、四二三、七七八	一一四、六四四、八七二	二六四、〇六八、六五〇	八、八〇一	一二五、二八六、九八三	三、九八四
一九一一年	一七六、七九三、〇八五	一二一、五〇三、八〇一	二九八、二九六、八八四	八、八一三	一三三、〇六四、八八四	三、八八一
一九一二年	一七五、九六〇、九〇七	一一二、四八四、六二〇	二八八、四四五、五二六	八、五一三	一三九、八六九、九四八	四、四四八
一九一三年	一八二、四五七、四七八	一一五、七三三、一八三	二九八、一九〇、六六〇	八、八〇九	一四一、六八四、五二三	四、五〇五
一九一四年	二〇五、二六七、〇七七	一三四、〇四五、一九八	三三九、三一二、二七六	九、七二八	一四一、五六〇、八八五	四、五〇二

備考　一八七〇年ヨリ一八九五年迄ハ六月三十日ニ於ケル數字ヲ示シ其他ハ各年末現在ノ計數ナリ

同行貸出業務ハ創立第一年末ニ於テハ貸出金二百四十萬弗ナリシモノ、一九〇七年以降ニハ一億弗以上ニ達シ、一九〇八年ニハ前年ニ比シ一千八百四十萬弗、一九一〇年ニハ一千六百七十萬弗、一九一二年ニハ一千七百八十萬弗ノ劇增ヲ來シ一九一四年末ニハ一億四千一百萬弗ニ達セリ。

(三)發券業務　本行ハ銀行券發行ノ特權ヲ有ス、而シテ此特權ヲ行使シ得ル地域ニ關シテハ一八六六

年、銀行令第十二條第四項ニ於テ「本令ハ會社ヲシテ殖民地(香港)又ハ現ニ會社ノ營業所ノ設置セラレ若クハ將來設置セラルベキ地ニ於ケル銀行券發行ニ關スル現行法規若クハ將來發布セラルベキ法規ノ適用ヲ除外セシムルモノニアラズ」トノ條項アルヲ以テ同行ガ發行權ヲ行使シ得ベキ地域ハ香港ノ外其他ノ法令ニ於テ之レヲ禁止セザル各營業所所在地ナルモ、現ニ同行ガ銀行券ヲ發行シ得ベキ地域ハ香港、支那、暹羅及海峽殖民地ナリ、而シテ其内香港ニ於テハ他ノ喳打銀行、有利銀行共ニ銀行券發行ノ特權ヲ有スト雖モ、本行ノ發行スルモノ最モ勢力アリ、其額最モ多ク又本行ノミ一弗券發行ノ特權ヲ有ス、又暹羅ニアリテハ盤谷ニ一出張所ヲ設ケ海峽殖民地ニアリテハ新嘉坡ニ一支店ヲ置キ各銀行券ヲ發行スルモ其額多カラズ、支那ニ於テハ南支那一帶ニ於テ其銀行券ヲ發行シ各國銀行ノ發行スルモノニ比シテ最モ勢力ト信用アリ、其銀行券發行高ヲ見ルニ同行創立後最初ニ公表シタル一八六五年ノ貸借對照表ニ於テハ諸預金ト銀行券流通高トノ合計ヲ三百三十八萬弗ト計上セシガ一八九〇年末ニハ銀行券發行高六百十八萬弗ニ、一九〇〇年末ニハ一千二百五十一萬弗ニ、一九一〇年末ニハ一千五百九十萬弗ニ一九一四年末ニハ二千七百二十四萬弗ニ達セリ。

本行ノ發行スル銀行券ハ通常弗(元)ヲ以テ記載セラルルモ、支那ニ於テハ別ニ兩銀券ヲ發行セリ、而シテ其種類弗券ハ百、五十、十、五弗ノ四種、兩券亦百、五十、十、五兩ノ四種トス、但香港ニテハ此四種ノ弗券ノ外一八七二年ノ香港政廳布告ニヨリ一弗ノ小額券ノ發行ヲモ許可セラル。

是等銀行券ハ其發行地ニ於テ所持人ノ請求ニヨリ何時ニテモ其地ノ通貨ヲ以テ兌換セラルベキモノトス、然レドモ其香港以外ノ地ニテ發行セルモノモ、香港本店ハ之レガ兌換ノ請求ニ應ズル義務アルモノナリ、但シ此場合其券面記載ノ金額香港通貨以外ナル時ハ、該券面額ノ兌換請求ノ日ニ於ケル爲替相場ニテ香港通貨ニ換算セルモノヲ拂渡セバ可ナリ、尙銀行券發行ニ關スル諸制限次ノ如シ。

一、發行額ニ關スル制限　英國海外銀行ノ銀行券發行高ハ、總テ其ノ拂込資本額ヲ以テ限度ト爲スヲ通則トセリ、從テ本行ニ於テモ一八六六年銀行令第十三條第一項ニ於テ、發行總額ハ銀行ノ拂込資本金額ヲ限度トスル旨ヲ規定セリ、然レドモ之ニ對シ一ノ重要ナル例外アリ、卽一八九八年七月三十一日以後一箇年ノ期間ヲ限リ、拂込資本金ヲ超過シ銀行券ヲ發行スルコトヲ得ベキモノト爲セルコト是ナリ、此ノ特別規定ノ効力ハ、僅ニ一箇年ニ限ラレタリト雖、後屢延期セラレ遂ニ一九〇七年香港政廳命令第七號ニヨリ、之ヲ一九二九年八月十三日卽香港上海銀行ノ存續期間中延期セラルルコトト爲レリ、然レドモ其ノ期間ノ終了後果シテ此ノ例外規定ノ効力ヲ消滅セシメ得ベキヤ、又ハ更ニ延期ヲ見ルベキヤハ之ヲ知ルベカラズ、然カモ同銀行既往ノ經歷ニ鑑ミ且其實際ヨリ察スレバ本規定ハ其後モ引續キ有効ト見ルヲ當レリトス、但此ノ拂込資本金ヲ超過シテ發行セル部分ニ對シテハ、該超過額ニ均シキ正貨又ハ地金銀ヲ香港政廳ニ預托スルコトヲ要スルモノトス。

右ノ外銀行令第十四條ニ於テ會社債務ノ總額ハ、現ニ存在スル會社ノ確實ナル資產及未拂込株金ノ

合計額ヲ超過スベカラザルコトヲ規定セリ、此ノ規定中會社債務ノ内ニ銀行券流通高ヲ包含スルコトヲ論ヲ竢タザル所ナリ、從テ本規定亦銀行券發行高ニ對スル一ノ制限ト觀ルヲ至當トス。

二、銀行券ノ發行準備　(イ)銀行券ヲ發行スル各營業所ニ於テハ、其ノ發行ニ係ル銀行券流通額ノ少クトモ三分ノ一ニ均シキ正貨及地金銀ヲ兌換準備トシテ保有セザルベカラズ、(ロ)銀行ハ其ノ拂込資本金額ノ少クトモ三分ノ一ニ均シキ貨幣又ハ有價證券ヲ Crown Agent 若クハ其ノ代理者ニ預托スルコトヲ要ス、斯クシテ預托セル貨幣又ハ有價證券ハ銀行券兌換基金トシテ政府之ヲ保管シ、一朝銀行ガ仕拂不能トナリタル場合之ヲ使用スベキモノトセリ、(ハ)上述拂込資本金額ヲ超過シテ銀行券ヲ發行スル場合ニ於テハ、該超過額ニ對シ全部ノ貨幣及地金銀ヲ香港政廳ニ預托スベキモノトス。

三、銀行券ニ對スル株主ノ責任　右述ブル如ク銀行券ノ發行ニ關シ種々ノ制限ヲ設ケタルハ、國家ガ銀行券兌換ノ安全ヲ期シ、其ノ所持人ニ對シ不測ノ損失ヲ被ラシメザラントセシモノニ外ナラズ、固ヨリ銀行券所持人ニ對シテハ銀行ノ總資産ヲ以テ擔保ト爲スノ外、又株主ヲシテ其ノ所有株式金額ノ二倍迄責任ヲ負擔セシムルモノナリト雖、此等ノ保證ハ啻ニ銀行券所持人ニ對スル債務ノミナラズ、其ノ他一般ノ債務ニ對シ亦同一ノ順位ニ於テ擔保タルベキモノナリ、之ヲ香港上海銀行ニ在リテハ一ノ特別ノ制度ヲ設ケ銀行券ノ流通額ニ對シテハ各株主ハ總テ無限ノ責任ヲ負フベキモノト

爲セシコト他ニ類例ナキ處ナリ。

（四）證券業務　香港上海銀行ハ支那ニ於ケル英國ノ投資機關トシテ非常ナル活動ヲナシ、本行ニヨリテ英國ノ資本的勢力ノ支那ニ及ベルコト甚大ナリ、今本行ガ支那ニ於テ引受ケタル公債借款ノ主要ナルモノヲ列擧スレバ次ノ如シ。

一、一八七七年伊犂地方征討費借款　伊犂地方叛徒討伐ノ軍費ニ充ツル爲、政府ハ時ノ江南總督沈葆楨ヲシテ五百萬兩（英貨百五十萬磅）ノ外債ヲ募集セシメタリ、年利一割五分、七箇年内ニ還濟スベキモノニシテ擔保トシテハ浙、粤、江、漢ノ海關收入ヲ以テ之ニ充ツル外、關稅證書ヲ副擔保ト爲セリ、其ノ副擔保タル關稅證書トハ、清國官吏ノ署名捺印セル海關納稅票ニシテ、萬一ノ場合之ヲ海關納稅ニ利用シ得ルノ準備ヲ爲セルモノナリ、右借款ハ全部本行ニテ引受ケタルガ、其借款金額ノ半額二百五十萬兩ヲ支那政府ニ交付スルニ先ダチ、急ニ船ヲ裝シテ之ヲ本國ヨリ送付セシメタリト云ヘバ、以テ同行ノ資力ガ當時尙大ナル能ハザリシ狀ヲ想見シ得ベシ。

二、一八七九年七分利付借款　同年本行ヨリ一千六百十五萬元（英貨三百四十八萬八千四百磅）ノ借入ヲ爲セリト云フモ其ノ詳細ヲ知ルコト能ハズ。

三、一八八五年七分利付借款　起債額英貨百五十萬磅ニシテ、本行ノ單獨引受ニ係ルモノナリ。

四、一八九四年滙豐銀貨借款　本借款ハ日清戰役ノ當時其ノ戰費ニ充ツルタメ、本行ヨリ借入タルモ

ノナリ、起債額庫平兩一千萬兩（英貨一百六十三萬五千磅）、利子年七分ナリ、擔保ハ從來ノ優先權者ニ次ギ、全國海關收入ニシテ、尙關稅證書ヲ副擔保トセルコト前ニ同ジ、期限ハ据置年限ヲ十箇年トシ、一九〇五年ヨリ十箇年內ニ償還セラルベキモノトス、同借欵ハ手取額九十八磅ナリ。

五、一八九五年滙豐金貨借欵　支那ハ更ニ軍費支辨ノ爲メ同年二月再ビ本行ト英貨三百萬磅借入レノ契約ヲ締結セリ利子年六分、手取額九十二磅、償還期限ハ一九〇〇年ヨリ十五箇年トス。

六、一八九六年第一次英獨借欵　一八九六年四月十七日ヲ以テ成立シタル講和條約ニ依リ日淸戰役終局ヲ告グルヤ、支那ハ日本ニ對シ賠償金トシテ講和條約調印後七ケ年以內ニ庫平銀二億兩ヲ仕拂ハザルベカラザルニ至リ、之ガ資金ヲ外債ニ求メントスルニ當リ、英、獨、露、佛等ノ間ニ頗ル激烈ナル競爭ヲ惹起シタル結果、其ノ第一回ノ仕拂ニ對シテハ露佛ハ一八九五年七月六日露佛銀行組合ヲシテ五億法（一億留）ノ借欵應募ヲ契約セシメ、英獨二國ノ競爭ニ打勝ツニ至レリ、該借欵ハ僅々四分ノ低利ヲ以テシ、且露國政府自ラ仕拂保證ニ立チシ等如何ニ其ノ競爭ノ激烈ナリシカヲ知ルヲ得ベシ、斯クノ如クニシテ第一回賠償金仕拂ニ要スル借欵引受ニ關シ、露佛ニ敗レタル英獨兩國ハ直チニ第二回支拂ニ要スル借欵ノ引受運動ヲ開始シ、一八九六年三月七日一億兩（英貨一千六百萬磅）ノ借欵引受契約ニ調印スルヲ得、漸ク當初ノ目的ヲ貫徹スルコトヲ得タリ、卽チ本借欵ハ本銀行及獨亞銀行ノ引受ニ係ルモノニシテ、年利五分、手取額九十四磅、全國海關收入及海關納稅票

ヲ擔保トシ、其ノ第一回一千萬磅ハ同年三月廿七日九十八磅四分ノ三ヲ以テ、殘額五百萬磅ハ同年九月十五日九十九磅ヲ以テ、何レモ倫敦及伯林ニ於テ發行セラレタリ。

七、一八九八年第二次英獨借欵　日清講和條約ニヨリ仕拂未濟ノ償金全部ヲ、一八九八年內ニ仕拂フトキハ、償金ニ對スル利子ノ免除ヲ得ルノミナラズ、威海衞占領ヲモ解除セラルベク、清國ノ體面ヲ保持スルコト少カラズ、之ヲ以テ清國ハ償金殘額ヲ一時ニ皆濟スルノ目的ヲ以テ、外債ヲ募集セントシ之レヲ本行及獨亞兩銀行ニテ引受ケ、同年三月十七日倫敦及伯林ニ於テ千六百萬磅ノ四分五厘利付支那公債ヲ發行セリ、其ノ手取額八十三磅、發行價格九十磅ニシテ、海關收入ノ外又蘇州、松滬、九江、浙東ニ於ケル鹽釐金稅ヲ擔保トセリ。

八、一八九八年京奉鐵道借欵　京奉鐵道ハ本ト清國政府自己ノ資金ヲ以テ敷設ニ着手シ、一八九六年ニ至リ北京塘沽間ノ開通ヲ見ルニ至リ、更ニ延長シテ山海關ヨリ營口新民屯間ノ工事ニ着手シタルモ、當時戰後ノ清國ハ財政窮乏シテ、之ガ資金ヲ出スニ由ナク工事ヲ繼續スル能ハザルニ至リシカバ、英國ハ機乘ズベシト爲シ本行ヲシテ之ガ資金供給ノ契約ヲナサシメントシ、一八九八年六月七日先ヅ清國ト豫備契約ヲ締結セシメ、次デ同年十月十日山海關牛莊鐵道借欵契約成立スルニ至リ、翌年二月二百三十萬磅ノ五分利借欵ヲ倫敦ニ於テ發行スルニ至レリ、是ヨリ先キ露國ハ露淸鐵道ガ同鐵道ニ對シ六十萬兩ノ債權ヲ有シタルヲ口實トシ、極力其ノ破棄ヲ迫リテ止マズ、問題ハ英露兩

國ノ外交問題トナリ、露都ニ移リテ談判數月ノ後、一八九九年四月二十八日有名ナル清國鐵道ニ關スル英露協商ノ締結トナリテ局ヲ結ベリ。

九、一九〇三年滬寧鐵道借款　同借款ハ本行ト怡和洋行トノ共同ニ成レル英清組合ノ代表者トシテ、本行談判ノ衝ニ當リ、一八九八年七月假契約ヲ締結シタルニ、偶々南阿戰爭及團匪事變ノ起ルアリ、爲ニ其ノ後ノ協商遲延シテ、空シク數年ヲ經過シタル後、一九〇三年七月ニ至リ再ビ談判ヲ開始シ、遂ニ同月十日二百九十萬磅ノ借款成立スルニ至レリ、其ノ利子年五分、手取額九十磅ナリ、而シテ右金額中二百二十五萬磅ハ一九〇四年七月其ノ殘額六十五萬磅ハ一九〇六年十一月共ニ倫敦ニテ發行セラレタリ。

一〇、一九〇五年團匪事變賠償金元利償却補充借款　團匪事變賠償金ノ仕拂ニ關シ、清國ハ銀貨仕拂問題交渉中三箇年間ニ亘リ遲滯シタル不足額ニ對シ、年利四分ヲ加算シテ之ヲ列國ニ仕拂ハザルベカラザルニ至リ、一九〇五年遂ニ本行ト一百萬磅ノ借款契約ヲ締結シ、年利五分、九十七磅ヲ以テ之ヲ倫敦ニテ發行シタリ。

一一、一九〇六年九廣鐵道借款　九廣鐵道借款ハ一八九九年假契約ヲ結ビ、次デ一九〇六年三月英清組合ト本契約ヲ締結シタルモノニシテ、英清組合ハ本行其ノ牛耳ヲ把レルモノナリ、同借款金額百五十萬磅、年利五分、手取額九十四磅、倫敦ニ於テ百磅ヲ以テ發行セラレタルモノナリ。

一二、一九〇八年及一九一〇年津浦鐵道借款　津浦鐵道ハ初メ内資ヲ以テ敷設スベキ豫定ナリシモ、後英國資本家ト議シテ二千七百萬兩ノ借款ヲ契約シタルニ、之ニ對シ獨逸ハ山東ニ於ケル同國ノ利權ヲ害スルモノナリトシテ、强硬ナル抗議ヲ提起シタルニヨリ、遂ニ兩國協同シテ之ガ投資ノ任ニ當ルベキノ協約ヲ結ビ、清國ニ要求シテ一八九九年其ノ投資權ヲ得、直ニ工事ニ着手セントセシニ偶々北清事變ノ起ルアリテ目的ヲ達セズ、一九〇八年一月ニ至リ本行トノ間ニ五百萬磅ノ借款ヲ締結シテ工事ニ着手シ、其後一九一〇年四百五十萬磅ノ第二次借款契約ヲ締結シタリ、第一次及第二次借款ノ利子共ニ年五分ニシテ倫敦及伯林ニ於テ發行セリ。

一三、一九〇八年滬杭甬鐵道借款　本借款契約ハ一九〇八年三月成立ヲ見ルニ至レルモノナリ、其ノ金額百五十萬磅、利子年五分、手取額九十三磅ニシテ、引受者ハ本行其他ノ合同ニナレル英清組合ナリトス。

一四、一九〇八年京漢鐵道買收借款　京漢鐵道ハ初メ白耳義「シンジケート」ヨリ資金ノ供給ヲ得テ之ヲ敷設シタルモノナリシガ、清國政府ハ該借款据置期限ノ經過シタル後、新ニ本借款五百萬磅ヲ募集シ、前記白耳義「シンジケート」ノ借款ヲ償還セリ、卽チ本借款ハ本行及印度支那銀行ノ引受ニ係ルモノニシテ、利子年五分、手取額九十四磅トシ、倫敦及巴里ニ於テ之ヲ發行セルモノトス、而シテ前述借款償還ニ對シ不足シタル部分ニ就テハ、度支部及大清銀行ヨリノ借入金ニ賴ル外、又日、

英、佛、獨、各銀行ヨリ一時借入ヲ爲シ之ニ充テタルモノニシテ、香港上海銀行モ之ニ對シ三百萬兩ノ貸付ヲ爲セリ。

一五、一九一一年粤川漢鐵道借欵　粤漢鐵道ハ初メ米國支那開發會社ヲシテ資金ヲ供給セシメ、敷設ニ着手シタルニ露佛兩國ハ私カニ白耳義「シンジケート」ノ假面ノ下ニ其ノ株券ノ過半ヲ買收シ、事實上同會社ハ露佛ノ手中ニ收メラルヽニ至リシヨリ、時ノ總督張之洞ハ本鐵道ノ實權亦遂ニ外人ノ手ニ歸センコトヲ恐レ、一九〇五年米國支那開發會社ニ賠償金六百七十萬弗ヲ支拂ヒ之ヲ囘收シ、內資ヲ以テ之ガ敷設ヲ計リシモ資金ノ募集意ノ如クナラズ、到底之ガ成立ヲ期スルノ見込ナカリシカバ、此ノ事件ニ關係ナカリシ英國ヨリ一百五十萬磅ノ借入ヲ爲スベク、本行ニ諮リタルニ、(一)自今南淸ニ於テ他國ノ鐵道鑛山ニ關スル利權ヲ要求スルモノアレバ必ズ之ヲ英國ニ諮ルコト、(二)自今淸國ガ南淸ニ於ケル鐵道敷設及鑛山採掘ヲ計畫スルトキハ、英國ノ資本ヲ用フベキコトノ條件ヲ付セントセシヨリ、容易ニ契約成立スルニ至ラズ、然ルニ一方ニ於テ獨亞銀行ノ暗中飛躍効ヲ奏シ英ニ代リテ資金供給ノ約正ニ成ラントシタリシカバ、英國資本家ハ佛ノ資本家ト共ニ之ニ對抗シ、英獨佛ノ競爭最モ激烈ヲ極メタリ、加フルニ支那人民ノ反對甚シク交渉モ其ノマヽ中止ノ姿トナリタルニ、一九一一年ニ至リ漸ク英獨佛資本家ヲ代表セル本行、獨亞銀行、印度支那銀行ノ外更ニ米國資本團ヲ加ヘ之ト支那政府トノ間ニ借欵契約ノ成立ヲ見ルニ至レリ、其ノ金額六百萬磅、

手取額九十五磅利子年五分、倫敦、伯林、巴里及紐育等ニ於テ發行スベキモノニシテ、尙同鐵道敷設費ニ不足ヲ生ジタル時ハ、本契約ト同一ノ條件ヲ以テ、更ニ四百萬磅以內ノ第二次借欵ニ應ズベシトノ條件ヲ附セリ。

一六、一九一三年善後借欵　中華民國ノ成立以來久シク懸案タリシ本借欵モ幾多ノ曲折ヲ經テ、一九一三年四月日、英、露、獨、佛ヨリ成ル五國資本團ト、支那政府トノ間ニ契約ノ成立ヲ見ルニ至レルモノニシテ、本行ハ英國ノ資本家ヲ代表シテ之ニ調印セリ、其ノ金額二千五百萬磅、利子年五分、手取額八十四磅ニシテ、全國ノ鹽稅ヲ擔保トス、尙本借欵ノ用途ハ公債ノ償還、軍隊解散、鹽政改革其他一般行政費等ニ使用セラルベク此等ノ借欵用途ヲ監視シ且ツ鹽政ヲ監督セシムル爲、各國ヨリ顧問ヲ傭聘スベキモノトセル等ノ條件ヲ附セリ。

一七、南京政府公債　第一次革命ニ南京政府成立ノ際市場救濟資金トシテ獨亞銀行、東方滙理銀行ト共ニ三百萬兩ノ借欵ヲ引受ケタリ。

一八、湖北省外債　一九〇九年湖北省外債五百萬兩ヲ引受ケタリ。

一九、湖北省銀貨外債　一九一一年獨亞、印度支那、花旗各銀行ト共ニ湖北省外債二百萬兩ヲ引受ケタリ。

二〇、招商局社債　一九一一年南京政府ノ政費不足セル爲招商局社債ノ名ヲ以テ百五十萬兩ノ借欵ヲ

引受ケタリ。

二一、上海市場救濟借欵　一九一〇年上海市場ノ恐慌救濟ノ爲ノ借欵三百五十萬兩ヲ他ノ九銀行ト共ニ引受ケ、本行ハ其内八十萬兩ヲ分擔セリ。

二二、上海商務總會公債　一九一二年該公債二百萬兩ヲ引受ケタリ。

營業成績

本行最近ノ營業成績ヲ示ス爲ニ、一九一七年二月二十三日香港シチーホールニ開催セラレタル其年次株主總會ニ於テドッドウエル氏ノ議長トシテ報告シタル一九一六年度ノ營業狀況ヲ示スベシ。

▼收益處分　昨年度ノ純益ハ前年度ヨリノ繰越三、一六六、五七八弗八五ヲ合シテ、九、八二〇、一八〇弗三三ニ達シ、非常ノ好成績ヲ示セリ、而シテ八月ニ支拂ヘル上半期配當（二志六片二五替ニテ）、及重役報酬三萬弗ヲ控除シタル殘額、七、七四三、二三八弗一八ハ、之ヲ左ノ如ク處分セリ、卽チ下半期配當一株ニ付キ二磅三志、更ニ一株ニ付キ特別配當一磅（所得稅ヲ控除スルモノトス）、合計昨年度ノ株主配當ハ六十三萬六千磅（一株ニ付キ五磅六志）トナル、後期配當及特別配當ハ、三志爲替ニテ支拂ハルベキモノトシ、之等ヲ差引キタル殘額ハ之ヲ

銀行準備金　　一、〇〇〇、〇〇〇弗〇〇

銀行資產償却勘定　一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇
次年度勘定ニ繰入　三、二二三、二三八、一八

ノ如ク處分シ、重役ニ於テハ、切ニ特別配當ノ增加ヲナシ得ルコトヲ、常ニ希望シ居ルモノニテ、今回ハ十志ノ增加ヲナシテ、一磅ノ特別配當ヲナシ得タルヲ歡フ、サレド株主諸氏ハ、特別配當ハ其額時ノ事情ニヨリテ、增減不定ヲ免レ難キモノナルコトヲ記臆セラルルヲ要ス、一九一七年ノ配當支拂額ハ、前年度ニ比シ、六萬磅多シト雖モ、弗計算ニ於テハ銀高ナリシタメ却テ前年ヨリ尠シ。

銀準備ハ今回加ヘタル一百萬弗ヲ合セテ、一千九百五十萬弗ニ達シタルガ、該資金ハ時ノ進ムニ從テ、引續キ增加シ得ベシト信ズ、今日迄各種ノ異變ニ對シテ、充分ナル準備ヲナシ來レルハ、諸氏ノ均シク賢明ノ方法ナリト賛同セラルベキヲ確信ス、銀行資產勘定ノ償却準備ニ、一百萬弗ヲ用意セルガ、之ハ昨年ノ資產經費ノ約九割ニ相當ス、而シテ經費支出ハ、依然多キヲ以テ、評價ハ充分確固タルモノナルハ説明スル迄モナシ、諸氏ノ前ニアル數字ハ自ラ諸氏ノ利益ノ良好ナリシヲ示シテ餘ス所ナカル可シ、而シテ行員（ハンブルグ支店ヲ除キ）ニ對シ、昨年給料二割ヲ賞與トシテ支給スルハ、諸氏ニ於テ何等異議ナカルベシト思惟ス。

▼職員ノ不足　總テ他ノ英國銀行及商社ト同樣、本銀行モ亦職員ノ不足ニ苦シミツヽアリ、而シテ事務ニ於テハ、何等ノ減少ナカリシヲ以テ（事實或ル場合ニ於テハ却テ以前ヨリモ增加シ居レリ）勢ヒ行

員ニ劇務ヲ強ヒ、何レモ多大ノ過勞ニ在リト雖モ、去リトテ寸暇ノ休養モ融通スルコト至難ニシテ、事態頗ル困難ノ現狀ニ在リ、且ツ今後ト雖モ尙當分何等回復ノ模樣ナキモノヽ如シ、サレド吾人英國人ハ、總テ現在ノ如キ時ニ於テハ、各自獻身的奉公ヲナサザル可カラザルヲ自覺スルガ故ニ、行員ハ何レモ衷心ヨリ、進ンデ劇務ニ當ルヲ望ムモノナルコトハ、信ジテ疑ハズ、昨年中戰線ニ活動シテ、殪レタル我ガ行員數名ノ死ヲ報ゼザル可カラザルヲ、深ク遺憾トス、戰爭勃發以來本行ヨリ從軍シタルモノニシテ、各地ノ戰場ニ於テ戰死セルモノ二十八名ニ達スルガ、我等ハ之等戰死者ノ遺族ニ對シテ滿腔ノ同情ヲ寄スルモノナリ。

▼貸借對照表　バランスシートニ於ケル數字ニ關シテハ、餘リ說明ヲ要スベキモノナシト思考ス、即チ爲替ハ其ノ重要ナルモノニハ非ズ、金當座勘定及定期預金ハ合計前年ノ一〇、八〇〇、〇〇〇磅ニ對シテ九、八四〇、〇〇〇磅ニ減ジタレドモ、銀當座勘定ハ一億八千七百五十萬弗ニシテ、昨年當時ヨリ三千四百萬弗多シ、銀定期預金ハ、六千一百萬弗ニシテ四萬弗少シ、銀當座勘定及銀定期預金ノ項目下ニハ、從前銀本位ニアリシモノニシテ、多年ノ間一定ノ或ル爲替基礎ヲ建テ來レル、諸國ノ數字ヲ含メルモノナルヲ以テ、從テ「銀」ナル名稱ハ正當ニアラズ、而シテ斯ク金ト銀トノバランスヲ各別々ニ表示セントスル、從來ノ方法（過去ノ遺物タル）ヲ廢止センコトハ、吾人ノ意嚮ナルコトヲ指摘ス、將來ハ單一價額ノミニテ、表ハス事トスベシ、即チ定期預金及當座勘定ニ對シテ、弗合計ヲ以テ表ハ

スベク、斯クスルハ決算報告作製上最モ適當ノ方法ナリ●

手形ノ流通額ハ、前年合計ニ比シ四百二十五萬弗少額ナレドモ、支拂手形ハ約五百五十萬弗ノ增加ヲナセリ、右支拂手形ノ增加ハ、主トシテ海外郵便物ノ遲緩ナルタメ、從テドラフト需要額、更ニ多カリシニ原因スルモノナリ、決算ノ他ノ方面ニ於テ、現金（紙幣發行勘定トシテ香港政廳ニ預ケアル一千五百五十萬弗ヲ含ム）ハ、前年度末ノ六千一百萬弗ニ對シ、今年ハ約八千四百萬弗ニ立テリ、金銀塊ノ手元及航海中ノモノヲ合セ、其有高ハ全ク變動ヲ示サズ、有價證券有高ハ、投資增加セルタメ、少ク前年度ヨリ多キガ、之等ハ總テ安全ナル程度ト思考セラルヽ迄ニ、價格ヲ書下ゲタリ、準備金一百五十萬磅ハ、今ヤ全ク英國政府ノ五分利戰時公債ニ投資セラレ、帳面ニハ九五ノ發行價格ニテ記載シアリ、割引手形、貸付金及信用貸ハ前年貸借對照表ニ於ケルヨリモ、約一千四百萬弗少ナク、受取手形ハ約二百五十萬弗多シ。

倫敦ニ於テハ昨年度ヲ通ジテ金融潤澤ニシテ英蘭銀行ハ、利率ヲ一九一七年一月十八日六分ヨリ五分五厘ニ引下ゲ、四月更ニ五分ニ引下ゲタリ、爾來利率ハ五分ニ釘付ケセラレ來レルガ、市場ニ於ケル三ケ月手形ノ割引率ハ、上半期平均四磅十六志七斤（%）、コール貸四磅十一志（%）ニシテ、兩者間ノ差異ハ餘リ多クノ利潤ヲ許サズ、而シテ爾來割引步合ハ四分七厘五毛ニテ offer セラレタル大藏證券ノ競爭如何ニ依テ決セラルヽ、這ハ支持セラルベキ模樣ノ狀態ナリ、該證券ハ吾人ノ不平ヲ挿ム可キ程

ノ無力ノモノニハ非ズ、爾來大藏證券ノ歩合ハ、三分五厘ニ低減セラレ、總テノ期限手形ニ對スル割引率ハ、$3\frac{5}{8}$%ニ引下ゲラレタリ、戰時ニ在リテハ、國家ノ財源ヲ吸收シ、一方國民亦國家ノ此目的ノ爲メニハ、極力盡瘁スルヲ要スルハ、一般既ニ自覺スル所ニシテ、此際我國財政ヲ政府ノ手ニ集中スルノ必要アリ、吾等ハ銀行業者トシテ、之ト協力スルノ準備ヲナシ來レルト共ニ、吾人ガ出來得ル限リ、政府者ノ管理ヲシテ効果多カラシムルニ努メツヽアリ、此財政政策ハ我ガ聯合與國ニモ及ブニ於テハ、更ニ其ノ効果ノ大ナルハ、否ム可カラザル所、最近英蘭銀行ト合衆國聯邦準備銀行間ニ設ケラレタル、一層密接ナル關係ハ、倫敦及紐育ノ金融市場ヲ共通セシメ、且ツ相互孰レノ國ニ於ケル、現金準備金ハ、他ノ國（二者ノ一國）ニ於テ、信用貸出ノ基礎ヲナシ得ルノ方法ニテ、兩者ノ財源ヲ集中スル等ニテ、實際ニ於テ既ニ兩國ニ最大ノ利益ヲ與ヘツヽアルガ、戰時財政ノ異常ナル場合ニ依テ誕生ヲ見タル、之等有力ナル方法ハ、益々平時ニ於ケル國際貿易ノ財政ノタメ、更ニ永遠ノ按配ヲナスノ基礎ヲ造ルモノナリト謂ヒ得可シ。

▼銀相場　交戰各國擧テ信用手形ノ發行、莫大ノ增加ヲナセルニ基キ、信用貸付ノ膨脹セルト銀需用諸國、殊ニ印度ノ生銀需要甚ダ旺盛ナリシヨリ銀相場ハ昇騰ノ外ナカル可シトハ、一般ニ期待セラレタル所ナリシガ、昨年ヲ通ジテ、銀相場ハ三月ニ於ケル三十五片十六分ノ十一ヨリ、九月ニ於ケル五十五片ノ間ヲ往來シ、其最高最低ノ差ハ一オンスニ付十九片十六分ノ五ナリ、一月一オンス三十六片

ノ相場ハ漸次昇騰シテ九月ノ五十五片迄進ミシガ、此相場ニテハ印度ニ於ケル留比ノ銀分、海峽殖民地ニ於ケル弗ノ銀分、及日本ニ於ケル圓ノ銀分ハ、之等諸國ノ金爲替本位ノパリティーヲ超過セルヨリ、銀貨ヲ鑄潰シ、銀塊トシテ賣却スルモノヲ生ジタルヲ以テ、之等諸國ニテハ各其ノ通貨保護ノタメ、法律的行動ヲ取ルノ必要ニ迫ラレ、聽テ印度、日本、海峽殖民地及暹羅、並ニ英吉利、米國等夫々銀ノ輸出ヲ禁止スルニ至リ、爰ニ眼前ニ迫レル危險ヲ未然ニ防止スルヲ得タリ。

銀相場ノ低落ハ、其騰貴ヨリモ更ニ急速ニシテ、神經質的ノモノナリキ、九月二十五日最高點ニ達シタル時ヨリ、相場ハ僅々四日間ニ六片ヲ下落セリ、其後ノ月ハ、多大ノ動搖相繼ギ、十月三十日ニ於ケル三片ノ昇騰ハ一日ノ上伸トシテハ一八九三年以來ノ最高記錄ナリ、サレド一般ノ傾向ハ、下押シヲ辿リテ推移シ、四十三片半ヲ最後ノ相場トシテ昨年ヲ鎖シタリ。

一九一七年中、支那ニ輸入シタル銀額ハ、二千三百萬オンスニシテ、輸出ハ五千四百萬オンス、即チ差引キ支那ニ於ケル在銀高ハ、昨年中ニ三千一百七十五萬オンスヲ減ジタル譯ナリ、サレド近キ將來ニ於テハ、支那ヨリサシテ多額ノ銀輸出ハナカルベク、現在ノ模樣ニテハ多額ノ銀輸入ヲ要セザルヲ示スモノ、如シ、支那爲替ハ此間概シテ愼重ノ注意ヲ拂ハレタリシト雖モ、結局銀ノ不規則ニシテ、急激ナル動搖ニ附隨シテ、昨年ヲ經過セリ。

▼支那ニ於ケル貿易　爲替ノ動搖、政治的紛擾、洪水船腹ノ不足及不定等、幾多不良材料ノ下ニ、昨

年ヲ通ジテ行ハレタルニモ拘ラズ、支那ニ於ケル貿易ハ大體ニ於テ、内外商人共ニ滿足ナルモノナリキ、世界ノ原料品產額ハ、今ヤ全ク世界ノ必要ヲ滿スニ足リ、又中部及北部支那ノ生產品―穀類、棉花、羊毛、油、皮革等―ノ需要ハ、爲替、運賃及保險ガ、更ニ高率ナルニ拘ラズ、依然支持セラル可キハ驚クニ足ラズ、從前爲替ノ高率ハ、支那ヨリノ輸出ヲ削減シタレドモ、一九一七年ニ於テハ然ラズ、歐洲及亞米利加ノ買入ハ、支那人側ノ要求スル相場ヲ支拂フヲ得タリ、而シテ戰前單ニ歐洲ニノミノ市場ヲ有シタル支那產品ガ、米國ニ多量ノ消費ヲ見ルニ至レルコトモ、亦注意ニ値ス、其結果支那商人ハ、自國生產品ノ多クニ對シ、過去多年ノ間經驗シ來レル場合ニ比シ、更ニ高値ノ相場ヲ受クルニ至レルガ故ニ、彼等支那人ハ、輸入品ニ對シテモ、從前以上ノ高値ニテ購買スルヲ得タリ、而シテ供給市場ニ於テ、經驗セル困難ヲ想ヘバ、織物其他輸入品ノ貿易ハ滿足ナルモノナリキ。

▼賞賛ニ値ス　既ニ戰爭狀態ニ依テ、著シク增加シタル商品ノ貿易ヨリ、離去シ能ハサル危險ト困難トハ、益々其度ヲ强メ來リ、商業及銀行業家ハ、何レモ其使用人減少セルヲ以テ、國家ノ業務遂行上過分ノ執務ヲナシ、戰爭遂行ニ對スル必要供給ヲ支持スル上ニ於テ、又同時ニ財政上ノ困難ヲ解除スル上ニ於テ、非常ノ努力ヲ致シ來レリ、彼等ノ勤勞ハ、全ク戰爭ト異ルナク、最モ熱誠ナル愛國心ヨリ迸出セルモノタルハ、否ム能ハザルモノナリト信ズルガ、之等ハ其努力ノ成功ト共ニ、酬ヒラレタルナリ、而シテ依然殘レル者、卽チ戰線ニ立タントト欲スル自然ノ衝動ヲ、此最善ノ理由ノタメニ抑制

シタル者ハ、彼等ガ夫々此巨大ナル困難(大戰)ノ幾分ヲ各自ニ負擔シツヽアルヲ感ズルノ權利ヲ有スルモノナリト思考ス、又余ハ總テ商業ニ携ハル者ハ、啻ニ我ガ貿易通路ノ安全ヲ保護スルモノニ對シテノミナラズ、確固不拔ノ精神ヲ以テ、進ンデ之等貿易航路ノ危險ニ逬メル、豪雄ナル諸士　總テノ聯合國ノ商船　ニ對シテモ、一大感謝ノ負債ヲ負フモノナリト信ズルナリ。

▼爲替ノ地位　印度ニ於ケル爲替狀態ハ、昨年ヲ通ジテ何等ノ恢復ヲ示サズ、コンソルスノ割當率ハ一志四片三十二分ノ三十一ニ昇騰セルガ、之ハ現在ニ於テハ印度爲替ノタメ一定ノ基礎ニアリ、印度ニ在ル各種英國爲替銀行ニ依ル、國家的必要ノ輸出ノ財政ハ、彼等ヲシテ極東ヘノ印度爲替、及貿易方面ニ障礙ヲ及ボスベキモノヽ取扱餘地ヲ與ヘザリシモ、大體ニ於テ印度貿易ハ頗ル活況ヲ呈シ、且ツ輸出品相場高値ナリシヲ以テ、地方人民ハ良好ナリシニ相違ナク、留比貨ノ吸收ハ再ビ莫大ノ額ニ達シタリ。

一九一七年ノ日本ノ外國貿易ハ、總テ從前ノ記錄ヲ超越シ五億八千九百九十二萬三千圓ノ輸出超過ニシテ、前年出超ニ比シ、二〇三、七一三、〇〇〇圓ノ多キヲ示セリ、卽チ合計數　輸出一、六八三、八七〇、〇〇〇圓、輸入一、〇九三、八五七、〇〇〇圓ニシテ、前年ニ比シ輸出四割二分、輸入三割七分ノ增加ニテ輸出入合計ニ於テハ七億九千八百萬圓、四割ノ增加トナル、斯カル輸出大超過ハ昨年當初九ケ月間、米國ニ於ケル自由金市場ト相俟テ、日本ノ正金有高ニ非常ナル大增加ヲ來シ、今ヤ合計十一億

二千萬圓ニ達シ、一年前ニ比シ四億一千一百萬圓多ク、右正貨ノ約半額ハ日本ニ、他ノ半額ハ海外ニ貯藏セラル、此ノ日本ノ一大好景氣ハ、彼國ヲシテ其外債ノ一部ヲ償還セシメ、聯合國ニ相當ノ貸付ヲナシ得セシメタル外、更ニ其鐵道及其他公共事業ノ開發及改善ニ對シ、便利ナル條件ヲ以テ貸付ケヲナサシメ得タルナリ。

▼支那ニ於ケル重要ナル出來事　此年卽チ戰爭第四年ノ、昨年中ノ事件ニシテ、支那ニ取リ最モ重大ナル二個ノ出來事アリ、余ハ玆ニ其ノ概要ヲ述ベンカ。

北米合衆國及日本ノ間ニ交換セラレタル文書ニ依リテ、支那ニ於ケル日本ノ特殊ナル利益ヲ承認セラレ、支那ノ保全及其門戸開放ハ更ニ確認セラレタリ、此日米國ノ公明正大ナル意見ノ交換ハ、關係列國ノ滿足ヲ受ケ、爲メニ從來兎角之等東洋二大國ノ疎遠ヲ釀成シ來レル疑惑ト誤解ノ空氣ヲ一掃シ、且ツ將來日米相提携シテ、對支國際貿易ノ發展上ニ、機會均等ノ保全ニ盡力スベシトノ保證ヲ與ヘタリ。

一九一七年八月十四日、支那ハ獨逸ニ宣戰ヲ布告シテ、形式上協商側ニ左袒シ、支那ガ旣ニ聯合側ニ與ヘタル、物質的援助ハ、實ニ尠少ノモノニアラザルナリ、卽チ陸上ニ於テハ、支那人勞働隊ハ、戰線ニ價値アル業務ヲ致シ、海上ニ於テハ我ガ商船ノ乘組員トシテ、供給品ノ輸送ニ少ナカラザル援助ヲ與ヘタリ、吾等ハ其物質上ノ重大ヲ超越セル、德義上ノ意義ヨリ、支那ヲ祝福スルモノナリ、吾

等ノ戰爭ハ一大精神的鬪爭、卽チ各國ハ其大ナルモ小ナルモ、共ニ各其國自己ノ目的ヲ達センガ爲メニ、又其國自己ノ豫定ノ宿命ヲ貫徹センガ爲メニ、而シテ其人民ノ天稟ニ適應シテ、其國自己ノ文明ヲ創造センガタメニ、其思想ト權利ノタメノ戰ヒナリトノ自信ハ、愈々深刻トナリツヽアリ、我ガ敵國側ニ於テモ認メ居ルガ如ク、戰爭ノ背景ヨリ一萬哩ノ海洋ヲ距テヽ、其沿岸ヲ脅カサルヽコトナク、其國政ニ抵觸セラルヽナキ、一舊國ノ人民ガ徐ロニ熟慮ヲナシタルノ末、彼等ノ立場ヲ協商側ニ寄セ、且ツ我々ノ利益ハ直ニ彼等ノ利益タル可キ所信、及ビ人間自由ノ生命ナクシテハ、歐洲ニ於ケルガ如ク、支那ニ於テモ到底堪ヘラルベキモノニ非ズトノ確信ヲ聲明スルノ時、我ガ聯合側ハ一大强味ト、勇氣ノ增加ヲ受クルハ、否ム可カラザル事實ニシテ、之ハ賢明ニシテ勇氣アル決斷ナリ、余ハ支那政府ガ、支那自國ノ爲メ、將又聯合各國ノ利益ノ爲メ、依然支那領土內ニ在住セル、總テノ敵國人民ヲ、內地ニ抑留スルカ、或ハ放逐スルカノ方法ヲ直ニ取ランコトヲ切望ス、聯合國及中立國ニ於テ、獨逸人ニ依ツテ行ハレ、而カモ其ヲ默過セラレタル暴行ハ、危險モ甚シキモノニシテ、獨逸人ノ如キ、斯ル野蠻ニシテ不法ナル敵人ニ、自由ノ行動ヲ許スノ危險極マルコトヲ敎ヘテ餘ス所ナキハ、之等幾多ノ事實ガ自ラ立證スル所ナリ。

▼支那昨年ノ財政狀態　財政上ノ一點ヨリ觀レバ、昨年ハ支那ニ取リテ、前年ヨリモ更ニ好狀態ニアリタリ、一九一七年ノ、海關收入ハ三千八百十七萬七千海關兩ニシテ、之ヲ四志三片十六分ノ三ノ平均

爲替率ニテ、磅ニ換算スレバ、六、二六四、四九六磅トナル、戰時狀態ノ逆調、及船腹不足ニヨリ、支那貿易ガ多大ノ障礙ヲ蒙リタルヲ考フレバ、此海關收入ノ增加ハ、爲替ガ非常ノ高率ナリシニ因ル、金換算額ノ夫レヨリモ、更ニ著シキ成績ト云フ可シ此爲替ノ非常高ナリシタメ、好都合ナリシハ、昨年中ノ海關收入ハ、啻ニ之ヲ擔保トスル各種借款ヲ支拂ヒ得タルノミナラズ、拳匪事件賠償金ノ全部ヲ支拂ヒタリ、而シテ下半六ケ月ニハ、借款協約ノ特別規定ニヨル、追加借款ノ支拂ハ、關稅收入ノ餘剩ヲ以テ之ニ當テタリ、之等總テノ負債支拂ヲナシタル後、尙ホ一千萬海關兩ノ餘剩アリ、其ノ內二百萬兩ヲ八月支那政府ニ融通シ、餘剩ヲ曾テ拳匪賠償金支拂不足ニ一時融通ヲ受ケタル、鹽稅收入勘定中ニ支拂ヒタリ、海關收入ノ數字ニ就テ、興味アルコトハ、上海、天津、漢口及ビ南方諸港ノ一二ノ海關收入ハ、若干ノ減少ヲ示シタレドモ、哈爾賓、安東及大連ハ、相當ノ增加ヲ示シ、大連及ビ安東ノ二者ハ最高記錄ヲ造リタルコトナリ。

昨一九一七年中銀行團ニ支拂ハレタル鹽稅純收入ハ、七〇、六八二七、二四九弗ニ達シ、其レヨリ一切ノ支出及定期積立一千萬弗ヲ控除シタル殘額六八、六一三、三七〇弗(海關收入ヨリ返濟ヲ受ケタルモノヲ含ム)ヲ、支那政府ノ自由使用ニ引渡シタリ、然リト雖モ爰ニ注意スベキハ、昨年中徵集セラレタル鹽稅收入中、約八百萬弗ハ、或ル諸省カ鹽稅行政權、並ニ中央政府ノ權限ヲ無視シテ、勝手ニ彼等自身ノ必要ノ爲メニ流用セラレタルコトナリ、斯ノ如キハ實ニ秩序ヲ紊亂スルモノニシテ、中央政

府ノ管理ガ遠隔ナル地方諸省ノ上ニ有力ナラズ、各種ノ口實ヲ設ケ居ル、彼等ノ獨立自治ヲ許シ居ル限リハ、此種行爲ハ確ニ繼續セラレ更ニ其弊害ヲ増長スベシ、サレバ支那政府ハ宜シク此ノ種國庫ノ主要收入ニ、影響ヲ及ボス問題ニ對シテ、嚴密ナル注意ヲ拂ハンコト、吾人ノ切望セザルヲ得ザルモノヽ一ナリ。

然シナガラ幸ニシテ銀爲替高ナリシト、其二大收入行政（關稅及鹽稅）ノ能率宜シカリシヲ以テ、支那ハ昨年下六ケ月中殊ニ協商側ニ立チテ參戰シ、新タニ重大ナル責任ヲ負ヒタル瞬間ノ如キ、財政ノ豐裕ナリシコトハ、曾テ見ザル所ナリ、聯合側政府ハ拳匪賠償金支拂ヲ、五ケ年間延期（但シ露國ノ分ハ三分ノ一ダケ）スルニ同意シ、以テ支那參戰ニ酬ユルコトヽセルヲ以テ、之ニ依リ支那ハ、一ケ年二百萬磅以上（獨逸及墺地利ノ賠償金ハ國交斷絕ニヨリ支拂ヲ停止サレタレバ之ヲ含マズ）ノ融通ヲ得ル譯ナリ、加之支那ハ、目下其關稅現實五分引上ノ件ニ就テ、協商國委員ト協議中ナレバ、之レ亦軈テ國庫收入ニ相當多額ノ増收ヲ來スベシト期待セラル、支那ノ國庫收入ハ、鐵道ニ依リテモ亦緩漫ナガラ、漸次増加シツヽアリ、其鐵道中最モ早ク開ケタルモノ—滬寧鐵道—ハ、今ヤ收支相償ヒ、尙餘剩ヲ示ス狀態ニアリ、一切ノ經常費ヲ（其金貨負債利子ヲ含ム）控除シテ、一九一六年ノ決算ハ、約一萬七千磅ノ餘剩ヲ示シタリ、故ニ今日戰時財政ノ束縛ニヨリ、一時中止セラレ居ル、其他ノ鐵道モ速ニ工事ヲ竣成シ、施スニ遺憾ナキ經營法ヲ以テスレバ、滬寧鐵路同樣ノ成績ヲ擧ゲ得ラルベシト

痛切ニ感ズル次第ナリ。

財政ニ關シテモ將又其外國關係ニ於テモ、共ニ斯ク有利ナル狀態ナルニ對シ、一方支那ノ內政ガ全ク革命戰爭ノ域ニ達セルノ嘆カハシキ狀態ニアル爲メ、之等好材料モ尠ナカラズ之ト相殺セラレザル可カラザルヲ認ムルハ遺憾ニ堪ヘザルナリ、各黨首領、督軍及各階級ノ政客ハ、各自己ノ民主政府ノ理想ヲ有シテ地位及勢力上ノ混亂ヲ來シ、其結果中央政府ハ之等反對者ノ鎭壓トシテ地方督軍ヨリ各自自由ノ經費ヲ强請セラレ、以テ此政治的軋轢ヲ調停セントスルノ現狀ニアリ、之等ハ支那ノ將來ニ就テハ、其勤勉ナル人民ト、富裕ナル自然ノ財源ヲ有スル支那ハ、戰後世界ノ經濟戰場タルベキ運命ヲ有スルヲ知ルト雖モ、露西亞ノ事例ハ能ク久シキ紛擾ガ、果シテ何ヲ導クカヲ示シテ遺憾ナキヲ以テ、支那政治家ハ能ク前者ノ覆轍ニ鑑ミ、更ニ其見解ヲ大ニシテ國家ノ利益ニ立脚シテ、行動センコト吾人ノ切望ニ堪ヘザル所ニシテ、然ルトキハ支那ハ之等政治家ニ俟ツ所頗ル多カルベシ。

▼支那ニ於ケル幣制改革　之等總テノ國內紛擾ハ中央政府ノ威信ニ係ルモノナルガ、更ニ目前差當リ改善ヲ要スベキ二大問題アリ、卽チ幣制ノ改革ト、二政府銀行ノ業務ノ復權ナリ、之等兩銀行ノ北京ニテ發行セラル、紙幣ノ價格ハ、其銀行準備金ガ政府ニヨリ絕エズ多額ニ需要セラレタルタメ、過去數ケ月急激ナル暴落ヲナシ、其額面價ノ約六割トナレリ、目下右兩銀行ニ對スル支那政府ノ負債ノ大部分ヲ、六分利付短期公債四千八百萬元ヲ、政府ヨリ兩銀行ニ發行シテ、之ヲ補償スルコトヲ協定

セラレタリ、之等公債ハ、支拂ヲ延期セラレ、總稅務司ノ手ニ保留セラルベキ賠償金ヨリ得ントスルモノニテ、總稅務司ニヨリ半年毎ニ抽籤ニ從テ兩銀行ニ償還セラル、モノナルガ、此協定ニヨリ兩銀行ガ、直ニ其北京紙幣ノ現銀兌換ヲ行ヒ以テ日ヲ逐ウテ信用及營業共ニ、益々地ニ墜チツ、アル境地ヨリ脫シ得ンコトヲ望ミテ止マズ。

貨幣ニ關シテ其標準、及ビ改革案ハ、更ヘテ財政總長ヨリ銀行團ノ手ニ提出セラレタリ、該案ハ現時ノ戰爭狀態ニアリテハ、直ニ實現ヲ許シ難キモノナリト雖モ、此至急ヲ要スル改革法ニ對シ、支那政府ガ重要ナルモノトシテ、着手シツヽアルノ事實ヲ示スニ足ル、而シテ此支那政府ト銀行團トノ協同熱議ニヨリ、或ル實際ノ成案ヲ結果シ、事情ノ許ス限リ、速カニ實行セラレンコトヲ望ム、支那國家ノ信用ヲ確保シ、其埋藏セル富源ヲ開發シ、其人民ノ福利ヲ增進スル上ニ於テ、幣制改革ハ實ニ最急ヲ要スルモノタルナリ。

▼戰爭義捐　諸君、余ハ本銀行ガ今年ノ香港戰時寄附資金ニ向テ、五萬弗ノ義捐ヲナシタルニ對シ、諸君ガ承認セラルベキヲ信ズ、殖民地ニ於ケルプリンス、オフ、ウエールス、フアンド(Prince of Wales Fund.)　一九一五年末ニ、閉鎖サレタル時、同時ニ新資金ヲ開始サレ、該寄附金ハ昨年末迄ニ、合計六十六萬六千弗ノ寄附額ニ達シタリ、其都度新タニ發表セラレタル報告ハ、右寄附金ガ如何ニ割當テラレタルカヲ示ス、而シテ此香港戰爭寄附資金ガ、心底ヨリ戰爭ヲ援助セントスル熱誠ノ流露タルハ、

賛言ヲ要セズ、余ハ又茲ニ、本銀行ハ啻ニ當地ノ該資金ニ寄附シタルノミナラズ、更ニ世界各地ニ於ケル戰爭資金ニ、寄捐セルコトヲ告グベシ、而シテ重役ニ於テハ本銀行ガ戰爭ニ依テ生ジタル苦痛ノ救濟ニ、極力幇助スルハ諸君ノ希望スル所ナルヲ確信ス。

▼亞米利加ノ參戰　我前總會ノ席上ニ於テ、本席ヨリ同年中ニ戰勝ト平和ノ來ランコトヲ希望スル旨ヲ述ベタルガ、事實ニ於テハ希望ノ如クナラズ・露國ノ變節ハ時計ノ針ヲ逆轉セシメタリ、吾等及我ガ聯合國ガ極力得ントシツヽアル平和ハ、未ダ眼前之ヲ望ム能ハズト雖モ、昨年中更ニ多クノ世界國民ガ、我等ト共ニ其運命ヲ戰爭ニ投ジタリ、而シテ其內ニハ大國民タル合衆國ガ、其尤大ナル富力ヲ以テ之ニ莅ムアリ、我國軍隊及我勇敢ナル聯合軍ノ光耀躍如タル行動ニ、吾人ノ胸底ハ滿サレタルニ更ニ米國ノ加ハルアリ、吾人戰勝ノ信念ハ決シテ動搖シ能ハズ、吾等ハ今後戰爭目的ノ貫徹ニ於テ、相共ニ提携シ、從前ヨリモ一層密接ナル行動ヲ取ッテ進マン、而シテ我國民ノ慣習ガ破壞セラレザル可シトノ信念ヲ以テ、正義ガ勝利者タル迄又無力ナル國民ヲ有力ナラシムル迄ハ、飽ク迄勇往邁進セン、諸君、何等ノ質問ナキヲ以テ、余ハ決算報告ノ御承認ヲ得タルモノトシテ通過セント欲ス。

▼ハリス氏ノ演說　エー、エッチ、ハリス氏（A. H. Harris）ハ、議長ドッドウエル氏ノ報告終ルニ次デ、左ノ說演ヲナセリ、卽チ曰ク

余ハ吾人ノ手元ニ配付セラレタル報告、及決算ノ採決ニ多大ノ滿悅ヲ以テ協贊ス、余ハ唯今議長ノ

演說ニ於テ、熱誠ナル賞賛ヲ受ケタル、協商側參戰國政府ノ下ニ、一官職ノ地位ヲ保ツノ光榮ヲ有スルモノナリト雖モ、爰ニ余ノ述ベントスル所ノモノハ、勿論普通ノ一株主ノ言タルニ過ギズ、議長ノ演說ハ其レ自身、一々余ニ示スガ如ク興味タリ、且ツ余ノ注意ヲ惹ケル點甚ダ多シ、余ハ之ニ對シテ批評ヲナスノ資格ナシト雖モ、其中多大ノ意義アル一項ニ就テ、少シク附言セザル可カラザルモノアリ、卽チ嚴重ナル特許ノ下ニ行ブモノヲ例外トシテ、當殖民地(香港)及其他各殖民地ヨリノ、弗銀及銀輸出禁止ニ就テ謂ハントス、政府ガ此擧ニ出デタルハ、全ク戰爭狀態ヨリ來レル、止ムヲ得ザル政策上ノ變化ニシテ、之ニ因リ我等ハ、此期間中本行紙幣ヲ現銀兌換ヲ許サザルモノトナセリ、勿論當地爲替ヲ銀ノパリチーヨリ相當下位ニ保持シタレドモ、而カモ我ガ銀準備ヲ充分ニ維持シタルト、且ツ投機ヲ抑壓シタルニ因リ貿易ヲ助成セルハ疑フ可クモアラズ、現戰爭ノタメ世界ノ銀需要ハ、遙カニ供給ヲ超過シ居ルガ故ニ、現銀ハ自由ニ流通スベキモノナリトノ舊則、及ビ其率ヲ引上ゲテ正貨ヲ吸收セントスルハ、之ヲ適用スル能ハザルノ狀態トナリシヨリ、勢ヒ右ノ政策ヲ取ルニ至レルモノナリ、サレバ之ニ隨伴シテ、幾多ノ疑惑ヲ生ジタルニモ拘ラズ、余ハ此新令ハ當殖民地及當殖民地ニ利害關係ヲ有スル方面ニ、有利ナルモノナルヲ信ゼント欲ス、而シテ余ハ實際ニ於テ、爾カ信ゼザルヲ得ザルナリ、今回ノ報告ヲ通讀シテ、余ノ心中ニ起リタル感想三アリ、卽チ營業ノ成功ト進步セルコト其一、愛國主義ノ旺溢セルコト其二、而シテ其全ク堅實ナルコト其三ナリ、進步ト成功トハ我等ノ

面前ニ示サレタル數字ニ依テ明白ニシテ、昨年度ノ營業利益ノ更ニ多額ニ上リ昨年中建築物ニ於ケル、一切ノ經費更ニ正確ニ云ヘバ之等經費ノ約九割ハ利益中ヨリ支辨セラレタリ、積立金ニハ再ビ多額ノ準備ヲナシタルニ加ヘテ、—余ハ豫期シ得タルモノト思フ—四十三志ノ半期配當、卽チ年四磅六志ノ例年配當ノ外ニ一磅ノ特別配當ヲ行ヒ、尙前年度ヨリ稍ヤ多額ノ次年度繰越ヲナセル等、吾等ハ斯ル好成績ヲ祝福スルニ、將又營業上ニ現ハレタル多大ノ能力ヲ賞賛スルニ、如何ナル辭ヲ以テスベキカ。

報告中「利益ヲ擧グルニ就キテ利潤多カラズ」トノ文アルニ對シ、聊カ遺憾トスル余ノ言ニ諸君ハ同感ナラン、周圍ノ事情障礙多カリシニモ拘ラズ、諸君ノ總支配人ハ勤勵甚ダ努メタリ、今日ノ言多少輕卒ノ謂分ナガラ、氏ノ利益ハ「何等差シタル不潔ノモノニ非ザルモノ」ナリ、我ハ十志ヨリ二十志ニ增加シタル一特別配當ニ浴シタリ、而シテ此告知ヲ添附セル通告書ハ、實ニ輕々ニ看過スベカラザルヲ要ス、若シ爲替相場ニシテヨリ低廉ノ線上ニアリタランニハ恐ラク此增配ヲ產出シ能ハザリシナルベシ、何トナレバ利益ハ金幣使用地ニ於テ、得テ擧ゲラルルモノナレバナリ、而シテ這ハ余ヲシテ株主中ニ、我ガ弗登錄簿—支那人及支那居住者—ニ其名ヲ列シ居ルモノ、並ニ當地關係市場ニ於テ、現實セラルヽ、彼等持株ノ減價ニ對シ、若干補償ヲ受ケンコトヲ望メル者アリタルヤ知ル可カラズトノ、言ヲ爲サシム、又或ル比較的低キ爲替率ニテ、配當ヲ聲明セラレタラバ、宜シカラント望ミタリシナランガ、這ハ本銀行ノ規定ニ反スルモノニシテ、之等株主ノ配當ハ、金ニテ支拂フベキモノニ係リ、

其希望ノ如ク變通ヲ行フハ、無差別ノ惡例ヲ貽スヲ免ル能ハザルナリ、サレバ此種株主ハ、十志ノ增配ヲ是認シテ、彼等ニ提示シタル數量ヨリモ、更ニ多額ノ評價ヲ欲シ、更ニ其レニ因リテ若干ノ積立ヲ可決センコトヲ欲シタルベキハ疑ヲ存セズ、若シ我等ノ友人タル總支配人ガ、偶マ此仲間ノ一人タリシトセバ、余ハ此行爲ヲ株主全般ノ是認ニ依リ、同君ガ其失望ニ對シ幾分ノ補償ヲ感ジ得ンコトヲ希望ス、此大銀行ノ株ガ株式取引所ノ遊戲ニ供セラル、日ハ、前途頗ル遼遠ナルヤモ知ル可カラズ、併シ何等株ノ副配ナク、又配當ヲ見越シテ投機取引ナキコトハ、之レ大多數ノ株主ニ取リ奬讃スベキ政策ニシテ、同時ニ致ス最善ノモノタルヲ斷言ス、爲替ノ傾向ヲ豫知シ豫防シ得ベシト思考スル株主ハ、其人自己ノ手加減ヲナシ、其所有銀ヲ金ニ、又反對ニ所有金ヲ銀ニ交換スルコトヲ得ベシ。

余ハ爰ニ轉ジテ報告ノ第二方面、即チ愛國的音調ニ觸レントス、戰時財政ノ重荷ヲ擔ヒツ、アル我ガ大藏大臣ヲ援助センガ爲メニ、行ハル、コトハ何事ニヨラズ、諸君ハ我等ト共ニ其事ニ當ルモノナラン、倫敦ノ各大銀行ハ、皆協同一致、自ラ進ンデ其任ニ投ジタルコト、及ビ我ガ倫敦支店ヲ通ジテ我等ハ財界ノ會議ニ蒞ミ居ルコトヲ知ルハ慶賀ノ極ミナリ、各種戰爭義金ニ與ヘタル帮助ハ、我等ノ均シク認ムル所ニシテ、議長ハ同君ノ任意ノ決斷ニ依テ行動スル我等ノ信用ニ信頼シ得ルヲ斷言ス、戰時事務ニ對シ義勇奉公ノ望マシキニ關シテ、議長ノ謂ヘル使用職員ノ活動ト、其採リタル同情的見解トハ、感銘更ニ深キモノアリ、我等ハ全ク同一ノ期待ヲナシ居タルハ事實ナリ、吾等ハ我ガ本國及

殖民地ヲ通ジテ、烈火ノ如ク奔騰シツヽアル欲求ノ燃燒中ニ投ゼンガ爲メニハ、極東ニ於テ吾人ヲ圍繞スル平和ト安逸ニ、生活スルハ、至難ノ事ニ屬ス、―依然トシテ炎燒シツヽアル或ル猛火ハ、吾ガ傷害ノ光景ニヨリ將又彼等經驗ノ暗誦ニヨリ、深刻ニ保持セラレタリ、這次ノ戰爭ハ全ク議長ノ言ノ如ク、一大精神上ノ鬪爭ニシテ、吾等ハ其精神上ノ意義及其終局ノ結果ヲ、深慮熟考スルヲ忘ルベカラズ、余ハ如何ナル人物、及ビ如何ニ多數ノ人ヲ本國及前線ノ仕事ニ當ラシメ得ルカ等、總テノ事情ニ就テ廣濶ナル觀察ヲナシタル後、之レガ決定ニ對シ一種ノ使命ヲ强ヒラレタル、我ガ職員ニ對シテ滿腔ノ敬意ヲ表スルモノナリ。

余ハ更ニ第三ノ問題、卽チ將來ノ豫測ニ移リテ、少シク謂ハン、而シテ余ハ此處ニ或ル覺醒ヲ感ズ、一大戰爭ノ繼續中、又現在ノ如ク斯カル持久ノ久シキニ亘ル戰爭ニ在リテハ、指導ノ統一及ビ利益ノ合同ガ、根本要素トナリタルハ、避ケ難キ必然ノ成行ナリ、併シ乍ラ、政府ノ管理、ステート、パートナーシップ及ビ關稅ノ境界ハ、將來普通ノ問題トナレリトノ將來ノ豫測ニ關スル、本日ノ報告及演說ニ、余ハ驚愕ノ注意ヲ致シタリ、資金ノ探求及補助ノ奬勵、敎育方針、專門上及經濟其他ニ於ケル改善等ノ如キ、政府ノ活動スベキ餘地勿論大ナリ、吾等ハ個人ノ業務ニ於テ、政府ノ干涉ヲ尠カラズ試驗シ來リタルガ、其成功如何ニ就キ、將又戰後如何ナル便宜ノ干涉ガ、持續シ得ルカニ就テ、云爲スルハ早計ニ失ス、而シテ余ハ最近海運界ノ狀態ニ就テ述ベタル、インチケープ卿ノ遺憾ナキ見解ニ

心底ヨリ共鳴スル者ナリ、英國商人ハ右ニ余ガ參照シタルモノ、外ニ、政府ニ向ツテ機會均等、門戶開放ノ保障、並ニ必要ノ場合、武裝敵ニ對スル保護ヲ要求ス、商人ハ決シテ其職業ノ敎ヘヲ受クルヲ欲セズ、又世襲ノ法制ヲ聞クヲ欲セザルナリ、其處ニハ分業的消化不良ヲ來スベキモノアリト雖モ、天帝ハ能ク此種不消化ノ食物ヨリ、吾人ヲ庇護シ給フナリ、香港憲政改新會ノ勢力ハ、斯ル場合ニ際シ其ノ現ニ脅威セラレントスルモノヨリモ、一層重大ナル負擔ヲ課セラルベシ、此ニ慶ブ可キ一事ハ、支那ニ於ケル事情ガ此報告ニ立證セラレ居ルガ如ク、取引ノ好績ヲ許シタルコトナリ、假論ヲ敢テ好ムノ概アレドモ、此取引ノ成功ハ戰爭ニ因レルモノニシテ、內政多大ノ不安ナリシニ際シテ、得タルモノナルガ、斯ノ如キ狀態ハ健全ナルモノニ非ズ、吾等ハ支那ニ於ケル秩序ガ、今日引續キ不安狀態ニアルヲ遺憾トシ、且ツ嗟嘆ス。(下略)

尙同行資產負債累年比較表ヲ擧グレバ次ノ如シ。

香港上海銀行重要諸勘定累年比較表

(一)　負債ノ部

年次	拂込資本金	諸積立金	海上保險勘定	銀行券流通高	當座預金	定期預金	諸仕拂手形	純益金	配當金
	弗	弗	弗	弗	兩	弗	弗	[illegible]	磅志
一九〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一三、〇〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	一三、五一三、四〇八	八五、二四一、二六一	六五、五〇一、二四三	二一、九九〇、五三六	四、七二一、七二一	三、一〇
一九〇一	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一三、七五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	一三、〇〇六、七六二	一〇八、九五一、三九〇	八〇、八二〇、六四一	一八、一七五、三〇五	四、四六二、六八二	三、一〇
一九〇二	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一四、七五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	一六、五七四、五二二	一一九、七七七、九〇六	一〇〇、九一四、四〇九	一四、三九七、[illegible]六九	四、九〇[illegible]、一五五	三、一〇

一九〇三	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一六、〇〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	一六、二五九、二四四	九七、一一九、一三三	一〇三、五〇八、五八一	二〇、八八二、九一四	二、三三六、二〇二	三、一〇
一九〇四	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一七、〇〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	一六、四二二、五九三	一一〇、〇六一、一八六	一〇三、八八八、三六二	一二、四二六、〇二四	五、三五五、九九八	四、〇〇
一九〇五	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一八、五〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	一九、〇五三、九四三	一一五、二九九、八四八	一〇六、六五五、二九一	一六、一八〇、一〇一	五、三七九、三三〇	四、一〇
一九〇六	一〇、〇〇〇、〇〇〇	二〇、二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	一六、〇七五、八二五	一〇五、〇二一、九七二	九四、一八七、九〇九	一三、八七八、九六六	四、八一五、九七二	四、一〇
一九〇七	一五、〇〇〇、〇〇〇	二八、〇〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	一五、七一一、一四七	一二六、九五六、七五一	九七、一二〇、四一五	一一、四七五、七八三	五、二六九、四七〇	三、一五
一九〇八	一五、〇〇〇、〇〇〇	二九、〇〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二〇、〇〇六、七七九	一八二、七九三、二五二	一一五、七八五、四四八	一五、五四三、八二四	七、〇四一、八八〇	四、〇五
一九〇九	一五、〇〇〇、〇〇〇	三〇、二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	一五、〇三〇、一八八	一五七、九七三、五一一	一二四、四四六、九三三	二一、四八〇、七七三	六、七九三、三三四	四、〇五
一九一〇	一五、〇〇〇、〇〇〇	三一、〇〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	一五、九九四、二三六	一四九、四二三、七七八	一二四、六四四、八七二	一四、七七一、二二九	六、五八〇、三五五	四、〇五
一九一一	一五、〇〇〇、〇〇〇	三一、七五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二五、三一八、三一八	一七六、七九三、〇八四	一三一、五〇三、八〇〇	一〇、六一八、七六五	六、〇三五、四一二	四、〇五
一九一二	一五、〇〇〇、〇〇〇	三二、〇〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二四、八二六、一六八	一七五、九六〇、九〇七	一一二、四八四、六一九	六、〇一〇、八八六	五、九八七、〇六六	四、〇五
一九一三	一五、〇〇〇、〇〇〇	三二、四五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二四、八三九、一九一	一八二、四五七、四七七	一一五、七三三、一八三	一九、九一四、四五一	六、三一八、六〇五	四、〇五
一九一四	一五、〇〇〇、〇〇〇	三三、〇〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二七、二四七、八二三	二〇五、二六七、〇七七	一二四、〇四五、一九八	一七、三五〇、四一五	七、三三八、七一〇	四、〇八

備考　本表ハ各年末ニ於ケル各勘定殘高ヲ示シタルモノナリト雖純益金及配當金ハ一箇年ノ合計ヲ掲ゲタリ但一九〇三年ノ純益金ハ材料不足ノ爲單ニ下半期分ノミヲ掲ケタリ。

(二) 資産ノ部

年次	現金	發行準備トシテ政府ニ預托シタレ正貨	地金銀	殖民地公債其他有價證券	積立金放資有價證券	割引及貸付金	諸受取手形	營業用地所建物勘定
一九〇〇	弗 二八、八五九、三一八	弗 三、〇〇〇、〇〇〇	弗 九、九七七、二五一	弗 九、四八六、二〇四	弗 一〇、〇〇〇、〇〇〇	弗 七一、二四〇、九八七	弗 六八、五四九、五八八	弗 三四四、三四三
一九〇一	三七、五四五、四〇八	五、三六〇、〇〇〇	一四、三〇九、九九八	一〇、三九五、六五八	一〇、〇〇〇、〇〇〇	七四、七一一、四六六	九五、七八〇、四五三	七三〇、二〇五
一九〇二	三五、二五三、六三九	八、六〇〇、〇〇〇	八、一四八、六四三	一一、六〇三、八八九	一〇、〇〇〇、〇〇〇	九八、八二三、二〇七	一〇七、六三八、一二八	八二九、一一三
一九〇三	三八、三六六、二六九	八、五〇〇、〇〇〇	七、八二四、一八七	一〇、七〇二、三八七	一〇、〇〇〇、〇〇〇	八九、九〇〇、一七七	一〇一、一四二、八五九	一、三五五、八七八

年次	現金	發行準備トシテ政府ニ預託シタル正貨	地金銀	殖民地公債其他有價證券	積立金放資有價證券	割引及貸付金	諸受取手形	營業用地所建物勘定
	弗	弗	弗	弗	弗	弗	弗	弗
一九〇四	三七、四七二、七三七	八、五〇〇、〇〇〇	五、七三一、六八〇	一一、一五〇、一三〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	八五、六〇一、三九四	一一五、〇〇九、一三六	一、二二八、六二九
一九〇五	四七、二九七、六六八	一〇、〇〇〇、〇〇〇	六、一九九、六五八	一一、三四四、三七〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	九一、一四四、一八一	一一三、七二〇、五九〇	一、一〇七、一一〇
一九〇六	三九、八九六、一〇八	一〇、〇〇〇、〇〇〇	二、〇四七、〇一六	八、六三六、〇三七	一〇、〇〇〇、〇〇〇	九三、〇三九、七四六	九九、〇三四、五九二	一、四四四、二七四
一九〇七	四〇、五〇八、八八七	一〇、〇〇〇、〇〇〇	四、一三一、七六四	八、四一九、三〇四	一五、〇〇〇、〇〇〇	一〇一、五九六、一六五	一一八、〇〇六、六四三	一、七九二、三〇四
一九〇八	五一、七五九、九二三	一三、〇〇〇、〇〇〇	五、四五〇、二六五	一四、二六四、七九九	一五、〇〇〇、〇〇〇	一二〇、〇七四、六一三	一六二、七六七、四七一	一、七〇六、三五七
一九〇九	四九、六二四、一四七	一三、〇〇〇、〇〇〇	六、四八七、六〇二	一七、三〇一、〇四八	一五、〇〇〇、〇〇〇	一〇八、五〇二、三〇八	一四七、八八九、七八九	一、九三四、四五〇
一九一〇	四二、八七九、〇六五	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一六、八九四、七六八	一二、九九四、四四八	一五、〇〇〇、〇〇〇	一二五、二八六、九八二	一二一、九〇三、二九五	一、八七五、一六三
一九一一	四八、八三一、八二一	一二、五〇〇、〇〇〇	一二、五九二、九八七	一三、〇五七、七九九	一五、〇〇〇、〇〇〇	一三三、〇六四、八八四	一五九、九五四、八五三	二、一二二、一二九
一九一二	四一、九八〇、二〇五	一六、〇〇〇、〇〇〇	五、一六九、五九二	一二、五〇八、六六五	一五、〇〇〇、〇〇〇	一三九、八六九、九四八	一三五、六七四、九六四	五、三六〇、六三八
一九一三	四九、五七九、二八六	一五、〇〇〇、〇〇〇	五、三五五、九八三	一四、六三六、七五四	一五、〇〇〇、〇〇〇	一四一、六八四、五二三	一四七、九九二、二七八	六、七九九、三九八
一九一四	七四、二八一、五四五	一五、五〇〇、〇〇〇	七、六三〇、二一六	一六、一七五、八三二	一五、〇〇〇、〇〇〇	一四一、五四〇、八八四	一五〇、九四六、一三九	六、九八〇、一二三

印度支那銀行

沿革

印度支那銀行(Banque de L'Indo-chine)ハ一ニ東方滙理銀行ト稱セラレ、一八八七年ノ創立ニ係リ、佛國ノ印度支那經營ノ一機關トシテ設ケラレタルモノナリ、元來佛國ノ植民銀行ニハ二種類アリ、第一ハ政府ニヨリテ設立セラレタル官僚的銀行ニシテ、第二ハ大銀行ノ合同經營ニ係ル娘銀行タリ、而

シテ印度支那銀行ハ此第二類ニ屬シ、佛國ニ於ケル各有力ナル大銀行ノ合同シテ設立セルモノナリ、本行ノ沿革ヲ顧ルニ其發達ノ歷史ヲ三期ニ劃分スルコトヲ得ベク、卽チ第一期ハ一八七五年ノ創立ヨリ一八八八年ニ至ル間ニシテ、第二期ハ一八八八年ノ第一回特權延長ヨリ一九〇〇年ノ第二回特權延長ニ至ル間、第三期ハ一九〇〇年以降ナリトス。

右ノ内第一期ノ間ハ本行ハ單ニ交趾支那及佛領印度ニ於ケル一佛國殖民地銀行タリシニ過ギズ其創立ノ始ニ遡レバ一八六三年コントワルデスコントハ始メテ柴棍ニ支店ヲ設ケシガ、本行ハ單ナル割引銀行ニシテ印度開發資金ノ供給ヲナスニ足ラザルヨリ、一八六五年交趾支那總督ローズハ同地ニ於ケル金融機關設立ノ必要ヲ佛國政府ニ上申シコレニ基キ種々ノ計畫ノナサレタリシモ、孰レモ成立ニ至ラザリシガ、コントワルデスコント及ソシエテ、ゼネラルノ二銀行ハ各別ニ政府ニ出願シ交趾支那ニ於テ「最初ノ五殖民銀行」ニ倣ヘル銀行ヲ設立セントスルヲ以テ之レニ發行權ヲ與ヘンコトヲ乞ヒ、後此二行共同シテ如上ノ出願ヲナシ、更ニ巴里和蘭銀行之レニ加入シ三行共同ノ出願トナリシガ、政府ハ其請ヲ容レ其定欵ヲ殖民銀行監督委員及參事院ニ審議セシメタル上遂ニ一八七五年一月二日ノ命令ヲ以テ其定欵ヲ認可シ、印度支那銀行ナル名稱ノ下ニ設立スル株式會社ニ對シ銀行劵ノ發行其他ノ特權ヲ與ヘ、其特權ヲ二十ケ年間存續スベキコトヲ規定セリ、斯クシテ成立シタル印度支那銀行最初ノ資本金ハ八百萬法ニシテ、コレヲ一株五百法ノ株式一萬六千株ニ分チ四分ノ一ノ拂込ヲナシ、本

店ヲ巴里ニ置キ、一八七五年四月十日柴棍ニ支店ヲ設ケ、翌年ポンディシェリーニモ支店ヲ設ケ、是等兩支店ハ爾來次第ニ發展シ、其發行ニ係ル銀行券ハ土民並ニ支那人ノ間ニ歡迎セラレ、流通甚ダ圓滿ニ一八八三年ヨリ一八八六年ニ亘リ交趾支那ニ起レル金融上ノ恐慌ノ如キモ同行ノ力ニヨリ救濟セラレ其信用益増大セリ、然レドモ當時本行ハ尙佛領印度及交趾支那ニ限ラレタル殖民銀行ニシテ、其以外ニ於テ營業スルコトヲ許サレザリシガ、一八八四年佛支葛藤ノ結果佛國ノ東京ヲ占領スルヤ、同行ハ政府ノ命ニヨリ東京ノ要港アイフォンニ支店ヲ設置スルニ至リ、更ニ一八八五年ノ天津條約ニヨリ安南ノ全ク佛國保護領タルニ至ルヤ、又政府ノ命令ニヨリ安南ニ一支店ヲ設ケントスルニ至リ、コレヨリ其發展ノ地域大ニ擴大セラレタリ、コレ本行ノ第一期時代ナルガ斯ク佛國ノ印度支那ニ於ケル經營進捗スルト共ニ本行ノ業務亦益發達シ來レルヨリ、其特權ヲ延長シテ基礎ノ安固ヲ計ルベシトノ議アリ、一八八六年同行重役會ハ一八九五年ヨリ以降二十ケ年間其特權ヲ延長スルコト、及其特權ノ行使ハ同行ノ支店ヲ有スル佛國ノ保護領並ニ今後支店ヲ設置セラルベキ地方（佛國ノ主權ノ行ハレザル）ニモ及ブベキコトヲ請願セリ、是ニ於テ政府ハ一方農工商業者ニ對スル同行貸出規定ノ改正ニ關シ各州行政長官ノ意見ヲ徵シ、又他方ニ於テハ銀行ニ賦課スベキ義務ニツキ調査スル處アリ、一八八八年ノ命令ヲ以テ定款一部ノ改正ヲ行ヘリ、其要點次ノ如シ。

一、一八九五年ヨリ十ケ年間特權ヲ延長ス。

二、佛國政府ハ本行ヲシテ其殖民地内ハ勿論支那、日本、印度洋及太平洋方面ニ於テモ必要ト認ムル地點ニハ支店出張所又ハ代理店ヲ設置セシムルノ權能ヲ有ス。

三、佛國ノ主權ノ完全ニ行ハレザル地方ニ對シ本行ノ特權ヲ擴張スルコトニ就イテハ國際法ノ問題ニ關與スル所ナルモ東蒲塞ハ既ニ一八八三年ノ條約ニヨリテ支障ナク、又安南及東京ニ對シテハ新ニ試ミタル交渉ノ結果新協約成立セシヲ以テ是等ノ保護國ニ設置セラルベキ支店出張所モ同一ノ特權ヲ有ス。

斯クテ本行ハ大ニ其營業區域ヲ擴大セラレ極東ニ於ケル佛國ノ經營ヲ助クベキ一大金融機關タルコトトナリ、其結果從來ノ支店出張所ノ外ニ一八八八年ヨリ一八九八年ニ至ル間ニ於テ佛領内ニテハ河内、東京ノ首府及ヌメヤ（太平洋諸島)、プノムパン(東蒲塞ノ首府)、ツラーヌ(安南ノ要港）ノ四支店ヲ佛領以外ニテハ香港、盤谷、上海三支店ヲ設置セリ、コレ同行發達ノ第二期トス。

一八九四年ヨリ九五年ニ亘レル日清戰爭後支那ニ對スル列國ノ角逐非常ノ激甚ヲ加ヘ、殊ニ各國共ニ鐵道鑛山其他ノ利權ヲ獲得セントシ、各國資本家ハ大ニ奮闘スル處アリ、而シテ之レガ機關トシテ露國ハ露亞銀行、獨逸ハ獨亞銀行ヲ特設シ、米國ハ花旗銀行ヲ以テ、英國ハ香上銀行及有利銀行ヲシテ之レニ當ラシメ、佛國ハ本行ヲ以テコレニ任ゼシメタリ、然レドモ本行ハ發劵銀行タル關係ヨリシテ、其業務ニツキ嚴格ナル制限ヲ受ケ、爲ニ工業的若シクハ財政的放資特ニ鐵道ノ建設公債ノ應募等

ニ關與スル能ハザリシヨリ、他國ノ銀行ト競爭シテ遺憾ナキ活動ヲナス能ハズ爲ニ本行ニ對スル非難ノ聲各方面ニ起リ、甚シキハ本行ノ銀行券發行ノ特權ヲ取消シ、一方本行ヲシテ自由ナル活動ヲナサシムルト共ニ、一方本行獨占ノ弊ヲ止メテ他ノ多數銀行ヲ現出セシムルニ如カズト論ズルモノスラアリキ、此時偶佛國政府ハ本行ヲシテ亞弗利加ノ東海岸ソマリスノ殖民地ヂブーヂニ支店ヲ設置セシメントセシガ、其目的ハ之レニヨリ同地方ニ計畫セラレタル一鐵道會社ノ事業ヲ助成シ併セテ此地方ニ移住セル多數佛國人ノ爲ニ必要ナル資金ヲ供給セシメントスルニアリシガ、本行ハ此機會ニ於テ其特權ヲ擴大延長セントスルニ至レリ、是レヨリ先政府ニテモ本行ノ特權ニツイテハ研究スル處アリシガ、各方面ニ於ケル研究ノ結果ハ(一)本行ヲシテ佛國殖民地ニ於テハ大體ニ於テ他ノ佛國殖民銀行ト同ジク銀行券ノ發行ヲナサシムルト共ニ割引貸付ニ力ヲ注ガシムルコト、(二)佛領以外ノ地ニ於テハ寧ロ財政的並ニ工業的放資卽チ證券銀行ノ業務ヲ主トシテ營マシムルコトヲ以テ必要ナリト認メコレガ爲ニ次ノ三個ノ提案中其一ヲ採ツテ實行スルコトヽセリ。

一、定款ノ改正ニヨリテ印度支那銀行ヲシテ證券的業務ヲ行ハシムルコト。

二、極東方面ニ於テ證券的業務ヲ行ハシムル爲ニ同一ノ組織同一ノ重役會ヲ有スル印度支那銀行ノ娘銀行ヲ設立スルコト。

三、印度支那銀行トハ全然獨立セル新タナル銀行ヲ支那ノ南部ニ設立スルコト、但シ此場合ニハ印度

支那銀行ハ其ノ香港、上海及盤谷支店ヲ新設銀行ニ讓渡シ且新設銀行ノ爲ニ出資ヲナシ、其株式應募額ニ基キテ自己ヲ重役會ニ代表セシムルコト。

種々研究ノ結果右ノ內第一案採用セラルヽニ至リ、コレガ爲ニ一九〇〇年五月十六日ノ命令ヲ以テ同行ノ特權ニ對シ一大變革ヲ加ヘラレタリ、其主要點次ノ如シ。

一、同行特權ヲ更ニ一九〇五年ヨリ十五ケ年間延長スルコト。

二、同行支店ヲ有スル外國ニ於テモ殖民大臣ノ認可ヲ得、外務大臣及大藏大臣ノ同意ヲ經タル時ハ銀行券ヲ發行シ得ルコト。

三、同行ノ營業ヲナス諸國ニ於テ發行セラルル國債ニ應募シ、又ハ財政的工業的及商業的企業ニ關與シ、又ハ第三者ノ爲ニ若シクハ第三者ヲ代表シテ取引ヲナスノ權能ヲ有スルコト。

斯クテ本行ノ缺陷ハ除カレ、玆ニ他國ノ金融機關ト角逐シテ讓ラザルノ權能ヲ得タリ、此點ニ關シ一九〇〇年四月ノ株主總會ニ於テ重役會ノ發表セル意見ニ曰ク「定款第十五條並ニ第十七條ニ加ヘラレタル變更ハ其目的我銀行ノ定款ニ從來規定セラレズシテ、然カモ外國銀行ノ盛ニ行ヒツヽアリシ特殊ノ取引ヲナスノ權能(特ニ支那ニ於テ)ヲ與フルニアリ、從來ハ此缺點アリシ爲本行ハ外國銀行ト競爭シテ劣位ニ立チシガ今後ハ之レヲ矯正スルヲ得ベシ」ト、以テ其ノ眞相知ルベキナリ。

資本金及積立金

本行ノ資本金ハ最初八百萬法ナリシガ業務ノ發展ト共ニ增資シ、現今ハ四千八百萬法ナルガ、將來之レヲ增加セントスル時ハ株主總會ノ決議ニヨリ殖民大臣ノ認可ヲ經ルコトヲ要ス、其株式ハ額面五百法ニシテ悉ク四分ノ一ノ拂込ナリ、第二回以後ノ拂込ハ重役會之レヲ定メ通知後二ケ月以內ニ之レヲナスモノナルモ、殖民大臣ニ於テ必要ト認ムル時ハ、何時ニテモ拂込ヲ命ズルコトヲ得ルモノトス其株式拂込ヲ確實ニスル爲同行ノ採レル方法ハ甚ダ簡單ナルモノニシテ拂込ヲ怠リタル株式ニ對シテハ株主ニ催告ヲナシ其後十日ヲ經レバ延滯株主ノ危險ニ於テ仲買人ヲ經由シ巴里株式取引所ニ於テ銀行ガ自由ニ賣却スルコトヲ得ルモノトス、尙株式ノ讓渡人、讓受人ハ拂込ニ對シテ連帶責任ヲ負ヒ讓渡後二ケ年ヲ經過スルニアラザレバ此責任ヲ免レザルモノトス。

同行ハ每期純益金中ヨリ總拂込資本金ノ千分ノ五ヲ法定積立金トシテ積立ツルコトヲ要シ、同時ニ拂込資本金ニ對スル年六分ニ相當スル金額ヲ第一配當トシテ株主ニ分チ、尙殘餘アル時ハ其十分ノ八ヲ第二配當トシテ株主ニ分配シ、其十分ノ一ヲ特別積立金トシ殘金ノ十分ノ一ヲ重役會ノ各員ニ分配スルモノトス、若シ純益不十分ニシテ第一配當金年六分ヲナスコト能ハザル時ハ特別積立金中ヨリ之レヲ補フモノトス、本行ハ此外ニ尙任意積立金多額ヲ有ス。

組織及機關

(一)重役會　印度支那銀行ニ於テハ重役會ハ其經營管理ニ就キ絶大ノ權能ヲ有シ、同行ノ實權ハ全ク重役會ニ存ス、而シテ是等重役ハ悉ク株主會ニ於テ選任セラルヽモノニシテ、其數八人以上十五人以下ト定メラレ、重役會ノ決議ハ重役會ノ名ニ於テ執行ス、只重役會開催ノ時ハ殖民大臣指名ノ監理官一名之レニ陪席スルモ、重役會ハ政府ヨリ獨立シ其拘束ヲ受クルコトナシ、重役會ハ互選シテ總裁一名ヲ設ク、但シ總裁ハ形式上殖民大臣ノ承認ヲ受クルヲ要ス、重役タルノ資格ハ同行株式四十株以上ヲ有スルコトヲ要シ、其任期ハ五ケ年トシ毎年二人ノ割合ヲ以テ改選セラレ、重役會ハ毎月必ズ一回以上開會スルコトヲ要シ、五人以上ノ出席アルニアラザレバ開議スルヲ得ズ。

(二)株主總會　株主總會ハ株式原簿ニヨリ同半期間最モ多數ノ株式ヲ所有スル百人ノ株主ヨリ成立スルモノトス、若シ同株數ノモノアル時ハ先ニ株主トナレルモノ其權利ヲ有スベク、同株數ニシテ同時ニ株主トナレルモノニツイテハ年長者其權利ヲ有ス、佛國人ニアラザル株主ハ少クトモ五年間佛國若シクハ佛領殖民地ニ居住スルニアラザレバ總會ニ出席スルノ權利ナク、表決權ハ株式十株ニツキ一票トシ、但シ何人ト雖モ一人十票以上ノ權利者タルヲ得ザルコトヽセリ、又總會ニ出席セシムル代理人ハ株主ニシテ且總會ニ出席スル資格ヲ有スルモノニ限リ、議決ハ出席員ノ多數決ニヨルヲ原則トス、

總會ニハ定時ト臨時ノ二アリ、定時總會ハ毎年五月本店若クハ召集通知書ニ記載セラレタル場所ニ開催シ、臨時總會ハ重役會ガ必要ト認メタル時及少クトモ資本金ノ三分ノ一ニ相當スル株主ガ書面ヲ以テ其理由ヲ認メ之レヲ要求シタルトキ、又ハ營業上ノ缺損ノ爲資本金ノ半額ヲ失ヒタル時ニ之レヲ開クヲ要ス、總會ハ重役會ノ名ニ於テ之レヲ召集シ重役會長之レガ議長トナル、總會ハ重役會ノ推薦ニ依ル重役ヲ選擧スルモノトス、其選擧ノ方法ハ無記名ニシテ過半數ヲ以テ決ス、總會ノ成立ニハ少クトモ資本金ノ四分ノ一ニ相當スル二十人以上ノ株主ノ出席ヲ要ス、若シ出席株主定數ニ達セザル時、若クハ資本金ノ定額ニ達セザル時ハ十五日以内ニ第二回總會ヲ開クヲ要ス、但シ此場合ニハ定數ニ制限ナシ、然レドモ定款ノ改正、存立期間ノ延長、滿期前ノ解散ニ關スル事項ヲ決議スル爲ニ召集セラレタル總會ハ少クトモ資本金ノ半額ヲ代表スル株主出席スルニアラザレバ有効ナル決議ヲナス能ハザルモノトス。

佛國ニ於テハ殖民銀行ハ殖民大臣及大藏大臣ノ監督ヲ受クルモノニシテ、又佛領以外ノ地ニアル殖民銀行ハ支店、出張所ノ特設、銀行券ノ發行其他ノ特權行使ニツイテハ更ニ外務大臣ノ同意又ハ認可ヲ得ザルベカラズ、而シテ巴里ニハ殖民銀行監督委員ナルモノアリ、九名ノ委員ニヨリ組織セラル、印度支那銀行モ該監督委員ノ監督ヲ受クルコト、ナリ居レルモ、事實上ハ形式的ノ監督ニ過ギズシテ、其實際ノ監督ニ當レルモノハ監理官及監查官ニシテ前者ハ其本店後者ハ各支店ヲ監督シ、各支店

ニハ政府ヨリ一名宛ノ監査官ヲ配置セリ。

尙同行支店出張所所在地次ノ如シ。

支　店　柴棍、アイフオン、ポンデイシエリー（佛領印度）、ヌメア（ニユーカレドニア）、パピート（タイチー島）、ジブーチ（ソマリヌ）。

出張所　プノムパン（東蒲塞）、アノイ（東京）、ツラーヌ（安南）、盤谷、バツタンバン（暹羅）、香港、上海、廣東、漢口、天津、北京、新嘉坡

業　務

（一）銀行券發行　主要ナル本行業務ノ一タル銀行券發行ニ關スル制度ノ要點次ノ如シ。

イ、印度支那銀行ハ其營業所ヲ有スル佛國ノ殖民地若クハ保護國ニ於テ法定通用力ヲ有スル銀行券發行ノ獨占權ヲ有シ、又外國ニ在ル同行ノ營業所モ殖民大臣、外務大臣ノ承認ヲ經テ銀行券ヲ發行スルコトヲ得。

ロ、其發行スル銀行券ハ千法、五百法、百法、二十法、五法ノ五種トス。

ハ、右法ノ銀行券ノ外ニ特ニ殖民大臣ノ承認ヲ經テ其營業地ニ於ケル貨幣ノ稱呼ニ從ヒ、例之柴棍ニテハピアストル、ポンデイシエリーニテハルピー、盤谷ニテハチカルヲ表示スル銀本位ノ銀行

券ヲ發行スルコトヲ得。

ニ、本銀行發行ノ兌換券ハ之レヲ發行セル支店竝ニ殖民大臣ト銀行ト協定ノ上指定シタル支店若クハ出張所ニ於テ兌換ニ應ズ。

ホ、銀行券發行總額ハ正貨準備金ノ三倍ヲ超過スベカラズ。

ヘ、銀行ノ要求拂ノ債務卽チ銀行券、當座勘定及他店ニ對スル爲替尻借越等ハ之レヲ合シ資本金及積立金（正貨準備ガ三分ノ一以上存スル時ハ其餘分ヲ加算ス）ノ三倍ヲ超過スベカラズ。

ト、準備タル正貨ハ免責價格則チ法律上完全ニ債務ヲ免除スルノ資格ヲ有スル貨幣タルヲ要ス、但シ佛國貨幣ノ外其營業所ニ於テ法律上ノ流通力ヲ有スル銀貨ヲ以テ正貨準備ニ充用スルコトヲ得。

本行ノ發行セル銀行券ノ流通ハ非常ニ圓滿ニシテ、年々其流通額ヲ增加シツヽアリ、支那ニ於テハ上海、廣東ニ於テ之レヲ發行ス、然レドモ其支那ニ於ケル發行額ハ次第ニ他國銀行及支那銀行ノ夫レノ爲ニ壓倒サレツヽアリ、又本行ハ其上海ニ支店ヲ設クルニ際シ露淸銀行ト協約ヲ結ビ上海以北及漢口ヲ以テ露淸銀行ノ營業區域、上海以南ヲ本行ノ營業區域ト定メ、本行ハ上海以北ニハ發展セザルノ約アリ。

（二）爲替業務　本行ハ佛本國ト其殖民地其他トノ間ノ爲替取組ヲ主要ナル業務ノ一トセルガ、本行ハ

元來本國ニ於ケル多數大銀行共同經營ニ係ルモノニシテ、是等大銀行ハ世界各地ニ支店ヲ有スルヲ以テ、本行ノ本國竝ニ外國ニ對スル爲替取組ハ非常ノ便宜ヲ有シ居レリ。

(三)預金　本行ハ他ノ佛蘭西ノ殖民銀行ト異リ無利子預金ノ外ニ有利子ノ當座預金ヲ取扱ヒ得ルモ、然モ該利子付預金ハ(一)其總額ガ拂込資本金ヲ超過セザルコト、(二)其利率ハ割引步合ノ半以上タルベカラズ、又割引步合ガ一割以上ニ達スルコトアルモ預金利子ハ五分以上タルベカラザルノ制限アリ實際ニ於テハ同行ハ未ダ利子付預金ヲ取扱ヒタルコトナシト云フ、同行ハ原則トシテ割引ヲ許シタル取引先ニ限リ當座勘定ヲ開クノ資格アルモノトナセルガ、之レヲ許スニ際シテハ嚴密ナル調査ノ上ニアラザレバ決定セズ、又當座貸越ニツイテハ十分ノ注意ヲ拂ヒ、其期限ハ之レヲ六ケ月以內ニ限リ、又當座勘定ニテ銀行ガ受入レタル預金竝ニ銀行ガ與ヘタル貸越制度ニ關シテハ之レニ對シテ差押又ハ法律上ノ抗議ヲナスコトヲ得ザルコト、セリ。

(四)割引　本行ハ當所拂タルト他所拂タルトヲ問ハズ、廣ク手形ノ割引ヲナシ得ルモノニシテ、其要件次ノ如シ。

イ、手形ハ信用確實ナル二個ノ署名ヲ有スルコト、但シ規定ノ擔保ヲ差入ルヽ時ハ第二署名ハ省略スルコトヲ得。

ロ、其期日ハ百二十日ヲ超ユベカラズ。

ハ、手形ハ割引ヲ許サレタル人ニヨリ銀行ニ差出サル、コトヲ要ス。

ニ、手形ハ實際ノ取引ヨリ生ジタルモノタルヲ要シ慣合手形ハ一切割引セズ。

(五)貸付　本行ハ流通證券若クハ不流通證書ヲ以テ貸付ヲ行フコトヲ得ルモノニシテ、其貸付ハ主トシテ對物信用ヲ基トス、而シテ貸付ノ體様ニ就イテハ他ノ佛國殖民銀行ニ比シ種類ノ多様ナルト規模ノ大ナルトヲ特色トス、又擔保物ト貸付金額トノ割合ハ定欵ニ規定スル處ニシテ次ノ如シ。

イ、國債竝ニ同行ノ支店又ハ出張所ヲ有スル國ノ政府又ハ市ノ發行若クハ保證セル證券ニ就イテハ、公定相場ノ五分ノ四以下トス。

ロ、其他ノ諸證券ハ其五分ノ三以下トス。

ハ、農産物ハ其價格ノ三分ノ一以下トス。

ニ、寶石類ハ其價格ノ三分ノ一以下トス。

ホ、商品ニ就イテハ確實ナル取引先ナルニ於テハ仲買人又ハ商業會議所ノ供給セル定價表ニ示セル全價格迄貸付ケ得、但シ商品ニハ必ズ債務者ノ負擔ニ於テ保險ヲ附スルコトヲ要ス。

ヘ、安南若シクハ東京ニ於ケル村落ニアリテハ、其村落又ハ農民ノ組成セル農業組合ニ對シ稻田ヲ擔保トシテ貸付ヲ行フ。

(六)證券的業務　本行ハ其營業所ヲ有スル國ニ於テ發行スル公債ノ應募引受ヲナスコトヲ得、但シコ

レニツイテハ次ノ諸制限アリ。
イ、其外國政府發行ニ係ルモノナル時ハ外務大臣ノ同意ヲ經ルヲ要ス。
ロ、殖民地竝ニ外國ニ於ケル國債ノ應募引受額ハ資本金ノ四分ノ一ヲ超過スベカラズ、但シ特ニ殖民大臣ノ認可ヲ得タル時ハ此限ニアラズ。
ハ、各種ノ財政的若クハ商工業的企業ニ對スル放資ハ其總額積立金ノ三分ノ一ヲ超過スベカラズ。
尙最近同行ガ諸外國ノ國債ヲ引受ケタル主要ナルモノ次ノ如シ。
イ、暹羅國ノ貨幣制度改革公債三百萬磅ヲ香港上海銀行及和蘭亞細亞銀行ト共ニ引受ケ巴里市場ニテ發行セリ。
ロ、支那政府ノ京漢鐵道贖回公債五百萬磅ヲ香港上海銀行ト折半シテ引受ケ巴里市場ニテ賣出セリ。
ハ、英、獨、米ノ銀行團ト共ニ湖廣及川漢鐵道公債六百萬磅ヲ引受ケ、其總額ノ四分ノ一ヲ引受ケ發行セリ。
ニ、支那政府改革借欵二千五百萬磅ヲ募集スルニ方リ英、獨、日、露ノ銀行團ト共ニ佛國資本團ヲ代表シテ之レニ參加シテ其持分ヲ引受ケ、爾後所謂五國銀行團ノ一員トシテ活動セリ。
ホ、上海市場救濟借欵三百五十萬兩ヲ他銀行團ト共同引受ケタリ。

尙又同行ガ各種企業會社ノ株式ヲ所有シ、若クハ債券ヲ引受ケ其ノ會社ノ設立又ハ經營ニ關係セル主ナルモノ次ノ如シ。

印度支那雲南鐵道會社
雲南四川省シンジケート
支那鑛業調査會社
上海電氣鐵道電燈會社
東洋國際會社
ツラーヌ船渠及炭坑會社
印度支那鐵道建設會社
亞細亞汽船會社

營業成績

本行營業ノ成績ハ毎年驚クベキ良好ノ結果ヲ擧ゲツヽアリ、今其重要諸勘定累年比較表ヲ掲ゲテ其眞相ヲ知ルニ便セン。

印度支那銀行重要勘定累年比較表

負債ノ部

年次	資本金	諸積立金	銀行券流通高	諸預り金	支拂手形	印度支那政府當座勘定	再割引手形	純益金	配當率
一九〇〇	二四、〇〇〇、〇〇〇法	六、四二九、二九一法	二七、七二四、〇二四法	一五、〇二四、〇九三法	三二五、四〇八法	一三、二〇四、〇七七法	一一五、七五五法	一、一二四、六二一法	二、六割
一九〇一	二四、〇〇〇、〇〇〇	六、七六一、五八九	三三、七七三、二三三	一五、〇五一、一一三	一四二、〇八四	二一、一三一、四六二	一五二、八二〇	一、七八九、七八九	三、〇
一九〇二	二四、〇〇〇、〇〇〇	七、四〇七、六〇三	三六、九四一、〇四一	一六、五八六、九〇五	三一一、五九四	一八、二五一、七三六	一七二、八八三	一、八九五、三七〇	三、三
一九〇三	二四、〇〇〇、〇〇〇	八、四八〇、九一〇	四〇、一八七、二八二	一五、二四一、〇八〇	五〇六、三五四	二三、九〇六、三三九	一九七、三七六	二、二二九、九二九	三、六
一九〇四	二四、〇〇〇、〇〇〇	九、六三五、八九〇	四六、四四六、六一七	一五、五九二、二四三	七四〇、五一九	二三、一四四、〇六六	二〇四、九一七	二、三八六、〇五〇	三、八
一九〇五	二四、〇〇〇、〇〇〇	九、九〇七、八九四	四六、八六一、七九八	一六、八〇六、四八六	七一四、六六〇	八、六三七、三四二	二九八、一四七	二、六六五、八三四	四、三
一九〇六	三六、〇〇〇、〇〇〇	二二、七六五、〇七六	五六、〇七九、八二五	一六、八〇〇、一四二	九一〇、九七二	一六、七二一、二九六	二四九、六九〇	四、〇二七、一五二	四、三
一九〇七	三六、〇〇〇、〇〇〇	二三、九九四、〇七一	五二、七四九、四三六	一八、二七三、六四六	八七七、一九〇	四九、二九〇、〇九九	二三七、六六〇	四、二三四、六二五	四、四
一九〇八	三六、〇〇〇、〇〇〇	二四、九一六、九四二	五七、〇〇〇、一三三	三二、二四二、九六六	四七一、三六五	六一、一二五、四一〇	二四一、四七四	四、四四六、四七〇	四、六
一九〇九	三六、〇〇〇、〇〇〇	二六、一八三、一一四	六〇、二七四、一三四	四〇、五六〇、三五七	五五八、八二七	三七、五九七、九三八	二八八、〇二四	四、四六六、二七三	四、六
一九一〇	四八、〇〇〇、〇〇〇	四三、二七五、〇八六	六三、八一五、四四[illegible]	四三 三七三、三三四	五一八、九九七	三四、二五八、八九二	六五八、八七四	六、一一四、一六九	四、六
一九一一	四八、〇〇〇、〇〇〇	四三、九四四、三八八	六三、一六四、九二三	六七、二三三、六五七	六一七、〇七五	三一、二九七、四二五	三六三、二五七	六、四二一、一五九	四、六
一九一二	四八、〇〇〇、〇〇〇	四四、六一八、八二三	八一、七二〇、一〇九	七八、八四二、四二三	一、三〇〇、二七五	二五、三一〇、四七八	五五八、四七六	六、五二〇、三三一	四、八

資産ノ部

年次	未拂込資本金	諸公債	諸株券	現金	手許保存諸手形	取立ノ為メ送付中ノ諸手形	諸貸付金	銀行不動産
一九〇〇	一八、〇〇〇、〇〇〇法	三、二五五、六一九法	一一三、七四三法	二九、四三七、四一三法	二一、八五三、八四六法	九、四七二、八六六法	一六、四二三、五五九法	一、〇三七、六八〇法
一九〇一	一八、〇〇〇、〇〇〇	二、二五五、九一九	三三二、六四四	三四、八四六、四四六	三一、八五〇、〇〇六	一一、九四五、六三二	一九、二八〇、〇〇七	一、〇四五、一八三

年次	未拂込資本金	諸公債	諸株券	現金	手許保存諸手形	取立ノ爲メ送付中ノ諸手形	諸貸付金	銀行不動産
一九〇二	一八、〇〇〇、〇〇〇法	二、二五五、九二〇法	四四一、三〇一法	二三、九五一、八〇五法	三七、六六二、八五七法	五、九四六、五八一法	二七、五一九、六三九法	一、二五四、〇[illegible]法
一九〇三	一八、〇〇〇、〇〇〇	二、二五五、六一三	五六五、三三九	三〇、九五六、三〇四	三一、五二三、三二〇	五、五八四、〇五三	三七、九五六、四五九	一、二三四、〇[illegible]
一九〇四	一八、〇〇〇、〇〇〇	二、二五五、一四三	一、二〇二、四八二	三三、七四四、八八五	三五、二九〇、六二一	六、八一五、五八三	四二、七七六、七七四	一、[illegible]四、〇[illegible]
一九〇五	一八、〇〇〇、〇〇〇	二、二五五、一一九	一、七九三、八〇〇	二六、五七〇、〇九六	四一、七三九、六二一	七、〇七八、六六一	三七、一三三、五〇二	一、六四二、八[illegible]
一九〇六	二七、〇〇〇、〇〇〇	三、五〇九、九七五	一、八九七、二五一	三二、八三八、六八六	四九、八九四、六〇六	二一、六七六、一八四	五九、五八八、七五三	一、八一六、五一[illegible]
一九〇七	二七、〇〇〇、〇〇〇	三、五一四、三四[illegible]	二、一二七、五二九	三五、三〇六、五九〇	五六、二八八、〇一〇	二三、一〇六、三一〇	五九、四二五、五三六	二、二六四、[illegible]
一九〇八	二七、〇〇〇、〇〇〇	三、四九三、五九四	三、二七二、〇七三	六五、六五三、九〇八	四八、四六五、九八九	二〇、五一七、二〇九	六九、一一七、四七〇	二、二六四、三七[illegible]
一九〇九	二七、〇〇〇、〇〇〇	三、四九三、五九四	二、三一五、二二三	九二、二九三、八七二	三八、七六五、五九七	一九、七九八、八〇五	六三、七八六、九四三	二、八八七、一一〇
一九一〇	三六、〇〇〇、〇〇〇	三、四二六、七六七	二、三七〇、七二一	八三、三六六、九八八	五一、九二九、六五三	一九、三八七、八三四	八九、三三二、一六八	二、八二三、五〇九
一九一一	三六、〇〇〇、〇〇〇	三、三六五、〇九二	二、〇〇九、六六八	五八、二二一、一三九	五七、五八一、六八三	一九、五七四、〇〇七	一一八、八二三、六三六	二、八二三、五〇九
一九一二	三六、〇〇〇、〇〇〇	四、六一七、八三〇	一、一七三、四〇五	六七、〇五二、一一三	一〇五、五一五、四五八	一七、〇二九、六四三	一〇七、五五一、七四四	四、六〇〇、八三二

印度支那銀行貸借對照表（一九一二年十二月三十一日現在）

資産ノ部	
未拂込資本金	三六、〇〇〇、〇〇〇法
諸公債	四、六一七、八三〇
諸株券	一、一七三、四〇五
現金手許在高	六七、〇五二、一一四
手許保有諸手形	一〇五、五一五、四五八
取立ノ爲メ送付中ノ諸手形	一七、〇二九、六四三

負債ノ部	
資本金	四八、〇〇〇、〇〇〇法
積立金	四二、一一八、八二二
支那各店資本金及積立金	二、五〇〇、〇〇〇
銀行券流通高	八一、七二〇、一〇九
當座勘定及當座預金	五八、九六九、二二二
定期預金	一九、八七三、一九九

科目	金額
當座及擔保貸	一〇七、五五一、七四四
爲替尻及雜勘定	四二、九三九、七一一
不動產	四、六〇〇、八三二
合計	三八六、四八〇、七四〇

科目	金額
支拂手形	一、三〇〇、二七五
取立勘定	一六、七八二、六五九
支店及代理店引受勘定	三、八七九、五二三
爲替尻及雜勘定	七六、七四四、〇〇八
印度支那政府當座勘定	二五、三一〇、四七八
未濟配當金	二、三四六、七二二
既收後期割引料	五五八、四七六
損益勘定	
一九一二年上半期殘高	七六八、八三一
同　下半期純益金	三、三〇八、四一〇
不動產償却積立金	二、三〇〇、〇〇〇
計	三八六、四八〇、七四〇

印度支那銀行爲替決濟其他融通資金殘高表

年次	他店へ貸勘定	他店ヨリ借勘定	差引他店ヨリ借勘定	再割引勘定	合計
一九〇〇年末	法 三、二六四、八一九	法 一四、二八四、七〇二	法 一一、〇一九、八八三	法 一一五、七五五	法 一一、一三五、六三七
一九〇一年末	六、一三〇、九七九	二三、七九〇、四七七	一七、六五九、四九八	一六三、八二〇	一七、八二三、三一八
一九〇二年末	一二、四六〇、八四〇	一七、五六〇、五六九	五、〇九九、七二九	一七二、八八三	五、二七二、六一二
一九〇三年末	七、六五四、八八九	一八、四五五、二五六	一〇、八〇〇、三六七	一九七、三七六	一〇、九九七、七四三
一九〇四年末	七、一五一、四一七	二一、五七七、九〇七	一四、四二六、四九〇	二〇四、九一七	一四、六三一、四〇七
一九〇五年末	二〇、八〇四、三二〇	三六、二一七、〇二六	一五、四一二、七〇六	二九八、一四七	一五、七一〇、八五三
一九〇六年末	八、〇五二、二一三	三四、九一六、六〇三	二六、八六四、三九〇	二四九、六九〇	二七、一一四、〇八〇

年次	他店ヘ貸勘定	他店ヨリ借勘定	差引他店ヨリ借勘定	再割引勘定	合計
一九〇七年末	法 一九、一七〇、三六二	法 三六、三九二、八三九	法 一七、二二三、四七七	法 二二七、六六〇	法 一七、四五〇、一三七
一九〇八年末	二五、三六〇、三五二	四二、六〇〇、〇〇三	一七、二三九、六五一	二四一、四七四	一七、四八一、一二五
一九〇九年末	一五、五九五、一五二	四七、三一六、八一九	三一、七二一、六六七	二八八、〇三四	三二、〇〇九、六九一
一九一〇年末	四〇、九二二、七四三	八二、二八二、〇六九	四一、三六〇、三二六	六五八、八七四	四二、〇一九、二〇〇
一九一一年末	四三、〇三〇、一一七	七七、〇一七、三二一	三三、九八七、二〇四	三六三、二五七	三四、三五〇、四六一
一九一二年末	四二、九三九、七一二	七六、七四四、〇〇八	三三、八〇四、二九七	五五八、四七六	三四、三六二、七七三

尚同行ノ配當ハ一九〇五年以降四割以上ノ配當率ヲ維持シ來リタルガ、其創立以來ノ平均率次ノ如シ。

一八七六年―一八八五年　一〇・〇%
一八八六年―一八九五年　一八・三%
一八九六年―一九〇五年　二四・八%
一九〇六年―一九一二年　四五・〇%

次ニ同行關係重要法規及定款ヲ掲グ。

● 印度支那銀行重要關係法規及定款

一　印度支那銀行ノ設立及其ノ定款ノ承認ニ關スル命令

（一千八百七十五年一月二十一日公布）

一千八百五十四年五月三日元老院決議書及一千八百五十一年七月十一日及一千八百七十四年六月二十四日殖民銀行設立ニ關スル法律ニ依リ海軍兼殖民大臣及大藏大臣ノ報告ニ基キ共和國大統領ハ左ノ命令ヲ發ス

第一條 印度支那銀行ナル名稱ヲ有スル發行、貸付、割引銀行ヲ交趾支那及佛領印度ニ於ケル殖民地ノ爲ニ設立ス

第二條 同銀行ノ特權ヲ印度支那銀行ノ名稱ノ下ニ組織セラレタル株式會社ニ附與ス、但同株式會社ハ本命令ニ添付セル定款ヲ遵奉スヘキモノトス

第三條 該特權ノ期限ヲ本日ヨリ二十箇年ト定ム

第四條 殖民銀行ノ利益ヲ保護スルノ目的ヲ以テ一千八百七十四年六月二十四日ノ法律ニ依リ發布セラレタル未收穫物及商品ヲ擔保トスル貸付ニ關スル各種ノ權利及特權ハ悉ク之ヲ印度支那銀行ニ賦與ス

第五條 殖民銀行監督委員ハ印度支那銀行ニ對シ前記法律ヲ以テ規定セラレタル權利及職權ヲ行使ス

第六條 海軍兼殖民大臣及大藏大臣ハ各其ノ關係事項ニ關シ本命令ノ執行ヲ分掌ス

本命令ハ Bulletin des Lois 及 Bulletin officiel de La Marine ニ掲載スヘシ

一千八百七十五年一月二十一日巴里ニ於テ

マレシヤル、ド、マクマホン署名

大藏大臣及海軍兼殖民大臣連署

二　印度支那銀行ノ特權ノ延長及擴張ニ關スル命令

（一千八百八十八年二月二十日公布）

一千八百五十四年五月三日元老院決議書、一千八百五十一年七月十一日及一千八百七十四年六月二十四日殖民銀行設立ニ關スル法律及一千八百七十五年一月二十一日印度支那銀行設立及該銀行定欵ノ承認ニ關スル命令ニ依リ海軍兼殖民大臣、外務大臣及大藏大臣ノ報告

ニ基キ殖民銀行監督委員ノ審査ヲ經共和國大統領ハ左ノ命令ヲ發ス

第一條　本命令ノ日附ヨリ六箇月以内ニ印度支那銀行ハヌメアニ支店ヲ開設スヘシ

同銀行ハ海軍兼殖民大臣ノ請求ニ基キ殖民銀行監督委員ノ承認ヲ經東蒲寨、安南及東京ニ出張所、ノシベ、メーヨツト及其ノ屬地ニ太洋洲ニ於ケル佛國殖民地ニ支店若クハ出張所ヲ設置スヘシ

但支店ハ海軍兼殖民大臣及大藏大臣ノ提案ニ基キ發布セラレタル命令ニヨリテ設置セラルヘキモノトシ出張所ハ海軍兼殖民大臣ノ令ニ依リ設置セラルヘキモノトス

同銀行ハ又海軍兼殖民大臣ノ要求ニ基キ殖民銀行監督委員ノ承認ヲ經支那、日本、印度洋及太平洋ニ於テ指定セラレタル諸港ニ出張所ヲ設置スヘシ但是等出張所ノ設置ハ外務大臣ノ同意ヲ得海軍兼殖民大臣ノ命令アルコトヲ要ス

第二條　一千八百七十五年一月二十一日ノ命令ニ依リ交趾支那及佛領印度ニ於テ印度支那銀行ニ賦與セラレタル特權ハ本命令ノ規定ニ依リニユーカレドニヤ、東蒲寨、安南及東京ノ保護國ニモ延長セラルヘシ但定款ノ規定ハ依然之ヲ遵奉スヘキモノトス

同該特權ハ支店設置ノ日ヨリ第一條ニ記載セラレタル他ノ殖民地ニモ同樣ニ擴張スヘキモノトス

第三條　佛國ノ主權ニ服シ同銀行ノ特權ノ及フ諸國ニ於テハ同銀行券ハ定款第十五條ノ規定ニ依リ流通スヘシ

銀行券ハ外務大臣ノ同意ヲ得海軍兼殖民大臣ノ命令ニ依リ保護國ニ於テモ法貨トシテ授受セシムルコトヲ得

第四條　同銀行ハ海軍兼殖民大臣ノ要求ニ基キ當事者相互ノ同意ヲ以テ規定セラレタル條件ニ依リ支店若クハ出張所ヲ有スル地ニ於テ國庫事務ヲ取扱フヘシ

第五條　印度支那銀行特權ノ期間ハ一千八百九十五年一月二十一日ヨリ十年間延長セラルヘシ

第六條　一千八百七十七年一月二十一日命令ニ依リ承認セラレタル定款第二、十五、十六、十七、十八、二十、二十四、四十六、五十四、六十二、及六十五條ハ追加條文ニ依リ改正セラルヘシ

第七條　海軍兼殖民大臣、外務大臣及大藏大臣ハ各自所管ノ事項ニ關シ本命令ノ執行ヲ分掌ス本命令ハ Bulletin des Lois. Journal officiel de La Replique francaise, 及巴里 Bulletin officiel de L' Administraticn des Colonies ニ掲載セラルヘシ

一千八百八十八年二月十日巴里ニ於テ

カルノー署名

關係諸大臣署名

三　印度支那銀行特權ノ延長ニ關スル命令

（一千九百年五月十六日發布）

一千八百五十四年五月三日元老院決議書、一千八百七十四年六月二十四日殖民銀行設立ニ關スル法律、一千八百七十五年印度支那銀行ノ設立ヲ許可シ同銀行定款ヲ承認セル命令及同上定款改正ニ關スル一千八百八十八年二月二十日命令ニ依リ殖民大臣、外務大臣及大藏大臣ノ報告ニ基キ殖民銀行監督委員會ノ審査ヲ得テ共和國大統領ハ茲ニ左ノ件ヲ命令ス

第一條　印度、印度支那及ニユーカレドニヤノ殖民地ニ於テ印度支那銀行ニ一千九百二十年一月二十一日ヲ期限トシ左ノ權利ヲ賦與ス

一　殖民銀行ノ利益ヲ保護スルノ目的ヲ以テ一千八百七十四年六月二十四日ノ法律ニ依リ許可セラレタル權利及特權

二　銀行券ノ獨占發行權

第二條　既ニ同銀行カ其ノ營業所ヲ有スル殖民地ニ於テ若クハ印度洋及太平洋ニ於ケル他ノ佛國殖民地若クハ保護國ニ於テ同銀行ヲシテ支店若クハ出張所ヲ設立セシムルコトヲ得

本命令第一條ノ規定ハ同銀行カ營業所ヲ設立スヘク命セラレタル佛國殖民地若クハ保護國ニモ當然適用セラルヘキモノトス

第三條　暹羅、支那、日本、及其ノ他佛領以外ノ印度洋及太平洋ニ於ケル諸港ニモ同銀行ヲシテ支店或ハ出張所ヲ設立セシムルコトヲ得

第四條　支店及出張所ハ殖民大臣、大藏大臣ノ提案ニ基キ殖民銀行監督委員ノ審査ヲ經テ發セラレタル命令ニ依リ設立セラルヘシ其ノ之ヲ閉鎖スル時亦同シ本命令第三條ノ規定ニ依ル外國ニ於ケル支店若クハ出張所ノ設立ニ關シテハ外務大臣ノ同意ヲ要ス

同銀行ノ重役會議ハ支店設立出張所設立ノ命令ニ關シ豫メ其ノ意見ヲ徴セラルヘシ

第五條　同銀行ハ額面一千法、五百法、百法、二十法及五法ノ銀行券ヲ發行ス

五法券ハ殖民大臣ノ認可ヲ受ケ大藏大臣ノ同意ヲ得ルニアラサレハ發行スルコトヲ得ス

銀行券ハ殖民大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ地方ノ貨幣ニ基キ其形式ヲ制定スルコトヲ得

第六條　佛國殖民地及保護國ニ於テハ唯支店ニ限リ銀行券ヲ發行スルコトヲ得

外國ニ於ケル支店及出張所ニ銀行券ノ發行ヲ認可スル場合ニハ外務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ要ス

銀行券ハ之ヲ發行シタル支店若クハ殖民大臣ト同銀行トノ同意ヲ以テ指定シタル支店及出張所ニ於テ呈示次第兌換セラルヘシ

第七條　各支店發行銀行券ノ總額ハ如何ナル場合ニ於テモ硬貨準備ノ三倍ヲ超過スヘカラス但硬貨準備中ニハ附屬出張所ニ保管セラルルモノヲモ包含ス

本規定ハ銀行券發行ノ認可ヲ得タル外國ニ於ケル出張所ニモ適用ス

第八條　銀行券ノ流通高、當座預金及其他ノ債務ノ總額ハ資本金及積立金ノ三倍ヲ超過スヘカラス

第九條　同銀行ノ營業所ヲ有スル佛領殖民地若クハ佛國保護國ニ於ケル同銀行券ハ其ノ兌換ヲ爲スヘキ支店ノ營業範圍地域内ニ於テ法貨トシテ授受セラルヘシ

第十條　銀行券ノ樣式ハ殖民大臣及大藏大臣ノ承諾ヲ受クヘシ但外國ニ於テ發行セラルヘキ小額銀行券ニ關シテハ外務大臣ノ同意ヲ要ス

銀行券製造機械ハ佛蘭西銀行ニ於テ保管スヘシ

第十一條　同銀行ハ殖民大臣ノ要求ニ基キ當事者間ニ協定セラルヘキ條件ニ依リ其ノ支店所在地ナル佛國殖民地若クハ保護國ニ於テ國庫事務ヲ取扱フヘシ

第十二條　同銀行ノ利益ヲ保護スル爲ニ質入若クハ收穫物ノ讓渡又ハ引渡其ノ他ノ方法ニ依リ質權ヲ設定シ當銀行ノ債權ヲ確實ナラシムルヲ目的トスル行爲ハ該質物カ定款ニ依リ特定セル擔保タルト追加擔保タルト其ノ他何モノタルトヲ問ハス總テ一定ノ手數料ヲ以テ登記ヲ受クヘシ

第十三條　銀行ヲ受取人トシ若クハ銀行ニ讓渡セラレタル手形ノ振出人、引受人及保證人ノ手形行爲並ニ其ノ擔保物件及保證ニ關スル裁判ハ商事裁判所ノ管轄トス

第十四條　殖民銀行監督委員ハ印度支那銀行ニ對シテ一千八百七十四年六月二十四日ノ法律ニ規定セラレタル權利及權限ヲ有ス

第十五條　本命令ニ添付セラルル印度支那銀行ノ定款ヲ承認ス

第十六條　本命令ハ一千八百七十五年一月二十一日及一千八百八十八年二月二十日付命令ニ代ルモノトス

第十七條　本命令ハ Bulletin des. Lois, 佛蘭西共和國官報、殖民省官報及關係殖民地官報ニ掲載ス

殖民大臣、外務大臣及大藏大臣ハ其ノ關係事項ニ關シ本命令ノ執行ヲ分掌ス

一千九百年五月十六日巴里ニ於テ

エミル、ルーベ署名

關係各大臣署名

四　印度支那銀行定款

一千八百七十五年一月二十一日印度支那銀行設立ニ關スル法律ニ添付セラレ且一千八百八十八年二月二十日及一千九百年五月十六日ノ命令ニ依リ改正セラレタルモノナリ

第一章　銀行ノ組織及業務

第一節　組織、存立期間、本店所在地

第一條　印度支那銀行ハ株式會社ニシテ凡テノ株主ニ依リ成立ス會社ノ負債ニ對スル各株主ノ責任ハ其ノ所有株金額ヲ以テ限度トス

第二條　當銀行ハ其ノ本店ヲ巴里ニ置キ其ノ存立期間ハ一千九百五年一月二十一日ヨリ向十五年間延長セラレタルモノトス

第二節　資本金

第三條　銀行ノ資本金ヲ二千四百萬法トシ之ヲ各五百法ノ株式四萬八千株ニ分ツ此ノ資本金ハ株主總會ノ決議ニ依リ殖民大臣ノ認可ヲ

得テ之チ增加スルコトチ得

（註一千九百五年十二月二十七日ノ株主總會ノ決議ニ依リ一千九百六年一月二十二日殖民大臣ノ認可ヲ得テ資本金チ三千六百萬法ニ增加シ一千九百十年一月十二日ノ臨時株主總會ニ於テ更ニ之ヲ四千八百萬法ニ增加スルノ議ヲ決シ同年一月二十六日殖民大臣ノ認可チ得タリ）

資本金增加ノ場合ニハ第一回發行株式ノ所有者ハ常ニ優先權チ有ス但一千八百八十八年二月二十日ノ命令ニ依リ賦與セラレタル特權ノ滿期日タル一千九百五年一月廿一日以後ハ此ノ優先權ハ凡テノ株主ニ歸屬ス第一回ノ拂込卽一株ニ付百二十五法ハ既ニ之チ終了セリ、更ニ一株ニ付百二十五法ノ第二回拂込ハ之ニ關スル重役會ノ通知後二箇月以內ニ於テ拂込マシムルコトチ得商業ノ發達若クハ其ノ他ノ理由ニ依リ必要ト認メタル場合ニハ殖民大臣ハ之カ拂込ヲ要求スルノ權利ヲ有ス殘餘ノ二百五十法ノ全部又ハ一部ノ拂込期日ハ重役會之チ定ム

株式ノ全部拂込ヲ終了スル迄ハ株券ハ記名式トス株券ハ控付原簿ヨリ切リ離シ重役二名之ニ署名ス然レトモ第一回ノ拂込ニ對シテハ單ニ假領收證ヲ交付ス

第四條　重役ハ拂込ナキ株式ヲ賣却スルコトチ得

株式ノ賣却ハ當銀行ノ諸報告ヲ揭載スル爲特ニ指定セラレタル巴里ノ二新聞ニ於テ延滯株主ニ對シ催告シタル後十日ヲ經テ之チ爲スコトチ要ス

株式ハ延滯株主ノ危險ニ於テ仲買人チ經由シ巴里株式取引所ニ於テ之チ賣却スヘシ但裁判所ノ命令又ハ滿期ノ豫告ヲ要セス賣却セラレタル株券ハ所持人ノ手中ニ在リテ無效トナリ銀行ハ同一番號ノ新株券ヲ買主ニ交付ス可シ本條ニ依ル處分ハ之ト同時ニ銀行カ法律上ノ普通手段ニ依リ署名者ニ對シテ訴追チ實行スル事ヲ妨ケス賣却代金カ延滯拂込金ヲ支拂ヒテ猶剩餘アル場合ニハ其ノ剩餘額ハ舊株主ノ所得トス

第五條　所要拂込ノ完了セサル株式ハ之チ讓渡スルコトヲ得ス

延滯株金ニ對シテハ銀行ハ當然ノ權利トシテ裁判所ノ承認チ待タス其ノ期日ヨリ起算シ年六分ノ割合チ以テ利子チ徵收スヘシ

六條　株券ニハ會社ノ證印ヲ押捺ス可シ

株券ハ株主ノ選擇ニ依リ記名若クハ無記名式トナスコトヲ得但全額拂込濟ノモノニ限ル

記名株券ノ譲渡ハ重役會ノ定ムル形式ニ從ヒ之ヲ爲スヘシ

無記名株券ハ單純ナル引渡ニ依リ譲渡セラル

第八條　株式ハ之ヲ分割スルコトヲ得ス

會社ハ一株ニ付一人ノ所有者ノ外承認セス

第九條　株式ニ屬スル權利ハ其ノ何人ノ手ニ渡ルヲ問ハス株券ニ伴フモノトス

第十條　株式ノ所有者ハ當然本定款及總會ノ決議ニ服從スルモノトス

第十一條　各株主ハ銀行ノ資産及利益ノ分配ニ就テハ同等ノ權利ヲ有ス

第十二條　株式ノ配當ハ其ノ記名タルト無記名タルトヲ問ハス株券所有者ニ支拂ハルヘシ

第十三條　株主ノ相續人、代理人若クハ債權者ハ如何ナル口實ヲ以テスルモ會社ノ財産及有價證券ヲ差押ヘ其ノ分配若クハ競賣ヲ請求シ又如何ナル形式ノ下ニモ其ノ管理ニ對シ容喙スルコトヲ得ス

第三節　業　務

第十四條　當銀行ハ如何ナル場名ニ於テモ又如何ナル口實ノ下ニモ本定款ニ規定セラレサル他ノ業務ニ從事スルコトヲ得ス

第十五條　當銀行ノ業務ハ銀行カ營業所ヲ有スル諸國ニ關係アル金融業務ヲ以テ唯一ノ目的トス即チ銀行ハ該諸國ニ於テ左ノ業務ニ從事ス

一、當銀行ノ設立ニ關スル命令ノ規定ニ從ヒ銀行券ノ發行

二、信用確實ナル二名以上ノ署名ヲ有シ期日百二十日ヲ超過セサル約手及當所拂爲替手形ノ割引、同條件ニテ期日六箇月以上ニ亘ラサル當座貸越

三、殖民地、本國若クハ外國宛記名式若クハ指圖式爲替手形「マンダ」若クハ小切手ノ發行、譲渡割引、購入、爲替手形ノ期日確定

セルモノハ百二十日ヲ超過スヘカラス確定セサルモノハ當所拂ニアリテハ一覽後九十日、他所拂ノモノハ一覽後百八十日ヲ超過スルコトヲ得ス

四、左ノ擔保ヲ有スル流通若クハ不流通證券ノ割引

（イ）公共倉庫、私有倉庫（此ノ場合ニハ其ノ鍵ヲ銀行ニ交付スヘシ）若クハ銀行所有ノ倉庫ニ保管スル貨物ノ庫入證書若クハ貨物領收書但土地ノ習慣ニ依リ之ヲ必要ト認ムル場合若クハ銀行カ確實ト認ムル場合ニハ銀行ハ借主ノ手許ニ在ル商品ニ對シ貸出ヲ爲スコトヲ得

（ロ）未收穫物ノ讓渡

（ハ）指圖式ニテ適當ニ裏書セラレ且保險證書ノ附帶スル船荷證券但船舶ノ到着ニ際シ船積證書ハ積荷ノ全部或ハ一部ニ對シ前項庫入ノ規定ニ依リ庫入證書ニ變更スル事ヲ得尙例外ノ場合若クハ土地ノ習慣上必要ト認ムル場合ニハ支拂人單獨ノ保證ヲ以テ船積證書ヲ仕拂人ニ交付スルコトアリ

（ニ）佛蘭西銀行ノ擔保トシテ受入ルヽ證券若クハ當銀行カ支店或ハ出張所ヲ有スル國又ハ佛領印度ノ政府若クハ市ニ依リテ發行セラレ若クハ保證セラレタル證券若クハ英國又ハ印度公債ノ購入

（ホ）金塊、金銀銅貨幣及其ノ他寶石ノ供托

（ヘ）船舶抵當權ニ關シ佛法ノ行ハルヽ國ニ於テ佛國船舶ノ上ニ設定セラレタル船舶抵當

五、金銀銅ノ賣買

六、金塊、貨幣、金銀、銅品若クハ寶石ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコト

七、利付若クハ無利子ニテ當座勘定ヲ開キテ金錢ヲ預ルコト又諸證券、金塊、貨幣、金銀銅製品ヲ預ルコト

巴里本店及支店出張所ニ於テ左ノ業務ヲ營ム

八、箇人勘定若クハ公共團體ノ勘定ニテ送付ヲ受ケタル諸證券ノ保管及取立並ニ「マンダ」若クハ小切手ノ支拂

九、國務大臣若クハ殖民地總督ノ認可ヲ經テ殖民地若クハ本國ニ於テ募集スル公債ノ手取金ヲ收納スルコト

十、約束手形、爲替手形若クハ「マンダ」ノ發行

十一、信用狀ノ發行

十二、佛國若クハ外國ニ於テ自己ノ勘定ニテ二名ノ署名ヲ有シ若クハ適當ニ裏書セラレ且保險證ヲ有スル指圖式船積證書ニ依リ保證セラレタル手形ノ割引

十三、佛國若クハ外國ニ於ケル金銀銅貨幣及物品ノ購入

此ノ外當銀行ハ其ノ營業ヲ爲ス諸國ニ於テ發行スル國債ノ募集ニ應スルコトヲ得其ノ額ハ總資本金額ノ四分ノ一ヲ超過スヘカラス但殖民大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス

前項ノ國債カ外國政府ノ發行ニカヽル場合ハ殖民大臣ノ外外務大臣ノ同意ヲ經ルコトヲ要ス

又當銀行ハ其ノ營業ヲ爲ス諸國ニ於ケル金融、工業及商業的企業ニ其ノ準備金ノ三分ノ一ヲ超過セサル範圍ニ於テ關係スルコトヲ得

當銀行ハ又第三者ノ爲又ハ第三者ヲ代表シテ取引ヲ爲スコトヲ得

第十六條　前條ノ規定ニ依リ二個ノ署名ヲ必要トスル場合ニ於テハ其ノ一個ノ署名ハ(一)當所拂手形若クハ不流通證券ニ關スルトキハ前條規定ノ有價證券ノ預托、商品庫入證書若クハ貨物領收書ノ供托、未收穫物ノ讓與(以下ニ規定セラルヘキ條件ニ依リ)金銀塊、貨幣、金銀銅製品ノ預托若クハ殖民地政府ニ對スル債權ノ讓與(但此ノ場合ニハ該債權ノ直ニ償還セラルヘキ性質ノモノナルカ若クハ仕拂ノ引受ケヲ爲シタルモノニ限ル)及殖民地政府若クハ保護國政廳ニ依リ保證セラレタル市ニ對スル債權ノ讓與ニヨリ(二)支拂期限ノ定メナキ爲替手形若クハ「マンダ」ニ關スル時ハ商品船積證書ニ依リ之ヲ代表スルコトヲ得

爲替手形ノ第二署名ハ銀行ニ宛テ仕拂人ヨリ差入レタル引受豫約書若クハ仕拂人ヨリ振出人宛信用狀取組ノ通知ヲ銀行ニナスコトニ依リ省約セラルヽコトヲ得

第十七條　重役會ニ依リ制定セラルヘキ銀行內規ハ當銀行ニ依リ割引セラルル手形(爲替手形ヲ含ム)ノ法定署名ノ代用トシテ並ニ貸付ノ擔保トシテ差入ルヘキ前記證券及物品ノ擔保價格ヲ決定ス預托商品ノ價格ハ仲買人及商業會議所ノ定メタル定價表ヲ超過スヘカラス

金銀貨及金塊ハ全部

金銀製品ハ其重量及含金量ニ依リ價格ヲ定ム

寶石ハ其價格ノ三分ノ一

收穫物ハ其價格ノ三分ノ一

國債及當行カ支店若クハ出張所ヲ有スル國ノ政府若クハ市ニ依リテ保證セラレタル證券ハ公定相場ノ五分ノ四

其ノ他承認セラレタル佛國諸證券ハ其ノ五分ノ三

銀行ニ預託シタル物品ハ銀行ノ承認シタル保險會社ニ依リ豫メ保險ヲ付セラルヽニ非ラサレハ銀行ハ之ニ保險ヲ附スヘシ

第十八條　當銀行支店ノ設置アル國ニ於テ印紙法ノ施行セラルヽ所ニハ當銀行ニ依リ割引セラルヘキ手形ハ印紙ヲ貼付セサル可カラス

當行ハ實際ノ取引ナキ慣合手形ハ割引セス

第十九條　當銀行ハ豫メ支拂基金ノ準備アルニ非ラサレハ爲替手形若クハ「マンダ」ヲ振出スコトヲ得ス

本國ニ存置セル資本金及準備金ノ全部若クハ一部分並ニ殖民銀行監督委員ノ同意ニ依リ殖民大臣ノ指定シタル本國ノ他銀行ニ開キタル借越契約ハ之ヲ準備ト爲スコトヲ得

第二十條　當銀行ハ一千八百七十四年六月廿四日付法律ノ規定ニ依リ個人若クハ法人ノ農業團體ニ對シ未收穫物ヲ擔保トシテ貸付ヲナスコトヲ得

若シ此等貸出ニシテ地方政廳ヲ以テ爲サルヽ時ハ其條件ハ當該政廳ト銀行トノ協定ニ依リ定メラル可シ

第二十一條　未收穫物ノ讓渡ニ依リ保證セラレ當座取引ヲ開始スルニ至ラシメタル不流通手形ノ期限ハ其ノ讓渡サレタル作物ノ收穫時期迄延長スルコトヲ得

當銀行ハ又其ノ收穫物ノ取入レラルヽニ從ヒ法律、規定ニ據リ特ニ指定セラレタル倉庫中ニ之ヲ納メ未收穫物ヲ擔保トセル貸付ヲ商品擔保付貸付ニ變更スルコトヲ契約スルコトヲ得

第二十二條　稅關倉庫若クハ銀行所屬倉庫若クハ地方長官ニ依リ特ニ此ノ目的ヲ以テ指定セラレタル倉庫ハ之ヲ公開倉庫ト見做シ當銀

行手形ノ副抵當タル商品ヲ保管スルコトヲ得

當該商品ハ倉入證券ニ依リ代表セラレ倉入證券ハ裏書ニ依リ轉輾セラル、モノトス

個人ノ所有セル倉庫ニ在ル擔保品ニ就テハ其ノ鍵ヲ銀行ニ交付スルコトニ依リ在庫品ノ引渡シト見做スコトヲ得但シ其ノ交付ハ監査官ニ依リ捺印セラレタル書面ニヨリテ證明セラルヘキコトヲ要ス

第二十三條　貸付金カ期日ニ於テ返濟セラレサル場合ニハ銀行ハ單純ナル滿期到着通知後一週間ヲ經テ其ノ擔保物カ商品、金銀、製品、寶石、未收穫物若クハ既收穫物若クハ證券タルヲ問ハス銀行カ債務者ニ對シテ執行シ得ル他ノ訴追ヲ妨クル事ナクシテ執達吏ニ依リ貸金利子及其ノ他費用ノ全部償却ニ要スル金額ニ限リ之ヲ公賣スルコトヲ得ルノ權能ヲ有ス

第二十四條　若シ手形ノ支拂ニシテ第十五條ニ列記シタル有價證券ニ依リ保證セラレタル場合ハ銀行ハ拒絶若クハ滿期到着ノ單純ナル通知後一週間ヲ經テ後其ノ貸出額全部償却ニ要スル金額ヲ限リ當該商品若クハ證券ヲ賣却スルコトヲ得

未收穫物ニ關スル場合ニハ銀行ハ圃ニアルマヽニテ賣却スルトモ之ヲ精製スル爲自行ニ取入ルルトモ自由ニ選擇ヲ爲スコトヲ得

第二十五條　第十五條第四項ニ列擧シタル證券ノ一ニ依リ保證セラレサル手形カ指圖式ニアラサル時ハ債務者ハ期限前ニ其ノ支拂ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニハ其ノ時ヨリ滿期ニ達スル迄ノ時日ニ從テ利子ノ割戻ヲナス

第二十六條　當銀行ニ追加擔保ヲ供スルコトハ手形ノ署名人ニ對スル訴追ヲ妨ケス此ノ訴追ノ提起ハ貸付タル元金、利息及費用ヲ超過セサル金額ヲ限リ銀行カ自己ノ利益ノ爲ニ擔保品ノ賣却ヲ目的トスル訴訟ト共ニ之ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　割引料ハ日數ニ應シテ之ヲ課シ一覽後幾日ト云フ手形ハ其ノ割引料ヲ一覽後ノ日數ニ應シテ之ヲ課ス若シ他所拂若クハ殖民地以外ニ支拂ハルル場合ニハ其ノ距離ニ依リテ到着スヘキ日數ノ割引料ヲ加算ス

第二十八條　當座勘定ニ預入シタル資金若クハ上記ノ規定ニ基キ收穫物讓渡ノ結果銀行カ許シタル貸越ノ限度ニ對シテハ何人モ故障ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二十九條　當銀行ハ内規ニ依リ割引勘定及當座勘定ノ開始ニ關スル規定ヲ定ム

第三十條　銀行ハ預リ品ニ對シテ領收書ヲ交附ス該領收書ニハ預リ品ノ性質、價格及預ケ主ノ姓名及住所、預ケタル日及返却スヘキ日

付並ニ登錄番號ヲ記載スヘシ

領收書ハ指圖式トセス且ツ裏書ニ依リ讓渡スルコトヲ得ス銀行ハ貸出ノ擔保品ニアラサル預リ品ニ對シテハ其ノ預托ノ際內規ニ依リ定メラレタル保管手數料ヲ徵收ス

若シ預ケ主ノ請求ニ依リ預リ品ノ返却期日前ニ同預リ品ニ對シ貸出ヲ爲スコトアルモ曩ニ領收シタル手數料ハ返却セサルヘシ

第三十一條　當銀行ハ每月巴里ニ於ケル官報ニ其ノ營業狀況ヲ揭載ス

各支店若クハ出張所ニアリテモ當該地方政廳ニ依リ指定セラレタル新聞紙ニ其ノ狀況ヲ揭載スヘシ

第四節　配當及積立金

第三十二條　六箇月每卽チ六月三十日及十二月三十一日ノ兩回當銀行ノ帳簿ヲ締切リ其ノ勘定ヲ精算シ營業ノ結果ヲ確定ス

六箇月間ノ純利益ノ內ヨリ總拂込資本金ノ千分ノ五ヲ引去リ之ヲ以テ法定積立金ト爲シタル後總拂込資本金ニ對シ年六分ニ相當スル第一配當ヲ爲スヘシ

第三十三條　以上ノ分配ヲ了シタル後殘餘アル時ハ次ノ如ク分配スヘシ

準備積立金　一割

重役會報酬　一割

第二配當　八割

若シ利益不充分ニシテ拂込株金ニ對シ年六分ノ配當ヲ爲スコト能ハサル時ハ六分ニ達スルマテ準備積立金ノ內ヨリ之ヲ塡補スヘシ

然レトモ前項ノ分配ハ殖民大臣ノ認可ヲ要スルモノトス

第三十四條　期限後五箇年間請求セラレサル配當金ハ會社ノ利益ニ繰入レラルヘシ

第三十五條　配當金ハ第三十三條ノ認可ヲ經タル後巴里本店若ハ支店ニ於テ支拂フヘシ

第二章　銀行ノ管理

第一節　總　會

第三十六條　正當ニ成立シタル總會ハ株主全體ヲ代表ス總會ハ銀行ノ原簿ニ依リ過去滿六箇月間最多數ノ株式ヲ所有セル百人ノ株主ヨリ成立ス但株主ニシテ同株數ヲ所有スル場合ニハ先ニ株主ト爲レルモノ其ノ權利ヲ有シ又同株數ヲ有シテ同時ニ株主ト爲レルモノニ就テハ年長者其ノ權利ヲ有ス

佛國人ニアラサル株主ハ少トクモ五年間佛國若クハ佛領殖民地ニ居住スルニアラサレハ總會ニ出席スルコトヲ得ス

又本定款ノ決定セル日（一千九百年五月十六日）以後佛國人ニアラスシテ當銀行ノ株主ト爲レルモノハ其ノ株式取得ノ原因如何ヲ問ハス一千九百〇五年一月二十一日以後ハ總會ニ出席スルヲ得ス

總會ニ出席セシカ爲ニ株主ヨリ預託ヲ受ケタル株式ニ對シテハ記名領收書ヲ交付スヘシ該領收書ハ總會入場券ノ用ヲ爲スモノトス

株券ノ預託ヲ受ケタル株主ノ名簿ヲ調製シ之ニ各株主ノ姓名、住所、所有株數ヲ記載シ之カ閱覽ヲ希望スル株主ノ用ニ供シ總會ノ當日ニハ之ヲ總會事務室ニ備ヘ置クヘシ

總會出席簿ハ總會事務室ニテ認證セラレ本店ニ保存シテ希望者ニ閱覽セシムヘシ

第三十七條　何人ニモ總會ニ出席スル資格アル者以外ノモノヲシテ總會ニ自己ヲ代表セシムルコトヲ得ス

第三十八條　議決ハ出席會員ノ多數ニ依リテ決ス

各十株ニ付一票ノ權ヲ與フ但何人モ自己ノ名ニ於テ若クハ代理人トシテ一人十票以上ノ權利者タルコトヲ得ス

第三十九條　總會ハ每年五月當銀行本店若クハ召集通知書ニ記載セラレタル場所ニ於テ開會ス

總會ハ重役會ニ依リ召集セラレ重役會長之カ議長トナル會長差支アルトキハ副會長若クハ重役ノ互選ニ依リ指名セラレタル重役ノ一人之カ議長トナル開票立會人トシテハ出席株主中最大ノ株主二人之ニ當リ若シ承認セサルトキハ其ノ次ノ株主之ニ當リ承認ヲ得ル迄順次之ヲ次席ニ讓ル

總會事務室ニ秘書役ヲ置ク

第四十條　總會ハ當銀行ノ營業及ヒ議事日程記載ノ問題ニ關スル重役會ノ報告ヲ受ク總會ハ計算ヲ討論シ若クハ拒絕ス

總會ハ本定款第三十二條及三十三條ニ準據シ配當額ヲ定ム

總會ハ重役會提出ノ諸問題ヲ議シ殊ニ資本金ノ增額業務ノ擴張、定欵ノ變更、存立期限ノ延長若クハ滿期前解散及其ノ他定款ニ規定セラレ又規定セレサル諸提議ヲ議決ス

總會ハ重役會ノ推薦ニ基キ重役ヲ選擧ス

投票ハ之ヲ請求スルモノアル時ハ無記名タルヘク且過半數ヲ以テ決セラルヘシ

投票二回ノ後猶過半數ヲ得タルモノナキ時ハ第二回ニ最大多數ヲ得タル候補二人ノ內ニ決選投票ヲ行フヘシ若シ決選投票ノ場合ニ於テ二人同數ナル時ハ年長者ヲ以テ當選者トス

第四十一條　總會ノ決議ハ其ノ第一回ニ於テハ少クトモ總資本金額ノ四分ノ一ヲ代表スル二十人以上ノ株主本人若クハ代表者カ出席スルニ非ラサレハ無効トス若シ出席株主定數ニ達セス又ハ資本金ノ定額ニ達セサル時ハ十五日以內ニ第二回總會ヲ召集スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ數ハ幾何ナルモ其ノ決議ハ有効トス但其ノ議事ハ第一回總會ノ議事日程ニ記載セルモノニ限ル

第四十二條　臨時總會ハ重役會カ其ノ必要ヲ認ムル時何時ニテモ之ヲ召集スルコトヲ得

臨時總會ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ召集スルコトヲ要ス

一、少クトモ其ノ合計總資本金額三分ノ一ヲ有スル株主カ重役會ニ宛テ書面ヲ以テ其ノ理由ヲ認メタル要求ヲ呈出シタル場合但此ノ場合ニ於テハ二箇月以內ニ總會ヲ召集セサルヘカラス

二、當銀行營業上ノ損失ニ依リ資本金ヲ半減シタル場合

第四十三條　定期及臨時總會ノ召集ハ其ノ開催ノ日ヨリ少クトモ十五日前ニ當銀行株主名簿ニ記載セル住所ニ據リ總會々員タル株主ノ各自ニ宛テタル書面並ニ諸會社ノ廣告ニ關シ指定セラレタル巴里ニ於ケル一個ノ新聞紙ノ廣告ヲ以テ通告スルコトヲ要ス

該書面及廣告ニハ會議ノ目的ノ梗概ヲ掲クヘシ

總會ニ提議ヲ爲サントスル株主ハ之ヲ五日前ニ重役會ニ提出スヘシ重役會ハ之ヲ議事日程ニ載ス可キヤ否ヤヲ決ス可シ

議事日程ニ記載セラレサル問題ハ一切總會ニ於テ議スルコトヲ得ス

總會開會八日前當銀行現況ノ梗概ヲ記述セル報告書ヲ本店ニ備置キ株主ノ閲覽ニ供スヘシ

第四十四條　定款ノ改正、存立期間ノ延長及滿期前解散ニ關スル問題ヲ議決スル爲ニ召集セラレタル總會ハ少クトモ資本金ノ半額ヲ代表スル株主出席スルニ非ラサレハ有效ナル決議ヲ爲スコトヲ得ス

召集ノ通知狀ニハ召集ノ目的ヲ記載スヘシ然レトモ第四十二條ノ規定ニ依リ第二回總會ノ召集セラレタル場合ニハ出席又ハ代表セラレタル株主ノ數ニ關セス其ノ決議ハ有效トス

第四十五條　定款ニ從ヒ採用セラレタル總會ノ決議ハ欠席者、反對者及其ノ他ノ株主ヲ拘束ス

決議ハ特ニ備ヘラレタル議事錄ニ記載シ議長、立會人及秘書役之ニ署名ス此ノ議事錄ハ本店ニ保管セラル別ニ總會出席員ノ姓名並ニ株式數ヲ記載セル出席表ヲ調製シテ之ヲ議事錄ニ添付スヘシ但該出席表モ亦議事錄ト同樣ノ署名ヲ要スルモノトス

第四十六條　第三者ニ對スル事項ニ關スル總會ノ決議ハ重役會長ニ依リ證明セラレタル謄本若クハ拔書ヲ以テ之ヲ證スヘシ

第二節　重役會

第四十七條　當銀行ハ八人以上十五人以內ノ會員ヲ有スル重役會ノ支配ヲ受ク重役ハ佛國人ニシテ株主總會ニ於テ重役會ノ推薦ニ基キ選擧セラルルモノトス重役會ニハ政府ノ監理官陪席ス

第四十八條　重役ノ任期ハ五年ニシテ每年二人ノ割合ヲ以テ改選ス但其ノ交替順序ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ重役ハ再選セラルルコトヲ得

重役ノ死亡又ハ辭職ノ場合ニハ重役會ハ本定款第四十九條ノ規定ニ相當スル株主ノ中ヨリ次ノ總會迄之カ代人ヲ推薦スルコトヲ得

斯ノ如クニシテ推薦セラレタル重役ノ任期ハ前任者ノ滿期ヲ以テ盡クルモノトス

第四十九條　就職ニ際シ各重役ハ當行株四十株ヲ所有スルコトヲ證明セサル可ラス

而シテ此ノ株ハ成規ノ拂込ヲ了シタルモノタルコトヲ要シ且其ノ任期中ハ讓渡スルコトヲ得ス

第五十條　重役ハ出席日數ニ準シ一定ノ報酬ヲ受ク但其ノ金額ハ總會之ヲ定ム

第三十三條ニ依リ重役ニ屬スル利益分配額ノ半額ハ出席ニ對スル報酬トシテ分配セラルヘシ

第五十一條　重役會ハ當銀行業務ノ執行ニ關シ最大最高ノ權力ヲ有シ業務全般ノ審議ヲナシ內規ヲ制定シ割引料、利息、爲替料、手數料及保管料金ノ率ヲ定メ且金塊、貨幣、金銀製品、商品、收穫物ノ鑑定方法ヲ決定ス

重役會ハ定款ニ規定セル範圍內ニ於テ萬般ノ業務ヲ裁決シ其ノ條件ヲ定ム

重役會ハ第三十二條及第三十三條ニ規定セル積立金及準備金ノ用途ヲ定メ割引ヲ許スヘキ手形及證券ヲ選擇シ（但拒絕ノ場合ニ於テモ其ノ理由ヲ示スノ義務ナシ）銀行券ニ附セラルヘキ署名其ノ回收及廢棄ニ關スル規定ヲ定ム

重役會ハ各種契約、取引、資金運用、國債其ノ他證券ノ讓渡、債權其ノ他權利ノ取得、讓與、放棄竝ニ登記其ノ他法律上ノ行爲ヲ爲シ及和解ヲ爲シ不動產ノ取得若クハ讓渡ヲ爲シ負債ヲ爲シ及質權ノ設定ヲ爲スコトヲ得

重役會ハ法令ノ規定ニ從ヒ不動產其ノ他ノ下附ヲ要求シ當銀行ノ各種ノ業務ヲ執行シ當銀行ニ屬スル各種債權商業手形及其ノ他各種證券ノ書換及取立ヲ決定ス當銀行カ本定款若クハ內規ニ違反スルコトナキヤヲ監視シ且總會ヲ召集シ議事日程ヲ定メ又議事ニ附スヘキ問題ヲ定ム

重役會ハ局課ノ分合、職員ノ任免及使用人ノ俸給及報酬、總經費ヲ決定ス

重役會ハ上記權能及職務ノ全部若クハ一部ヲ他ニ委任スルコトヲ得

第五十二條　重役會ハ會員ノ內ヨリ議長及副議長ヲ互選シ且秘書役ヲ指定ス

重役會ハ重役會議ノ決議ヲ記錄スヘシ重役會ニ依リテ承認セラレタル決議錄ハ議長及秘書役ニ依リ署名セラルヘシ

第五十三條　重役會議ハ少クトモ每月一回本店ニ於テ開カシヘシ

臨時重役會議ハ必要ト認メラルル時若クハ監理官カ之ヲ要求スルトキ何時ニテモ開會スヘシ

重役會議ニ於テハ少クトモ重役五人ノ出席ナキトキハ其ノ決議ヲ無效トス

第五十四條　決議ハ出席會員ノ多數ヲ以テ決シ可否同數ナル時ハ議長之ヲ決ス

欠席セル重役ハ特定ノ事件ニ對シ他ノ重役ヲシテ自己ヲ代表セシムルコトヲ得但シ如何ナル場合ニ於テモ一人ノ重役ハ自己ノ投票權以外二以上ノ投票權ヲ有セス

第五十五條　總會ニ提出セラルヘキ營業報告書ハ重役會ニ於テ之ヲ定ム但該報告書ハ之ヲ印刷ニ附シ殖民大臣ニ提出シ且各總會各員ニ交付スヘシ

第五十六條　重役會ハ殖民大臣ノ同意ヲ得テ銀行ノ業務ヲ擔任スヘキ支配人ヲ選定ス此ノ支配人ハ重役會ノ決議ノ執行ニ關シテハ第三者ニ對シ當銀行ヲ代表ス重役會ハ支配人ノ俸給ヲ定ム

第五十七條　裁判上ノ行爲ハ重役會ノ名ヲ以テ爲シ起訴及訴訟手續ハ支配人ノ名ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五十八條　支配人ハ商業ヲ營ムコトヲ得ス支配人ノ署名アル手形及證券ハ割引クコトヲ得ス

第五十九條　支配人ハ其ノ就職ニ際シ自己カ二十株ヲ所有スルコトヲ證明スヘシ而シテ此ノ二十株ハ在職中他ニ讓渡スコトヲ得ス該株式ハ當銀行ノ金庫中ニ保管セラル

第六十條　各支店ニ割引相談會ヲ設ク其ノ成立、權限及報酬ハ重役會ニ於テ定メラレタル規則ニ據ル

第三節　監理官及監査官

第六十一條　印度支那銀行ニハ殖民大臣ニ依リ指定セラレタル監理官ヲ置ク

第六十二條　監理官ハ重役會及株主總會ニ出席ス監理官ハ當銀行ノ定款及規則ノ執行當銀行及各般ノ業務ヲ監督シ準備金、諸記錄及諸證券ノ現況ヲ視察シ且銀行諸帳簿ノ拔萃及複寫ヲ請求スルコトヲ得

監理官ハ有益ト信スル計畫ハ之ヲ提案シ且其ノ提案及意見ヲ重役會決議錄ニ記載セシムルコトヲ得

第六十三條　監理官ハ毎月銀行ノ營業ニ關シ殖民大臣ニ報告ヲ爲スヘシ該報告ニハ重役會決議錄、本店及各支店ノ毎月狀況報告書ノ複寫ヲ添付スヘシ

監理官ニ欠任若クハ故障アル場合ニハ殖民大臣ハ其ノ代理者ヲ指名スヘシ

第六十四條　監査官ハ殖民大臣之ヲ指名シ當銀行各支店ニ之ヲ置ク佛領以外ニアル支店ノ場合ハ其ノ任命ハ外務大臣ノ意見ニ從フモノトス

第六十五條　支店ニ於ケル監査官ハ本店ニ於テ監理官ノ職務トシテ本定款第六十二條ニ規定セラレタル職務ヲ執行ス

監査官ハ其ノ職務ヲ執行スル爲特ニ備付ケラレタル帳簿ニ監査ニ關スル意見ヲ登録スルコトヲ要シ少クトモ毎月一回又ハ必要ト認ムルトキ總督並ニ殖民大臣ニ對シ報告ヲ提出スヘキモノトス

監査官カ死亡又ハ辭職其ノ他ノ事由ニヨリ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ殖民地總督ハ直ニ其ノ代理者ヲ選任スヘシ

第六十六條　監査官及監理人ノ報酬ハ殖民大臣之ヲ定メ銀行ヨリ支給ス

第六十七條　殖民大臣並ニ殖民地總督ハ其ノ職權ヲ以テ又ハ殖民銀行監督委員會ノ請求ニ依リ何時ニテモ官吏ヲ派シテ銀行ノ諸帳簿、金庫及業務ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三章　雜則

第六十八條　銀行カ營業ノ爲ニ資本金ノ三分ノ二以上ノ缺損ヲ生シタルトキハ當然清算ヲ開始スヘキモノトス

前項ノ缺損額カ資本金ノ三分ノ一ニ達セル場合ニハ之カ爲臨時ニ招集セラレタル株主總會ハ清算ヲ請求スルコトヲ得但其ノ清算ノ請求ハ資本金ノ三分ノ二以上ヲ代表スル半數以上ノ株主出席シ其ノ決議ニ基クコトヲ要ス

政府ハ右ノ請求ニ對シ殖民地全般並ニ債權者ノ被ルヘキ利害ヲ審査シ殖民銀行監督委員會及參事院ノ意見ヲ徴シタル上大統領ノ命令ヲ以テ之ヲ決ス

第六十九條　裁判上ノ爭議ニ關シテハ株主ハ巴里ニ其ノ居所ヲ選定スヘシ

前項ノ特別居所ヲ定メサル株主ニ對スル召喚、通告其ノ他裁判上並ニ裁判外ノ書類ノ送達ハセーヌ始審民事裁判所檢事局ヘ宛テ爲シタル送達ヲ以テ有効トス株主ト重役會トノ間ニ起レル爭議ハ一切セーヌ裁判所ノ管轄トス

第七十條　特權滿期二箇年前ニ銀行ハ株主總會ヲ招集シ特權更新ニ關シ政府ニ請願スヘキヤ否ヤヲ議決スヘシ

本定款ハ一千九百年五月十六日ノ命令ニ添付セルモノトス

殖民大臣　アルバート、デクレイ

獨亞銀行

沿革

獨亞銀行(Deutsch Asiatische Bank)ハ德華銀行ト稱セラレ、一八八九年二月十二日伯林ニ於テ設立セラレ、同年五月十五日上海ニ於テ獨逸總領事館ニ登記セラレタルモノニシテ、獨逸ノ極東經營殊ニ對支發展ノ爲ニ特設セラレタルモノナリ、抑本銀行設立ノ當時支那ニ於ケル列國投資家ノ競爭漸ク激甚ナラントスルモノアリ、獨逸ニ於ケル對支投資團ニモ二派ヲ生ジ、一ハヂスコント銀行ヲ中心トシ、他ハドイッチエ銀行ヲ盟主トシ、兩者相競フノ狀アリシヨリ、政府當局及財界有力者ノ間ニ支那ニ對スル金融ノ爲ニ一銀行ヲ特設セントスルノ議ヲ生ジタリシガ、其方法ニ關シ二說ヲ生ゼリ、一ハ普魯西國立銀行タルゼーハンドルングニ倣ヒ設立セラレタル銀行ノ支店ヲ東洋ニ設ケントスルモノニシテ、ヂスコント銀行ノ提議ニ係リ、他ハ獨逸帝國銀行ニ從屬スル銀行ヲ設立セントスルモノニシテ當時ノ帝國銀行總裁フォンデツヘンドノ發案ニ成レリ、然レドモ右二案ハ獨逸商法株式ニ關スル規定ト衝突スルノ故ヲ以テ實現セザリシガ、後此點ニ關スル法律上ノ疑義解決セラレ、且又ヂスコント銀行熱心之ガ設立ヲ主張シタル爲遂ニ獨逸ニ於ケル有力ナル銀行ノ合同ニヨリ本行ノ創立ヲ見ルニ至レリ、本銀行ヲ組成セル各銀行名次ノ如シ。

イ、デイレクテイオン、チア、デスカウンター、ゲセルシヤフト
ロ、獨逸銀行
ハ、ブライヒローデル
ニ、ベルリナー、ハンデルス、ゲセルシヤフト
ホ、バンク、フサエル、ハンデル、ウント、インダルトリエ
ヘ、モイデルス、ゾーン、ウント、コンパニー、ベルリン
ト、ヤコツプ、イー、ハー、ステルン
チ、ノルドドイツチ、バンク、イン、ハンブルグ
リ、ザル、オツペンハイム、ユン、ウント、コンパニー、コロン
ヌ、バイエルヘ、ヒポテケン、ウント、ワクセル、バンク
ル、ドレスドナー、バンク、ベルリン
ヲ、ナチヨナル、バンク、フキエル、ドイツランド、ベルリン
ワ、アー、シヨツフ、ハウゼンセル、バンクヘライン、コロン

一八八九年本行創立後一八九六年初メテ伯林ニ支店ヲ設置シ、更ニ同年カルカツタニ支店ヲ設ケ、一八九七年天津漢口ニ、獨逸專管居留地ノ設ケラルヽヤ此ニ支店ヲ増設シ、又其年膠州灣租借條約成

ルヤ直ニ青島支店ヲ設ケタリ、其後一八九九年香港支店ヲ、一九〇四年濟南支店ヲ、一九〇五年北京支店、横濱支店ヲ、一九〇六年神戸支店ヲ、一九〇六年新嘉坡支店、横濱支店ヲ、一九一一年ニハ廣東支店ヲ設置セリ。

斯クテ東亞各地ニ渉リテ支店ヲ設ケ、是等地方ニアル自國商人ノ便益ヲ圖ルト共ニ、一方支那ニアリテハ投資團ノ一員トシテ活動シ來リシガ、歐洲大戰開始ノ結果青島、濟南支店ハ日本ノ爲ニ占領閉店セラレ、香港等ノ英領内支店ハ英國官憲ヨリ閉店清算ヲ命ゼラレタリシガ、其後支那參戰ノ結果其在支本支店一律ニ閉店ヲ命ゼラレ、現在ニテハ全ク倒閉ノ狀態ニアリ、將來ト雖モ再起ハ困難ナルベシ。

資本金

本行資本金ハ一八八九年ノ設立ノ初ニアリテハ五百萬上海兩ナリシガ、一九〇四年七百五十萬兩ニ增資セリ、拂込ハ創立ノ際ハ四分一卽百二十五萬兩ナリシガ、カルカツタ支店設置ト共ニ資金ノ需要增加セルヨリ一八九七年四分ノ三卽三百七十五萬兩ノ拂込トナシ、更ニ香港支店ノ開設ト共ニ一九〇〇年五百萬兩全額ノ拂込ヲナシ、後一九〇四年ノ增資ノ際拂込ヲ四分ノ三卽五百六十二萬兩トナセシガ一九〇六年全額拂込濟トナセリ。

株式ハ上海兩ヲ以テ稱呼トセルモ、株金ノ拂込ハ獨逸本位貨幣タル馬克ヲ以テセザルベカラズ、而シテ馬克ノ上海兩ニ對スル換算率ハ監査役ニ於テ隨時之レヲ決定スルモノトス、斯ク外國ノ貨幣ヲ以テ資本ヲ表示スル點ニツイテハ本行設立前經濟上及法律上ノ兩方面ヨリ研究セラレタルガ、(一)經濟上ノ問題トシテハ外國貨幣殊ニ銀本位ノ貨幣ヲ以テ株式ヲ形成スルハ銀行經營上果シテ有利ナリヤ否ヤト云フニアリキ、此ノ問題ハ初メ貨幣相場ノ變動ニヨリ海外銀行ガ蒙ルベキ損失ヲ防止スルノ方法如何トノ問題ニ關聯シテ起リタルモノニシテ、此ノ根本問題ハ今日ニ至ルモ尚解決セラレズト雖モ、少クトモ株式ハ金銀孰レノ勘定ニテ之レヲ發行スルヲ有利トスルヤニツイテハ絕對的ニ斷定シ難ク、個々ノ場合ニヨリ決定スル外ナシ、而シテ爲替相場ノ變動ヨリ生ズル危險ヲ避クルガ爲ニハ金本位ノ方概シテ優レルモノアルモ、外國ニ在リテ當該國人ヲ得意トシテ之レヲ我ニ誘引スルガ爲ニハ當該國ノ貨幣ヲ以テスル方便利ナリトシ、遂ニ上海兩ヲ採用スルニ決セリ、(二)法律上ノ問題トシテハ獨逸商法第八十條ノ解釋如何ニアリ、卽チ同條第一項ニハ「株式ノ金額ハ少クモ千馬克ニテ發行スルヲ要ス」ト規定セルヨリ、株式ハ馬克ヲ以テ發行スルヲ要ストノ意見アリシガ、右ハ解釋上單ニ株式ノ最低額ヲ定メタルモノニシテ、幣種ヲ定メタルニアラズト云フニ決定セリ、本行ノ株式ハ上海兩ヲ以テ定ムルモ配當ハ馬克ニ換算シテ支拂フヲ要シ、其場合ノ換算率亦監査役ノ決定ニ委ス.

本行ノ株券ハ無記名式ニシテ一株ノ全額一千上海兩トス

機關

獨亞銀行ノ機關ハ監査役、取締役及株主總會ノ三者ヨリ成ル。

(一)監査役　監査役ハ十二人以上二十五人以下ヨリ成リ株主總會ニ於テ之レヲ選任ス、監査役ヲ構成スル各員ハ獨逸商法ノ規定ニ從ヒ必ズシモ自身ガ本行ノ株主タルコトヲ必要トセズ、然レドモ現在十五人ノ監査役中ヂスコントー銀行三人、ドイツチエ銀行二人、ドレスデン銀行、ダルムスタツト銀行、シヤーフハウゼン銀行組合、ナチヨナル銀行等是等銀行ヨリ十人ヲ出シツヽアルハ株主銀行ノ代表者ノ如クナルガ、コハ法律上又ハ定款ニ基ク當然ノ結果ニハアラザルナリ。

是等監査役ヲ構成スル各員ノ中五人ハ伯林ニ於テ、全員ノ四分ノ三ハ獨逸帝國ニ於テ、又其全員ハ歐羅巴ニ於テ住所ヲ有スルコトヲ要シ、又監査役ハ其中ヨリ頭取及副頭取ヲ互選シ且頭取ノ選任ニツイテハ獨逸皇帝ノ裁可ヲ仰グベキモノトス。

頭取、副頭取及監査役ノ任期ハ四年トシ、又監査役ハ無報酬ニシテ唯利益配當ヲ受クル權利ヲ有シ、重要行務ハ監査役會ヲ開キテ之ヲ決ス、其權限ノ主要ナルハ(一)取締役ノ任免、(二)帳簿書類ノ檢査、(三)貸借對照表及損益計算書ノ審査、(四)株主總會ニ對スル決算書及利益分配案ノ提出等トス。

(二)取締役　取締役ハ二人以上ヨリ成リ監査役之レヲ任命ス、但シ必ズシモ株主タルコトヲ要セズ、

取締役ハ銀行ヲ代表スル機關ニシテ、其各員ハ部署ヲ定メテ本店又ハ支店ノ常務ヲ處理シ、且取締役會ヲ開キ常務ヲ評議ス、取締役ハ使用人ヲ任免黜陟スルコトヲ得ベク、會社ノ意思表示ハ取締役ノ二人ニヨリ又ハ其一人ト取締役ニ準スベキモノ一人ニヨリ爲サルベク、取締役ノ報酬ハ營業費中ヨリ支出スルモノトス。

(三)株主總會　株主總會ニ通常臨時ノ二アリ、通常株主總會ハ毎年一回上半季中ニ開クベク、總會ハ伯林、漢堡又ハブレーメンニ於テ開クベキモノトス。

業務

本行ハ獨領膠州灣、支那各地及東亞ニ於テ一般銀行業務ヲ行フノ外、本國ト亞細亞間ノ貿易ノ發達ヲ促進スル爲ノ目的ヲ有スルモノニシテ、東洋ニ於テ各種銀行業務ニ從事スルコトヲ得レドモ、自己ノ計算ニ於テ商品取引ヲナスコト、本國ニ於テ預金及振替業務ヲナスコトヲ禁止セラル、今其主要業務ニツイテ説明ヲ加ヘンカ。

(一)發券業務　本行ハ一九〇六年六月八日附帝國宰相ノ特許狀ニ基キ一九〇四年十月三十日ヨリ十五ケ年間獨領膠州灣及支那各地ニ於テ銀行券ヲ發行スルノ特權アリ、其結果本行ハ青島ニ於テハ一九〇七年六月ヨリ其他ノ支那各地ニ於テハ同年十一月ヨリ發行ヲ開始シ、同年末ニハ發行額四十四萬七千

兩ナリシモノ爾後次第ニ増加シテ一九一一年末ニハ百四十六萬四千兩ニ増加セルガ、歐洲大戰ノ結果其本支店閉鎖ト共ニ其通用モ杜絶セリ。

其發行兌換券ノ種類ハ青島ニテハ弗銀行券ノミヲ、其他各地ニ於テハ弗ノ外銀兩券ヲ發行シ、弗券ニハ一、五、十、二十五、五十元ノ五種アリ、兩券ニハ一、五、十、二十兩ノ四種アリ、兌換ハ發行地ニ於テハ額面ヲ以テ發行地以外ニ於テハ呈示當日ノ爲替相場ヲ以テ之レヲナス、但シ青島本位貨幣ニ對シテ發行シタル銀行券ハ保護領及山東省內孰レノ支店ニ於テモ額面ヲ以テ之レヲ兌換ス。

銀行券ノ發行高ニ關シテハ制限ナキモ、之レガ兌換ノ爲左ノ三樣ノ準備ヲ設クルノ必要アリ。

イ、帝國宰相ニ於テ適當ト認メタル保證人ヲ立ツルコト、保證人ハ現ニ本行株主中ノ主ナルモノタル商工銀行、伯林商業銀行、ブライヒレーデル、ドイツチエ銀行、ヂスコント銀行、メンデルスゾーン商會等ニシテ、保證人ハ其出資額ニ應ジ獨立シテ債務ヲ負擔ス、保證ハ獨亞銀行振出保證人ノ引受アル十萬馬克以上ノ手形ヲ提供シテ之レヲナス。

ロ、帝國宰相ニ於テ適當ト認メタル有價證券ヲ供託スルコト、但シ帝國銀行ヘ擔保トシテ提供シタル有價證券ハ一定ノ限度迄之レヲ準備ニ充當スルコトヲ得。

ハ、所有地ニ抵當權ヲ設定スルコト、但シ課税價格ノ四割ヲ超過スルコトヲ得ス。

倘本行ハ特ニ山東省ノ獨逸保護領地內ニ於テ墨西哥弗ノ十分ノ一及二十分ノ一ノ兩種ノ名價ヲ有ス

ル白銅貨ヲ鑄造シ之レヲ該領内ニ流通セシメツヽアリタリ。

（二）抵當貸付　本行ハ發券ノ特權ノ外一九一〇年一月二十四日附帝國宰相ノ特許狀ニヨリ社債券發行ノ特權ヲ有シ、抵當貸付ニヨリ取得シタル抵當權ヲ保證トシテ同額ノ社債券ヲ發行シ、因テ得タル資金ヲ更ニ抵當貸付ニ使用スルモノトス、元來發行銀行ノ債權ハ銀行券所持人ヲ保護ノ爲ニ必ズ短期ナルヲ原則トスルモノナルニ、抵當銀行ノ債權ハ全然之レニ反對ナルヲ以テ、發行銀行ガ抵當銀行ノ業務ヲ兼營スルハ矛盾ナリ、故ニ此點ヲ調和スルガ爲ニ本行ニ於テハ抵當貸付及社債券ノ發行ヲ管掌スル抵當部ヲ特設シ、其部ノ帳簿及勘定ハ他ト全然分離シ、且該部ノ業務ハ青島支店ニ於テ之レヲ統轄セシムルト共ニ其業務執行ニツイテハ帝國宰相ノ監督ニ屬セザルベカラザルコトヽセリ。

此抵當貸付ハ獨領膠州灣ハ勿論天津、漢口ノ如キ獨逸ノ專管居留地ニシテ、獨逸法ニヨル登記ヲナスコトヲ得ル地方ニ於テハ皆之レヲ行フコトヲ得、但抵當貸付ハ第一抵當權ヲ有スルコトヲ要シ且擔保スル土地ノ評價額ノ半額ヲ超過スルコトヲ得ザルノミナラズ、擔保タル土地ハ既耕地又ハ建物ノ敷地タルベキコトヲ條件トシ、之レニ對スル貸付ハ通貨ヲ以テスルコトヲ要スルモ、其返濟ニハ本行ノ社債券ヲ充ツルヲ得ルコトヽセリ。

本行ノ社債券ハ無記名式擔保付ニシテ、其ノ發行額ハ拂込資本金ノ四倍ヲ限度トナセドモ、其流通額ニ對シテハ獨亞銀行ハ常ニ同額ノ保證ヲ以テ之レヲ擔保セザルベカラズ、保證ハ原則トシテハ本行

ガ抵當貸付ニヨリ取得シタル土地抵當權ナリト雖モ、時ニ或ハ有價證券、現金又ハ流込ニヨリ取得シタル土地ヲ以テ之レニ充ツルコトヲ得、又本位金貨ニ於テ發行セラレタル社債券ハ本位貨幣ヲ以テ、弗銀貨ニヨリテ發行セラレタルモノハ弗銀貨ヲ以テ支拂ハルベキ保證ニヨリ之レヲ擔保スベキ原則トス、但帝國宰相ノ命令アル時ハ本位金貨ニヨリ發行セラレタル社債券ト雖モ、弗銀貨ニヨリテ支拂ハルベキ保證ニヨリ之レヲ擔保スルコトヲ得、而シテ此場合ノ換算率ハ二百馬克ニ對シ百弗トス、又本行ハ社債券所持人ノ權利ヲ保護スル爲メ擔保品管理人ヲ置クコトヲ要シ、該管理人ハ質權ノ取得、保全及行使ニ付社債券所持人ノ全員ヲ代表スルモノニシテ、社債券ノ保證タル抵當證書ヲ保管シ、且社債券ノ發行ヲ監視ス。

(三)證券業務　公債社債ノ引受應募、株式ノ引受等ノ如キ證券業務モ本行ノ主要業務ノ一ナルガ、本行ガ創立後取扱ヒタル其主要ナルモノ次ノ如シ。

甲、公債發行

イ、日清戰爭公債　支那ハ一八九五年ノ馬關條約ノ結果、日本ニ對シ四億萬兩ノ賠償金支拂ノ責ヲ負フヤ、之レガ借款引受ノ競爭起リ、最初英、佛、獨ニテ其第一部分二千二百萬磅ヲ引受ケントセシガ、コレハ露佛銀行團ヨリ奪ハレシガ、一八九六年支那ガ其第二部分千六百萬磅ヲ發行スルヤ、本行ハ香港上海銀行ト提携シテ之レヲ引受ケ其半額ヲ負擔シ伯林ニテ同年三月及九月ニ賣出

セリ。

ロ、同續借欵　一八九八年支那ガ其續借欵千六百萬磅ヲ募集スルヤ本行ハ又香上銀行ト共同シテ各其半額ヲ引受ケタリ。

ハ、津浦鐵道借欵　一九〇八年一月十三日ノ津浦鐵道借欵契約ニヨリ英國華中鐵路公司ト共同シテ該鐵道資金五百萬磅ノ借欵ヲ引受ケタリ。

ニ、同續借欵　一九一〇年九月英國華中鐵路有限公司ト共ニ同鐵道續借欵四百八十萬磅ヲ引受ケタリ。

ホ、粤川漢鐵道借欵　一九一一年八月英、佛、米資本團ト共ニ川粤漢鐵道借欵六百萬磅ヲ引受ケタリ、其内本行ノ負擔額百五十萬磅ナリキ。

ヘ、幣制改革借欵　一九一一年四月英、佛、米資本團ト共ニ幣制改革借欵一千萬磅ノ契約ヲ締結セリ、但シ本契約ハ支那革命其他ノ爲ニ實行セラルヽニ至ラザリキ。

ト、善後借欵　民國政府成立後ノ善後大借欵二千五百萬磅ヲ英、佛、日、露四國資本團ト共同シテ引受ケタリ。

チ、上海市場救濟借欵　第一革命ニ際シ上海市場ニ恐慌ヲ生ズルヤ、コレガ救濟ノ爲ニ二百五十萬元ノ借欵ヲ起セシガ、本行ハ他ノ八銀行ト共同之レヲ引受ケタリ。

リ、湖北省外債　湖北省ノ財政難ニ際シ英、佛、米ノ銀行團ト共ニ一九一〇年二百萬元ノ借欵ヲ引受ケタリ。

乙、投機業務

イ、天津、漢口居留地土木會社　天津、漢口ニ獨逸專管居留地設ケラル、ヤ、本行主トシテ是等兩地ノ土木工事ヲ受負ハンガ爲メニ本會社ヲ創立セルガ、後一九〇四年兩社共解散セリ。

ロ、山東鐵道會社　山東鐵道布設ノ爲本社ノ設ケラル、ヤ、其資本金五千四百萬馬克ヲ獨逸ノ十四銀行共同ニテ引受ケタルガ、本銀行ノ持株最モ多シ。

ハ、山東鑛山會社　山東鑛山會社ノ資本金二百萬馬克ハ八個ノ獨逸銀行ニヨリ引受ケラレ、本行亦其一部ヲ引受ケタルガ、本社ハ後山東鐵道會社ニ合併セリ。

ニ、獨逸支那鐵道會社　獨逸ガ津浦鐵道北段ノ布設經營ニ任ズルヤ其事業ヲ遂行センガ爲ニ一九〇三年本行其他ノ獨逸銀行團一致シテ資本金一千萬馬克ノ本社ヲ創立セシガ、後右鐵道布設經營ノ權利ヲ支那ニ囘收セラル、ニ至リシヨリ本會社モ其資本金ヲ百萬馬克ニ減ジタリ。

營業成績

本社創立以來ノ營業成績ノ狀況ヲ表示スレバ次ノ如シ。

獨亞銀行重要諸勘定累年比較表（上海兩）

負債ノ部

年次	資本金	積立金	爲替相場變動準備金	銀行券流通高	諸預金	監査役賞與金	配當率	後期繰越金
一八八九	五、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—	一五、二八七、六三	—	—	—
一八九〇	五、〇〇〇、〇〇〇	二九四、三三	—	—	二、五六七、九〇二、〇二	—	—	—
一八九一	五、〇〇〇、〇〇〇	二、三二一、六八	—	—	三、二二四、二六六、三九	—	—	—
一八九二	五、〇〇〇、〇〇〇	三、四二〇、九九	—	—	二、一〇八、四八九、八三	—	—	—
一八九三	五、〇〇〇、〇〇〇	一八、八二一、八一	三〇、〇〇〇、〇〇	—	三、三五八、二八一、六九	三、五五七、〇〇	五%	一〇、六五九、七〇
一八九四	五、〇〇〇、〇〇〇	三一、六五九、八一	六〇、〇〇〇、〇〇	—	五、〇四六、四七七、九九	四、四五一、四〇	七%	二三、二四九、九二
一八九五	五、〇〇〇、〇〇〇	四七、〇四二、〇七	九〇、〇〇〇、〇〇	—	五、七四五、八九七、四八	四、六一四、六八	八%	二六、〇七五、四八
一八九六	五、〇〇〇、〇〇〇	一三一、九三九、〇七	二一三、七五〇、〇〇	—	八、二二一、一〇二、七二	二五、四六九、一三	一〇%	四九、四二九、九三
一八九七	五、〇〇〇、〇〇〇	一五四、三〇〇、三七	二二五、九四二、〇〇	—	五、五九八、一六六、七五	四、四五八、三七	六%	三九、九七二、七三
一八九八	五、〇〇〇、〇〇〇	二九一、四〇六、五七	三七五、九四二、九八	—	六、九二七、一八三、四五	二四、一九五、二二	一〇%	九九、九四四、〇三
一八九九	五、〇〇〇、〇〇〇	三一四、七七八、二五	三七五、九四二、九八	—	七、八九〇、四七七、七三	四、三二九、六五	六%	五四、〇九三、八九
一九〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	三五九、九四二、五一	三七五、九四二、九八	—	九、〇一九、一三一、一三	一四、二〇三、四二	七%	六五、二三九、一一
一九〇一	五、〇〇〇、〇〇〇	四一〇、〇六九、五五	三七五、九四二、九八	—	一一、七六九、八二六、七六	一六、三七二、五七	七%	六〇、六八三、八九
一九〇二	五、〇〇〇、〇〇〇	四七二、八一〇、九一	三七五、九四二、九八	—	一六、四三九、八一七、四一	二四、四二五、九八	九%	九五、三二二、〇八
一九〇三	五、〇〇〇、〇〇〇	五三五、一四八、三九	三七五、九四二、九八	—	一六、四〇四、二四〇、三九	二六、〇八六、九五	一〇%	一三〇、二六二、三八
一九〇四	七、五〇〇、〇〇〇	九一八、九三〇、九七	三七五、九四二、九八	—	一七、四六六、九五四、九一	二七、七一七、三六	一〇%	一一五、二六二、七二
一九〇五	七、五〇〇、〇〇〇	一、〇〇六、五九七、一九	三七五、九四二、九八	—	二一、三九五、八〇九、四二	三四、二三九、一三	一一%	一三一、四六九、五九
一九〇六	七、五〇〇、〇〇〇	一、〇九〇、五四四、五七	三七五、九四二、九八	—	二四、八七二、四九五、五六	三二、六〇八、七〇	九%	一一九、三八七、三二

一九〇七	七、五〇〇、〇〇〇	一、一六五、五六八、一九	三七五、九四二、九八	四四七、七七四、〇四	三五、五三六、一五四、九二	二六、〇八六、九五	八%	一一八、五一二、九八
一九〇八	七、五〇〇、〇〇〇	一、二四四、六七五、三一	三七五、九四二、九八	九七八、四六一、一〇	三九、七二九、三八二、三三	二九、三四七、八三	八、五%	一一三、六二九、三三
一九〇九	七、五〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇、〇〇	三七五、九四二、九八	一、二一四、一九〇、三〇	四一、一五九、三五六、四七	二六、〇八六、九六	八、五%	九〇、三二〇、五一
一九一〇	七、五〇〇、〇〇〇	一、三五〇、〇〇〇、〇〇	三七五、九四二、九八	一、三三三、二三六、一九	三九、九二〇、四五七、四二	二六、〇八六、九六	八%	一一八、四七六、三六
一九一一	七、五〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇、〇〇	二九五、九四二、九八	一、四六四、六八三、四〇	四六、九四〇、八四八、七一	六、五二一、七四	五%	六二、九一六、五八

資産ノ部

年次	未拂込資本金	現金	預ケ金	手形	有價證券	貸付	抵當部勘定	土地建物
一八八九	三、七五〇、〇〇〇	二二、五四一、〇〇	—	八七二、六三八、八三	—	三九二、五六五、四七	—	—
一八九〇	三、七五〇、〇〇〇	五二二、七五九、六五	—	一、八四八、七一一、七五	—	一、五〇〇、一三一、一九	—	—
一八九一	三、七五〇、〇〇〇	五四一、五八七、四五	—	一、六六五、六四六、二三	—	二、二九一、九四五、二六	—	—
一八九二	三、七五〇、〇〇〇	二六七、四二九、八〇	—	一、四三四、七一三、八四		一、六八〇、八八三、一三	—	—
一八九三	三、七五〇、〇〇〇	三八〇、四八七、四二	—	一、六五四、四九六、五七	—	二、六九一、八三六、四四	—	—
一八九四	三、七五〇、〇〇〇	一、一二〇、九六一、六三	—	一、五〇五、五六三、八〇	—	三、八七五、八二二、六九	—	—
一八九五	三、七五〇、〇〇〇	一、〇八二、五八〇、〇六	—	一、二三三、九三〇、〇一	—	四、九四七、一一八、六四	—	—
一八九六	一、八七五、〇〇〇	八四九、四四三、四五	一六、五五三、九七九、〇三	三、七二八、二八二、一三	一、九一六、八一五、九八	五、九三〇、八三三、三一	—	—
一八九七	一、二五〇、〇〇〇	七五一、二六八、三三	—	二、四七五、九九二、八一	一、一二六、九六七、〇八	五、六一四、八五二、九八	—	—
一八九八	一、二五〇、〇〇〇	一、八五二、三一七、七九	四、七〇八、〇四五、〇〇	二、八三九、四四〇、七〇	一、一八五、六八四、五九	五、八六六、九八三、五一	—	一四一、九四五、五二
一八九九	一、二五〇、〇〇〇	一、二二一、四七四、一四	一、五五三、三九七、七一	四、八五七、一〇九、三四	一、八七〇、九二四、七六	四、五三三、九六三、五四	—	一三五、三九三、五[illegible]
一九〇〇	—	三、四二〇、六九五、七四	—	六、四八四、七八五、五一	一、六四四、五六三、八三	三、四三二、六七一、〇二	—	二五〇、八五七、七一
一九〇一	—	三、四三七、三四一、一一	—	六、七四二、〇七八、九一	三、二一八、一九四、四五	五、四三六、三一九、九〇	—	二五八、二八一、九三
一九〇二	—	二、四八五、六一四、〇六	—	九、〇五七、九二五、九六	二、七八六、一七三、四五	八、九七一、九四五、六一	—	二八五、〇四二、八九

年次	未拂込資本金	現金	預ケ金	手形	有價證券	貸付	抵當部勘定	土地建物
一九〇三	—	一、七八五、一〇三、六三	—	七、六八〇、二七三、二七	三、九二一、八九九、九四	一一、二三九、五五四、二三	—	三二九、五四六、〇三
一九〇四	一、八七五、〇〇〇	三、七五七、二七一、四三	—	八、四三四、七九一、六一	三、五九五、三四一、六〇	一〇、九〇七、八二三、四六	—	三四二、一五一、九九
一九〇五	一、八七五、〇〇〇	四、四一五、七三六、七七	—	一三、一八〇、七三〇、六〇	一、九二〇、二〇三、九五	一一、一一八、五八七、〇一	—	四五九、三七一、九三
一九〇六	—	五、二四七、四二九、〇三	—	一五、七〇四、七六三、三七	一、七五二、六九六、五七	一三、三〇〇、一七四、九七	—	五七六、二七〇、九二
一九〇七	—	四、八五三、九五四、七三	—	一九、五七三、二二〇、三五	一、八三八、六五五、一三	一九、八六二、五七九、九〇	—	八二六、〇七六、八五
一九〇八	—	八、三五二、四九五、二九	—	一三、四九九、九三〇、七九	一、六七一、六八六、七四	二八、一〇六、三五八、五九	—	八四八、四二一、八五
一九〇九	—	一〇、七八七、四三二、二一	—	一一、九九三、九七七、五五	一、一七〇、五七九、九一	二九、〇七四、三三六、〇四	—	八三九、九六〇、一〇
一九一〇	—	四、四五五、七七五、〇六	—	一三、九二〇、三八五、〇七	二、二七五、二〇七、八二	三三、三三〇、八三七、四九	—	七九七、九六二、一〇
一九一一	—	七、七六六、六二七、〇八	—	一一、九七一、五五二、八四	三、四三七、五九一、六四	三五、二三五、七八四、九四	一一、四六二、四四	七六三、〇六四、九〇

獨亞銀行關係重要法規及定款

獨亞銀行定款

第一章　總　則

第一條　當會社ハ本定款ニ依リ設立セラレタル株式會社ニシテ「獨亞銀行」ト稱シ其本店ヲ上海ニ置ク當會社事業ノ存續期間ニ付テハ一定ノ制限ナシ

第二條　當會社ハ獨逸株式會社ノ性質ヲ有シ其内部關係ニ於テハ商法々典及伯林ニ於テ行ハルヽ民事法ニ從フ

第三條　當會社ハ銀行業ヲ經營シ且獨逸ト亞細亞間ノ商取引ヲ促進スルヲ以テ目的トス

當會社ハ左ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス

一、自己ノ計算ニ於テ商品ノ賣買ヲ爲スコト

二、獨逸帝國内ニ於テ振替業務（giro gesc aeft）及預金業務ヲ取扱フコト

業務ノ範圍及經營ニ關スル細則ハ監查役之ヲ定ム

第四條　前條ノ目的ヲ遂行スル爲當會社ハ支店ヲ設置シ有限責任社員又ハ匿名組合員トシテ他ノ事業ニ關與シ又ハ第三條ノ目的ヲ遂行スルニ足ル海外銀行ヲ設立シ其株式ノ全部若クハ一部ヲ引受ケ又ハ之ト永久的關係ニ立ツコトヲ得

第五條　法律又ハ本定款ニ依リ必要ナル公告ハ本定款ニ於テ監查役ニ委任セラレタル場合ノ外會社ノ名ニ於テ取締役之ヲ爲ス公告ハ獨逸帝國及普魯西亞王國官報ニ之ヲ掲載スヘシ

右ノ外監查役ハ其申合規則第二十三條及第二十四條ニ依リ公告ヲ掲載スヘキ內國又ハ外國ノ新聞紙ヲ指定スルコトヲ得

取締役及監查役ノ爲ス公告ノ形式ニ付テハ第十七條及第十八條ノ規定ヲ適用ス

第二章　資本

第六條　當會社ノ資本ハ七百五十萬上海兩トシ之ヲ七千五百株ニ分チ一株ノ金額ヲ千上海兩トス

株券ハ無記名式トス

資本ノ增加ヲ爲ス場合ニハ監查役ハ新株券發行ニ關スル條件ヲ定ム但新株券發行ニ關スル最低相場ハ總會ノ定ムル所ニ依ル新株券ハ額面以上ノ相場ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得

第七條　株金第一回ノ拂込ハ本定款施行ノトキニ於ケル券面額ノ四分ノ一ヲ以テ之ヲ爲ス爾後ノ拂込ハ監查役ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲナスコトヲ要ス監查役ハ株金全額ニ關スル條件ヲ定ムルコトヲ得拂込ハ上海兩ニ對シ隨時監查役ノ定メタル交換相場ニ依リ獨逸帝國ノ本位貨幣タル馬克ヲ以テ之ヲ爲ス

第八條　分割拂込ノ場合ニハ株式申込人又ハ引受人ニ對シ記名式假株券ヲ交付スヘシ

第九條　本定款中株式ニ關スル規定ハ株券カ交付セラルル迄ハ之ヲ假株券ニ適用ス

第十條　株金ノ全額拂込アリタルトキハ假株券ト引換ニ株券ヲ交付ス

第十一條　株券並假株券ニハ十箇年分ノ配當札（Dividen-denschein）及配當札引換書（Talon）ヲ添付スヘシ

十箇年經過毎ニ配當札引換書ト引換ニ更ニ十箇年分ノ配當札ヲ交付スヘシ

株券ハ假株券及配當札引換書並期限ノ到來セサル配當札ト引換ニ之ヲ交付ス

第十二條　株主若シ期限ノ到來セルニ拘ラス分割拂込ヲ爲ササル場合ニハ取締役ハ假株券ノ番號ヲ記載シタル催告ニ依リ該株主ニ對シ四週間ヲ下ラサル期間内ニ於テ拂込金額及之ニ對スル五分ノ利息ヲ支拂フ可キ旨ヲ催告スルコトヲ得

前項ノ期間内ニ支拂ヲ爲ササル株主ハ利息ノ外拂込金額ノ一割ニ相當スル違約金ヲ支拂フコトヲ要シ且取締役ハ訴訟行爲ニ依リ此等拂込金、利息、違約金及費用ノ支拂ヲ該株主ニ對シ請求スルコトヲ得

懈怠シタル株主若シ商法第二百十九條及第二百二十條ニ依リ三度催告ヲ受クルモ猶ホ拂込ヲ爲サザルトキハ取締役ハ其決議ニ依リ株式ノ申込又ハ引受及株金ノ拂込ヨリ生シタル該株主ノ權利ハ會社ノ爲ニ喪失スヘキ旨ヲ宣言スルコトヲ得此ノ宣言ハ公告ヲ以テ之ヲ爲ス無効宣言ニ附セラレタル株券ニ代ヘ新株券ヲ發行ス

第十三條　株券又ハ第十條及第十一條ノ規定ニ從ヒ當會社ノ作成シタル證券カ毀損セラレ又ハ不可用トナリタル場合證券ノ主要部ニ於テ猶其ノ正當ナルヲ見トメ得ヘキトキニ限リ取締役ハ所持人ノ費用ヲ以テ毀損證券ト引換ニ同種ノ證券ヲ作成シ且之ヲ交付スルコトヲ要ス

右以外ノ場合ニ於テハ裁判上ノ無効宣言アリタル後ニアラサレハ毀損又ハ喪失シタル株券及假株券ニ代ヘ株券ヲ作成交付スルコトヲ得ス

配當札ハ裁判上ノ無効宣言ニ附セラルルコトナシ卽チ配當札ハ支拂年度ノ十二月三十一日ヨリ起算シテ四箇年内ニ呈示セラレサルトキハ其効力ヲ失ヒ該配當金ハ會社ニ歸屬ス

然レトモ前記四箇年ノ期間經過前配當札ノ喪失ヲ取締役ニ屆出テ且株券ノ呈示其他適當ノ方法ニ依リ從來ノ占有ヲ證明シタル者ニ對シテハ前記期間ノ經過シタル後領收證ト引換ニ該配當札ノ金額ヲ支拂フヘシ

毀損又ハ喪失シタル配當札引換書モ亦裁判上ノ無效宣言ニ附セラルルコトナシ

新配當札ノ交付前株券ノ所持人カ配當札引換書ノ呈示人ニ新配當札ヲ交付スルコトニ付異議ヲ申立テ之ニ對シテ配當札引換書ノ呈示人カ自己ニ交付アリ度キ旨ヲ請求シタルトキハ該事件ハ之ヲ裁判所ノ決定ニ委ネ新配當札ノ交付ハ事件ノ終了迄之ヲ停止ス

配當札引換書カ喪失シ且新配當札ノ交付ニ付異議ノ申立ナキ場合ニハ配當札引換書ト引換ニ受取ルヘカリシ配當札ノ第三支拂日經過後當該株券ノ所持人ニ對シ領收證ト引換ニ新株券ヲ交付スヘシ爾後當該配當札引換書ヲ占有スルモ配當札ヲ受領スルノ權利ヲ生セス

第十四條　株券又ハ假株券ノ引受又ハ取得ヲ爲シタルトキハ株主ハ會社關係ニ依リ當會社トノ間ニ生シタル一切ノ訴訟ニ關シ伯林ニ於ケル第一審商事裁判ノ管轄ニ屬シ且伯林ニ於テ行ハルル法律ニ從フ

第三章　機　關

甲、取締役

第十五條　取締役ハ商法々典及本定款ノ規定ニ從ヒ權利ヲ有シ義務ヲ負フ

第十六條　取締役ハ二人以上トシ監査役之ヲ任命ス任命ハ裁判所又ハ公證人ノ調書ニ之ヲ登錄シ且公告スルコトヲ要ス

監査役ハ取締役代理並支配人ヲ任命スルコトヲ得任命ハ裁判所又ハ公證人ノ調書ニ之ヲ登錄スルコトヲ要シ且取締役代理人及支配人ノ氏名ハ之ヲ公告スルコトヲ要ス

監査役ハ取締役ノ事務分掌、俸給及賞與、取締役相互間ノ關係並取締役會ニ關スル規定ヲ設ク

取締役ハ當會社ノ使用人ヲ任免シ且事務章程第二十四條第二號ニ依リ之ヲ懲戒スルコトヲ得

第十七條　義務ノ負擔ニ關スル當會社ノ意思表示ハ二人ノ取締役、二人ノ取締役代理、一人ノ取締役及一人ノ取締役代理、一人ノ取締役及一人ノ支配人又ハ一人ノ取締役代理及一人ノ支配人之ヲ爲スモノトス

當會社又ハ支店ノ業務其他ノ商業的行爲ノ執行及當會社又ハ支店ノ代理ハ前條以外ノ商事代理人ニ之ヲ委任スルコトヲ得但右商事代理人ハ代表權ヲ有シ若クハ有セサル取締役、支配人又ハ前項ノ規定ニ從ヒ任命セラレタル代理人ト共ニスルニアラサレハ當會社ヲ代理スルコトヲ得ス

法律又ハ定款ニ依リ取締役及支配人ノ代理權限ハ前項ノ規定ニ依リ變更ヲ受クルコトナシ取締役カ前項ノ授權ヲ爲スニハ監査役ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

代理人タル資格ノ證明ハ二人ノ取締役及頭取又ハ副頭取カ適法ノ形式ニ於テ作成シタル授權證明書ニ依リ之ヲ爲ス各種ノ法的行爲ノ

執行（讓渡ノ意思表示、訴訟行爲、强制競賣ノ代理、法律行爲ノ執行及決定、各種證書ノ作成等）其他各種郵便物、爲替價格表記郵便及價格表記小包郵便ノ受取方ニ付テハ（郵便物受取代理人）取締役ハ監査役ノ承認ヲ經スシテ其代理人ヲ定ムルコトヲ得

當會社ノ商號ヲ記載スルニハ記載者之ニ署名シ且特ニ支配人ノ之ニ關與シタル旨ヲ明ニスルコトヲ要ス

乙、監査役

第十八條　監査役ハ十二人以上二十五人以下トシ株主總會ニ於テ之ヲ選任ス

監査役ノ任期ハ四箇年トシ四年毎ノ通常株主總會ニ於テ之ヲ選任ス監査役ノ中少クモ三人ハ成ル可ク一定ノ順番ニ依リ毎年脱退ス脱退ノ最初ノ順番ハ抽籤ニ依リ之ヲ定ム

脱退シタル監査役ハ之ヲ再選スルコトヲ得

監査役カ或ル他ノ事由ニ依リ脱退シタルトキハ補缺選擧ハ次期ノ通常株主總會迄之ヲ延期スルコトヲ得

但少クモ七人ノ監査役其職ニ在ルコトヲ要ス

任期ノ終了前ニ脱退シタル監査役ノ任期ハ前任者ノ殘存期トス監査役ノ意思表示ハ「獨亞銀行監査役」ナル文字及頭取若クハ副頭取ノ一人ノ監査役ノ署名アルトキハ其效力ヲ生ス監査役タル資格ノ證明ハ監査役並頭取及副頭取ノ選任ニ付裁判所職員又ハ公證人カ作成シタル證明書ニ依リ之ヲ爲ス

第十九條　監査役中少クモ五人ハ伯林ニ於テ、監査役全員ノ少クモ四分ノ三ハ獨逸帝國ニ於テ、又其全員ハ歐羅巴ニ於テ住所ヲ有スルコトヲ要ス

第二十條　監査役ハ無給トス但職務執行上ヨリ生シタル費用ノ支辨及第三十四條ニ依ル利益分配ヲ受ク各監査役ニ對スル利益分配ノ割當額ハ監査役會ノ決議ニ依ル

第二十一條　監査役ハ其中ヨリ四年ノ任期ヲ有スル頭取及一人若クハ二人ノ副頭取ヲ選任シ且頭取ノ選任ニ付テハ皇帝陛下ノ御裁可ヲ仰クモノトス但御裁可ハ何時ニテモ取消サルヽコトアリ

頭取ハ監査役トノ特約ニ依リ第三十四條ニ依ル利益分配ニ代ヘ又ハ其外ニ一定ノ報酬ヲ受クルコトヲ得

第二十二條　頭取又ハ副頭取ハ必要アリト認メタル時又ハ監査役ノ二人若クハ取締役ノ請求アリタルトキハ監査役會ヲ召集ス、召集ハ成ル可ク會議ノ目的ヲ示シテ之ヲ爲ス監査役會ハ頭取又ハ副頭取及少クモ四人ノ監査役出席スルニアラサレハ決議ヲ爲スコトヲ得ス

頭取ノ請求アリタルトキハ監査役會ノ召集ヲ爲サスシテ單ニ書面又ハ電報ヲ以テ決議ヲ爲スコトヲ得、但決議事項ニ付全員ノ意見一致シタル場合ニ限ル

監査役ハ各自一箇ノ議決權ヲ有ス決議ハ過半數ニヨリ之ヲ爲ス可否同數ナル時ハ監査役會議長ノ決スル所ニ依ル

監査役ノ爲ス選任ハ過半數ニ依リ之ヲ爲ス過半數ノ得點者ナキ場合ニハ二人ノ最高點者ニ付第二回ノ選擧ヲ行ヒ得點同數ナル時ハ抽籤ニ依リ之ヲ決ス

第二十三條　監査役ハ其申合規則ヲ決議ス申合規則ニ於テハ獨逸以外ニ住居ヲ有スル監査役ノ投票方法ニ付規定スルコトヲ要ス

第二十四條　取締役ノ業務執行ニ關スル一般ノ監督及本定款ニ於テ取締役ニ委任シタル權限ヲ除キ監査役ハ左ノ特別ナル權限ヲ有ス

一、本店並支店ニ於ケル取締役ヲ任免スルコト

二、本店並支店ノ事務章程ヲ定ムルコト

三、頭取又ハ特ニ委任セラレタル監査役ヲシテ當會社ノ一切ノ書類及帳簿ヲ閲覽シ且一切ノ業務狀態ヲ檢査セシムルコト

右ノ權限ハ監査役會ノ決議ニ依リ他人ニ之ヲ委任スルコトヲ得

四、取締役ニ事故アル時商法第二百四十八條ニ依リ他ノ取締役又ハ第三者ヲ以テ一時其職務ヲ處理セシムルコト

五、土地又ハ船舶ノ取得又ハ賣却ヲ承認スルコト

六、支店及代理店ノ設置ニ關スル決議ヲ爲スコト此決議ハ少クモ出席監査役ノ三分ノ二ノ多數ニ依ルコトヲ要ス

七、本店並支店及代理店ノ貸借對照表及損益計算書ヲ審査シ且株主總會ニ提出スヘキ議案ヲ決定スルコト

八、責任解除ノ爲ニスル決算書ヲ株主總會ニ提出シ且特別積立金及利益配當金ヲ提案スルコト

九、株金拂込ノ催告ニ關スル決議ヲ爲スコト

十、第三十四條ニ依リ特別積立金ノ處分ヲ爲スコト

第二十五條　獨逸帝國外ニ在ル支店又ハ代理店ノ業務ノ執行ニ付テハ監査役ハ申合規則ノ範圍内ニ於テ監査役以外ノ人ニ當該支店又ハ代理店ノ監督ヲ委任シ且之ニ一定ノ權限ヲ附與スルコトヲ得

丙、株主總會

第二十六條　株主總會ハ株主ノ全員ヲ代表ス株主總會ノ決議及選任ハ株主ノ全員ヲ拘束ス

株主ハ株主總會ニ出席スルコトヲ得議決權ハ一株ニ付一箇トス

株主ハ其名義ヲ以テ株主總會ノ終了迄領收證ト引換ニ其株券ヲ召集狀ニ記載セラレタル場所又ハ公證人ニ供託スルコトヲ要ス供託ハ株主總會及供託ノ日ヲ除キ少クモ株主總會ノ八日前ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

商會及合資會社カ其營業主又ハ支配人ニ依リ、妻ハ夫ニ依リ、寡婦ハ其成年ノ子ニ依リ、未成年者其他ノ被後見人ハ後見人又ハ保佐人ニ依リ、社團又ハ財團法人及株式會社カ其法定代理人ニ依リ、又株式會社カ其支配人ニ依リ代理セラルル場合ニハ特別ノ授權ヲ要セス、其他ノ場合ニ於テハ株主ハ他ノ株主ニ限リ且書面ニ依リ自己ヲ代理セシムルコトヲ得

代理ニ關スル授權ハ遲クモ總會ノ前日迄ニ取締役ノ審査ヲ受クルコトヲ要ス

第二十七條　株主總會ハ伯林、漢堡又ハフレメンニ於テ之ヲ開ク取締役又ハ監査役ハ公告ニ依リ株主總會ヲ召集ス召集ハ公告及總會ノ日ヲ除キ少クモ株主總會ノ四週間前ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第一營業年度ヲ除キ毎年上半季中ニ通常株主總會ヲ開ク臨時株主總會ハ臨時必要ヲ生シタルトキ之ヲ召集ス株主總會ノ決議事項ハ召集狀ニ之ヲ記載スヘシ

第二十八條　會社ノ清算又ハ解散、會社事業ノ擴張又ハ變更ニ依ル會社ノ變形、他ノ株式會社トノ合併並資本ノ減少若クハ其一部ノ償却ニ關スル決議ハ此目的ノ爲ニ特ニ召集セラレタル臨時株主總會ニ於テ之ヲ爲ス但法律ノ規定ニ依リ會社カ當然解散スヘキ場合ハ此限ニ在ラス前項ノ決議ハ少クモ資本ノ四分ノ三ノ株數ニ相當スル株主出席シテ之ヲ爲スニアラサレハ其効力ヲ生セス

出席株數資本金ノ四分ノ三ニ充タサル場合ニハ六週間内ニ同一目的ノ爲ニ更ニ臨時株主總會ヲ開クコトヲ要ス此場合ニハ出席株數ハ資本金ノ四分ノ三以下タルモ妨ナシ前二項ノ場合ニ於ケル決議ハ少クモ出席株數ノ四分ノ三ノ多數ニ依リ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十九條　前條以外定款ノ變更及補充ニ關スル決議ハ少クモ出席株數ノ三分ノ二ノ多數ニ依リ之チ爲ス

第三十條　頭取又ハ副頭取若クハ特ニ指定サレタル監査役ハ株主總會議長トナル

議事錄ハ公證人又ハ裁判所之チ作製シ且議長、議決權數調査委員及出席シタル取締役及監査役之ニ署名スヘシ議事錄ニハ議事ノ狀況並決議ノ方法及結果チ記載スルコトヲ要ス

總會ノ議長ハ議事錄ニ議決權數ト共ニ出席株主ノ氏名チ記載シタル目錄ヲ添付スルコトチ要ス議事錄ハ會社ノ役員及株主ニ對シ完全ナル證據力ヲ有ス決議ハ出席ノ有無ニ拘ラス一切ノ株主チ拘束ス

第三十一條　株主總會ノ決議ハ過半數ニ依リ之チ爲ス但第二十八條及第二十九條ノ場合ハ此限ニ在ラス可否同數ナルトキハ議案ハ否決セラレタルモノト看做ス選任ハ投票法チ用キ過半數ニ依リ之チ爲ス但投票方法ニ關シ別段ノ提議アリ且之ニ對シ異議ノ申出ナキトキハ之ニ從フ第一回ノ選擧ニ於テ過半數ノ得點者ナキ時ハ二人ノ最高點者間ニ第二回ノ選擧チ行ヒ過半數ノ得點者チ以テ當選者トス第二回ノ選擧ニ於テ過半數ノ得點者ナキトキハ二人ノ最高點者間ニ第三回ノ選擧ヲ行ヒ高點者チ以テ當選者トス得點同數ナルトキハ抽籤ニ依リ之チ決ス

第三十條ノ公證人又ハ裁判所職員カ選任ニ關シ作製シタル證明書ハ被選人ニ對シ完全ナル證據力チ有ス

第三十二條　株主總會ニ於テハ取締役カ監査役ト共同シテ又ハ取締役若クハ監査役ノ一人ヨリ提出セラレタル議案ヲ議スルモノトス株主ヨリ提出セラレタル議案ハ商法第二百五十四條及第二百五十五條ノ規定ニ從ヒ之チ取扱フ

第四章　貸借對照表、利益分配及積立金

第三十三條　營業年度ハ曆ニ從フ

決算、財產目錄ノ調製及純益金ノ計算ハ十二月ノ經過後商人ノ慣行的原則及商法ノ規定ニ從ヒ之チ爲ス

營業年度ノ經過後四箇月內ニ取締役ハ財產目錄及貸借對照表、損益計算書並本店及支店ノ財產狀態其他ノ關係ヲ說明シタル報告書チ監査役ニ提出シ監査役ハ之ヲ審査シ株主總會ノ承認チ經テ之ヲ確定ス取締役及使用人ニ對スル利益分配ハ監査役ノ承認ヲ經タル上營業費中ヨリ之ヲ支出ス

貸借對照表及損益計算書ハ株主總會ノ承認ヲ經タル後監查役之ヲ公告ス

第三十四條　貸借對照表ノ資產ヨリ負債ヲ控除シタル殘額ヲ以テ純益金トス

純益金ハ左ノ割合ヲ以テ之ヲ分配ス

一、純益金ノ五分　法定積立金

二、純益金ノ四分　拂込株金ニ對スル利益配當

三、右殘額ノ八分　監查役ニ對スル利益分配

四、右ノ殘額ハ株金拂込額ノ割合ニ應シ各株主ニ之ヲ配當ス但株主總會ニ於テ之ニ異リタル決議ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

配當金ノ支拂ハ確定後遲クモ四週間內ニ監查役ノ公告シタル場所ニ於テ之ヲ爲ス（獨逸ニ於テ配當金ノ支拂ヲ爲ス場合ニハ監查役カ隨時定メタル換算率ニ依ル）

第三十五條　法定積立金ハ貸借對照表ニ依ル損失ヲ塡補スル場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス第三十四條ニ依ル法定積立金ハ資本金ノ一割ヲ超過スルコトヲ要セス

第五章　解　散

第三十六條　清算又ハ他ノ株式會社トノ合併ニ依ル會社解散ノ場合ニハ清算又ハ合併ヲ決議シタル總會ハ實行ノ方法及條件ヲ定メ且淸算人ヲ選任ス

二　獨領膠州灣及支那ニ於ケル銀行劵發行ニ關スル特許狀

（一千九百六年六月八日公布）

獨亞銀行ハ保護領法第三條及領事裁判法第三十四條並保護領ニ於ケル銀行劵發行ニ關スル勅令ニ依リ一千九百四年十月三十日ヨリ向フ十五箇年間獨領膠州灣及支那ニ於ケル營業所ニ於テ左ノ條件ニ從ヒ銀行劵ヲ發行スルノ特權ヲ有ス

第一條　銀行一般派業務ノ外其定款及營業ノ範圍ニ關シ制定セラレタル一般ノ命令ニ從ヒ之ヲ行フヘシ

第二條　銀行劵ノ發行ニ就テハ特ニ左ノ規定ニ從フヘシ

一、銀行劵ノ種類ハ劵面額一弗、五弗、十弗、二十五弗、五十弗ノ五種及一兩、五兩、十兩、二十兩ノ四種トス但支那山東省ニ於テハ青島ニ於テ流通スル本位貨幣ト同一名稱ヲ有スル銀行劵ヲ發行スルコトヲ要ス

二、本令ニ於テ弗ト稱スルハ墨西哥弗ノ名ヲ以テ流通スル貨幣ニシテ純分千分ノ九〇二、七、重量二七、〇七三「グレーン」最少量二六、三三「グレーン」ヲ有スルモノ又ハ各發行地ニ於ケル商取引上又ハ法律上右ト同價額ノモノト認定セラレタル硬貨ヲ云ヒ兩ト稱スルハ銀行劵發行ノ際ニ其ノ發行地ニ於テ通用スル同一名稱ノ支那本位銀ノ單位ヲ云フ

三、銀行ハ其銀行劵ノ呈示ヲ受ケタルトキハ各營業所ニ於テ之ヲ兌換スルノ義務ヲ有ス但シ銀行劵發行地以外ノ地ニ在ル營業所ニ於テハ其有スル現金額其他營業ノ都合ニ依リ其時ノ爲替相場ニ換算シテ之カ兌換ヲナスコトヲ得、青島本位貨幣ト同一名稱ヲ有スル銀行劵ハ之ヲ保護領及支那山東省ニ於ケル銀行各營業所ニ於テ其劵面額ヲ以テ兌換スヘシ

銀行ハ其銀行劵ヲ以テ支拂ヲ受ケタルトキハ何時ニテモ之ヲ受入ルヽノ義務ヲ有ス其金額ハ銀行劵發行地ニアル營業所ニ於テハ劵面額、其他ノ營業所ニアリテハ其時ノ爲替相場ニ依リ換算セラレタルモノトス但シ青島本位貨幣ニ對シテ發行セラレタル銀行劵ハ保護領又ハ支那山東省ニ於ケル銀行ノ各營業所ニ於テ其劵面額ヲ以テ支拂ヲ受クルモノトス

四、銀行ハ流通銀行劵ヲ劵面額ニ兌換スル爲帝國宰相ノ指定スル準備ヲナシ置クコトヲ要ス

前項ノ準備ハ左ノ如シ

(イ)帝國宰相ノ適當ト認定シタル保證人

(ロ)帝國宰相ノ適當ト認定シタル有價證券ノ供託

(ハ)銀行所有地ノ上ニ抵當權ノ設定

準備ノ計算ニ就テハ左ノ換算法ニ依ルモノトス

(イ)兩ト弗トノ換算ハ七二ニ對スル百ノ割合

(ロ)帝國本位貨幣ト弗ノ換算ハ前年ノ平均相場

提供シタル準備ヲ銀行券所持人ノ爲處分セントスル場合ハ訴訟手續法ニ準據スルヲ要セス單ニ帝國宰相ノ命令ニ依テ之ヲ爲スコトヲ得

五、銀行ハ其賦與セラレタル銀行券發行ノ特權ニ對シ毎年銀行券ノ一箇年平均流通高ノ百分ノ一ヲ納付スルノ義務アルモノトス右ノ金額ハ其翌年一月ニ於テ帝國宰相ノ定ムル金庫ニ之ヲ支拂フヘシ

六、銀行券發行開始以後四箇月間ハ銀行ハ前項ノ納付義務ヲ有セス

銀行ハ特許ヲ受ケタル後九箇月間ニ於テ銀行券ヲ發行スルノ義務ヲ有ス

青島ニ於テ銀行券ヲ發行スル場合ニハ銀行ハ右期日迄ニ少クトモ五十萬弗ノ額ニ相當スル銀行券ヲ用意スヘシ但右金額ノ内二十五萬弗ハ壹弗券タルヲ要ス

七、銀行券ノ所持人カ半分以上殘留セル銀行券ヲ所持シ又ハ半分若クハ半分以下ナル場合ト雖モ殘片カ消滅シタルコトヲ證明シタル場合ニハ銀行ハ右損傷銀行券ヲ全額ヲ以テ交換スヘシ

八、銀行券ノ引上及銷却ヲ爲サントスルトキハ帝國宰相ノ命令又ハ認可ヲ要ス帝國宰相ハ銀行券引上ニ關スル公告ノ方法、度數、期間、銀行券銷却ノ期間及場所、期間經過後ニ於ケル引上濟銀行券ノ銷却方法及銀行券所持人ノ權利保全ニ必要ナル其他ノ規則ヲ規定スルモノトス

九、銀行ハ支那又ハ保護領ニ於ケル本位貨幣變更ノ爲ニ受クル損害ニ就テ帝國政府ニ對シ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

十、帝國宰相ハ本令ノ實行ヲ監督スル爲監査役會及株主總會ニ吏員ヲ派遣シ且該吏員ヲシテ何時ニテモ伯林及發行地ニ於テ諸帳簿特ニ銀行券ノ流通及準備ニ關スル帳簿ヲ檢閲セシムルコトヲ得

獨亞銀行ハ銀行券ノ發行及流通ニ關スル其主要ノ帳簿ヲ青島ニ於ケル營業所ニ備付クヘシ

銀行ハ毎月銀行券ノ流通高表ヲ帝國宰相及膠州灣總督ニ提出シ且其三箇月分ヲ帝國宰相ノ指定スル三新聞紙ニ公告スルコトヲ要ス

十一、左ノ場合ニ於テハ銀行券發行ノ特權ヲ喪失ス

（イ）銀行券發行ノ特許期間ノ經過

（ロ）銀行自體ノ棄權
（ハ）銀行ニ對スル破産手續開始ノ場合
左ノ場合ニ於テハ帝國宰相ハ特許ヲ取消スコトヲ得
（イ）銀行カ發行地ニ於テ銀行券ノ呈示ヲ受ケタル日ニ之ヲ兌換セサルトキ
（ロ）帝國宰相ノ許可ナクシテ定款第一條乃至第五條ノ規定ヲ變更シタルトキ
（ハ）流通銀行券ノ準備ニ關スル本令第二條第四號ノ規定ニ違反シタルトキ
前二號ノ場合ニ於テハ帝國宰相ハ銀行券ノ引上ヲ命令スヘシ

一千九百六年六月八日ノルデルネーニ於テ
帝國宰相侯爵　ビユーロー

三　銀行券發行ニ關スル特許狀施行細則

（一千九百六年六月八日公布）

第一條
一、左ノ銀行會社ハ保證人タルヲ得
商工銀行
伯林商工銀行
エス、ブライヒレーデル
ドイツチエ銀行
ヂスコント銀行
メンデルゾーン商會
獨亞銀行

保證人ハ各其出資額ニ應シ獨立シテ債務ヲ負フ保證行爲ハ獨亞銀行ノ振出保證人ノ引受アル十萬馬克以上ノ一覽拂爲替手形ノ作成ニ依リ之ヲ爲ス銀行ハ保證ヲ延長スル場合ニハ手形滿期日ノ三箇月前ニ新手形ヲ振出スカ或ハ別ニ適法ノ準備ヲ提供スルヲ要ス

二、帝國銀行ノ擔保規定ニヨリ認メラレタル株劵ハ供託ニヨル準備ニ之ヲ使用スルヲ得

前項以外ノ株劵ヲ供託ニ依ル準備トナス場合ニハ特ニ帝國宰相ノ承認ヲ要ス但承認ハ取消サルヽコトアルヘシ

獨逸ノ取引所ニ於テ取扱ハレサル株劵モ亦準備トナスコトヲ得ヘシ

準備ハ獨亞銀行ノ費用ヲ以テ帝國宰相之ヲ帝國銀行ニ供託スルモノトス

帝國宰相ハ本特許狀ニ基ツク銀行ノ義務不履行ノ場合ニハ其供託シタル有價證券ヲ公賣ニ付シ又ハ之ヲ自由ニ賣却スルコトヲ得

三、抵當權ノ設定ニヨル準備ノ價格ハ徵稅ニ採用セル土地評價ノ四割ヲ限度トス

抵當權ハ各銀行劵所持人ノ利益ノ爲ニ民法第千百八十七條ノ規定ニ從ヒ之ヲ登記スヘシ

前項ノ場合ニハ民事訴訟法第八百條ニ依ル强制執行ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

銀行ハ各債權者ノ利益ノ爲民法第千百八十九條ニ依リ無制限ノ處分權ヲ有スル代理人一名ヲ推擧スルコトヲ要ス

土地臺帳ニハ代理人ノ欠缺ノ場合ニハ同一ノ方法ニ依リ新代理人ヲ定ムヘキ旨ヲ記載スルコトヲ要ス代理人ハ帝國宰相之ヲ決定ス

四、帝國宰相ニ於テ準備ヲ不充分ナリト認メタルトキ又ハ準備カ減少セントスルトキハ銀行ハ準備ヲ補充シ又ハ他ノ適法ノ準備ヲ提供スルノ義務アルモノトス

第二條　銀行劵ノ樣式ハ豫メ帝國宰相ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第三條　報告ニハ毎月二十日現在ノ銀行劵流通高ヲ記載スルコトヲ要ス

一千九百六年六月八日ノルデルネーニ於テ

帝國宰相侯爵　ビユーロー

四　白銅貨發行規定

（千九百九年十月十一日公布）

保護領法第十五條並一千八百九十八年四月二十七日付帝國宰相布告第一條ニ基キ左ノ如ク改ム

第一條　獨逸帝國政府ハ墨西哥弗ノ十分ノ一及二十分ノ一ノ兩種ノ名價ヲ有スル白銅補助貨ヲ鑄造シ之ヲ膠州灣保護領地内ニ於テ通用セシム

第二條　白銅貨ハ一面ニハ錨ト帝鷲ノ圖「獨逸國膠州灣保護領地」ナル文字、價格及年號ヲ、他ノ一面ニハ支那文字ヲ以テ中央ニ「獨逸帝國貨幣」周圍ニハ價格及「青島」ナル文字ヲ現ハスモノトス

第三條　白銅貨ハ墨銀三弗ニ相當スル額迄ハ官公署並個人取引ニ於ケル支拂ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第四條　金庫ハ無制限ニ白銅貨ヲ收納シ又ハ之ト墨銀トノ交換ヲ爲スヘシ

第五條　金庫ハ穴ヲ穿タレ又ハ流通以外ノ原因ニ依リ毀損セラレ若クハ僞造セラレタル白銅貨ヲ收納シ又ハ交換スルノ義務ヲ有セス

第六條　現今通用ノ支那及香港鑄造ノ五仙、十仙及二十仙ノ補助銀貨ノ流通ヲ制限又ハ禁止スルノ時期ハ膠州灣總督ノ告示ニ依リ之ヲ定ム

一千九百〇九年十月十一日青島ニ於テ

獨逸帝國膠州灣總督

マイエル、ワルデック

五　獨亞銀行ノ無記名式擔保付社債券發行ニ關スル特許狀

（一千九百十年一月二十四日公布）

保護領法第三條及領事裁判法第三十四條ニ基キ獨亞銀行ニ對シ以下ノ規定ニ從ヒ無記名擔保付社債券ヲ發行スルコトヲ許可ス

第一條　獨亞銀行ハ土地抵當貸付並其取得シタル抵當權ヲ基トスル無記名式社債券ノ發行ヲ管掌スル抵當部ヲ設置スヘシ

抵當部ニ於テハ獨立シタル取引ヲ爲シ且獨立ノ帳簿ヲ備フルモノトス

部ノ業務ハ青島支店ニ於テ之ヲ統轄ス

第二條　抵當部ハ帝國宰相ノ監督ニ屬ス
監督權ハ部ノ業務ノ全般ニ及ヒ且部ノ閉鎖ノ後ト雖清算ノ終了スル迄存續ス
第三條　帝國宰相ハ法律、命令、本特許狀其他ノ規定ニ基キ業務ノ執行上必要ナル命令ヲ制定スルノ權限ヲ有ス帝國宰相ハ主トシテ以下ノ權限ヲ有ス
一、帳簿及書類ヲ檢査スルコト
二、業務ノ狀況ニ關シ報告ヲ徵スルコト
三、株主總會及重役會ニ自己ノ代表者ヲ派遣スルコト
四、法律、命令、本特許狀其他ノ規定ニ牴觸シタル決議又ハ規則ヲ禁止スルコト
帝國宰相ハ監督權ノ行使ニ關シ吏員ヲ任命スルコトヲ得帝國宰相ハ金庫ヲ指定シテ監督ニ必要ナル經費ヲ銀行ニ命スルコトヲ得其金額ハ帝國宰相之ヲ定ム
第四條　擔保付社債券ノ流通額ハ少クモ同額ノ抵當券及同額ノ利息收入ヲ以テ之ヲ保證スルコトヲ要ス帝國本位金貨ニ依ル社債券ハ帝國本位金貨ヲ以テ、弗銀貨ニ依ル社債券ハ弗銀貨ヲ以テ支拂ハルヘキ擔保ニ依リ之ヲ保證スルコトヲ要ス
帝國宰相ノ命令アルトキハ帝國本位金貨ニ依ル社債券ト雖弗銀貨ヲ以テ支拂ハルヘキ擔保ニ依リ之ヲ保證スルコトヲ得但第八條第二項ニ規定スル貸付價格ノ四分ノ三ヲ超過スルコトヲ得ス弗トハ墨西哥弗ヲ謂フ弗ノ換算率ハ二百馬克ニ對シ百弗トス社債券所持人ノ利益ヲ保持スル爲必要アルトキハ帝國宰相ハ右ノ換算率ヲ變更スルコトヲ得
損失ヲ防止スル爲銀行カ抵當物件タル土地ヲ取得シ因テ該土地ノ上ニ存在シタル抵當權カ銀行ニ歸屬シタル場合ニハ爾來該土地ノ流通債券ニ對スル保證價格ハ取得前ニ於ケル保證價格ノ半額ヲ超過スルコトヲ得ス抵當物件ノ拂戾其他ノ事由ニ依リ保證額ニ不足ヲ生シタル場合ニ於テ銀行カ直ニ他ノ抵當權ヲ以テ之ヲ補充シ又ハ不足額ニ相當スル社債券ノ償却ヲ爲ス能ハサルトキハ銀行ハ一時有價證券又ハ現金ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ要ス但有價證券ハ貸付ノ擔保トシテ帝國銀行ニ提供シ得ルモノニ限リ且其保證價格ハ帝國銀行所定ノ擔保價格ヲ超過スルコトヲ得ス

第五條　獨亞銀行ハ拂込資本金ノ四倍ヲ限リ擔保付社債券ヲ發行スルコトヲ得

第六條　擔保付社債券ニハ銀行ト債券所持人トノ間ノ法律關係ニ關スル規定及擔保付社債券タルコトヲ明カニスル文字ヲ揭クルコトヲ要ス

擔保付社債券ノ償還ニ關シテハ獨亞銀行ハ十年間ノ据置年限ヲ定ムルコトヲ得擔保付社債券ノ買入償却ノ價格ハ額面金額ヲ超過スルコトヲ得ス

第七條　擔保付社債券ノ保證ハ以下ニ規定スル條件ヲ具備スルコトヲ要ス

第八條　貸付ハ既耕地及建物敷地ニ對シテノミ之ヲ爲ス土地ハ獨領膠州灣又ハ支那ニ於ケル獨逸領事裁判所區域內ニ在リテ且獨逸法ニ從ヒ土地臺帳ニ登錄セラレタルモノタルコトヲ要ス

貸付ハ第一順位ノ抵當ヲ以テ之ヲ爲シ且土地ノ評價價格ノ半額ヲ超過スルコトヲ得ス帝國宰相ハ價格ノ四分ノ三迄貸付ケヲ爲シ得ル場合ヲ指定スルコトアルヘシ建物敷池及工事中ニテ未タ登記ヲ經サル建物ノ保證價格ハ社債券ニ對スル總保證價格ノ十分ノ一並獨亞銀行拂込資本金ノ十分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第九條　貸付評價價格ハ土地ノ時價ヲ超過スルコトヲ得ス土地ノ評價ハ地位及收穫ヲ標準トシテ之ヲ定ムルコトヲ要ス收穫ノ査定ハ尋常ノ經營方法ニ依リ收メ得ヘキ高ヲ以テ標準トス

第十條　獨亞銀行ハ評價ニ關スル諸規則ヲ制定スルコトヲ要ス此規則ハ帝國宰相ノ承認ヲ承クヘシ

第十一條　貸付ハ通貨ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス但貸付金ノ返濟ハ銀行ト借主トノ合意ニ依リ社債券ヲ以テ其額面金額ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニハ銀行ハ借主ニ對シ通貨又ハ社債券ノ一ヲ以テ返濟ニ充ツルコトヲ得ル旨ノ承諾書ヲ交付ス可シ

第十二條　抵當貸付ノ利率ハ擔保付社債券ノ利率ノ二倍半ヲ超過スルコトヲ得ス但銀行ノ申出ニ依リ帝國宰相ハ上記ノ制限ヲ超ヘタル利率ヲ許可スルコトヲ得抵當貸付ニ關スル其他ノ規則ハ獨亞銀行之ヲ定ム但シ此規則ハ帝國宰相ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス此規則ニ於テハ獨亞銀行ハ期日ニ至リ返濟セサル借主ニ對スル制裁及期日前ニ銀行カ返濟ヲ請求シ得ヘキ條件ヲ定ムルコトヲ要ス

第十三條　抵當銀行法第十六條乃至第二十一條ノ規定ハ之ヲ獨亞銀行ニ準用ス獨亞銀行ハ貸付規則中ニ抵當銀行法第十七條ニ相當スル

規定ヲ掲クルコトヲ要ス

第十四條　擔保付社債券ノ保證ニ充當セラレタル抵當權有價證券及現金ハ社債券所持人ニ對シ之ヲ質入レスルコトヲ要ス

第十五條　抵當權質入ニ際シ抵當證書ヲ受取ルコトヲ要ス抵當權質入契約書ニ於テハ民法法典第千二百八十一條乃至第千二百八十三條ノ規定ハ適用ナキコト、銀行ハ社債券ニ因リテ生スル債務ノ期限カ到來シタル後ト雖解約及償却ニ依リ抵當債權ヲ處分シ得ルノ特權ヲ有スルコト及抵當債務者ハ必ス銀行ニ對シテ返濟スルニアラサレハ其効力ヲ生セサルコトヲ記載スルコトヲ要ス社債券ノ保證ニ充當シタル現金ハ銀行之ヲ封印シ擔保品管理人ニ供託スルコトヲ要ス

第十六條　質入シタル抵當權及有價證券カ社債券ノ保證トシテ剩餘額ヲ存スルトキ又ハ銀行カ他ニ適法ノ保證ヲ有スルトキハ其額タケ銀行ハ質權ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

銀行ハ法律ノ規定又ハ貸付契約ノ規定ニ從ヒ抵當債務者ニ抵當證書ノ交付ヲ爲スノ義務ヲ負フ場合ニハ擔保品管理人ハ第一項ニ記載シタル條件ノナキ場合ト雖銀行ニ抵當證書ヲ交付スルコトヲ要ス

銀行カ抵當債務者ニ對シ民法法典第千百四十五條ニ規定スル行爲ヲ爲スノ義務ヲ負フ場合ニハ擔保品管理人ハ第一項ニ記載シタル條件ノナキ場合ト雖モ民法法典第千百四十五條ニ規定セラレタル場所ニ抵當證書ヲ送付スルコトヲ要ス但擔保品管理人ハ抵當證書ノ返戻ハ自己ニ對シ之ヲ爲スヘキ旨ヲ附加スルコトヲ要ス

抵當證書ヲ銀行ヘ交附スルコトニ關シテハ第十八條第四項ノ規定ヲ參照ス可シ

第十七條　抵當部ニ於テハ擔保品管理人ヲ任命スルコトヲ要ス帝國宰相ノ見込ニ依リ銀行ハ伯林其他社債券ノ發行地ニ於テ擔保品管理人ノ代理人ヲ任命スルコトヲ得任命ハ銀行ノ申出ニ依リ之ヲ爲ス帝國宰相ハ何時ニテモ任命ヲ取消スコトヲ得擔保品管理人並其代理人ノ職務ハ帝國宰相ノ任命シタル吏員ニ之ヲ委任スルコトヲ妨ケス

第十八條　擔保品管理人ハ質權ノ取得、保全及行使ニ付社債券所持人ノ全體ヲ代表ス殊ニ擔保品管理人ハ社債券ニ因リテ生スル債務ノ保證ニ充當スル抵當權ニ關スル證書ヲ保管シ且保證ニ充當セラレタル有價證券及現金ハ銀行ノ封印ノ下ニ之ヲ保管ス

擔保品管理人ハ社債券ニ對シ適法ノ保證カ存在スルヤ否ヤヲ監視スルコトヲ要ス但貸付ノ抵當タル土地ノ價格カ帝國宰相ノ承認ヲ得

テ確定セル場合ニハ價格カ實際ノ價格ニ適應セルヤ否ヤヲ審査スルコトヲ要セス

擔保品管理人ハ社債券ノ保證タル抵當權、有價證券及現金カ社債券所持人ニ質入セラレタルヤ否ヤヲ監視スルコトヲ要ス擔保品管理人ハ社債券ノ發行前適法ノ保證ノ存在スル旨ヲ證明スルコトヲ要ス

銀行カ一時抵當證書ヲ使用セントスルトキハ擔保品管理人ハ自己又ハ其指定シタル第三者ノ保管ノ名義ニ於テ之ヲ許可スルコトヲ要ス

第十九條　擔保品管理人ハ何時ニテモ抵當部ノ帳簿及書類ヲ檢閲スルノ特權ヲ有ス

銀行ハ質入シタル抵當權ニ對スル元本ノ拂戻其他該抵當權ニ關シ社債券所持人ニ及ホス變更ニ付テハ擔保品管理人ニ豫メ報告スルコトヲ要ス

第二十條　擔保品管理人ト銀行トノ爭ハ帝國宰相之ヲ決ス

第二十一條　擔保品管理人及青島以外ニ在ル其代理人ハ銀行ニ對シ業務ノ執行上必要ナル經費ヲ請求スルコトヲ得經費ノ額ハ銀行ノ申出ニ依リ帝國宰相之ヲ定ム

第二十二條　每半年ノ最初ノ三箇月以内ニ銀行ハ前半季ノ末日ニ於ケル社債券ノ流通高及前半季ノ末日ニ於テ社債券所持人ニ質入シタル抵當權、有價證券及現金ノ高ヲ獨逸帝國官報局、獨逸領膠州灣ニ於ケル官報局及上海ニ於ケル獨逸總領事ニ報告スルコトヲ要ス

有價證券又ハ社債券ノ保證トシテ不足セル抵當權カ社債券所持人ニ質入セラレタル場合ニハ該有價證券又ハ抵當權ノ保證充當額ヲモ公告スルコトヲ要ス

第二十三條　獨亞銀行ノ貸借對照表ニハ「抵當部勘定」ヲ設ケ左ノ事項ヲ記載ス可シ

一、社債券ノ保證ニ充當セラレタル抵當權、有價證券及現金ノ高

二、流通社債券ノ券面額但社債券ノ利率一樣ナラサルトキハ利率ニ依リ區別シ其流通高ヲ揭ク可シ

三、銀行所有ノ社債券額

四、社債券利子ノ未拂額

第二十四條　損益計算書ニ於テハ營業年度間ニ銀行ノ收得シタル抵當利子、貸付手數料其他抵當債務者ヨリ徵シタル收益並營業年度間ニ銀行ノ支拂タル社債券利子ノ總額ヲ區別シテ揭クルコトヲ要ス

第二十五條　社債券發行ノ際ニ於ケル價格ノ上騰及下落ニ付テハ抵當銀行法第二十五條及第二十六條ノ規定ヲ準用ス

第二十六條　營業報告書又ハ貸借對照表ニ於テハ抵當部勘定中ニ抵當銀行法第二十八條ニ規定シタル日付ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十七條　本特許狀ニ於テ土地債務ハ抵當權ト同樣ニ之ヲ扱フ

第二十八條　左ノ場合ニ於テハ帝國宰相ハ社債券發行ニ關スル許可ヲ取消シ且社債券所持人ノ權利ヲ侵害セスシテ社債券ノ償却ヲ命スルコトヲ得

一、銀行カ拂込資本金ノ四倍ヲ超過シテ又ハ適法ノ保證ナクシテ社債券ヲ發行シタルトキ

二、保證カ社債券發行額以下ニ減少シ且銀行ハ帝國宰相又ハ擔保品管理人ノ請求アルニ拘ラス之ヲ補充セサルトキ

三、銀行カ支拂ヲ停止シ又ハ支拂不能トナリタルトキ

四、本特許狀發布後三十年ヲ經過シタル後ハ前項第一號乃至第三號ノ條件ナキ場合ト雖帝國宰相ハ前項ノ權限ヲ有ス第三條ニ依ル帝國宰相ノ一般ノ權限ハ以上ノ規定ニ依リ妨ケラルヽコトナシ

第二十九條　社債券ノ保證タル土地カ膠州灣ニ於テ登記セラレタルトキハ銀行ハ社債券ノ一箇年間ニ於ケル平均額ノ千分ノ二半ヲ膠州灣ニ在ル金庫ニ支拂フ可シ此場合ニハ社債券ノ第一回ノ發行ヲ爲ス迄ノ日數ハ之ヲ算入セス上納金ハ遲クモ次年ノ三月迄ニ帝國宰相ノ定メタル金庫ニ支拂フコトヲ要ス

土地ノ抵當物カ獨逸居留地ニ於テ登記セラレタルトキハ當該居留民團ハ銀行ニ對シ相當ノ上納金ヲ命スルコトヲ得

一千九百十年一月二十四日伯林ニ於テ

帝國宰相　フォン、ベトマン、ホルウエッヒ

花旗銀行

花旗銀行（International Banking Corporation）ハ一九〇一年米國ノ東亞經營ニ資スル爲ニ米國銀行家ノ聯合シテコンネクチカツト州法ノ下ニ創立セルモノニシテ、同五年直チニ上海ニ支店ヲ設ケタリ、支那ニ於ケル米國銀行ハ僅ニ本行ノミナリシガ爲ニ米支兩國ノ貿易關係密接トナルト共ニ本行業務モ發展シ、後支那ノ投資團ノ一トシテ活動スルニ至レリ、本店ヲ紐育ニ置キ、支那ニ於テハ上海ノ外北京ニ支店ヲ設ケ、其他日本、比律賓、印度等ニモ支店アリ、其ノ資本金三、二五〇、〇〇〇米弗ニシテ一株百弗ノ株式三萬二千五百個ニ別ツ、本行ハ米國國際企業會社ト密接ノ關係アリ、支那ニ於テハ同社ノ爲ニ金融業務ヲ掌レリ、尚同行ノ利益金勘定、資産狀況ヲ示セバ次ノ如シ。

利益金勘定

（單位米弗）

年次（六月末）	純益金	配當金 數額	配當金 步合	未拂利益金	後期繰越金
一九〇六年	一四八、八八二弗	六五、〇〇〇弗	四%	八三、八八二弗	一六六、〇八三弗
一九〇七年	一一七、一六二	六五、〇〇〇	四	五二、一六二	二一八、二四五
一九〇八年	一二六、八一四	—	—	一二六、八一四	三四五、〇五九
一九〇九年	一〇、〇六〇	—	—	一〇、〇六〇	三五五、一一九
一九一〇年	二二九、六七五	—	—	二二九、六七五	一二五、四四四
一九一一年	一九〇、六四〇	—	—	一九〇、六四〇	三一六、〇八四
一九一二年	二四二、二〇六	—	—	二四二、二〇六	五五八、二九〇
一九一三年	三〇六、一七一	一六二、五〇〇	五	一四三、六七一	七〇一、九六一
一九一三年（七月－十二月）	一六九、二二七	九七、五〇〇	六	七一、七二七	七七三、六八八

借方

（單位米弗）

年次（六月末）	拂込資本金	準備金	資本金及準備金計	在支那銀行券流通高	定期及即時拂預金在高	融通手形引受高	引受手形支拂勘定	未拂利益金	借方合計
一九〇二年	三、三九一、五〇〇弗	三、三九一、五〇〇弗	六、七八三、〇〇〇弗	—弗	三、九九〇、五九六弗	—弗	五、五六一、三四四弗	八四、七九七弗	一六、四一九、七三七弗
一九〇三年	三、九四七、二〇〇	三、九四七、二〇〇	七、八九四、四〇〇	—	四、七六八、五二五	一、一五九、七七三	六、七四〇、六四〇	九七、七七三	二〇、六六一、一一一
一九〇四年	三、九四七、二〇〇	三、九四七、二〇〇	七、八九四、四〇〇	—	一一、五六三、〇二七	二、六一五、二九六	五、〇八七、二九六	二、九九一	二七、一六三、〇一〇
一九〇五年	三、二五〇、〇〇〇	三、二五〇、〇〇〇	六、五〇〇、〇〇〇	—	一二、五三五、六九六	三、三三一、九二四	一〇、〇二二、六〇六	八二、二〇〇	三二、四七二、四二六
一九〇六年	三、二五〇、〇〇〇	三、二五〇、〇〇〇	六、五〇〇、〇〇〇	—	一〇、二四六、三四七	二、八八一、五二二	一一、二九八、四二九	二三一、〇八三	三一、一五七、三七一
一九〇七年	三、二五〇、〇〇〇	三、二五〇、〇〇〇	六、五〇〇、〇〇〇	二〇二、四七四	一四、七六九、七〇三	三、一四二、七四一	八、四三七、六四九	二八三、二四四	三三、三三五、八二一
一九〇八年	三、二五〇、〇〇〇	三、二五〇、〇〇〇	六、五〇〇、〇〇〇	一三六、四五四	一三、〇四八、八五五	一、四八五、五七二	五、八二〇、五九九	三四五、〇五九	二七、三三六、五三九
一九〇九年	三、二五〇、〇〇〇	三、二五〇、〇〇〇	六、五〇〇、〇〇〇	一二四、三七八	一六、〇四七、三三三	一、五九〇、五〇五	三、九六四、四一〇	三五五、一二〇	二八、五八一、七三五
一九一〇年	三、二五〇、〇〇〇	三、二五〇、〇〇〇	六、五〇〇、〇〇〇	一五九、三〇六	一七、六八六、〇一九	二、六五六、七二〇	五、三二四、七二四	一二五、四四四	三二、四五二、二一三
一九一一年	三、二五〇、〇〇〇	三、二五〇、〇〇〇	六、五〇〇、〇〇〇	二三七、四五七	二〇、三九二、七九二	四、六二四、三四八	五、二二二、六五九	三一六、〇八三	三七、二九三、三三九
一九一二年	三、二五〇、〇〇〇	三、二五〇、〇〇〇	六、五〇〇、〇〇〇	四七七、七六〇	二〇、四八七、一四〇	四、一四〇、三五〇	五、八八九、九四〇	五五八、二九〇	三八、〇五三、四八〇
一九一三年	三、二五〇、〇〇〇	三、二五〇、〇〇〇	六、五〇〇、〇〇〇	五九三、四七〇	二三、二六七、七〇五	五、三三七、二一五	六、七七七、八一〇	七八三、二一〇	四二、二四九、四一〇
一九一四年	三、二五〇、〇〇〇	三、二五〇、〇〇〇	六、五〇〇、〇〇〇	四八七、三九五	二一、九〇三、八六四	二、八五五、一八五	五、〇七六、九四九	九七四、八三七	三七、七九八、二三三

貸方

（單位米弗）

年次（六月末）	現金手許及地方國庫金預金銀行預入高	證券放資高	定期貸付及手形割引高	コール貸付高	取引先ニ對スル手形引受債權	手形、受取勘定其他雜	貸方合計
一九〇二年	一、九一三、一八二弗	一、四二二、九七九弗	一、一三九、〇一四弗	二、〇一〇、七四九弗	—弗	九、九三四、八一三弗	一六、四一九、七三七弗

一九〇三年	二、八六二、四一三	三、一六二、〇〇七	四、七〇八、四一九	三、二三[illegible]、四〇[illegible]	一、一五九、七七三	五、五三六、〇九九	二〇、六六一、一一一
一九〇四年	五、四〇五、〇六六	四、二九四、〇四四	五、八八一、六八三	四、三二一、六八四	二、六一五、二九六	四、六四五、二三七	二七、一六三、〇一〇
一九〇五年	五、一六九、二八三	五、〇〇〇、三四四	五、五二九、四四五	四、一〇三、九三九	三、三三一、九二四	九、三三七、四九一	三二、四七二、四二六
一九〇六年	四、五七八、七七二	五、一三六、三三四	六、九一三、四七二	三、五一一、五九九	二、八八一、五一三	八、一三五、六九三	三一、一五七、三七一
一九〇七年	四、四四〇、六九五	五、七二七、四〇一	五、二〇九、三一三	三、八五四、六三三	三、一四二、七四一	一〇、九六一、〇二八	三三、三三五、八一一
一九〇八年	三、七二四、二二八	五、一五八、四七九	六、〇一四、七六二	三、四九一、三八八	一、四八五、五七三	七、四六二、一一〇	二七、三三六、五三九
一九〇九年	四、三九五、一六七	四、七六〇、五六四	七、〇七七、四八一	二、八三三、五三三	一、五九〇、五〇五	七、九二五、四八六	二八、五八一、七三五
一九一〇年、	四、〇三七、二九八	四、八四一、二八五	八、一九九、七六五	三、八八九、七四三	二、六五六、七一九	八、八二七、四〇三	三二、四五二、二一三
一九一一年	六、〇五四、四一一	四、九四五、四八六	一〇、五一五、八五三	三、八一六、五五八	四、六二四、三四八	七、三三六、六八三	三七、二九三、三三九
一九一二年	五、六四三、一〇五	五、七四二、六三〇	六、二八九、四七五	五、九三四、七五〇	四、一四〇、三五〇	一〇、三〇三、一七〇	三八、〇五三、四八〇
一九一三年	六、七六五、六七〇	五、五四七、五二五	六、三三二、三八〇	五、五九六、三七五	五、三二七、二一五	一二、六八〇、二四五	四二、二四九、四一〇
一九一四年	八、九八〇、〇六三	四、八〇七、六四六	五、二四〇、九七九	六、三六二、四九二	二、八五五、一八五	九、五五一、八六五	三七、七九八、三三二

其支那ニ於ケル投資事業ノ主ナルモノ次ノ如シ。

名稱	金額	期限	利率	擔保	備考
湖北省外債	二、〇〇〇、〇〇〇両	一九一一—一九[illegible]〇年	七分	宜昌鹽税	四國銀行ト共同引受
上海市場救濟資金	三、七〇〇、〇〇〇	一九一〇—一九一五	七分	支那政府保證	九銀行團ト共同引受

インターナショナル銀行特許狀

一千九百一年一月北米合衆國コンネクチカット州上院總會ニ於ケル聯合決議第二百三十二號

第一條　エ、エフ、ハーデイング。アル、エス、マスタートン。シー、ビー、ウイルソン。デイー、ビー、ギーデイグス。ダブルユー、

エス、ダウンス竝ニ以上ノ人々ト組合チ爲シタル其ノ他ノ諸氏發起ト爲リコンネクチカツト州ブリツヂポート市ニ於テインターナショナル銀行ト稱スル一社團チ組織スルコトヲ得、本社團ハ前記ノ名ニ於テ法律上有効ニ不動産又ハ動産ノ受領、買受、所持、賣却及引渡ヲ爲シ裁判上訴チ提起シ又ハ訴チ受ケ抗告ヲ爲シ及防訴チ爲スコトヲ得、本會社ハ社印ヲ定メ且任意ニ之チ變更スルコトチ得、本會社ハ自カラ定ムル所ノ方法ニ從ヒ必要ナル總テノ職員ヲ選任シ之カ報酬竝ニ其ノ職務ノ範圍ヲ定メ又ハ合衆國法竝ニコンネクチカツト州法ニ牴觸セサル限リ本會社ヲ統理スル爲定款チ作成シ且執務規程及財産管理規則ヲ作リ其ノ他本特許狀ノ條項ニ從ヒ本會社ニ於テ爲シ得ヘキ業務ニ付帶セル一切ノ行爲チ爲スコトチ得

第二條　本會社設立ノ目的ハ以下ニ列擧シタル事項ノ全部又ハ一部ヲ營ムニ在リトス即如何ナル形態チ以テスルチ問ハス商業、製造業、鑛業、仲立業、各種ノ代理業、船荷問屋、建築、金融、仲買、及請負又ハ下請ニ關スル業務チ取扱フコト。一般銀行及信託業務ニ從事スルコト。金錢ノ預托チ受クルコト。爲替、貨幣及地金銀ノ賣買、約束手形、爲替手形、送金手形、諸債券、諸公債又ハ債務ノ證據タル證書及其ノ他ノ流通證券ノ賣買、振出、發行、割引、讓渡、及裏書チ爲スコト。對物、對人其ノ他ノ擔保貸ヲ爲スコト。州、市其ノ他ノ法人又ハ組合ノ債券ニ關シ之カ事務チ取扱フコト。債券又ハ抵當ニ關シ受託者ト爲リ又ハ國ノ内外、事ノ公私チ問ハス財産、個人、商店又ハ會社ノ爲ニ其ノ管理者、經營者、執行者、受領者、代理者、保存者又ハ受託者ト爲リ又ハ其ノ種類ノ如何ヲ問ハス其ノ他ノ信託代理事務ノ取扱チ爲スコト。市又ハ其ノ他ノ法人ノ發行ニ係ル債券ノ賣買チ爲シ又ハ之カ元利仕拂ノ保證チ爲スコト。以上各種ノ業務ニ付帶シ保護預ニ關スル業務ヲ營ムコト。コンネクチカツト州以外ノ地ニ於テ公私工事ノ建設及其ノ作業ニ從事スルコト。船舶ノ新造、購入、傭入及賣却チ爲シ又ハ本州以外ノ地ニ於テ陸上又ハ海上ノ運送ニ從事スルコト。動産又ハ不動産ノ購入、所有、賣却、賃貸、賃借チ爲シ又ハ之ニ改良チ施シ及動産又ハ不動産ヲ抵當ニ取リ又ハ之ヲ抵當ニ供スルコト。契約チ締結シ之ヲ履行シ及其他如何ナルモノタルチ問ハス適法ナル一切ノ業務チ營ミ又ハ從事スルコト。世界何レノ地ニ於テモ支店ヲ設置シ得ルコト。個人、商店、組合又ハ會社ノ得意、權利及財産チ獲得シ之ニ對シ現金、當會社ノ株券又ハ債券又ハ其ノ他ノモノチ交付スルコト。竝ニ個人、商店、組合、又ハ會社ノ事業及負債チ引受クルコト而シテ其ノ結果該事業ノ引受ケト共ニ當然本會社ニ繼承セシムルコト是レナリ

第三條　本會社ノ株金、財産及事務ハ九名以上ノ取締役ヲ置キ之ヲ取扱ハシム取締役ハコンネクチカツト州以外ノ地ニ於テ居住スルコトヲ得ヘク定款ノ定ムル所ニ從ヒ株主總會ニ於テ十株以上ノ株主中ヨリ之ヲ選任ス

取締役ハ其ノ選任セラレタル後第一回ノ取締役會ヲ開キ頭取一名ヲ互選ス頭取其ノ他ノ職員又ハ取締役ニシテ辭職又ハ其ノ他ノ原因ニヨリ欠員ヲ生シタルトキ取締役會ハ之カ補欠ヲ選任スルコトヲ得補欠員ハ前任者ノ殘存期間中其ノ任ニ在ルヘキモノトス

取締役ハ定款ニ於テ定ムル所ノ其ノ他ノ職員ヲ選任スルコトヲ得

頭取又ハ取締役ニ對スル選擧ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ爲ス

株主總會ハ取締役會ニ於テ必要ト認メタルトキハ州ノ内外ヲ問ハス何時ニテモ之ヲ招集シ及開會スルコトヲ得定期又ハ臨時總會ヲ招集スルトキハ定款ノ規定ニ從ヒ豫メ通知ヲ發スヘシ

本會社ハブリツヂポート市ニ一名ノ代表者ヲ駐在セシム代表者ハ法律上必要ナル文書ヲ作成シ之ヲ以テ適法ニ本會社ノ爲シタル行爲ト見做ス

本會社ハ業務執行ノ爲合衆國ニ屬スル州、領土及屬領地又ハ外國何レノ地ニ於テモ何等ノ制限ナク苟クモ一般自然人カ適法ニ營業シ得ヘキ場所ニ於テ一個又ハ數個ノ營業所ヲ設置スルコトヲ得

第四條　取締役ハ本會社定款ノ作成、變更、改正又ハ廢止ヲ爲スコトヲ得又取締役ハ本會社ノ不動産又ハ動産ノ上ニ抵當權ヲ設定スルコトヲ得

取締役會ハ會社業務ノ執行上必要ナル職員及代理者ヲ任命スルコトヲ得

取締役ハ株主ヨリ會社ノ諸帳簿、計表ノ閲覧ヲ申出タルトキ之カ許否、範圍、時期及場所ヲ決定シ且其ノ條件及規則ヲ定ム株主ハ之ニ依リ取締役ノ許可ヲ得タルトキ若クハ定款又ハ株主總會ノ決議アリタル場合ノ外本會社ノ諸帳簿及文書ノ閲覧ヲ爲スコトヲ得ス

第五條　本會社ハ前數條ニ規定シタルモノヽ外取締役ニ對シ更ニ他ノ權限ヲ附與シ又ハ取締役ノ員數ヲ變更スルコトヲ得且取締役會ヲ組織スル定足數ヲ取締役ノ半數以内ニ於テ定メ又ハ何時ニテモ本會社ノ名稱ヲ變更スルコトヲ得

取締役會ハ全員ノ過半數ニヨル決議ヲ以テ取締役中ヨリ三名以上ノ營業委員ヲ互選シ營業委員會ヲ組織セシム營業委員會ハ取締役會

閉會中本會社ノ業務執行上取締役會ニ屬スル一切ノ權限ヲ有シ之ヲ行使ス又本會社ノ文書ニ社印押捺ノ必要アルトキハ何時ニテモ之ヲ使用スルノ權ヲ有ス

取締役ハ州ノ內外ヲ問ハス何時ニテモ取締役會ヲ開キ且其ノ場所ニ於テ本會社ノ諸帳簿ヲ保管スルコトヲ得

第六條　取締役ハ評議員ヲ選任スルコトヲ得評議員會ハ本會社ノ利益及經營ニ關シ取締役ニ對シ意見ヲ陳述スヘキモノトス評議員ノ選任竝ニ評議員會開會ノ時期ハ取締役會ニ於テ之ヲ定ム

第七條　本會社ノ資本金ハ五百萬弗ト定メ之ヲ五萬株ニ分チ一株ノ金額ヲ百弗トス株式ハ本會社取締役ノ定メタル規定ニ從ヒ之ヲ讓渡スルコトヲ得

本會社ノ資本金ハ株主總會ノ決議ヲ以テ何時ニテモ之ヲ增加スルコトヲ得

第八條　本會社株式ニ對スル申込ハ發起人ノ指定シタル場所及時期ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス創立總會ハ州ノ內外ヲ問ハス發起人ノ全部又ハ過半數ニ於テ指定シタル時期及場所ニ招集及開會セラルルモノトス創立總會開會ノ時期及場所ハ發起人ヨリ之ヲ通知スルコトヲ要ス株式申込人ニシテ其ノ引受株ニ對シ全部ノ拂込ヲ爲シタル後ハ會社又ハ其ノ債權者ニ對シ更ニ何等ノ義務ヲ負擔セス

第九條　本會社ハ本特許狀ノ定ムル所ニ依リ本州ニ於テ銀行又ハ信託業務ヲ開始セントスルトキハ銀行委員會ノ許可ヲ受クヘシ銀行委員會ハ免許讓ヲ下付スルニ當リ必要ト認ムルトキハ本會社ノ業務ヲ檢査スルコトヲ得本會社ニシテ本州ニ於テ銀行又ハ信託業務ヲ營ムコトヲ免許セラレタルトキハ本會社ノ本州ニ於ケル銀行又ハ信託業務ニ關シテハ銀行委員會ノ監督ニ服シ且ツ本州ニ於テ營業スル銀行又ハ信託會社ニ關スル法律ノ規定ニ從フヘキモノトス

第十條　本會社ノ出納役ハ每年十月一日ニ於ケル本州居住者ノ名義ニ係ル株式ノ數及其ノ時價ヲ記載シタル報告ヲ同月中ニ本州監督官廳ニ提出シ又十月一日ニ於テ本州ニ居住スルモノヽ名義ニ係ル株式ニ對シ其ノ時價ノ百分ノ一ニ相當スル課稅ヲ每年二月末日迄ニ本州金庫ニ納付スルコトヲ要ス

本會社出納役ハ每年十二月末日迄ニ本州金庫ニ對シ現在發行株式總數ニ付其ノ額面ノ百分ノ一「パーセント」ニ相當スル課稅ヲ納付スルコトヲ要ス本稅ノ納付ハコンネクチカツト州內ニ存在スル本會社所有ノ財產ニ對スル課稅ノ外其ノ他一切ノ租稅ヲ免除スルノ効

カヲ生ス

第十一條　本會社ハ本州金庫ニ對シ五十弗ノ免許税及本會社公稱資本金每一千弗ニ付金五十仙ノ免許料ヲ納付スルコトヲ要ス爾後增資シタルトキハ其ノ增資金額五百萬弗ニ達スル迄每一千弗ニ付金五十仙、五百萬弗以上ハ每一千弗ニ付金十仙ノ割合ヲ以テ免許料ヲ納付スヘシ本税ノ外本會社ハ其ノ營業免許ニ關スル一切ノ租税及手數料ヲ課セラルルコトナシ

第十二條　本會社ハ每年本州銀行委員會ニ對シ資產負債ノ狀態ヲ記載シタル本會社ノ營業報告書ヲ提出スヘシ該營業報告書ニハ其頭取又ハ副頭取之ニ署名シ秘書役又ハ出納役之ニ連署シタル上更ニ當該官吏ノ公證ヲ受クルコトヲ要ス營業報告書ノ提出ハ本特許狀第十條ニ定メタルモノヲ除キ本會社ニ對スル一切ノ報告又ハ檢査ニ代ハルヘキモノトス

第十三條　本會社第一回ノ資本金ハ總テ引受濟トナリ且全部ノ拂込ヲ了シタル後ニアラサレハ本會社ハ本特許狀第二條ニ規定シタル業務ヲ開始スルコトヲ得ス

インターナショナル銀行特許狀改正ニ關スル上院決議

（一九〇五年コンネクチカット州上院聯合決議第六六號）

第一條　インターナショナル銀行特許狀ハ本決議ニヨリ左ノ通リ變更セラレタルモノトス

本會社ハ現ニ其ノ所有ニ係ル他ノ銀行株ヲ以テ當インターナショナル銀行株式一萬株ヲ限リ且該株式所有者ト協定シタル條件ニ於テ之ヲ交換スルコトヲ得但シ本州ニ於テ存在スル銀行又ハ信託會社ノ株式ヲ以テ之ヲ交換スルコトヲ得ス

第二條　インターナショナル銀行頭取及出納役ハ本決議ニ由リ自行ノ株式ヲ取得シタルトキハ六ケ月以內ニ該株數ヲ記載シタル文書ヲ作成シ之ヲ本州政廳ニ提出スヘシ州務官ハ該政廳ニ備付ケアル登錄簿ニ於テ之ヲ登錄スヘキモノトス

第三條　第一條ニ依リ他ノ銀行株ノ交換トシテ取得シタル本インターナショナル銀行株式ハ特ニ此ノ目的ノ爲ニ招集シタル株主總會ニ於テ出席株主三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ償却シ且之ニ依リ本インターナショナル銀行ノ資本金ヲ減少スルコトヲ得但該資本金ノ減少ハインターナショナル銀行取締役ノ過半數ニ於テ該資本金ノ減少カ適法ニ株主ノ承認ヲ經タルコトヲ記載シタル文書ヲ作成シ之

ニ署名シ並ニ該資本金ノ減少ニ關シ其ノ細目ヲ記載シタル株主總會議事錄謄本ト共ニ之ヲ本州政廳ニ提出シ且州務官ニ於テ之ニ依リ登錄簿ニ登錄シタル後ニアラサレハ其ノ效力ヲ生セス

有利銀行

有利銀行(Merchantile Bank of India, L'd)ハ元Chartered Merchantile Bank of India, London and Chinaト稱シ、一八七五年九月十五日附特許狀ニ基キ設立セラレタル、英國海外銀行ノ一ナルガ、特許狀ニヨル時ハ一面特權ノアルト共ニ一面種々ノ制限アリ、然カモ一八六二年ノ會社法ニヨレバ此特權ノ目的トスル所ヲ容易ニ遂行シ得ベキヲ以テ、一八九二年ニ至リ組織ヲ變更シ同年十二月二日會社法ノ下ニ登記ヲナシ、前記ノ名稱ニ改ムルニ至レルモノナリ、本店ヲ倫敦ニ置キ孟買、カルカッタ、ハウラト、デーリマドラス、カラチ、蘭貢、古倫母、カンディーゲール、新嘉坡、彼南、コタバール、クアラウムプア、バタビヤ、香港、北京、上海、ポートルイス、マウリチウス等ニ支店ヲ有ス、其資本總額百五十萬磅ニシテ、内A株三萬株、B株三萬株アリ、其發行資本額ハA株一萬五千株一八七、五〇〇磅、B株三萬株三七五、〇〇〇磅ナリ。

今該銀行ノ營業報告ニヨリ一九一六年一月ヨリ十二月ニ至ル一九一六年度ノ營業成績ヲ示セバ左ノ如シ。同年ノ純益ハ貸倒準備ヲ控除シ、前年度ヨリノ繰越金三一、三〇二磅六志ヲ合シテ一六四、六七

六磅一一志四片トナリ、六月二十日迄ノ上半期配當トシテ五分ノ配當二八、一二五磅（A及B株ニ於ケル所得税ヲ差引キ）ヲ控除シタル殘額ヨリ五萬磅ヲ積立金ニ當テ（積立金ハ之ニテ六十萬磅ニ達ス）五千磅ヲ出征者扶助料ニ、一萬磅ヲ自由保有銀行不動産ニ準備セリ、而シテ半期配當トシテ、七分（所得税差引）ノ配當ヲナシ、之ニテ同年配當ハ一割二分トナル、右ヲ控除セル殘額三二、一七六磅一一志四片ハ、之ヲ次年度ヘ繰越セリ、同社ハ同年中マウリチウスニ於テマウリチウス銀行ヲ買收シ之ヲ同地支店トシテ開業セリ、一九一六年十二月三十一日現在バランスシート及損益計算書ヲ表示スレバ左ノ如シ。

貸借對照表

負債之部

	磅	志	片
公稱資本			
A株三萬株（毎株二五磅）	七五〇、〇〇〇磅		
B株三萬株（同）	七五〇、〇〇〇		
計	一、五〇〇、〇〇〇		
發行資本			
A株一萬五千株（拂込十二磅十志）	一八七、五〇〇		
B株三萬株（同上）	三七五、〇〇〇		
	五六二、五〇〇		

積立金	六〇〇、〇〇〇	〇	〇
流通手形	一〇四、〇二七	〇	〇
當座及定期預金及其他勘定（再割引及貸倒勘定ヲ含ム）	八、五五八、五八一	一九	二
支拂手形	九二〇、〇〇六	一八	七
擔保貸付	一〇〇、〇〇〇	〇	〇
代理貸付承諾	三四九、〇〇六	一八	八
當期純益金	七一、五五一	一一	四
合計	一一、二六五、六七四	七	九

資産之部

手許及銀行金	一、九六八、三四七磅	一三志	二片
地金	五九、三三五	一三	五
	二、〇二七、六八三	六	七
發行手形ニ對スル擔保及金銀貨預金	一二二、二〇〇	〇	〇
戰時公債、印度政府留比貨幣及保證鐵道債券及其他有價證券	八三〇、六九九	〇	四
受入手形	三、四六二、三七八	三	一
割引手形	二一六、九五七	八	三
受入及借款及前渡金	三、七一七、三〇八	八	一〇
自由保有銀行不動産	二二五、三五六	一四	九
代理支拂承認	三四九、〇〇六	一八	八
雜勘定	三一四、〇八四	七	三

合計	一一、二五六、六七四	七	九

損益計算書

支出之部

本店支店及代理店營業費	一四五、〇三九	五	七
上半期配當五分（年一割）			
A株一萬五千、B株三萬	二八、一二五	〇	〇
積立金準備	五〇、〇〇〇	〇	〇
出征者扶助資金へ	五、〇〇〇	〇	〇
自由保有銀行不動產準備	一〇、〇〇〇	〇	〇
バランス	七一、五五一	一一	四
計	三〇九、七一五	一六	一一

收入之部

前年度ヨリノ繰越	六五、〇二五	六	六
一九一五年下半期配當（六分）	三三、七五〇	〇	〇
差引殘リ	三一、三〇二	六	六
一九一六年總利益（貸倒準備、社員賞與金及マカリチウス銀行買收費ヲ控除シ）	二七八、四一三	一〇	五
計	三〇九、七一五	一六	一一

喳啁銀行

喳唎銀行（Chartered Bank of India, Australia and China）ハ一ニ麥加利銀行トモ稱セラレ、一八五三年英國國王ノ特許狀ニヨリ設立セラレタルモノニシテ、倫敦ニ本店ヲ置キ印度、濠洲、及支那方面ノ英國ノ金融機關トシテ計畫セラレタルモノナリ、設立後五年ニシテ卽一八五七年十一月上海ニ支店ヲ設置シタルガ之レ實ニ支那ニ外國銀行ノ設ケラレシ最初ナリ、上海ニ於ケル銀行業務ハ設立ノ當初、未ダ不振ノ狀態ナリシガ、一八八〇年頃ヨリ次第ニ勢力ヲ得、後香港上海銀行ノ設立ヲ見タルモ尙打擊ヲ蒙ラザリシ有樣ナリキ。

其資本金ハ一、二〇〇、〇〇〇磅ニシテ一株二十磅ノ株式ニ別チ、全額拂込濟トス、當初ノ資本ハ八〇〇、〇〇〇磅ナリシヲ一九〇七年增資ヲ行ヘルナリ、支那ニ於ケル支店ハ廣東、福州、漢口、天津、上海、靑島各地ニ設置セラル、次ニ同行營業狀況ヲ表示セン。

一八九〇年以降貸借對照表ハ次ノ如シ。

（單位磅）

半年次（十二月末）	支店數	借方 資本金及準備金	借方 未拂利益金	借方 銀行券流通高	借方 引受手形其他	借方 預金高	貸借各合計	貸方 現金手許在高他銀行預入高	貸方 放資高	貸方 爲替手形在高	貸方 割引及貸付高	貸方 建物引受對價等
一八九〇年	一七	一、〇五〇、〇〇〇	九五、一〇五	六八〇、三七三	七、二二五、五〇三	六、八八二、二一六	一五、九二三、一九七	二、八六四、三九六	七五七、三三四	—	三、二三八、〇〇四	六三、四六三
一八九五年	二〇	一、一二五、〇〇〇	七四、三五八	五四二、六一七	二、七八九、七七三	七、三三七、二〇〇	一一、七六八、九四八	一、八四九、九八九	八七九、一三二	四、五六〇、三〇三	五、九〇〇、四四二	五七九、〇八三

一九〇〇年	三三	一、三三五、〇〇〇	二一一、五三三	七三四、六八四	三、二二〇、二六七	九、一七五、二七二	一四、五五六、七五六	三、五九四、七一八	一、三二四、九六六	四、四二四、一〇二	四、五一八、三五八	六九四、六一三
一九〇五年	二七	一、六七五、〇〇〇	二七七、一一三	五三八、七五二	五、〇四五、六九三	一一、五八五、六九一	一九、一三三、二四八	三、三六四、八六七	二、一四三、六三八	五、五四九、六七二	六、八四一、七五三	一、二三三、三一八
一九〇六年	二七	一、七七五、〇〇〇	二八〇、三六九	五五三、六〇二	五、一七二、六五一	一三、二〇四、五九六	二〇、九八六、二一七	三、四〇二、〇六三	一、六二四、四四八	六、一六三、二九九	八、一六九、一〇四	一、六二七、三〇三
一九〇七年	二七	二、六七五、〇〇〇	二九一、五五二	六五九、九一六	五、一六〇、〇三三	一三、二八八、七三一	二一、〇七五、二三三	三、三八四、一二四	一、六五七、一三三	五、六六三、八〇〇	八、六三一、七八一	一、七三八、三九四
一九〇八年	二七	二、七二五、〇〇〇	二九九、一七八	四八三、〇七五	三、五六七、三八二	一二、四〇九、八四二	一九、四八四、四七七	三、一八九、六八一	一、八三七、六六〇	五、九四七、八四八	七、二六九、八九三	一、二三九、三九五
一九〇九年	二九	二、七七五、〇〇〇	二三九、一六八	五一五、五五四	三、〇六七、九〇〇	一三、六六四、六七一	二〇、二六二、二九三	三、七七六、九四一	二、一五六、〇三三	六、四四六、七五八	六、二三七、二七〇	一、六四五、二九[illegible]
一九一〇年	三〇	二、八〇〇、〇〇〇	二七六、三六四	六四七、九九三	三、六五〇、八三〇	一五、六二五、二八九	二三、〇〇〇、四七六	三、六八八、八八〇	二、〇九九、二三九	七、一四八、五七七	八、四三九、一九七	一、六二四、五八三
一九一一年	三五	二、八二五、〇〇〇	二八三、四五二	六二五、九一六	四、九一四、八八〇	一六、三七九、〇〇七	二五、〇二八、二五五	四、四六二、一四九	二、三三九、六六七	七、八七七、九六〇	八、二三三、五三三	二、一一四、九四六
一九一二年	三五	二、八五〇、〇〇〇	三五二、五六九	七四五、二九三	五、四八九、一九六	一八、〇四〇、四一九	二七、四七七、四七七	四、九三一、七三七	二、四〇〇、〇六四	七、四九四、一五[illegible]	一〇、四九二、九六八	二、一五八、五五五
一九一三年	三五	二、九〇〇、〇〇〇	三七五、二五四	八二二、五九一	六、〇一七、二一八	一七、二二八、四三三	二七、二四三、三九六	三、九六八、一一七	二、一三〇、八六四	六、七二二、六三七	一一、三八四、四九九	三、〇三八、二七九

一九〇四年以降（年末）損益勘定ハ次ノ如シ。

（單位磅）

年次（十二月末）	總益金	俸給及其他諸經費	純益金	配當金 數額	配當金 步合	準備金其他繰入額	後期繰越金
一九〇四年	四三五、四〇五磅	二一五、八一〇磅	二一九、五九五磅	八八、〇〇〇磅	一一%	一一五、〇〇〇磅	八〇、〇七九磅
一九〇五年	四八九、四〇六	二四四、三七三	二四五、〇三三	一〇四、〇〇〇	一三	一三五、〇〇〇	八六、一一二
一九〇六年	五〇九、〇三九	二六二、七八一	二四六、二五八	一〇四、〇〇〇	一三	一三五、〇〇〇	九三、三六九
一九〇七年	五二一、一八一	二七〇、九九九	二五〇、一八二	一二九、〇六八	一四	八五、〇〇〇	一二九、四八三
一九〇八年	五三三、一一九	二八五、四二四	二四七、六九五	一六八、〇〇〇	一四	七五、〇〇〇	一三四、一七八
一九〇九年	四六一、六五八	二七八、六六八	一八二、九九〇	一六八、〇〇〇	一四	二五、〇〇〇	一二四、一六八
一九一〇年	五三九、〇二七	三〇八、八三二	二三〇、一九五	一六八、〇〇〇	一四	六〇、〇〇〇	一二六、三六三
一九一一年	五六四、三九一	三二九、三〇三	二三五、〇八八	一六八、〇〇〇	一四	六五、〇〇〇	一二八、四五二

年次（十二月末）	總益金	俸給及其他諸經費	純益金	配當金 數額	配當金 步合	準備金其他繰入額	後期繰越金
一九一二年	六四九、八八八磅	三四七、七七〇磅	三〇二、一一八磅	一九八、〇〇〇磅	一六1/2%	一〇〇、〇〇〇磅	一三二、五七〇磅
一九一三年	六九〇、三四九	三六三、六六五	三二六、六八四	二〇四、〇〇〇	一七	一三五、〇〇〇	一二〇、二五四

次ニ一八七二年以降ノ配當步合ハ次ノ如シ。

一八七二―一八九〇	五%	一八九八―一九〇三	一〇%	一九一二	一六1/2%（特別配當金三1/2%ヲ含ム）
一八九一―一八九五	七%	一九〇四	一一%	一九一三	一七%（特別配當金三%ヲ含ム）
一八九六	八%	一九〇五―一九〇六	一三%		
一八九七	九%	一九〇七―一九一一	一四%		

尙同行最近ノ營業狀況ヲ示サンカ、同行ハ一九一七年四月十日倫敦本店ニ於テ第六十四回株主總會ヲ開催シタルカ、今其決算報告書ニ據リ、同行一九一七年度ノ營業成績ヲ見ルニ左ノ如シ。

同年度營業純益ハ總テノ滯貨準備金ヲ除キ、前年度ヨリノ繰越金一五七、四六五磅一〇志二片ヲ合シテ五六〇、二六一磅三志三片ニ上リ、其內昨年九月ニ支拂ヒタル年一割四分ニ相當スル上半期配當其額八四、〇〇〇磅ヲ控除スル時ハ殘高四七六、二六一磅三志三片トナルベシ、此金額ニ對シ下半期配當年一割四分、外ニ毎株一磅ノ特別配當ヲ行ヒタルガ是ニテ合計全年ニ對シ年一割九步（所得稅免除）ノ

配當トナル、此外積立金ニ一〇〇、〇〇〇磅ヲ加ヘテ全計二、〇〇〇、〇〇〇磅トナシ、役員退隱料基金ニ二五、〇〇〇磅ト不動産ノ減價償却ニ四〇、〇〇〇磅ヲ充テテ殘額一六七、二六一磅二志三片ヲ次期ヘ繰越シタリ。

今參考ノ爲メ營業決算表ヲ示セバ左ノ如シ。

貸借對照表（一九一七年十二月三十一日）

負債之部

科目	金額
一、資本金　株數六〇、〇〇〇株 每株額面、二十磅	一、二〇〇、〇〇〇・〇　〇
一、積立金	一、九〇〇、〇〇〇・〇　〇
一、銀行券	九二五、九九一・一六　一
一、當座及其他諸勘定（貸倒及臨時缺損準備ヲ含ム）	一九、三四九、三四五・一四　八
一、定期預金	八、六九二、八〇三・三　一一
一、支拂手形	五八三、三六〇・一六　八
一、支拂承諾	一、二五五、九七六・四　三
一、擔保付借入金	五三二、五〇〇・〇　〇
一、他店借	三一、二九二・三　七
一、雜負債	一、一七八、九〇一・九　八
一、損益勘定	四七六、二六一・三　三

再割引手形ニ對スル債務

六、一五()、四五三磅一四志四片ノ内五、五一八、四八八磅一二志一〇片ハ一九一八年三月二十五日ヲ以テ滿期決濟セラレタリ。

爲替豫約殘高一二、三五六、四八三磅二志一片

總計	三六、一二六、四三二・一二	一

資產之部

項目	金額	
一、現金及當座預金	八、六九四、一四五・六	一一
一、手許及運送中地金	四五、二二八・一七	一一
一、國債證書其他有價證券	三、三二五、九七七・六	一〇
一、紙幣發行準備及政府ヘ供託	一、〇一四、〇〇〇・〇	〇
一、爲替手形（大藏證券ヲ含ム）	四、三三七、九〇三・五	一
一、割引手形及貸金	一〇、一四三、一〇八・一〇	一
一、取引先支拂承諾	一、二五五、九七六・四	三
一、他店貸	二二一、一四六・一	一二
一、雜資產	一二五、四九三・一三	二
一、本支店營業用地所家屋等	五一六、九五九・一九	一
一、本店及支店間ノ送付中ノ金錢及手形	六、四四六、四九三・六	一〇
總計	三六、一二六、四三二・一二	一

損益計算書

支出

一、前半期配當（一九一七年六月三十日）	八四、〇〇〇・〇　〇
一、配當（後半期分年一割四分ノ割）	八四、〇〇〇・〇　〇
一、特別配當毎株一磅	六〇、〇〇〇・〇　〇
一、積立金	一〇〇、〇〇〇・〇　〇
一、役員退隱料基金	二五、〇〇〇・〇　〇
一、土地家屋	四〇、〇〇〇・〇　〇
一、次年度へ繰越	一六七、二六一・三　三
	四七六、二六一・三　二
合計	五六〇、二六一・三　三

收入

一、一九一六年度末日殘高	四二七、四六五・一〇　二
內差引	
一九一六年下半期配當	八四、〇〇〇・〇　〇
特別配當毎株十二志	三六、〇〇〇・〇　〇
積立金	一〇〇、〇〇〇・〇　〇
役員退隱料基金	二〇、〇〇〇・〇　〇
土地及建物	三〇、〇〇〇・〇　〇
	二七〇、〇〇〇・〇　〇
	一五七、四六五・一〇　二
一、一九一七年度總利益（貸倒準備過剩利益税及役員賞與金控除）	九二三、〇四〇・七　二

本支店營業經費　五二〇、二四四・一四一
內差引　四〇二、七九五・一三一
　　　　五六〇、二六一・三三

支那ニ於ケル投資事業トシテハ數フベキモノナク、一九一〇年ノ上海市場救濟借欵三百五十萬兩中本行ヨリ五十萬兩ヲ出資シタルノミナリ。

和蘭銀行

和蘭銀行ハ一八二四年ノ設立ニ係リ、本店ヲアムステルダムニ置キ、一九〇二年上海ニ支店ヲ設置セリ、其目的トスル處ハ南洋ニ於ケル和蘭殖民地ノ金融機關タラシムルニアリ、拂込資本金五〇、〇〇〇、〇〇〇ギルダーニシテ、近年上海ト南洋各地間トノ取引漸ク盛ナルト共ニ、上海支店ノ業務繁盛ヲ加ヘツツアリ、一九一五年度ノ純益金五、九四一、四〇九ギルダーニシテ、年一割ノ株主配當ヲナセリ、一九一〇年ノ上海市場救濟借欵募集ニ際シテハ他銀行ト共ニ之レヲ引受ケ、本行ノ分擔額ハ二五〇、〇〇〇兩ナリキ。

華比銀行

華比銀行（Banque Sino-Belge）ハ白支間ノ金融機關トシテ、且又當時決定セシ北清事變賠償金ヲ受

取ラシメンガ為ニ、一九〇二年三月設立セラレタル白耳義銀行ニシテ、本店ヲブラッセルスニ置キ、北京、天津、上海等ニ支店ヲ設ク、設立ノ當初ノ資本金ハ百萬法ニシテ、コレヲ百株ニ分チ二十七人ノ株主ニテ全部ヲ引取ケ、宛ラ合資會社ノ如キ組織トセシガ、後總資本額ヲ五千萬法ニ増加シ、內三千萬法拂込濟ナリ、一九一六年ニ於ケル上海市場救濟借款三百五十萬兩中本行ハ十五萬兩ヲ引受ケタリ。

日本諸銀行

支那ニ支店ヲ有スル日本ノ銀行少ナカラズ、是等ニ就イテハ此ニ記述ヲ須ヰル迄モナク、世上熟知スル處ナルヲ以テ、敢テ贅セズ、唯其支那ニ於ケル支店出張所ノ所在地及投資事業ノ主要ナルモノノミヲ列擧スルニ止ムベシ。

(一)　橫濱正金銀行

一、營業所　本店　東京

　　支店　上海、漢口、天津、香港、大連、北京、青島、牛莊、奉天、長春、哈爾賓、開原、濟南

一、資本金　四千二百萬圓

一、對支投資

イ、贖回京漢鐵道借款(一九一〇年)　二百二十萬圓

(擔保京漢鐵道收入)

ロ、郵傳部鐵道公債(一九一一年)　一千萬圓

(擔保京漢鐵道收入及江蘇省貢米納金)

ハ、四鄭鐵道第一回借款(大正四年十二月)　五百萬圓

ニ、四鄭鐵道第二回借款(大正七年二月)　二百六十萬圓

ホ、第一回善後借款　四千萬圓

(英佛露獨各國銀行團ト共同ニテ二億萬圓ノ借款ヲ引受ケ内四千萬圓ヲ本行ニ於テ分擔セリ但シ實際ニ於テハ本行ハ名義ノミニシテ他國ヨリノ出資ニ係ル)

ヘ、第二次善後借款第一回前渡金(大正六年八月)　一千萬圓

(名義ハ英佛露日四國財團ナルモ、事實上全部日本側ニテ引受ケ實際我國ノ東西銀行團之レヲ引受ケタリ)

ト、第二次善後借款第二回前渡金(大正七年一月)　一千萬圓

(同上)

チ、第二次善後借款第三回前渡金(大正七年七月)　一千萬圓

リ、漢冶萍公司貸付　六千五百三十餘萬圓

(數回ノ貸付ヲ合計シタルモノナルガ其正確ナル現在高ハ不明ナリ)

(二) 臺灣銀行

一、營業所　本店　臺北

支店　上海、福州、汕頭、厦門、廣東、九江、香港

一、資本金　三千萬圓

一、對支投資

イ、上海閘北水電公司　二十萬兩

（大倉組經由擔保同社資產）

ロ、上海旭公司　二十萬三千五百兩

（上海南市電燈公司ニ對スル旭公司ノ債權ヲ擔保トシ、三井物產會社保證）

ハ、漢冶萍製鐵廠（四口）　三十六萬兩

（三井物產經由）

ニ、浙江銀行（三口）　七萬五千兩

ホ、福建承宣布政使　十二萬五千圓　十二萬五千弗　五萬兩

ヘ、福州電氣公司　七萬弗　二十萬圓

ト、汕頭商務總會 十五萬弗
チ、汕頭電氣公司 二十萬弗
リ、廣東承宣布政使(二口) 百六十萬圓
ヌ、廣東巡按使 九萬圓 四萬弗
ル、福建銀行(三口) 二十萬弗
ヲ、交通銀行第一次借款 五百萬圓
(朝鮮興業銀行ト共同)
ワ、同第二次借款 二千萬圓
(同上)
カ、吉會鐵道借款 一千萬圓
(同上)
ヨ、京畿水災借款 五百萬圓
(他銀行會社ト共同)
タ、滿蒙四鐵道借款前渡 二千萬圓
(朝鮮、興業銀行ト共同)

レ、濟順高徐鐵道借前渡　二千萬圓

（同上）

ソ、廣東セメント廠借款　三百萬圓

ツ、廣東鹽稅擔保借款　百五十萬圓

ネ、參戰借欵　二千萬圓

（朝鮮興銀ト共同）

(三) 朝鮮銀行

一、營業所　本店　京城

支店出張所　奉天、大連、遼陽、鐵嶺、營口、四平街、旅順、鄭家屯、上海、龍井村、開原、長春、傅家甸、哈爾賓、吉林、青島、天津、濟南、滿洲里

一、資本金　四千萬圓

一、對支事業

イ、滿洲ニ於ケル金券ノ發行

ロ、滿洲ニ於ケル國庫金ノ取扱

ニ、奉天財政廳第一次借款　百萬圓

（擔保奉天電燈、電話事業、商埠地土地）

ホ、同　第二次借款　百萬圓

ヘ、第三次奉天財政廳借款（大正七年四月）　三百萬圓
（擔保酒稅契稅）

ト、交通銀行第一次借款（大正六年一月）　五百萬圓
（但臺灣興業銀行ト共同）

チ、同　第二次借款（大正六年九月）　二千萬圓
（同上）

リ、吉會鐵道借款（大正七年六月）　一千萬圓
（同上）

ヌ、京畿水災借款（大正六年十一月）　五百萬圓
（興銀、三井、三菱其他七銀行ト共同）

ル、滿蒙四鐵道借款前渡（大正七年九月）　二千萬圓
（臺銀、興銀ト共同）

ヲ、濟順高徐二鐵道借款前渡（大正七年九月）　二千萬圓
（同上）

ワ、參戰借欵　二千萬圓
（同上）

カ、直隷省借款（大正七年五月）　百萬圓

ヨ、陝西省借款（大正七年六月）　三百萬圓

ヨ、中國銀行借款（大正七年八月）　二百萬圓

（四）住友銀行

一、營業所　本店　大阪

支店　上海、漢口

一、資本金　三千萬圓

（五）三菱合資會社銀行部

一、營業所　本店　東京

支店　上海

一、資本金　會社資本金　三千萬圓

銀行部資本金　一百萬圓

（六）三井銀行

一、營業所　本店　東京

支店　大阪

一、資本金　二千萬圓

合辦銀行

支那ニ於ケル新式銀行中ニハ支那人ト外國人トノ合辦經營ニ係ルモノアリ、現ニ設立營業中ノモノハ露亞銀行、中佛實業銀行、中華滙業銀行　北洋保商銀行、正隆銀行等アリ、尙米支銀行、日支銀行等ノ合辦組織ノ銀行設立ノ計畫ハ久シキ以前ヨリ試ミラレ、殊ニ米支銀行ノ如キ頻ニ其設立ヲ提唱セラレツヽアリ、支那人ト外國人トノ合辦ヲ以テ銀行ヲ經營スル時ハ、支那人ニ對シテハ現金ノ缺乏ヨリ來ル資本金募集難ヲ補ヒ、行員ノ私曲舞弊ノ害ヲ矯メ、又外人ニ對シテハ支那各地ニ容易ニ發展シ支那人ノ力ヲ藉リテ容易ニ支那人ノ顧客ヲ求ムルヲ得ルノ利アリ、然レドモ一方ニハ兩者本位貨幣ヲ別ニシ、殊ニ外國ハ金本位制ヲ採レルニ支那ハ銀本位制ヲトル爲、資本金拂込、利益配當其他ニツキ爲替上ノ危險ヲ負擔セザルベカラザルノ不利益アリ、其利害決シテ一概ニ論斷スル能ハザル處ナルガ今後或程度迄ハ此中外合辦ノ形式ニヨル銀行支那ニ設立セラルヽニ至ルベシト信ゼラル、玆ニ現存セル合辦銀行及米支銀行ノ計畫ニツイテ簡單ニ記述スル處アラントス。

露亞銀行

沿革

露亞銀行（Banque Russo-Asiatique）ハ支那ニ於テハ華俄道勝銀行ト稱セラレ、一九一〇年七月露國政府ノ特許狀ノ下ニ舊露淸銀行ト露國北方銀行トノ合併ニヨリ成立シタルモノナリ、本行ノ前身タル露淸銀行ハ一八九五年十二月露國ノ對支經營ノ機關トシテ設立セラレタルモノナリ、然レドモ露國ハ本銀行ヲ露國單獨ノ經營トスルヨリモ、淸國政府トノ合辦トナスヲ以テ、其勢力扶殖上ニ便利ナリトシ、其翌年次ノ條約ヲ締結シテコレヲ露淸合辦トナセリ。

露淸銀行組合ニ關スル契約

（光緒二十二年七月十二日
一千八百九十六年八月）

露國駐劄淸國全權公使許ハ光緒二十二年七月二十日ノ諭旨ヲ欽奉シ華俄道勝銀行（露淸銀行）組合營業ノ契約ヲ締結シ左ニ其ノ條款ヲ列記ス

第一條　淸國政府ハ庫平銀五百萬兩ヲ以テ華俄道勝銀行ト組合營業ヲ爲ス即此ノ金額ヲ該銀行ニ交付シタル日ヨリ總テ損益ハ株金ニ應シテ負擔シ又ハ享受ス

第二條　毎年露曆一月一日該銀行カ總決算ヲ爲ス時ニ於テ淸國政府ノ株金ト比較シテ其ノ準率ヲ定メ年末ニ至リ淸國政府ノ總テノ損益ノ計算ハ此ノ準率ニ依リ庫平銀ヲ以テ計算スベシ

第三條　該銀行ノ章程ニ依リ得ル所ノ利益ハ先若干ヲ提出シ各總辦ノ功勞賞與ト爲シ功勞賞與ヲ引去リタル後餘ス所ノ利益ハ淸國政府ト該銀行ト株數ニ應シテ配當ス但シ右配當ノ利ヨリ各其ノ一割ヲ出シテ積立金ト爲シ並資本ヲ計算シテ若餘剩ノ利益カ六釐（六分）ヲ超ユルトキハ利益六釐ヲ（六分）除キタル上餘剩ノ金ヨリ其ノ二割ヲ出シテ各事務員ノ慰勞ト爲スヘシ若營業ニシテ損失アルトキハ淸國ノ負擔スヘキ損失額ハ先其ノ積立金ヨリ出シテ彌補シ置クヘシ

第四條　該銀行ノ月報年報ハ株主總會ノ審議承諾ヲ經テ淸國駐在ノ該銀行管理人ヨリ淸國ノ選任シタル東淸鐵道總辦ニ遞交シテ查閱ノ

上轉送セシムヘシ

第五條　若該銀行ニシテ事故ノ爲閉鎖シ又ハ營業損失ノ爲閉鎖スルトキハ清國政府ノ株金ニ就テハ損失若干ナルヤチ清算シタル上其ノ餘ノ資本ハ尙餘額ノ通溶附スヘシ

次イデ露國ハ其滿洲經營ノ根幹タルベキ東淸鐵道布設ヲ計畫シ、巧ニ本銀行ヲ利用シテ其布設權ヲ獲得セシメ、引續キ東淸鐵道會社ヲ設立シ其布設ニ任ゼシメタリ、其後本行ハ頻ニ支那及蒙古滿洲等ニ發展シ、一時旭日昇天ノ勢アリシガ、日露戰爭勃發シ露國ノ敗北ニ歸スルヤ支那滿洲ニ於ケル同行支店ハ全〃營業停止ノ狀ニ陷リ、業務不振ヲ極メ、コレニ引續キ各地支店ニ於テ貸出金ノ整理ヲ要スルモノ續出シ其ノ結果積立金ノ大半ヲ失ハザルヲ得ザリシニ加ヘテ、紐育支店ニ於テ行員ノ大費消事件ヲ生ゼショリ、設立後十五年ヲ經タル一九一〇年ニ於テ北方銀行ニ合併セラレ、露亞銀行ト改稱セザルヲ得ザルニ至レリ。

資本金積立金

本行ノ資本金ハ露國側出資四五、〇〇〇、〇〇〇留ニシテ、コレヲ一株一八七留半ノ株式二三九、九九九株ニ分ツ、此外支那政府ノ出資額三、五〇〇、〇〇〇兩即四、七三七、四六〇留（一九一四年一月一日）アリ、而シテ此露國側ノ出資ト稱スルモノハ多クハ實ハ佛國ノ資本ニ屬ス、則チ露淸銀行時代ニアリテハ其資金ノ大部分ハ佛國ノ大銀行ノ一タルコントワル、ナショナルデスコント銀行ノ供給セシ

處ニシテ、上海ニ於ケル同行支店ノ如キハ實ニコントワル、ナショナルデスコント銀行支店ヲ其儘繼承シタルモノナリキ、而シテ其後露清銀行ノ合併セラレタル北方銀行ハ本店ヲ露都ニ有スル露國ノ大銀行ナリト雖モ、其實際ハ佛國ノソシエテゼネラル銀行ノ娘銀行タルニ過ギズ、從テ今日ト雖モ露亞銀行ハ佛國銀行ノ勢力圏内ニアルモノト謂フベキナリ。

又本行ニハ支那政府ノ出資スルコト前述ノ如クナルガ、其結果ハ本行ハ最初露國側株主ニ對シテハ露貨建ノ株式ヲ發行シ、支那政府ニ對シテハ爲替相場變動ニヨル危險ヲ免レシムルガ爲ニ上海兩建株式ヲ發行シタリシガ、後露亞銀行ニ改造セラレタル際ニモ依然トシテ此制度ニヨリ、露亞銀行ハ露清銀行兩建株式十六株ニ對シ兩建同行株式九株ヲ割當テタリ、斯ク露亞銀行ハ其株式ヲ金銀二樣ニ分チタルト共ニ、其計算ノ本位ヲ露貨トナシタル結果、同行ハ支那政府ノ出資額ニ對シテ、常ニ爲替相場變動ノ危險ヲ負擔セザルベカラザルナリ、則チ每期其時ノ爲替相場ニヨリ支那ノ出資額ヲ換算スルヨリ、每期資本金額ニ變動アリ、本行ハ此爲替相場變動ノ危險ヲ負擔シ、又每期末支那政府ニ支拂フベキ配當金ノ換算ニ伴フテ生ズベキ爲替上ノ損益ヲモ負擔スルモノニシテ、是レ一八九六年八月露清銀行ト支那政府トノ間ニ締結セル組合契約第二條ノ結果ナリトス。

同行ノ積立金ニハ普通積立金ノ外特別積立金アリ、而シテ各積立金トモ露貨ヲ單位トスル露國側株主ニ對スル積立金ト、兩ヲ單位トスル支那政府出資ニ對スル積立金トヲ併置セリ。

業務

露亞銀行ハ露清銀行ト北方銀行トノ合併ヨリ成レルヲ以テ、從テ其營業範圍モ是等兩銀行從來ノ營業範圍ヲ合シタルモノニシテ、則チ露清銀行ノ主トシテ活動シタル西比利亞、支那、日本、印度、波斯等ノ亞細亞諸國ノ外、北方銀行ノ活動シタル歐洲諸國ヲ其營業範圍トシ、現ニ支店出張所ノ數百九ヲ算ス。而シテ其亞細亞方面ニ於ケル業務ハ歐洲方面ニ於ケル夫レト遙ニ異リ、頗ル多岐ニ渉リ、普通銀行ノ營業範圍外ノモノヲ多ク含メリ、同行定款中ニ定メタル亞細亞ニ於ケル業務ノ主要ナルモノ次ノ如シ。

イ、銀行ノ計算ヲ以テスル普通商品ノ賣買
ロ、銀行ノ所有ニ屬セザル船舶ヲ以テスル運送業
ハ、倉庫業
ニ、銀行券ノ發行
ホ、關稅及租稅ノ取扱
ヘ、地方通貨ノ鑄造
ト、鐵道及電信線ノ敷設及其他利權ノ獲得

チ、火災及其他ノ損害保險業

リ、第三者ノ計算ニヨル不動産ノ賣買

尙同行ノ支那ニ於テ引受ケタル公債ノ主要ナルモノ次ノ如シ。

イ、日清戰役償金公債　四〇〇、〇〇〇、〇〇〇法

ロ、上海市場救濟借款　三、五〇〇、〇〇〇兩　他銀行團ト共同引受

ハ、善後借款　二五、〇〇〇、〇〇〇磅　五國銀行團ノ一員トシテ引受

ニ、正太鐵道借款　四〇、〇〇〇、〇〇〇法

營業成績

本行ノ營業狀態ヲ明ニスル爲ニ其歷年營業成績ノ大要ヲ示セバ次ノ如シ。

累年損益勘定比較表　（單位　留＝一圓三錢二厘）

年末次	總益金	諸經費	純益金	配當金 數額	配當金 歩合	特別資金繰入額	後期繰越金
	留	留	留	留		留	留
一九〇五年*	—	—	六、三〇〇、五六八	三、二二二、四〇〇	一〇%	四、〇八八、一六八	—
一九〇六年*	—	—	二、七九三、七〇二	二、〇四五、六五八	九 1/6	七二一、六〇六	二六、四三八
一九〇七年*	—	—	二、九七九、八九七	—	—	七、二三二、九六七	—

年末次	總益金	諸經費	純益金	配當金 數額	配當金 歩合	特別資金繰入額	後期繰越金
	留	留	留	留			
一九〇八年＊	—	—	一、六一六、四三三	九六三、五二八	四〇	一六一、六四三	四九一、二六三
一九〇九年＊	—	—	一、四五二、四〇六	一、一七〇、七五〇	五	一九四、三六〇	五七八、五五〇
一九一〇年	一六、〇〇六、一七七	一三、〇三八、六五三	二、九六七、五二四	二、八三九、五三一	八	六二、八三[illegible]	×三八七、七二三
一九一一年	一六、〇〇三、六九六	一一、六五一、一三六	四、三五二、五六〇	三、五五四、六二一	九	一八六、三七七	×七〇二、六三〇
一九一二年	一八、二九八、一四三	一三、九八一、〇三一	五、三一七、一一二	四、九五四、五六六	一〇	一六七、四四一	×八九七、[illegible]三
一九一三年	—	—	—	—	—	—	—
一九一四年	—	—	—	—	—	—	—

備考　＊印ハ露清銀行分トス、又繰越金欄×印ハ計數上疑問アル分トス。

資産負債表

借方（單位　留＝一圓三錢二厘）（＊印ハ露清銀行）

年末次（一八九七年ニ限リ五月末）	拂込資本金	準備金	資本金及準備金計	銀行券流通高	預金在高	手形在高	コルレスポンデント	雜	未拂利益金	借方合計
	留	留	留	留	留	留	留	留	留	留
一八九七年＊	一六、五九三、九九五	二七六、四五六	一六、八七〇、四五一	—	—	—	二一、九四九、一七三	—	—	三八、八一九、六二[illegible]
一九〇〇年＊	一八、六二〇、六〇〇	二、一八七、八四一	二〇、八〇八、四四一	八九六、九六九	八二、六八二、一六七	九、六三一、四三六	四三、六五八、五一〇	三、六五五、八〇九	—	一六一、三三三、三三二
一九〇一年＊	一八、六二〇、六〇〇	三、八五三、七一三	二二、四七四、三一三	—	八五、五五〇、一五七	九、七四四、七九六	七七、六二四、六五一	七六六、一三八	—	一九六、一六〇、〇五四
一九〇二年＊	二一、五〇七、五〇〇	三、九七七、四六一	二五、四八四、九六一	—	一〇二、二三七、七〇七	—	六七、二八五、七八七	一、〇八二、九四〇	—	一九六、〇九一、三一五
一九〇三年＊	二一、七五四、一〇〇	六、二九七、一一三	二八、〇五一、二一三	—	一三一、九八九、八〇九	—	一二九、八五一、九二五	九七三、七一九	—	九〇、八六六、六六六

年										
一九〇四年*	二二、一二四、〇〇〇	四、四一六、四一五	二六、五四〇、四一五	—	一一七、六五一、三八〇	—	一二一、六三四、五五八	一〇、三四一、四一九	—	二七六、一六七、七七二
一九〇五年*	二二、五六二、四〇〇	一〇、四一五、九二六	三二、九七八、三二六	一、三四九、二九六	一四一、三五七、〇五九	一三、一七一、二三四	一二九、六七〇、九二〇	二、九七七、八五三	二、二二二、四〇〇	三三三、七一七、〇八八
一九〇六年*	二三、〇〇〇、八〇〇	八、〇五三、七二九	三一、〇五四、五二九	一、七二七、八六五	一六一、一三三、七五九	一二、六九五、八〇九	九七、三四七、二九三	三、四六二、一五八	二、〇四五、六五八	三〇九、四六七、〇七一
一九〇七年*	二四、〇八八、二〇〇	九、一七六、五一三	三三、二六四、七一三	八九七、四七七	一三三、〇七四、八四九	一三、九九六、五六〇	一〇四、六三一、三一二	二、三一一、二四一	—	二八八、一七六、一五二
一九〇八年*	二三、四一五、〇〇〇	五、〇八〇、三〇九	二八、四九五、三〇九	八六九、五〇七	一一三、六七八、三九八	八、九八九、五八一	六三、七六四、六二五	二、七五九、五四二	二、〇一九、二四五	二三〇、五七六、二〇七
一九〇九年*	二三、三七七、六〇〇	五、四〇五、二四八	二八、七八二、八四八	一、二九五、八三三	一八三、六一一、一九一	九、二八一、六六二	五九、四四七、七八八	二、八七七、〇五三	二、三五四、五〇〇	二八七、六五〇、八七四
一九一〇年	二九、四九五、七九二	一九、二〇四、七一四	五八、七〇〇、五〇六	一、二三五、七〇三	四三一、八八三、一一一	三六、四八一、三八三	一〇六、〇八九、七二八	五、〇七三、七〇一	三、七六二、四三〇	六四五、二二六、五六二
一九一一年	三九、五四五、六六〇	一九、二八九、一八七	五八、八三四、八四七	二、八五三、二四八	三九六、六四九、五七五	三二、五〇一、二三六	一三一、四〇〇、六〇五	七、〇一五、一三四	五、四四一、九二一	六三四、六九六、五六六
一九一二年	四九、八七一、七二〇	二三、四七四、三〇六	七三、三四六、〇二六	一、四三八、一二七	四六七、二五九、二八八	三六、二六三、一九九	一三四、二三二、八四四	九、八〇〇、七九四	七、一九六、二二六	七二九、五三六、五〇四
一九一三年	四九、七三七、四六〇	二三、五二七、七九二	七三、二六五、二五二	二、一八三、三〇四	四一〇、六四七、七七六	三八、四一六、二七二	二四〇、二〇八、三三八	一三、九九四、〇七二	八、四一九、三四二	七八七、一三四、三五四

備考　一九一三年ハ假定數トス。

貸方

年末次（一八九七年ハ一八九七年五月末限リ）	現金及地金在高	放資高	手形在高	貸付及當座勘定殘高	コルレスポンデント	銀行建物等	貸方合計
一八九七年*	—留	—留	—留	一五、三九五、〇六〇留	二三、二九七、五六一留	二二七、〇〇三留	三八、八一九、六二四留
一九〇〇年*	一五、三三一、四九六	一、七三八、二一五	二六、六五五、五七四	八三、三三三、〇五五	三三、四六六、八四九	八〇七、一四三	一六一、三三二、三三二
一九〇一年*	二〇、九三〇、七三〇	二、四五八、六七三	三一、六五六、四九一	九二、七八三、一八四	四六、二六一、三二三	一、〇六九、六五三	一九六、一六〇、〇五四
一九〇二年*	二二、五一五、七七三	三、五二九、六一二	三六、四二八、六二二	九一、〇七七、二五七	五一、三九〇、〇六一	一、一五〇、〇八〇	一九六、〇九一、三九五
一九〇三年*	一七、八九九、〇〇六	三、七九三、四七八	五五、五〇七、六七九	一四五、七三五、六八二	六六、三一六、五七七	一、六一四、二四三	二九〇、八六六、六六五
一九〇四年*	一九、〇一八、〇八四	九、一九九、二〇四	四二、七〇四、七二三	一二六、〇〇九、七八三	七七、二八六、六九五	一、九四九、二八三	二七六、一六七、七七二
一九〇五年*	四一、四四三、九三四	一〇、二八七、六七九	五七、四〇〇、一〇四	一三〇、九三八、五九九	八一、九三三、一九一	一、七一三、五八一	三三三、七一七、〇八八
一九〇六年*	二二、七九九、二七二	一〇、一三五、七六四	七四、八八六、五六八	一四七、三六二、一三〇	五三、五二八、二一八	一、七五五、一三〇	三〇九、四六七、〇七一

年末次	現金及地金在高	放資高	手形在高	貸付及當座勘定殘高	コルレスポンデント	銀行建物等	貸方合計
	留	留	留	留	留	留	留
一九〇七年※	一五、二二二、三二七	八、二九四、七三一	七三、五一三、二九一	一二七、四七九、〇九四	六〇、八五六、〇六二	二、八一〇、六四七	二八八、一七六、一五二
一九〇八年※	一五、八〇四、四二〇	一〇、七一七、四三九	五七、二二一、七三六	九七、二六五、六四五	三六、六五三、一一五	二、九一三、八五二	二二〇、五七六、二〇七
一九〇九年※	一七、八一三、三三三	一八、七四一、九六四	六七、四七二、八八二	一四二、〇六二、三九〇	三七、九〇四、四九〇	三、六五五、八二五	二八七、六五〇、八七四
一九一〇年※	二四、八六八、四〇〇	三五、二七六、四八六	一三九、七七七、三四一	三一三、六六八、六二三	二二〇、四七〇、一九五	九、一六五、五一七	六四三、二二六、五六二
一九一一年	二三、二五五、〇一七	三六、八〇〇、六七八	一三〇、一八〇、七〇五	二七一、〇四六、八〇九	一六三、三〇二、三二七	一〇、一一一、〇四〇	六三四、六九六、五六六
一九一二年	三一、六二五、六一三	四三、二七六、六四二	一四一、三八九、三二七	二八〇、八一八、二九五	二三三、〇三七、七〇四	九、三八八、九二三	七二九、五三六、五〇四
一九一三年	三七、六八三、〇七三	三七、二四三、五八二	一四二、五〇二、八〇〇	三〇八、七五四、二二二	二五一、四七一、四七〇	九、四七九、二〇七	七八七、一三四、三五四

露亞銀行貸借對照表（一九一四年一月一日現在）

資產	留
金銀有高	三七、六八三、〇七二
露國公債及社債	一三九、七三六、〇七二
外國公債、社債、貨幣、利札	二、七六六、七二三
擔保付貸出金	二五三、〇一〇、五六三
證券、積立金中ノ公債證書ヲ含ム	三七、二四三、五八二
銀行所有商品	六三九、一四九
コルレス先	二五一、四七一、四七〇
支店	四八、七三〇、六一六
諸費用	八、四三四、八九〇
不動產	九、二三〇、八四一

負債		留	留
資本金	二三九、九九九株	四五、〇〇〇、〇〇〇	四九、七三七、四六〇
支那政府資本金	三、五〇〇、〇〇〇兩	四、七三七、四六〇	
積立金		一五、二八一、四六八	一六、九四五、四八〇
支那政府積立金	一、二三九、三五二兩	一、六六四、〇一二	
特別積立金		五、九〇一、〇二〇	六、五八二、三一一
支那政府特別積立金	五〇三、三三三兩	六八一、二九一	
前期繰越金			八九七、七三三
保險資金			七四一、三五三
不動產償却資金			一、二〇三、三四八
銀行券發行高			二、一八三、三〇四

科目	金額
什器	二四八、三六四
未達勘定	九、二三八、二二八
合計	七九八、四三三、五八一

科目	内訳	金額
諸預り金		三六七、〇六七、一五三
コルレス先		二四〇、二〇八、三三七
中央銀行再割引		七、一四四、八七一
支店		四三、五八〇、六二三
引受手形		三一、二六七、三九九
諸利息、手數料、配當金	一六、七八五、七三六、六九	二二、〇二二、二二〇
預り金及當座預金利息	五、二三六、四八三、四〇	
一千九百十四年分利息		二、一一五、〇九九
支拂未濟配當金		一、七八三、六五三
銀行員貯金部		一、一四〇、三七一
未達勘定		三、八一二、八五九
合計		七九八、四三三、五八一

露亞銀行定款

本定款ハ一千九百十年六月十四日皇帝陛下ノ裁下ヲ經タル同年五月二十五日內閣會議ノ特別議事錄ニ基キ同年七月三十日大藏大臣ノ認可セルモノナリ

第一章　銀行ノ組織及資本金

第一條　一千八百九十五年十二月十日皇帝陛下ノ裁下シタル定款ニ基キ設立シタル株式會社露清銀行ハ株式會社北方銀行ト合併シ露亞銀行ト稱シ本店ヲペテルブルグニ置ク

註一　露清銀行及北方銀行ノ有スル動產、不動產證書、證劵等一切ノ資產及負債ハ（本條註二及ヒ第七條ニ揭ケタルモノヲ除ク）其ノ目的ノ爲ニスル何等特別ノ證又ハ裏書ヲ要セスシテ兩銀行ノ合併前ニ爲シタル行爲ヨリ生シタル凡テノ權利義務ト共ニ「法令集」ニ於テ本法ヲ公布シタル日ヨリ當然露亞銀行ニ移轉シタルモノト看做ス

註二　合併各銀行ニ對スル債權者ニシテ該銀行ノ負擔スル債務カ露亞銀行ニ移轉スル事ヲ承諾セサルモノハ「法令集」ニ於テ本定欵公布後六箇月內ニ於テ支拂期日到來前ノ債權ト雖即時辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス又兩銀行ハ右事項ニ關シテハ民事訴訟法第一四〇〇條ノ註附則第三ノ第八十八條ニ定ムル方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

註三　兩銀行ノ現各支店ハ本定欵及大藏大臣ノ認可シタル規則ニ從ヒ露亞銀行ノ支店トシテ其ノ業務ヲ繼續ス

第二條　當銀行ノ重役會ハペテルブルグニ於テ開會スル株主總會ノ決議並ニ大藏大臣ノ認可ヲ經必要ニ應シテ露國內及外國ニ支店ヲ設置スルコトヲ得

各支店ノ管理並ニ營業ニ關スル規則ハ本定欵ニ準據シ株主總會ノ承認ヲ受クヘシ支店ノ營業ハ當銀行ノ全資本金、積立金其ノ他凡テノ資産ヲ以テ保證セラルルモノトス

第三條　當銀行ノ存續期間ハ之ヲ定メス

第四條　露亞銀行ノ資本金ハ三千五百萬留トス本資本金ハ券面額各百八十七留五十哥ノ株式十八萬六千六百六十六個ノ發行ヲ以テ之ニ充ツ而シテ本資本金ハ本株券ト同一券面額ノ新株式ノ發行ニヨリ之ヲ增加スルコトヲ得新株式ノ發行ハ株主總會ノ決議ニヨリ大藏大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ行フ

註　露清銀行ノ發起人及ヒ同行株式第一回應募者ハ露清銀行定欵認可ノ日（一千八百九十五年十二月十日）ヨリ向三十年間露亞銀行カ本定欵第八條ニ依リ發行シ且現金ヲ以テ募入セラルヘキ總株式四分ノ一ニ對シ發行價格ヲ以テ應募スルノ權利ヲ保留ス發行價格ハ銀行株主總會ニ於テ決議シ大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

上記ノ目的ノ爲ニ露清銀行ハ十株每ニ一通ノ割合ヲ以テ四千八百通ノ發起人證ヲ發行ス本證ニヨリ附與セラレタル發起人及第一回應募者ノ權利ハ一千九百二十五年十二月十日ニ至リ消滅シ株主ニ移轉ス發起人證ハ投票權ヲ生セス但其ノ所有者ハ株主總會ノ凡テノ決議ヲ遵守スルコトヲ要ス

第五條　第一回ノ發行ニ係ル株式十八萬六千六百六十六株ハ一株ニ付二百七十八留六十哥ヲ下ラサル價格ヲ以テ發行ス一株ノ價格ノ內百八十七留五十哥ハ株式資本ニ六十二留五十哥ハ積立金資本ニ二十八留六十哥ハ株主カ任意處分シ得ヘキ特別積立金資本ニ充當ス

第六條　露亞銀行株式ノ内十六萬二千三百三十二株ハ露清銀行及北方銀行ノ株主總會（露清銀行ノ總會ハ一千九百十年三月六日北方銀行ノ總會ハ同年三月三十日開催）ニ於テ定メタル計算ニ從ヒ兩銀行株主間ニ分配ス可シ即チ露清銀行株ハ金貨建ノモノ四株每ニ露亞銀行株三株ヲ上海兩建ノモノ十六株每ニ九株ヲ發行シ北方銀行株五株每ニ七株ヲ發行交付ス

前項ノ方法ヲ以テ兩銀行株主ニ分配ヲ了シタル殘餘ノ露亞銀行券二萬四千三百三十四株ハ本株ノ所有ヲ希望スル露清銀行ノ發起人及第一回應募者ニ（本定款第四條ノ註ノ規定ニ從ヒ）一株二百七十八留六十哥ヲ下ラサル價格ヲ以テ分配スヘシ

第七條　露清銀行株主ハ其ノ株式ト引換ニ第六條ニ定メタル計算ニ基キ露亞銀行株ヲ得ルト共ニ露亞銀行發行ノ特別證券ヲ金貨建株一株每ニ一通、上海兩建ノモノ四株每ニ三通ノ割合ヲ以テ取得ス右特別證券ハ露亞銀行成立當初ノ貸借對照表ニ含マレサル財産ノ處分ニヨリ得ラレタル代金ヨリ特別ノ報酬ヲ受クルノ權利ヲ表示スルモノナリ

前記特別證券ノ有スル權利ノ條項ハ一千九百十年三月六日ノ露清銀行ノ株主會ニ於テ定メタル所ニ從ヒ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ且其ノ條項ノ文ハ之ヲ證券ニ印刷シ置クコトヲ要ス

第八條　株主總會ハ第四條ニ從ヒ當銀行ノ資本增加ノ爲券面額ヲ下ラサル現金拂込ニ因リ新株式發行ノ決議ヲ爲ス場合ニハ同時ニ發行スヘキ株式數及新株所有ノ希望ヲ表示シタル株主ニ對スル同株割當方法ヲ定ムルコトヲ要ス又株主總會ハ引受ナキ株式ニ對シ應募ノ條件ヲ定メ且拂込ノ金額及期日等ヲ定ムルコトヲ要ス但拂込期間ハ一箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條　株式ノ一部拂込ノ場合ニハ全額拂込ノ責任ヲ有スル該應募者宛テ假株券ノ發行ヲ得スコトヲ要ス

右假株券ハ第三者ニ讓渡スルコトヲ得但重役會ノ同意ヲ得且當銀行ノ帳簿ニ登錄スルニアラサレハ其ノ效力ヲ有セス假株券ノ讓渡ニ對シ重役會ノ與ヘタル同意ハ應募者又ハ讓渡人ニ對スル未拂込ノ義務ヲ免除ス

假株券ハ所定ノ期間終了ニ先チ重役會ニ於テ該券面ニ拂込ノ記入ヲ爲シタル後ニアラサレハ之ヲ第三者ニ讓渡スルコトヲ得ス

第十條　重役會ハ公告シタル期間内ニ於テ拂込ヲ爲ササル應募者ハ年五分ノ割合ニテ其ノ日數ニ應シ延滯利息ヲ支拂ヒ且右ノ外年五分ノ割合ニテ日數ニ割當テ罰金ヲ支拂フヘキ責任ヲ有ス拂込期日後一箇月以內ニ於テ拂込未濟ノ假株券ハ其ノ番號ヲ官報「財政商工業時報」及重役會ノ選定シタル露國及外國ノ新聞紙ニ公告シ其ノ公告後二週間以內ニ尚拂込ヲ了セサルトキハ當銀行ノ重役會ハ該番號

ヲ有スル假株券ヲ賣却スルコトヲ要ス

右ノ場合ニハ重役會ハ拂込未濟ノ假株券ノ無效ヲ宣言スヘシ而シテ右ト同一番號ヲ有シ且「拂込未了ノ假株券ニ代ヘテ發行ス」ル旨ヲ記載シタル證券ヲ發行シ之ヲ新應募者ヘ交付スヘシ

賣却代金ハ先ツ之ヲ諸費用、利息及罰金ニ當テ其ノ殘額ヲ未拂込金ノ仕拂ニ充テ而シテ尚剩餘アル時ハ之ヲ舊所有者ニ返還ス

註　第九條及第十條ハ之ヲ假株券面ニ印刷スルモノトス

第十一條　當銀行ノ株券ハ所有者ノ選擇ニ從ヒ記名式又ハ無記名式ト爲スコトヲ得凡テノ株券ハ當銀行ノ帳簿ヨリ切離シ（帳簿ニハ原符ヲ殘シ置クヘシ）之ニ番號ヲ附シ三重役又設計方之ニ署名シ當銀行ノ社印ヲ押捺シ發行スルモノトス

各株券ニハ配當金ヲ受クル爲十年間分ノ利札ヲ附シ同期間終了後ハ株券所持人ニ更ニ新利札ヲ交付スヘシ

第十二條　無記名式株券ヲ讓渡スルニハ何等ノ形式ヲ要セス當銀行ハ無記名式株券ノ所持人ヲ以テ該株券ノ正當所有者ト認定ス

記名式株券ノ讓渡ハ讓受人ノ名義ニ變更セラル可キ株券ヲ封入シ書面ヲ以テ重役會ニ通告スルコトニ因リ爲サルヽモノトス

第十三條　株主ノ死亡シタル時ハ其ノ權利ハ法律又ハ遺言ニ依ル相續人ニ移轉ス但如何ナル場合ニ於テモ株ノ分割ヲ許サス

無記名株ヲ喪失シタル場合ニハ三年間露國及外國ノ新聞紙ニ公告ヲ掲載スヘシ其ノ費用ハ届出人ノ負擔トス且同人ハ喪失株ノ所有權ヲ主張スル告知ヲ立證スルニ足ルヘキ充分ナル證據ヲ重役會ニ提供セサルヘカラス本公告ハ當銀行株ノ配當金支拂ノ通知ト共ニ之ヲ爲スヘシ若シ三年間何人モ喪失株ヲ請求セサル時ハ新株券ヲ發行シ更ニ五箇年間之ヲ銀行ニ保留ス此ノ期間經過後最後ノ公告ヲ爲シ其ノ後六箇月ヲ經過スレハ新株券ヲ前記請求者ニ交付ス

第二章　銀行ノ業務

第十四條　第一　亞細亞諸國ニ於テ當銀行ハ本店、支店及代理店ニヨリ其ノ所在地方官憲ノ認可ヲ受ケ次ノ業務ヲ營ムコトヲ得

一、商業取引ニ基キタル爲替手形及諸證券ニシテ一箇年以內ニ支拂ハルヘキモノノ割引及再割引

二、當銀行若クハ他ノ計算ヲ以テスル各種貨物又ハ利付證券、株券、持分及公債ノ賣買

註　銀行ノ計算ヲ以テ商品ノ購入及歐洲第一等國ノ保證ナキ利付證券ノ購入ヲ爲ス場合ハ其ノ金額當銀行株式資本ノ四分ノ一ヲ超過

スルコトヲ得ス

三、銀行ノ計算ヲ以テ又ハ第三者ノ計算ニヨリ手數料ヲ徵收シ地金又ハ貨幣、爲替手形及各種信用狀ノ賣買

四、公債、株式、社債ノ募集取引

五、當銀行ノ所有ニ屬セサル船舶ニ依リ貨物ノ海上、河上及陸上運送ヲ爲スコト竝ニ貨物ヲ擔保トシテ受入レ之ニ對シテ預證劵ヲ發行スルコト本事項ニ關シテハ本條第一、第十一號ノ(d)規定ヲ適用ス

六、擔保物ノ提供ニ對シ又ハ信用ニヨリ爲替手形ノ引受ヲ爲スコト

信用ニヨル場合ニハ本條第一第十一號ノ(a)ノ註ヲ適用ス

七、定期又ハ無期限ノ預金竝ニ當座預金ノ受入

八、一定ノ料金ヲ以テ諸種ノ利付證劵其ノ他貴重品ノ保護預リヲ爲スコト

九、當銀行ノ株式資本及準備金資本ノ合計金額ヲ超ヘサル範圍內ニ於テ兩、弗、磅及其ノ他ノ地方通貨ヲ準備トシ銀行劵ヲ發行スルコト

本銀行劵ハ所持人拂トシ之ヲ發行シタル當銀行又ハ各支店ニ於テ所持人ノ要求ニ應シ直ニ引換支拂ヲ爲スモノトス

註　當銀行劵流通額ノ三分ノ一ヲ下ラサル正貨ヲ保有スルヲ要ス

一〇、亞細亞諸國內ニ於テ關稅及租稅ノ取扱ヲ爲スコト但地方金庫ニ關スル事務及地方通貨ノ鑄造ハ其ノ所在地官憲ノ認可ヲ經テ之ヲ爲スコト

一一、左記ノ擔保ニ對シ一年ヲ超ヘサル期間貸付ヲ爲シ竝ニ信用ヲ與フルコト

(a)　公債及持分、株劵及社債但融通額ハ時價ノ九割ヲ超ヘサルコト

註　特別ノ場合ニハ當銀行ハ取引先ニ對シ特別ノ擔保ナクシテ信用ヲ與フルコトヲ得但其ノ信用ノ總額ハ現實ニ拂込マレタル當行ノ資本金及準備金ノ半額ヲ超ユルヲ得ス又其ノ期間ハ四箇月ヲ超ユヘカラス其ノ期間終了後尙貸出金カ現金ニテ返濟セラレス又ハ相當擔保ノ提供ナキ場合ニハ當銀行ハ貸出金回收ニ必要ナル法律上ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

重役及支店長ニシテ前記ノ手續ヲ爲スノ權能ヲ重役會ヨリ委任セラレタル時ハ其ノ目的ヲ達スルニ必要ナル手段ヲ講スルコトヲ要ス

重役會ハ上述ノ如キ特別ノ保證ナキ信用取引ヲ特種ノ場合ニ於テ一年以內期間ノ伸長ヲ爲ス權能ヲ有ス此ノ伸長ヲ許容スヘキ規則ハ露國大藏大臣ノ認可ヲ受ケサルヘカラス

（b）死滅ノ虞ナキ貨物ニ對スル運送業者、鐵道及汽船會社ノ發行シタル船荷證券、倉庫證券及受領書、但融通金額ハ右貨物時價ノ八割ヲ超ヘサルモノトシ且貨物ハ貸付金ヨリ少クトモ一割以上ノ金額及貸付期限ヨリ少クトモ一箇月以上ノ期間ニテ火災保險ヲ附シ其ノ保險證券ハ之ヲ當銀行ニ預託スヘシ

註　茶ニ對スル貸出ハ其ノ價格ノ九割マテ貸付クルコトヲ得

（c）貴金屬、但融通金額ハ實價及法定價格ヲ超過スルコトヲ得ス

（d）死滅ノ虞ナキ貨物、但融通金額ハ時價ノ八割ヲ超ヘサルコトトシ且同貨物ハ耐火設備アル安全ナル倉庫ニ貯藏シ所要ノ貸金額ヨリ少クトモ一割以上ノ金額及貸付期限ヨリ少クトモ一箇月以上ノ期間ニテ火災保險ヲ附シ其ノ保險證券ハ當銀行ニ預托シ且該貨物ノ擔保期間ヲ超ユルコト少クトモ一箇月以上ノ期間ニ對スル倉敷料ノ支拂ヲ爲スコト

一二、貨物ノ火災保險及其ノ他ノ損害保險

一三、第三者ノ計算ヲ以テスル不動產ノ賣買

註　亞細亞諸國ニ於ケル前記不動產ノ賣買ハ外國貿易ノ爲開放セラレタル地方ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得

一四、本條前各項ニ規定セラレサル其ノ他凡テノ銀行業務ニシテ其ノ地方ニ於ケル特種ノ狀況上其ノ取扱ヲ必要トスルモノハ重役會全員一致ノ決議ニヨリ露國大藏大臣ノ承認ヲ得テ之ヲ營ムコトヲ得

第二　露西亞帝國內ニ於テ當銀行ハ本店、支店及代理店ニヨリ左ノ業務ヲ營ムコトヲ得

一、商業取引ニ基キ且九箇月以內ニ支拂ハルヘキ露國及外國ノ爲替手形及其ノ他ノ證券ノ割引並ニ當銀行カ割引セシ諸證券及爲替手形ヲ當行ノ裏書ヲ以テ再割引ニ付スルコト

二、左ノ擔保ニ對シ貸付ヲ爲シ並當座勘定ノ形式ニ依リ九箇月ヲ超過セサル期間信用ヲ與フルコト

（a） 公債、持分、株劵及社債劵但融通金額ハ時價ノ九割ヲ超ユルコトヲ得ス

（b） 死滅ノ虞ナキ貨物ニ對スル運送業者、鐵道及汽船會社ノ船荷證劵、倉庫證劵及受領書但融通金額ハ右貨物價格ノ三分ノ二ヲ超ユルヲ得ス又右ノ貨物ハ當銀行ノ指定シタル保險會社ニ少クトモ貸出金額ヨリ一割以上ノ金額及貸付期限ヨリ一箇月以上ノ期間ヲ以テ火災保險ニ附シ其ノ保險證劵ハ之ヲ當銀行ニ預託スルコトヲ要ス

（c） 死滅ノ虞ナキ貨物但融通金額ハ其ノ價格ノ三分ノ二ヲ超ユルコトヲ得ス且該貨物ハ重役會ノ命令ニ從ヒ防火設備アル安全ナル倉庫ニ貯藏シ貸付金ヨリ少クトモ一割以上ノ金額及貸付期限ヨリ少クトモ一箇月以上ノ期間ヲ以テ火災保險ニ附シ其ノ保險證劵ハ當銀行ニ預託シ且該貨物ノ擔保期間ヲ超ユルコト少クトモ一箇月以上ノ期間ニ對スル倉敷料ヲ支拂フコトヲ要ス

註 例外ノ場合ニ於テ當銀行ハ重役會ノ認可ヲ經質入人自身ノ保管ニ係ル貨物ニ對シテ貸付ヲ爲スコトヲ得但質入人カ右貨物ニ對シテ發行スル預リ證劵ニハ正確ニ貨物ノ種類、數量及倉庫ノ構造ヲ表示スルコトヲ要ス且質入人ハ自己ノ保管ニ屬スル貨物ノ安全ニ對シ法律上ノ責任ヲ負擔スルモノトス

（d） 貴金屬、但融通金額ハ重量ニヨル時價ノ九掛ヲ超過スルヲ得ス

（e） 一定ノ滿期日ヲ有シ且二人以上ノ署名アル爲替手形及其ノ他ノ商業證劵

註 本號（b）及（c）ニ記載シタル擔保物ニ對シ二箇月ヲ超ヘサル期間ヲ以テ貸付及信用開始ヲ爲サントスルトキハ重役會ノ全員一致ノ決議ニヨリ擔保物ノ時價ノ八掛迄增加スルコトヲ得前記ノ增加額迄貸付又ハ信用ノ開始ヲ爲ス場合ニハ右貨物又ハ預リ證劵ノ表ヲ作成シ之ニ對シテ大藏大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

三、定期又ハ無期限ノ預金ノ受入及當座勘定ノ開始

四、一定ノ料金ヲ以テ諸種ノ利付證劵其他貴重品ノ保護預リヲ爲スコト

五、第三者及商事會社ノ委託及其ノ勘定ニテ一定ノ手數料ヲ徵收シ貨物ノ賣買ヲ爲スコト但銀行カ購買ノ爲ニ費ス金額ハ株式資本ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス又銀行ノ購買シ得ヘキ貨物ハ大藏大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

六、銀行ノ勘定ニテ且株式資本金二分ノ一ヲ超過セサル範圍ニテ利付國債證券若クハ政府ノ保證アル株券及債券ノ賣買
銀行ノ勘定ニテ農業銀行、地方議會、自治市又ハ株式會社ノ發行シタル債券及擔保付社債又ハ政府ノ保證ナキ持分及株券ノ賣買但シ政府ノ保證ナキ持分及株券ノ賣買ハ重役會ノ全員一致ノ決議ヲ要シ且銀行ノ株式資本ノ五分ノ一ヲ超ヘサルコトヲ要ス
外國政府ノ發行又ハ保證セル利付證券ノ賣買、佛國、獨逸及英國以外ノ政府ノ發行ニ係ル利付證券ノ賣買ニ關シテハ豫メ大藏大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

註　當銀行ハ未タ拂込ヲ爲ササル從テ株式取引所ニ於テ取引セラレサル株券、持分、社債、擔保付社債ヲ自己ノ計算ニ於テ購買スルコトヲ得ス

七、自己ノ計算ニテ又ハ第三者ノ依賴ニヨリ地金又ハ貨幣ノ形ニ於ケル貴金屬竝ニ內國又ハ外國宛爲替手形及諸手形ノ賣買

八、當銀行ニ送付セラレタル爲替手形其ノ他手形及利付證券ノ滿期日ニ於ケル代金ノ取立

九、當銀行ノ支店若クハ代理店所在地ニ於テ第三者又ハ諸會社ノ爲ニ支拂ヲ爲スコト但其ノ支拂ハ依賴人ノ當銀行ニ對シテ有スル當座勘定ノ殘高ニヨリ又ハ確實ナル證券ノ提供ニヨリ充分ニ擔保セラルルヲ要ス

註　上記ノ支拂ハ特別ノ理由ヲ有シ且重役會ノ全員一致ノ決議アル場合ニ限リ無擔保ニテ之ヲ爲スコトヲ得

一〇、擔保ヲ徵シ又ハ信用ニテ爲替手形ノ引受ヲ爲スコト

一一、當銀行ノ支店及代理店ノ設アル露國及外國ノ諸都市ニ於ケル送金ノ取扱

一二、國內及國外ニ宛テ爲替手形、當座爲替通知狀及信用狀ノ發行ヲ爲スコト

一三、公債、株式及社債ノ募集取扱、但大藏大臣ノ認可ヲ要ス

一四、貨物ノ海上、河上及陸上運送ヲ爲スコト竝ニ擔保トシテ貨物ヲ受取リ之ニ對シテ倉庫證券ヲ發行スルコト但シ此ノ業務ハ直接ニ亞細亞諸國ニ對スル取引ニ限ラルヽモノトス

一五、質擔保トシテ當銀行ノ受入レタル利付證券及貨物ヲ質入主ノ同意ヲ經テ中央銀行又ハ其ノ他ノ金融機關ノ本店及支店ニ再質入ヲ爲スコト

貨物ノ再質入ハ質入貨物ニ對スル質入證券ニ讓渡裏書ヲ爲スコトニヨリ之ヲ爲スモノトス

一六、一千八百九十八年五月十一日ノ法律ニ基ク特別規定ニ從ヒ田畑ヲ見合トスル約束手形（振出人ノミノ署名セル手形）ニ對シ貸付ヲ爲スコト

第三、露國以外ノ歐洲諸國ニ設置セラルヘキ當銀行ノ各支店ハ其ノ地ノ銀行法ニヨリ許サレタル凡テノ銀行業務ヲ營ムコトヲ得

第十五條　當銀行ハ爲替手形及其ノ他ノ商業證券ヲ割引スルコトヲ得此等證券ハ一定ノ支拂期日ヲ有シ且二個以上ノ署名ヲ有スルモノタルヲ要ス

當銀行ハ一個ノ署名ヲ有スル爲替手形（又ハ約束手形）ヲ割引スルコトヲ得但利付證券、貴金屬若クハ商品ヲ見合トスル場合ニ限ル

特別ノ擔保ナク單ニ信用ニ基キ爲替手形ノ割引ヲ爲ス時ハ其ノ代リ金ハ現金ヲ以テノミ之ヲ爲スコトヲ得

當銀行ハ特種ノ擔保ヲ有スル爲替手形ノ割引ヲ爲シ又ハ擔保ヲ徴シテ貸付ヲ爲ス場合ニハ其ノ代リ金ハ現金ヲ以テスルノ外借主ノ協定ニヨリ當銀行ノ發行ニ係ル定期預金證書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此種ノ證券ハ借主ノ希望ニヨリ或ハ持參人拂トシ或ハ其ノ額面ヲ貸金額ト爲シ或ハ割賦額ト爲スコトヲ得但割賦額ハ三百留ヲ下ルコトヲ得ス

上記證書カ正確ニ支拂ハルヽコトヲ保證スル爲ニ同證書ノ期日ハ利付證券又ハ貴金屬ヲ擔保トスル貸付ノ場合ニ於テ該證ノ發行ヲ必要トシタル貸付金ノ期日ヨリ一箇月ヲ超過スルコトヲ要ス

斯ノ如クシテ當銀行ノ發行スル證書ノ總額ハ如何ナル事情アリトモ株式資本ノ二分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第十六條　當銀行ノ受入レタル預金ニ關シテハ銀行ハ預金者ノ名義ニ於テ利息付キ又ハ無利息預金證書ノミヲ交付ス本預金證書ハ一人ヨリ他人ニ完全裏書換言スレハ指圖式裏書ニヨリテノミ讓渡スルコトヲ得且右讓渡ハ當銀行ノ帳簿ニ記帳セラルヽコトヲ要ス

第十七條　當銀行ノ預金證書ハ其ノ株券ト共ニ大藏大臣ノ定メタル條件ニ從ヒ露國内ニ於ケル官公衙ニヨリ保證品トシテ受理セラルヘシ

第十八條　借主カ利付證券、貨物又ハ他ノ動産ヲ擔保トセル貸付金及信用ニ對シ滿期日ニ至ルモ支拂ヲ爲サヽル場合ニハ該擔保品ハ債務者ノ計算ニ於テ官設仲買人ノ手ヲ經又ハ重役會ノ選擇ニ從ヒ債務者ニ通知スルコトナク又法律上ノ手續ヲ要セス當銀行構内ニ於テ

競賣スルコトヲ得

本規定ハ無擔保ニテ殘存シタル未濟ノ債務ニ對シテハ現行法律ニ依リ辨濟ノ訴訟ヲ提起スルノ權利ヲ妨ケス

註　利付證券及其他ノ動產ヲ當行ニ擔保トスルニハ該所有者ノ署名アル差入證（辨濟期ニ於テ支拂ヲナサルヽ時ハ當銀行ハ擔保物ヲ賣却スルノ權利ヲ有スル旨記載シアル）ト共ニ該物件ヲ當行ニ提供スルヲ以テ足ル

當銀行ハ借主ニ對シ擔保物ノ受領證ヲ交付スヘシ該受領書ニハ正確ニ擔保物ノ內容及貸付ノ條件ヲ記載スルコトヲ要ス

第十九條　當銀行ニ於ケル預金及當座勘定ハ其ノ他ノ法律ニ規定セラレタル方法ニヨルノ外差押又ハ沒收セラルヽコトナシ

斯ノ如キ場合ニハ當銀行ヨリ交付シタル預金證書又ハ通帳ハ銀行ニ提示スルコトヲ要ス

第二十條　當銀行ニ擔保トシテ差入レタル金屬、貨物、船荷證券（運送會社、鐵道及汽船會社ノ受取書、各種ノ利付證券及其ノ他ノ財產ハ如何ナル場合ト雖個人若クハ政府ノ債權ノ回復ノ爲差押又ハ沒收スルコトヲ得ス又之ヲ銀行債務者ノ破產財團中ニ加フルコトヲ得ス但銀行カ該擔保品ニヨリ其ノ貸出元金利息、罰金、諸費用及延滯ニ對スル附課金ヲ完全ニ回收シタル時ハ此ノ限リニアラス從テ當銀行カ其ノ債權ノ回復ノ爲ニスル擔保物ノ賣却ハ何等法律上ノ手續ニヨリ阻害セラルヽコトナシ

第二十一條　當銀行カ預金及當座勘定ニ受入レタル金額再割引シタル爲替手形、銀行券及其ノ他ノ證券其ノ他當銀行ノ契約シタル金錢上ノ債務ノ合計ハ如何ナル事情ノ下ニ於テモ當銀行ノ株式資本及準備資本ヲ合シタル銀行全資本ノ十倍ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十二條　當銀行ノ各得意先ニ對スル貸出限度ハ一人ニ付株式資本金ノ十分ノ一ヲ超過スヘカラス但重役會ノ決議ニヨリ露國大藏大臣ノ認可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニアラス

第二十三條　當銀行ノ手許現金ハ當行カ他ノ信用機關ニ對シ有スル當座預金ト合シテ常ニ當銀行ノ債務總額ノ一割ヲ下ルコトヲ得ス

上記現金ハ銀行カ其ノ債務ヲ履行スルヲ必要トスル場合ニ限リ之ヲ使用スルコトヲ得但此ノ場合ニハ銀行ハ同時ニ其ノ減少ヲ制限スル爲ニ割引及貸付ニ對シ必要ナル手段ヲ取ルコトヲ要ス

第二十四條　當銀行ノ資金ハ當本銀行ノ株券ヲ購入シ又ハ之ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲ス爲絕對ニ使用スルコトヲ得ス

第二十五條　當銀行ハ本店、支店ノ敷地又ハ倉庫建設ノ爲必要ナル不動產ニ限リ之ヲ購入スルコトヲ得、土耳其斯坦ニ於テモ又同シ

例外ノ場合ニ於テ當銀行ハ債務者ヨリ債務ノ不履行ニヨル損失ヲ防ク爲不動産ヲ獲得シ又ハ抵當トシテ取入ルヽ權利ヲ有ス
上記土地ノ購入又ハ抵當トシテノ取得ハ重役會出席員全部ノ一致ノ議決ニヨリ評議員會ノ承認ヲ經ルヲ要ス擔保差入證書ハ割引手形ノ期日ヲ超ヘサル期間ニ於テ之ヲ作成スルヲ要ス若シ滿期日ニ於テ擔保差入人カ其ノ債務ヲ履行セル場合ニハ當銀行ハ直ニ其ノ債權ノ回復ニ必要ナル手續ヲ取ルヘシ但債務不履行者ヨリ當銀行ノ得タル不動産ハ一年以内ニ之ヲ賣却スルコトヲ要ス

第三章　當銀行ノ業務執行

第二十六條　當銀行ノ業務執行ハ重役會及評議員會之ヲ行フ
註　本定款公告後合併兩銀行ノ重役ハ總テ露亞銀行ノ重役タルモノトス而シテ本定款公告後一箇月以内ニ招集セラルヘキ露亞銀行ノ次回株主總會マテ其ノ位地ニ在ルモノトス
第二十七條　當銀行ノ重役會ハ株主總會ニ於テ選任セラレタル六人以内ノ重役ヲ以テ組織ス
第二十八條　重役ニ選任セラレタル者ハ何人ト雖其ノ條件トシテ自己ノ名義ヲ以テ當銀行ノ株式百株ヲ所有シ之ヲ重役會ニ供托スルコトヲ要ス而シテ在任中ニ於ケル計算ノ株主總會ニ於テ承認セラルヽ迄之ヲ引出スコトヲ得サルモノトス
第二十九條　露亞銀行ノ第一次株主總會ニ於テ選任セラレタル重役ハ毎年一人宛抽籤又ハ合意ニヨリ退任ス其ノ後ハ六年間重役タリシモノ毎年其ノ職ヲ退クモノトス但再選ヲ妨ケス
第三十條　重役會ノ成立後重役ハ議長、副議長ヲ互選ス議長、副議長、共ニ缺席シタル場合ハ更ニ選擧ニ依リ他ノ重役ヲ以テ之ニ代ハラシム其ノ後ハ毎期株主總會後重役會ハ議長及副議長ヲ改選スルモノトス
第三十一條　重役ノ一人カ任期滿了前ニ退任スル時ハ次期ノ總會ニ於テ新ニ重役ヲ選任スルモノトス而シテ其ノ任期ハ前ニ退任シタル者ノ未了ノ期間トス
退任又ハ一時缺席ノ爲重役會員三名未滿ト爲リタル時ハ重役會ハ自ラ次期株主總會ノ開會迄又一時缺席ノ場合ニ於テハ其ノ缺席セル重役ノ歸來スル迄其ノ者ニ代リテ義務ヲ履行スベキ一時的重役ヲ選任スルコトヲ得
第三十二條　重役會ノ決議ハ其ノ會議ニ出席セル重役三人ノ一致アルニアラザレバ無效トス決議ハ過半數ノ投票ヲ以テ之ヲ定ム

可否同數ナル時ハ議長之ヲ決ス

第二十五條ニ掲ゲタル問題ノ議決ニ關シテハ會議ニ出席セル重役ノ全員一致ノ決議アルヲ要ス

第三十三條　重役會ノ任務ハ左ノ如シ

(a)株主名簿ノ保管

(b)當銀行ノ總テノ業務ノ支配

(c)普通業務ノ範圍外ニ屬スル總テノ事項ニ關シ其ノ地方ノ現行慣習及法律ニ從ヒ地方官廳トノ通信

(d)各年度ノ始メニ於ケル經費豫算ノ審査及各年度ノ終リニ於ケル總テノ營業及情況報告ノ審査

(e)當銀行ノ營業ノ最大發展ニ對スル手段及方法ノ選擇

(f)當銀行ノ營業ニ關スル一般ノ監督及其ノ都度特ニ選定シタル重役又ハ其ノ目的ノ爲特ニ選任セラレタル他ノ人ニ依リ常務取締役ノ行爲ノ檢査及監査

(g)普通業務ノ範圍外ノ事項ニ關スル詳密ナル調査

(h)總會ニ附議セラルベキ總テノ問題ニ對スル豫備調査

(i)特種重要ノ事項ナルノ故ヲ以テ取締役ヨリ重役會ノ決議ヲ經ル爲提出セル諸問題ノ審査

(j)當銀行ニヨリテ締結セラレタル一切ノ契約書ニ署名スベキ重役代理者ヲ選定スルコト及右選定ヲ一般關係先ヘ通知シ及重役會ノ指定セル新聞紙上ニ公告スルコト

(k)毎年度營業開始以前ニ其ノ經費豫算書竝ニ毎年度ノ終了後全營業ノ計算書及銀行狀況報告書ヲ評議員會ニ呈出スルコト

第三十四條　重役會ハ其ノ重役中ノ一人又ハ二人ニ專務取締役ノ資格ヲ以テ當銀行ノ業務ヲ執行スベキ權利ヲ附與スルコトヲ得

專務取締役ノ職務ハ左ノ如シ

(a)重役會ノ決定ニ基キ銀行事務ヲ處理スルコト一切ノ書類、計算書、帳簿及當銀行ヲ代表シ又銀行ノ名義ヲ以テ行フ業務上ノ通信ヲ管理スルコト

重役會ノ指示スル詳細ナル訓令ニ依準シ其ノ任務ヲ遂行スルコト

(b)使用人ノ任免ヲ爲スコト及評議員會ノ承認シタル經費豫算ノ範圍内ニ於テ使用人ノ俸給ヲ決定スルコト

(c)本定款ノ規定ニ從ヒ銀行カ有スル資産ノ投資方法ヲ選擇スルコト

(d)利率及手數料ヲ定ムルコト

(e)其ノ地方現行慣習及法律ニ從ヒ銀行ノ營業ニ關シ地方官廳トノ間ニ於ケル書面ノ往復

註 重役會ハ專務取締役ニ對スル契約ニ從ヒ之ニ對シテ一定ノ俸給ノ外利益ノ幾分ヲ給與スルコトヲ得

第三十五條 重役會ハ銀行ノ代表者タル資格ヲ以テ如何ナル場所トヲ不問特別ノ委任狀ナク銀行ノ名義ヲ以テ又ハ銀行ノ爲ニ行爲ス

重役會ヨリ特ニ其ノ權限ヲ與ヘラレサル限リ重役ハ各自ニ當銀行ノ名義ヲ以テ又ハ當銀行ノ爲ニ行爲スルコトヲ得ス

註 委任狀ハ重役二名之ニ署名スルコトヲ要ス

第三十六條 評議員會ハ株主總會ニ於テ選擧セラレタル十八名以内ノ評議員ヲ以テ組織ス評議員ハ自己ノ名義ヲ以テ當銀行ノ株式二十株以上ノ所有者タルヲ以テ其ノ資格トス

第三十七條 評議員會ハ其ノ議員中ヨリ議長、副議長各一名ヲ選擧ス

議長、副議長共ニ缺席シタル場合ニハ評議員會ハ更ニ議員中ヨリ一名ヲ選擧シテ臨時ニ議長ヲ代理セシム

第三十八條 露亞銀行ノ第一回株主總會ニ於テ選任セラレタル評議員ノ中六名ハ毎年抽籤又ハ合意ニヨリ退任ス其ノ後ハ三年間其ノ任務ニアリタルモノ退任スベキモノトス但再選ヲ妨ケス

第三十九條 評議員中其ノ理由如何ヲ問ハス任期滿了前ニ退職シタルモノアル時ハ殘存セル議員ハ各自ノ好ム所ニ從ヒ二十株以上ノ株主ヲ其ノ補缺トシテ選任スベシ而シテ其ノ選擧ヲ行ヒタル議員ハ次回株主總會ニ其ノ選擧事由ヲ提出シテ承認ヲ經ルコトヲ要ス但選擧セラレタル議員ハ總會ノ承認ヲ待タズ直チニ其ノ職務ヲ履行スベシ補缺評議員カ退職シタル議員ニ代位シタルコトヲ承認セラレタル時ハ其ノ退職シタル議員カ選擧セラレタル任期ノ終了スル迄其ノ地位ニ在ルモノトス

第四十條 評議員會ノ決議ハ出席議員五名以上ノ同意ニヨルモノニ非レバ無効トス缺席シタル議員ハ書面又ハ電信ヲ以テ評議員會ノ決

議ニ參加スルコトヲ得決議ハ多數決ニヨリテ定ム可否同數ナル時ハ議長之ヲ決ス

第四十一條　評議員會ハ毎月一回以上開會スルコトヲ要ス緊急ノ場合ニハ重役會ハ臨時評議員會ヲ招集スベキ權能ヲ有ス

第四十二條　評議員會ノ職務ハ左ノ如シ

一、本定款ニ依リ當銀行ノ業務執行ノ一般ノ監督ヲ爲スコト及何時ニテモ任意ニ當銀行所有ノ現金手形及株券ノ檢査及照合ヲナスコト

二、重役會ヨリ提出セラレタル經費豫算ノ承認及該豫算外支出ニ對シ必要ト認メタル場合之ヲ承認スルコト

三、年度報告及計算書ノ査定及之ニ評議員會ノ意見ヲ付シテ株生總會ニ最後ノ承認ヲ經ル爲提出スルコト

四、本定款ノ規定ニ從ヒ又ハ重役會ノ必要ト認メタル場合ニ於テ評議員會ニ提出セラレタル諸問題ノ審査

五、重役會ヨリ株主總會ニ付議セラルヘキ總テノ問題ノ豫備審査ヲ爲スコト評議員會ノ議事日程ハ同會ノ自ラ定メタル規定ニ從フ

第四十三條　評議員會、其ノ職務ノ執行ニ對シ一定ノ俸給ヲ受クルコトヲ得ス但第六十七條ノ定ムル所ニ從ヒ純益ノ一部分ヲ以テ其ノ報酬ト爲スコトヲ得、シ此ノ場合ニハ其ノ報酬金ハ評議員會ノ過半數ノ決議ニヨリテ分配セラルヘシ尙株主總會ハ報酬トシテ支拂ハルヘキ金額ノ最低額ヲ定ムルコトヲ得

第四十四條　重役、專務取締役、支店支配人其ノ他銀行ノ使用人（但評議員ハ之ヲ除ク）ハ何レノ形式ニ依ルヲ問ハス銀行ヨリ貸出ヲ受クルコトヲ得ス

第四十五條　重役會及評議員ノ議長、副議長及各重役評議員、專務取締役ハ一般ニ銀行ノ言質又ハ契約ニ關シテ個人的責任ヲ負フコトナシ但越權ノ行爲又ハ一般ニ不法若クハ怠慢ナル行爲ニヨリ銀行ニ損害ヲ及ホシタル時ハ法律ノ規定ニ從ヒ個人的ニ且自己ノ財産ヲ以テ其ノ責ヲ負擔スヘキモノトス

第四十六條　重役會ノ議長、副議長、專務取締役タル重役及其ノ他ノ重役ハ其ノ職務ニ對シ總會ニヨリ定メラレタル報酬ヲ受ク

註　評議員及重役ハ株主總會ノ決議ニヨリ選任セラレタル期間滿了前ト雖解職スルコトヲ得

第四十七條　評議員、重役及總テ銀行ノ使用人ハ銀行ノ業務及銀行ニ委托セラレタル私ノ事務及計算ニ關シテハ絶對ニ秘密ヲ守ルヘキ

義務ヲ有ス

第四十八條　當銀行ハ露國大藏大臣ノ認可ヲ得タル行印ヲ有ス

第四章　株主總會

第四十九條　（一）銀行ノ株式ヲ所有スル者ニシテ株主總會ニ出席スルノ權利ヲ有スルモノハ十株以上ノ株主ニ限ル而シテ三十株ヲ有スル者ハ二票七十五株ヲ有スル者ハ三票、百五十株ヲ有スル者ハ四票、百五十票以上ヲ有スル者ハ百株ヲ增ス每ニ一票ノ投票權ヲ得ルモノトス

如何ナル株主ト雖モ一人ニテ出席者全員ニ屬スル投票數ノ十分ノ一以上ノ投票權ヲ有スルヲ得ス又何人ト雖自己ノ權利タルト他人ノ代理タルトヲ問ハス如何ナル事情ニ於テモ一人五十票以上ノ投票ヲ爲スコトヲ得ス

（二）自己ノ名義ヲ以テ登錄セル株式ノ所有者ハ株主總會ニ於テ投票ノ權利ヲ有ス但株主總會當日前少クトモ一週間前ニ重役會ニ於ケル株主名簿ニ其ノ姓名ノ登錄セラルヽコトヲ要ス而シテ株主總會ニ出席スルノ權利ヲ取得センカ爲ニ記名株式ヲ供託スルノ必要ナシ

（三）無記名株券ノ所持人ハ株主總會當日前少クモ一週間前ニ銀行重役會ニ其ノ株券ヲ供託スルコトニ依リテ投票ノ權利ヲ得但一旦供託シタル株券ハ總會ノ結了ヲ告クル迄之カ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

又株主ハ中央銀行若クハ政府ノ認可ヲ受ケタル定款ニ依リテ營業スル銀行若クハ其ノ目的ノ爲ニ株主總會之ヲ選定シ大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル外國ノ金融機關ニ保護預ケトシテ若クハ擔保トシテ其ノ株券ヲ預託シアルモノハ實物ニ代フルニ其ノ受領書ヲ以テスルコトヲ得但前述ノ受領書ニハ株券番號ノ記載アルコトヲ要ス外國銀行中其ノ受領書ヲ以テ株式ノ實物ニ代ヘテ供託シ得ヘキモノノ行名ハ之ヲ株主總會召集ノ公告中ニ記載セサルヘカラス

第五十條　十株以下ノ株主ト雖委任狀ニヨリ各自ノ持株ヲ結合シテ第四十九條ノ規定ニ從ヒ一個若クハ二個以上ノ投票權ヲ獲得スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ投票權ヲ取得シタル株主ハ他ノ投票權ヲ有スル株主ノ代理者トシテ行爲スルコトヲ得

第五十一條　投票權ヲ有スル株主ガ欠席スル時ハ投票權ヲ有スル他ノ株主ヲシテ其ノ權利ヲ代理セシムルコトヲ得但一人ニテ二人以上ノ代理權ヲ行使スルコトヲ得ズ

註　投票權ノ委任狀ハ書面ノ形式ニ依リ株主總會前三日迄ニ重役會ニ通知スルコトヲ要ス

第五十二條　株主總會ニ於テ投票權ヲ有スル株主ノ名簿ハ前項第四十九條第五十一條ノ規定ニ依リ之ヲ作成シ印刷ニ附シテ總會前四日間本店ニ於テ閲覽ニ供スルモノトス而シテ該名簿ニハ株主ガ供托シタル株券ノ番號ヲ記載スルコトヲ要ス尙右名簿ノ寫ハ株主ノ請求ニヨリ之ヲ交付スベシ

株主總會開會前ニ於テ審査委員ハ重役會ニ於テ作成シタル株主名簿ヲ査證スルコトヲ要ス若シ株主總會ニ出席セル株主ニシテ株式資本二十分ノ一以上ヲ代表スル者ヨリ請求アリタル時ハ總會ハ株主中ヨリ此ノ目的ニ對シ特ニ三名以上ノ株主ヲ選出シ再ヒ名簿ノ査證ニ當ラシム

但前記三名ノ株主中尠クトモ一人ハ株主名簿ノ再審ヲ要求シタル株主中ヨリ選任セシムルコトヲ要ス

第五十三條　株主總會ヲ分チテ通常總會及臨時總會ノ二種トス然シテ通常總會ハ毎年六月以前ニ之ヲ開催スルコトヲ要シ臨時總會ハ重役會ノ意嚮ニ依リ若クハ評議員會ノ請求ニヨリ之ヲ召集シ速決ヲ要スル臨時ノ事項ヲ討議ス

註　株式資本ノ二十分ノ一以上ヲ代表スル株主ハ重役會ニ株主總會ヲ召集スベキ旨ヲ要求スルノ權利ヲ有ス但其ノ總會ニ提出スベキ事項ハ要求書ニ之ヲ明記セザルベカラズ前項ノ要求アリタル時ハ其ノ當日ヨリ一箇月以內ニ之ニ應スルコトヲ要ス

第五十四條　株主總會開會ノ通知ハ重役會ニ於テ決定セル開會日前少クトモ三週間前ニ官報及「財政商工通報」竝ニ重役會ノ選ビタル其ノ他ノ定期刊行物ニヨリテ公告スルコトヲ要ス但右ノ公告ニハ明瞭ニ次ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

（a）　總會開會ノ月日竝ニ時間

（b）　會場

（c）　總會ニ於テ議セラルベキ事項ノ明細

議事項目ニ關スル重役會ノ報告書ハ多數ニ之ヲ作成シ以テ總會前少クトモ一週間ハ自由ニ株主ノ閲覽ニ供スルコトヲ要ス

註　記名株ノ所有者ニ對シテハ公告ニ關セズ本條規定ノ期間内ニ重役會ハ株主名簿ニ記載セラレタル住所ニ宛テ書留郵便ヲ以テ通告スルコトヲ要ス又無記名株ノ所持人ガ其ノ住所宛同樣ノ通告ヲ爲サシト欲シ相當ノ時期ニ於テ重役ニ屆出タル場合亦同ジ

第五十五條　株主總會ニ投票權ヲ有シ且自己又ハ代理ニ依リ株式全數ノ五分ノ一以上ヲ代表スル株主ガ出席シタル場合ハ之ヲ以テ適法ノ總會ト推定ス

總會ニ於テ代表セラレタル株式ノ數ガ前項ノ數ニ達セザリシ時又ハ決議ヲ爲スニ當リ定款ニヨリテ要求セラレタル票數ヲ得ル能ハザリシ時ハ總會ノ召集ニ關シ定款ニ記載セラレタル規定ニ從ヒ其ノ後四日以内ニ第二總會ノ召集ヲ爲スコトヲ要ス但總會ハ右召集公告ヲ爲シタル日ヨリ二週間ヲ經過スルニアラザレバ之ヲ開催スルコトヲ得ス右總會ハ適法ノモノト見做サレ且其ノ議決ハ出席シタル株主ノ代表スル株式數ノ如何ニ係ラズ終局ノモノトシテ効力ヲ有ス重役會ハ右ノ趣ヲ各株主ニ對スル通告書ニ記載スルコトヲ要ス

上記ノ如キ第二回總會ニ提出セラルベキ事項ハ第一回總會ニ於テ一度協議ニ付セラレタルカ或ハ決議ヲ爲スニ至ラザリシモノニ限ル且右ハ單ニ投票ノ過半數ニ依リテ決定セラレタルモノトス凡テ株主總會ヲ通過シタル決議ハ出席ノ有無ニ係ラズ全株主ヲ拘束スルモノトス

註　過半數ノ決議ニ對シ異議ヲ有スル株主ハ之ヲ申述スルノ權利ヲ有ス而シテ其ノ申述ハ總會議事錄ニ之ヲ登載ス

異議ヲ述ベタル株主ハ總會ヨリ七日以内ニ其ノ異議ノ詳細ヲ提出スルコトヲ得此ノ場合其ノ記述ハ議事錄ニ添付セラルベキモノトス

(ハ)

第五十六條　株主總會ノ議長ハ各總會開會ノ初ニ當リ議事ニ入ル前ニ於テ特ニ選出セル株主ノ一人ヲ以テ之ニ任ズ但右ノ選任ヲ行フ迄ハ重役會ノ議長又ハ其ノ代理人ヲ以テ之ニ代フルモノトス

第五十七條　株主總會ノ決議ガ有効ノモノタルニハ投票數ノ過半數ヲ以テ通過シタルモノナルコトヲ要ス而シテ第五十九條第四項、第五項、第六項ニ記載セラレタル事項ノ決議ハ投票數ノ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ通過シタルモノナルコトヲ要シ第五十九條前掲諸項ノ決議ニ關シテハ出席株主ガ總會ニ於テ自己又ハ代理ニ依リ銀行株式全額ノ二分ノ一以上ヲ代表スルコトヲ必要トス

第五十八條　凡テノ議事ハ豫メ評議員會、審査ヲ經タル後重役會ニヨリテノミ之ヲ株主總會ニ提出スルコトヲ得故ニ若シ株主ニシテ議

行ノ利害ニ鑑ミ動議ヲ提出シ若クハ業務上ノ抗議ヲ申出デント欲スルトキハ事重役會ニ係ル問題ト雖亦之ヲ重役會ニ宛テ申告セザルベカラズ此ノ場合ニ於テ重役會ハ其ノ動議又ハ苦情ニ對シテ重役會ノ意見又ハ説明ヲ付シテ之ヲ評議員會ニ付議スルコトヲ要ス而シテ其ノ後該事項ノ進捗如何ハ一ニ評議員會ノ任意ニ屬スルモノトス但總計ニ於テ株式資本ノ二十分ノ一以上ヲ代表セル株主ガ署名シテ提出シタル動議ハ如何ナル場合ニ於テモ重役會及評議員會ノ意見ヲ付シテ之ヲ株主總會ニ提出セザルベカラズ但其ノ動議ハ總會七日前迄ニ重役會ニ提出スルコトヲ要ス

第五十九條　以下ノ事項ハ株主總會ニ依リテノミ之ヲ決議スルコトヲ得

(一)重役並ニ評議員ノ選擧

(二)年度報告及計算ノ最終ノ承認

註　年度報告及計算ヲ審査シ又ハ銀行業務上ニ屬スル一切ノ行爲ヲ查證スル爲ニ株主總會ハ一千九百一年十二月二十一日付法律第十四條第十五條、第十六條及第十七條ノ規定ヲ嚴守シ五名ノ特別審查委員ヲ選任ス

(三)支店開設ノ決議

(四)定款ノ變更又ハ追加ニ關スル決議

(五)第八條ノ規定ニヨリ銀行ノ資本金增加ニ關スル決議

(六)銀行ノ閉鎖及解散ニ關スル決議

第六十條　株主總會ニ於ケル投票ハ投票權ヲ有スル株主ノ一人タリトモ之ヲ主張スルモノアル時ハ無記名投票ニ依ラサルベカラス業務ヲ執行シ又ハ監督ノ任ニアル幹部員若クハ清算人ノ任免ニ關スル決議及彼等ノ譴責ニ關スル決議ハ凡テ無記名投票ヲ以テス

第六十一條　株主總會ノ一會期ハ必要ノ場合ハ之ヲ數日間延長スル事ヲ得但一週間ヲ超ユルコトヲ許サス尙開會ノ時間ハ總會之ヲ定ム

第六十二條　前項ノ規定ニヨリ適法ニ通過シタル株主總會ノ決議ハ出席ノ有無及贊否ノ如何ニ拘ラス全株主ヲ拘束スルノ効力ヲ有ス

第五章　計　算

第六十三條　銀行ノ計算ハ舊曆ニ依リ一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル迄ヲ一期間トシテ之ヲ爲ス

第六十四條　重役會ノ年度計算書ハ評議員會ノ意見ト共ニ總會ニ於テ之ヲ討議スルノ日ヨリ尠クトモ二週間前ニ印刷ニ附シ豫メ此ノ計算書ヲ審査セント欲スル株主ニ對シテ本店ニ於テ之ヲ分與スルコトヲ要ス

三通ノ計算書ニ總會ノ議事錄ヲ添付シテ大藏大臣ニ報告スル爲之ヲ提出スベシ

第六十五條　年度計算書ハ官報「財政商工通報」並ニ重役會ニ於テ選定セル定期刊行物ニ之ヲ公告スヘシ

註　年度計算書及銀行本支店ノ毎月末貸借對照表各三通ヲ大藏省ニ提出スルコトヲ要ス

前項ノ年度計算書及月末貸借對照表ヲ公告スル場合ニハ大藏大臣ノ許可ヲ經テ其主要勘定ノミヲ記載スルコトヲ得

第六十六條　年末貸借對照表ニ於テハ整理的借權ハ其ノ概價ヲ以テ之ヲ評價シ又國債及其ノ他ノ利付債券ハ買入價格ヲ超ユルコトナクシテ之ヲ評價スルコトヲ要ス但シ貸借對照表作成當日ノ時價カ買入價格ヲ下ル時ハ此等ノ證券ノ價格ハ其ノ日ノ時價ヲ以テ記入スルコトヲ要ス

第六章　利益配當

第六十七條　總經費及諸損失ヲ差引勘定セル該年度ノ純益中ヨリ第一ニ銀行ノ積立金トシテ百分ノ十ヲ下ラサル金額ヲ控除スベシ

次ニ純益ノ殘高ガ株式資本金ノ百分ノ五ヲ超過セザル時ハ全部之ヲ配當金トシテ株主ニ分配スルコトヲ要ス又右ノ殘高ガ百分ノ五ヲ超過シタル時ハ其ノ超過額ハ左ノ如ク分配ス

超過額ノ百分ノ四、五ハ評議員ニ百分ノ九ハ重役ニ百分ノ六、五ハ重役會ノ定ムル所ニ從ヒ當銀行ノ使用人ニ分配セラルベキモノトス

尙殘餘アル時ハ株主ニ配當ノ割增ヲナス又總會ノ決議ニヨリテ其ノ殘高又ハ殘高ノ幾部分ヲ特別積立金中ニ繰入ルヽコトヲ得

第六十八條　所有株ニ對スル配當金ノ支拂ハ公告ノ後利札ト引換ニ之ヲ行フ該利札ハ配當金支拂ノ日付ヨリ十年間ヲ經過スルモ尙之ヲ重役會ニ提出セザル時ハ配當金受領ノ權利ヲ喪失シ銀行ノ財產中ニ繰入レラルヽモノトス如何ナル場合ニ於テモ銀行ニ殘存セル未請求ノ配當金ニ對シテ利息ヲ付スルコトナシ

註　純益中外國所在ノ支店カ其ノ營業ニヨリ得タル部分ニ對シテハ露國ニ於ケル株式會社ノ純益ニ對シ賦課セラルベキ國稅ヲ免除セ

ラル

第七章　積立金（通常積立金及特別積立金）

第六十九條　通常積立金ハ當銀行ノ營業ヨリ生ズル總テノ損失ヲ塡補スルヲ以テ目的トシ毎年割當テラル丶金額（第六十七條）及夫ヨリ生ズル利息ヲ以テ之ニ充ツ此ノ積立金ハ當銀行ノ株式資本金ノ半額ニ達スル迄繼續積立ツベキモノニシテ通常積立金ガ株式資本ノ三分ノ一ノ額ニ達スル迄ハ各年度毎ニ純益ノ百分ノ十ヲ、該積立金ガ株式資本金ノ三分ノ一ノ額ニ達シタルモ未ダ前述ノ限度ニ達セザル內ハ純益ノ百分ノ二ヲ割當ツベキモノトス

株式資本金ノ三分ノ一ト同額ノ積立金ハ其ノ一部ヲ以テ公債證書又ハ國家ニヨリ保證セラルル利付債券ノ買入ヲ爲シ其ノ殘部ヲ以テ前記ノ證券若クハ農業銀行又市立信用組合ノ債券及市債ニ投資スヘキモノトス又通常積立金ガ株式資本金ノ三分ノ一ニ達シタル時ハ其ノ積立金ヨリ生スル利息ノ組入ハ株主總會ノ決議ニヨリ中止スルコトヲ得若シ某年度ニ於ケル損失ガ通常積立金ノ一部ニヨリ塡補セラレザルベカラザルニ至リタル時ハ其ノ年度後ハ純益中ヨリ通常積立金ニ對スル割當及右ヨリ生スル利息ノ組入ハ該積立金ガ再ビ正規ノ額ニ達スル迄存積セラレザルベカラズ

第七十條　特別積立金ハ當銀行ノ營業ヨリ生スル損失ニ充ツベク又必要アル場合ニハ株主ニ對スル五分ノ配當ノ補足ニ充ツベシ特別積立金ノ全部消費セラレタル時ハ當銀行ノ損失ハ通常積立金ヲ以テ塡補スベキモノトス

第八章　解散

第七十一條　當銀行ハ本定款第五十七條ノ規定ニ從ヒ株主總會ノ決議ニヨリ何時ニテモ營業ヲ停止スルコトヲ得若シ銀行ノ損失ガ積立金ヲ以テ塡補スルコト能ハス且其ノ額ガ株式資本金ノ四分ノ一ニ達シタル時ハ株主ガ出資シテ資本金ヲモトノ金額ニ回復スルニ在ラザレバ當銀行ハ閉鎖ノ上清算ヲ爲サヾル可カラズ

第七十二條　當銀行ノ清算ノ場合ハ評議員會ニ於テ一人又ハ數人ノ清算人ヲ指定シ總會ニ於テ之ガ任命ヲ爲ス又總會ハ法律ニ依リ規定セラレタル手續ニ從ヒ清算手續ヲ定ムベシ

第七十三條　重役會及評議員會ハ清算人ノ任命ト同時ニ其ノ權能ヲ失フ但總會ノ權能ハ清算中有効ニ存續スルモノトス總會ハ清算勘定

書ヲ審査シ且其ノ責任ヲ解除スルノ權利ヲ有ス

第九章　一般的規定

第七十四條　總テ本定款ノ適用ニ關シテ生スル疑義ハ之ヲ重役會ヨリ露國大藏大臣ニ報告シ其ノ決定ヲ仰クヘシ

第七十五條　本定款ニ規定ナキ各場合ニ於テハ當行ハ株式會社ニ關シ現行若クハ將來發布セラルヘキ露國法律ニ依リ行爲スヘキモノトス

第七十六條　亞細亞所在ノ銀行支店ハ露國政府ノ代表者ノ保護ノ下ニ置カレ且條約ニ因リ領事裁判權ヲ有スル國ニ於テハ該裁判ニ服從スヘキモノトス

中佛實業銀行

第一次革命後支那ガ善後ノ處置ヲナサンガ爲メ六國銀行團ニ對シテ借款ヲ提議スルヤ、コレガ條件ニツキ兩者ノ間容易ニ一致ヲ見ズ、屢交涉中絕ヲ生ゼシコトアリシガ、民國元年臨時政府設立ノ初ニアリテハ熊希齡財政總長トシテ專ラ此交涉ニ任ジ、甚ダ其折衝ニ苦ミツヽアリキ、然ルニ此時佛國ノ東方滙理銀行ハ熊氏ニ對シ「六國團ハ互ニ相牽制シ、借欵ノ事恐クハ成就シ難カラン、中佛ノ國交ハ從來敦睦ナレバ、兩國聯合シテ一銀行ヲ設ケ、實業ヲ以テ前提トナシ、信用昭著ナルヲ俟チ、則チ之ヲ藉リテ外資ヲ輸入シ、以テ中國財政ノ急ヲ濟フニ如カズ」トノ意ヲ傳ヘタルニ、熊氏ハ此計畫ヲ以テ可ナリトナシ、該銀行ニ對シ之レニ關スル詳細ノ辦法ヲ内示センコトヲ求メ、此ニ本行設立計畫ノ端ヲ發セリ、其結果東方滙理銀行ヨリハ代表者二人ヲ北京ニ派シ、財政部當局ト本行創立ノ交涉ヲ開

始セシメ、其間種々ノ曲折アリシガ、一九一一年一月十五日ニ至リ、兩者ノ間ニ中佛實業銀行組織ニ關スル契約ノ調印ヲ見タリ、卽チ次ノ如シ。

中佛實業銀行組織契約

契約ノ一

支那共和國政府ハ巴里ノベルトロー(A. Bertholou)及ビヴヰクトル(C. Victor)ノ二氏ト英國會社ノ福公司(Peking Syndicate)ヲ代表スルブシヤー(H. Bouchard)及ビクラドー(M. Klado)ノ二氏ト中佛實業銀行設立ニツキ條件ヲ商訂スルコト下ノ如シ

第一條　此銀行ハ支那及ビ佛國等ノ株主ノ資本ヲ以テ組成スル一ノ有限株式會社ニシテ巴里ニ於テ設立シ北京工商部ニ登記ス

第二條　凡テ株主ノ債務ハ認定シタル株券ノ實數額ニ足ルヲ以テ限リトシ此ノ以外ハ何種ノ欠損タルニ關セズ凡テ負擔セズ

第三條　本會社ハ中佛實業銀行ト稱シ其ノ營業課目ハ大要下記ノ如シ

各大銀行ノ常例ニ依リ中外各國ノ商務貿易及爲替等ノ事ヲ經營シ並ニ各種ノ借債ヲ代理シ工商農業ヲ發達セシムルヲ以テ主旨ト爲ス

第四條　資本金ハ四千五百萬法ト爲シ九百株ニ分チ一株五百法宛トス

第五條　資本金ノ三分ノ二即チ三千萬法ハ佛國等ノ資本家ノ認ムル株トナシ其餘ノ三分ノ一即チ一千五百萬法ハ支那政府ノ認ムル株トナス以後若シ重役會議或ハ株主大會ノ議決ヲ經テ資本金ヲ一億法ニ增加スル場合ニハ支那政府ハ增募株券ノ內、三分ノ一ヲ占ムルノ權ヲ有ス但シ佛國等ノ大株主ノ承認ヲ經テ後日株券ヲ賣出スコトアル場合ニハ支那政府ハ買入ノ優先權ヲ得ヘシ

第六條　本銀行創立ノ主旨ハ既ニ支那ノ實業ヲ發達スルニアルヲ以テ支那ハ二十五ケ年以內ニ其ノ認定シタル株券ヲ他ニ轉賣セザルヲ承諾ス

第七條　本銀行ノ總機關及ビ重役團ヲ皆巴里ニ設ケ凡テ重役ハ皆株主大會ニテ選定ス支那人ノ被選權ヲ有スルハ其他ト同ジ、此ノ以外ニ支那政府ハ、別ニ一代表人ヲ派遣シテ重役團ニ參加セシムベシ、此代表人ノ職務及ビ權限ハ支那政府ニテ隨意ニ訂定スベク其ノ他

ノ享クベキ利益ニ關シテモ、他ノ重役ト異ナルコトナシ

第八條　本銀行ハ北京ニ營業所ヲ設ケ重役團ノ付託シタル職權ニ按照シ一切ノ營業事務ヲ督理ス營業所ノ職員ハ三名若シクハ六名トシ支那人ハ其三分ノ一ヲ占メ支那政府ヨリ之ヲ派定シ外國人ハ其ノ三分ノ二ヲ占メ巴里重役團ヨリ之ヲ擧定ス

九條　本銀行ノ營業年限ハ九十年ト定メ、期間滿チタル後支那政府ノ許可ヲ得レバ仍ホ延長スルヲ得ベシ但シ支那政府ハ二十五ケ年後本契約ニ規定スル義務ヲ免ル丶ノ權ヲ有ス

第十條　凡テ株券ノ轉賣、重役團ノ組織、各株主ノ大會ニ於テ有スル權利、重役團ノ權限、監查役ノ委任、株主大會ノ召集、簿記ノ組織及ビ檢查等ニ關シ本銀行ハ皆佛國ノ法律及ビ習慣ニ從ツテ行ヒ一ニ其他ノ各有限株式會社ノ如クス、本契約ハ北京ニ於テ調印シ佛文及ビ漢文ヲ並列シテ二通ヲ作成シ疑義アル時ハ佛文ヲ以テ標準ト爲ス

西暦一九一三年一月十一日

契約ノ二

支那共和國政府ハ巴里ノベルトロー及ビヴヰクトル二氏ト英國會社ノ福公司ヲ代表スルプシヤー及ビクラドーノ二氏トハ兩方面ニテ條件ヲ商訂スルコト下ノ如シ

プシヤー氏及ビクラドー氏ハ、ペキン、シンジケート名義及ビ同シンヂケート評議員團ヨリ一九一二年十月二十一日ベルトロー氏及ビヴヰクトル氏ノ二評議員ニ授與スルニ決定シタル全權ヲ以テ支那政府ガ本行資金ヲ國庫金貨債券ヲ以テ拂込ムコトヲ承認シ其金額ハ本政府ヨリ第一回ニ拂込ムベキ本銀行資本ノ四分ノ一、即チ三百七十五萬法ヲ以テ率ト爲ス

此種ノ國庫金貨債券ニハ割引ナク年利六分ヲ附シ六月三十日及ビ十二月三十一日ヲ以テ利子支拂期ト爲ス

支那政府ガ自ラ此債務ヲ償還セント欲スル時ハ金貨ヲ用ヰテ割引セズ北京ニ於テ行フ可ク本政府ノ財政餘裕ヲ生ジタル時ヲ以テ償還期トス但シ其償還期ハ拂込ミノ日ヨリ起算シ二個年ヲ超過スルヲ得ズ

本契約ハ北京ニ於テ調印シ佛文及ビ漢文ヲ併列シテ二通ヲ作成シ疑義アル時ハ佛文ヲ以テ標準ト爲ス

西暦一九一三年一月十一日

契約ノ三

支那共和國政府ハ巴里ノベルトロー及ビヴヰクトルノ二氏ト英國會社ノ福公司ヲ代表スルプシヤー及ビクラドーノ二氏ト、兩方面ニテ條件ヲ商訂スルコト下ノ如シ

中佛實業銀行ノ組織ハ支那ノ實業ヲ擴張スルニ便スルヲ以テ主旨ト爲シ支那ノ信用及ビ外國ノ資本金ニテ兩ツナガラ相協助シテ成ルヲ以テ本政府ハ創業ノ一千株及ビ其他ノ加入スル二萬九千株ヲ創業後二十五個年以内轉賣及ビ移動スルヲ得ザルヲ承諾ス

但シ該銀行重役團及ビ營業所ニ於ケル本政府ノ代表人ノ其保證金ヲ或ハ本政府ノ所有スル資本中ヨリ之ヲ充テ、計算シ並ニ此種ノ資本ヲ以テ該代表人ノ所有ト成スコトヲ得ベシ

本契約ハ北京ニ於テ調印シ佛文及ビ漢文ヲ併列シテ二通ヲ作成シ疑義アル時ハ佛文ヲ以テ標準ト爲ス

西暦一九一三年一月十一日

契約ノ四

支那共和國政府ハ巴里ノベルトロー及ビヴヰクトルノ二氏ト英國ノ合資會社ノ福公司ヲ代表スルプシヤー及ビクラドーノ二氏ヲ兩方面ニテ條件ヲ商訂スルコト下ノ如シ

プシヤー氏ハ必要ノ資本金ヲ集得シテ中佛實業銀行ヲ組織シ其方法及ビ期限ハ已ニ支那政府一九一二年七月十四日ニ於テ定メ自ラ株券三分ノ一即チ一千五百萬法ヲ出スヲ認メタリ以後本銀行ニテ再ビ資本ヲ增募スル事アル場合ニ若シ本政府ニテ再ビ加入ヲ欲セバ增募額ノ三分ノ一加入スルノ權利ヲ有ス

支那政府ハ中佛實業銀行ノ章程ヲ其ノ提出シタル通リ許可シ並ニ法ヲ講ジテ本銀行ノ種々ノ營業ニ便シ以テ其主旨ヲ達スルヲ欲ス本契約ハ北京ニ於テ調印シ佛文及ビ漢文ヲ併列シテ二通ヲ作成シ疑義アル時ハ佛文ヲ以テ標準ト爲ス

西暦一九一三年一月十一日

之レニヨル時ハ中佛實業銀行ハ本店ヲ巴里ニ置キ、支那政府ニ登記シ、資本金ハ總額四千五百萬法

トシ、其三分ノ二ハ佛國資本團、三分ノ一ハ支那政府ニテ引受ケ、而シテ支那政府ノ引受株ニ對スル拂込ハ財政困難ナルヲ以テ六分利付國庫債券ヲ以テスルモノナリ、彼支那政府ハ之レヲ參議院ニ提出シ其ノ決議ヲ經テ之レガ實行ニ着手シタリ、目下支那ニ於テハ上海、北京ニ支店ヲ設置セリ、其ノ佛國側ノ株式ハ福公司四萬株ヲ、發企人三千株ヲ引受ケ、其餘ヲ一般公衆ヨリ募集セリ、上記契約ニ基キ作製セラレタル本行章程ハ次ノ如シ。

中佛實業銀行章程

第一章　組織定名宗旨地址期限

第一條　現ニ株式ヲ所有スルモノ及將來株式ヲ所有スベキモノヲ以テ、一株式會社ヲ設立シ其進行各事皆規定ノ章程及通用ノ律例ニ按照シテ施行ス

第二條　本會社ハ中法實業銀行ト定名ス

第三條　本銀行ノ宗旨ハ廣義ヲ以テスレバ各國一切ノ銀行並財務ニ關スル事業ヲ經營スルニアリ、狹義ヲ以テスレバ本行ト中華民國政府ト共同籌議ノ事業ヲ經營スルニアリ、其支那ニアリテ經理スル事業下ノ如シ

一、兌換券ノ發行但シ支那又ハ某省ニ中國政府紙幣則例ヲ頒行セル時ハ止ム

二、一切商債券、約束手形、支拂手形、爲替手形及他種定期手形額ノ收撥存付

三、凡ソ既成或ハ未成ノ各種公司民事或ハ商務ニ論ナク、本行ハ之レヲ協助シ其組織ニ從事シ株式ヲ募集シ株券債券ヲ代售シ營業成績ヲ稽察スル等、又各種既成公司ニ投資スルコト

四、商品倉庫粮米貨物家具等ノ倉庫ノ組織

五、動産不動産ノ賣買互換及其契約

六、凡テノ工事工藝商業農務林鑛等ニ關スル産業ノ權利及工作等本行讓受ケテ經理ニ任ズ、而シテ其租主讓主ハ隨意之レヲ贖還スルコトヲ得

七、國內國外ニ論ナク本行ハ中國政府ノ委託ヲ受ケ中國ニ代テ國債金庫債票及其他行政機關發行ノ債票ヲ償還シ、利子ノ支拂ヲ取扱ヒ、又ハ政府一切ノ款項ヲ轉運ス

八、借款取扱

九、公司團體ニ代テ何種ノ進款ニ論ナク收取ス

十、各種公私立公司ノ進款ヲ收存ス

十一、各種公立私立ノ公司需用アルノ時ハ本行ハ其進項ノ多少ヲ按ジテ之レヲ援助スベシ

十二、各種爲替事業ノ經理、各種債權利子配當ノ代收、資本或ハ利金ノ回收、各種公債及工商債券ノ賣買

十三、當座預金ヲ本行ニ有スルモノニ對シテハ通帳ヲ交付ス

十四、債票契約書金銀錢幣及珍寶物件ノ保管預リ

十五、公債、株券、債券發行及他種借款ノ取扱、利子ノ有無、中國政府ノ保證ノ有無ニ關セズ

十六、官公署各種工事ノ受負、道路鐵道河川鑛山等ニ關スル權利ハ直接或ハ間接ニ論ナク他人又ハ他會社ニ轉受轉售シテ承辦セシムルヲ得

十七、自ラ又ハ他人ノ爲ニ地金銀貴重品等ヲ賣買ス

十八、家屋土地ヲ抵當トスル擔保貸付、一切皆中國ノ慣習及法律ノ規定ニヨリテ行フ

十九、貨物、貴重品、在庫品ヲ抵當トスル貸付、建築師、地主、船主等確實ノ擔保アルモノニハ貸付ヲナス

二十、之レニ要スルニ銀行事業ニ屬スル貸付預金擔保貸付等本行悉ク之レヲ取扱ヒ中國ヲシテ新業日ニ興リ財源日ニ潤カナラシメンコトヲ期ス

第四條　總行ハ巴里ニ設ク

總行ノ地點ハ董事團ノ議決ヲ經レバ本市内ノ他處ニ移シ得ベク、若シ特別株主會議ノ議決ヲ經レバ佛國ノ他地或ハ他國ニ移スヲ得ベシ、本行營業局ハ北京ニ設ケ董事團付託ノ職權ニ按照シテ該局ハ本行ガ中國ニ於テ經理スル處ノ各種事業ヲ總握シ内ニ理事員三人乃至六人ヲ置キ其三分ノ一ハ支那人トシテ中國政府ヨリ指定シ其三分ノ二ハ歐洲人トシテ執行部ヨリ擧定ス

第五條　本行營業ノ期限ハ九十年トシ成立ノ日ヨリ起算ス、其延期或ハ解散ノコトハ別ニ議訂ス

第二章　資本金股票交欵

第六條　本行ノ資本金ヲ四千五百萬法トス

此項ノ資本金ハ九萬株ニ分チ毎株五百法トシ之レヲ購買スルモノハ必ズ現金ヲ納入スベシ

此項株式ハ分テ兩種トナス

甲、創辦株　總テ三千株アリ、一號ヨリ三千號ニ至ル迄番號ヲ附シ其數永ク増減ナク、其利益永ク變更ナシ、卽チ將來資本増加アルモ亦應ニ此例ヲ遵守スベシ

乙、通常株ハ計八萬七千株アリ、一號ヨリ八萬七千號ニ至ル迄皆編號ス、以上兩種株式ノ權利ノ別次ノ如シ

一、第五十一條及第五十四條ニ掲クル株主會ヲ除クノ外株主會毎ニ創辦株ハ一株毎ニ六票、通常株ハ十株毎ニ一票ノ權利アリ

二、利益分配ニ關シテハ兩者ノ權利ハ第四十九條ヲ標準トシ清理ノ事ニ關シテハ第五十一條ノ定ニヨル

第七條　本行資本ハ董事團ノ決議ヲ經テ、或ハ一回又ハ數回ニ増加シテ、一億法ニ達セシムルコトヲ得ベシ、其増募ノ株式ノ買價利率其他ノ辦法ハ皆該部ニ於テ決定シ、株主會ノ承認ヲ經ベシ、株主會ハ只其株式引受及拂込ノ虛實ヲ檢査スベシ、若シ増資ノ事現金ヲ以テ通常株式ヲ認買スルノ法アレバ之レヲ行フ、下記ノ此節各事及中國政府ノ持株ノ特權ニ關スル事ヲ除クノ外ハ、其前ノ發企株株主ト通常株株主ト皆新募集株式全部ヲ認買スルノ優先權アリ、但シコレヲ平分スベシ

増資ノ時董事團或ハ株主會ハ評議ノ上新株式ノ一少部分ヲ收買スルコトヲ得、董事團ハ法ヲ設ケテ買出シ本行ヲシテ多ク利益ヲ得セシムベシ

此項撥交ノ株ハ該部其最便宜ノ道ヲ按シテ其發行ノ規約期限等ヲ定ムベシ條例第四十四條ニヨレバ株主會亦定議シテ基本金ヲ減少シ

ヲ以テ本行通常株式ヲ買還シ、或ハ舊株式ヲ以テ新株式ト兌換スルコトヲ得ベシ、其額ヲ相當トスルヤ、又減少スルヤ否ヤハ須ク其株金相同ジキヤ否ヤ、或ハ兌換法ヲ實行シ舊株ヲ收買スルヤヲ見テ決スベシ

第八條　凡ソ株金未ダ拂込ヲ終ラサルノ先ハ皆記名株券タルベシ、拂込濟ノ後尚記名株券トナスト否トハ株式所有者ノ便宜ニヨル、一號ヨリ一千號ニ至ル發企株及一號ヨリ二萬九千號ニ至ル通常株ハ永ク記名式株券トナスベシ

第九條　凡ソ株主ハ須ク毎株其額面額ヲ拂込ムベク此外ハ損失アリト雖モ分擔セズ

第十條　以上分ツ處ノ兩種株式ハ其ノ受クベキ利益ヲ除クノ外、本行獲ル所ノ權利ハ各株皆比例分渡ノ權アリ

第十一條　各株ノ權利及義務ハ株式ニ從テ轉移シ其何人ニ屬スルヲ問ハズ、凡テ本行株式ヲ所有スルモノハ本行章程ニ基キ株主會ニ赴キ各事ヲ決議スルノ權アリ

第十二條　記名株式ノ所有人ヲ變更スル時ハ商法第三十六條ニ照シテ行ヒ、舊所有人及新所有人或ハ其代表者ヨリ本行ニ屆出ヅベク本行之レニヨリ變更ノ手續ヲナスベシ

若シ通常株式ノ所有人ヲ變更スル時ハ其收受ヲ終レバ則チ所有人變更シタルモノトス、記名株式ヲ通常株式トナシ、或ハ通常株式ヲ記名株式トシ、又ハ他株ノ轉賣ヲナス時ハ其所費ノ項ハ皆株主ニ於テ負擔ス

凡ソ株式ハ其株金全額ヲ拂込ミタル後轉賣スルコトヲ得ベク、株式ニ對スル利益ハ記名株式及通常株式ヲ所持スルモノニ拂渡スベシ

第十三條　凡テ株式ハ皆不可分ノ株式トス、本行ハ只一株ニツキ一人ノ株主ヲ認ムルノミニシテ、其ノ共同シテ一株ヲ共買セルモノハ一人ヲ以テ株主トナスベシ、本行モシ斯カル株式ヲ記名式トナス時ハ其代表者ノ姓名ヲ記スベク、其他ノモノハ何等ノ權限ナキモノトス

第十四條　株金拂込ノ法下ノ引受

株式引受ノ時通常株タルト發企株タルトヲ問ハズ、毎株四分ノ一即チ百二十五法ヲ拂込ムベク、以後拂込ノ期ハ或ハ一回又ハ數回トシ部ニテ決定後一月以內ニ本店所在地ノ新聞紙上ニ廣告シ、同時ニ拂込通知ヲ發スベク、執行部亦別ニ章程ヲ定メ各株主ヲシテ期日前ニ於テ拂込マシムベシ

十五條　若シ期日ヲ經過シテ後株金ヲ拂込ムモノアル時ハ、其期限ノ日ヨリ年五分ノ延滯利子ヲ徴スベシ

第十六條　若シ期ヲ逾ヘテ株金ヲ拂込マザルモノアル時ハ、其株式番號ヲ本店所在地ノ新聞紙上ニ廣告シ、其十五日後ニ於テ本行該株式ヲ轉賣スルノ權アリ、若シ損失スル時ハ株主ノ負擔トス、其轉賣ハ或ハ巴里株式取引所ヲ經テ行ヒ、或ハ註冊局ニ於テ行フ、是等株式ノ轉賣ハ或ハ一口ニナシ或ハ又分售シ、或ハ一日又ハ數日ニ渉リテナス等隨意タルベシ

凡テ章程ニ照シテ株金ヲ納入セサル株式ハ其交易ノ能力ヲ失フ、本條所定ノ規則ハ本行施行ノ常法ト　礙ナシ

第十七條　株式轉售ニヨリ得タル金員ハ手數料ヲ除キ本行ノ所得ニ歸シ、以テ株主未拂込株金ニ充ツベク、尚不足アル時ハ株主ヨリ追徴スベク餘アレバ株主ニ還付スベシ

第十八條　記名株式ヲ遺失シタル時ハ、本行ハ新株式ヲ發行スベシ、但シ其新株式發行ハ新聞紙上ニ株式遺失ヲ廣告シタル三ケ月以後タルベシ、株式遺失廣告文ハ執行部擬定ノモノニヨルベシ

第三章　本行ノ管理

第十九條　本行ハ董事團ノ管理ヲ受クベク董事ハ七人以上二十一人以下トス

本行支那ニ於ケル經營事業ハ營業局一總理ニ總管セシム、該局ノ組織ハ第四條内ニ定メタリ

營業局總理ハ董事團ニ於テ選擧スベク、而シテ總理亦董事團ノ職員タルベシ

第二十條　董事團ノ董事ハ株主中ヨリ選擧ス

此外中國政府所派ノ一代表アリ、董事團合議ノ時ハ中國代表ハ諮詢權アリ、株主會ニテ董事ニ選擧セル時ハ決議權アリ、該代表駐部ノ年限ハ中國政府隨意決定スベク、其享受スル權利ハ其他ノ各董事ト同一ナルベシ

第二十一條　凡ソ董事就任ノ始及在職中ハ必ズ五十株以上ノ株主タルヲ要ス、其株主ハ何種タルヲ論ゼズ、其株式ハ株券上ニ株主ノ姓名ヲ記入シ、印紙ヲ貼リ以テ其讓渡スル能ハサルヲ示シ本行ニ供託シ置クベシ

第二十二條　董事ノ任期ハ六年トス、但シ其初回改選ハ此例ニアラズ、每一年一人二人又ハ三人四人ヲ改選スベク其數ノ增減ハ職員ノ多寡ト比例シテ定メ六年内ニ改選ヲ平均シテ得セシメンコトヲ期ス

初メテ改選ヲ行フ時ハ應ニ得票ノ多寡ニヨリ去留ヲ決ス、董事若シ死亡辭職シ又ハ其他ノ原因ニヨリ欠員アル時ハ他ノ董事ニ於テ暫ク員ヲ覓メテ署理セシメ、或ハ本章程第十九條ニ按照シテ新職員ヲ添加シ最近ノ株主會ニ於テ認可ヲ經ベシ

若シ董事數七名以下トナリタル時ハ在任ノ董事ハ速ニ法ヲ設ケ之レヲ補ヒ其數ニ達セシムベシ

若シ董事一人ノミトナレル時ハ株主會ヲ直ニ召集シ新董事團ヲ選擧スベシ

他職員ノ後ヲツギテ董事ニ就任セルモノ、任期ハ前任者ノ任期ヲ以テ其任期トス

第二十三條　毎年董事團ハ職員全體中ヨリ一主任、一副主任、或ハ二副主任ヲ選擧スベク、之レニ選バレタルモノハ連任スルヲ得、書記一人ハ職員中ヨリ又ハ夫レ以外ヨリ選擧スル共ニ可ナリ、主任、副主任欠席ノ時ハ董事毎次會議ニ於テ一職員ヲ指定シテ主任ノ職務ヲ行ハシムベシ

第二十四條　董事會ハ部務ヲ以テ職トナシ部名ヲ藉リテ個人ノ私事ヲ經營スルヲ得ズ

第二十五條　董事ノ定ムル特別報酬費ハ株主會ニ於テ其多寡ヲ決定シ董事團ヨリ各員ニ分配ス、董事ノ特別報酬費項下ニ於テハ部中一切ノ費用ヲ控除スベク若シ新定規則ナキ時ハ此制ヲ永ク遵守スベシ

此外董事ハ其行ノ純利分配ニ預ルベク、其多寡ハ第四十九條ニ定ム

第二十六條　董事團ノ集會ハ或ハ主任ニ於テ召集シ、或ハ三職員ニ於テ召集ス、其地點ハ多數ノ集會ニ便益ナル地、或ハ本店、或ハ召集書內指定ノ地トシ、召集規則ハ董事團酌定ス

凡ソ執行員出席スル能ハサル時ハ他職員ヲシテ代表セシムベシ、但シ一職員ハ二人以上ヲ代表スルコトヲ得ズ

各項職權ノ範圍及其期限ハ董事團ニ於テ細則ヲ定ムベク、該細則ハ部中隨時修改ス

每回ノ集會ハ必ズ全職員ノ三分ノ一ト欠席者ノ半數ノ代表者ノ出席ヲ俟チテ開議スルヲ得、其議定事項初メテ有効ナルベシ、爭議ノ事ハ多數ヲ以テ決シ一董事他員ノ代表タル時ハ二票ノ權アリ、若シ可否同數ノ時ハ主任一票ヲ加ヘテ決ス

第二十七條　董事團ハ會議簿ヲ供ヘ每回ノ議事ヲ記入シ臨時會ハ主任及二董事之レニ署名スベシ

第二十八條　董事團ハ無制限ノ權能アリ、其行名義ヲ用ヒテ本行ノ主旨トスル事業ヲ經營スルコトヲ得

一、一切營業ニ關スルコトヲ計畫ス
二、本行ノ債務ヲ收取シ一切現金ヲ兌付シ保證又ハ別種押欵ニハ收據ヲ發給シテ其事ヲ清理ス
三、動產不動產ノ契據證書株式擔保物及其他ノ證書ハ本行ニ取得セラルヽモノハ其債務ノ完濟ト否トヲ問ハズ業事[illegible]發還[illegible]權アリ
四、辨理シ難キコトアリ或ハ請願ヲナシ或ハ辯護ヲナス場合ニハ該園ヨリ裁判審理ヲ要求スベシ
五、本行ノ利益ハ該園法ヲ設ケテ之レヲ圖ルベシ
六、通常株主會特別株主會其他本行ノ事業ニ關係スル集會ニハ本行ヲ代表シテ出席スベシ
七、該園ニ反對スルモノアリ、或ハ該園ノ行爲ヨリ訴訟事件ヲ起セル時ハ本行ヲ代表シテ出廷スベシ
八、不動產ヲ值買又ハ變賣シ、或ハ本行所有不動產ヲ出賣スル時ハ該園ヨリ命ジテ之レヲナスベシ
九、爲替取引、大小工事其他各種ノ契約ハ該園ノ許可ヲ得テナスベシ
十、各種開採權ヲ請負ヒ又ハ讓與シ、各種契約書ヲ收受スル等該園ニ於テ辦理スベシ
十一、各種動產不動產ノ財權ノ賣買
十二、工事上ノ調查報告測量等
十三、各種借款、長期短期ノ債票發行等ハ該園ニ於テ利子手數料其他ヲ決定スベシ
十四、本行不動產ヲ抵當ニ差入ルヽコト及各種抵當借金ノ經理
十五、各種保險ノ代理
十六、各種有價證券ノ賣買貸借
十七、代人擔保
十八、長期短期借款、墊欵ノ商訂
十九、貸出金ノ償還方注ノ決定
二十、各種期限ノ延長

二十一、事件發生ノ時ハ法定住處ヲ指示ス
二十二、本行所屬ノ債權各種有價證券ハ該部運用ノ權アリ
二十三、佛國或ハ外國ノ各種公司ト共ニ資本團ヲ組成スルコト
二十四、各種借欵公債私債ノ發行引受
二十五、各項債權ヲ他ニ讓渡スコト
二十六、行員ノ俸給手當ノ決定各員退職規定ノ決定
二十七、各分行ノ設置廢止決定
二十八、本行諮詢員ノ設置又ハ取消
二十九、每年團中公費ノ決定
三十、行中餘欵ノ使用及運用方法
三十一、本行所發各種證票ノ形式ノ決定
三十二、本行所有又ハ本行ニ存貯スル有價證券ヲ隨時法ヲ設ケテ其價値ヲ維持スルコト
三十三、株主會召集
三十四、本行ヲ代表シ其他ノ法人及各行政機關ト交涉ス
三十五、株主會ニ決算及營業狀況等ヲ報告ス
三十六、利益分配等ノ提議

以上ハ執行部ニ付託セラル、職權ニシテ之レヲ制限スベカラズ

第二十九條　董事團ガ定メテ一種ノ職權ヲ一董事或ハ數董事ニ委託スルコトヲ得、委託ヲ受ケタル董事及總理事ノ報酬ハ該部ニ於テ決定ス、其受託事項ニツキ擔保金ヲ要スル時ハ其數ヲ定メ現金、本行株券、其　ノ有價證券ヲ以テ徵スベシ

第三十條　董事團ニ於テ作製ヲ認許セル債券、株式募集書、負券書、仲證券等ニハ董事二人或ハ代表董事一人或ハ主任ト營業局員一人

ト署名スベシ、但其董事團ニ特ニ委託セラレタルモノハ此限ニアラズ

第四章　査賬員

第三十一條　毎年株主會ニ於テ査賬員一人或ハ數人ヲ選擧ス、但シ被選擧人ハ本行同人タルト否トヲ問ハズ、其職務ハ一八六七年七月二十四日ノ査賬員法内ニ定ムル處ニ同ジ

若シ査賬員ノ一人又ハ數人事故ニヨリ其任ヲ盡ス能ハザル時ハ其職務ハ他ノ數査賬員又ハ一査賬員ニ於テ之レヲ盡ス

第三十二條　各査賬員ノ報酬ハ株主會ニ於テ決定シ、新規定ナケレバ之レヲ變改スルヲ得ズ

第五章　株主會

第三十三條　合法組織ノ株主會ハ株主全體ヲ代表ス、其組織ノ法ハ凡テ三ケ月前ヨリ通常株十株發企株一株以上ヲ所有スルモノヲ以テ之レヲ組成ス

株主ニシテ十株以下ノ通常株式ヲ有スルモノハ、他ノ株主ト合シ、十株又ハ十株以上トナシ、其中ヨリ一人ヲ擧ゲ又ハ他ノ出席ノ權アルモノニ委託シテ之レガ代表トナスコトヲ得

記名株式ハ其登記ノ日ヨリ起リ效力ヲ發スルモノトシ、無記名株式ハ株券ヲ董事團指定或ハ認許ノ一分行ニ供託セル日ヨリ起算ス董事團ハ又三月ノ時期ヲ短縮シ或ハ株券供託ノ方法ヲ酌改スルコトヲ得ベシ、株券ヲ供託セルモノハ供託證ヲ受ケ以テ株主會入場ノ證トナス

株主ノ名簿ハ董事團ニ於テ調製シ開會日ノ會場ニ備付ス

第三十四條　一發企株ヲ有スルモノ或ハ十株以上ノ通常株ヲ有スルモノハ章程ニ照シ之レヲ供託セル後一代表ヲ派シテ會ニ出席セシムルヲ得、此代表ハ必ズ出席ノ權アル株主タルベシ

第三十五條　株主會ハ毎年九月三十日以前ニ於テ本店内又ハ執行部指定ノ地ニ開ク、又執行部必要ト認メタル時ハ隨時特別株主會ヲ開クヲ得

第三十六條　凡ソ通常、特別株主會ノ召集書ハ會期二十日前ニ本店所在地ノ新聞ニ公告スヘク、特別株主會ノ召集書ニハ召集ノ理由ヲ

記載スベシ
第三十七條　株主ハ會十五日前ニ各株主ハ本行ニ至リ本行財産目錄、株主名簿、本行財政狀態報告ヲ査看スルヲ得
第三十八條　株主總會ハ出席株主及代表者ノ持株ヲ合シ本行資本ノ四分ノ一以上ニ達セル時ハ開議スルヲ得、若シ定日ニ來會株主定數ニ達セザル時ハ、開會期限內ニ於テ更ニ株主會ヲ召集スルヲ要ス、第二次會ニハ出席株主數ノ如何ニ關セズ有効ニ決議ヲナスコトヲ得
第三十九條　議事日程ハ董事團ニ於テ決定スベク、日程中ニハ董事團提出案、會議十五日前ニ株主ヨリ提出セル案ノ載スベシ、但シ此末項ノ議件ハ該株主記名シ且本行株式六分ノ一以上ニ達スル株主ノ贊成ヲ要ス、日程外ノ事件ハ議スルヲ得ズ
第四十條　株主會議長ハ董事中ノ主任之レニ任ズ、主任不在ノ時ハ副主任之レニ任ジ、若シ又副主任モアラザル時ハ董事團一部員ヲ指定シテ之レニ充ツ、株主會ニアリテハ最モ多クノ株式ヲ代表スル株主二人ヲ選ビ檢査員トナス、書記ハ會場ニ於テ選任ス、株主ニアラザルモ可ナリ
第四十一條　決議ハ多數ニヨリ決ス、通常株株主一人ノ票數ハ十株ヲ一票トシテ計算ス
發企株株主一人ノ票數ハ其一株ヲ六票ト計算ス
第四十二條　株主會議ノ決定ニハ全株主服從ノ義務アリ
第四十三條　通常株主會ニハ董事團ヨリ本行營業報告、資産負債表等一切賬目ヲ提出シ之レヲ核議ス（以下略之）

本行開業後ノ成績ハ良好ニシテ一九一五年度ニハ純益二、〇八一、二八三法ヲ得、株主ニ對シ年八分ノ配當ヲナセリ、尙支那側ニアリテハ王克敏氏最初ヨリ此計畫ニ參加シ、重役ノ一人トシテ之ニ加ハレリ。

本行ハ一九一三年十月二十八日袁總統ノ批准ヲ經タル一九一四年中華民國政府五分利實業金貨公債

一億五千萬法ノ發行ヲ引受ケ、巴里ニ於テ賣出セルガ、其用途ハ浦口築港費、北京市街改造費ニ充ツルニアリ。

尙又一九一四年一月二十一日支那政府トノ間ニ欽渝鐵道借欵六億法ノ引受ノ契約ヲナシ、未ダ工事ニ着手セザル爲公債ハ全部未發行ナリ。

中華滙業銀行

本行ハ一九一八年一月十九日北京ニ於テ創立總會ヲ開キ、同年二月一日ヨリ開業シタル日支合辦ノ銀行ニシテ、本店ヲ北京ニ置キ、支店ヲ上海、東京、漢口等ニ設置シ、支那法律ニ準據シテ支那農商部ニ登記ス、其資本金ハ一千萬圓トシ、之レヲ一株百圓ノ株式十萬株ニ分チテ、日支兩國人ニ於テ之レヲ均分シテ引受ケ、其總裁ハ支那人ヲ擧ゲ、專務理事ニ日本人ヲ任ズルノ制ナリ、今同行章程ヲ示セバ次ノ如シ。

中華滙業銀行章程

第一條　本銀行ハ中華滙業銀行ト稱ス

第二條　本銀行ハ株式組織ニシテ中日兩國人ノ合辦トス

第三條　本銀行ハ本店ヲ北京ニ置ク營業ノ都合ニヨリ重役會ノ決議ヲ經テ中日兩國樞要地（中國ニ於テハ商埠地ニ限ル）ニ支店出張所又ハ代理店ヲ設置ス

第四條　本銀行ノ存立期間ハ設立ノ日ヨリ滿卅ヶ年トス但株主總會ノ決議ニ依リ期間ヲ延長スル事ヲ得

第五條　本銀行ノ資本金ハ金一千萬圓トシ之ヲ株式十萬株ニ分チ一株ノ金額ヲ金一百圓トス前項ノ資本金全額拂込濟ノ上ハ株主總會ノ決議ニ依リ資本金ヲ増加スル事ヲ得

第六條　本銀行ノ株式ハ中日兩國人ニ於テ均分ニ引受クルモノトス

第七條　本銀行ノ株式ハ中日兩國人ノ外之ヲ所有スル事ヲ得ス本銀行株式ノ賣買讓渡ハ重役會ノ承認ヲ經ル事ヲ要ス

第十七條　本銀行ハ總理一人專務理事一人理事四人以上監事四人以上ヲ置キ之ヲ重役ト稱ス總理及專務理事ハ其任期ヲ五個年トシテ二百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任ス總理ハ中華民國人トシ專務理事ハ日本人トス理事ノ任期ヲ四箇年トシ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ監事ハ其任期ヲ三箇年トシ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ何レモ株主總會ニ於テ之ヲ選任ス理[illegible]ハ中日兩國人ニ均分シ監事ノ員數ハ中國人ヲ増ス事ヲ得重役ハ滿期後再選ヲ妨ゲズ

第廿五條　本銀行ノ營ム業務左ノ如シ

(一)貸付及割引

(二)預金

(三)爲替ニ關スル一切ノ業務

(四)國債地方債及社債ノ應募引受

(五)各種經濟借欵ノ取扱

(六)債務ノ保證

第廿六條　本銀行ハ營業ノ都合ニ依リ左ノ業務ヲ爲ス事ヲ得

(一)有價證券地金銀ノ賣買及兩替

(二)金銀貨貴金屬諸證券ノ保護預

(三)官公衙及諸會社ノ金錢取扱

（四）諸會社銀行ノ代理業務

第廿七條　本銀行ハ確實ナル會社又ハ商店ノ委託ニ依　商品販賣ノ代辦ヲ爲ス事アルベシ

第卅二條　本銀行ハ銀行兌換券ヲ發行スル事ヲ得

第卅三條　銀行兌換券ニ關スル細則ハ重役會ノ決議ニ依リ別ニ之ヲ定ム

附則　中華民國ノ慣例ニ依リ創立後三箇年間ヲ限リ年六分ノ官利ヲ仕拂フ可シ

尙同行ノ日本側株主及其ノ引受株數ヲ次ニ揭グ。

六千八百株宛　日本興業銀行、臺灣銀行、朝鮮銀行

二千五百株宛　伊藤忠合名會社、日本綿花株式會社、江商株式會社

一千二百株　柿内常次郎

一千株宛　東洋製紙株式會社、大倉喜八郎、第一銀行、第百銀行、久原鑛業株式會社、安田善三郎、喜多又藏、三井銀行
三菱合資會社銀行部、十五銀行

五百株宛　岩井本店、東亞興業株式會社、東洋紡績會社、大阪商船會社、尾崎敬義、近江銀行、加島銀行、高田愼藏、浪速銀行、倉知鐵吉、山口銀行、八木與三郎、藤田銀行、藤山雷太、安部市太郎、淺野總一郎、卅四銀行、正隆銀行、百三十銀行、住友銀行

三百株宛　井上準之助、原田二郎、東京古河銀行

本行創立總會ニ於テハ陸宗輿氏ヲ總理ニ、柿内常次郎氏ヲ專務理事ニ選任シ、々事業ヲ進捗シタルガ、今日迄ニ支那政府トノ間ニ有線電信借欵二千萬圓（一九一八年四月三十日）、黑吉兩省ノ金鑛並森林借欵三千萬圓（一九一八年八月二日）ノ借欵契約ノ成立ヲ見タリ。

北洋保商銀行

北洋保商銀行（Chihli Commercial Gauranty Bank）ハ一九〇九年第一革命ニ際シ天津市場救濟ノ爲日本ノ大倉組、獨逸ノ瑞記洋行及支那政府トノ合辦ヲ以テ組織セルモノニシテ、資本總額四百萬兩ニシテ外人ト支那側ト折半出資ス、但シ支那側ノ出資中四十萬兩ハ財産ヲ以テ振替出資セルモノニ係ル、其營業上ノ實權等ハ殆ト全ク獨逸人ノ手ニ歸セリ。

正隆銀行

正隆銀行ハ明治三十九年二月日支合資資本額銀二十四萬圓（全額拂込）ヲ以テ設立セラレ、本店ヲ營口ニ置キ主トシテ滿洲各地ニ發展セリ、後安田銀行ノ援助ニヨリ資本金ヲ三百萬圓ニ增資シ、內百五十萬圓ノ拂込濟ニテ本店ヲ大連ニ移シ、營業次第ニ隆盛ニ向ヘリ、目下旅順、營口、撫順、奉天、開原、長春ニ支店ヲ設置ス。

此外日支合辦銀行ニハ龍口銀行（山東龍口資本金十萬圓、銀十萬元各半額拂込）遼東銀行（滿洲普蘭店資本金六萬圓、一萬五千圓拂込）等アレドモ多クハ云フニ足ラズ。

米支銀行

米支合辦銀行ノ計畫セラレテ以來茲ニ年アリ、初メ明治四十三年ノ頃米國實業團ガ支那ニ來リ、上海ヨリ長江ヲ溯リ漢口ニ出デ、京漢鐵道ニ乘ジテ北京ニ赴キ、天津芝罘ノ各商埠ヲ觀、實業ノ調査ヲ爲シ、各地官民ノ歡待ヲ受ケテ上海ニ歸著スルヤ、茲處ニ駐上海米國總領事ノ盡力ニヨリテ米淸商團會ナルモノヲ組織シ、以テ合同事業ノ計畫ニ資セリ、米淸銀行ノ設立計畫ハ實ニ此商團會ニ基因セリ、今次ニ同年十一月十一日上海滙中旅館ニ開カレタル會議ノ模樣ヲ記サンニ、參會セルモノハ張弼士、廣州商會ヨリ鄭陶齋、天津商會ヨリ王竹林、賈學芳、劉樾臣、劉竹君、漢口商會ヨリ盧洪昶、張雪園、南京商會ヨリ丁价侯、鎭江商會ヨリ于立三、吳澤民、魏小圃、上海商會ヨリ周金箴、邵琴濤、沈仲禮、王一亭、沈縵雲、楊信之、錢業董事朱五樓、林蓮蓀、等ノ有力ナル人士而シテ米國側ヨリハマルトン氏外數名ナリ。

先ヅ米商タレイ君ヨリ今回弊國商賈ガ遠ク貴國ニ來リ商務ヲ考査セルハ、其ノ目的ハ二ニスギズ、一ハ卽チ兩國ノ感情ヲ融和シ、一ハ兩國ノ商業ヲ發達セシメントスルニアリ、現下米商ハ到處ニ於テ貴國官商ノ熱誠ナル優待ニ預リ、兩者感情ハ之ヨリ益々融和シタリ、而シテ兩國商業ノ擴張ヲ計ランニハ此ニ數個議案アリ、今幸ニ兩國ノ諸公一堂ニ會シタレバ議長ヲ公擧シテ公決セラレンコトヲ希フ

ト云フ演説ヲナシ壇ヲ下ルヤ、淸商ハ張弼士ヲシテ議長ニ公擧シタリ、其議案ナルモノハ次ノ如シ

（一）　米淸聯合シテ一銀行ヲ設立スルコト

本銀行ノ性質ハ商業銀行トシ、兼テ興業銀行ノ性質ヲ有スルモノトス、資本金ハ暫ク墨銀一千萬元トシ、米淸兩國ニテ其半額ヲ投下スルモノトス、兩國ノ商會擔任シテ資本ヲ籌集シ銀行ヲ設立シ、其本店ヲ相當ノ商港ニ設ク、現行ノ米國銀行法ニ參照シ各董事、經理ヲ公擧シ、北京ニ於テ之ヲ登記シ、本店ハ淸國ノ商務繁盛ノ處ニ設ケ、並ニ米淸兩國及ビ南洋ノ各地ニ分行ヲ置キ、其餘ノ支店ハ隨時情形ヲ酌量シテ增設スルモノトス

（二）　兩國商會ハ相互ニ商品陳列所ヲ設立スルコト

米國商會ハ淸國ノ商品列陳所ヲ設立シ、淸國ノ產出スル總テノ物產、工藝商品ノ米國ニ賣行良好ナルモノヲ撰擇シ、之ヲ米國ニ運送陳列シ、並ニ言語ニ熟達スル人ヲ派シテ米國ニ駐劄シ此事務ヲ取扱ハシメ、米國商會ハ米商ガ價値ノ如何、產出ノ多寡、荷造方法等ヲ詢問スルモノアレバ、該特派員ヨリ一々之ニ應對セシメ、又折々其狀況ヲ本國ニ報告スルモノトス、淸國モ亦米國商品陳列所ヲ設立スルコト以上ノ如クスルコト

（三）　彼我共ニ商務調查員ヲ派遣スルコト

米國商會ハ商務調查員一名ヲ淸國ニ派遣シ、上海ヲ以テ常時駐在ノ處トナシ、商品見本ヲ持來リ各

埠ニ赴キテ商品ヲ調査シ市價ヲ探聽シ取引ヲ招攬スルモノトシ、清國商會ヨリ紹介狀ヲ發シテ特派員ノ行動ヲ幇助ス、而シテ清國商會ヨリモ特派員ヲ米國ニ派遣シ、商務ヲ調査スルコト以上米國特派員ノ如クスルコト

（四）中美輪船公司ヲ設立スルコト

清商ニハ從來米國ニ航路ヲ有スル汽船公司ナシ、直ニ株ヲ募集シテ組織スレバ、將來必ズ有望ナルモノアリ、現ニタレイ君ノ如キハ所有船七隻ヲ以テ米清間ヲ往來シ、成績頗ル良好ナリ、現時商業漸ク振興シ其繁ヲ補フニ足ラザルナリ、故ニ目下英國ニアリテ八千五百噸ノ汽船一隻ヲ製造シツヽアルガ、其價格五十萬元ニシテ不日竣工スベシ、願クハ此汽船ヲ清商ニ讓與シテ資本トシ清國旗ヲ掛掲シ北京ニ於テ登記セラレタシト、是レ氏ガ個人ニ清國ノ航海業ヲ奬勵スルモノニシテ資本少額ニシテ實行シ得ベク、而カモ將來必ズ成功アリ、漸次擴張セバ清國ノ龍旗ハ次第ニ歐米ノ海洋ニ飄揚スルニ至ルヤ必セリト

茲ニ於テ清商ハ中美銀行設立ニ關シ、討議ノ結果衆皆之ニ賛成シ、清商ヨリ假章程ヲ訂定シ、之ヲ米商ニ送リ核定ノ後之ガ株式ヲ募集シ開辦スベシト云フニ決シ、之ノ申合ニ基キ清商ハ其章程ヲモ規定シタリシガ、然カモ本計畫ハ當時實行スルノ運トナラズ、其後清朝倒レテ民國ニ入リテモ、米支間ノ關係ヲ益親密ナラシメントノ各種ノ計畫アリ、本銀行ノ計畫ノ如キ屢其議ニ上リ民國四年七月七日紐

育ニ於ケル支那商會合ノ席上支那ノ米國視察團長張振勳重ネテ本銀行ノ計畫ヲ提唱シ、嘗テ前清ノ當時起案セラレタル該行章程ヲ多少訂正ノ上提示スルヤ、米支人ノ贊成多ク、殊ニ曩ニ奉天總領事タリ後四國借款團組織ノ主謀者タリシモルガン商會ノ故ストレート氏ハ大ニ之レヲ贊シ、直ニ其實行計畫ヲ進ムルコト、セリ、其章程草案ナルモノハ次ノ如シ。

米支銀行章程草案

第一條　本銀行ハ米支兩國商人ノ出資ニヨリ組織シ、農商部ニ登記シ總テノ組織條規及一切ノ細則ハ均シク外國銀行條例ニ依照シテ辦理ス

第二條　本銀行ハ中美合資有限銀行ト稱ス

第三條　本銀行ハ有限公司トス

第四條　本銀行ハ本店ヲ上海ニ、支店ヲ米國桑港、支那ノ各通商港ニ設置ス、支店設立ノコトハ將來董事會ノ議決ニヨリテ行フ

第五條　本銀行資本ハ一千萬元(上海通用銀元)トシ、十萬株ニ分チ一株ノ金額ヲ一百元トス、若シ支那商人ニ於テ五百萬元以上ノ株券ヲ購得スル時ハ米國商人同額ノ株券ヲ購得スルコトヲ得ルコト、シ、兩國株主ノ權利ヲ平等ナラシム

第六條　本銀行株券ハ先ヅ米支兩國發企人ニ於テ各五萬株ヲ均分シ、其殘額ヲ米支兩國人民ヲシテ購買セシム

第七條　支那內地ニ於テ株式ヲ購入セルモノ株金ヲ納入スルニハ上海通用銀元、—墨吉哥銀元ヲ用ヒ滬平銀七歩二分トナスヲ許ス、又廣東、福建等ニ於テ株式ヲ購買セルモノ株金ヲ納入スルニハ香港銀ヲ使用スルコトヲ許ス、將來配當ノ支拂ニハ又本條指定ノ銀元ヲ用ユベシ

第八條　株式募集人ハ株金ヲ受取ルヲ得ズ、只三聯憑單ヲ用ヒ其一單ヲ總事務所ニ存貯シ、一單ヲ招股處ニ存シ、一單ヲ購股者ニ交付ス、購股者ハ此憑單ヲ持シテ株金ヲ指定セル銀行ニ納入シテ領收證ヲ受取リ、一百元ヲ全納セル後兩度ノ領收證ヲ以テ正式株式並ニ

配當票ヲ領取シ以テ毎年配當受領ノ用ニ供シ、本章程ニ株式募集人ガ株金ヲ領收スル能ハザルヲ規定セルハ全ク購股者ノ利益ヲ保全センガ爲ニシテ他故アルニアラズ

第九條　株金ハ二回ニ分チ第一回ニ毎株十元ヲ納メテ證據金トシ、第二回ニ毎株九十元ヲ納ム

第十條　毎株第一回ノ十元ハ株式引受ノ時納入シ、第二回ノ納入金ハ株券全部引受濟ノ上新聞紙上ニ納入期ヲ廣告ス

第十一條　本銀行ハ株式全部ニ引受濟ノ後農商部ニ登記シテ正式成立ス

第十二條　株式募集處ハ上海、天津、漢口、廣東等ノ商會內及外國各大都市ニ設ケ、株金納入處ハ上記各處ノ中外ノ信用スベキ銀行ニ託ス、若シ商號　シテ株式募集事務ヲ擔任セシコトヲ望ムモノアル時ハ、該處商會ノ保證スルモノナル時之レヲ許ス、三聯繳單簿ハ商會ヨリ購備スベク、米國各處ノ株式募集事宜ハ在米發企人ニ於テ主持シ、在留支那人ノ爲ニハ株式募集處ヲ特設シ、或ハ居留ノ確實ナル商人ヲシテ之レヲ擔任セシムルヲ得

第十三條　上海商會ハ先ヅ組織事務所一箇所ヲ設ケ、一切ノ文牘及刊印章程等ヲ管理セシメ、米國ニ於ケル臨時事務所設置ノコトハ在米發企人ニ依託ス

第十四條　株券上ニ記載スベキ各事項ハ各國通行章程及部頒銀行則例ニヨリ之レヲ定ム

第十五條　株券ハ株數ヲ制限セズ、株主ノ要求ニ從ヒ記入スルモ、但シ毎枚二百株以上トナスヲ得ズ

第十六條　上海總事務所ニ株主名簿ヲ供ヘ凡テ株主ハ各株式募集人或ハ代理取扱所ニ籍貫住址ヲ報明シ以テ登記ニ便セシム

第十七條　株券領收書ノ受授遺失等ノコトニツイテハ別ニ專章ヲ定ム

第十八條　若シ株式申込後第二期株金ヲ拂込マザルモノハ總事務所ニ於テ日期ヲ延期シ或ハ書面ヲ以テ通告シ亦ハ新聞ニ廣告シ、尙期限ヲ逾ヘテ拂込マザルモノハ章程ニ照シ拂込證據金ヲ沒收ス

第十九條　第二期拂込締切後中米兩事務所ヨリ通告シテ期ヲ定メ上海ニ株主總會ヲ開キ選擧ヲナス

第二十條　株主ノ選擧權ハ二十株毎ニ一權トシ、千株以上ハ五十株毎ニ一權ヲ加フ、其餘ノ議事ノ權ハ或ハ株式數ニヨリ或ハ出席人員數ニヨル等均シク辦事細則ニ於テ詳細規定ス

第二十一條　第一回株主大會ニ於テ中米ヨリ各董事七人ヲ擧ゲ、更ニ董事中ヨリ互選シテ總行總董中米各一人、分總行分總董中米各一人、並ニ各査賬員二人ヲ擧ゲ、其決定後ハ各其任ニ就キ辭スルヲ得ズ、其任期ハ總董ハ三年、董事ハ二年、査賬員ハ一年トシ連任スルヲ得

第二十二條　中國側ヨリ選出セル査賬員ハ毎年一人交替シ米國總分行及分行ニ赴キ調査ナスベシ

第二十三條　總理經理董事ヲ選定セル後即日上海ニ中米董事聯合會ヲ開キ一切ノ辦事細章ヲ商訂スベシ

第二十四條　中米聯合董事會ハ毎年一回又ハ二回株主大會十五日前ニ上海ニ開催ス、若シ特別會議ノ必要アル時ハ別ニ董事局ニ於テ自ラ酌定ス、株主總會ハ毎年一回若クハ二回ヲ開クベク、其期日ハ陽曆四月九月ノ間トシ地點ハ上海トス、但シ特別ノ事由アリ會議ヲ要スル時ハ或ハ董事局ニ於テ酌定シ或ハ株主聯合會ニ於テコレヲ招集スベク均シク期ニ先ツ若干日ニ於テ新聞ニ廣告シ或ハ通信布告スベシ(細則ハ別ニ定ム)

第二十五條　中米兩行ハ別ニ董事中ヨリ辦事董事二人ヲ擧ゲ以テ大班或ハ總董ヲ輔佐セシム

第二十六條　本銀行ノ總行分總行各埠分行ノ大班二班ハ中米ヨリ合用シ、若シ米人大班タレバ華人二班タリ、華人大班タレバ米人ヲ二班トス、而シテ大班ハ若シ中國人中ニ人材ヲ得難キ時ハ米國人ヲ用ヒ華人ヲ之レガ副タラシメ中國ニ相當ノ人材アルヲ俟チ此章程ニ照シ辦理セシム

第二十七條　董事ノ資格ハ二百株以上ノ株主トシ査賬員ノ資格ハ株主タルト否トニ論ナク聘用スルヲ得

第二十八條　營業範圍次ノ如シ

イ、中外爲替手形及抵當爲替取扱

ロ、銀行券ノ發行

ハ、預金及貯蓄預金ノ取扱

ニ、國債證券、社債券、他社株式ノ取扱代理募集

ホ、動産及各公司銀行ノ確實ナル株式ヲ擔保トスル貸付

ヘ、同業トノ爲替取組

ト、金銀兌換

チ、銀行一切ノ事務ノ取扱

第二十九條　本銀行結算ハ毎年上下二期ニ分チ陽暦一月ヨリ六月迄ヲ上半期、七月ヨリ十二月迄ヲ下半期トシ毎期ノ終ニ結算ヲ行ヒ、株主總會ノ時ヲ俟チ總行ヨリ全行二期ノ營業結果ヲ中米董事聯合會ニ附議シ、其所得利益ハ次ノ各項ニ分チ處分ス

イ、積立金

ロ、器具其他ノ償却金

ハ、報酬賞與

ニ、配當

中國通行公司條例ニヨレバ所得利益ハイロハ三項ニ分ツノ外其餘ハ悉ク株主ニ配當スルヲ常トスレバ此レハ別ニ毎年株式ニ對シテ支拂フベキ官利ヲ定メズ

第三十條　本銀行ハ前清光緒三十年十二月二十三日ノ戶部奏准ニ照シ凡ソ官紳商民人等皆其株式ヲ引受ケ、又預金貸出ヲナスヲ得ベク、凡テ商家辦法ニ照シテ取扱ヒ其金錢ノ依テ來ル處ヲ問フ能ハズ、又金錢行內ニ入レバ銀行ハ保護ノ責アリ、該金錢ニ何ノ係爭ノ事アルモ預入人ノ證書アルニアラザレバ何人ヲ論ゼズ銀行ヨリ之レヲ追取スルヲ得ズ、本銀行ノ株金預金等ハ本章程ニ照シ辦理スベシ云

第三十一條　本章程ハ招股簡章ナレバ一切ノ辦事章程ハ開辦ノ時ヲ俟チ再ビ訂定ス

然ルニ此度モ本計畫ハ遂ニ實行セラルヽニ至ラザリシガ然カモ其後ニ至リテモ本計畫ハ全ク廢棄セラルヽニ至ラズ、度々出頭沒頭シツヽアリ、近時米國銀行團ハ頻ニ支那ニ對スル發展ヲ計畫シツヽアレバ本計畫ノ如キモ或ハ早晩實行セラルヽノ時アルベキカ。

舊式金融機關

支那ニ於ケル金融機關ニハ上記內外ノ新式銀行ノ外、在來各種ノ機關アリ、錢莊、票號、銀爐、公估局ノ如キモノナリ、是等ノ金融機關ハ從來支那經濟界ニ覇ヲ稱セシモノナリシガ、支那經濟組織ノ次第ニ近代化スルト共ニ新式銀行ノ爲ニ壓倒セラルヽニ至リ、今ヤ漸次其勢力ヲ失墜シツヽアリ、然レドモ新式銀行ハ未ダ各地ニ普及スルニ至ラズ、且又其信用確實ナルモノモ少キヲ以テ、是等舊式金融機關モ未ダ全ク不要ニ歸スルニ至ラズ、上海、天津ノ如キ主要開市場ニアリテスラ尙須要ノ機關トナサレツヽアリ、其他ノ內地小都市ニ於テ相當ノ勢力アルコト勿論ト謂ツベシ、今是等ノ各者ニツイテ簡單ニ說明ヲ加フル處アルベシ。

錢莊

錢莊ハ在來ノ支那金融機關中商業銀行ノ性質ヲ有スルモノニシテ、コレヲ大別シテ二トナスヲ得、一ハ同業組合ニ加入シ組織完全シ資本亦豐カナルモノニシテ、二ハ同業組合ヲ有セズ、比較的小規模ノモノナリ、前者ヲ錢莊、銀號、銀莊ト稱シ、後者ヲ錢舖、錢店ト稱ス、上海ニテハ前者ヲ滙劃ト稱シ、後者ヲ二細別シテ挑打、零兌トス、今上海ニ於ケル錢莊(滙劃莊)ヲ標準トシテ、是等錢莊ノ狀況ヲ說

明スベシ

設立

錢莊ノ設立ニツイテハ北京ヲ除クノ外別ニ官廳ノ許可ヲ要セザルヲ普通トス、而シテコレヲ開始セントスルモノハ先ヅ議單ヲ作製ス、議單ハ定款ニ等シキモノニシテ、業務ノ範圍、資本主ノ氏名住所、出資額、支配人ノ權限、利益配當、缺損分擔其他ノ必要ナル事項ヲ記載決定シテ、他日ノ紛議ニ備フルモノニシテ、資本主、支配人、保證人、代書人等連署調印シ、資本主及支配人ニ於テ一通宛ヲ所持スルモノトス、議單ノ作製成レバ同業者數人ノ連環保結ヲ以テ同業組合ニ屆出デ其認可ヲ經テ始メテ業務ヲ開始スルモノナルガ、錢業公所ニ加入セザルモノハ此手續ヲ要セズ、北京ニ於テ新ニ錢莊ヲ開カントスル場合ニハ般實ナル商人四名ノ保證ヲ得テ之レガ許可ヲ稟請スベク、若シ許可ヲ俟タズシテ擅ニ開設セルモノハ資本主並ニ店員ハ處罰セラレ且其資本ハ沒收セラルベキモノトス。

資本金

錢莊ノ資本ハ普通四五萬兩以下ニシテ、往々三四十萬兩ノモノアリト雖モ甚ダ稀ニ、小ナルモノニハ僅ニ五六千兩ニ過ギザルモノアリ、一見甚ダ少額ニ過グルモノ、如クナレドモ、元來錢莊營業信用

ノ大小ハ資本ノ大小ニ關セズ、財東經手ノ信用如何ニ存スルモノナルヲ以テ、資本ハ必ズシモ雄厚ナルヲ要セザルナリ、蓋シ財東(資本主)ハ其出資額ノ如何ニ拘ラズ、各連帶無限ノ責任ヲ負フモノナルヲ以テ出資額ノ如キ深ク意トスルニ足ラザルナリ。

錢莊ハ往々一人ニテ經營スルモノナキニアラズト雖モ、多クハ二三人或ハ五六人ノ共同出資ニ係ルヲ常トシ、是等資本主ノ出資ニ成本、護本ノ二種アリ、成本ハ一ニ本銀トモ稱シ普通ノ資本ニシテ營業資金タルベキモノナリ、而シテ護本ハ又附本トモ稱シ成本ノ不足ヲ補フ爲ニ資本主ガ其成本以外ニ出資スルモノニシテ、其性質資本主ノ定期預金ノ如シ、而シテ成本ニ對シテハ一定ノ利益則チ官利ヲ配當シ、更ニ夫レ以上ノ收益アル場合ニハ紅利(餘利トモ稱ス)ヲ配當スレドモ、護本ニ對シテハ其出資ノ際協定セル一定ノ利子ヲ附スルノミ、其利率ハ甚ダ低率ナルヲ常トス、此利子ヲ花紅ト稱シ、更ニコレヲ提存ス、錢莊ノ資本ハ之レヲ股ニ分チ資本主ハ股ヲ分擔スルモノニシテ、毎股ノ金額ハ一萬兩乃至一千兩トス。

錢莊ノ資本ハ是等成本護本ノミニテハ到底足ルベキモノニアラズシテ、取引先ノ預金ヲ以テ運轉資金ニ充ツルコト銀行等ト同一ナレドモ、此外從來錢莊ハ支那ノ爲替銀行タル票莊ヨリ之レヲ仰ギ、又上海、漢口ノ如キ大市場ニ於テハ外國銀行ヨリ之レガ供給ヲ受クルヲ常トセリ、然レドモ往年ノ第一次革命ハ支那財界ニ多大ノ變動ヲ與ヘ、錢莊ヲシテ遂ニ資金ノ不足ヲ是等ノ方面ニ求ムル能ハザラシ

ムルニ至レリ、右ノ外國銀行ノ錢莊ニ對スル貸出ハ之レヲ折票(Chop Loan)ト稱シ、滙劃莊ヨリハ一種ノ要求拂約束手形タル莊票(Chop)ヲ差入ル、外別ニ擔保ヲ提供セズ、但シ錢莊破產ノ場合ニハ優先シテ其辨濟ヲ受クルコト多年ノ慣習タリ、又上海ニ於テハ同業者聯帶保證ノ制ヲ採ル、其期限ハ極メテ短キヲ常トシ、上海ニテハ即日拂(一天一期)又ハ二日目拂(二天一期)ト定メ、且又債權者ニ於テ必要アル時ハ何時ニテモ返還ヲ求メ得ベキモノトセリ、其ノ利率ハ銀折(Native Interest)ト稱シ、毎早朝錢業公所ニ於テ一千兩ニ對スル日歩ヲ定ムルモノトス、斯クテ錢莊ハ外國銀行ヨリ資金ノ融通ヲ仰グヲ例トセシガ、一九一一年革命事變ノ起ルヤ、各地爲替取引中絕シ、手形不通トナリ、當座貸附及貸付金ノ回收不能トナリ、預金並ニ莊票ノ取付亦頻々トシテ行ハレシヨリ、外國銀行モ同ジク Chop Loan ノ回收ヲナセシヨリ、融通ニヨリテ資金ノ運轉ヲ圖リツヽアリシ錢莊ハ孰レモ支拂能力ナク遂ニ支拂停止ヲナスノ止ムナキニ至リ、外國銀行ハ貸付金ノ回收ヲナス能ハザリシヨリ爾後此制度ヲ以テ危險ナリトシ、又之レニ應ゼザルニ至リ一方又支那在來ノ金融機關トシテ重要ナル地位ヲ占メシ票莊モ、革命ニ基ク支那經濟組織ノ一變ト共ニ其勢力ヲ失ヒ、舊ノ如ク錢莊ニ對シ資金ノ融通ヲナスノ力ナキニ至リ、旁以テ錢莊ハ從來ノ如ク少額ノ資本ヲ以テ巨額ノ資金ヲ融通スル能ハザルニ至リ、從テ錢莊ノ業務ハ不振ニ陷リ、今ヤ支那金融界ニ於ケル錢莊ノ勢力ハ大ニ凋落ヲ見タリ。

外國銀行ハ錢莊ニ對シ從來ノ如キ信用ニ基ク貸付ハ之レヲナサヾルニ至リタレドモ、確實ナル擔保

ノ存スルニ於テハ元ヨリ之レヲナサヾルニアラズ、現ニ洋元ヲ擔保トシテ貸出ス洋元押款（Dollar Loan）ナルモノ、專ラ行ハレ、錢莊ハ此方法ニヨリテ外國銀行ニ資金ノ融通ヲ仰グ、其期限ハ二日乃至一週間ヲ常トスレドモ Chop Loan ノ如ク銀行ノ必要ニ應ジテハ隨時償還ヲナスノ義務アリ、普通銀元一萬四千元ニ對シ銀輛一萬兩內外ノ貸出ニ應ズト云フ。

又錢莊同業者間ニ於テ資金ノ貸借融通ヲナスコト行ハレ之レヲ折票往來又ハ折票ト云フ、其利率ハ銀折 Native Interest ニヨルモノト、轉帳ニヨルモノトアリ、轉帳ハ銀折ヨリ稍高率ナルヲ常トセシガ近來 Chop Loan ノ制度廢滅ニ歸セシヨリ、轉帳即銀折トナレリ、轉帳トハ他ノ錢莊ヨリ一時帳簿上ノ借入ヲナシ置キ以テ手形交換上ノ債務ヲ振替フルモノニシテ利率ハ錢業公所ノ公議ニヨリ毎日之レヲ定ム同業者間ノ現銀ノ收支ハ之レヲ滙兌銀ト稱シ一日ヲ隔テヽ收受スルヲ例トシ、若シ當日現銀ヲ得ントスレバ申水（加水）即打歩ヲ支拂フヲ要シ、當日現銀ヲ收ムルヲ割頭銀ト稱シ、其申水ハ上海ニテ近年千兩ニ付一兩內外ナルヲ普通トス。

組織

錢莊ノ組織ハ支那各地一樣ナラズ、殊ニ店員ノ稱呼ニ至リテハ各地各樣ナレドモ今此ニ上海ニ於ケルモノニ就イテ其一班ヲ略說スベシ、通例業務擔當者ハ之レヲ領東、東家ト稱シ、資本主ヲ財東又ハ

財主ト呼ビ、各出資ハ勞務ノ如キモ凡テ之レヲ股份ニ分チ、財東ノ股份ハ之ヲ錢股、又ハ東股ト稱シ、領東ノ股份ハ之レヲ身股又ハ西股ト稱ス、錢莊ニハ此外支配人以下各種ノ店員アリ、支配人ハ董事、掌櫃、經手、經理等ト稱シ、一切ノ店務ヲ總轄シ、業務ノ執行、店員ノ任免黜陟等悉ク其權內ニアリ、只普通營業ニ屬セザル行爲殊ニ借財ノ如キハ必ズ股東ノ同意ヲ要スルヲ常トス、其他ノ一般店員ハ之レヲ大別シテ副經理、夥計及學徒トス、副經理ハ經理ノ命ヲ受ケ諸般ノ店務ヲ擔任スルモノニシテ、錢莊ノ大小ニヨリ或ハ一人或ハ數人ヲ置ク、普通組織ノ稍大ナル錢莊ニアリテハ店務ヲ內外ニ區別シ各一名ノ副經理ヲ以テ其主任トシ、之レヲ當內事及當外事ト稱ス、內事部ハ之レヲ內賬ト稱シ信房、庫房、賬房之レニ屬シ、信房ハ信書ノ往復ヲ庫房ハ倉庫事務ヲ賬房ハ金錢ノ出納記帳ヲ司ル、其倉庫事務ヲ司ル夥計ヲ管棧ト稱シ、賬房事務ヲ掌ルモノヲ管銀、管賬ト稱ス、內事部ニハ此外來客ノ應接係タル會客的アリ、外事部ハ副經理以下店外ノ事務ニ當ルモノコレニアリ、跑街、跑市アリテ市中ニ出デ市場ノ狀況ヲ細大漏ラサズ見聞シテ之レヲ經理ニ報告シ又華客ノ許ニ至リテ其命ヲ聽ク、尙夥計ノ下ニ小夥、學徒(學生意的)等アリ、瑣務ヲ辦ズ。

決算並利益配當

錢莊ノ決算期ハ各自ノ任意ニシテ或ハ每年一回トシ、或ハ三年一回トスル等別アリ、然レドモ取引

先トノ決算ハ毎月末ニ之レヲ行ヒ、而シテ年末ニ於テ大決算ヲナスヲ常トス、決算ニ基ク利益配當ノ方法ハ錢莊創立ノ初ニ於テ出資者間ニ於テ協定スルヲ例トスルモ、其多クノ例ヲ見ルニ本銀ニ對シ一定ノ利益卽官利ヲ支拂ヒ、其殘餘ヲ十五股ニ分チ、其十股ヲ資本家ノ所得トシ、一股半ヲ正經理ニ一股ヲ副經理ニ其餘ハ之レヲ各店員ニ分配スルヲ常トス、尙純益金中ヨリ財東經手ノ任意ヲ以テ積立金ヲナス、之レヲ公積金ト云フ。

錢莊ハ取引契約ヲナシタル商人ニ對シテハ摺子ヲ交付シ、取引アリタル毎ニ之レニ記入シ置キ、毎月末ニ一結シ更ニ年末ニ決算ヲ行フモノニシテ、一年末ノ結算期ニ際シ若シ貸越アル時ハ年末迄ニ之レヲ拂込ミ清算スルコトヲ要シ、信用ノ最モ優ナルモノハ毎年十二月二十四日迄ニ清算ヲ了シ、之レニ次グモノハ二十八日迄ニ了シ、三十日ニ及ブモノヲ最下トス、大決算ハ毎年末ニシテ先ヅ十二月五日頃ヨリ摺子ノ決算ヲナシ、決算尻ガ貸越ナルカ、又ハ預金ノ殘餘アル場合ニハ、一旦ハ正貨ヲ用ヒテ其貸借關係ヲ結了スル時ハ、此ニ商人錢莊間ノ關係ハ一時斷絕スルモノニシテ、更ニ取引ヲ繼續センドスル時ハ翌年改メテ交涉スルヲ要ス、而シテ貸借關係ヲ結了スルコトナク翌年ニ繰越サントスル時ハ貸越ノ場合ニハ十二月初ニ於テ內入其他ノ方法ニヨリ翌年ノ新帳簿ニコレヲ繰越ス方法ニヨルモ、斯カルコトハ甚ダ稀ニシテ大概十二月末日迄ニ皆濟ヲナサシムルモノトス、預金繰越ノ場合ハ常ニ見ル處ニシテ此場合ニハ摺子ヲ其儘商人ニ渡シ置キ翌年正月預入額ニ記入シタル新摺子ヲ商人ノ宅ニ持

參シ以テ取引ヲ繼續スルモノトス。

營業

錢莊ハ普通一般ノ銀行ト同ジク、預金、貸付、爲替、手形發行、割引等ヲ以テ其主要營業トナシ、就中預金貸付ヲ以テ其主要ナルモノトス。

預金　預金ハ之レヲ存欵ト稱シ、之レニ當座預金（浮存、活期存欵、往來存欵ト稱ス）ト定期預金（長存、定期存欵ト稱ス）トノ二アリ、兩者中多キハ當座預金ニシテ預金者ハ商人最モ多シ、而シテ當座取引ヲ開始セントスルモノハ先ヅ錢莊ノ信用スルモノヲ紹介人トシテ、取引ヲ申込ムベク、錢莊之レヲ承諾シタルトキハ之レニ對シ往來帳（通帳）及支票（小切手帳）ヲ交付ス、預金ノ引出預入共ニ頗ル簡單ニシテ、預入ノ場合ハ預主ハ單ニ一片普通ノ書信ニ預入ノ旨ヲ記載シ、之レニ現金ヲ添ヘテ錢莊ハ通帳ノ上方ニ收入ノ日附及金額ヲ記入シテコレヲ返戻ス、手形ヲ用ヒテ預入ヲナス時ハ滿期日ノ手形ナル時ハ其儘ニテ可ナルガ、若シ期日前ノ手形ナル時ハ其滿期日ノ日ニ預入アリタルモノ・如ク其日附ニテ記帳スルヲ常トス、通帳ハ白紙ノ折本ニシテ、記入ノ方法ハ預入ヲ收トシテ帳簿ノ上方ニ記入シ拂出ヲ付トシテ通帳ノ下方ニ記入ス、更ニ又錢莊ニハ臺帳アリテ、預入拂出共ニコレニ記入ス。

支票卽チ小切手ハ錢莊ト當座勘定ヲ開ケルモノ、發行スルモノニシテ、一定ノ形式用紙ナク商人ノ

自由トス、而シテ支票ヲ發行シタル場合ハ、直ニ其期日及金額ヲ錢莊ニ通知スルヲ要シ、錢莊ハ其通知ナキ時ハ之レガ呈示アルモ支拂ヲナサズ、支票ハ其性質トシテ當然一覽拂タルベキ筈ナルモ期日拂ノモノヲ普通トシ、其期間ハ上海ニ於テ、多ク十日間トス、而シテ其票面ニハ受取人ヲ指定スレドモ實ハ持參人拂ニシテ、其期間ハ輾轉流通スレドモ、其記載事項不完全ニ信用亦確實ナラザレバ、外國銀行ニテハ買辦ノ責任ヲ以テ受取ル外、原則トシテ一切之レヲ受取ラズ、又支票ハ呈示ト共ニ直ニ支拂ハル、コトナク、其日ノ夕刻ニ於テ支拂ハル。

當座預金ニ對スル利子ノ計算ハ毎月末ニ於テナシ、翌月ノ初之レヲ通帳ニ記入ス、錢莊ハ預金主ヲ信用程度ニヨリテ區分シ、利率亦是等ノ階級ニヨリテ相異リ、利率ハ毎月二日錢業公所ニ於テ前月中ノ毎日ノ市場利率(Native Interest)ヲ平均シ、其九十五掛ヲ標準トシテ高下ス。

長存即チ定期預金ハ預金ニ對シテ存票ト稱スル預金證ヲ交付スルモノニシテ、其期限ハ最初ヨリ之レヲ定メ置キ、滿期ニ至リテ利子ヲ附ス、其期限ハ契約ニヨリ一定セザルモ、一二三箇月ノモノアリ、又六箇月、一箇年ノモノモアルモ一ケ年ヨリ長キハナシ、金額ハ普通千兩以上ヲ常トシ、利率ハ當座預金ノ利率ヲ基トシ、最低ト雖モ當座預金ノ利率ヲ下ルコトナク、又最高ト云フモ貸越利率ヨリ上ルコトナク、大抵六分乃至八分トス、定期預金ヲ滿期前ニ引出サントスル時ハ平常ノ取引關係極メテ親密ナルモノニアリテハ、特ニ其要求ノ日ヲ以テ滿期日トナスモ、從來ノ取引餘リニ親密ナラザルモノ

ニヨリテハ之レニ應ゼズ、若シ強ヒテ引出サントスル時ハ利子ヲ附セズ。

貸付　貸付ハ之レヲ缺欵、放賬又ハ缺銀ト稱シ、當座貸越（浮缺）、定期貸付（長缺）、預約貸金等ノ別アリ、錢莊ハ豫メ其取引先ノ信用ヲ調査シ置キ之レヲ福祿壽喜等ノ等級ニ分チ、其貸出額竝ニ利率等此標準ニヨリ相違アルヲ常トス。

浮缺卽チ當座貸越ハ又往來缺欵、單ニ缺欵トモ稱シ、當座勘定ヲ有スル商人ニ對シテナスモノトス、貸越金額ニ就イテハ豫メ協定アリ、コレニ對シテ商人ハ自ラ支票ヲ振出スモノニシテ、錢莊ハ稀ニ現銀ヲ交付スルコトアレドモ普通ハ手形ノ發行ニヨリ之レニ應ズ、貸付利率ハ通例之レヲ約束セズ、錢莊同業者間ノ貸借勘定ノ利率卽チ轉賬ヲ標準トシ、コレニ加頭ト稱スル割增ヲナスヲ常トス、決算ハ年一回コレヲ行ヒ、貸越高ハ舊曆年末ニ必ズコレヲ淸算スベキモノトセラル。

長缺ハ一箇月三箇月六箇月等ノ期限ノモノヲ普通トシ、尙又一年等ノ期限ノモノモアリ、利子通例月利七八厘ニシテ、元ヨリ對手ノ信用、市場ノ金融狀況ニヨリ差アレドモ、一分ニ達スルモノハ大市場ニテハ殆ンドナシ。

抵當貸ハ抵押放欵又ハ押欵ト稱ス、錢莊ノ貸出ハ信用貸ナルヲ普通トシ、抵當貸ハ比較的少ク又擔保品ノ撰擇ハ極メテ寬ニ貸出額モ亦多シ、此貸付ハ契約書ヲ作製シテ之レヲ行フモノニシテ錢莊自ラ倉庫ヲ設ケ現品ヲ引取リ之レニ存貯スルモノアリ、又棧單（倉庫證券）ヲ以テ擔保ニ供スルモノアリ。

是等貸金ノ利子計算法ハ一種特有ノモノニシテ、各錢莊ハ月ノ初三日公所ニ會シ毎日ノ朝市ノ前節ヲ平均シタル利子ヲ以テ其日ノ金利ト定メ、更ニ一箇月卽チ三十日間積算シ、之レヲ平均シテ毎月ノ利子トス、而シテ之レガ計算ニツイテハ四捨五入ノ法ヲ用ヒ、卽チ若シ平均利子五厘二毛ナル時ハ之レヲ五厘トシ、七厘八毛ナル時ハ八厘トスルガ如シ、而シテ當座貸越等ノ利子ハ此利率ニ對手ノ信用ニ應ジテ加頭ヲ加ヘタルモノトス、今是等利率ノ算出方法ヲ示セバ次ノ如シ。

$$\text{當座預金}\ \frac{\text{積數}\times\text{預金利率一箇月}-\text{平均額}}{1{,}000}=\text{利子}$$

$$\text{貸越}\ \frac{\text{積數}\times(\text{缺賬平均額}+\text{加頭})}{1{,}000}=\text{利子}$$

而シテ當座預金ハ其金額ノ多少ニ拘ラズ、其日ノ午後二時ヲ過グル時ハ翌日ヨリ利子ヲ附シ、又引出シノ日ハ之レヲ算入セズ。

手形ノ發行　錢莊ハ莊票(Native order)ト稱スル手形ヲ發行シ、コレ亦錢莊ノ主要業務ノ一タリ、右莊票ナルモノハ一種ノ無記名式約束手形ニシテ資金ノ貸出ハ勿論、錢莊ノ支拂ハ殆ンド總テ此莊票ヲ用フルモノナルガ、其形式ハ極メテ粗雜ニシテ、一葉ノ紙片上ニ金額ト振出錢莊名ヲ記シ捺印スルニ過ギズ、其轉々流通スルコトハ恰モ兌換紙幣ノ如キ觀アリ、之レガ發行ニ際シテハ準備金ヲ置クベキコト當然ニシテ、錢莊ハ取引先ノ預金ヲ以テ之レニ充當スルモ、然カモ莊票發行額ハ必ズシモ準備金ノ

多寡ニヨラズ、無制限ニ之レヲ發行スルヲ以テ、一朝信用ニ蹉跌ヲ生ジ取付ニ遭ハンカ忽チ倒產ニ至ラザルモノ稀ニシテ、僅ニ二三萬兩ノ資本ノ錢莊ニシテ二三十萬兩ノ莊票ヲ發行スルモノアリ、其危險想フベキナリ、莊票中其票面ニ滙劃ノ二字ヲ記載セルモノハ其發行者ガ錢莊組合ニ加盟セルモノナルコトヲ示スモノニシテ、信用厚ク流通圓滑ナリ、莊票ハ元來無記名式證券ナレバ其轉々流通ノ後不渡トナリタル場合、其損失ハ自ラ最後ノ所持人ニ歸シ、其讓渡人ニ溯リ償還ヲ請求スル能ハザルヲ當然トスレドモ、在來ノ慣習ヨリ裏書ナキ償還ノ義務認メラレ、互ニ其上ニ溯リテ其償還ヲ受クルモノトス、故ニ通例莊票ヲ受授スルモノハ一々之レヲ記帳シ置キ他日不渡トナリタル場合之レニヨリ處置スルモノニシテ、不渡莊票ハ之レヲ擱淺票ト稱ス。

莊票ニハ卽票竝ニ期票ノ二種アリ、卽票トハ一覽拂ノモノニシテ、期票トハ期日拂ノモノナリ、而シテ普通ハ期票多クシテ卽票ハ稀ニ、卽票ハ多クハ割引ノ際若シクハ當座預金ニ對スル支票ト引換ニ振出サルヽモノニシテ、支票ト引換フルハ支拂ノ確否明カナラザル支票ヲ確實ナル莊票ニ代エテ其効果ヲ大ナラシメントスルモノナリ、期票ノ期限ハ地方ニヨリ一樣ナラザルモ上海ノ如キニアリテハ通例五日目拂及十日目拂ノ二種トス、錢莊ハ資金乏シキ爲盛ニ莊票ヲ發行スルコト行ハレ、上海ノ如キニアリテモ此弊甚ダ多ク、革命其他ノ經濟上ノ恐慌ニ遭フヤ忽チ支拂停止ノ慘狀ヲ來シ、爲ニ大ニ莊票ノ信用ヲ失墜スルニ至リ、外國銀行ノ如キハ大ニ警戒シテ容易ニ之レヲ受領セズ、殊ニ長期ノモノ

ニ於テ然リシガ、遂ニ上海ニアリテハ各外國銀行ハ明治四十四年八月以後期日五日以內ノモノニアラザレバ受入ヲ拒ムコトヽシ此旨錢業公所竝ニ商務總會ニ通告セシガ、更ニ翌四十五年二月ニハ三日以內ノモノニ限リ收受スルコトニ改メタリ、然ルニ之レニ對シテハ支那商ノ反對甚シカリシヨリ、遂ニ再議ノ上綿布類ニ對シテハ五日目拂其他ノ雜品ニ對シテハ十日目拂ノ莊票ヲ用フルコトニ決シタリ。

期票ハ照票ト稱シ其期日前ニ之レヲ發行錢莊ニ呈示シ、支拂ノ引受ヲ請求スルコトヲ得ルハ一般手形ト同ジ、又其期限內ハ轉々流通スルモ一度外國銀行ノ手ニ歸スル時ハ割引セラルヽモノニシテ、其利率ハ凡テ二三分內外トス、又莊票ヲ呈示シテ振出錢莊ヨリ支拂ヲ受クルニ際シ、上海ニ於ケル慣習トシテハ錢莊ハ票貼ト稱シ所持人ヨリ一種ノ手數料ヲ徵スルヲ例トス、但シ其額タル該錢莊トノ取引關係ノ如何ニヨリ一定セザルモ通例千兩每ニ二錢乃至五錢トス、斯クノ如キ例ヲ生ジタルハ全ク支那ニ現銀ノ缺乏セル結果ニシテ、彼ノ商取引ニ於テ現金支拂ニ對シテハ特ニ割引ヲナスノ慣習アルト同趣旨ニ出ヅルモノニシテ、此外現銀運搬費ノ意味ニテ票力ト稱スル力錢(Coolie hire)ヲ受取人ヨリ徵スルノ例アリ、右力錢ハ錢莊ノ老司務ノ所得ニ歸スルモノニシテ單力及双力ノ二種アリ、單力ハ同業者間ニ對スル場合ニ徵收スルモノニシテ通例千兩ニツキ七分トシ、双力ハ一般取引先ニ對シ徵收スルモノニシテ通例千兩ニツキ一錢四分ナルガ平素取引ナキモノニ對シテハ往々二錢ヲ徵ス、莊票ノ一種ニ劃條ナルモノアリ、記名式ニシテ莊票ノ如ク期限ヲ附セズ、卽日拂ニシテ票力モ之レヲ要セザ

ルモ多ク行ハレズ。

割引　割引ハ貼現ト稱シ、主トシテ期日前ノ莊票又ハ滙票ヲ割引スルモノニシテ、又錢莊ノ一業務ナルモ、支那ニ於テハ手形ハ滿期迄ハ轉々流通セシムルヲ常トシ、割引ヲナスコト少ク、只上海市場ニ於テ比較的多ク行ハル、ノミ、是等手形ノ割引ハ多クハ其代金ヲ當座勘定ニ繰入レ、又ハ之レニ對シ新ニ莊票ヲ振出スモノナルモ、又更票ト稱シ現銀ヲ交付スルコトモアリ、其割引料ハ日歩ヲ以テ計算シ、其日ノ銀折ニ五六分ヲ加ヘタルヲ普通トシ、割引ヲナスニハ午前中ニ票ヲ持シテ錢莊ニ至リ利子ノ協定ヲ遂ゲ、之ノ渡シ置クモノニシテ、然ル時ハ錢莊ハ午後ノ錢行取引ニ於テ之レニ充ツル金額ヲ借リ來リ黃昏ニ至リ現銀ヲ手形所持人ニ交付スルモノトス。

爲替　爲替ハ從來ニアリテハ山西票莊、近來ニアリテハ外國銀行若クハ新式支那銀行ノ主トシテ取扱フ處ニシテ、錢莊ノ主要業務ニアラザルモ、取引先ノ便宜ノ爲多少之レヲ取扱フ、爲替ハ之レヲ滙、電滙、倒滙、代報信滙、憑信交銀ノ五種ニ分ツコトヲ得ベク、滙トハ普通ノ送金爲替、電滙トハ電信爲替ニシテ共ニ普通ニ行ハル、モノナリ、代報信滙トハ荷爲替、憑信交銀トハ信用狀、倒滙トハ逆爲替ニシテ、近時稍行ハル、ニ至リシト雖モ、前二者ニ比シテ遙ニ少シ、爲替手形ノ期限ニハ種々アリ、一覽拂、七日拂、十日拂、十五日後幾ハ一覽後幾日拂等アリ、其形式ハ各國ノ爲替手形ト異ルナク左ノ事項ヲ記載スルヲ例トス。

一、爲替手形タルヲ示スベキ文字
一、一定ノ金額
一、一定ノ滿期日
一、振出ノ年月日
一、受取人ノ商號氏名
一、支拂人ノ商號
一、支拂地
一、振出人ノ署名捺印

是等手形ハ裏書ニヨリ流通シ得レドモ、支那ニ於テハ此事未ダ盛行セズ、裏書ノ方法ハ單ニ記名捺印スルノミニシテ指圖式ハナシ、而シテ爲替手形ハ一覽後幾日目拂ノモノハ勿論其他一定ノ支拂期日ヲ指定セルモノト雖モ、必ズ一旦振宛錢莊ニ呈示シ、其支拂ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス、尙又爲替相場ノ建方ハ先ヅ兩地ノ銀兩洋銀成色秤量ノ差ヲ計算シ、之レニ手數料ヲ込メ、期日拂ノモノニハ其地ノ市場ノ利息ヲ加ヘ控除シテ其相場ヲ定ム。

此外錢莊ハ外國爲替ノ賣買ヲナスコトアリ、取引先ノ爲ニ外國爲替ノ賣買ヲ代辦スルモノナルガ、斯カル業務ヲ取扱フハ上海等ノ主要開港場ノ錢莊ニ過ギズ、又其仕向地モ日本、新嘉坡、桑港等ノ數

地ニ限ラルヽモノトス。

手形交換　手形交換ハ上海ニアリテハ滙劃ト稱ス、蓋シ一所ニ滙シテ而シテ劃スルノ意ナリ、抑モ支那ニ於テハ、現銀缺乏スルヲ以テ、取引ハ多ク支票、莊票等ヲ以テ行ハレ、而シテ是等ハ更ニ轉ジテ其取引先タル錢莊ノ手ニ歸スルモノニシテ、各錢莊ハ交互ニ受取勘定ト支拂勘定トヲ有シ、貸借受授ノ關係錯雜スルヲ以テ相會シテ之レヲ決濟スルヲ便利トス、是等ノ手形交換ハ錢行ニ於テ行ハレ、每日夕刻各錢莊ノ店員相會シテ之レヲ行フ、其交換ノ手續ハ各錢莊ハ日々ノ取引ニ於テ或ハ取引先ノ要求ニ應ジ莊票ヲ振出シ、或ハ他店ノ莊票支票ヲ割引シ、又ハ之等ヲ預金トシテ受入レタル時ハ之レヲ悉ク滙劃帳ト稱スル帳簿ニ記入シ置クモノニシテ、之レニヨリテ各錢莊ガ當日支拂ヲ受クベキ莊票小切手ノ額、宛名人等ヲ知ルヲ得ルヲ以テ、夫レ夫レ其支拂ヲ受クベキ支票莊票ヲ以テ各店ニ差向ケ、之レヲ該店ニ渡シテ之レト引替ニ自店宛手形金額ヲ支拂フベキ旨ヲ記載セル公單ヲ受取ルモノトス、斯クテ是等ノ公單ヲ得タル錢莊ハ之レヲ一括シテ其日ノ午後七時迄ニ錢行ニ持參スルモノニシテ、此公單ヲ以テ手形ニ代用スルモノトス、尙其公單作製ノ際五百兩以上ノモノハ大公單ニ記入シ、ソレ以下ノモノハ小公單ニ記載ス、斯クテ各錢莊ヨリ差出シタル公單ハ錢行ノ公會先生之レヲ整理シ各錢莊ノ貸借ヲ相殺シ其交換尻ヲ明ニシ、右交換尻ヲ現銀ヲ以テ支拂フコトナク互ニ帳簿上ノ貸借トシ利子ハ月末ニ清算シ每年舊六月十二月末ノ二回ヲ決算期トシ、此時現銀ヲ用ヒテ相互貸借ノ決濟ヲナス、

尙交換尻算出ニ際シ端數ハ計算ニ不便ナレバ之レヲ除キ別ニ找頭帳ニ記入シ置キ別ニ計算ス。

洋銀賣買　洋銀トハ外國ヨリ輸入セラレタル銀元ノ謂ナルモ支那ニ於テ鑄造セラレタル銀元ヲモ同ジク併稱ス、而シテ各錢莊ハ毎日錢行ニ會シ銀元、小銀貨、制錢及銀兩相互ノ相場ヲ定ムルモノニシテ、各貨幣ノ相場ハ日々變動スルヲ以テ之レニ依ツテ利セントシテ空取引ヲナスニ至リ、恰モ有價證劵ノ投機取引ト同一ナリ、而シテ錢莊ガ洋銀ノ賣買ヲナスニハ自ラノ計算ニヨルモノト得意先ノ依賴ニヨルモノトアリ、後者ノ場合ニハ一定ノ保證金ヲ徵スルモノニシテ、通例取引方法ハ預金トシ之レヲ繰返スモノトス、預金日歩ハ其日ノ市場日分ニ二分ノ加頭ヲ加ヘタルモノナルヲ普通トス。

公所及錢行

錢莊ノ同業者ノ組合ヲ錢業公所ト稱シ、各錢莊ノ經手相會シテ利子ヲ定メ破產者ノ處分、組合規約變更其他同業者ニ關スル事務ヲ協議決定スル所トス、常員トシテ董事ヲ置キ信用アル錢莊經手中ヨリ之レヲ選ビ、其外司月ト稱スルモノアリ、當番幹事ニシテ董事ヲ助ケテ事務ヲ司ル、公所ノ經費ハ錢莊ノ入會金及組合員ノ據出金公估局ノ納金等ヲ以テ之レニ充ツルモノトス。

錢行トハ錢莊同業者營業上ノ機關ニシテ、手形交換、銀兩ノ折票貸借及洋銀ノ賣買ヲナス公會所ニシテ、各錢莊ハ此ニ於テ集市立會ヲナス。

次ニ參考ノ爲民國二年制定上海南北市錢莊組合規則ヲ揭グベシ。

中華民國二年（一九一三年）上海南北市錢莊組合規則

一、光緒二十九年以來上海錢莊業者ハ毎新年營業始メノ當日ニ於テ組合經費トシテ各戶墨銀五十元ヲ據出シ來リシガ未ダ以テ收支相償フニ至ラズ、遂ニ集會增額ニ決シ宣統三年ヨリ各戶墨銀一百元ヲ出スコト、改メタリ、若シ新ニ錢莊ヲ開始セントスルモノハ須ク上海規元二百兩ヲ、又已ニ開業セルモノニシテ屋號ノ變更ヲナサントスルモノハソノ一半ヲ減ジ銀一百兩ヲ夫々新年ノ營業初メノ當日ニ於テ之ヲ同業組合經理處ニ納付シテ以テ組合基金ノ增大ニ務メ、一方ニ於テハ組合ニテ新ニ倉庫ヲ建造シ已ニ其ノ竣成ヲ見ルニ至レリ、茲ニ於テ更ニ改メテ光緒三十三年四月及ビ宣統元年ノ三年間ニ開業シタルモノハ各戶銀一百兩ヲ納付セシメ、右ノ三年以後ノ分ニ對シテハ新舊ノ如何ヲ問ハズ一律ニ之ヲ徵收セザルコト、定メタリ。

二、外國銀行ノ發行ニ係ル劃頭（コムプラドル、オーダー）ハ現金ト同一ニ看做シテ之ヲ取扱フヲ以テ、之ニ依リテ支拂ヲ受ケタル場合ハ市場利率ニヨリヲ打歩ヲ支拂ハザル可ラズ（日附ノ翌日支拂ハル、ヲ以テナリ）而シテ右劃頭ガ轉々流通ノ後最後ノ受取人ガ銀行ニ呈示シ、若シ支拂ヲ拒絕セラレタル場合ニハ之ニ對スル責任ハ第一次裏書人ニ歸スルモノトス、又墨銀ノ賣買ニ於テモ其現物ナルト又錢莊間ニ用フル振替票ナルトヲ問ハズ、受渡ノ際ニ生ズル危險損失等ハ凡テ賣出人ニ歸ス。

三、福建商人ノ組合ヨリ書信ニ依リテ小切手ノ仕拂又ハ取立ヲ依賴シ來リタル場合ニ於テ別ニ支拂期日ノ記入ナキトキハ書信送達ノ日ヲ以テ直チニ支拂又ハ取立ヲ行ヒ、一覽後ニ支拂又ハ取立ヲナス可キモノハ書信到着ノ翌日ヲ以テ是ガ決濟ヲ行ヒ、若シ不幸ニシテ同日ガ日曜ナルカ又ハ銀行ノ休日ニ相當スルトキハ外國商人ノ慣例ニヨリテ之ヲ辦理スベシ。

各年末ニ當リ組合錢莊間ニ小額ノ勘定尻アル場合ニ當リ、年末最後ノ日等ニシテ帳簿突合セノ暇ナキヲ利用シ、往々故意ニ支拂フ可キ額ヨリモ小額ヲ送リ來ルコトアリ、甲之ヲ行ヒ乙又之ニ倣ヒ任意ニ減額遲送ヲナスコト、シ甚シキニ至リテハ殆ンド元旦天亮ニ至リテ送リ來ルコトモアリ、斯ノ如キハ實際上不德義極ルコトナレバ各自之ヲ戒メザル可ラズ、若シ再ビ舊轍ヲ蹈ミテ是ヲ行フモノアリタルトキハ須ク翌年開業當日ニ於テ之ヲ支拂ハシム可シ。

四、現金錢莊間ニ於テ引渡馬蹄銀中量目不足ノモノアリタル時ハ是ガ返還取換ヲ請求スルコトヲ得、但シ此ノ取扱ハ午後四時ヲ限リトス。

五、量目不足ノ馬蹄銀乃至公估局認定ノ量目ニ非ルモノヲ僞記シタル馬蹄銀ヲ最初ノ振出人ニ返還シ、之ガ受取書ヲ請求シ正ニ補フ可キ分ハ補ハシムル等ノ場合ニハ決シテ苦力ヲ使用ス可ラズ彼等ハ徒ニ喧々囂々トシテ徒ニ非常ノ失態ヲ來スノ恐アレバナリ。

六、送狀ト共ニ外國銀行宛現銀ヲ送付スル場合ニ量目過多ノ馬蹄銀等アル場合ニハ其旨送狀面ニ明記シ一見以テ點檢ニ便ナラシム可シ。

七、外國商人トノ間ニ於テ諸手形ノ支拂ヲナス場合ハ必ズ受取人ヲシテ手形票面ニ捺印セシメザル可ラズ、若シ之ヲ忘レタルガ爲メニ後日ニ於テ起ル總テノ危險ハ其忘レタルモノ、責任ニ歸ス。

八、外國銀行發行ノ支拂銀行宛手形取扱人ニシテ往々多數ノ支拂手形ヲ何等點檢ヲナサズソノマヽ支那銀行ノ店頭ニ投入シテ立去ルモノアリ、是レ不注意ノ最モ甚シキモノニシテ後日帳簿上手形ノ數ヲ點檢シ誤ナキトキハ別ニ問題ヲ生ズル事ナカランモ萬一手形金額又ハソノ數ニ誤アルコトヲ發見シタルトキハ支那銀行帳簿掛リハ何等ノ關係ナキモノトス。

九、商人ノ依頼ニ依リ商人ノ發行シタル他地宛手形ヲ外國銀行ニ賣渡シ之ガ保證ヲナシタルトキ、若シ期日ニ至リ右手形ガ不渡トナリ銀行ヨリ償還請求ヲ受ケ又其ノ間ニ爲替相場ニ變動ヲ來シタル場合ニハ麥加利銀行理事ノ書信ニ照シ、手形不渡ノ通知ニ接シ償還請求ヲナシ、當日ノ相場ニヨリ代金ヲ支拂ハシムルカ又ハ他ニ該手形ヲソノマヽ買戻サシムルカ何レノ方法ニ依ルモ錢莊業者ノ任意トス。

十、外國銀行ヨリ馬蹄銀ノ受入レヲナサズ、ソノマヽ預ケ置ク場合ニハ預リ證ヲ發行セシメ、且ツ之ニ捺印セシメザル可カラズ、又馬蹄銀墨銀等ヲ送達シタルトキモ同ジク領收書ヲ發行セシメテ受取證トス可シ。

十一、得意先ノ依頼ニヨリ外國銀行ニ向テ金錢ノ支拂ヲナス場合ニハ支拂ノ前日ヲ以テ得意先勘定借方ニ記入シ以テ打歩ニ依ル損失ヲ免ル可シ。

十二、得意先ヨリ現銀、銀行劵ノ預入アリタルトキハ其翌日ヲ以テ得意先勘定貸方ニ記入シ、若シ同日ガ日曜日ニ相當スルトキハ更ニ

一日ヲ延期スルモノトス、右ハ上海ノ商人タルト他郷ノモノタルニ論ナク一律是ニ從フモノトス。

十三、近來世風大ニ改マリ取引益々復雜ヲ極メ吾ガ錢莊業者ノ關係最モ深シ、故ニ將來擔保品ヲ取リ、各種商人ニ貸付ナユス場合ニハ須ク擔保品ニ對スル處分權ノ移轉ヲ行ヒ然ル後貸付ヲ實行スベシ。

十四、他人ノ紹介ニヨリテ商人ヨリ當座取引開始ノ申込アリタルトキハ依賴人ヲシテ連帶保證ノ保證狀ヲ差入シメ、或ハ保證人ニ通帳ヲ送付シ是ガ保證ノ捺印ヲ求メ、通帳ニ引出高ノ限度ヲ明記シ、然ル後初メテ取引ヲ開始ス、故ニ後日ニ至リ事端ヲ生ジ損失ヲ蒙リタルトキハ右ノ保證ヲシタル者ヨリ損害ヲ賠償セシム。

十五、預金帳ニハ必ズ「此預金ハ帳簿ト共ニスルニ非レバ引出スコトヲ得ズ若シ他人ノ拾得ニ係ルトキハ無効トス」ト記シ捺印スベシ。

十六、宣統二年ノ末、外商和明商會、時々我ガ錢莊組合理事ト協議シ度々書信ヲ以テ組合錢莊業者ノ發行ニ係ル手形ノ期日ヲ短縮センコトヲ要求セリ、蓋シ同業者ノ發行ニ係ルモノハ日付後十日ヲ以テ期日トス、サレバマ、十日以上ノ期日ヲ有スル手形ヲ發行シタル場合之ヲ處理スルト否トハ全ク受取人ノ任意トス。

十七、手形割引手數料ハ他郷ノ同業者ノ爲ニスルト又上海ニ於ケル得意先ノ爲ニスルトヲ問ハズ、銀一千兩ニ付キ二錢乃至五錢迄トシ之ヲ超過スルヲ得ズ、若シ此決議ニ從ハズシテ濫リニ增減スルモノハ二百兩ノ罰銀ニ處ス。

十八、目下上海ニ於ケル利子步合ハ極メテ低落セリ、故ニ一月十二月ノ二箇月ハ凡テ無利息トシ二月ヨリ十一月ニ至ル十箇月若シ利子步合立タザルトキハ錢莊業ノ當座預金利子ハ毎月千兩ニ付キ一兩五分ヲ支拂ヒ、若シ利子步合昇騰スルトキハ其都度決議シテ增加ス、當座貸越利子ハ一箇月一千兩ニ付キ四兩五分ヲ以テ限度トス。

十九、昨年南北兩市ニ於ケル錢莊業者中公估局ニテ鑑定シタル馬蹄銀量目ヲ變ジテ利ヲ占メタルモノアリ、是レ啻ニ公估局ノ名譽ヲ毀損スルノミナラズ、吾同業者ノ信用ヲモ失墜スルコト甚大ナリ、故ニ將來斯ノ如キ行爲アリタルモノヲ指示シ來リタルトキハ罰金二百兩ヲ課シ、一半ハ之ヲ發見人ニ賞與シ、一半ハ之ヲ公益事業ニ投ズ。

二十、他地同業者及當地ニ於ケル得意先ニ對スル兩ト弗トノ換算率ハ豫想相場ニヨリテ定ムルコト昨年ニ異ル處ナシ。

二十一、外國銀行ト現銀受渡ヲナス場合ニハ送リ狀ト馬蹄銀ノ數量ト符合セザルコトアリ、カヽル場合ニハ最初送リ狀ヲ發行シタルモ

ノニ追求シ重キニヨリテ處罰ス。

二十二、錢莊同業者ニ於ケル手形代理拂渡時間ハ午後二時ヲ以テ限トス、只商人ガ自己ノ取引錢莊ニ向ケ發行シタル小切手其他ノ支拂命令等ニシテ前以テ小切手若干ヲ振出シタル旨取引錢莊ニ通知セザリシ爲メ支拂ヲ拒絶セラレタル場合ニ是ヲ振出人ニ返還スルハ午後六時迄トシ任意遲延スベカラズ。

上海漢口ノ錢莊

更ニ又錢莊ノ一斑狀況ヲ知ルガ爲ニ上海及漢口ニ於ケル錢莊名及其資本額ヲ示セバ次ノ如シ。

上海錢莊（民國六年二月調査）

北市之部

錢莊名	資本金	資本主	經理人
嶷康	四萬兩	放叔濟、方式如、謝倫超	魏顧昌
承裕	同	層電峯、黃公接、方善長、陳筌郊	謝韜甫
永豐	同	陳春蘭、王月亭	陳鑫齋
鼎康	同	王駕六、葉輪甫	李麗川
元甡	同	戚延年、周錦夫	沈改涓
恒興	六萬兩	恒魯豐、順成季、秦鈞安	沈約笠
存德	四萬兩	江水義、謝聯汪	謝聯汪
兆豐	同	謝德爲、陳春蘭、戚吾山	戚嘉積

恒祥	同	錢葯壽、馮伯康、蘇玉壽、謝倫起、王子展	邵秉山
瑞昶	同	瑞康、德昶	馮子珊
同餘	同	王子展、陳蓮舫、姚仲南	邵燕山
福康	同	程觀鶴	鐘飛濱
豫源	同		秦洞鄉
賽裕	六萬兩	方氏兄弟、黃公續	盛筱山
信成	同	郭槃母、阜成、信和、鄭洽記	陳渭康
源餘	四萬兩	盛眉仙、沈大鎗、盛星橋	盛眉仙
怡大	同	孫直齋、何舟書、訓超庭、謝倫超	周賽南
元德	八萬兩	和裕、裕康	邵廷平
順康	四萬兩	程觀鶴	李壽山
志慶	六萬兩	沈次麟、萬梅峯、王駕六	劉恂如
鴻勝	四萬兩	鴻泰、敦和	陳炳搭
永餘	同	龔曉籍、田永祥、施甫春、何長唐	何長唐
元盛	同	陳元普、劉俊卿、周濟堂、田永祥	蔣福昌
信元	同	施甫春、鄭仁記、信和	邵勉臣
信裕	六萬兩	鴻袁、鄭仁記、信和	王方鼎
衡通	三萬兩	施甫春、徐康義、衡隆、姚仲南	陳煥傳
鴻祥	七萬二千兩	秦洞卿、敦和、鴻泰、馮受元	馮受元
滋康	十二萬兩	瑞康、熊康永	傅洪永

泰康	二萬四千兩	奚鶴年、張榮江、蔡鎧色、楊州修	張雲
潤祀	六萬兩	郭渭卿	虞厚山
聚康	同	聚成、信和、聚和	王鳳生
益大	四萬兩	聚成、益和、源大、鄭仁記	何亮甫
通和	同	阮和卿、施甫春、福和、張樹屏	阮春林
義生	六萬兩	張燕山	田子馨
寶豐	五萬兩	陳堅齋、薛葆潤、陳春蘭、鄧維卿	趙漱薌

南市之部

元春	二萬兩	裘信甫、同益大、楊子馨、汪寬也	錢隆康
乾元	四萬兩	阜成、郭源義、兆佐士	王舒卿
衡九	二萬兩	楊子馨、周譜琴、梅子和	翁晴嵐
源昇	同	葉聘俊、葉理春、邵根堂	周子文
元昌	同	孔繼廷、江竈也、鄭冠卿、杜三定	馮馨泉
致祥	同	嚴同春	王伯勤
益愼	同	王佩之、邵裕昌、王永林	沈荻莊
元善	三萬三千兩	益仲生、徐鶴呈、方蓉洲、洪崑王	陳松甫
茂豐	四萬兩	裕記、林成記、源和	劉然育
源恒	二萬兩	彭祥記、恒來、施甫春、萬源昌	陶善祥
徵祥	一萬兩	郭煜盛、長豐、敦源義	徐鳳鳴

右北部三十五軒、南市十一軒ナレドモ資本金一萬兩以上ノモノハ外ニ調査洩レナキヲ保セズ、而シテ右ハ皆錢莊組合ニ席ヲ有スルモノナリ、錢莊組合ニ未ダ席ヲ列セザルモ相等信用ヲ有シ取引又大ナリト稱セラル、モノハ

潤餘、長盛、同益、長大、元順、同德、敦餘、源和、元久、久和、瑞康、裕興、愼益、同豐、鼎甡、致和、合豐、成源、祥裕順泰、大德、久恒、源成、長和、老久大、[illegible]久大昌

等ナリ

漢口錢莊

莊名	資本金	支配人
怡康	一萬兩	趙衡齋
愼豐	四千兩	王幼甫
恭義	一萬兩	劉子卿
義和	五千兩	喬雨辛
謙孚泰	一萬兩	同敬堂
善昌	一萬兩	陳煥章
宏發乾	六千兩	陳秀全
恒昌	五千兩	吳蘭軒
寶通	五千兩	葉子芳
裕厚康	三千兩	信昌鹽

天順	三千兩	沈敬之
守康	八千兩	黄戴時
濟源	二千兩	陳蓮甫
瑞源	二萬兩	彭清品
泰昌	一萬兩	龔壽診
永裕	一萬兩	白英芳
敦義	一萬兩	劉和號
怡祥	一萬兩	王樹幸
滙通	一萬兩	高鄉堂
德豐	一萬兩	陳春堂
和祥	一萬兩	史福生
廣大	一萬兩	常春甫
裕和	一萬兩	高仲和
乾巽裕	一萬兩	陳品診
榮茂	八千兩	安欣龍
謙豫	八千兩	李福田
德興	一萬兩	王善臣
蔚泰	八千兩	劉子卿
德安慶	四萬兩	陳寫册
裕川	五萬兩	曾燮臣

錢莊

太和	一萬兩	爲勉齋
振昌	八千兩	萬肇文
久和	一萬兩	高壽山
至誠	八千兩	劉雨辛
華盛	八千兩	李壽山
謙益	三萬兩	張心臣
豐記	二萬兩	萬松濤
鉅昌	六千兩	高哲文
泰茂甡	八千兩	康茂林
恒和	八千兩	孫蓂庭
保昌	一萬兩	何吉人
崇德	六千兩	劉輔雲
復興	八千兩	朱蕭三
祥源	六千兩	李道成
義記	八千兩	劉某
華豐	一萬兩	周翰章
同昌	八千兩	陳子明
源昌	四千兩	王耀亭
同發	八千兩	劉玉喜
源裕	一萬兩	張渭清

太康	五千兩	熊蘭生
啓泰	一萬兩	邱某
裕通	五千兩	李朗宜
嘉升	八千兩	彭維卿
乾升	五千兩	黃錦衡
裕盛	三千兩	熊子良
協和	四千兩	羅竹卿
兆昌	一萬兩	胡敬齊
瑞和	六千兩	汪子貞
致和	八千兩	陳純一
恒豐	八千兩	湯建清
聯和	六千兩	杜伯卿
同興	四千兩	汪漢臣
永大祥	六千兩	陳松軒
和豐	三千兩	吳少雲
恒春	一萬兩	吳耶辛
森大	一萬兩	唐地生
同德	一萬五千兩	朱餘果
同和	八千兩	徐夢三
增祥	一萬兩	計耀堂

慎康	六千兩	王文炳
怡豐	一萬兩	夏志成
惠豐裕	一萬五千兩	徐信
茂昌	四千兩	楊振生
和成信	四千兩	張叔然
同茂	四千兩	謝瑞幸
乾昌泰	六千兩	黃志成
久康	五千兩	黃梅卿
厚康	八千兩	陳煥章

票莊

票莊ハ一ニ滙兌莊ト稱シ、國內爲替業ヲ以テ本業トシ、銀行業務ヲ兼ヌルモノナリ、從來山西商人ノ開設セルモノ票莊トシテ最モ有力ニシテ、又能ク各地ニ發展セシヨリ、世上票莊ヲ以テ直ニ山西票莊トナスニ至レリ、然カモ票莊ハ山西人ノ開設セルモノ、外全ク之レナキニアラズ、數者存在スレドモ、然カモ其信用ト勢力ハ多ク山西票莊ニ及バザルノミ。

山西票莊ハ明末清初ヨリ創業セラレタルモノニシテ、太谷、平遙、祁ノ三縣人其有力者ニシテ、從テ山西票莊ハ太谷、平遙、祁ノ三幇ニ分タル、三者中平遙幇設立最モ早ク、營業區域モ比較的廣ク、

資本亦潤澤ナリ、祁縣之レニ次ギ太谷更ニ之レニ次グ、之レガ開設ハ自由ニシテ別ニ官府ノ特許ヲ得ルヲ要セズ、單ニ同業者ノ承認ヲ經レバ足ルモノナレドモ、同業者ノ承認ヲ得ルコト困難ナレバ新ニ斯業ヲ開始スルコトハ至難ナリ、從テ新ニコレヲ營マントスルモノハ他ノ出資者ノ株ヲ讓受クルヲ常トス。

票莊ノ組織ハ錢莊ト大同小異ニシテ重ネテ之レヲ說明スルノ必要ヲ見ザルモ、其資本ハ錢莊ニ比シ一般ニ優厚ナルヲ常トス、コレ蓋シ錢莊ハ單ニ一地方ノ金融機關タルニ過ギザレドモ、票莊ハ各地ニ多クノ支店ヲ設ケ全國ニ爲替ヲ取組マザルベカラザルヲ以テナリ。

票莊ノ主營業ハ爲替ナルモ、中ニ就キテ送金爲替最モ多ク、送金爲替ハ之レヲ滙票ト稱シ、該手形ハ三枚ヨリ成ルヲ例トシ、一ハ票根ト稱シテ發行店ニ保有シ、二ハ送單ト稱シ支拂先ヘノ案內ニ用ヒ、三ハ所謂滙票ニシテ送金依賴者ニ交付スルモノトス、又本爲替ニハ卽時拂タル卽票ト、一定ノ期日拂タル期票トアリ、倒滙ト稱スル逆爲替モ之レヲ取扱ハザルニアラザルモ頗ル信用アル商店ノ依賴ニアラザレバ之レニ應ゼズ。

支那ハ元來土地宏濶ニシテ然カモ交通不便ニ、又各地各業ニ應ジテ通用銀兩ノ成色秤量ヲ異ニシ、其關係極メテ錯雜セルヨリ票莊ハ此間ニ處シテ暴利ヲ貪ルヲ得、交通利便ナル大市場間ノ爲替取扱ニアリテハ一千兩ニツキ二三兩ノ利益アルニ過ギザルモ、內地交通不便ナル市場間ノ爲替ニ至リテハ千

兩ニ付二三十兩又時トシテハ七八十兩ノ利益ヲ收ムルヲ得タリ。

票莊ハ元爲替ヲ以テ主業トナスモノナレドモ、其爲替資金ヲ資本ニノミ仰グ時ハ莫大ノ資本ヲ要スベク、到底耐ユル處ニアラザルヲ以テ、預金ヲ取扱ヒ之レニ充ツルヲ例トス、其預金利率ハ錢莊ヨリ低キモ、舊淸時代ニハ官吏又ハ官府ノ預金多ク、殊ニ北京ニ於テ最モ多クノ預金ヲ吸收シ得、北存南放ノ語アリキ、又票莊ハ送金依賴ノ爲ニ收受スル金ト預金トヲ爲替支拂ニ用ヒ尙餘裕アル時ハ、之レヲ運用シテ殖利ヲ圖ルノ必要アリ、爲ニ貸付ヲモ營ム、貸付ハ官吏、錢莊若シクハ信用アル商人ニ對シテノミ行ハル。

斯クテ票莊ナルモノハ莫大ノ利益ヲ擧ゲ、其信用勢力偉大ナリシガ、前淸末ノ革命ニ際シ經濟界ニ變調ヲ來スヤ、其貸出資金ノ回收不能ニ歸スルモノアルト共ニ、現銀ヲ要スルコト急ニシテ、遂ニ支拂停止ヲナサヾルヲ得ザルニ至リシモノ多ク、流石全盛ヲ稱ヘシ山西票莊モ其勢力信用ハ失墜スルノ止ムナキニ至リ、爾來票莊ハ又昔時ノ盛ナク、今ヤ爲替業務ハ新式支那銀行、又ハ外國銀行ノ手ニ次第ニ歸スルニ至レリ。

今次ニ山西票莊中ノ主ナルモノ、票號竝ニ資本金等ヲ擧ゲンカ

票號	郡名	資本金	資本主
百川通	平遙	五〇〇、〇〇〇兩	從前ハ渠氏同族二人ノ合資、後一人ノ經營ニ歸ス

商號	所在地	資本金	摘要
寶豐隆	同	二〇〇、〇〇〇	介體縣喬氏單獨經營
蔚太厚	同	四〇〇、〇〇〇	侯氏同上
蔚生長	同	四〇〇、〇〇〇	侯氏同上
新太厚	同	四〇〇、〇〇〇	侯氏同上
天成亨	同	五〇〇、〇〇〇	侯氏同上
蔚長厚	同	四〇〇、〇〇〇	大同縣常姓及王姓合資
蔚豐厚	同	四〇〇、〇〇〇	元侯氏ノ創辦、後蔚豐商業銀行ト改組ス
協同慶	同	五〇〇、〇〇〇	揄次縣王氏平遙縣米氏合資
大德通	祁縣	三〇〇、〇〇〇	喬　某
大德恒	同	三〇〇、〇〇〇	號主大德通合資
合盛元	同	二〇〇、〇〇〇	郭及王ノ合資
存義公	同	五〇〇、〇〇〇	六七名ノ合資
三晉源	同	三〇〇、〇〇〇	號主渠本翹
大盛川	同	二〇〇、〇〇〇	——
大德玉	太谷	三〇〇、〇〇〇	常姓單獨經營

大德川	同	二〇〇、〇〇〇	常姓單獨經營
錦生潤	同	二〇〇、〇〇〇	曹姓同上
志一堂	同	四〇〇、〇〇〇	馬姓及隕姓合資
協成乾	同	四〇〇、〇〇〇	原ト吳、孟、安三名ノ合資、後安氏脫シ吳、孟二氏トナル

右ノ中ニツキテ大德通、大德恒最モ信用アリ、蔚豐厚、天成亨之レニ次グ、然レドモ今後到底彼等ノ勢力ハ再ビ振フベクモアラズ、新式銀行ガ次第ニ發達スルト共ニ彼等ハ遂ニ廢滅スルニ至ルベク、然ラザレバ自ラ改組シテ新式銀行ノ體ヲナスノ外ナク、山西票莊全部合同シテ借欵ヲ起シ一大銀行ヲ組織スベシトノ議アリシモ未ダ行ハルヽニ至ラズ。

支那金融機關終

大正八年十一月十八日印刷
大正八年十一月廿一日發行
大正九年六月十五日再版發行

不許複製

著作兼發行者 東京市赤坂區溜池町二番地
東亞同文會調査編纂部
代表者 一宮房次郎

印刷者 東京市麹町區紀尾井町三番地
金澤求也

印刷所 東京市麹町區紀尾井町三番地
元眞社

發行所 東亞同文會調査編纂部